平成２３年度

〔２０１１〕

履 修 の 手 引

本手引の内容は学生ポータル STEP-USP にも登載されています

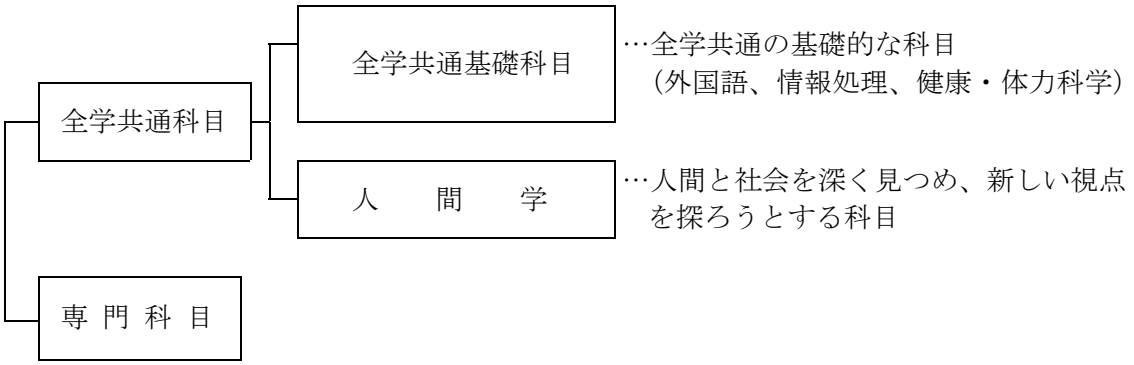
大学ホームページからも閲覧可能です。
（トップページの「大学インフォメーションから「教育プログラム」へ進んでください。）

本手引の第 2 章「講義概要」は抜粋版です
詳しい「講義概要」については、学生ポータル STEP-USP で確認してください

https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/syllabusgaku/

1　授業科目の区分

本学の教育課程は、**全学共通科目**と**専門科目**に区分されています。全学共通科目は、**全学共通基礎科目**と**人間学**から編成されています。



2　単位制度

各授業科目の単位数は 45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位とすることを標準としています。本学では、授業の形態により授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して次の基準により各授業科目ごとに単位数を定めています。

（1）　講義の場合

15 時間の授業をもって 1 単位とします（1 時限は 2 時間相当としているため、15 回の授業をもって 2 単位となります。）。

（2）　演習の場合

30 時間の授業をもって 1 単位とします。

（3）　実験、実習および実技の場合

45 時間の授業をもって 1 単位とします。

ただし、授業科目によっては、15 時間から 30 時間の範囲内で定める時間の講義や演習の授業をもって 1 単位としている場合があります。

また、環境科学部の「環境フィールドワーク」のように、一科目が講義、演習および実習からなっていて 20 時間の授業をもって 1 単位としている場合があります。

上述の単位制度は文部科学省令の大学設置基準に基づいています。上述の規定により、2 単位の講義科目は 90 時間（45 時間/単位×2 単位）の学修を標準とします。

講義時間は 30 時間（15 時間/単位×2 単位）ですので、残り **60 時間分の予習・復習を行うこと**が前提となります。

3　学期および授業

（1）学期

本学は、1 学年を前期と後期に分ける**前期・後期制**を採用しています。

授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ◆ **前期科目**：前期のみで授業を完結する科目
- ◆ **後期科目**：後期のみで授業を完結する科目
- ◆ **通年科目**：前期と後期を通じて授業を行う科目

また、実施方法によって、次のように区分されます。

◆ **通常授業**：原則として毎週行われる授業

◆ **集中授業**：一定時期に集中的に連続して行われる授業（主に夏季休暇、冬季休暇中に行われる。）

（２） 授業時間

本学の授業時間帯は次のとおりです。ただし、実験、実習などでは次の時間帯とは異なる場合があります。

１　限	９時００分～１０時３０分
２　限	１０時４０分～１２時１０分
休　憩	
３　限	１３時１０分～１４時４０分
４　限	１４時５０分～１６時２０分
５　限	１６時３０分～１８時００分

（３） 休講

休講の場合は、前もって掲示や学生ポータルで知らせますから、図書情報センター前掲示板や学生ポータル「STEP-USP」の「休講情報」に注意してください。

（４） 補講

休講等の事情で予定どおり授業が行われなかった場合は、原則として「補講」を行います。

補講の時期、場所、方法などは掲示板および学生ポータル「STEP-USP」の「お知らせ」により指示するので注意してください。

（５） 授業の欠席

病気その他やむを得ない理由により、引き続き 7 日以上 2 か月未満、授業に出席することができない場合は、あらかじめ教務グループに所定の欠席届を提出してください。教務グループでは、提出された欠席届の内容を確認後、届の写しを交付しますので、それを持参の上、届出者本人が直接、当該科目の授業担当教員に対し、事情を説明してください。

ただし、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務グループの指示に従ってください。

また、緊急の事情により事前に届け出られない場合は、事前に電話等により事情を教務グループに連絡してください。

欠席を届け出る理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書
災害	被災証明書
交通事故、交通機関の延着	事故証明書、延着証明書
3 親等以内の葬儀	死亡に関する公的証明書
正課実習	実習証明書（指定様式）
その他大学が認める理由	理由書（本人以外の証明）

（６） 気象警報の発令・公共交通機関の不通と授業についての措置

暴風警報等が発令された場合または公共交通機関が全面運行停止（※）となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象･交通状況	授業についての措置
滋賀県全域もしくは滋賀県北部全域または湖東全域または彦根市に暴風警報または暴風雪警報が発令されたとき	①発令中は休講 ②午前 7 時現在発令中の場合、午前中休講 ③午前 10 時現在発令中の場合、午後は休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき(ストライキ､災害､事故等)	①午前 7 時までに解除・開通の場合は、平常通り授業 ②午前 8 時 30 分までに解除・開通の場合は 2 時限目より授業開始 ③午前 10 時までに解除・開通の場合は 3 時限目より授業開始 ④正午までに解除・開通の場合は 4 時限目より授業開始 ⑤正午をすぎても解除・開通しない場合は全時限休講

※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、JR 西日本琵琶湖線（京都―米原間）の全線または一部線区が全便不通の場合をさします。

○ 休講情報については随時更新されますので、掲示板や学生ポータル「STEP-USP」で確認してください。

○ 学外実習に関しては、当該学部で別途定めます。

4 履修の登録

授業を履修するためには、**履修登録をする必要があります。**これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないこととなります。また、平成 21 年度から始まったＧＰＡ制度（注：平成 21 年度〔2009 年度〕以降の入学生対象（P.7 参照））とも密接に関係していますので、次の点に注意して慎重に行ってください。

（１） Web 履修登録・確認

学年当初に「履修登録にあたって」と時間割を配布します。各学期のはじめに設定される履修登録・確認期間中に学生ポータル「STEP-USP」上で Web 履修登録をおこなってください。**履修登録・確認期間後の履修登録はできません。**

※履修登録・確認期間中は履修登録の内容の修正が可能となっていますが、履修登録・確認期間終了後の履修登録の変更は受け付けませんので、充分検討した上で履修登録してください。

（２） クラス制

第一外国語（英語）、情報処理、健康・体力科学については、受講者数が多いため**クラス制を採用**しています。第一外国語（英語）と情報処理は時間割の配布と同時にクラスを指定します。健康・体力科学は希望コースを調査後にクラスを指定します。指定されたクラスで履修登録をしてください。

また、一部の専門科目でもクラスが指定される場合がありますので、注意してください。

クラス指定がある科目を再履修する場合は、学生ポータルからの履修登録以外に、再履修願・届の提出が必要です。

（３） 人間学の履修登録

人間学については、科目によって定員が設けられているものがあります（定員が設けられているか否かについては、各科目の Web 版講義概要を参照してください）。定員が設けられている科目を履修希望する場合は、まず学生ポータル「STEP-USP」で履修登録を行ってください。

登録期間終了後、定員を超える登録があった場合は、受講者の選定が行われます(一次選定)。一次選定の結果は、図書情報センター前掲示板と学生ポータルでの「お知らせ」を通じてお知らせしますので、必ず確認してください。

受講が認められなかった方は、定員に満たなかった科目または定員が設けられていない科目を履修希望することができます。「履修希望届」（窓口配布）を教務グループへ提出してください。また、その結果、「履修希望届」の提出が定員を上回った場合は、受講者の選定が行われます（二次選定）。二次選定の結果も掲示板および学生ポータルでお知らせします。

二次選定の結果、受講が認められなかった場合、定員が設けられていない科目のみ履修希望することができます。

（４） 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください（履修規程第３条）。

① 履修登録をしていない科目
② 既に単位を修得した科目
③ 授業時間が重複する科目

（５） 履修資格

科目によっては、既に他の科目を履修していることが履修の条件となっているものがあります。どの科目を履修しておく必要があるかは Web 版の講義概要の「履修資格」欄に記載されています。誤って履修すると、原則として単位は認定されませんので、よく読んで登録してください。

（６） 履修登録の訂正（窓口申請分）

学生ポータル「STEP-USP」上で履修登録状況と単位修得状況を確認することができます。再履修願・届等、窓口に申請した内容が反映されているかどうかを、登録結果確認・訂正期間中にポータル上で確認してください。万が一、自分が申請した内容と異なる場合は、教務グループに申し出てください。

（７） 登録科目の取消と再登録

時間割の変更により科目の開講時間が変更になった場合等で、履修が不可能になったときは、事務局で登録が取り消されることがあります。その場合は、掲示板および学生ポータル「STEP-USP」に学籍番号等を掲示しますので、速やかに教務グループに申し出て、他の科目を再登録してください。

（８） 履修登録取消制度（平成 21 年度〔2009 年度〕以降の入学生対象）

履修登録取消制度とは、履修登録し、実際に授業に出席したものの、履修登録時に予想していた内容と異なっていたなどの理由により、履修登録を取り消すことができる制度です。各学期の授業が始まってから一定期間を経過した時点（前期：5 月中～下旬後期：11 月中～下旬）で、履修登録の取消期間を設けますので、履修登録の取消を希望する場合は、指定された期間内に教務グループで手続きをしてください。ただし、取り消すことのできる科目数は 2 科目までとします。また、必修科目の登録を取り消すことはできません。

（９） 履修登録に関する相談窓口教員

履修登録に関する問い合わせは、教務グループで随時受け付けます。また、各学科にも履修登録に関する相談窓口となる教員がいますので、各自の履修計画を立てるにあたって積極的に相談してください。

5　試験

試験には、次の２種類があります。

◆ **定期試験**：学期末に期間を定めて行われる試験
◆ **平常試験**：授業の中で担当教員によって個別に随時行われる試験

（１） 定期試験の実施

定期試験は、各学期末に試験期間を設定して行います。

試験の時間割・教室は、事前に掲示板および学生ポータル「STEP-USP」に掲示しますので、注意してください。実施日時および実施教室の変更がある場合も、掲示板および学生ポータル「STEP-USP」に掲示します。

（２） 試験期間中における風雪時の対応について

原則として、試験日程は風雪等の天候とは関係なく、暴風警報等が発令されても予定どおり実施します。ただし、試験前日までに、当日の天候状況が風雪が甚だしいものと見込まれる場合は、各試験科目の担当教員が試験延期等の判断を行う場合があるので、掲示板および学生ポータル「STEP-USP」に注意しておいてください。

なお、試験当日に風雪により公共交通機関に遅れが生じた場合は、各試験科目の担当教員が状況に応じて、適宜、当該試験の実施について判断しますので、受験者は指示があるまで試験室で待機していてください。

（３） 定期試験の受験上の注意

① 受験する学生は、特別の指示がない限り、試験開始５分前に指定された教室に入る必要があります。
② 受験中は必ず、**学生証を机上に置く**こと。万一学生証を忘れた場合は、教務グループで仮受験票の交付を受けてください。
③ 答案には、学部・学科名、学籍番号、氏名を万年筆かボールペンで記入してください。
④ 受験者は、試験開始後 30 分までは退出できません。また、20 分を経過した場合の入室は認められません。

（４） 不正行為

試験で**不正行為**があると認められた者は、学則第 52 条第 1 項の規定により懲戒処分（退学、停学または訓告）を受けるほか、その学期に実施するすべての試験を無効とします。

（５） 追試験

病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けることができない者には、**事情により追試験を行う**ことがあります。

追試験の受験を希望する者は、**「追試験願」**に必要な証明書（次表参照）を添付して、定期試験実施前にあらかじめ教務グループまで願い出てください。緊急の事情により事前に願い出られない場合は、試験当日までに電話等により事情を教務グループに連絡してください。

この場合は、事後提出であっても追試験願を受理することがありますが、**提出期限は原則として当該試験期間最終日の 3 日後まで**とします。

追試験を願い出る理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書
災害	被災証明書
交通事故、交通機関の延着	事故証明書、延着証明書
３親等以内の葬儀	死亡に関する公的証明書
正課実習	実習証明書（指定様式）
その他大学が認める理由	理由書（本人以外の証明）

追試験願を提出した者は、教務グループから書類を受け付けたことを証する追試験願受付書を受け取り、該当する授業担当の教員と追試験実施について、直接相談してください。
なお、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務グループの指示に従ってください。

※注：追試験願受付書は、受験を認めることを意味するものではなく、窓口である教務グループが追試験願を受け付けたことのみを証するものです。

（６） 不合格となった科目について

定期試験等において、不合格となった者に対する再試験は行いません。
不合格になった授業科目については、翌年度以降に改めて再履修することができます。

6　成績評価および単位の認定

（１） 成績評価

成績の評点は、定期試験、平常の試験、レポート、制作物、実技などを総合して、100 点満点で採点します。
成績の評価の基準は次のとおりで、成績通知書、成績証明書の評価欄には、秀・優・良・可・不可で記載します。（「秀」評価は平成 21 年度以降の入学生のみ）

（平成 21 年度〔2009 年度〕以降入学生）

評　　点	評　価
９０点以上	秀
８０点以上９０点未満	優
７０点以上８０点未満	良
６０点以上７０点未満	可
６０点未満	不可

（平成 20 年度〔2008 年度〕以前入学生）

評　　点	評　価
８０点以上	優
７０点以上８０点未満	良
６０点以上７０点未満	可
６０点未満	不可

そのほかに、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」で表示することがあります。

（２） 単位の認定

秀、優、良、可および合格ならびに認定の場合は、単位の修得が認められます。
不可および不合格の場合は、単位の修得は認められません。
追試験の対象とは認められない理由による定期試験の欠席により、成績評価資料を欠く場合には、履修を放棄したとみなしますので、単位の修得は認められません。

（３） 成績通知

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務グループから本人に対し親展扱いで自宅（下宿）あて郵送します。
また、入学手続時に保護者（保証人）（以下「保護者等」といいます。）あてに成績通知書の郵送を希望した保護者等については、各学期終了後に保護者等あてにも成績通知書を郵送します。（平成 21 年度以降入学生の保護者等）なお、平成 20 年度以前入学生についても、原則として、保護者等あてにも成績通知書を郵送しますが、20 歳以上の学生で、「成績通知書郵送停止届」を提出した者には、保証人あて成績通知書を郵送しないこととします。この場合、保証人には学生本人の意向により、成績通知書を郵送しない旨の通知を行うこととします。
なお、前期の成績通知書には、前期に履修した科目（一部集中講義科目等を除く。）の成績

を記載しています。後期の成績通知書には、前期と後期を合わせた年間の成績を記載しています。

※ 注：成績通知書は紛失しても再交付は行いません。大切に保管し、各自の修得単位数の管理に役立ててください。

（４） ＧＰＡ（Grade Point Average）制度（平成 21 年度〔2009 年度〕以降の入学生対象）

① ＧＰＡとは

本学では、平成 21 年度入学の１年次生から「秀・優・良・可・不可」の成績評価に加えて、ＧＰＡによる成績評価制度が、試行的に導入されました。

ＧＰＡとは、履修登録した全科目のうち、ＧＰＡ算出対象となる科目（以下「算出対象科目」といいます。）の成績を 4.5 から 0 までの数値に置き換え、これに当該科目の単位数を掛けて、その合計を算出対象科目の総単位数で割った数値です。

「秀・優・良・可・不可」が科目ごとの学業成果を表すのに対して、ＧＰＡは、「不可」となった科目も含め、学生が履修登録した算出対象科目の学業成果および学業への取り組み結果の総合的な値として表すことになります。

したがって、みなさんが修学指導を受ける際や履修計画・学習計画を立てる際の参考として活用してください。

② ＧＰＡの計算方法

ＧＰＡは以下の計算式で算出されます。

【ＧＰＡの計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{（グレード・ポイント(※)×当該科目の単位数）の総和}}{\text{算出対象科目の単位数の総和}}$$

※ *グレード・ポイント＝（当該科目の評点－５５）÷１０*

（ただし、評価が不可（評点が６０点未満および履修放棄）の場合、グレード・ポイントは一律に０点となります。）

【ＧＰＡ計算例】

科　目　名	A	B	C	D	E	F	計
単　位　数	2	1	3	2	2	2	１２
評　点	90	75	30	80	60	100	
評　価	秀	良	不可	優	可	秀	
ｸﾞﾚｰﾄﾞ・ﾎﾟｲﾝﾄ	3.5	2.0	0	2.5	0.5	4.5	
ｸﾞﾚｰﾄﾞ・ﾎﾟｲﾝﾄ×単位数	7	2	0	5	1	9	２４

$$\text{GPA} = \frac{3.5\times2+2.0\times1+0\times3+2.5\times2+0.5\times2+4.5\times2}{2+1+3+2+2+2} = \frac{24}{12} = 2.0$$

③ ＧＰＡ計算の対象となる科目・対象とならない科目

ＧＰＡ計算の対象となる科目は、以下の要件を満たすものです。

1）100 点満点で成績評価する科目
2）卒業要件単位に算入できる科目

したがって、成績が「合格」「認定」と表記される科目や資格（教員免許、学芸員等）取得のために開講されている科目は、ＧＰＡ計算の対象となりません。

（５） 成績評価の根拠等についての教示について

本学では、学生は自らの成績評価にかかる根拠等について、当該科目の担当教員に対して教示を求めることができます。

当該科目の担当教員に成績評価の根拠等について教えてもらいたい場合は、オフィスアワー等を活用して研究室を訪ねて訊くこともできますし、学生支援センター長（学生支援センター教務担当）を通じて、書面にて担当教員へ願い出ることもできます。

ただし、書面にて教示を願い出ることができる期間は、成績が通知された日から原則として3 週間以内となりますので、ご注意ください。詳細については、学生支援センター教務担当までご相談ください。

7　卒業要件

本学を卒業するためには、次の条件をすべて満たさなければなりません。

① 4 年以上在学すること。（休学期間は在学期間に含まれません。）

② 所属学科のカリキュラムに従って、卒業要件としての必要単位を修得すること。

各学科の卒業要件については、それぞれのカリキュラム表を熟読してください。

8　副専攻科目について

本学における副専攻とは、所属する学部学科の履修プログラム（主専攻）に加えて履修可能な学部学科横断的プログラムです。所属の専門性に加えて、それらを社会に還元するための基礎的・総合的能力を修得します。本学の学生であれば、どの学部学科に所属していても履修することができます。該当する副専攻が提供するプログラムを修了した学生には、当該副専攻の修了証を授与します。カリキュラム等については、第 2 章の 6「近江楽士（地域学）副専攻履修の手引」を参照してください。

9　他学部・他学科科目の履修

本学では、所属する学科のカリキュラムに授業科目として指定されていない他学部、他学科の科目も、履修することを認めています。

しかし、教室に入ることのできる人数の制限や、履修した科目の単位を所属学科の卒業単位に算定するには限度があるなどの一定の制約がありますので注意してください。

① 他学部または他学科の科目の履修を希望する場合、事前に文書で承諾を得る必要はありません。

② 履修登録後に、受講人数の制限から、やむを得ず受講を取り消すことがあります。

③ 他学部または他学科で修得した単位を卒業単位として何単位まで認めるかは、各学部、学科で定めています。各学部、学科の卒業要件を確認してください。

10 他大学の科目の履修（単位互換制度）

単位互換制度とは、他の大学の授業科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定するものです。履修の幅が広がり、幅広い視野の育成に役立つものとなります。本学では、平成17 年度から滋賀県にキャンパスを置く 12 大学と単位互換制度を実施しています。

また、平成 14 年度から滋賀大学と、平成 21 年度から彦根 3 大学（滋賀大学、聖泉大学、本学）による単位互換を実施しています。履修できる授業科目、手続、卒業単位への算入方法等については、各制度で異なります。学年当初に制度に関する資料を配布しますので、それらを参考にしてください。

11 編入学生の履修

編入学生の履修すべき授業科目および単位数ならびに成績の評価については、編入する年次の学生のものと同一になります。

例えば、平成 23 年度 3 年次編入生が履修すべき授業科目等については、平成 21 年度入学生と同一になります。

12 その他

（1） 科目担当教員について

各科目を担当する教員は「第 2 章 講義概要」にあるとおりですが、各担当教員の研究室については、年度当初に学生・就職支援グループから別途配布する学生便覧を参照してください。

なお、他大学等からの出講となる非常勤講師については、A1 棟 2 階に非常勤講師控室がありますが、在室は当該授業日の出講時限の前後のみとなりますので、注意してください。

（2） 留学中に修得した単位について

留学中に修得した単位は、申し出により全て認定され、他学部・他学科科目と同様の扱いとなります。ただし、卒業単位として認められるかどうか等は、各学部・学科によって取り扱いが異なります。詳細については、教務グループに問い合わせてください。

（3） 授業評価アンケートの実施について

授業評価アンケートは、授業内容やカリキュラムの改善などに取り組むため、授業に対する学生のみなさんの意見を聞くために実施しています。原則として、全ての授業科目について実施します。いただいた意見は今後に役立てていきたいので、みなさんの真摯な協力をお願いします。実施にあたっては、担当教員からの指示に従ってください。

※ アンケートは成績評価とまったく関係がありません。アンケートの集計結果は担当教員に通知されますが、その通知は成績処理終了後です。

（4） オフィスアワーについて

オフィスアワーは、授業の内容や学習の進め方などについて、学生からの相談を受ける時間を各教員が指定し、学生を支援する制度です。学生のみなさんの積極的な活用を期待します。

開設教員一覧については、大学掲示板のほか学生ポータル「STEP-USP」の「お知らせ」に掲載します。

１　全学共通科目履修の手引

１　全学共通基礎科目の教育目標について

全学共通基礎科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指しています。この科目は全学の学生を対象として、言語による国際的なコミュニケーションのための外国語教育、国際的な情報伝達に欠かせない情報処理教育、健康に対する知識と体力を養うための健康・体力科学の３つの分野からなっています。

２　全学共通科目の履修について

全学共通科目は、全学共通基礎科目と人間学から構成されています。

全学共通基礎科目は、第一外国語、第二外国語、情報処理、健康・体力科学に分類されています。

第一外国語は、英語Ⅰ～Ⅳまでが必修で８単位以上、第二外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択して４単位以上、情報処理は必修で４単位以上、健康・体力科学も必修で２単位の修得が卒業要件となります。

人間学は、必修の２科目・４単位に加え、33 科目から選択して４科目・８単位以上の修得が卒業要件として必要です。

また、英語ＶＡ・Ｂ、英語ⅥＡ・Ｂ、ドイツ語ⅢＡ・Ｂ、フランス語ⅢＡ・Ｂ、プログラミング基礎および人間学で１２単位を超えて修得した場合は、各学部の規定により学部の専門科目として一定の単位まで卒業要件単位に含むことができますので、各学部の卒業要件の欄を参照してください。

全学共通科目の必修科目の単位を修得できずに、翌年度以降で再履修する場合は、再履修届の提出が必要となります。必ず履修登録前に教務グループに申し出てください。

３　全学共通基礎科目履修上の注意

① 第一外国語、情報処理、健康・体力科学の必修科目を履修する場合は、学籍番号によって履修できる曜日時間が指定されますので､必ず指定の曜日時間で履修登録をしてください。第一外国語および情報処理は時間割の配布時に、健康・体力科学は希望コースを調査後にそれぞれクラスを指定します。

② 第二外国語の履修にあたっては、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から希望する言語を選択することができますが、希望が集中した場合には、別の言語に割り振られることもあります。

　人間文化学部地域文化学科の学生は、このほかに専門科目のロシア語、モンゴル語を選択して履修することもできます。その場合は、ロシア語、モンゴル語の修得単位を第二外国語の修得単位として卒業要件単位に算入することができます。

③ 第一外国語、第二外国語では、より深く語学を修得するために選択科目として３年次以降に英語ＶＡ・Ｂ、英語ⅥＡ・Ｂ、ドイツ語ⅢＡ・Ｂ、フランス語ⅢＡ・Ｂを開講します。

　また、情報処理では、初歩的なプログラミング手法を学ぶプログラミング基礎という選択科目を２年次に開講します。

　これらの科目を修得した単位は、学部の専門科目として一定の限度内で卒業要件単位に算入できる場合があります。なお、詳細は各自が所属している学部・学科の卒業に必要な要件を参照してください。

※　外国人留学生等の外国語履修について

平成１５年度から入学した外国人留学生は、外国語履修について次のように取り扱うこととします。ただし、学部学科によっては、特定の言語の履修を義務づけている場合がありますので、履修登録の前に必ず所属学科の相談担当教員に確認してください。

第一外国語　：英語Ⅰ～Ⅳまたは日本語Ⅰ～Ⅳから**8単位**を選択必修
第二外国語　：ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ
初習英語Ⅰ・Ⅱ、英語Ⅰ～Ⅳ、日本語Ⅰ～Ⅳから**4単位**を選択必修

科目名	単位数	年次	期間	科目名	単位数	年次	期間
英語Ⅰ	2	1	通年	ドイツ語Ⅰ	2	1	通年
英語Ⅱ	2	1	通年	ドイツ語Ⅱ	2	2	通年
英語Ⅲ	2	2	通年	フランス語Ⅰ	2	1	通年
英語Ⅳ	2	2	通年	フランス語Ⅱ	2	2	通年
初習英語Ⅰ	2	1	通年	中国語Ⅰ	2	1	通年
初習英語Ⅱ	2	2	通年	中国語Ⅱ	2	2	通年
日本語Ⅰ	2	1	通年	朝鮮語Ⅰ	2	1	通年
日本語Ⅱ	2	1	通年	朝鮮語Ⅱ	2	2	通年
日本語Ⅲ	2	2	通年				
日本語Ⅳ	2	2	通年				

① 第一外国語と第二外国語とで同一の言語を履修することはできません。（第一外国語として英語を履修した場合に、第二外国語として初習英語を履修することはできません。）
② 母語を外国語科目として履修することはできません。
③ 初習英語は、入学前に英語を履修したことのない学生のみを対象としていますので、履修したことのある学生は対象外です。

初習日本語（交換留学生用）

科目名	単位数	年次	期間
初習日本語Ⅰ	2	1	通年
初習日本語Ⅱ	2	1	通年

交換留学生向けの科目として、日本語を初めて学ぶ学生を対象に、初習日本語 Ⅰ、初習日本語Ⅱを開講します。私費外国人留学生も希望すれば履修することができますが、卒業要件単位に算入することはできません。

※　e-Learning による英語学習システムについて

本学では Web を使って英語学習を支援する e-Learning システム（ALC NetAcademy2）が導入されています。学生一人ひとりに与えられたアカウントを使用し、学内で自由に英語の自己学習ができます。LL 教室や情報処理演習室、また、学内の任意の端末を使って、特に TOEIC に対応した多くの教材を存分に学習できます。

※　外国語科目に関するリンク集について

外国語の自主学習を支援するために、英語を始めとして本学が提供している外国語科目（中国語・ドイツ語・フランス語・韓国語・ロシア語）に関連するサイトを集めた便利なリンク集を用意しています。学内でのみアクセスが可能となっていますので、LL 教室等でご利用ください。（http://www.ec.usp-local/info_center/enshushitsu/enshushitsu_index.html）「情報処理演習室／LL 教室(学内向け)」→「自習学習用関連リンク集」。留学生対象の日本語学習サイトも紹介しています。

外国語科目の講義等の内容（概要）

授業科目名	講義等の内容
英語Ⅰ（活性化コース）	比較的平易な英語を教材とし、視聴覚教具を利用した聞き取りの訓練、英語での言い換え・書き換え、英語で考える訓練を行い、既修の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。
英語Ⅱ（応用コース）	英語Ⅰとの密接な関連において、日常会話やまとまったスピーチを中心に、コミュニケーションの場で文字を媒介することなく、聞き取りによって意味を理解し、口頭で意味する訓練を行い、英語を実際に運用する能力の向上を目標とする。
英語Ⅲ（充実コース）	新聞、雑誌に掲載されるレベルの政治、経済、社会、文化、科学、娯楽、スポーツ、広告等広い分野の記事、論説を教材として、視聴覚教具を利用しながら、いっそう高度なコミュニケーションに必要な学力の充実を目標とする。
英語Ⅳ（展開コース）	英語Ⅲとの密接な関係において、一般読者向けの啓発的な著作から各学部の学生の専攻領域に関連のある主題の教材を選び、視聴覚教具を利用しながら、専門分野におけるコミュニケーションの活動に必要な学力の展開を目標とする。
英語ⅤA・B、英語ⅥA・B（異文化受容伝達コース）	広く人文科学、社会科学、自然科学の領域から選んだ優れた著作を教材として、視聴覚教具を利用しながら、国際社会に生きる教養ある世界市民にふさわしいコミュニケーションの総合的な学力の深化を目標とする。
ドイツ語Ⅰ（初級コース）	視聴覚教具を利用して、生きたドイツ語に慣れ親しませながら、文法体系の基本を修得させ、また辞書を自由に検索できるように訓練して、最も基本的なコミュニケーションに必要な基礎的な学力の養成を目標とする。
ドイツ語Ⅱ（中級コース）	政治、経済、社会、文化、科学、娯楽、スポーツ、広告等広い分野の教材を選び、視聴覚教具を利用して、ドイツ語Ⅰで修得した基礎的な学力を、語彙、文法両面において充実させ、中級程度のコミュニケーションに必要な学力に高めることを目標とする。
ドイツ語ⅢA・B（上級コース）	広く人文科学、社会科学、自然科学の領域から選んだ優れた著作を教材として、視聴覚教具を利用しながら、国際社会に生きる教養ある世界市民にふさわしい、いっそう高度なコミュニケーションの活動に必要な学力の展開を目標とする。
フランス語Ⅰ（初級コース）	視聴覚教具を利用して、生きたフランス語に慣れ親しませながら、文法体系の基本を修得させ、また辞書を自由に検索できるように訓練して、最も基本的なコミュニケーションに必要な基礎的な学力の養成を目標とする。
フランス語Ⅱ（中級コース）	政治、経済、社会、文化、科学、娯楽、スポーツ、広告等広い分野の教材を選び、視聴覚教具を利用して、フランス語Ⅰで修得した基礎的な学力を、語彙、文法両面において充実させ、中級程度のコミュニケーションに必要な学力に高めることを目標とする。
フランス語ⅢA・B（上級コース）	広く人文科学、社会科学、自然科学の領域から選んだ優れた著作を教材として、視聴覚教具を利用しながら、国際社会に生きる教養ある世界市民にふさわしい、いっそう高度なコミュニケーションの活動に必要な学力の展開を目標とする。
中国語Ⅰ（初級コース）	視聴覚教具を利用して、生きた中国語に慣れ親しませながら、文法体系の基本を修得させ、また辞書を自由に検索できるように訓練して、最も基本的なコミュニケーションに必要な基礎的な学力の養成を目標とする。
中国語Ⅱ（中級コース）	政治、経済、社会、文化、科学、娯楽、スポーツ、広告等広い分野の教材を選び、視聴覚教具を利用して、中国語Ⅰで修得した基礎的な学力を、語彙、文法両面において充実させ、中級程度のコミュニケーションに必要な学力に高めることを目標とする。
朝鮮語Ⅰ（初級コース）	視聴覚教具を利用して、生きた朝鮮語に慣れ親しませながら、文法体系の基本を修得させ、また辞書を自由に検索できるように訓練して、最も基本的なコミュニケーションに必要な基礎的な学力の養成を目標とする。
朝鮮語Ⅱ（中級コース）	政治、経済、社会、文化、科学、娯楽、スポーツ、広告等広い分野の教材を選び、視聴覚教具を利用して、朝鮮語Ⅰで修得した基礎的な学力を、語彙、文法両面において充実させ、中級程度のコミュニケーションに必要な学力に高めることを目標とする。

健康・体力科学Ⅰ・Ⅱについて

（１）授業のねらいと内容

【概要】

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、生涯にわたって運動習慣が継続できる実践能力を体得し、さらにライフスキル形成を促進する。このため、学内のスポーツ施設だけでなく野外施設を利用したスポーツ種目を広く取り入れ、スポーツの多様化を図る。

【開講コース】　※健康・体力科学ⅠおよびⅡで異なる。

屋内球技コース（バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球）
屋外球技コース（ニュースポーツ、サッカー、テニス、ソフトボール）
運動処方コース（健康運動プログラム・体力トレーニング）
野外活動コース（スキー・スノーボード、ゴルフ、海洋スポーツ）

【到達目標】

１.健康・体力の保持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。
２.スポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育てる。
３.スポーツの文化的意義を理解し、スポーツ享受能力を高める。
４.生涯を通じてこれらの運動習慣が継続できる自律的態度を育てる。
５.スポーツ実践を通じてライフスキルを形成する。

（２）授業計画

【健康・体力科学Ⅰ】

第１回　　全体ガイダンス–健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方、種目説明、種目希望調査–
第２回以降　コース（種目）別ガイダンス–授業の進め方、授業内容等、選択コースによって異なる。

【健康・体力科学Ⅱ】

第１回　　コース（種目）別ガイダンス–授業方針等、選択コースによって異なる。
第２回以降　基本から応用へ、選択コースによって異なる。
＊ 以降の頁に健康・体力科学ⅠおよびⅡのそれぞれの開講予定種目について、授業計画を示す。

（３）成績評価

「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。
欠席回数が４回以上（１単位につき）のときは、原則として当該科目の単位は認めない。
ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

（４）テキスト、指定図書、参考書

テキストは用いないが、参考書については必要に応じて随時紹介する。

（５）JABEE プログラムの中での位置付け

この科目は材料科学科、機械システム工学科、電子システム工学科の学習・教育目標のＡ１に関連する。

（６）その他

コース選択：授業科目ごとに開設されている種目の中から、自らの能力、適性、興味、関心に基づいて、それぞれ１種目を選択する。選択種目の決定は、種目希望調査に基づいて行うが、種目定員をこえる場合は希望順位を考慮して調整する。原則として、同じ種目を継続して選択することはできない。
なお、怪我や身体に障害のある学生には、運動処方コースが準備されている.

授業形態：授業の展開では、基本的にはグループ学習とし、計画・実践・分析・総括といった実験実習の活動形態を重視する。

服　　装：実技授業における服装はスポーツウエアーを着用し、靴は選択種目に適したものを利用することが望ましい。

更衣室：体育館の更衣室のロッカーは自由に利用できるが、長期の個人的利用は認めない。

貴重品管理：貴重品は種目ごとに貴重品箱を用意するので、必ず預けるようにすること。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（環境①）
担当教員	小栗　裕子
授業概要	コミュニケーションを成功させるためには、まず相手の言っていることを理解しなければならない。そのために毎回自然な速度の多様な英語を聞き、聴解力を養成する。同時に自分の考えをできるだけ簡潔に表現し、相手に伝わる作文力（発信力）を習得する。英作文に関しては、毎回課題を出す予定である。
到達目標	既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また、高めることを目標とする。このクラスでは特に身近な話題の聞き取りができるようなリスニング力養成を目指す。また、その話題についての考えを表現できるライティング力習得も図る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：New Airwaves,Second Edition:Dale Fuller & Clyde W. Grimm,（MACMILLAN LANGUAGEHOUSE）
成績評価	授業での発表 20％、毎回の課題レポート　40％、中間・期末試験　40％

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（環境②）
担当教員	森脇　正史※
授業概要	TOEICの問題を利用して、語彙や文法事項を補強しながら、実生活での様々な状況に応じた英語の聴解と読解の学習をする。また補助教材を使用して多角的に英語に慣れ親しむための取り組みを行なう。
到達目標	既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。特に聴解力と読解力を中心にした総合的な英語力の向上をはかる。
テキスト 指定図書 参考書	安丸雅子ほか『SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST』（金星堂）、2011年
成績評価	授業での提出物（問題演習など）50％、定期試験（前期1回、後期1回）50％

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（環境③）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	授業はTOEIC形式の演習が中心となります。テキストは、TOEIC形式の問題になっていますが、広告、表、グラフなど、実際の海外での日常生活でみられるAuthenticなものばかりです。テスト英語だけではなく、実用的な英語も学びます。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learning（TOEIC）です。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。） ・実用英語に慣れること。
テキスト 指定図書 参考書	Practical English for the TOEIC Test　三修社、ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30％）、課題（家庭学習＋提出物）40％、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間テストや期末テストなどの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象となりません。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（環境④）
担当教員	山本　薫
授業概要	多読(速読)と精読を効果的に組み合わせ読解力を養うことによって総合的なコミュニケーション能力を高める。
到達目標	既修の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また、高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：The Global Topics of Health and Environment from VOA（松柏社, 2007）
成績評価	毎回の授業でのリスニング小テスト（5%）と予習（40%）・課題（5%）・前・後期試験（50%）を総合的に評価する。4回以上欠席したものは評価の対象としない。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（環境⑤）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	Outline: This course will encourage communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the travel-related topics introduced in the texts. Students will also learn how to use the university e-learning system for TOEIC self-study and develop individual TOEIC test tactics.
到達目標	英語の既存の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。e-learningによるTOEIC自習を通して個人のTOEIC目標点数達成をはかる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Angela Buckingham and Norman Whitney　Passport to New Places Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書：TOEIC handouts prepared by the teacher (Students must bring a dictionary to each class) to each class
成績評価	Tests 80%. Summer Assignment 20%.

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（環境⑥）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	授業はTOEIC形式の演習が中心となります。テキストは、TOEIC形式の問題になっていますが、広告、表、グラフなど、実際の海外での日常生活でみられるAuthenticなものばかりです。テスト英語だけではなく、実用的な英語も学びます。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learning（TOEIC）です。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。） ・実用英語に慣れること。
テキスト 指定図書 参考書	Practical English for the TOEIC Test　三修社、ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30%）、課題（家庭学習＋提出物）40%、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間テストや期末テストなどの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象となりません。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（工学①）
担当教員	小栗　裕子
授業概要	コミュニケーションを成功させるためには、まず相手の言っていることを理解しなければならない。そのために毎回自然な速度の多様な英語を聞き、聴解力を養成する。同時に自分の考えをできるだけ簡潔に表現し、相手に伝わる作文力（発信力）を習得する。英作文に関しては、毎回課題を出す予定である。
到達目標	既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また、高めることを目標とする。このクラスでは特に身近な話題の聞き取りができるようなリスニング力養成を目指す。また、その話題についての考えを表現できるライティング力習得も図る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：New Airwaves,2nd edition:Dale Fuller & Clyde W. Grimm, MACMILLAN LANGUAGEHOUSE.
成績評価	授業での発表　20％、毎回の課題レポート　40％、中間・期末試験　40％

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（工学②）
担当教員	外狩　章夫
授業概要	1回目の授業で、TOEICのPart Ⅰ ～ Part VIIの試験内容、試験時間、出題形式について例題を用いて解説します。それによって、この資格試験がどのようなものであるか、どのような英語力が求められているかを把握してもらいます。2回目以降は、基本語彙を確認しながら、TOEIC形式に沿って分野・場面別の表現に親しむ練習を積んでいきます。
到達目標	既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：水本, M. Stafford（著）Successful Keys to the TOEIC Test 2 (2nd ed.),桐原, 2010. 指定図書: 松野, 根岸（著）『はじめて受けるTOEIC TESTパーフェクト攻略』桐原, 1998.
成績評価	ディクテーション等のテスト（10回）＝100％　ただし、全授業回数の1/3以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（工学③）
担当教員	山本　薫
授業概要	この授業においては、Voice of America(VOA)の健康・医療・環境関連ニュースのテクストの聞き取りと読解を行う。
到達目標	既修の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また、高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Health and Environment from VOA（松柏社、2010）
成績評価	毎回の授業でのリスニング小テスト（5％）と予習（40％）・課題（5％）・前・後期試験（50％）を総合的に評価する。4回以上欠席したものは評価の対象としない。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（工学④）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	授業はTOEIC形式の演習が中心となります。テキストは、TOEIC形式の問題になっていますが、広告、表、グラフなど、実際の海外での日常生活でみられるAuthenticなものばかりです。テスト英語だけではなく、実用的な英語も学びます。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learning（TOEIC）です。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。） ・実用英語に慣れること。
テキスト 指定図書 参考書	Practical English for the TOEIC Test　三修社、ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30％）、課題（家庭学習＋提出物）40％、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間テストや期末テストなどの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象となりません。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（工学⑤）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	授業はTOEIC形式の演習が中心となります。テキストは、TOEIC形式の問題になっていますが、広告、表、グラフなど、実際の海外での日常生活でみられるAuthenticなものばかりです。テスト英語だけではなく、実用的な英語も学びます。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learning（TOEIC）です。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。） ・実用英語に慣れること。
テキスト 指定図書 参考書	Practical English for the TOEIC Test　三修社、ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30％）、課題（家庭学習＋提出物）40％、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間テストや期末テストなどの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象となりません。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（人文①）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	授業はTOEIC形式の演習が中心となります。テキストは、TOEIC形式の問題になっていますが、広告、表、グラフなど、実際の海外での日常生活でみられるAuthenticなものばかりです。テスト英語だけではなく、実用的な英語も学びます。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learning（TOEIC）です。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。） ・実用英語に慣れること。
テキスト 指定図書 参考書	Practical English for the TOEIC Test　三修社、ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30％）、課題（家庭学習＋提出物）40％、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間テストや期末テストなどの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象となりません。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（人文②）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	この授業では、特にリーディングスキルとリスニングスキルの向上を目指し、さらに新TOEICテストの問題形式に慣れる為、TOEICテスト形式の問題を解き、総合的な英語運用能力の育成を図る。最終的には、新TOEIC500点から600点の取得が可能な英語力の育成を目標とする。また、単語テストも随時行う。
到達目標	この授業では、特にリーディングスキルとリスニングスキルの向上を目指し、さらに新TOEICテストの問題形式に慣れる為、TOEICテスト形式の問題を解き、総合的な英語運用能力の育成を図る。最終的には、新TOEIC500点から600点の取得が可能な英語力の育成を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	寺西雅之,Patrick T. Dougherty.『TOEIC Test Success』南雲堂.
成績評価	中間試験　30%、期末試験　50%、単語テスト　20% なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（人文③）
担当教員	森脇　正史※
授業概要	TOEICの問題を利用して、語彙や文法事項を補強しながら、実生活での様々な状況に応じた英語の聴解と読解の学習をする。また補助教材を使用して多角的に英語に慣れ親しむための取り組みを行なう。
到達目標	既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。特に聴解力と読解力を中心にした総合的な英語力の向上をはかる。
テキスト 指定図書 参考書	安丸雅子ほか『SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST』(金星堂)、2011年
成績評価	授業での提出物(問題演習など)50%、定期試験(前期1回、後期1回)50%

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（人文④）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	Outline: This course will encourage communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the travel-related topics introduced in the texts. Students will also learn how to use the university e-learning system for TOEIC self-study and develop individual TOEIC test tactics.
到達目標	英語の既存の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。e-learningによるTOEIC自習を通して個人のTOEIC目標点数達成をはかる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Angela Buckingham and Norman Whitney　Passport to New Places Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書:TOEIC handouts prepared by the teacher (Students must bring a dictionary to each class)
成績評価	Tests 80%. Summer Assignment 20%.

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（人文⑤）
担当教員	外狩　章夫
授業概要	1回目の授業で、TOEICのPart Ⅰ ～ Part VIIの試験内容、試験時間、出題形式について例題を用いて解説します。それによって、この資格試験がどのようなものであるか、どのような英語力が求められているかを把握してもらいます。2回目以降は、基本語彙を確認しながら、TOEIC形式に沿って分野・場面別の表現に親しむ練習を積んでいきます。
到達目標	既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させ、また高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：水本篤, Mark Stafford（著）Successful Keys to the TOEIC Test 2 (2nd ed.), 桐原, 2010. 指定図書：松野, 根岸（著）『はじめて受けるTOEIC TESTパーフェクト攻略』桐原, 1998.
成績評価	ディクテーション等のテスト（10回）＝100％　ただし、全授業回数の1/3以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（人文⑥）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	授業はTOEIC形式の演習が中心となります。テキストは、TOEIC形式の問題になっていますが、広告、表、グラフなど、実際の海外での日常生活でみられるAuthenticなものばかりです。テスト英語だけではなく、実用的な英語も学びます。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learning（TOEIC）です。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。） ・実用英語に慣れること。
テキスト 指定図書 参考書	Practical English for the TOEIC Test　三修社、ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30％）、課題（家庭学習＋提出物）40％、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間テストや期末テストなどの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象となりません。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（看護①）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	患者との英語によるコミュニケーションをスムーズに行うため、また、医師が記載した英語によるカルテを読み取るため、医療現場で必要な英語を学ぶ。そのため、英語表現と英単語の養成に重点を置いた授業を行う。それと同時に、英語表現を定着させるため、ロールプレイを通じて学んだことを実際に使用できるかどうかを確認する。TOEICの高得点を狙うためにも有益である、実用的な英語力の養成を目的とする。また、授業の後半ではTOEICの試験対策を実施する。
到達目標	患者との英語によるコミュニケーションをスムーズに行うため、また、医師が記載した英語によるカルテを読み取るため、医療現場で必要な英語力の養成を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	Vivian Morooka, Terri Sugiura.『Vital Signs』(南雲堂)
成績評価	前期試験50％、後期試験50％で評価する。 なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（看護②）
担当教員	市場　史哉※
授業概要	TOEIC形式のリスニング、リーディング問題を扱うことで、総合的な英語能力を伸ばし、TOEICスコアを向上させることを目指す。教科書に添付されたCDを使い、家でも繰り返しリスニングの訓練をすることが求められる。時間があれば、映画など、TOEIC以外の素材も使い、英語の日常会話を聞き取る練習をする。
到達目標	TOEICスコアの向上を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：TOEIC Test Success 新TOEIC形式で読む総合英語（南雲堂）
成績評価	授業中に行う小テストやプリント教材　30％　期末試験70％　全授業回数の2／3以上の出席がない場合、評価の対象としない。

科目名	英語Ⅰ（活性化コース）（再履修）
担当教員	山本　薫
授業概要	この授業においては、英語ニュース記事を読み、基礎英文法の総点検をゆっくり丁寧に行う。次に、理解と知識を定着させるために、読む、書く、聞く、話すという4つのスキルをバランスよく訓練する。適宜リスニング教材として、映画なども用いる。
到達目標	既修の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に対応できる知識として定着させ、また、高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：英語ニュース、リスニング教材は、プリントアウトして授業中に配布する。
成績評価	毎回の授業でのリスニング小テスト（5％）と予習（40％）・課題（5％）・前・後期試験（50％）を総合的に評価する。4回以上欠席したものは評価の対象としない。

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（環境①）
担当教員	カール・ブラウン※
授業概要	Outline: This course will encourage communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the travel-related topics introduced in the texts.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Breakthrough, Book One, Macmillan ISBN 978-4-7773-6128-1
成績評価	Report and Interview 35%, class quizzes 25%, classwork 20%, final test 20%.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（環境②）
担当教員	ウォルター・クリンガー ・ マーティン・スタック※
授業概要	英語を聞いたり話したりする自信と能力を向上させるため、授業の内容を次の3つに分ける。全体授業：まず、映画の台本を朗読する。その時、指示に従い後に続いてリピートしたり、静かに聞いたりする。その後に映画を見る。グループワーク：4～5人のグループでカードゲーム等をして楽しむ。映画を見ながら、ゲームをしながら、個人的に面談をしたり、テストを行う。
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：映画の台本は図書館から借りることができる。歌詞等はHP http://www.ice.usp.ac.jp/~wklinger/ からダウンロードできる。
成績評価	Picture Test 50%: Students meet with the teacher one-by-one and describe what is happening in some Action English pictures. Interview 50%: Students meet with the teacher individually, present a report on a topic of their own choosing, and have a discussion with the teacher.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（環境③）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Outline: This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Living English by Hedberg & Mauser, Keystone English Press
成績評価	One-on-one interview 55%, homework 20%, quizzes and tests 25%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（環境④）
担当教員	カール・ブラウン※
授業概要	Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Breakthrough, Book One, Macmillan ISBN 978-4-7773-6128-1
成績評価	Report and Interview 35%, class quizzes 25%, classwork 20%, final test 20%.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（環境⑤）
担当教員	アラン・ニール※
授業概要	Outline: This class intends to develop and encourage communication skills through pair practice, small group discussions, short surveys, simple speeches, and oral reports. Students are asked to write a report from a list of popular topics and discuss it with the instructor in a short interview.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Breakthrough, Book One, Macmillan ISBN 978-4-7773-6128-1
成績評価	Report and Interview 35%, class quizzes 25%, classwork 20%, final test 20%.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（環境⑥）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. Student worksheets about current world topics are used showing video, images and PowerPoint presentations by teacher.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Living English by Hedberg & Mauser, Keystone English Press
成績評価	One-on-one interview 55%, homework 20%, quizzes and tests 25%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（工学①）
担当教員	ウォルター・クリンガー ・ マーティン・スタック※
授業概要	英語を聞いたり話したりする自信と能力を向上させるため、授業の内容を次の3つに分ける。全体授業: まず、映画の台本を朗読する。その時、指示に従い後に続いてリピートしたり、静かに聞いたりする。その後に映画を見る。グループワーク:4～5人のグループでカードゲーム等をして楽しむ。映画を見ながら、ゲームをしながら、個人的に面談をしたり、テストを行う。
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:映画の台本は図書館から借りることができる。歌詞等はHP http://www.ice.usp.ac.jp/~wklinger/ からダウンロードできる。
成績評価	Picture Test 50%: Students meet with the teacher one-by-one and describe what is happening in some Action English pictures. Interview 50%: Students meet with the teacher individually, present a report on a topic of their own choosing, and have a discussion with the teacher.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（工学②）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	Outline: This course will encourage communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the travel-related topics introduced in the texts.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvement in their English speaking and listening abilities and gained the basic vocabulary and phrases necessary for travelling and meeting people from other countries.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Angela Buckingham and Norman Whitney　Passport to New Places Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書:Students must bring a dictionary to each class
成績評価	Tests 40%: Dictation tests (10 sentences each test) based on the content of the previous class. 1st Presentation 30%: Students present a 3-minute speech about themselves in front of the class. 2nd Presentation 30%: Students choose a Japanese cultural topic and present a 3-minute speech on the topic in front of the class.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（工学③）
担当教員	ゴードン・マクラレン※
授業概要	Outline: This class intends to develop and encourage communication skills through pair practice, small group discussions, short surveys, simple speeches, and oral reports. Students are asked to write a report from a list of popular topics and discuss it with the instructor in a short interview.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:'Star Taxi', new version. Theo Steckler & Ian Franklin (DramaWorks, 2003).
成績評価	Homework: Memorize short scenes at home(～30分) every 2 weeks. Write 350-500 words about yourself for a 1-to-1 interview. Pairs rewrite 2 scenes once to study then perform. Grading: BI-WEEKLY ACTING 40% (= 8 best scenes [of 9]x 5%); REWRITE & PERFORMANCE 15%; ONE-TO-ONE INTERVIEW: 35% (includes personal essay grade): QUIZ[es] on end-of-term MOVIES: 10%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（工学④）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations. Student worksheets about current world topics are used showing video, images and PowerPoint presentations by teacher.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Living English by Hedberg & Mauser, Keystone English Press
成績評価	One-on-one interview 55%, homework 20%, quizzes and tests 25%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（工学⑤）
担当教員	カール・ブラウン※
授業概要	Outline: This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Breakthrough, Book One, Macmillan ISBN 978-4-7773-6128-1
成績評価	Report and Interview 35%, class quizzes 25%, classwork 20%, final test 20%.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（人文①）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Outline: This class intends to develop and encourage communication skills through pair practice, small group discussions, short surveys, simple speeches, and oral reports. Students are asked to write a report from a list of popular topics and discuss it with the instructor in a short interview.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Living English by Hedberg & Mauser, Keystone English Press
成績評価	One-on-one interview 55%, homework 20%, quizzes and tests 25%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（人文②）
担当教員	ウォルター・クリンガー ・ カール・ブラウン※
授業概要	英語を聞いたり話したりする自信と能力を向上させるため、授業の内容を次の3つに分ける。全体授業: まず、映画の台本を朗読する。その時、指示に従い後に続いてリピートしたり、静かに聞いたりする。その後に映画を見る。グループワーク:4～5人のグループでカードゲーム等をして楽しむ。映画を見ながら、ゲームをしながら、個人的に面談をしたり、テストを行う。
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:映画の台本は図書館から借りることができる。歌詞等はHP http://www.ice.usp.ac.jp/~wklinger/ からダウンロードできる。
成績評価	Picture Test 50%: Students meet with the teacher one-by-one and describe what is happening in some Action English pictures. Interview 50%: Students meet with the teacher individually, present a report on a topic of their own choosing, and have a discussion with the teacher.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（人文③）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Outline: This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.
到達目標	Objectives On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Living English by Hedberg & Mauser, Keystone English Press
成績評価	One-on-one interview 55%, homework 20%, quizzes and tests 25%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（人文④）
担当教員	カール・ブラウン※
授業概要	Outline: This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Breakthrough, Book One, Macmillan ISBN 978-4-7773-6128-1
成績評価	Report and Interview 35%, class quizzes 25%, classwork 20%, final test 20%.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（人文⑤）
担当教員	アラン・ニール※
授業概要	Outline: This class intends to develop and encourage communication skills through pair practice, small group discussions, short surveys, simple speeches, and oral reports. Students are asked to write a report from a list of popular topics and discuss it with the instructor in a short interview.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Breakthrough, Book One, Macmillan ISBN 978-4-7773-6128-1
成績評価	Report and Interview 35%, class quizzes 25%, classwork 20%, final test 20%.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（人文⑥）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Outline: This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Living English by Hedberg & Mauser, Keystone English Press
成績評価	One-on-one interview 55%, homework 20%, quizzes and tests 25%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（看護①）
担当教員	ウォルター・クリンガー
授業概要	英語を聞いたり話したりする自信と能力を向上させるため、授業の内容を次の3つに分ける。全体授業：まず、映画の台本を朗読する。その時、指示に従い後に続いてリピートしたり、静かに聞いたりする。その後に映画を見る。グループワーク:4～5人のグループでカードゲーム等をして楽しむ。映画を見ながら、ゲームをしながら、個人的に面談をしたり、テストを行う。
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:映画の台本は図書館から借りることができる。歌詞等はHP http://www.ice.usp.ac.jp/~wklinger/ からダウンロードできる。
成績評価	Picture Test 50%: Students meet with the teacher one-by-one and describe what is happening in some Action English pictures. Interview 50%: Students meet with the teacher individually, present a report on a topic of their own choosing, and have a discussion with the teacher.

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（看護②）
担当教員	ゴードン・マクラレン※
授業概要	Outline: This course aims to develop and expand on the learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well as current events.
到達目標	Objectives: On completion of the course, students will have made significant improvements in their English speaking and listening abilities. Students will have gained confidence in applying English language skills through lessons using a variety of stimulating, enjoyable, and educational communicative tasks and activities.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 'Pop Stars', new verstion. Tyler Warfield (DramaWorks, 2004)
成績評価	Homework: Study scenes at home(20-35分) every 2 weeks. Write 350-500 words about yourself for a 1-to-1 interview. Pairs rewrite a long scene once to study then perform. Grading: BI-WEEKLY ACTING 40% (= 8 best scenes [of 9]x 5%); REWRITE & PERFORMANCE 15%; ONE-TO-ONE INTERVIEW: 35% (includes personal essay grade): QUIZ[es] on end-of-term MOVIES: 10%

科目名	英語Ⅱ（応用コース）（再履修）
担当教員	石田　法雄
授業概要	スタンダードなポップソングを2回聴き、ブランクがもうけられているミュージックシートの埋め合わせを行う。マニュアルを用いてそのブランクの解答が正しいかどうかのやり取りを行い、英語でのコミュニケーション能力を身につける。マニュアルは、リーダーがどの様な単語がブランクに入ったか他の学生に尋ね、入っている時はそのスペルを尋ね板書し正しければその旨伝え、あるいは間違っていれば次の学生に同じ質問を繰り返したりする。リーダーは順次交代し、最初はマニュアルを用いて練習を行い、徐々にレベルを上げていく。
到達目標	1. ポップソングリスニングの能力を身につける 2. マニュアルを用いて、英語でのコミュニケーション能力を身につける 3. マニュアルを用いず、英語でのコミュニケーション能力を身につける 4. 自由にアドリブを入れての、更に進んだ英語でのコミュニケーション能力を身につける
テキスト 指定図書 参考書	授業中配布する。
成績評価	授業でのプレゼンテーション（70%）、宿題（20%）、ポップソングリスニング（10%）

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（環境①）
担当教員	森脇　正史※
授業概要	TOEICの問題演習と新聞記事などの英文読解を通じて、語彙や文法の知識を活かして情報を収集するための発展的な英語学習を行なう。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	鈴木薫ほか『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』（金星堂）、2010年
成績評価	授業での提出物（問題演習など）50％、定期試験（前期1回、後期1回）50％

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（環境②）
担当教員	西澤　裕一※
授業概要	この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それを踏まえた発信力の向上を目標とします。 語彙の確認、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 また2回生の終わりのTOEICに向けての演習も行う予定です。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	「ローマの休日」（コスミック出版）と「京大学術語彙データーベース基本英単語1001」（研究社）
成績評価	定期試験　50％　小テスト　20％　提出物　15％　授業態度　15％　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない）

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（環境③）
担当教員	上村　盛人
授業概要	TOEIC Test対策を主眼とするリスニング能力の向上を通して実践的なコミュニケーション力を身に付けることを目標とするテキストを用いて、総合的な英語力向上のための訓練を行う。他にCNN等のニュース番組を織り交ぜながら授業を進めていく。テキスト付属のCDを用いた予習、2～3の英文の暗誦が毎回の宿題。小テストを6回実施する。学期末の定期テストは実施しない。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Hisako Murakawa, ”Essential Skills for the TOEIC Test Listening”（金星堂） 参考書：参考書等については、折にふれて授業時に紹介する。
成績評価	前期課題（30%）　後期課題（30%）　小試験（20%）　プレゼンテーション（20%）授業時間数の3分の1以上を欠席した者は評価対象としない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（環境④）
担当教員	伊藤　加奈子※
授業概要	この授業では、現代のユニークな話題について書かれた英文を読み、個々の考えを議論したり、英文で書いたりすることで、実際に役立つ英語力を向上させていきたい。さらに、補助プリントで、TOEIC対策も付け加えていく予定である。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中鉢恵一・宮澤信彦編著　READINDG FACILITATOR　（三修社）
成績評価	授業中のPresentation 30%　Writing 20%　QUIZ・EXAM 50%を総合して評価する。 原則として、半期で4回以上欠席（遅刻20分以上を含む）した者、あるいは、授業への取り組み姿勢があまりにも悪い者は評価の対象としない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（環境⑤）
担当教員	山本　薫
授業概要	AP通信、ロイター通信から厳選された、主に環境に関する世界中各地の英語ニュースを読み、読解力・リスニング力を鍛える。
到達目標	英語Iと英語IIで履修した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座にしようできる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Healing Our World (南雲堂, 2010)
成績評価	毎回の授業でのリスニング小テスト（5%）と予習（40%）・課題（5%）・前・後期試験（50%）を総合的に評価する。4回以上欠席したものは評価の対象としない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（環境⑥）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	TOEICの高スコアは、就職活動で大変有利な条件となる。従って、この授業では、新TOEIC600～800点が取得可能な英語力を育成する。リスニングやシャドーウィング、リーディングなど満遍なく取り入れ、バランスの良い実践的な英語力を育成する。また、単語テストも随時行う。
到達目標	TOEICの高スコアは、就職活動で大変有利な条件となるため、この授業では、新TOEIC600～800点が取得可能な英語力を育成する。リスニングやシャドーウィング、リーディングなど満遍なく取り入れ、バランスの良い実践的な英語力を育成する。
テキスト 指定図書 参考書	大賀リエ、William J. Benfield, Terry L. Browning他.『TOEIC Test: On Target』 南雲堂.
成績評価	小テスト（20%）、前期試験（40%）、後期試験（40%）で評価する。 なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（工学①）
担当教員	市場　史哉※
授業概要	科学に関するエッセイを英語で読むことで理系の学生にとって必要な単語や表現を身につけ、研究に役立つ語学力を身につけることを目指す。また、映画などを使ったリスニングの練習も行い、日常会話レベルの英語を聞き取れる能力を養う。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Science Speaks（金星堂）
成績評価	授業中に行う小テストやプリント教材　30%　期末試験70%　全授業回数の2／3以上の出席がない場合、評価の対象としない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（工学②）
担当教員	松浦　勉※
授業概要	科学記事を中心としたトピックを取り上げることにより科学の本質に迫りながら、読解力とコミュニケーション力を高め、総合的な英語力向上を目指す。 毎回リスニング、音読（shadowing)をベースとした音声面の強化と併せて発話順による内容把握(sight translation)を行う。毎回の授業は、授業計画のとおりchapter 毎に終える予定であるが、理解度に合わせて適宜調整しながら進める。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、一層高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Jonathan Lynch, 委文光太郎編著『Science Insight』成美堂
成績評価	評価対象基準：1／3以上の欠席者は評価対象と成らないので、各自出席に留意のこと。 学期中に課す様々な課題－レポート、小テスト、プレゼンテーション（60%）＋筆記試験（40%）の総合評価

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（工学③）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	~~科学に関するエッセイをを英語で読むことで理系の学生にとって必要な単語や表現を身につけ、研究に役立つ語学力を身につけることを目指す。~~ This course will encourage and consolidate communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the identity-related topics introduced in the texts.
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、一層高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Joseph Shaules, Hiroko Tsuijioka and Miyuki Iida　Identity Student Book (CD Included) (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書：Students must bring a dictionary to each class
成績評価	Tests 40%: Dictation tests (10 sentences each test) based on the content of the previous class. 1st Presentation 30%: Students present a 3-minute speech about their identity in front of the class. 2nd Presentation 30%: Students choose an identity-related topic covered in class and present a 3-minute speech on the topic in front of the class.

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（工学④）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	TOEICの高スコアは、就職活動で大変有利な条件となる。従って、この授業では、新TOEIC600～800点が取得可能な英語力を育成する。リスニングやシャドーウィング、リーディングなど満遍なく取り入れ、バランスの良い実践的な英語力を育成する。また、単語テストも随時行う。
到達目標	TOEICの高スコアは、就職活動で大変有利な条件となるため、この授業では、新TOEIC600～800点が取得可能な英語力を育成する。リスニングやシャドーウィング、リーディングなど満遍なく取り入れ、バランスの良い実践的な英語力を育成する。
テキスト 指定図書 参考書	大賀リエ、William J. Benfield, Terry L. Browning他. 『TOEIC Test: On Target』 南雲堂.
成績評価	小テスト（20％）、前期試験（40％）、後期試験（40％）で評価する。 なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（工学⑤）
担当教員	小林　香保里※
授業概要	グローバル社会に生きるには、語学の技術習得のみならず、社会で起きている様々な事柄に関心を持つことが重要である。このクラスでは国際的な社会問題を扱った教材を通して英語の4技能を発展させる。テキストの内容を読み、ダイアログを練習することにより、社会問題に対する知識を得、それに関して更に調べたことや自分の意見を書きまとめ、発表することにより、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの力を総合的に伸ばす。
到達目標	1年次に習得した英語の4技能を更に発展させる。英語の技能を使って、知識を広め、自分の意見を発信させ、行動を起こす基礎を構築する。グループ活動やプレゼンテーションにより、調べた情報や自分の考えを的確に相手に伝えることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Life in Our Global Village by Melvin Andrade & Hisami Andrade (Sansyusha)
成績評価	Quizzes 30%, Homework 20%, Writings 20%, Presentations (Group & Individual) 30%, 前期・後期各5回以上欠席の者は原則として評価対象にしない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（人文①）
担当教員	真鍋　晶子※
授業概要	英語Ⅰ、Ⅱで培われた大学英語の基礎力をもとに、英米の短編小説を味わう事で英文を読むことになれる。どのような専門領域にすすんでも、ひとまとまりの英文に書かれていることを深く読み取り、自分自身の五感をフルに使って、味わい、それについて自分自身の意見を英語で述べることが肝要である。その実力を養う場としたい。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、一層高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Reading Through the Skills: Stories on Life from Famous Authors by George Ellington (Macmllan Languagehouse)
成績評価	さまざまな話題の短編小説が集められているテキストを用いて、テキストの内容を生きたものとして把握するために、授業中にテキストをもとに、ディスカッションしたり、内容に関して意見を述べたり、それについて英文で意見を書いたりと授業中、個々の積極的に参加が求められる。成績は、前期後期の試験、レポート・小テスト・授業中の発言などによる点数を総合的に評価する。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（人文②）
担当教員	真田　満※
授業概要	メディア、文化、言語、ジェンダー、そして芸術といった多様なジャンルを横断する教科書を使って、たくさんの英語を読み、聞き、問題に英語で答える。さらに英作文を通して、教科書で学んだ表現を他の文脈で活用する。このような作業を通して英語の四技能を身につける。コミュニケーションの場で応用できる表現や話題を、可能な限りたくさん習得することを目標とする。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Clara Birnbaum/高山一郎著　Getting Personal Using Videoclips:（松柏社）
成績評価	評価対象基準として総授業回数の1／3以上の欠席者は評価対象とはならない。 毎回の課題：10%　小テスト20%　e-learning：20%　前期・後期の期末試験：50%

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（人文③）
担当教員	西澤　裕一※
授業概要	この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それを踏まえた発信力の向上を目標とします。 語彙の確認、リスニングの演習、発信力の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 また2回生の終わりのTOEICに向けての演習も行う予定です。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	「ローマの休日」（コスミック出版）と「京大学術語彙データーベース基本英単語1001」（研究社）
成績評価	定期試験　50%　小テスト　20%　提出物　15%　授業態度　15%　　欠席、遅刻の多い者、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない）

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（人文④）
担当教員	上村　盛人
授業概要	TOEIC Test対策を主眼としたリスニング能力の向上を通して実践的なコミュニケーション力を身に付けることを目指すテキストを用いて、総合的な英語力向上のための訓練を行う。他にCNN等のニュース番組を織り交ぜながら授業を進めていく。テキスト付属のCDを用いた予習、2～3の英文の暗誦が毎回の宿題。小テストを6回実施する。学期末の定期テストは実施しない。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Hisako Murakawa, ”Essential Skills for the TOEIC Test Listening”（金星堂） 参考書：参考書等については、折にふれて授業時に紹介する。
成績評価	前期課題（30％）　後期課題（30％）　小試験（20％）　プレゼンテーション（20％）授業時間数の3分の1以上を欠席した者は評価対象としない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（人文⑤）
担当教員	森脇　正史※
授業概要	TOEICの問題演習と新聞記事などの英文読解を通じて、語彙や文法の知識を活かして情報を収集するための発展的な英語学習を行なう。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語の学力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	鈴木薫ほか『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』（金星堂）、2010年
成績評価	授業での提出物（問題演習など）50％、定期試験（前期1回、後期1回）50％

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（人文⑥）
担当教員	小林　香保里※
授業概要	グローバル社会に生きるには、語学の技能習得のみならず、社会で起きている様々な事柄に関心を持つことが重要である。このクラスでは国際的な社会問題を扱った教材を通して英語の4技能を発展させる。テキストの内容を読み、ダイアログを練習することにより、社会問題に対する知識を得、それに関して更に調べたことや自分の意見を書きまとめ、発表することにより、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの力を総合的に伸ばす。
到達目標	1年次に習得した英語の4技能を更に発展させる。英語の技能を使って、知識を広め、自分の意見を発信させ、行動を起こす基礎を構築する。グループ活動やプレゼンテーションにより、調べた情報や自分の考えを的確に相手に伝えることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Life in Our Global Village by Melvin Andrade & Hisami Andrade (Sansyusha)
成績評価	Quizzes 30%, Homework 20%, Writings 20%, Presentations (Group & Individual) 30%, 前期・後期各5回以上欠席の者は評価対象にしない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（看護①）
担当教員	西澤　裕一※
授業概要	この授業では、主に医療、看護について書かれた英文の読解力の向上を目標とします。 テキストの予習を指摘した部分の確認、さらにハンドアウトや投げ込み教材に対する受講者の発表とそれに対する指導者のコメント、訂正という形で進めていきます。 それと平行して英語で書かれた物語の読解も行う予定です。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、医療領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：ハンドアウトとA. A. Milne,「プー横丁にたった家」（講談社英語文庫）
成績評価	定期試験　60%　小テスト　20%　提出物　20%　欠席(半期で4回以上は評価をしません)、遅刻の多い者〈遅刻2回で欠席1回と考える場合があります)、予習をしっかりしていない者、提出物を出さない者は評価の対象としない。（定期テストがあまりにも悪い場合も評価の対象としない）

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（看護②）
担当教員	出原　健一※
授業概要	英文テクストをできる限り正確に読む訓練を行なう。知っている単語だけを追い、そこから全体の主旨を推測するという読み方は、時に大きな誤読を引き起こす。これは、コミュニケーションの場においても同様である。このクラスでは、正確な読みに大切な文法や、テクストレベルの英語のルールにも随時触れながら、英文テクストを輪読していく。
到達目標	英文の文法構造を正しく捉え、かつテクストの流れや大意も理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	第1～15回：Step UP to Better English (Asahi Press) 第16～30回：Japan in International Society (Tsurumi Shoten)
成績評価	前期後期の学期末試験が規準となるが、授業内での発表（詳細は初回の授業で述べる）に対しても加点する。また、学期ごとに、欠席4回目から、1回ごとに5点ずつ減点する。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（看護③）
担当教員	市場　史哉※
授業概要	アメリカの看護師の体験談を読み、医療、看護に関連する語彙を身につけるとともに、看護師という職業に関する理解を深めることを目指す。また、映画などを使ってリスニングの練習を行い、日常会話レベルの英語を聞き取る能力を向上させる。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、的確な構文力とそれに伴った高度な読解力をつけさせることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Nurses in the U.S. Now アメリカの看護師たちはいま（三修社）
成績評価	授業中に行う小テストやプリント教材　30%　期末試験　70%　全授業回数の2/3以上の出席がない場合、評価の対象としない。

科目名	英語Ⅲ（充実コース）（再履修）
担当教員	小栗　裕子
授業概要	コミュニケーションを成功させるためには、まず相手の言っていることを理解しなければならない。そのために毎回自然な速度の英語を多く聞き、聴解力を養成する。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで習得した知識の活性化と定着をはかり、いっそう高度なコミュニケーションの場で即座に使用できる英語力の充実を目標とする。このクラスでは特に聴解力の向上を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Cubic Listening-Surprise, Surprise： T. Kiggell, P. Bellard, K.Chandler & H. Donald, Macmillan Languagehouse.
成績評価	授業での発表（30%）、毎回のリスニングテスト（20%）、Review テスト、（30%）中間・期末試験（20%）

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（環境①）
担当教員	石田　法雄
授業概要	環境問題に関する教材を用いる。人口増加、地球温暖化、再利用、酸性雨、森林伐採等の観点から環境問題に触れる。1．授業開始と同時に英語のポップソングの聞き取りを始め、それを出席とする。2．テキストの各章初めにvocabulary testを行う。3．英語の語順に翻訳を試みる訓練を行う。4．英語で直接考える訓練を行う。5．各章読了後リスニングドリルを行う。6．3～4センテンスの英文を一気に10回書き写す宿題を毎回課す。7．各章の終わりに小テストを行い一括テストは行わない。8．e-learningによるALC NetAcademy2を取り入れた授業を行いTOEICの向上に役立てる。
到達目標	英語Ⅰ・Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり専門領域のコミュニケーションの場で役立つことを目標とする。1専門領域関連基礎用語の習得。2英文を正確に読む能力の養成。3動詞の種類と役割の理解。4代名詞に焦点をあてたテキストの読解。5視聴覚器具を用いたリスニング力の向上。6授業時間内外の自己学習のためe-learningによるALC NetAcademy2を使用し、TOEIC向上を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Jane Barnes Mack, Fact or Fiction?: Environmental Issues and Japan（弓プレス） その他の教材は、授業中配布する。
成績評価	ソングリスニング10%　テキストリスニング10%　宿題10%　単語試験10%　e-learning10%　試験50%

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（環境②）
担当教員	松浦　勉※
授業概要	現代世界が抱えている諸問題（一地球規模で深刻化する食料、人口、環境、エネルギー等）を論じたエッセイを読むことにより、知的レベルの高いコミュニケーション運用に必要な知識を深めながら、各章で頻出する名詞化表現を活用した表現力向上を図る。また、毎回英語のリズム感を養う為にシャドーウイングによる音読を求めるが、これによりsight translation（発話順にチャンク単位で内容理解を図る）方法を修得しlistening,speaking力を身につけることを目標とする。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：David Peaty、『Confronting the Issues』（Kinseido）
成績評価	評価対象基準：1／3以上の欠席者は評価対象とならないので各自出席に留意のこと。 学期中に課す様々な課題ーレポート、小テスト、プレゼンテーション（60%）＋筆記試験（40%）

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（環境③）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	~~この授業では現代世界の諸問題－グローバル化する経済活動、ロボット技術、食料問題等－を論じたエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な知識を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。~~ This course will encourage and consolidate communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the identity-related topics introduced in the texts.
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Joseph Shaules, Hiroko Tsuijioka and Miyuki Iida　Identity Student Book (CD Included) (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書：Students must bring a dictionary to each class
成績評価	Tests 40%: Dictation tests (10 sentences each test) based on the content of the previous class.　1st Presentation 30%: Students present a 3-minute speech about their identity in front of the class.　2nd Presentation 30%: Students choose an identity-related topic covered in class and present a 3-minute speech on the topic in front of the class.

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（環境④）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	将来、民間企業、官公庁、学校、研究機関など、どの分野へ進んでも、プレゼンテーションの技術や自分の意見を述べる能力は欠かせない。そこで、この授業では、CDに収録されたスピーチを聞いて理解し、質問する力を付けながら、最終的にあるトピックについてリサーチし、教室でスライドを見せながら発表し、質疑応答をするという一連の英語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とする。
到達目標	この授業では、CDに収録されたスピーチを聞いて理解し、質問する力を付けながら、最終的にあるトピックについてリサーチし、教室でスライドを見せながら発表し、質疑応答をするという一連の英語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Kobayashi Toshihiko, Shawn M. Clankie.『Your First Speech and Presentation』. 南雲堂.
成績評価	小テスト20％，プレゼンテーション40％，レポート40％ なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（環境⑤）
担当教員	真田　満※
授業概要	この授業では現代世界の諸問題－グローバル化する経済活動、ロボット技術、食料問題等－を論じたエッセイを読み、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な知識を深めながら、英語表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により英語のリズムに慣れ親しむ。
到達目標	英語Ⅰおよび英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：二ノ宮寛子他編著、Different Viewpoints of the World in English（松柏社）
成績評価	評価対象基準として総授業回数の1／3以上の欠席者は評価対象とはならない。 課題：10％　小テスト：20％　e-learning：20％　定期試験：50％

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（環境⑥）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	~~言語、共同体論、音楽、ジェンダー、人生と芸術といった多様なジャンルを横断する教科書を使って、たくさんの英語を読み、聞き、問題に口頭で英語で答える。さらに、英作文を通じて教科書で学んだ表現を他の文脈で活用する。このような作業を通して英語の四技能を身につける。コミュニケーションの場で応用できる表現や話題を、可能な限りたくさん習得することを目標とする。~~ This course will encourage and consolidate communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the identity-related topics introduced in the texts.
到達目標	英語Ⅰおよび英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Joseph Shaules, Hiroko Tsuijioka and Miyuki Iida　Identity Student Book (CD Included) (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書：Students must bring a dictionary to each class
成績評価	Tests 40%: Dictation tests (10 sentences each test) based on the content of the previous class.　1st Presentation 30%: Students present a 3-minute speech about their identity in front of the class.　2nd Presentation 30%: Students choose an identity-related topic covered in class and present a 3-minute speech on the topic in front of the class.

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（工学①）
担当教員	伊藤　加奈子※
授業概要	この授業では、様々なジャンルの話題を、色々なスタイルで書かれた英文で読んだり聴いたりすることで、実際に役立つ英語力を向上させていきたい。さらに、補助プリントで、TOEIC対策も付け加えていく予定である。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：　深山晶子著　　Let's Enjoy Real English!　（三修社）
成績評価	授業中のPresentation30％　Writing20％　QUIZ・EXAM50％を総合して評価する。 原則として、半期で4回以上欠席（遅刻20分以上を含む）した者、あるいは、授業への取り組み姿勢があまりにも悪い者は評価の対象としない。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（工学②）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	将来、民間企業、官公庁、学校、研究機関など、どの分野へ進んでも、プレゼンテーションの技術や自分の意見を述べる能力は欠かせない。そこで、この授業では、CDに収録されたスピーチを聞いて理解し、質問する力をつけながら、最終的にあるトピックについてリサーチし、教室でスライドを見せながら発表し、質疑応答をするという一連の英語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とする。
到達目標	この授業では、CDに収録されたスピーチを聞いて理解し、質問する力をつけながら、最終的にあるトピックについてリサーチし、教室でスライドを見せながら発表し、質疑応答をするという一連の英語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Kobayashi Toshihiko, Shawn M. Clankie.『Your First Speech and Presentation』. 南雲堂.
成績評価	小テスト20％，プレゼンテーション40％，レポート40％ なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（工学③）
担当教員	真田　満※
授業概要	TOEIC対策の教材を使って、たくさんの英語を読み、聞く。さらに、英字新聞などの時事英語の講読や英作文を通して、教材で学んだ表現を他の文脈で活用する。このような作業を通して英語の四技能を身につける。コミュニケーションの場で応用できる表現や話題を、可能な限りたくさん習得することを目標とする。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：宮崎充保他著 Intensive Training for the TOEIC Test（松柏社）
成績評価	評価対象基準として総授業回数の1／3以上の欠席者は評価対象とはならない。 毎回の課題：10%　小テスト：20%　e-learning：20%　前期・後期の期末試験：50%

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（工学④）
担当教員	出原　健一※
授業概要	英文テクストをできる限り正確に読む訓練を行なう。知っている単語だけを追い、そこから全体の主旨を推測するという読み方は、時に大きな誤読を引き起こす。これは、コミュニケーションの場においても同様である。このクラスでは、正確な読みに大切な文法や、テクストレベルの英語のルールにも随時触れながら、英文テクストを輪読していく。
到達目標	英文の文法構造を正しく捉え、かつテクストの流れや大意も理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	第1～15回：Step UP to Better English (Asahi Press) 第16～30回：Japan in International Society (Tsurumi Shoten)
成績評価	前期後期の学期末試験が規準となるが、授業内での発表（詳細は初回の授業で述べる）に対しても加点する。また、学期ごとに、欠席4回目から、1回ごとに5点ずつ減点する。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（工学⑤）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	リスニング用のテキストを中心に授業を行いますが、TOEICの語彙、文法なども授業内に行います。リスニングは細部までを聞き取るよりも、必要な情報だけを聞き取る練習をします。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learningです。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・必要な情報を聞き取る力を養う。 ・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。）
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Developing Tactics For Listening Second　Edition,Jack .C.Richards著 OXFORD、 ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30%）、課題（家庭学習＋提出物）40%、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間・期末などの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象とならないので気をつけてください。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（人文①）
担当教員	伊藤　加奈子※
授業概要	この授業では、様々なジャンルの話題を、色々なスタイルで書かれた英文で読んだり聴いたりすることで、実際に役立つ英語力を向上させていきたい。さらに、補助プリントで、TOEIC対策も付け加えていく予定である。
到達目標	英語Iと英語IIで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：深山晶子著　Let's Enjoy Real English!（三修社）
成績評価	授業中のPresentation30％　Writing20％　QUIZ・EXAM50％を総合して評価する。 原則として、半期で4回以上欠席（遅刻20分以上を含む）した者、あるいは、授業への取り組み姿勢があまりにも悪い者は評価の対象としない。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（人文②）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	~~英語の理解に必要な文法力をみにつけながら、読む力、書く力、そしてきくちからなどをとうごうした　授業を展開する。結果としてTOEICなどの得点に帆汪するように指導する。~~ This course will encourage and consolidate communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the identity-related topics introduced in the texts.
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Joseph Shaules, Hiroko Tsuijioka and Miyuki Iida　Identity Student Book (CD Included) (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書：Students must bring a dictionary to each class
成績評価	Tests 40%: Dictation tests (10 sentences each test) based on the content of the previous class.　1st Presentation 30%: Students present a 3-minute speech about their identity in front of the class.　2nd Presentation 30%: Students choose an identity-related topic covered in class and present a 3-minute speech on the topic in front of the class.

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（人文③）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	将来、民間企業、官公庁、学校、研究機関など、どの分野へ進んでも、プレゼンテーションの技術や自分の意見を述べる能力は欠かせない。そこで、この授業では、CDに収録されたスピーチを聞いて理解し、質問する力を付けながら、最終的にあるトピックについてリサーチし、教室でスライドを見せながら発表し、質疑応答をするという一連の英語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とする。
到達目標	この授業では、CDに収録されたスピーチを聞いて理解し、質問する力を付けながら、最終的にあるトピックについてリサーチし、教室でスライドを見せながら発表し、質疑応答をするという一連の英語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Kobayashi Toshihiko, Shawn M. Clankie.『Your First Speech and Presentation』. 南雲堂.
成績評価	小テスト20％，プレゼンテーション40％，レポート40％ なお、5回以上欠席した場合、評価対象外とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（人文④）
担当教員	外狩　章夫
授業概要	この授業では、英語表現のトレーニングと現代イギリス文化の基礎的理解とを狙います。まず、英国（人）の様々な姿を紹介するリーディング部分を読んで内容の確認をします。さらに、英語構文を確認する並べ替え、会話文のディクテーション、英問英答といったエクササイズをこなします。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：John H. Randle, Britain in a Changing World. 成美堂, 2007. 指定図書：小池滋監修『イギリス』（読んで旅する世界の歴史と文化）新潮社, 1992.
成績評価	ディクテーション等のテスト（10回）＝100％　ただし、全授業回数の2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（人文⑤）
担当教員	松浦　勉※
授業概要	現代世界が抱えている諸問題（一地球規模で深刻化する食料、人口、環境、エネルギー等）を論じたエッセイを読むことにより、知的レベルの高いコミュニケーション運用に必要な知識を深めながら、各章で頻出する名詞化表現を活用した表現力向上を図る。また、毎回英語のリズム感を養う為にシャドーウイングによる音読を求めるが、これによりsight translation（発話順にチャンク単位で内容理解を図る）方法を修得しlistening,speaking力を身につけることを目標とする。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：David Peaty、『Confronting the Issues』（Kinseido）
成績評価	評価対象基準：1／3以上の欠席者は評価対象とならないので各自出席に留意のこと。 学期中に課す様々な課題ーレポート、小テスト、プレゼンテーション（60％）＋筆記試験（40％）

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（人文⑥）
担当教員	三﨑　リン
授業概要	~~英語の理解に必要な文法力をつけながら、読む力、書く力、そして聞く力などを統合した授業を展開する。結果としてTOEICなどの得点に反映するように指導する。~~ This course will encourage and consolidate communicative English speaking and listening skills through activities such as everyday conversation, dialogues and individual, pair and group discussion and oral presentations based on the identity-related topics introduced in the texts.
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Joseph Shaules, Hiroko Tsuijioka and Miyuki Iida　Identity Student Book (CD Included) (OXFORD UNIVERSITY PRESS) 参考書：Students must bring a dictionary to each class
成績評価	Tests 40%: Dictation tests (10 sentences each test) based on the content of the previous class.　1st Presentation 30%: Students present a 3-minute speech about their identity in front of the class.　2nd Presentation 30%: Students choose an identity-related topic covered in class and present a 3-minute speech on the topic in front of the class.

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（看護①）
担当教員	上村　盛人
授業概要	TOEIC Test対策を主眼として、リスニング能力やリーディング能力の向上を通して実践的なコミュニケーション力を身に付けることを目指すテキストを用いて、総合的な英語力向上のための訓練を行う。英国BBCや米国CNNのニュース番組も、折にふれて利用する。テキスト付属のCDを用いた予習、2～3の英文の暗誦が毎回の宿題。小テストを6回実施する。学期末の定期テストは実施しない。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで修得した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Hisako Murakawa, ”Essential Skills for the TOEIC Test”（金星堂）
成績評価	前期課題（30％）　後期課題（30％）　小試験（20％）　プレゼンテーション（20％）全授業の3分の1以上を欠席した者は評価対象としない。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（看護②）
担当教員	山本　薫
授業概要	英字新聞の健康問題に関する記事で構成されたテクストを読み、聞き取る。リーディング・リスニングを通して得た語彙を活用してライティング練習も行う。
到達目標	英語Iと英語IIで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：小笠原真司著、Readings from Health and Nutrition News(金星堂)
成績評価	毎回の授業でのリスニング小テスト（5％）と予習（40％）・課題（5％）・前・後期試験（50％）を総合的に評価する。4回以上欠席したものは評価の対象としない。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（看護③）
担当教員	長谷川　由美
授業概要	リスニング用のテキストを中心に授業を行いますが、TOEICの語彙、文法なども授業内に行います。リスニングは細部までを聞き取るよりも、必要な情報だけを聞き取る練習をします。 家庭学習（宿題）はテキストの一部分と、e-learningです。コンピューターの使い方にも早く慣れるようにしましょう。
到達目標	・必要な情報を聞き取る力を養う。 ・語彙力向上。 ・TOEICのスコアUP（もともとのスコアにもよりますが、大体80～100点UPを目指しましょう。）
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Developing Tactics For Listening Second　Edition,Jack .C.Richards著 OXFORD、 ハンドアウト
成績評価	中間・期末テスト（各30％）、課題（家庭学習＋提出物）40％、欠席（半期で4回以上は評価の対象となりません）、遅刻の多い場合（遅刻2回で欠席1回とみなします）、中間・期末などの大きなテストを受けなかった場合、提出物を出さなかった場合は評価の対象とならないので気をつけてください。

科目名	英語Ⅳ（展開コース）（再履修）
担当教員	外狩　章夫
授業概要	この授業では、音声教材（Movie TELECO）に従って（文字を見ないで）、英語会話の基礎となる基本文型の変形がスラスラ口から出てくるよう訓練します。進み具合は人によって異なりますので、マイペースでトレーニングをし、チェックを受けてください。
到達目標	英語Ⅰと英語Ⅱで履修した知識の活性化と定着をはかり、専門領域におけるコミュニケーションの場で役立つ学力として展開させることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：安田一郎『英語の文型と文法』＜カセットテープ＞，日本放送出版協会，1970. 指定図書：安田一郎『英語の文型と文法』，日本放送出版協会，1970.
成績評価	各基本文型が、音声教材のスピードに従って（文字教材を見ないで）変形できると「進度表」に合格の印Aをつけます。全60レッスンのうちAが30個以下の場合は単位を出しません（＝59点以下）。31～40個の場合は60～69点、41～50個の場合は70～79点、51個以上は80点以上、とします。

科目名	英語ＶＡ（異文化受容伝達コース）（月2限）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Discussions Strategies. This course will introduce students to skills to become active participants in discussions. Students will be exposed to the process and principles needed to become confident speakers. Students will work in small groups to facilitate the use of English in the classroom. Students will be required to be active participants in each weekly discussion and give a number of small group presentations.
到達目標	Students will be able to participate in a number of different types of discussions, apply basic discussion principles and develop the vocabulary and strategies to become confident speakers.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Discussion Process and Principles by LeBeau & Harrington
成績評価	Presentation 50%, Participation in Class 50%

科目名	英語ＶＡ（異文化受容伝達コース）（月3限）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Presentations in English. This course will introduce students to skills needed to give presentations. Students will be exposed to the process and principles needed to become confident public speakers. Students will work in small groups to facilitate the use of English in the classroom. Students will be required to be active participants in each weekly discussion and give a number of small presentations as well as one final presentation.
到達目標	The skills learned in this class will allow students to create and give effective presentations.
テキスト 指定図書 参考書	Speaking of Speech: New Edition by Harrington & LeBeau
成績評価	Presentation 50%, Participation in Class 50%

科目名	英語ＶＡ（異文化受容伝達コース）（火3限）
担当教員	ウォルター・クリンガー
授業概要	We will read aloud the dialogue and watch the movie Gone with the Wind (1939), read an essay about the movie, and discuss themes and topics of the movie. Students will perform selected scenes, and write about topics from the movie.
到達目標	Students will develop confidence in their English listening and speaking skills, increase their vocabulary, improve their writing technique, and gain knowledge and understanding of American social history.
テキスト 指定図書 参考書	http://www.ice.usp.ac.jp/~wklinger/ からdownloadしてください
成績評価	Dialogue Performance 50%, Research Presentation 50%.

科目名	英語ＶＡ（異文化受容伝達コース）（水2限）
担当教員	石田　法雄
授業概要	英語圏における留学に必要なTOEFLのスコアを上げるための訓練を行い、英語を通して幅広くコミュニケーションが出来る能力を身につける。この訓練はTOEICのスコア向上と、大学院進学の英語受験の準備にも役立つ。TOEFL（PBT）に必要なListening ComprehensionとReading Comprehension の力をつけるための訓練をする。さらにe-learningによるALC NetAcademy2を用いて、授業時間外においても自主的に自己学習が出来るように授業をすすめる。
到達目標	英語Ⅰ～Ⅳで修得した知識の活性化と定着をはかり、国際社会に生きる教養人にふさわしいコミュニケーションの総合的な学力の深化を目標とする。スコアは前期（VA）の授業最終日には500点突破を目標とし、さらに、後期（VB）において、前期から引き続き受講する学生や、英語圏留学等を考えている学生は、入学審査を受ける資格を得る標準的ライン（550点）を目指してもらいたい。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業中配布する。
成績評価	ソングリスニング20％　宿題30％　小テストと試験50％

科目名	英語ＶＡ（異文化受容伝達コース）（金2限）
担当教員	小栗　裕子
授業概要	このクラスはリスニング力向上を目指し、近い将来海外旅行をしたい、TOEICを受験したい、英語は得意ではないが好きだという学習者に焦点を当てたコースです。教材は英・米・豪・加の異なった「英語」のリスニングが中心で、海外旅行で遭遇する場面でそのまま使える会話表現がふんだんに盛り込まれています。‘World Englishes’と言われる今日、いろいろな国の英語に触れながら、異文化コミュニケーションについても考えてみたいと思います。
到達目標	英語Ⅰ－Ⅳで習得した知識の活性化と定着をはかり、国際社会で生きる教養人にふさわしいコミュニケーションの総合的な学力の深化を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Roger Palmer & Graemae Todd.　Listen to the World.　桐原書店
成績評価	授業での発表　80％、課題　20％

科目名	英語ＶＢ（異文化受容伝達コース）（月2限）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Discussions Strategies. This course will introduce students to skills to become active participants in discussions. Students will be exposed to the process and principles needed to become confident speakers. Students will work in small groups to facilitate the use of English in the classroom. Students will be required to be active participants in each weekly discussion and give a number of small group presentations.
到達目標	Students will be able to participate in a number of different types of discussions, apply basic discussion principles and develop the vocabulary and strategies to become confident speakers.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Discussion: Process and Principles by LaBeau & Harrington
成績評価	Presentation 50%, Participation in Class 50%

科目名	英語ＶＢ（異文化受容伝達コース）（火3限）
担当教員	ウォルター・クリンガー
授業概要	We will read aloud the dialogue and watch the movie Casablanca (1942) and discuss themes and topics of the movie. Students will perform selected scenes, and write about topics from the movie.
到達目標	Students will develop confidence in their English listening and speaking skills, increase their vocabulary, improve their writing technique, and gain knowledge and understanding of American social history.
テキスト 指定図書 参考書	http://www.ice.usp.ac.jp/~wklinger/ からdownloadしてください
成績評価	Dialogue Performance 50%, Research Presentation 50%.

科目名	英語ＶＢ（異文化受容伝達コース）（金2限）
担当教員	小栗　裕子
授業概要	このクラスはリスニング力向上を目指す。海外の文化や生活習慣に関する内容を聞き取りながらそのデータを分析し、日本社会について考察したい。将来国際社会で活躍したい、留学・ホームスティをしたい、TOEICで高得点を目指したい、異文化に興味があるという学習者を対象としています。
到達目標	英語Ｉ－Ⅳで習得した知識の活性化と定着をはかり、国際社会で生きる教養人にふさわしいコミュニケーションの総合的な学力の深化を目標をする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:Cubic Listening-Closing the Culture Gap.2nd edition: Timothy Kiggell & Kevin Cleary, Macmillan Languagehouse.
成績評価	授業での発表　80%、課題　20%

科目名	英語ＶＢ（異文化受容伝達コース）（水2限）
担当教員	石田　法雄
授業概要	英語圏における留学に必要なTOEFLのスコアを上げるための訓練を行い、英語を通して幅広くコミュニケーションが出来る能力を身につける。この訓練はTOEICのスコア向上と、大学院進学の英語受験の準備にも役立つ。TOEFL（PBT）に必要なListening ComprehensionとReading Comprehension の力をつけるための訓練をする。さらにe-learningによるALC NetAcademy2を用いて、授業時間外においても自主的に自己学習が出来るように授業をすすめる。
到達目標	英語Ⅰ～Ⅳで修得した知識の活性化と定着をはかり、国際社会に生きる教養人にふさわしいコミュニケーションの総合的な学力の深化を目標とする。スコアは前期（VA）の授業最終日には500点突破を目標とし、さらに、後期（VB）において、前期から引き続き受講する学生や、英語圏留学等を考えている学生は、入学審査を受ける資格を得る標準的ライン（550点）を目指してもらいたい。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業中配布する。
成績評価	ソングリスニング20％　宿題30％　小テストと試験50％

科目名	英語ＶＢ（異文化受容伝達コース）（月3限）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Presentations in English. This course will introduce students to skills needed to give presentations. Students will be exposed to the process and principles needed to become confident public speakers. Students will work in small groups to facilitate the use of English in the classroom. Students will be required to be active participants in each weekly discussion and give a number of small presentations as well as one final presentation.
到達目標	The skills learned in this class will allow students to create and give effective presentations.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Speaking of Speech: New Edition by Harrington & LeBeau
成績評価	Presentation 50%, Participation in Class 50%

科目名	英語ⅥＡ（異文化受容伝達コース）（月4限）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Debating Strategies. This course will introduce students to skills to become active participants in debates. Students will be exposed to the process and principles needed to become confident speakers. Students will work in small groups to facilitate the use of English in the classroom. Students will be required to be active participants in each weekly discussions and a number of debates.
到達目標	Students will be able to recognize different types of debates, use reasons for explaining their opinions, use evidence to support opinions critically, evaluate reasons and evidence and apply these skills within a debate format.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Discover Debate by Lubetsky, LeBeau & Harrington
成績評価	Debates 50%, Weekly Participation in Class 40% Assignments 10%

科目名	英語ⅥＡ（異文化受容伝達コース）（木1限）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	このクラスでは、2006年に公開された映画、『プラダを着た悪魔』のスクリプトを読む。この映画は、ジャーナリスト志望の主人公が、ファッション業界で働くというラブコメディーである。この授業を通して、英文を精読するだけではなく、アメリカの文化や言葉に隠された意味、皮肉などを理解できるようになり、また、最終的には、字幕なしで本映画を理解することができるようになる。 映画でリスニング力とスクリプトで読解力を養うことで、TOEICの高得点取得に繋がる英語力の養成を目的とする。
到達目標	アメリカの文化や言葉に隠された意味、皮肉などを理解できるようになり、また、最終的には、字幕なしで本映画を理解することができるようになる。 映画でリスニング力とスクリプトで読解力を養うことで、TOEICの高得点取得に繋がる英語力の養成を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	Aline Brosh McKenna『The Devil Wears Prada』(松柏社) ISBN:978881986363
成績評価	予習と各回の発表　50% 期末試験　50% なお、授業全体の70%以上の出席を単位認定の必須条件とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	英語ⅥＢ（異文化受容伝達コース）（月4限）
担当教員	カール・ヘッドバーグ
授業概要	Debating Strategies. This course will introduce students to skills to become active participants in debates. Students will be exposed to the process and principles needed to become confident speakers. Students will work in small groups to facilitate the use of English in the classroom. Students will be required to be active participants in each weekly discussions and a number of debates.
到達目標	Students will be able to recognize different types of debates, use reasons for explaining their opinions, use evidence to support opinions critically, evaluate reasons and evidence and apply these skills within a debate format.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Discover Debate by Lubetsky, LeBeau & Harrington
成績評価	Debates 50%, Weekly Participation in Class 40% Assignments 10%

科目名	英語ⅥＢ（異文化受容伝達コース）（木1限）
担当教員	瀬本　阿矢
授業概要	このクラスでは、2006年に公開された映画、『プラダを着た悪魔』のスクリプトを読む。この映画は、ジャーナリスト志望の主人公が、ファッション業界で働くというラブコメディーである。この授業を通して、英文を精読するだけではなく、アメリカの文化や言葉に隠された意味、皮肉などを理解できるようになり、また、最終的には、字幕なしで本映画を理解することができるようになる。 映画でリスニング力とスクリプトで読解力を養うことで、TOEICの高得点取得に繋がる英語力の養成を目的とする。
到達目標	アメリカの文化や言葉に隠された意味、皮肉などを理解できるようになり、また、最終的には、字幕なしで本映画を理解することができるようになる。 映画でリスニング力とスクリプトで読解力を養うことで、TOEICの高得点取得に繋がる英語力の養成を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	Aline Brosh McKenna『The Devil Wears Prada』(松柏社) ISBN:978881986363
成績評価	予習と各回の発表　50% 期末試験　50% なお、授業全体の70%以上の出席を単位認定の必須条件とする。また、遅刻3回で1回欠席扱いとする。

科目名	初習英語Ⅰ
担当教員	上村　盛人
授業概要	英語の構文の仕組みや文法などの知識を基礎から整理して学び、英語を読み、聴き取る力をつけると同時に、さらに話すことや書くことの訓練も行う。さらに、ポップソングなどを取り上げ、理解度をチェックしたり、よく使われるイデオムを覚えたりする。
到達目標	英語を初めて習得しようとする留学生には、別にアルファベットの読み方、書き方からはじめ、簡単な文法を習得できるようにする。そして、文章の読み書きの練習を行う。さらに、簡単な英語での自己紹介ができるような練習をする。リスニングとリーディングの訓練は、状況を判断しながら取り入れる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：隈部直光、「英文法基礎精選問題集、改訂版」（開拓社）
成績評価	前期課題30％　後期課題30％　小テスト20％　プレゼンテーション　20％

科目名	初習英語Ⅱ
担当教員	石田　法雄
授業概要	ポップソングを楽しみながら英語のリスニングと文章の読解力を高め、英文の自然暗記が出来るよう授業を進める。ポップソングを取り上げ、そのリスニング、歌にまつわる知られざるエピソードを読み、理解度をチェックしたり歌詞に出てくるよく使われるイデオムを覚えたりする。授業の予習以外にエピソードの一部を10回書き写すという宿題を毎回課し、英文が自然に暗記出来る学習をする。また、学生の能力に応じてe-learningによるALC NetAcademy2を取り入れた授業を定期的におこないTOEICの向上に役立てる。或いは、基礎的な文法（他動詞、自動詞）の解説を頻繁に取り入れたりする。
到達目標	英語を初めて習得しようとする留学生には、別にアルファベットの読み方、書き方からはじめ、簡単な文法を習得し、文章の読み書きの練習を行い、簡単な英語での自己紹介が出来るような練習をする。さらに、e-learningによるALC NetAcademyを用いて、学生が授業時間外においても自主的に自己学習が出来るように授業をすすめ、基礎的な英語力を身につけることを到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	教材は、授業中配布する。
成績評価	ソングリスニング20％　宿題20％　小テスト50％　e-learning10％

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級コース）（水2限）
担当教員	竹内　一高※
授業概要	会話を中心に、文法的な項目の確認もしながらドイツ語のフレーズを言えるよう、毎回少しずつ練習を重ねていきます。また文化紹介と題して、ドイツ語圏についてさまざまなテーマを設定して、日本とは異なる(あるいは似ている)部分の認識を促します。これらの活動を通して、新しいことにチャレンジしよう・知ろうとする意欲、そして「もう一つの」「新しい」外国語を学ぶ楽しさを伝えていきたいです。
テキスト 指定図書 参考書	ドイツ語の会話表現から初級文法の知識を得て、今度はそれを自分で実際に使ってみることで「外国語で話す」ことに慣れましょう。また授業内レポートの作成を通して、内容を大まかに捉え、あるいは画像・映像を文字化・文章化することで表現力も養えます。
テキスト 指定図書 参考書	岩川直子、野内清香『イメージするドイツ語』(朝日出版社、2010年)定価2500円(税抜) また自作プリントも使用します。授業内で適宜配布します。
成績評価	口述試験60～70% 小テストや課題レポート30～40% 出席状況は減点法にて総合評価を行います。

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	吉村　淳一
授業概要	外国語や異文化について学ぶことは、相手の立場に立つ手段を得ることであり、また母語や自国の文化への理解を深めることにも通じる。使いこなせる言語の数が増えれば、自分自身の世界も広がる。外国語を習得するためには、文法や語彙を学び、実際にそれらを使って表現してみる必要がある。この授業では、特に「話す」、「聞く」力に重点を置き、ペア練習、グループ練習、個人指導により、楽しんで文法を学べるように配慮する。また、視聴覚教材や実物教材を使って文化紹介をする。
到達目標	発音、語順、動詞(現在人称変化、話法の助動詞、分離動詞)、名詞類(性・数・格)、冠詞についての文法的な知識を習得する。単文レベルの簡単な会話ができることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:岩川直子・野内清香『イメージするドイツ語』(朝日出版社)。ISBN:978-4-255-25332-9. ただし、主としてプリントで授業を行う。
成績評価	小テスト、課題、会話の練習(40%)と定期試験(60%)の成績により評価する。

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	竹内　一高※
授業概要	会話を中心に、文法的な項目の確認もしながらドイツ語のフレーズを言えるよう、毎回少しずつ練習を重ねていきます。また文化紹介と題して、ドイツ語圏についてさまざまなテーマを設定して、日本とは異なる(あるいは似ている)部分の認識を促します。これらの活動を通して、新しいことにチャレンジしよう・知ろうとする意欲、そして「もう一つの」「新しい」外国語を学ぶ楽しさを伝えていきたいです。
到達目標	ドイツ語の会話表現から初級文法の知識を得て、今度はそれを自分で実際に使ってみることで「外国語で話す」ことに慣れましょう。また授業内レポートの作成を通して、内容を大まかに捉え、あるいは画像・映像を文字化・文章化することで表現力も養えます。
テキスト 指定図書 参考書	岩川直子、野内清香『イメージするドイツ語』(朝日出版社、2010年)定価2500円(税抜) また自作プリントも使用します。授業内で適宜配布します。
成績評価	口述試験60～70% 小テストや課題レポート30～40% 出席状況は減点法にて総合評価を行います。

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級コース）（水4限）
担当教員	吉村　淳一
授業概要	外国語や異文化について学ぶことは、相手の立場に立つ手段を得ることであり、また母語や自国の文化への理解を深めることにも通じる。使いこなせる言語の数が増えれば、自分自身の世界も広がる。外国語を習得するためには、文法や語彙を学び、実際にそれらを使って表現してみる必要がある。この授業では、特に「話す」、「聞く」力に重点を置き、ペア練習、グループ練習、個人指導により、楽しんで文法を学べるように配慮する。また、視聴覚教材や実物教材を使って文化紹介をする。
到達目標	発音、語順、動詞（現在人称変化、話法の助動詞、分離動詞）、名詞類（性・数・格）、冠詞についての文法的な知識を習得する。単文レベルの簡単な会話ができることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：岩川直子・野内清香『イメージするドイツ語』（朝日出版社）。ISBN:978-4-255-25332-9. ただし、主としてプリントで授業を行う。
成績評価	小テスト、課題、会話の練習（40％）と定期試験（60％）の成績により評価する。

科目名	ドイツ語Ⅰ（初級コース）（水4限）
担当教員	竹内　一高※
授業概要	会話を中心に、文法的な項目の確認もしながらドイツ語のフレーズを言えるよう、毎回少しずつ練習を重ねていきます。また文化紹介と題して、ドイツ語圏についてさまざまなテーマを設定して、日本とは異なる（あるいは似ている）部分の認識を促します。これらの活動を通して、新しいことにチャレンジしよう・知ろうとする意欲、そして「もう一つの」「新しい」外国語を学ぶ楽しさを伝えていきたいです。
到達目標	ドイツ語の会話表現から初級文法の知識を得て、今度はそれを自分で実際に使ってみることで「外国語で話す」ことに慣れましょう。また授業内レポートの作成を通して、内容を大まかに捉え、あるいは画像・映像を文字化・文章化することで表現力も養えます。
テキスト 指定図書 参考書	岩川直子、野内清香『イメージするドイツ語』（朝日出版社、2010年）定価2500円（税抜） また自作プリントも使用します。授業内で適宜配布します。
成績評価	口述試験60～70％ 小テストや課題レポート30～40％ 出席状況は減点法にて総合評価を行います。

科目名	ドイツ語Ⅱ（中級コース）（火1限）
担当教員	吉村　淳一
授業概要	ドイツ語Ⅰで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な会話の練習をする。またドイツ語で書かれた短い文章を読み、読解力を身につける。その際、教科書のテーマに沿って、視聴覚教材、実物教材、プリント等を用意し、ドイツ文化の知識を深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、音読および訳出の練習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。
到達目標	ZU-不定詞、現在完了形、過去形、形容詞の変化、受動態、関係代名詞、接続法などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすことを目標とし、話し言葉では比較的難しい会話表現を習得することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：森田悟・宮澤義臣・川上博子『すすめ！アンペルマン―合い言葉はエストテンテン(Deutsch Lernen mit dem Ampelmann)』（朝日出版社） ISBN: 978-4-255-25346-6
成績評価	読解練習の担当および小テスト、課題、会話の練習（40％）と定期試験（60％）の成績により評価する。

科目名	ドイツ語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	大森　智子※
授業概要	ドイツ語Ⅰで学習した初級文法を復習しながら、中級レベルの文法事項も学んでいく。その際、簡単な会話練習に加えて、短い読み物を精読する機会を多く取り入れる。この作業を通じて文法事項の定着を図り、読む力を身に付けることを目指す。また、視聴覚資料や実物資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も設ける。授業の予習・復習を含めた積極的な学習姿勢が求められる。
到達目標	①未知の単語でも、綴りを見て正しく発音できる。 ②初級から中級レベルのドイツ語文法を体系的に理解する。 ③簡単な日常会話の表現を習得する。 ④辞書を使って、比較的易しいドイツ語のテキストが読める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著『クロイツング・ネオ』（朝日出版社）を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。
成績評価	小テスト・課題（50%）および定期試験（50%）の成績により評価する。

科目名	ドイツ語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	吉村　淳一
授業概要	ドイツ語Ⅰで習得した基礎文法を復習しながら、さらに高度な会話の練習をする。またドイツ語で書かれた短い文章を読み、読解力を身につける。その際、教科書のテーマに沿って、視聴覚教材、実物教材、プリント等を用意し、ドイツ文化の知識を深めるように努める。授業の進め方に関して言えば、前回の復習、音読および訳出の練習、文法事項の確認、会話の練習（プリント教材）、習熟度に応じて小テストなどを行う。
到達目標	ZU-不定詞、現在完了形、過去形、形容詞の変化、受動態、関係代名詞、接続法などの文法の知識を身につける。書き言葉では、辞書を使って平易な文章を読みこなすことを目標とし、話し言葉では比較的難しい会話表現を習得することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：森田悟・宮澤義臣・川上博子『すすめ！アンペルマン―合い言葉はエストテンテン(Deutsch Lernen mit dem Ampelmann)』（朝日出版社） ISBN: 978-4-255-25346-6
成績評価	読解練習の担当および小テスト、課題、会話の練習（40％）と定期試験（60％）の成績により評価する。

科目名	ドイツ語Ⅱ（中級コース）（火3限）
担当教員	大森　智子※
授業概要	ドイツ語Ⅰで学習した初級文法を復習しながら、中級レベルの文法事項も学んでいく。その際、簡単な会話練習に加えて、短い読み物を精読する機会を多く取り入れる。この作業を通じて文法事項の定着を図り、読む力を身に付けることを目指す。また、視聴覚資料や実物資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も設ける。授業の予習・復習を含めた積極的な学習姿勢が求められる。
到達目標	①未知の単語でも、綴りを見て正しく発音できる。 ②初級から中級レベルのドイツ語文法を体系的に理解する。 ③簡単な日常会話の表現を習得する。 ④辞書を使って、比較的易しいドイツ語のテキストが読める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著『クロイツング・ネオ』（朝日出版社）を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。
成績評価	小テスト・課題（50%）および定期試験（50%）の成績により評価する。

科目名	ドイツ語Ⅱ（中級コース）（火4限）
担当教員	大森　智子※
授業概要	ドイツ語Ⅰで学習した初級文法を復習しながら、中級レベルの文法事項も学んでいく。その際、簡単な会話練習に加えて、短い読み物を精読する機会を多く取り入れる。この作業を通じて文法事項の定着を図り、読む力を身に付けることを目指す。また、視聴覚資料や実物資料を用いたドイツ語圏の文化紹介の時間も設ける。授業の予習・復習を含めた積極的な学習姿勢が求められる。
到達目標	①未知の単語でも、綴りを見て正しく発音できる。 ②初級から中級レベルのドイツ語文法を体系的に理解する。 ③簡単な日常会話の表現を習得する。 ④辞書を使って、比較的易しいドイツ語のテキストが読める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著『クロイツング・ネオ』（朝日出版社）を使用する。プリントも適宜配布するので、ファイルすること。
成績評価	小テスト・課題（50%）および定期試験（50%）の成績により評価する。

科目名	ドイツ語ⅢＡ（上級コース）
担当教員	吉村　淳一
授業概要	ドイツ語Ⅲでは、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで身につけた文法や語彙の知識を利用し、主としてドイツ語の文章を精読する力を養う。ドイツ語ⅢＡ（前期）ではクラウス・バウムガルトの作品『ラウラが学校へ行く(Laura kommt in die Schule)』（絵本）を扱い、比較的平易な長文の読解をめざす。その他にも①実物教材を使用して文化紹介をし、②プリントを配布して文法の強化をする。また履修者の要望に応じて会話練習も行う。
到達目標	語彙数を増やすこと、文法の応用力と長文読解力を高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Klaus Baumgart著　Laura kommt in die Schule.（履修者数が確定した後に、ドイツに必要冊数分を発注する。届くまではプリントを配布する）。
成績評価	毎回の読解練習（100％）によって評価する。

科目名	ドイツ語ⅢＢ（上級コース）
担当教員	吉村　淳一
授業概要	ドイツ語Ⅲでは、ドイツ語Ⅰ、Ⅱで身につけた文法や語彙の知識を利用し、主としてドイツ語の文章を精読する力を養う。ドイツ語ⅢＢ（後期）ではアクセル・ハッケの作品『日曜日という名前のクマ(Ein Bär namens Sonntag)』（ミヒャエル・ゾーヴァ絵）を扱い、長文読解の練習をする。前半は精読することで文法の復習をし、後半は速読の練習をする。その他にも①実物教材を使用して文化紹介をし、②プリントを配布して文法の強化をする。また履修者の要望に応じて会話練習も行う。
到達目標	語彙数を増やすこと、文法の応用力と長文読解力を高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：Axel Hacke著 Ein Bär namens Sonntag.（履修者数が確定した後に、ドイツに必要冊数分を発注する。届くまではプリントを配布する）。
成績評価	毎回の読解練習（100％）によって評価する。

科目名	フランス語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	長島　律子
授業概要	フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。
到達目標	「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:アミカルマン〈ビス〉　澤田　直之　他著　駿河台出版社 指定図書:辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。 参考書:同上。
成績評価	定期試験50%、小テストと課題50%。

科目名	フランス語Ⅰ（初級コース）（水2限）
担当教員	長島　律子
授業概要	フランス語への導入と基礎の習得。フランス語は、非常によく整った精緻な文法を備えた言語であり、文法の習得は学習上必要不可欠な要素であるが、所謂文法の規則を覚えることにとどまらず、実際に生きた言語を体得する過程で、使える文法としてこれを身に付ける。
到達目標	「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、最も基本的なコミュニケーションが行なえるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:アミカルマン〈ビス〉　澤田　直之　他著　駿河台出版社 指定図書:辞書については最初の授業時に指示するので、それまでは購入しないこと。 参考書:同上。
成績評価	定期試験50%、小テストと課題50%。

科目名	フランス語Ⅰ（初級コース）（水2限）
担当教員	宇多　直久※
授業概要	フランス語文法の初級を学ぶ。発音のしかたからスタートして、名詞にかかわることと、動詞にかかわることを体系的に勉強する。授業は実地のレッスンでもあるので、発音練習と文法問題練習を授業中におこなう。オーディオ機器を使う。家庭で和訳をして学校で答え合わせをする。
到達目標	辞書を使って、やさしい仏文が読めるだけの学力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:未定　指定する教科書を生協で購入して持参。辞書は初回に紹介と解説。
成績評価	小テストおよび定期試験の全体で評価する。少テスト未受験者は宿題レポートを評価の対象とする。

科目名	フランス語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	宇多　直久※
授業概要	フランス語文法の初級を学ぶ。発音のしかたからスタートして、名詞にかかわることと、動詞にかかわることを体系的に勉強する。授業は実地のレッスンでもあるので、発音練習と文法問題練習を授業中におこなう。オーディオ機器を使う。家庭で和訳をして学校で答え合わせをする。
到達目標	辞書を使って、やさしい仏文が読めるだけの学力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:未定　指定する教科書を生協で購入して持参。辞書は初回に紹介と解説。
成績評価	小テストおよび定期試験の全体で評価する。少テスト未受験者は宿題レポートを評価の対象とする。

科目名	フランス語Ⅰ（初級コース）（水4限）
担当教員	宇多　直久※
授業概要	フランス語文法の初級を学ぶ。発音のしかたからスタートして、名詞にかかわることと、動詞にかかわることを体系的に勉強する。授業は実地のレッスンでもあるので、発音練習と文法問題練習を授業中におこなう。オーディオ機器を使う。家庭で和訳をして学校で答え合わせをする。
到達目標	辞書を使って、やさしい仏文が読めるだけの学力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	未定　指定する教科書を生協で購入して持参。辞書は初回に紹介と解説。
成績評価	小テストおよび定期試験の全体で評価する。少テスト未受験者は宿題レポートを評価の対象とする。

科目名	フランス語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	長島　律子
授業概要	フランス語の基礎能力の定着と、中級に向けての展開。フランス語Iで学んだ文法、語法、語彙を補填し、より高度な表現力を身につける。
到達目標	「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、簡単なコミュニケーションが行なえるようになることを目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『続・小さなコント』(Petits Contes II)　Liliane Lattanzio・村松定史著　駿河台出版社 指定図書、参考書:授業中に指示する。
成績評価	定期試験50%、課題と小テスト50%。

科目名	フランス語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	桂川　久※
授業概要	中級から上級への橋渡しとして，フランス語能力全般（聞く・話す・読む・書く）を向上させることを目標とする．「授業計画」において一応のプランは提示するが，教育上の配慮から進度や内容が変更されることもある．
到達目標	特に実用面では，文部科学省後援実用フランス語技能検定試験の4級に合格できる程度のレベルに到達することを目指す．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：新レ・ランコントル2（第三書房） 参考書：仏和辞典（授業に必ず持参すること）
成績評価	宿題と，2度の中間試験（＝到達確認テスト），2度の期末試験で，だいたい2対3対5の割合で評価する．ただし授業時間数の3分の1以上欠席した学生は評価の対象にしない．

科目名	フランス語Ⅱ（中級コース）（火3限）
担当教員	桂川　久※
授業概要	中級から上級への橋渡しとして，フランス語能力全般（聞く・話す・読む・書く）を向上させることを目標とする．「授業計画」において一応のプランは提示するが，学生の能力や意欲を考慮し，教育上の配慮から進度や内容が変更されることもある．
到達目標	特に実用面では，文部科学省後援実用フランス語技能検定試験の4級に合格できる程度のレベルに到達することを目指す．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：彼女は食いしん坊！2（朝日出版） 参考書：仏和辞典（授業に必ず持参すること）
成績評価	宿題と，2度の中間試験（＝到達確認テスト），2度の期末試験で，だいたい2対3対5の割合で評価する．ただし授業時間数の3分の1以上欠席した学生は評価の対象にしない．

科目名	フランス語Ⅱ（中級コース）（火1限）
担当教員	長島　律子
授業概要	フランス語の基礎能力の定着と、中級に向けての展開。フランス語Iで学んだ文法、語法、語彙を補填し、より高度な表現力を身につける。
到達目標	「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の、すべての面において、日常遭遇する可能性の高い様々な状況で、簡単なコミュニケーションが行なえるようになることを目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『続・小さなコント』(Petits Contes II)　Liliane Lattanzio・村松定史著　駿河台出版社 指定図書、参考書：授業中に指示する。
成績評価	定期試験50％、課題と小テスト50％。

科目名	フランス語Ⅱ（中級コース）（火4限）
担当教員	桂川　久※
授業概要	中級から上級への橋渡しとして，フランス語能力全般（聞く・話す・読む・書く）を向上させることを目標とする．また語学のみならず，フランス文化の紹介にも配慮した授業を行いたい．「授業計画」において一応のプランは提示するが，学生の能力や意欲を考慮し，教育上の配慮から進度や内容が変更されることもある．
到達目標	特に実用面では，文部科学省後援実用フランス語技能検定試験の4級に合格できる程度のレベルに到達することを目指す．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：新レ・ランコントル2（第三書房） 参考書：仏和辞典（授業に必ず持参すること）
成績評価	宿題と，2度の中間試験（＝到達確認テスト），2度の期末試験で，だいたい2対3対5の割合で評価する．ただし授業時間数の3分の1以上欠席した学生は評価の対象にしない．

科目名	フランス語ⅢＡ（上級コース）
担当教員	長島　律子
授業概要	中級フランス語とフランス文化理解。実際の新聞雑誌記事、文学作品、論文、テレビニュース、映画などを教材として、様々な状況で使用される言語と、その背景にある文化を学ぶ。
到達目標	多彩な様相のもとでフランス語を理解し、また、口頭、あるいは筆記で意見を述べる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント等を配布。 参考書：授業中に指示する。
成績評価	授業中の発表50％　レポート50％

科目名	フランス語ⅢＢ（上級コース）
担当教員	長島　律子
授業概要	中級フランス語とフランス文化理解。実際の新聞雑誌記事、文学作品、論文、テレビニュース、映画などを教材として、様々な状況で使用される言語と、その背景にある文化を学ぶ。
到達目標	多彩な様相のもとでフランス語を理解し、また、口頭、あるいは筆記で意見を述べる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント等を配布。 参考書：授業中に指示する。
成績評価	授業中の発表50％　レポート50％

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水1限）
担当教員	呉　凌非
授業概要	中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。
到達目標	正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非　編「大学生のための中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、　小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水1限）
担当教員	唐　楽寧※
授業概要	中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。
到達目標	正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非　編「大学生のための中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、　小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水1限）
担当教員	地蔵堂　貞二
授業概要	中国語の学習を進めるうえで必要な基礎的な文法事項をおさえつつ、会話力とリスニング力の向上に重点を置く。授業はテキストを中心に進めるが、各課ごとにプリントを配布し、様々な形式の「練習問題」及びリスニング練習を行う。
到達目標	単文の基本文型を身につけ、中国人と簡単な会話ができるようにする。中国語検定準4級レベルを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:洪潔清著『みんなで話す中国語』(白帝社) 指定図書:『新版中国語入門Q＆A101』(大修館書店)
成績評価	定期試験の成績(80%)と小テストの成績(20%)で評価する。 ただし、授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水2限）
担当教員	唐　楽寧※
授業概要	中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。
到達目標	正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非　編「大学生のための中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、　小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水2限）
担当教員	地蔵堂　貞二
授業概要	中国語の学習を進めるうえで必要な基礎的な文法事項をおさえつつ、会話力とリスニング力の向上に重点を置く。授業はテキストを中心に進めるが、各課ごとにプリントを配布し、様々な形式の「練習問題」及びリスニング練習を行う。
到達目標	単文の基本文型を身につけ、中国人と簡単な会話ができるようにする。中国語検定準4級レベルを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:洪潔清著『みんなで話す中国語』(白帝社) 指定図書:『新版中国語入門Q＆A101』(大修館書店)
成績評価	定期試験の成績(80%)と小テストの成績(20%)で評価する。ただし、授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	呉　凌非
授業概要	中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。
到達目標	正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非　編「大学生のための中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、　小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	唐　楽寧※
授業概要	中国語への導入のための基礎知識の習得をし、発音、会話、単語、基本文法を中心に、教師の説明を聞きながら、考えたり、書き込んだりして、教師と一体になって授業を進めていく。
到達目標	正しく中国語の発音ができ、基本文法と簡単な日常会話ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非　編「大学生のための中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、　小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	地蔵堂　貞二
授業概要	中国語の学習を進めるうえで必要な基礎的な文法事項をおさえつつ、会話力とリスニング力の向上に重点を置く。授業はテキストを中心に進めるが、各課ごとにプリントを配布し、様々な形式の「練習問題」及びリスニング練習を行う。
到達目標	単文の基本文型を身につけ、中国人と簡単な会話ができるようにする。中国語検定準4級レベルを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:洪潔清著『みんなで話す中国語』(白帝社) 指定図書:『新版中国語入門Q＆A101』(大修館書店)
成績評価	定期試験の成績(80%)と小テストの成績(20%)で評価する。ただし、授業数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火1限）
担当教員	呉　凌非
授業概要	中国語Ⅰにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。
到達目標	中国語の一定の読解能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非「ジョイフル中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、　小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火1限）
担当教員	地蔵堂　貞二
授業概要	中国語Ⅰの単位を取得した学生を対象に、テキストに沿って、既習の文法知識（基本文型）を復習・整理しながら、大量の練習問題をこなすことで、初級中国語から中級中国語へと導入する。
到達目標	簡単なコミュニィケーションがはかれる能力を培います。中国語検定試験でいえば、 4級レベルを目指します。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:郭春貴他著『初級から中級へ中国語作文-改訂版-』(白帝社) 参考書:『中国語教室Q＆A101』(大修館書店)
成績評価	定期試験の成績（80％）と小テストの成績（20％）で評価する。ただし、3分の1以上欠席した者は評価の対象としない。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	地蔵堂　貞二
授業概要	中国語Ⅰの単位を取得した学生を対象に、テキストに沿って、既習の文法知識（基本文型）を復習・整理しながら、大量の練習問題をこなすことで、初級中国語から中級中国語へと導入します。
到達目標	簡単なコミュニィケーションがはかれる能力を培います。中国語検定試験でいえば、 4級レベルを目指します。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:郭春貴他著『初級から中級へ中国語作文-改訂版-』(白帝社) 参考書:『中国語学習Q＆A101』(大修館書店)『中国語教室Q＆A101』(大修館書店)
成績評価	定期試験の成績（60％）と小テストの成績（40％）で評価します。ただし、3分の1以上欠席した者は評価の対象としない。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	板橋　凱希※
授業概要	中国語Ⅰにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。
到達目標	中国語の一定の読解能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非 「ジョイフル中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典 （隆美出版）
成績評価	試験成績　70％、 小テスト・宿題・レポート　30％　で評価する。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	呉　凌非
授業概要	中国語Ⅰにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。
到達目標	中国語の一定の読解能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非 「ジョイフル中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、 小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火3限）
担当教員	板橋　凱希※
授業概要	中国語Ⅰにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。
到達目標	中国語の一定の読解能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非 「ジョイフル中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、 小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火4限）
担当教員	呉　凌非
授業概要	中国語Ⅰにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。
到達目標	中国語の一定の読解能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非 「ジョイフル中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、 小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	中国語Ⅱ（中級コース）（火4限）
担当教員	板橋　凱希※
授業概要	中国語Ⅰにおいて習得した基礎知識を生かして、日本語と比較しながら、中国語文章の読解力を高めていく。同時に、中国の文化、自然、人情などについて映像を取り入れて紹介する。
到達目標	中国語の一定の読解能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:呉　凌非 「ジョイフル中国語」（郁文堂） 参考書:辞書　最新中国語実用辞典（隆美出版）
成績評価	試験成績　70%、 小テスト・宿題・レポート　30%　で評価する。

科目名	朝鮮語Ⅰ（初級コース）（水2限）
担当教員	呉　賢欄※
授業概要	・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。 ・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。
到達目標	朝鮮語で簡単な会話ができるようになることが目標です。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:木内明、『基礎から学ぶ韓国語講座　初級』（国書刊行会） 参考書:『パスポート朝鮮語小辞典　朝和＋和朝』（白水社）
成績評価	定期試験60%、宿題・小試験20%、プレゼンテーション10%、ライティング5%、ライティング課題5%。 通年開講の授業ですが、前期、後期それぞれ3分の1以上欠席した者には単位認定を行いません。

科目名	朝鮮語Ⅰ（初級コース）（水3限）
担当教員	呉　賢欄※
授業概要	・文字を覚え、覚えた文字を活用しながら、必要な文法を学びます。 ・繰り返し練習しながら学習事項の定着をはかり、次年度以降の勉強につなげます。
到達目標	朝鮮語で簡単な会話ができるようになることが目標です。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:木内明、『基礎から学ぶ韓国語講座　初級』（国書刊行会） 参考書:『パスポート朝鮮語小辞典　朝和＋和朝』（白水社）
成績評価	定期試験60%、宿題・小試験20%、プレゼンテーション10%、ライティング5%、ライティング課題5%。 通年開講の授業ですが、前期、後期それぞれ3分の1以上欠席した者には単位認定を行いません。

科目名	朝鮮語Ⅱ（中級コース）（火2限）
担当教員	崔　眞善※
授業概要	「朝鮮語Ⅰ」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。
到達目標	簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:レベルテストの後、選定する予定 参考書　:韓日、日韓辞典
成績評価	毎回のライティング課題の提出・授業中会話練習の評価 30%、 テスト40%、 小テスト30%

科目名	朝鮮語Ⅱ（中級コース）（火3限）
担当教員	崔　眞善※
授業概要	「朝鮮語Ⅰ」で学習したことを基本として、より韓国・朝鮮語らしい表現、より複雑な表現を学ぶ。文化的な事柄に関する知識に基づいて日常会話で使える定型の表現パターンを練習する。実際のコミュニケーションに適用できる発音練習や文法の習得に中点を置く。
到達目標	簡単な会話が可能になるように読み、書きの練習をすることで、中級のレベルの会話力や表現力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:レベルテストの後、選定する予定 参考書　:韓日、日韓辞典
成績評価	毎回のライティング課題の提出・授業中会話練習の評価 30%、 テスト40%、 小テスト30%

科目名	初習日本語Ⅰ
担当教員	谷　佳寿美※
授業概要	日本語未習の学生が、初級レベルの基礎的な語彙、文型、表現を学ぶ。また、ひらがな・カタカナ・基本的な漢字(「日本語能力試験N4」レベル)の使い方を学ぶ。
到達目標	(1)初級レベルの語彙・文型を習得し、運用できるようにする。(2)漢字かな交じり文で簡単な作文が書けるようにする。(3)簡単な読解ができるようにする。(4)「日本語能力試験N4」レベルの力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』 参考書:適宜紹介
成績評価	中間面接試験・筆記試験30%、期末面接試験・筆記試験30%、宿題40%

科目名	初習日本語Ⅱ
担当教員	富川　和代※
授業概要	日本語未習の学生、初級の復習を希望する学生が、日本で生活するのに必要なコミュニケーションの方法を学ぶ。できるだけ実際の会話場面に近い状況を設定し、実際と同様に考えながら会話を進められるようにする。
到達目標	(1)大学生活を中心とした日常会話が円滑に出来るようにする。 (2)日本語の自然な発音ができるようにする。 (3)「日本語能力試験N4」レベルの聴解能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『留学生のための初級にほんご会話Ⅰ』、聴解についてはプリントを配布する。
成績評価	中間面接試験・筆記試験30%、期末面接試験・筆記試験30%、宿題40%

科目名	日本語Ⅰ
担当教員	谷　佳寿美※
授業概要	初習日本語で学んだ基礎項目を復習しながら、日本の大学で学ぶために必要な4技能のバランスがとれた日本語能力を養う。日常会話を練習し、初習日本語より自然で円滑なコミュニケーションの方法を身につける。
到達目標	(1)日本の大学の授業が理解できるように「聴解」の力をつける。(2)レポートが書けるように読解・作文の力をつける。(3)初級より複雑な、目的に合った日本語を運用できるようにする。(4)自分の考えを話せるように、談話能力をつける。(5)「日本語検定5級」レベルと「日本語能力試験N3」レベルの力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『みんなの日本語中級Ⅰ』『みんなの日本語中級Ⅱ』 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	中間面接試験・筆記試験30%　期末面接試験・筆記試験30%　宿題40%

科目名	日本語Ⅱ
担当教員	谷　佳寿美※
授業概要	日本語Ⅰに続き、バランスのとれた日本語運用能力を高め、まとめる力、書く力、発表する力を身につける。また口頭発表と本格的な討論の力をつける。そのためにテーマに即したスピーチの練習をし、討論の意義およびその種類と実施方法を学ぶ。
到達目標	(1)まとめる力・書く力を磨く。 (2)発表の力を養う。 (3)聞く力を磨く。 (4)論点の明確化・論証・論駁の方法に慣れる。 (5)「日本語検定4級」レベルの力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業で指示する 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	中間面接試験・筆記試験30%　期末面接試験・筆記試験30%　宿題40%

科目名	日本語Ⅲ
担当教員	富川　和代※
授業概要	総合的に日本語運用能力を高める。社会人として円滑なコミュニケーションがとれるようにする。特に待遇表現について、用法、使い分け、授受表現、場面に応じた使い方など、自然な日本語表現を「誤用」を通して学ぶ。その実践例として「ビジネス日本語」「ビジネス文書」にも慣れる。
到達目標	(1)待遇表現の用法を理解する　(2)丁寧体と普通体の使い分けができるようになる　(3)「ビジネス日本語」、「ビジネス文書」に慣れる　(4)「日本語検定3級」レベルの力を付ける
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『日本語文法演習　敬語を中心とした対人関係の表現』スリーエーネットワーク 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	中間面接試験　レポート評価　レポート評価　期末筆記試験　出席率　学習態度を総合的に評価する。

科目名	日本語Ⅳ
担当教員	富川　和代※
授業概要	総合的に日本語運用能力を高める。日本語の情意表現の一つである擬音語・擬態語について学ぶ。また日本語の表現力を磨くために類義表現や慣用表現、文章の書き方を学ぶ。面接の準備・練習をする
到達目標	(1)日本語のスキルアップをはかる(2)擬音語・擬態語の用法を理解し、使えるようにする　(3)類義語の使い分け、慣用表現の意味の理解、文章の書き方のポイントの確認を通して、表現力を強化する　(4)就職・進学に必要な面接に対応できる力を付ける　(5)「日本語検定2級」レベルの力を付ける
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『擬声語・擬態語　上級』『スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳』 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	中間面接試験　レポート評価　レポート評価　期末筆記試験　出席率　学習態度を総合的に評価する。

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境ａ）
担当教員	趙　國※
授業概要	大学生活を送る上では、教育および研究におけるレポートおよび論文の作成、課外活動や就職活動にいたるまでのあらゆる場面において情報技術の活用が求められ、情報処理技術の習得は必須である。また、情報技術の普及により、著作権侵害や人権侵害などの問題が顕在化しており、技術的側面のみならず倫理的側面も合わせて習得する必要がある。このようなことから、本講義では、高年次で要求されるWWWの閲覧と活用、電子メール、文書処理などの情報技術をMS Windows環境で習得するのみならず、レポートや学術論文の作成の基本を情報倫理と合わせて習得することを目指す。
到達目標	インターネットなどを活用し、文献検索による学術図書や学術情報の検索がおこなえ、またこれらを情報倫理の面から適切に活用しレポート（学術論文）作成がおこなえること。定められた体裁に従ってレポート（学術論文）を作成し、プレゼンテーションソフトによって発表資料を作成することができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：勝木太一編「情報学」（多賀出版） 指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版） 参考書：後日、担当教員から指定する。
成績評価	小テストやレポート60%　学術情報の検索や適切な活用方法をレポート等の作成や小テストにより評価、課題40%　学術論文としての体裁が整い定められた書式に沿った学術論文の作成により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境ｂ）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	現在の日常生活においても情報化のニーズは高まり、情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること。文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること。学術論文作成のため情報をの検索し、得た情報を加工し学術論文作成に活用できること。統計処理し、プレゼンテーションソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：勝木太一編「情報学」（多賀出版）、亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版） 参考書：後日、担当教員から指定する。
成績評価	課題50%　情報ネットワークの活用と学術情報の検索および学術論文の概念と書式の理解、小テストやレポート50%　学術情報の検索によるレポート等の作成等や小テストの確認等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境c）
担当教員	趙　國※
授業概要	大学生活を送る上では、教育および研究におけるレポートおよび論文の作成、課外活動や就職活動にいたるまでのあらゆる場面において情報技術の活用が求められ、情報処理技術の習得は必須である。また、情報技術の普及により、著作権侵害や人権侵害などの問題が顕在化しており、技術的側面のみならず倫理的側面も合わせて習得する必要がある。このようなことから、本講義では、高年次で要求されるWWWの閲覧と活用、電子メール、文書処理などの情報技術をMS Windows環境で習得するのみならず、レポートや学術論文の作成の基本を情報倫理と合わせて習得することを目指す。
到達目標	インターネットなどを活用し、文献検索による学術図書や学術情報の検索がおこなえ、またこれらを情報倫理の面から適切に活用しレポート（学術論文）作成がおこなえること。定められた体裁に従ってレポート（学術論文）を作成し、プレゼンテーションソフトによって発表資料を作成することができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：勝木太一編「情報学」（多賀出版） 指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版） 参考書：後日、担当教員から指定する。
成績評価	小テストやレポート60%　学術情報の検索や適切な活用方法をレポート等の作成や小テストにより評価、課題40%　学術論文としての体裁が整い定められた書式に沿った学術論文の作成により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境d）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	現在の日常生活においても情報化のニーズは高まり、情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること。文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること。学術論文作成のため情報をの検索し、得た情報を加工し学術論文作成に活用できること。統計処理し、プレゼンテーションソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：勝木太一編「情報学」（多賀出版）、亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 指定図書：勝木太一編「情報学」（多賀出版） 参考書：後日、担当教員から指定する。
成績評価	課題50%　情報ネットワークの活用と学術情報の検索および学術論文の概念と書式の理解、小テストやレポート50%　学術情報の検索によるレポート等の作成等や小テストの確認等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（材料）
担当教員	未定
授業概要	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。
到達目標	(1)本学演習室が利用できるように環境を整えること。(2)情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。(3)電子メールによる適切な情報交換ができるようになること。(4)ワープロを用いて文書作成ができるようになること。(5)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計、解析ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：初回講義時に説明する。 指定図書：初回講義時に説明する。
成績評価	課題 100%

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（機械）
担当教員	鍵本　聡※
授業概要	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本講では今後高年次において開講される講義や演習で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つ情報処理技術、すなわちワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。
到達目標	(1)電子メールによる適切な情報交換ができるようになること。(2)ワープロを用いて文書作成ができるようになること。(3)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。(4)PowerPointで効率的なプレゼンテーションが提供できること。(5)HTMLを用いてHP作成ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：資料配布 参考書：授業内で紹介する場合がある
成績評価	課題100％（電子メール、Word、Excel、PowerPointを正しく扱えること、HTMLで簡単なHPが作成できること）

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（電子）
担当教員	宮城　茂幸
授業概要	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本講では今後高年次において開講される講義や演習で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つ情報処理技術、すなわちワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。
到達目標	(1)本学演習室が利用できるように環境を整えること。(2)情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。(3)電子メールによる適切な情報交換ができるようになること。(4)ワープロを用いて文書作成ができるようになること。(5)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:30時間アカデミック　情報リテラシーOffice2007(実教出版) 指定図書については追加情報を参照すること。
成績評価	課題 100%

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文a）
担当教員	服部　泰宏※
授業概要	情報技術の習得は日常生活に資するだけでなく、大学で学問をしていく上において、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること。文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること。学術論文作成のため論文情報を検索し、得た情報を参照して学術論文作成に活用できること。数値表をグラフ化し、文書作成ソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストにかわる講義資料を配布 指定図書:勝木太一編「情報学」(多賀出版) 参考書:後日、担当教員から指定する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（情報ネットワークの活用と学術情報の検索および論文の概念と書式，および論文の書き方の理解），課題50%（授業中の課題と期末レポートの提出）等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文b）
担当教員	森　将豪※
授業概要	情報技術の習得は日常生活に資するだけでなく，大学で学問をしていく上において，情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である．本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術，すなわち，Webブラウザの操作と活用，電子メール，文書処理などをMS Windows環境で習得する．さらに，レポートや学術論文の作成の基本を習得し，プレゼンテーションソフトなどにより，学術論文発表の手法を習得する．
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること．文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること．学術論文作成のため論文情報を検索し，得た情報を参照して学術論文作成に活用できること．数値表をグラフ化し，文書作成ソフトによって表示できること．さらに，検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストにかわる講義資料を配布 指定図書:勝木太一編「情報学」(多賀出版) 参考書:後日、担当教員から指定する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（情報ネットワークの活用と学術情報の検索および論文の概念と書式，および論文の書き方の理解），課題50%（授業中の課題と期末レポートの提出）等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文c）
担当教員	森　将豪※
授業概要	情報技術の習得は日常生活に資するだけでなく，大学で学問をしていく上において，情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術，すなわち，Webブラウザの操作と活用，電子メール，文書処理などをMS Windows環境で習得する．さらに，レポートや学術論文の作成の基本を習得し，プレゼンテーションソフトなどにより，学術論文発表の手法を習得する．
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること．文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること．学術論文作成のため論文情報を検索し，得た情報を参照して学術論文作成に活用できること．数値表をグラフ化し，文書作成ソフトによって表示できること．さらに，検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストにかわる講義資料を配布 指定図書:勝木太一編「情報学」(多賀出版) 参考書:後日、担当教員から指定する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（情報ネットワークの活用と学術情報の検索および論文の概念と書式，および論文の書き方の理解），課題50%（授業中の課題と期末レポートの提出）等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文d）
担当教員	服部　泰宏※
授業概要	情報技術の習得は日常生活に資するだけでなく、大学で学問をしていく上において、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること。文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること。学術論文作成のため論文情報を検索し、得た情報を参照して学術論文作成に活用できること。数値表をグラフ化し、文書作成ソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストにかわる講義資料を配布 指定図書:勝木太一編「情報学」(多賀出版) 参考書:後日、担当教員から指定する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（情報ネットワークの活用と学術情報の検索および論文の概念と書式，および論文の書き方の理解），課題50%（授業中の課題と期末レポートの提出）等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護a）
担当教員	中川　雅央※
授業概要	現在の日常生活においても情報化のニーズは高まり、情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠な要素である。まして、大学で学問をする上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること。文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること。学術論文作成のため情報をの検索し、得た情報を加工し学術論文作成に活用できること。統計処理し、プレゼンテーションソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業内にて提示する 指定図書:授業内にて提示する 参考書:授業内にて提示する
成績評価	課題50%　情報ネットワークの活用と学術情報の検索および学術論文の概念と書式の理解、小テストやレポート50%　学術情報の検索によるレポート等の作成等や小テストの確認等により評価

科目名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護b）
担当教員	中川　雅央※
授業概要	現在の日常生活においても情報化のニーズは高まり、情報技術の習得は我々の生活においても必要不可欠な要素である。まして、大学で学問をする上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本演習では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得する。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。
到達目標	インターネットの活用によって学術情報の検索ができること。文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること。学術論文作成のため情報をの検索し、得た情報を加工し学術論文作成に活用できること。統計処理し、プレゼンテーションソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文発表の基本を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業内にて提示する 指定図書:授業内にて提示する 参考書:授業内にて提示する
成績評価	課題50%　情報ネットワークの活用と学術情報の検索および学術論文の概念と書式の理解、小テストやレポート50%　学術情報の検索によるレポート等の作成等や小テストの確認等により評価

科目名	情報科学概論（環境ａ）
担当教員	趙　國※
授業概要	コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、学術論文作成を目指した基礎的なデータ処理がおこなえること。また、解析をおこなったデータをもとに学術論文を作成するための手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」(朝倉書店) 指定図書:亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」(朝倉書店) 参考書:後日、担当教員から通知する。
成績評価	小テストやレポート60%　表計算ソフトの利用によるデータ処理の習得を小テストおよびレポートで評価、課題40%　データ処理にもとづいた学術表現をデータ処理およびこれを活用した課題レポートの作成により評価

科目名	情報科学概論（環境b）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理の習得により、データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。またプレゼンテーションソフトによって学術論文の発表手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」(朝倉書店) 指定図書:亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」(朝倉書店) 参考書:後日、担当教員から通知する。
成績評価	課題50%　表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得、小テストやレポート50%　統計処理と学術情報の検索によりレポートの作成や小テスト等により評価

科目名	情報科学概論（環境c）
担当教員	趙　國※
授業概要	コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、学術論文作成を目指した基礎的なデータ処理がおこなえること。また、解析をおこなったデータをもとに学術論文を作成するための手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	小テストやレポート60%　表計算ソフトの利用によるデータ処理の習得を小テストおよびレポートで評価、課題40%　データ処理にもとづいた学術表現をデータ処理およびこれを活用した課題レポートの作成により評価

科目名	情報科学概論（環境d）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理の習得により、データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。またプレゼンテーションソフトによって学術論文の発表手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	課題50%　表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得、小テストやレポート50%　統計処理と学術情報の検索によりレポートの作成や小テスト等により評価

科目名	情報科学概論（材料）
担当教員	未定
授業概要	Unix系オペレーティングシステムの一種であるLinuxに親しむとともに、CUIを中心としたコンピュータの操作方法について学ぶ。文書フォーマッタ(LaTeX)による文書処理やシェルプログラミングの基礎を通して、大量のデータを効率よく処理する方法を習得する。また同時に情報処理において必要になる情報科学についての基礎知識を学ぶ。
到達目標	(1)情報の表現方法や情報機器の仕組みを理解する。(2)LaTeXを利用して文書作成ができる。(3)コマンドによりコンピュータの操作ができるようになる。(4)シェルの機能を用いてコマンドラインでの操作を効率よく行えるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：初回講義時に説明する。 指定図書：初回講義時に説明する。 参考書：初回講義時に説明する。
成績評価	課題 100%

科目名	情報科学概論（機械）
担当教員	鍵本　聡※
授業概要	Unix系オペレーティングシステムの一種であるLinuxに親しむとともに、CUIを中心としたコンピュータの操作方法について学ぶ。文書フォーマッタ(LaTeX)による文書処理やシェルプログラミングの基礎を通して、大量のデータを効率よく処理する方法を習得する。また同時に情報処理において必要になる情報科学についての基礎知識を学ぶ。
到達目標	(1)情報の表現方法や情報機器の仕組みを理解する。 (2)Unixコマンドラインでの操作ができるようになる。 (3)LaTeXを利用して文書作成ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：資料配布 指定図書：奥村晴彦著「LaTeX美文書作成入門」、技術評論社
成績評価	課題100％（情報科学およびLinuxに関する基礎知識を理解していること．LaTeXを用いて文書を正しく作成できること）

科目名	情報科学概論（電子）
担当教員	宮城　茂幸
授業概要	Unix系オペレーティングシステムの一種であるLinuxに親しむとともに、CUIを中心としたコンピュータの操作方法について学ぶ。文書フォーマッタ(LaTeX)による文書処理やシェルプログラミングの基礎を通して、大量のデータを効率よく処理する方法を習得する。また同時に情報処理において必要になる情報科学についての基礎知識を学ぶ。
到達目標	(1)情報の表現方法や情報機器の仕組みを理解する。(2)LaTeXを利用して文書作成ができる。(3)コマンドラインでの操作ができるようになる。(4)シェルの機能を用いてコマンドラインでの操作を効率よく行えるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：資料配布 指定図書，参考書については追加情報を参照すること。
成績評価	課題 100%

科目名	情報科学概論（人文a）
担当教員	服部　泰宏※
授業概要	インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理の習得により、データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。またプレゼンテーションソフトによって学術論文の発表手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義開始時に指定する。 指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得等）、課題50%（授業中の課題提出）等により評価

科目名	情報科学概論（人文b）
担当教員	森　将豪※
授業概要	インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に，さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ．特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について，表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ．さらに，学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ．
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し，さらにデータの統計処理の習得により，データや情報を加工し学術論文作成に活用できること．またプレゼンテーションソフトによって学術論文の発表手法を習得する．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義開始時に指定する。 指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得等），課題50%（授業中の課題提出）等により評価

科目名	情報科学概論（人文c）
担当教員	森　将豪※
授業概要	インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し，さらにデータの統計処理の習得により，データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。またプレゼンテーションソフトによって学術論文の発表手法を習得する．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義開始時に指定する。 指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得等），課題50%（授業中の課題提出）等により評価

科目名	情報科学概論（人文d）
担当教員	服部　泰宏※
授業概要	インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理の習得により、データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。またプレゼンテーションソフトによって学術論文の発表手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義開始時に指定する 指定図書：亀田彰喜・勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	レスポンスペーパー50%（表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得等）、課題50%（授業中の課題提出）等により評価

科目名	情報科学概論（看護a）
担当教員	中川　雅央※
授業概要	情報とは何か．わたしたちの暮らしの中で様々な形で利用されている情報を科学的に捉えるために必要な基礎的方法論を学ぶ．さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となる統計処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要な統計処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理の習得により、データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:授業内にて提示する 参考書:授業内にて提示する
成績評価	課題50%　表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得、小テストやレポート50%　統計処理と学術情報の検索によりレポートの作成や小テスト等により評価

科目名	情報科学概論（看護b）
担当教員	中川　雅央※
授業概要	情報とは何か．わたしたちの暮らしの中で様々な形で利用されている情報を科学的に捉えるために必要な基礎的方法論を学ぶ．さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となる統計処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要な統計処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。
到達目標	表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理の習得により、データや情報を加工し学術論文作成に活用できること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:授業内にて提示する 参考書:授業内にて提示する
成績評価	課題50%　表計算ソフトの利用の習得と関数および統計処理等の習得、小テストやレポート50%　統計処理と学術情報の検索によりレポートの作成や小テスト等により評価

科目名	プログラミング基礎（環境a）
担当教員	宮城　茂幸
授業概要	ソフトウェアがどのように作成されているかについての概要を学び、実際にC言語を使用して簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを作成する。プログラミングにおける変数、演算子、制御構造および関数等の概念を学び、それらを用いて、簡単な問題を解決するためのアルゴリズムを実装できることを目指す。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。 (2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。 (3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:資料配布 指定図書:B. W. カーニハン，D. M. リッチー，石田晴久訳「プログラミング言語C」(共立出版) 参考書については追加情報を参照すること。
成績評価	小テスト40%　C言語の文法を正しく理解していること。 課題40%　与えられた問題を解決するためのプログラムが作成できること。 レスポンスペーパー20%　講義のまとめの記述。

科目名	プログラミング基礎（環境b）
担当教員	鍵本　聡※
授業概要	基本的なデータ処理やファイル処理などの情報処理の技法を習得した上で、プログラム言語の種類とその特徴について学び、言語処理の概念と技法について学ぶ。プログラム言語はC言語を使用して、プログラミングの言語処理のアルゴリズム、関数の書式、演算処理、分岐処理等の技法について学ぶ。
到達目標	プログラム言語の種類とその特徴について理解し、言語処理の技法について習得する。プログラム言語はC言語を使用し、関数の書式や演算処理などのプログラミングの技法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：アンク著「Cの絵本」翔泳社
成績評価	課題80%、小テスト（反復処理）20%。

科目名	プログラミング基礎（環境c）
担当教員	未定
授業概要	ソフトウェアがどのように作成されているかについての概要を学び、実際にC言語を使用して簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを作成する。プログラミングにおける変数、演算子、制御構造および関数等の概念を学び、それらを用いて、簡単な問題を解決するためのアルゴリズムを実装できることを目指す。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。 (2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。 (3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：初回講義時に説明する。 指定図書：初回講義時に説明する。 参考書：初回講義時に説明する。
成績評価	小テスト40%　C言語の文法を正しく理解していること。 課題60%　与えられた問題を解決するためのプログラムが作成できること。

科目名	プログラミング基礎（環境d）
担当教員	未定
授業概要	ソフトウェアがどのように作成されているかについての概要を学び、実際にC言語を使用して簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを作成する。プログラミングにおける変数、演算子、制御構造および関数等の概念を学び、それらを用いて、簡単な問題を解決するためのアルゴリズムを実装できることを目指す。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。 (2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。 (3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：初回講義時に説明する。 指定図書：初回講義時に説明する。 参考書：初回講義時に説明する。
成績評価	小テスト40%　C言語の文法を正しく理解していること。 課題60%　与えられた問題を解決するためのプログラムが作成できること。

科目名	プログラミング基礎（材料）
担当教員	宮城　茂幸
授業概要	Linux上のFORTRAN77を用いてプログラミングの概念や、初歩的なプログラミング手法、あるいは開発環境についての知識を習得することを目的とする。特に理系の学生には必要とされる数値解析法へ応用できるよう、型の厳密な扱いや、プログラムの見通しをよくするためのモジュール化などについても触れる。この演習ではLinuxを利用するが、Linuxには特化せず一般的なUnixでの開発ができるよう普遍性のある知識の習得を目指す。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。(2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。(3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:竹内則雄, 平野廣和「FORTRAN77とFORTRAN90」(森北出版) 指定図書:B. W. Kernighan and P. J. Plauger, 木村泉訳「プログラム書法」(共立出版) 参考書については追加情報を参照すること。
成績評価	小テスト70% FORTRANの文法を正しく理解していること。 課題30% 与えられた問題を解決するためのプログラムが作成できること。

科目名	プログラミング基礎（機械）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	Linux上のFORTRAN77を用いてプログラミングの概念や、初歩的なプログラミング手法、あるいは開発環境についての知識を習得することを目的とする。特に理系の学生には必要とされる数値解析法へ応用できるよう、型の厳密な扱いや、プログラムの見通しをよくするためのモジュール化などについても触れる。この演習ではLinuxを利用するが、Linuxには特化せず一般的なUnixでの開発ができるよう普遍性のある知識の習得を目指す。
到達目標	プログラム言語の種類とその特徴について理解し、言語処理の技法について習得する。プログラム言語はFORTRAN77を使用し、関数の書式や演算処理などのプログラミングの技法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」(朝倉書店) 指定図書:勝木太一編「情報学」(多賀書店) 参考書:後日、担当教員から通知する。
成績評価	小テスト60％　FORTRANプログラムの書式と定数および制御文と条件判断の理解、課題40％　各課題に対するプログラムの作成

科目名	プログラミング基礎（電子）
担当教員	趙　國※
授業概要	基本的なデータ処理やファイル処理などの情報処理の技法を習得した上で、プログラム言語の種類とその特徴について学び、言語処理の概念と技法について学ぶ。プログラム言語はC言語を使用して、プログラミングの言語処理のアルゴリズム、関数の書式、演算処理、分岐処理等の技法について学ぶ。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。 (2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。 (3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:柴田望洋著「新版明解C言語　入門編」(ソフトバンククリエイティブ) 指定図書:B. W. カーニハン、D. M. リッチー著、石田晴久訳「プログラミング言語C(共立出版) 参考書:B. W. カーニハン、P. J. プローガー著、木村泉訳「プログラム書法」(共立出版)
成績評価	小テスト70%、課題30%

科目名	プログラミング基礎（人文a）
担当教員	鍵本　聡※
授業概要	基本的なデータ処理やファイル処理などの情報処理の技法を習得した上で、プログラム言語の種類とその特徴について学び、言語処理の概念と技法について学ぶ。プログラム言語はC言語を使用して、プログラミングの言語処理のアルゴリズム、関数の書式、演算処理、分岐処理等の技法について学ぶ。
到達目標	プログラム言語の種類とその特徴について理解し、言語処理の技法について習得する。プログラム言語はC言語を使用し、関数の書式や演算処理などのプログラミングの技法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:アンク著「Cの絵本」翔泳社
成績評価	課題80%、小テスト(反復処理)20%。

科目名	プログラミング基礎（人文b）
担当教員	未定
授業概要	ソフトウェアがどのように作成されているかについての概要を学び、実際にC言語を使用して簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを作成する。プログラミングにおける変数、演算子、制御構造および関数等の概念を学び、それらを用いて、簡単な問題を解決するためのアルゴリズムを実装できることを目指す。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。 (2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。 (3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:初回講義時に説明する。 指定図書:初回講義時に説明する。 参考書:初回講義時に説明する。
成績評価	小テスト50%　C言語の文法を正しく理解していること。 課題50%　与えられた問題を解決するためのプログラムが作成できること。

科目名	プログラミング基礎（人文c）
担当教員	未定
授業概要	ソフトウェアがどのように作成されているかについての概要を学び、実際にC言語を使用して簡単な文字ベースのアプリケーションプログラムを作成する。プログラミングにおける変数、演算子、制御構造および関数等の概念を学び、それらを用いて、簡単な問題を解決するためのアルゴリズムを実装できることを目指す。
到達目標	(1)ソースコードから実行形式を生成できること。 (2)プログラミング言語の初歩的な文法を理解できること。 (3)平易な問題に対するアルゴリズムを考え、それをプログラムとして記述できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:初回講義時に説明する。 指定図書:初回講義時に説明する。 参考書:初回講義時に説明する。
成績評価	小テスト50%　C言語の文法を正しく理解していること。 課題50%　与えられた問題を解決するためのプログラムが作成できること。

科目名	プログラミング基礎（人文d）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	基本的なデータ処理やファイル処理などの情報処理の技法を習得した上で、プログラム言語の種類とその特徴について学び、言語処理の概念と技法について学ぶ。プログラム言語はC言語を使用して、プログラミングの言語処理のアルゴリズム、関数の書式、演算処理、分岐処理等の技法について学ぶ。
到達目標	プログラム言語の種類とその特徴について理解し、言語処理の技法について習得する。プログラム言語はC言語を使用し、関数の書式や演算処理などのプログラミングの技法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 指定図書：亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店） 参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	課題50%　Cプログラミングのアルゴリズムや関数と変数および条件判断の理解、小テストやレポート50%　Cプログラミングの課題を通しての理解と確認の小テストやレポート等の作成により評価

科目名	プログラミング基礎（看護）
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	情報の種類とそれぞれの特徴を習得し、さらに基本的なデータ処理や情報処理の技法を習得した上で、データの分布や分析の手法について学ぶ。さらに情報処理の技法によるデータ処理ついて学ぶ。
到達目標	情報処理の技法について理解し、データ処理の技法について習得する。数値計算とデータの表示方法とデータの分布と推定や検定の技法なども習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）丸井英二編「疫学・保健統計」（メディカルフレンド社）、指定図書：亀田彰喜、勝木太一編「現代の情報処理」（朝倉書店）、参考書：後日、担当教員から通知する。
成績評価	課題50%　情報処理のアルゴリズムや関数と変数および条件判断の理解、小テストやレポート50%　情報データの処理と演習課題を通しての理解と確認の小テストやレポート等の作成により評価

科目名	健康・体力科学Ⅰ（運動処方）
担当教員	寄本　明
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、運動処方を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	(1)健康・体力の保持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。(2)各自の目的（健康維持、体力向上、肥満予防および解消等）に応じた安全で効果的な運動を処方する。(3)身体の状態を把握、体力テストに基づき運動の種類、運動強度、運動時間、運動頻度をプログラムする。(4)運動処方の内容に従い実践し、生理的変化や運動の効果を確認、処方の内容を考察する。
テキスト 指定図書 参考書	授業に必要な資料は随時プリントして配布する。
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）
担当教員	南　和広
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、サッカーを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・サッカーの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。 ・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。 ・グループでの活動に必要な態度を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（スキー・スノーボード）
担当教員	南　和広
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、スキー・スノーボードを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・スキー・スノーボード運動による健康・体力の維持増進および自然環境への理解を深める. ・スキー・スノーボード実習を通してライフスキルの能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（卓球）
担当教員	松下　唯夫※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、卓球を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・卓球の基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。 ・生涯スポーツとしての卓球を楽しむための練習計画を作成できるようになる。 ・運動学的あるいは力学的観点から卓球の技術を分析し技術の習得を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（卓球）
担当教員	南　和広
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、卓球を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・卓球の基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。 ・生涯スポーツとしての卓球を楽しむための練習計画を作成できるようになる。 ・運動学的あるいは力学的観点から卓球の技術を分析し技術の習得を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（テニス）
担当教員	多胡　陽介※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、テニスを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・テニスの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。 ・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。 ・グループでの活動に必要な態度を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ）
担当教員	前山　直※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ニュースポーツを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・ 身体活動の科学的法則性を理解し，望ましい健康増進の手法を学ぶ。 ・ 生涯スポーツとしてのニュースポーツの文化的意義を理解し，基本技術を習得する。 ・地域や職域における生涯スポーツの普及発展の中心的な役割を担う人材の育成をめざす。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（バスケット）
担当教員	川端　浩一※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バスケットボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・ ゲームに必要な基礎技術、持久力、素早さ、瞬発力、動きの柔軟性、的確な判断力を養う。 ・ バスケットボールの戦術を理解し、ゲームでの攻防を楽しむ。 ・ グループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、自主性を養う。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:「わかりやすいバスケットボールのルール」 成美堂出版
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅰ（バドミントン）
担当教員	川端　浩一※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バドミントンを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・ゲームに必要な基礎技術、持久力、素早さ、瞬発力、動きの柔軟性、的確な判断力を養う。 ・シングルスゲームおよびダブルスゲームの戦術を理解し、ゲームでの攻防を楽しむ。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力や協調性、自主性を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（ゴルフ）
担当教員	南　和広
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ゴルフを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・ゴルフ・ゲームの特性（自己申告制，自然との対話，心・技・体のバランス，ハンディキャップ制など）を生かし，生涯にわたってゴルフが楽しめる基礎をつくる。 ・コースのラウンド実習では，エチケット・マナーをまもりより豊かな人間性と社会性を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール）
担当教員	前山　直※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、ソフトボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・ソフトボールの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。 ・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。 ・グループでの活動に必要な態度を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：「わかりやすいソフトボールのルール」 成美堂出版
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（バドミントン）
担当教員	多胡　陽介※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バドミントンを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・バドミントンの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。 ・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。 ・グループでの活動に必要な態度を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（バレーボール）
担当教員	多胡　陽介※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、バレーボールを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・バレーボールの基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。 ・好ましいグループづくりを目指す。 ・運動生理学の立場から，必要な運動量を確保する。 ・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:「わかりやすいバレーボールのルール」成美堂出版
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（運動処方）
担当教員	寄本　明
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、運動処方を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	(1)健康・体力の保持増進に必要な運動の科学的知識を理解する。(2)各自の目的（健康維持、体力向上、肥満予防および解消等）に応じた安全で効果的な運動を処方する。(3)身体の状態を把握、体力テストに基づき運動の種類、運動強度、運動時間、運動頻度をプログラムする。(4)運動処方の内容に従い実践し、生理的変化や運動の効果を確認、処方の内容を考察する。
テキスト 指定図書 参考書	授業に必要な資料は随時プリントして配布する。
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（海洋スポーツ）
担当教員	寄本　明
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、海洋スポーツを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	(1)海洋スポーツ（カヤックカヌー、ヨットおよびボードセーリング）の基礎技術を習得する。(2)海洋スポーツの実践により自主性、自律性、自己の責任、安全管理（危機回避）等の能力を養う。(3)滋賀の自然と親しみ、スポーツフィールドとしての側面から琵琶湖の抱えている問題を理解する。(4)生涯スポーツとしての海洋スポーツを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	実習に必要な資料（テキスト）は全てプリントして配布する。
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・ 怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（卓球）
担当教員	川端　浩一※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、卓球を通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・卓球の基本技術を習得し，ゲームをする楽しさを味わう。 ・生涯スポーツとしての卓球を楽しむための練習計画を作成できるようになる。 ・運動学的あるいは力学的観点から卓球の技術を分析し技術の習得を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

科目名	健康・体力科学Ⅱ（テニス）
担当教員	松下　唯夫※
授業概要	健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。講義では、身体活動と健康の関わりや身体活動の必要性を理解し、生涯スポーツへの動機づけを明確にする。実技では、テニスを通してスポーツ科学の知識を生かした安全で合理的な実践能力を育て、スポーツの文化的意義を理解し，スポーツ享受能力を高めるとともに、生涯にわたって運動習慣が継続できる自律的態度および実践能力を体得し、さらにライフスキルの形成を促進する。
到達目標	・テニスの練習やゲームを通じて，技能や体力の向上を図る。 ・生涯にわたるスポーツライフを設計し，実践する能力を育成する。 ・グループワークを通して，コミュニケーション能力や協調性，自主性を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:参考図書を適宜紹介
成績評価	・「実技学習課題」60％と「試験またはレポート」40％で評価する。 ・欠席回数が4回以上（1単位につき）のときは，原則として当該科目の単位は認めない。 ・ ただし、怪我・病気等で欠席の場合は担当教員に事情を説明し、対応の指示を受けること。

人 間 学 の 考 え 方

人間存在と環境・社会を深く見つめる人間学

大学に入学してからは、それぞれの専門分野の学習と、独立した個人としての志を育てるための４年間を過ごすことになります。この両者のバランスが重要なのですが、従来の大学教育で行われていた一般教養の組み立て方は、ともすれば並列的に客観的知識として教える内容と、それを教えられる学生とが乖離したままの傾向がありました。変化の早い時代に大学で主体的に学び、考える学生が育つには、それとは異なる新しい座標軸の設定が要請されてきました。

本学ではこの要請に応えるために、開学当初から従来の一般教育とは異なった「人間学」という科目群を設けています。日々、複雑化・流動化してゆく現代社会の中で、人間というものを深く見つめ、そこから今後の指針を自ら見出していける学生が育つことを願って設けられたものです。これらの科目では、具体的、現実的な問題を通して「人間」という存在について考え、将来、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を、学生諸君自らがそれぞれの個性にしたがって身につけることを目標にしています。

身につけた知識や技術が高度で、専門的であるほど、人間・環境・社会・文化というものの理解も深く、幅広くなっていかなければならないでしょうし、それによってこそ専門分野の感性も磨かれるという思いが背景にあります。

本学では、この「人間学」の趣旨にふさわしい 35 科目を用意しました。

これら 35 科目のうち、「環境マネジメント総論」「人間探求学」の２科目を必修科目に指定します。全学部教員によるオムニバス形式の「環境マネジメント総論」と自己表現能力開発を目指す少人数グループ形式の「人間探求学」は授業展開において対照的な科目ですが、環境と人間への配慮を重視する本学でまず学ぶべきものとして、１年次前期の必修科目とします。あとの 33 科目は、「こころ」「しくみ」「しぜん」「わざ」の４クラスター（分類群）に分けられています。クラスターによるこれら 33 科目の分類は必ずしも厳密なものではありませんが、各クラスターからバランスよく選択して履修してください。

人間学では、担当する教員のものの見方、考え方にしたがって講義が展開されますが、講義の内容は、全般的な概論を述べるのではなく、独断と偏見に満ちたものであるかもしれません。場合によっては、学生諸君がそれに反発を感じることもあるかもしれませんが、そのことによって、むしろ、学生諸君が自らものを考えるきっかけになることを期待しています。

人間学は、次表に示す35科目があります。

クラスター	科　　目	定員 注8	単　　位			
			環境科学	工　学	人間文化	人間看護
必　　修 【１年次前期】	環境マネジメント総論		2	2	2	2
	人間探求学		2	2	2	2
こ　こ　ろ (Ethics)	差別と人権（同和問題）		2	2	2	2
	比較文明論		2	2	ー 注1	2
	東洋思想時空論		2	2	2	2
	セルフケア論(心理臨床論)		2	2	2	2
	人間にとって環境とは何か　注4		2	2	2	2
	環境行動論		2 注1	2	2	2
	生命・人間・倫理　注5		2	2	2	2
し　く　み (Social Studies)	現代経済論		2	2	2	2
	びわこ環境行政論		2	2	2	2
	近江文化論	200	2	2	2	2
	人間とことば	200	2	2	2	2
	異文化理解Ａ　注2		2	2	2	2
	異文化理解Ｂ　注2		2	2	2	2
	若者の健康と栄養		2	2	2	2
	地元学入門		2	2	2	2
	社会福祉論　注6	200	2	2	2	2
	性を考える	200	2	2	2	2 注7
	地域探求学		2	2	2	2
し　ぜ　ん (Natural Sciences)	自然保護論		2	2	2	2
	人間と自然界		2	2	2	2
	滋賀の自然史	200	2	2	2	2
	材料史	200	2	2	2	2
	自然科学の視点		2	2	2	2
	空間計画論		ー注1	2	2	2
わざ (Technology)	詩歌と人間		2	2	2	2
	こころのテクノロジー　注3	300	2	2	2	2
	人間と病気		2	2	2	2
	持続的農業論		2	2	2	2
	比較都市論		2	2	2	2
	機械技術と人間		2	2	2	2
	電子社会と人間		2	2	2	2
	比較住居論	200	2	2	2 注1	2
	遺伝子と社会		2	2	2	2
	合　　計　（科目数）		３４	３５	３４	３５

人間学は、35 科目のうちから６科目を履修します。「環境マネジメント総論」「人間探求学」は、いずれも１年次前期の必修科目です。あとの４科目を各クラスターからバランスよく選択して履修してください。

なお、低学年で集中的に履修することなく、高学年でも履修するように心がけてください。

注１：次の科目は、それぞれその右側にあげた学部等の学生が履修したときは、専門科目として分類されるので注意してください。

比較文明論	人間文化学部
環境行動論	環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科
空間計画論	環境科学部
比較住居論	生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科

注２：「異文化理解Ａ」と「異文化理解Ｂ」は、海外短期留学における特別講義です。Ａは４月中旬、Ｂは 10 月中旬に授業日程等の詳細について発表されるとともに、参加者の募集が行われる予定です。

注３：平成 18 年度以前入学生については、「こころのテクノロジー」を「こころの自然誌」に読み替えます。

注４：平成 19 年度以前入学生（環境科学部生は除く）については、「人間にとって環境とは何か」を「環境学原論」に読み替えます。また、平成 19 年度以前入学の環境科学部生は、環境科学部の専門科目に分類されますので、人間学としては選択できません。

注５：「生命・人間・倫理」は人間看護学部の平成 21 年度以降入学生については、必修となり人間学として履修できます。また、平成 20 年度以前入学生については「生命・人間・倫理」を「看護と倫理」に読み替え、人間看護学部の学生は専門科目として、人間看護学部以外の学生は他学部・他学科科目として、それぞれ分類され、人間学としては取り扱われません。

注６：「社会福祉論」は人間看護学部の平成 21 年度以降入学生については、必修となり人間学として履修できます。人間看護学部の平成 20 年度以前入学生が「社会福祉論」を履修したときは、専門科目として分類され、人間学としては取り扱われません。人間看護学部以外の平成 20 年度以前入学生が「社会福祉論」を履修したときは他学部・他学科科目として分類され、人間学としては取り扱われません。

注７：「性を考える」は人間看護学部の平成 22 年度以前の入学生が履修しても卒業要件単位に算入されません。

注８：履修定員が設けられている科目があります。履修登録の関係はP.4 の「（３）人間学の履修登録」を参照してください。

科目名	遺伝子と社会
担当教員	長谷川　博
授業概要	遺伝子組換え食品、iPS細胞、遺伝子診断と遺伝子創薬、DNAを利用した親子鑑定など、現在では遺伝子（DNA）が私たちの生活に密接に関係している。犯罪捜査や考古学にもDNAが登場する。しかしながら、DNAに関する知識が不十分なために、このような新技術が生活に不安を与えたり、不毛な議論が生じたりしている。本講義では、遺伝子（DNA）に関する基礎的な知識を教授するとともに、私たちの生活に遺伝子（DNA）がどのように関わっているのかを例をあげて説明する。
到達目標	1）遺伝子、DNAについての基本的な知識を身につけること。 2)遺伝子組換えについて正しい知識を身につけること。3)遺伝子、DNAの知識が食糧問題、環境問題、医療、犯罪捜査だけでなく考古学などにどのように役立っているかを理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：講義の中で紹介する
成績評価	期末試験（80％）と毎回のレポート提出状況（20％）

科目名	異文化理解Ａ
担当教員	国際交流委員会
授業概要	夏季休業中の3週間、アメリカミシガン州のレイクスペリオル州立大学において、下の授業計画による特別講義を履修します。これらの講義は、英語の講義と大学周辺地域でのフィールドトリップとが組み合わされています。それ以外に、出発前には本学において、専門基礎講座と英語集中講座を受講します。また現地では、週末に同大学教員宅にてホームスティを過ごし、さらにはネイティブアメリカンやパイオニアスタイルの食事を体験します。
到達目標	英語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、アメリカ・カナダの自然と文化に触れ、国際感覚を涵養するとともに、異文化の理解に努めます。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：特にありませんが、事前授業の中で資料を配付します。
成績評価	修了後に提出するレポート（100％）。評価は「認定」となります。

科目名	異文化理解Ｂ
担当教員	国際交流委員会
授業概要	春季休業中の3週間、中国湖南省の湖南師範大学において、下の授業計画による特別講義を履修します。これらの講義は、中国語の講義と大学周辺地域でのフィールドトリップや中国文化の演習とが組み合わされています。それ以外に、出発前には本学において、中国語講座を受講します。また現地では、中国湖南地方の伝統的な食事を体験します。
到達目標	中国語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、中国の自然と文化に触れ、国際感覚を涵養するとともに、異文化の理解に努めます。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：特にありませんが、事前授業の中で資料を配付します。
成績評価	修了後に提出するレポート（100％）。評価は「認定」となります。

科目名	近江文化論
担当教員	京樂　真帆子
授業概要	近江の持つ地域的特性とそれを基盤とする文化の特質を歴史学的視点から探る。近年、近江の文化・歴史に関する研究が盛んである。その成果の一端を紹介していく。特に、近江文化の持つ歴史性に注目し、古代から現代への展開を追う。
到達目標	①近江文化の特質を理解する。 ②地域文化の意義を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:プリントを配布、適宜紹介する 指定図書:特になし
成績評価	毎回の小レポート 30%　期末試験 70%

科目名	環境行動論
担当教員	村上　修一
授業概要	本講義では、人間の行動と空間との関係を、様々な視点から考察していく。第2～8回では、具体事例の紹介や簡単な演習を織り込みながら、環境行動について講義を行う。また、調査課題についての説明や、調査に必要な情報の提供も行う。受講生は、講義で紹介される調査課題を1題選択し、講義内容や説明を参考に調査を実施して結果をまとめ、第9～15回の指定された回に発表し討議することが求められる。また、指定回以外の発表を聞き討議に参加することが求められる。
到達目標	事例等をとおして解説する環境行動に関する知識や手法を自ら応用できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜講義の中で示す。
成績評価	調査発表:100%

科目名	環境マネジメント総論
担当教員	全学部教員によるオムニバス
授業概要	環境問題の全体像を把握させ、環境マネジメントの必要性を認識させることを主眼とする。文科系の学生にも技術的な問題の基本的な状況が理解できるように、理科系の学生にも関連する倫理、法規、経済政策などの基本が理解できるように配慮する。このため、取り扱う範囲は広いが、基本的な事項にしぼり、専門的な内容には触れない。個別の詳細な問題は各学部の専門科目等で扱う。
到達目標	(1)環境問題を総合的に理解できる。 (2)環境マネジメントの重要性とその意義を理解できる。 (3)環境問題および環境マネジメントに関する基本的事項について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:生協で実費販売する。プリントを適宜配布する。 参考書:必要があれば講義中に紹介する。
成績評価	第1～7回の到達度検証 50%、期末試験(出題範囲:第9～15回)50%:講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	機械技術と人間
担当教員	田中　他喜男
授業概要	人間は道具を使うことにより，人と動物に明確な差をつけている。道具が発展して機械となり，機械を使うことにより，生活は楽になり，楽しさと潤いを与えてくれた。一方，機械は争いや戦争の道具として，多くの人を殺戮し傷つけている。機械技術を発展させ，人に役立たせ，機械技術をいかにうまく操ってきたか，さらに将来はどうなるか，について講義する。
到達目標	①人類の幸福に役立つ機械技術および技術の発展とは，本来どのようなものであるべきかを学ぶ。 ②機械を理解し，人間が便利で楽しく安心して利用できるように人品の向上について学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中山秀太郎著，機械発達史，大河出版 参考書：資料を配布する。
成績評価	期末筆記試験50％，小試験50％

科目名	空間計画論
担当教員	水原　渉
授業概要	我々は「空間を計画する」という。しかし、計画する空間とは一体どんなものなのか、あるいは逆に、その空間を計画するとはどういうことなのか。環境と空間はどう異なるのか。この様な問いを基底に据え、①空間を考え（空間論）、更に②その計画（計画空間論）を扱う
到達目標	本授業を通して、人間や自然、社会について、そして空間と計画について理解し、考えていく上での一つの基本的枠組を得る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布する。 参考書：授業中に提示する。
成績評価	試験(60％)とレポートの成績(40％)によって評価する。5回を超える欠席の場合、受験資格を失う。

科目名	現代経済論
担当教員	鈴木　康夫※
授業概要	現代経済の基本的な性質や機能とその役割、問題点について概略的に学ぶ。ミクロとマクロの両面から経済の諸側面（：景気と物価、国際経済、産業、雇用、経営、財政、金融など）について初歩的な内容を学ぶ。また、日本経済の代表的な現象を参考にして、歴史・文化・制度と構造、理論、政策に関するその基本的な学習を行う。
到達目標	基礎的な経済学の理解と新聞の経済欄やニュースを理解できるようにするのがねらいである。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト、参考書：後日提示する。
成績評価	「中間まとめ評価」50点満点＋「レポート提出」20点＋「期末試験」30点満点＝100点満点で評価する。

科目名	こころのテクノロジー
担当教員	細馬　宏通
授業概要	脳科学や神経科学の発展と共に、人間の行動に対する考え方は大きく変化しつつある。最近では、人のさまざまな活動において脳の重要性が強調されるいっぽうで、身体と脳との関係もまたクローズアップされるようになってきた。この講義では、脳-身体システムの協調的な活動を紹介しながら、わたしたちの脳に対する考え方、身体観を見直すことを目指す。
到達目標	(1)大脳の各領域についての基本的な知見を学ぶこと。 (2)神経科学と心理学の境界領域を学ぶこと。 (3)情動・感情研究の基本概念を学ぶこと。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義内で紹介する
成績評価	リスポンスペーパー(60%) レポート(40%)によって評価する。

科目名	材料史
担当教員	菊地　憲次 ・ 熊谷　勉
授業概要	人類は日々の生活を便利に、快適に、そして活動しやすくするためにいろいろな材料を見いだし、利用し、今日の文明を築き上げてきた。現在の豊かな暮らしは有史以来の材料の発達の結果であり、新しい材料の発見は時には歴史を変える役割もしてきた。このような材料の発達の経過と材料が社会の進歩に貢献してきた歴史について、それらの材料を金属・セラミックスなどの無機材料と繊維、高分子などの有機材料に分けて説明し、ものづくりの大切さについて理解を深める。
到達目標	(1)青銅器時代から始まり鉄器時代に至る金属の歴史を理解すること。(2)セラミックスやシリコンなどの新しい材料の発展について理解する。(3)希少金属などの材料の発展と資源問題についてについて理解する。(4)多様な有機材料の特性を理解し説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:金属と日本人の歴史　桶谷繁雄著　講談社 材料技術史概論　小山田了三　小山田隆信　東京電機大学出版局
成績評価	2回のレポートで評価する。

科目名	差別と人権（同和問題）
担当教員	吉田　一郎 ・ 松本　行弘 ・ 裵　敬隆※
授業概要	吉田一郎:人権問題とはそもそも何か、また人権問題と差別問題,差別行為と差別意識の関係について考える。 松本行弘:講義は二つの柱から構成する。一つは精神医療における障害者の人権.もう一つは我々が身近な日常で体験するハラスメントを取り上げる。 裵敬隆:朝鮮人からみた戦後日本の差別と人権。そして在日朝鮮人への差別が現代日本の人権侵害を容認する社会構造とつながっていることを明らかにする。
到達目標	1.教育における人権問題、差別問題の所在を理解すること。 2.精神障害者差別の現状と歴史を理解すること。 3.在日朝鮮人差別問題について理解sすること。 4.全体をとおして、人権問題、差別問題について科学的、批判的な思考を深める.
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:講義中に適宜指示する 参考書:講義中に適宜指示する
成績評価	レポートによって行う。5回以上欠席者は評価の対象としない。

科目名	詩歌と人間
担当教員	上村　盛人
授業概要	古今東西の詩歌のさまざまな局面について考察する。名作とされる詩歌にはどのような思いや工夫が施されているのかを考察しながら、詩歌の多様な側面を探る。教材として、ミュージカル『キャッツ』の原作であるT. S. Eliotの詩集を用いて、ミュージカルと原作の違いの比較、地方や異文化に対する偏見的姿勢の問題点なども考察する。英語の韻律についてやや詳しく説明し、英語の詩歌についての理解を深めることを目指す。
到達目標	英語の詩歌に特徴的な韻律と脚韻を理解して英語に対する思いを新たにすると同時に、洋の東西を越えた普遍的な人間精神についての認識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:T. S. Eliot, “Old Possum’s Book of Practical Cats”（鶴見書店）
成績評価	小レポート 30%　最終レポート 30%　プレゼンテーション 40%

科目名	滋賀の自然史
担当教員	浜端　悦治
授業概要	古代湖の一つとしても数えられる琵琶湖は、多くの生物種を育み、生物多様性の視点から重要であるのみならず、1400万人の上水源としての役割も担っている。しかもその集水域では古くから人間の営みが行われており、人と自然との共存のバランスのとれた例として世界的に見ても貴重な存在となっている。本講義では、琵琶湖とその集水域、そして人間活動の変遷を明らかにし、琵琶湖と人間との望ましいあり方を考える。
到達目標	①琵琶湖とその集水域の歴史を把握し、②集水域での人間活動が湖沼に及ぼしている影響を理解し、③望ましい湖沼を実現するためには何が必要であるかを考えることができるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義時に配布する。 参考書:講義時に紹介する。
成績評価	期末試験60%、毎回実施する小テスト40%で行う。

科目名	自然科学の視点
担当教員	松岡　純
授業概要	現代社会は自然科学とその応用である技術を享受している。したがって「自然科学は世界をどう見るか」への理解は，科学技術や人間・社会の定量化・モデル化において重要である。モノの価値から知の価値へと豊かさの指標が転換期にある現在，自然科学という知の構造を理解する意義は大きい。しかし科学の成果に比べ，科学を生み出す過程は見え難い。そこで本講では科学史や担当教員の経験に基づく実例を多用しながら，自然科学の思考法について講述する。
到達目標	(1)自然科学の特徴とそこで使われる論理や思想の，概要を説明できること。 (2)自然科学における思考法を簡単な事例に適用できること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:デカルト 著，　谷川多佳子 訳，「方法序説」（岩波書店　岩波文庫） 参考書:小林道夫 著,「哲学教科書シリーズ　科学哲学」（産業図書），ジョン・プライス・ロゼー著，常石敬一訳,「科学哲学の歴史」(紀伊国屋書店)
成績評価	レポート1　33%　自然科学で使われる論理の，具体的事例への適用を行なう。 レポート2　33%　自然科学における思考法の変遷について，課題を纏めあげる。 レポート3　34%　与えられた事象または課題に対し，自然科学の様々な思考法を用いて分析・解釈を行う。

科目名	自然保護論
担当教員	西田　隆義
授業概要	人間による自然利用、とくに生物資源の利用の成功と失敗を過去から現在までのさまざなな社会で比較検討し、賢明な資源利用にかかわるヒトの社会的特性と関連させて論ずる。次いで、近年社会的な関心が高まっている生物の多様性の保全について、その意義と多様性の創出と衰退に関わる生態学的なメカニズム、および多様性をいかに保全し、賢明に利用するかについて概説する。
到達目標	生物多様性とは何かを理解し、保全生物学の基礎を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：文明崩壊（ジャレット・ダイヤモンド著）草思社 天敵なんてこわくない（西田隆義著）八坂書房
成績評価	授業への取り組み60％、レポート40％：生物多様性の賢明で持続可能な利用と保全についてと理解していること。

科目名	持続的農業論
担当教員	泉　泰弘
授業概要	農業は人間にとって食糧生産のための必須の営みである。この生産活動をいかに環境と調和させ、持続的に維持するかを考えるため、農業という営みの特性、人口、食糧生産量、農業の現状、生産技術、ならびにそれらと環境との関わりや持続的生産の可能性について解説する。
到達目標	持続的食糧生産技術の開発を目的とした研究に携わろうとする者にとって必要な基礎知識を得る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義資料配付 参考書：久馬一剛「食料生産と環境」 化学同人（1997）、東京大学農学部編「人口と食糧」 朝倉書店（1998）、巽二郎「地球環境と作物」 博友社（2007）
成績評価	テスト

科目名	地元学入門
担当教員	近藤　隆二郎
授業概要	伝統的街並みの再生、古民家再生・活用、地域文化の保全継承、農村コミュニティの活性化、地域医療のサポートなど、社会は様々な課題をかかえている。地域との連携を図りながらこれらの課題を解決していくために必要な能力や方法論について「近江楽座」（学生力をいかした地域貢献活動）の取り組み事例をとおして実践的（Project Based Learning）に学ぶ。
到達目標	(1)滋賀県の地域課題とその社会的背景について理解する。 (2)「近江楽座」による学生主体の地域貢献活動をとおしてプロジェクトの立ち上げ、協働、運営のための方法論を学ぶ。 (3)地域や企業のリーダーとして行動するための基礎的能力を開発する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：各回の講義で配布する。（講義レジメ、講義関連資料、ケーススタディ事例） 指定図書：「近江楽座のススメ-学生力で地域が変わる／4年間の軌跡」近江楽座学生委員会編著、ラトルズ
成績評価	各回講義小レポート評価50％、レポート課題評価50％

科目名	社会福祉論
担当教員	打田　信彦※
授業概要	社会福祉はすべての人々が、より健康で文化的な生活がおくれるような心豊かな社会づくりを目指している。ところが、今日の社会は格差・貧困・虐待といった現代的課題が山積している。こうした社会福祉の現状と課題について考察する。
到達目標	わが国における社会福祉の仕組みの概要について理解でき、社会福祉制度の現状と課題について考えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:後藤卓郎編 『新選社会福祉』(株)みらい
成績評価	試験、提出物 （5回以上の欠席者は評価対象にしない）

科目名	生命・人間・倫理
担当教員	清水　房枝 ・ 糸島　陽子
授業概要	人間の生命の尊厳と権利の尊重についての基本的な考え方、倫理原則、倫理理論を学ぶ。また、現代の生命倫理・医療倫理に関する具体的な問題や課題に視点を当て、看護の立場から適切な判断や解決の方略を考える。
到達目標	1. 生命倫理、医療倫理、看護倫理とは何かを学び理解する。 2. 倫理原則を学び、医療における倫理的課題とその解決方法について考える。 3. 看護者の倫理的責務について学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:ﾄﾞﾛｰﾚｽ･ﾄﾞｩｰﾘ他:看護倫理1・2・3、みすず書房、2006. 宮坂道夫:医療倫理学の方法、医学書院、2005. James L.Bernat著（中村裕子監訳）:臨床家のための生命倫理学、協同医書出版社、2007.
成績評価	定期試験60％、レポート（授業参加状況を含む）40％

科目名	性を考える
担当教員	京樂　真帆子 ・ 武田　俊輔 ・ 伊丹　清 ・ 河　かおる ・ 東　幸代 ・ 亀井　若菜
授業概要	近年急速に進んでいる男女共同参画社会の基礎知識を身につけ、現状と課題を理解していく。その上で、将来にわたって、男女共同参画社会形成を率先して推進していくことができる人材を育成する。現在の社会のニーズに応える講義である。
到達目標	男女共同参画に関する正確な知識を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:特に指定しない。 参考書:適宜紹介する。
成績評価	3回実施するまとめの中で、簡単な到達確認を行う。その成績を合算して評価とする。なお、各回最後に提出を求めるレスポンスカードの内容を成績評価の参考とする場合もある。

科目名	セルフケア論
担当教員	松本　行弘
授業概要	人の行動を心理臨床の立場から分析し、自分や相手、そしてその関係のあり方を見直し、幅広い人間理解に結びつくことを目標とする。講義では、人との関係を見直すことから始め、心の健康から病理、更には退行的行動様式の一つである非行や犯罪にも焦点を当てる。一方、発達的視点からは疾風怒濤の時期である青年期を取り上げ再考する。またその援助実践であるカウンセリング論の展開と、宮崎駿アニメーションの心理学的分析から心の深層を解析し、現代人の自我構造を明らかにする。
到達目標	人が生きるということには様々な意味があるということを理解し、自己の生き方を見直すことが目標である。そのため、レポート課題も広い範囲から問うことにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:指定しないが、教材としてVTRやDVDを使用し、適宜プリントを配布する。 指定図書:河合隼雄著「ユング心理学入門」倍風館 参考書:そのつど紹介する。
成績評価	レポート提出 レポート課題は“人間理解”を中心に、講義内容を越えて広い範囲のものとなる。またレポート課題も含め、授業の狙いが達成されたかどうかを試験で見極める。

科目名	地域探求学
担当教員	鵜飼　修
授業概要	地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する本学のモットーを具体的に体験する学習プログラム。地域活動を主体的に実践したことのない初級者向け。地域で活動する様々な人、企業、団体との対話を通じて、地域とのコミュニケーション手法を学び、社会人基礎力を養う。
到達目標	・地域の人々との適切なコミュニケーションができる。 ・地域の人々とのネットワークを築く
テキスト 指定図書 参考書	適宜、資料を配布する。 参考書:CBN編、「コミュニティ・ビジネスのすべて～理論と実践マネジメント」、ぎょうせい
成績評価	名刺作成20％、目標管理シート20％、SWOT分析シート(グループ)20％、地域人評価20％、カードポイント20％、ただし上記5種をすべて提出しないと点数はつかない。原則前回出席すること。学外活動の際は襟付きシャツ、ブラウス、ジャケット等着衣のこと。

科目名	電子社会と人間
担当教員	柳澤　淳一
授業概要	現在の私たちの生活は高度情報化社会における電子・情報分野の先端技術に支えられている。これは科学・技術の驚異的な進歩によるが、その変化があまりに急速だったため、個人の生活や社会に及ぼす影響には光の部分と影の部分が出てきた。科学・技術は、最終的には私たちの生命や社会生活に優しいものでなくてはならず、科学・技術と社会や人間との関わり合いや、科学・技術を発展させる、またはそれを利用する者としての社会的責任について認識を深めることは、社会の一員である皆さんにとって必要不可欠である。本講義では、電子・情報分野の視点から、これらについて講述する。
到達目標	電子・情報技術を、単に与えられたブラックボックスとして受け身的に使うだけでなく、背後にある原理や現状の問題点まで理解することで積極的にそれぞれの専門分野に応用し、利用していけるような素養を身につけるきっかけになることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:必要に応じて資料を配付する。 参考書:関連した文献を講義中に適宜紹介する。
成績評価	小試験30％、レポート評価　70％(小レポート　20％、総合レポート　50％)ただし6回以上欠席した者は評価対象にしない:講義の理解度を確認する小試験を毎回行うほか、初回の講義時に、電子社会との関わりに関連した話題の小レポートを課し、最終回の講義において、講義を通じて学んだことを含む総合的なレポートを課す。

科目名	東洋思想時空論
担当教員	石田　法雄
授業概要	東洋思想を介して存在（時間と空間）のあり方を検証し、「人間の問題」を考える。特に仏教の縁起（pratitya-samutpada）の思想を通して時間論と空間論にふれる。便宜上使われている概念としての過去・現在・未来は、それぞれ独立して存在していない。過去からの限定と未来からの限定を同時媒介的に受けた現在が現在化している「今」が「ここ」に繰り広げられているという時空論を講じる。
到達目標	1．考えることの楽しさを培う。 2．客観的に観察・判断する能力を養う。 3．主体的な取り組みを深める。 4．平凡なあり方・事柄の重要さを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：図書館に設ける
成績評価	レスポンス20％　レポート80％

科目名	人間探求学（環境生態）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：各教員によって異なる.
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（環境政策・計画）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（環境建築デザイン）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（生物資源管理）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は1年生を少人数グループ（7～8名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：各教員によって異なる。
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（材料科学）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（機械システム）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。
成績評価	レポート，プレゼンテーション等，各担当教員の評価による。ただし，所定の出席回数を満たす必要がある。

科目名	人間探求学（電子システム）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（地域文化）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（生活デザイン）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 学科1年生を少人数グループ（3～4名）に分け、担当教員を割り当てる。学期を前半と後半に分け、各グループは前半と後半とでそれぞれ別の教員から指導を受ける。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：担当教員が指示する。
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（生活栄養）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間探求学（人間関係）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト・参考書：講義中に指示する。
成績評価	リアクションペーパー・小テスト（50％）、レジュメ作成・ディスカッションへの参加・レポート（50％）

科目名	人間探求学（人間看護）
担当教員	学科教員
授業概要	この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。 授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。
到達目標	自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

科目名	人間とことば
担当教員	地蔵堂　貞二　・　吉村　淳一　・　長島　律子　・　呉　凌非
授業概要	本授業は、第二外国語を担当している4名の教員が、「ことば」を共通のキーワードとして、オムニバス形式で、歴史・文化・文学・言語学・語史・翻訳・メディアなど様々な視点から、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語など）の一端に触れながら、我々の生活と切り離すことのできない「ことば」について講じます。
到達目標	言語についての認識を深めます。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：特にありませんが、必要に応じて授業中に紹介します。 指定図書（吉村担当分）： 『声の文化と文字の文化』W-Jオング著、桜井直文・林正寛・糟谷啓介訳（藤原書店） 『なぜメディア研究か　経験・テクスト・他者』ロジャー・シルバーストーン著、吉見俊哉・伊藤守・土橋臣悟訳（せりか書店） 『メディア学の現在』山田功二・渡辺武達・岡満男編（世界思想社） 『メディア用語を学ぶ人のために』渡辺武達・山田功二編（世界思想社） 『知恵の樹』ウムベルト・マトゥラーナ/フランシスコ・バレーラ、管啓次郎訳（ちくま学術文庫） 『総論ドイツ語の歴史』ヴィルヘルム・シュミット著、西本美彦他訳（朝日出版社） 『ドイツ語学への誘い』河崎靖著（現代書館）など
成績評価	試験の成績で評価します。

科目名	人間と自然界
担当教員	黒田　末壽
授業概要	民話・神話・環境史・生態人類学などの観点から、共生的関係から破壊までの人間の自然との多様な関わりかたと、自然認識の多様なあり方を学び、そこから人間と自然のよりよい関係について考察する。本年度で事例として取り上げるのは、ヨーロッパ・中近東の環境史と森のメタファー、アフリカの熱帯林にすむ現代の人々の自然利用と保全思想との葛藤、日本の近代以降の自然利用と認識の変遷、学生諸君から発表してもらう自然体験である。
到達目標	人間と自然のかかわり方の多重性と多様性、とりわけ節度ある自然とのかかわり方をもたらす自然観を理解したうえで、自分自身の自然観をもち、表現できること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：『自然学の未来』（弘文堂）、J・パーリン著『森と文明』（晶文社）、岩田慶治『木が人になり、人が木になる』（人文書館）など。 参考書：加納隆至他『アフリカを歩く』、山田勇『森と人の対話』など。
成績評価	講義の節ごとの小レポート評価100％。講義内容の理解（批判的内容も含める）、自然と人間との関係の理解、人間の可能性と限界に対する考え、自己の体験に基づく自然認識などを重視。

科目名	人間と病気
担当教員	山田　明 ・ 森　敏 ・ 安原　治
授業概要	抗生物質に代表される近年の医学の進歩は、大きく人類に貢献したものの、その一方で後天性免疫不全症候群(AIDS)、重症急性呼吸器症候群(SARS)のような以前は全く知られていなかった新しい疾患の出現や認知症に代表される未解決の問題も残している。ここでは、感染症、認知症を中心に重要な疾患の説明とその社会的背景について解説する。
到達目標	(1)感染症の知識を得て病原体の感染から身をまもる方法について基本的な説明ができること (2)現在、老化や認知症についてどこまで解明されまた、どのようなことが問題になっているかを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:岡田晴恵著「H5N1型ウイルス襲来」(角川SSC新書) 、森敏著「認知症のとらえ方・対応の仕方」(金芳堂)
成績評価	レポート100% (自分の考えを入れないネットの引写しは不合格) 5回を超える欠席の場合、評価対象としない。

科目名	人間にとって環境とは何か
担当教員	近藤　隆二郎
授業概要	環境問題とは単なる解くべき客観的問題ではなく、かかわる自分の立ち位置も問われる難しい問題である。自然を含む環境の中に自己を位置づけ直す新しい学問体系を展開する。環境問題の複雑な絡みあいと、その中に翻弄される人間を描き出す。歴史の中で生成されてきた「環境」という概念の扱われ方を追うことで、私たちの今までをふりかえる。そのような営みの場から、これからの暮らしを考えていく上で私たち自身が何をどうとらえていくかを見つけ出そうとする。
到達目標	(1)環境からみた歴史の見方を体得すること。 (2)人間社会の持つ無意識な暴力性について理解を深めること。 (3)自分たちの暮らしを見直す視座を持つこと。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回の講義でプリントを配布する。 参考書:末石冨太郎『環境学ノート』(世界書院), 飯島伸子『環境社会学のすすめ』(丸善), 小原秀雄・羽仁進『ペット化する現代人』(日本放送出版協会), 小野芳朗『〈清潔〉の近代 』(講談社)
成績評価	専用BBSへの書き込み評価100%(回数評価40%＋内容評価60%)

科目名	比較住居論
担当教員	山根　周
授業概要	世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な(ヴァナキュラーな)さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、世界各地の事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。
到達目標	世界の多様な住居のあり方を学び、「住む」という行為の持つ意味と、住まいの空間について、地域に固有な構成原理を考察し、相対的位置づけができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布。 参考書:①布野修司編『世界住居誌』 昭和堂 2005、②布野修司編 アジア都市建築研究会著『アジア都市建築史』 昭和堂 2003、③B.ルドフスキー著 渡辺武信訳『建築家なしの建築』 鹿島出版会 1984　他。
成績評価	レスポンスペーパーとレポート(小レポート2～3本／期末レポート1本)により評価。成績への寄与率はレスポンスペーパー30%, 小レポート合計30%, 期末レポート40%。小レポートと期末レポートをすべて提出していることが、成績評価の前提。

科目名	比較都市論
担当教員	布野　修司
授業概要	都市と何か。その定義（本質）、起源（成立）、その歴史をめぐって都市を媒介とする知の領野（都市生態学、都市地理学、都市社会、都市の記号学・・・・）を総覧しながら議論したい。そして、都市の類型、都市の歴史を理解する枠組みについて整理したい。視点とするのは、都市の形態、空間構成、計画理念である。そこでは、可能な限り多様な都市のあり方をとりあげたい。また、多様な構成原理を明らかにしたい。特に、非西欧における都市をとりあげたい。目指すは、世界都市論、世界都市（計画）史である。
到達目標	都市の歴史について洋の東西を問わずその概要について基本的知識を身につける。また、都市の成り立ちに関する基本的な理論について理解するとともに、様々な分野からの都市研究の方法があることを理解する。また、都市計画の方法、まちづくりの方法について基本的知識を得る。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:『都市史図集』（彰国社） 参考書:授業時に適宜指示する。
成績評価	レポート評価80％　試験20％

科目名	比較文明論
担当教員	定森　秀夫
授業概要	古代文明の発生・展開・消滅の過程から、現代文明の未来を展望してみたい。古代文明にはエジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・中国文明の四大文明があり、新大陸にはインカ・マヤ・アステカ文明などがよく知られているが、その他に多様な文明が知られるようになってきた。本授業では、古代文明の相互の比較検討を通して、文明相互の共通性と相違性を認識し、時代と地域を越えて文明の融合は可能なのか、もし融合が可能でないとしたら、文明間の相互理解はどのようにしたら可能なのか、を考えていく契機を提供したい。
到達目標	1. 古代文明の内容を理解する 2. 古代文明と現代文明を時代と地域を越えて比較検討できるようにする 3. 文明間の相互理解のための方策を考える
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント資料を配布する 参考書:授業中に紹介する
成績評価	講義理解度60％　レポート（小レポート2回・期末レポート）40％　で成績評価

科目名	びわこ環境行政論
担当教員	井手　慎司
授業概要	地方自治体の政策は、開発と保全の両方から地域環境に大きな影響を及ぼす。滋賀県をフィールドに各分野の政策立案にかかわる行政担当者の講義を通じて、地域環境政策の課題を学び、琵琶湖という環境資産をもつ地域の持続可能な発展への政策とその実施について考える。（なお、ゲスト講師の都合により、講義の順序が入れ替わることがある。）
到達目標	びわ湖を中心とした環境をめぐる課題の所在を理解するとともに、持続可能な社会へ向かう政策のあり方について考える。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:『琵琶湖ハンドブック』 以下のURLから入手できます。　http://www.pref.shiga.jp/biwako/koai/handbook/index.html
成績評価	毎回の授業で提出するレポート75%、期末試験25%

科目名	若者の健康と栄養
担当教員	佐野　光枝　・　吉田　龍平　・　高山　博史　・　柴田　克己　・　廣瀬　潤子
授業概要	恒常性を保つには日々摂取する栄養素の量を変えなければ、恒常性を維持することはできない」ということになります。恒常性からの逸脱が病気ということになります。すると「有事」が起こったとからだは判断し、恒常性を維持するために、様々な防御機構が作動し、見かけ上、好ましくない代謝変動が起こります。この「若者の健康と栄養」では、複数の教員が、からだが恒常性を維持するために、すなわち健康を維持するために、「平時」から「過渡期」、そして「有事」に対していかにして戦っているかを講義します。
到達目標	動的平衡状態すなわち体内恒常性の維持を説明できること
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：講義内で適宜指示する 参考書：講義内で適宜指示する
成績評価	小テスト・レポート100%（6回以上の欠席者は評価対象にしない。）

２　環境科学部科目履修の手引

１　環境科学部各学科の教育目標について

（１）　環境生態学科

環境生態学科の学生には、授業を通して、実際の環境での問題を発見し、その対処法を提案することを求めます。環境問題を発見して解析する能力を養うため、幅広い分野で少人数制の先鋭的な授業を展開しています。我々のカリキュラムは、従来の基礎科学のうち環境問題解決に特に必要な基礎分野を統合して学習することから始まります。その上で、各分野で特に重要な事項に関する実習・実験科目を履修します。この段階では、実際の野外環境を題材として学習します。４年生では一年かけて卒業研究にとりくみます。学生は滋賀県の恵まれたフィールドにじかに触れ、環境調査への即戦力的実力を身に付けます。

（２）　環境政策・計画学科

環境政策・計画学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標にカリキュラムが組まれています。環境政策や環境計画は、さまざまなプロジェクトの設計、イベントの計画、ビジネスの構築、行政計画において必要となる、環境を配慮した目標達成のための人間および社会を対象とした政策や計画です。したがって、環境政策や環境計画を学ぶために、人間行動や社会システムに関する科目群と環境および環境と人間活動の相互作用に関する科目群を学習するとともに、環境フィールドワークの延長としての実習、演習系の科目群が配置されています。これらの科目群を学んだ後に、フィールドワークを踏まえた卒業研究を通して政策や計画の理論と技法を身につけることができるようにカリキュラムが編成されています。

（３）　環境建築デザイン学科

本学科は、我が国で初めて創設された環境科学部に属する建築学科です。従来の工学的建築の枠組み、専門性を超えて、自然と人間・社会の相互の関係性、連続性、人間の生活に根ざした視点に価値をおく環境科学的枠組みが必要であるという共通の認識のもと、建築や地域・都市を深く探求し、創造的な提案をしていく専門的な能力を個々に養いつつ、それらの総合化を目指しています。そのプロフェッションをキーワードで示せば、「循環」「再生」「持続」「長寿命」「省エネ」「景観」「融合」「調整」「生態」などがあげられます。強い意志で環境問題を理解し、環境倫理を持つ建築の学生を輩出するのが本学科の目標です。

（４）　生物資源管理学科

環境負荷の少ない持続可能な社会を形成するためには、生物生産、生物機能を活用する必要があるといわれ、生物資源管理の重要性が大きくなっています。生物資源管理学科では、このような社会からの期待に応える意志と能力を有する人材を育成したいと考えます。このため、学生諸君は幅広い課題を学びつつ、専門性の高い分野の修得にも努めてもらいたいと考えます。当学科では、生物生産、生物機能利用、地域環境管理の３つの履修コースを設け、２回生後期の段階から、いずれのコースを深めるかを選択するようにしています。また、フィールドワークなど現場、現地に密着した学習から、実験室内の最先端の解析・分析技術の習得まで、必要に応じたメニューを提供するようにカリキュラムを編成しています。

2　環境科学部共通科目の履修について

① 環境フィールドワーク（ＦＷ）は、１年次にＦＷⅠ、２年次にＦＷⅡ、３年次にＦＷⅢがあります。これらのうちＦＷⅠとＦＷⅡは必修科目で、ＦＷⅢは選択科目です。ＦＷⅢはテーマにより実施時期がことなるので、通年講義で３単位とします。

② 専門科目は、学部共通基礎科目、複数学科共通科目、学科専門科目からなっています。これらの科目の履修の仕方については各学科の指示にしたがってください。

③ 専門科目の中には同じ科目名の後にⅠ、Ⅱを付した科目があります。これらはそれぞれ独立した科目ですが、できるだけⅠを付した科目から履修し、その後Ⅱを付した科目を履修するようにしてください。

④ 基礎数学Ⅰ、Ⅱは、高校で数学Ⅲと数学Ｃを履修していない１回生を対象にしています。高校で両科目を履修したものは、履修するに及びません。

⑤ ３回生までに単位履修が十分でないときは、４年次に卒業研究の単位履修を認めないことがあります。その条件は、学科で決められています。

全学共通科目年次別配当表（環境科学部対応部分）　※留学生はP.12参照

科目名	担当教員	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考	
1　全学共通科目												
1.1全学共通基礎科目												
英語Ⅰ		2	○	○							必修、通年科目	
英語Ⅱ		2	○	○							必修、通年科目	
英語Ⅲ		2			○	○					必修、通年科目	
英語Ⅳ		2			○	○					必修、通年科目	
英語ⅤA		1					○		○		選択	
英語ⅤB		1						○		○	選択	
英語ⅥA		1					○		○		選択	
英語ⅥB		1						○		○	選択	
第二外国語Ⅰ		各２	○	○							選択必修、通年科目	
第二外国語Ⅱ		各２			○	○					選択必修、通年科目	
（独語Ⅰ・Ⅱ、仏語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、(注)初習英語Ⅰ・Ⅱより合わせて４単位選択必修）												
独語ⅢA		1					○		○		選択	
独語ⅢB		1						○		○	選択	
仏語ⅢA		1					○		○		選択	
仏語ⅢB		1						○		○	選択	
情報科学概論		2		○							必修	
情報リテラシー(情報倫理を含む)（注2）		2	○								必修	
プログラミング基礎（注3）		2			○						選択	
健康・体力科学Ⅰ		1		○							必修	
健康・体力科学Ⅱ		1			○						必修	

(注1) 初習英語Ⅰ・Ⅱは、入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。(詳細についてはP.12、47参照)

(注2) 平成21年度以前入学生に対しては、「情報処理演習Ⅰ」(必修1単位)に読み替えます。

(注3) 平成21年度以前入学生に対しては、「情報処理演習Ⅱ」(必修1単位)に読み替えます。

1.2人間学（４単位必修、８単位選択必修）												
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ総論	全学部教員	2	○								必修	
人間探求学	各学部教員	2	○								必修	
差別と人権(同和問題)	吉田(一)・松本・裵	2	○		○		○		○		選択必修	こころ
比較文明論	定森秀夫	2		○		○		○		○	選択必修	(Ethics)
東洋思想時空論	石田法雄	2		○		○		○		○	選択必修	
ｾﾙﾌｹｱ論(心理臨床論)	松本行弘	2	○		○		○		○		選択必修	
人間にとって環境とは何か	近藤隆二郎	2		○		○		○		○	選択必修	
環境行動論	村上修一	2	○		○		○		○		選択必修	
生命・人間・倫理	糸島ほか	2		○		○		○		○	選択必修	
現代経済論	鈴木康夫	2		○		○		○		○	選択必修	しくみ
びわこ環境行政論	井手ほか	2		○		○		○		○	選択必修	(Social
近江文化論	京樂真帆子	2		○		○		○		○	選択必修	Studies)
人間とことば	地蔵堂・長島・呉・吉村	2		○		○		○		○	選択必修	
異文化理解A	国際交流委員会	2	○		○		○		○		選択必修	
異文化理解B	国際交流委員会	2		○		○		○		○	選択必修	
若者の健康と栄養	生活栄養学科教員	2		○		○		○		○	選択必修	
地元学入門	近藤(隆)ほか	2		○		○		○		○	選択必修	
社会福祉論	打田信彦	2		○		○		○		○	選択必修	
性を考える	京樂ほか	2		○		○		○		○	選択必修	
地域探求学	鵜飼ほか	2		○		○		○		○	選択必修	
自然保護論	西田隆義	2		○		○		○		○	選択必修	しぜん
人間と自然界	黒田末壽	2	○		○		○		○		選択必修	(Natural
滋賀の自然史	浜端悦治	2		○		○		○		○	選択必修	Sciences)
材料史	菊地・熊谷	2	○		○		○		○		選択必修	
自然科学の視点	松岡純	2		○		○		○		○	選択必修	
詩歌と人間	上村盛人	2	○		○		○		○		選択必修	わざ
こころのテクノロジー	細馬宏通	2		○		○		○		○	選択必修	(Technology)
人間と病気	山田明	2	○		○		○		○		選択必修	
持続的農業論	泉泰弘	2		○		○		○		○	選択必修	
比較都市論	布野修司	2	○		○		○		○		選択必修	
機械技術と人間	田中他喜男	2		○		○		○		○	選択必修	
電子社会と人間	柳沢淳一	2		○		○		○		○	選択必修	
比較住居論	山根周	2	○		○		○		○		選択必修	
遺伝子と社会	長谷川博	2		○		○		○		○	選択必修	

(注)空間計画論は、専門科目に分類される。
　　環境行動論は、環境政策・計画学科と環境建築デザイン学科においては、専門科目に分類される。

3　環境生態学科専門科目の履修について

（1）　環境生態学科卒業要件

［平成２２／２３年度入学生用］

1　全学共通科目（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上		
①　共通基礎科目	１８単位以上	※留学生はP.12 参照
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）　８単位	
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論４単位	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位	
②　人間学	１２単位以上（「空間計画論」は除かれる。） （「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	
2　専門科目（計　１００単位以上）　必修５８単位、選択４２単位以上		
①　必修	年次別配当表に指定する科目　５８単位	
②　選択	年次別配当表に指定する科目から４２単位以上 ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条）	
合計	１３０単位以上	

【卒業研究等履修要件】原則として合計１１０単位

【卒業研究等審査基準】

1　卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。

(1) 研究目的の妥当性

(2) 研究方法の的確性・独創性

(3) 研究内容の新規性・学術性・社会性

(4) 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性

(5) 卒業論文の論理性

2　卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3　上記１ならびに２による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

［平成２１年度以前入学生用］

１　全学共通科目（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上		
①　共通基礎科目	１８単位以上	
	第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）　８単位
	第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上
	情報処理	情報処理演習Ⅰ・Ⅱ、情報科学概論　４単位
	保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位
②　人間学	１２単位以上（「空間計画論」は除かれる。） （「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	
２　専門科目（計１００単位以上）　必修３８単位、選択６２単位以上		
①　必修	年次別配当表に指定する科目　３８単位	
②　選択	年次別配当表に指定する科目から６２単位以上 ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条）	
合計	１３０単位以上	

【卒業研究等履修要件】原則として合計１１０単位

環境生態学科・専門科目履修モデル（平成22・23年度入学生用）

太字…必修科目，細字…選択科目

※構造・機能・保全修復科学の選択科目に関しては、陸域環境保全コースまたは水域環境保全コースの科目を一通り履修することが推奨されます。関心領域や卒業後の進路をよく考えてコースを選択してください（他コースの推奨科目も履修できます）。

＜学部共通基礎科目＞

学年	学期			
1	前	**環境科学概論Ⅰ**	**環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ**	基礎数学Ⅰ
	後	**環境科学概論Ⅱ**	基礎数学Ⅱ	
2	前	**環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ**		
	後	**環境学原論**		
3	前・後	環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ		

＜複数学科専門科目および学科専門科目＞

	学年	学期			
〈学科基礎〉	1	前	**環境化学Ⅰ**	環境生物学実験	環境数学Ⅰ・演習
		後	**環境物理学Ⅰ**	**環境生物学Ⅰ**	**琵琶湖環境学**
			環境変遷史	**環境生態学基礎演習**	環境化学実験
			環境数学Ⅱ・演習		
	2	前	**環境地球科学Ⅰ**	環境地球科学Ⅱ	環境物理学実験
			環境地球科学実験		
		後	環境生物学Ⅱ		
	3	前	**環境生態学外書講読**	環境物理学Ⅱ	環境化学Ⅱ
		後	**環境生態学外書表現**		
			陸域環境保全コース推奨科目	両コース共通	水域環境保全コース推奨科目
〈構造科学〉	2	前	森林環境学	河川環境学	海洋環境学
		後	大気環境学	集水域環境学	湖沼環境学
〈機能科学〉	3	前	陸域物質循環論	集水域環境機能論	水域物質循環論
			陸域環境機能論	集水域物質循環論	水域環境機能論
〈保全修復科学〉	3	後	陸域環境影響調査指針	集水域環境影響調査指針	水域環境影響調査指針
			陸域生態系保全修復論	集水域生態系保全修復論	水域生態系保全修復論
〈解析科学〉	2	前	**環境統計解析学**		
		後	**環境解析学・同実験**	**集水域環境学・同実験**	
	3	前	**陸域環境学・同実験**	**水域環境学・同実験**	
	4	後	**環境論考解析学**		
〈野外科学〉	1	前	環境学野外実習Ⅰ		
	2	前	環境学野外実習Ⅱ		
	3	前	環境学野外実習Ⅲ		
〈卒業研究〉	3	後	**環境生態学特別実習**		
	4	前	**環境生態学演習Ⅰ**	**卒業研究Ⅰ**	
	4	後	**環境生態学演習Ⅱ**	**卒業研究Ⅱ**	

（２）環境生態学科年次別配当表（平成22/23年度入学生用）

科目名	担当教員	単位	1年		2年		3年		4年		備考	
			前	後	前	後	前	後	前	後		
２　専門科目												
2.1学部共通基礎科目												
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ	学部教員	3	○								必修	
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ	学部教員	3			○						必修	
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ	学部教員	3					○	○			選択	
環境学原論	村上修一	2				○					必修	
環境科学概論Ⅰ	長谷川・他	2	○								必修	
環境科学概論Ⅱ	伊丹・他	2		○							必修	
基礎数学Ⅰ	市川源一	2	○								選択	
基礎数学Ⅱ	市川源一	2		○							選択	
2.2複数学科共通科目												
持続可能社会論※	富岡昌雄	2			○						選択	
空間計画論	水原渉	2				○					選択	
環境監査	西田（一）・高橋	2					○				選択	
エコロジー経済学※	林宰司	2						○			選択	
環境政策学	秋山道雄	2				○					選択	
環境アセスメント	錦澤・杉本・多島	2					○				選択	
環境数学Ⅰ・演習	廣島幸正	3	○								選択	
環境数学Ⅱ・演習	廣島幸正	3		○							選択	
環境生物学Ⅰ	浦部美佐子	2		○							必修	
環境生物学Ⅱ	浅岡一雄	2				○					選択	
環境生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	泉･西田･伴･野間･籠谷･上町･入江･清水・原田・杉浦	2	○								選択	
環境物理学Ⅰ	倉茂好匡	2		○							必修	
環境物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	倉茂･岩間･堂満･三浦	2			○						選択	
環境化学Ⅰ	丸尾雅啓	2	○								必修	
環境化学Ⅱ	未定	2					○				選択	本年度開講せず
環境化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	永淵・丸尾･上田･須戸･肥田	2		○							選択	
環境地球科学Ⅰ	堂満華子	2			○						必修	
環境地球科学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	三田村･倉茂･後藤･堂満	2			○						選択	
環境統計解析学	籠谷泰行	2			○						必修	
河川環境学	倉茂好匡	2			○						選択	
森林環境学	野間直彦	2			○						選択	
水環境政策論	井手慎司	2			○						選択	
遺伝学	長谷川博	2			○						選択	
測量学	小谷廣通	2			○						選択	
水文学	千家正照	2			○						選択	
生物資源管理学実験・実習Ｘ	小谷･岩間	2			○						選択	
地域環境政策論	香川雄一	2			○						選択	
環境解析学・同実験	永淵･丸尾・尾坂	4				○					必修	
湖沼環境学	後藤直茂	2				○					選択	
生物統計学	清水顕史	2				○					選択	
動物生態学	沢田裕一	2				○					選択	
陸域環境機能論	肥田嘉文	2					○				選択	本年度開講せず
集水域環境機能論	永淵修	2					○				選択	本年度開講せず
集水域物質循環論	尾坂兼一	2					○				選択	本年度開講せず
土壌環境化学	須戸幹	2					○				選択	
農薬環境学	須戸幹	2					○				選択	
分子生物学	入江俊一	2					○				選択	
陸域環境影響調査指針	野間直彦	2						○			選択	本年度開講せず
水域環境影響調査指針	伴修平	2						○			選択	本年度開講せず
陸域生態系保全修復論	浜端悦治	2						○			選択	本年度開講せず
集水域生態系保全修復論	浦部美佐子	2						○			選択	本年度開講せず
水域生態系保全修復論	後藤直茂	2						○			選択	本年度開講せず
地球環境システム論	未定	2						○			選択	

2.3学科専門科目										
琵琶湖環境学	三田村緒佐武	2		○					必修	
環境変遷史	堂満華子	2		○					必修	
環境地球科学Ⅱ	山口弘	2			○				選択	
海洋環境学	伴修平	2			○				選択	
大気環境学	永淵修	2				○			選択	
集水域環境学	尾坂兼一	2				○			選択	
集水域環境学・同実験	浜端・肥田・浦部・尾坂・倉茂・堂満	4				○			必修	
環境物理学Ⅱ	村岡良和	2					○		選択	本年度開講せず
水域環境機能論	丸尾雅啓	2					○		選択	本年度開講せず
水域物質循環論	三田村緒佐武	2					○		選択	本年度開講せず
陸域物質循環論	籠谷泰行	2					○		選択	本年度開講せず
陸域環境学・同実験	野間・浜端･籠谷・西田	4					○		必修	本年度開講せず
水域環境学・同実験	三田村･伴･浦部･後藤	4					○		必修	本年度開講せず
集水域環境影響調査指針	肥田嘉文	2						○	選択	本年度開講せず
環境論考解析学	西田隆義	2						○	必修	本年度開講せず
環境生態学特別実習	学科教員	3						○	必修	本年度開講せず
環境学野外実習Ⅰ	学科教員	1	○						選択	
環境学野外実習Ⅱ	学科教員	1			○				選択	
環境学野外実習Ⅲ	学科教員	1					○		選択	本年度開講せず
環境生態学外書講読	学科教員	1					○		必修	本年度開講せず
環境生態学外書表現	学科教員	1						○	必修	本年度開講せず
環境生態学基礎演習	学科教員	1		○					必修	
環境生態学演習Ⅰ	学科教員	1						○	必修	
環境生態学演習Ⅱ	学科教員	1						○	必修	
卒業研究Ⅰ	学科教員	3						○ (○)	必修	
卒業研究Ⅱ	学科教員	3						(○) ○	必修	

（２）環境生態学科年次別配当表（**平成21年度以前入学生用**）

科目名	担当教員	単位	1年		2年		3年		4年		備考
			前	後	前	後	前	後	前	後	
２　専門科目											
2.1学部共通基礎科目											
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ	学部教員	3	○								必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ	学部教員	3			○						必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ	学部教員	3					○	○			選択
環境学原論	村上修一	2				○					必修
環境科学概論Ⅰ	長谷川・他	2	○								必修
環境科学概論Ⅱ	伊丹・他	2		○							必修
基礎数学Ⅰ	市川源一	2	○								選択
基礎数学Ⅱ	市川源一	2		○							選択
2.2複数学科共通科目											
持続可能社会論 ※2	富岡昌雄	2			○						選択
空間計画論	水原渉	2				○					選択
環境監査※	西田（一）・高橋	2					○				選択
エコロジー経済学 ※2	林宰司	2						○			選択
環境政策学	秋山道雄	2				○					選択
環境アセスメント	錦澤・杉本・多島	2					○				選択
環境数学Ⅰ・演習	廣島幸正	3	○								選択
環境数学Ⅱ・演習	廣島幸正	3		○							選択
生物学Ⅰ		2		○							本年度開講せず※１
生物学Ⅱ		2				○					本年度開講せず※１
生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)		2	○								本年度開講せず※１
物理学Ⅰ		2		○							本年度開講せず※１
物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）		2			○						本年度開講せず※１
化学Ⅰ	未定	2	○								選択
化学Ⅱ	丸尾雅啓	2					○				選択
化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)		2		○							本年度開講せず※１
地学Ⅰ		2			○						本年度開講せず※１
地学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)		2			○						本年度開講せず※１
生物系統分類学		2	○								本年度開講せず※１
地域環境政策論 ※3	香川雄一	2			○						選択
遺伝学	長谷川博	2			○						選択
環境統計学		2			○						本年度開講せず※１
測量学	小谷廣通	2			○						選択
生物資源管理学実験・実習Ⅹ ※2	小谷･岩間	2			○						選択
環境分析化学		2			○						本年度開講せず※１
陸水生物学		2			○						本年度開講せず※１
生物統計学	清水顕史	2				○					選択
動物生態学	沢田裕一	2				○					選択
陸水物理学		2				○					本年度開講せず※１
土壌環境化学	須戸幹	2					○				選択
水文学	千家正照	2			○						選択
植物生態学		2				○					本年度開講せず※１
環境化学		2				○					本年度開講せず※１
農薬環境学	須戸幹	2					○				選択
生態系生態学		2				○					本年度開講せず※１
微生物生態学 ※2		2				○		○			本年度開講せず※１
分子生物学	入江俊一	2					○				選択
生物資源管理学実験・実習Ⅵ ※2	沢田･岡野	2					○				選択
環境生化学	肥田嘉文	2						○			選択
森林資源管理学	浜端悦治	2					○				選択
環境化学・実験	永淵･丸尾・後藤・肥田・尾坂	4					○				必修
地球環境システム論 ※2	未定	2						○			選択
水環境政策論 ※2	井手慎司	2			○						選択
水環境管理学	伴・後藤	2					○				選択

2.3学科専門科目									
気象・気候学		2		○					本年度開講せず※１
自然環境特別実習Ⅰ		1		○					本年度開講せず※１
物理学Ⅱ	村岡良和	2				○			選択
地学Ⅱ		2		○					本年度開講せず※１
陸水環境学		2			○				本年度開講せず※１
環境毒性学		2			○				本年度開講せず※１
大気水圏科学・実験		4			○				本年度開講せず※１
森林生物学・実験	野間･浜端･籠谷・西田	4				○			必修
専門外書講義Ⅰ	学科教員	1				○			必修
陸水生態学・実験	三田村･伴･浦部	4				○			必修
生物地球化学	三田村緒佐武	2				○			選択
環境地学	堂満華子	2				○			選択
海洋環境学	伴修平	2		(○)		(○)			選択
自然環境特別実習Ⅱ	学科教員	1				○			選択
専門外書講義Ⅱ	学科教員	1					○		必修
環境生態学演習Ⅰ	学科教員	1						○	必修
環境生態学演習Ⅱ	学科教員	1						○	必修
卒業研究Ⅰ	学科教員	3						○ (○)	必修
卒業研究Ⅱ	学科教員	3						(○) ○	必修

※1 これらの科目の履修については、平成22年度以降入学生向け開講科目を読み替えます。別表を参照してください。

※2 平成18年度以前入学生は、「持続可能社会論」を「環境経済学概論」に、「環境監査」を「環境監査総論」に、「エコロジー経済学」を「環境監査各論」に、「生物資源管理学実験・実習Ｘ」を「測量実習」に、「生物資源管理学実験・実習ＸＩ」を「生物資源管理学実験Ｖ」に、「地球環境システム論」を「大気環境システム論」に、「水環境政策論」を「水環境システム論」読み替えます。

※3 平成17年度以前入学生は、「地域環境政策論」を「環境意味論」に読み替えます。

（平成21年度以前入学生用）　　科目読替え対照表

（科目名）	選必	前・後	（読み替える平成22年度以降入学生向け開講科目）	前・後	備考
生物学Ⅰ	選択	後	環境生物学Ⅰ	後	
生物学Ⅱ	選択	後	環境生物学Ⅱ	後	
生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	選択	前	環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	前	
物理学Ⅰ	選択	後	環境物理学Ⅰ	後	
物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	選択	前	環境物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	前	
化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	選択	後	環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	後	
地学Ⅰ	選択	前	環境地球科学Ⅰ	前	
地学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	選択	前	環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	前	
生物系統分類学	選択	前	陸域環境影響調査指針	後	本年度開講せず（平成24年開講予定）
環境統計学	選択	前	環境統計解析学	前	
環境分析化学	選択	前	集水域環境機能論	前	本年度開講せず（平成24年開講予定）
陸水生物学	選択	前	集水域生態系保全修復論	後	本年度開講せず（平成24年開講予定）
陸水物理学	選択	後	河川環境学	前	
植物生態学	選択	後	森林環境学	前	
環境化学	選択	後	集水域物質循環論	前	本年度開講せず（平成24年開講予定）
生態系生態学	選択	後	水域環境影響調査指針	後	本年度開講せず（平成24年開講予定）
微生物生態学	選択	後	湖沼環境学	後	
気象・気候学	選択	前	大気環境学	後	
自然環境特別実習Ⅰ	選択	前	環境学野外実習II	前	
地学Ⅱ	選択	前	環境地球科学II	前	
陸水環境学	選択	後	琵琶湖環境学	後	
環境毒性学	選択	後	水域環境機能論	前	本年度開講せず（平成24年開講予定）
大気水圏科学・実験	必修	後	集水域環境学・同実験	後	

4　環境政策・計画学科専門科目の履修について

（1）　環境政策・計画学科専門科目履修上の注意

環境政策・計画学科科目配当表を参照しながらこの説明を読んでください。

当学科で学士（環境科学）の学位授与の資格を得るためには、所定の科目の単位を修得しなければなりません。科目配当表に示すように、全科目は、基礎・理論系と基礎・技法系，発展・技法系、発展・理論系といったグループから構成されています。前のページに示した全学共通科目に加えて、環境政策・計画学科科目配当表にリストしてある学科必修科目のグループから全科目（３９単位)、学科選択必修科目Ａのグループから１７単位以上、学科選択必修科目のＢグループから２２単位以上を必ず選択しなければなりません。残りの単位は選択必修Ａ、選択必修Ｂ、選択科目のグループから選択することになります。科目群構成を参考にして系統的な履修を心がけてください。

この配当表に記載のない科目（他学部他学科の科目）を選択してもよいですが、この場合１０単位に限り、学士（環境科学）の学位授与資格に必要な専門科目に組み入れることができます。

・学科選択科目のグループの概要

基礎・理論系科目：政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶための科目群です。

基礎・技法系科目：フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から，計画演習といった環境問題に関わる政策・計画をおこなう技法を学ぶための科目群です。

発展・技法系科目：政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶための科目群です。

発展・理論系科目：政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶための科目群です。

選択科目：政策立案・計画策定に関わる多様な領域の考え方を学ぶための科目群です。

・選択に際しての留意事項

① 高学年に配当されている科目を低学年のうちに履修したいときは、事前に担当教員の許可が必要です。

② 学科科目配当表の選択科目のグループにリストされていても、実験演習科目の場合は、履修に先立ち担当教員の許可が必要です。配当表にリストされていない他学部他学科の実験演習科目の場合もこれと同じです。

③ 学年担任、あるいは人間探求学（月曜日 1 時限）の教員のアドバイスを受けて、履修科目の決定が望まれます。

（２） 環境政策・計画学科卒業要件

１　全学共通科目（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上

① 共通基礎科目	１８単位以上	※留学生はP.12 参照
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）　８単位	
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位	
② 人間学	１２単位以上（「環境行動論」と「空間計画論」を除く。） （「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	

２　専門科目（計　１００単位以上）　必修３９単位、選択必修３９単位以上、選択２２単位以上

① 必修	年次別配当表に指定する科目　３９単位
② 選択必修	年次別配当表のＡグループから１７単位以上、Ｂグループから２２単位以上、合計３９単位以上
③ 選択	科目配当表に指定する科目から２２単位以上 ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条）
合計	１３０単位以上

【卒業研究等履修要件】

全学共通科目：２６単位以上
　　全学共通基礎科目１８単位以上
　　人間学*８単位以上（「環境行動論」と「空間計画論」を除く。）

専門科目：８４単位以上
　　専門必修科目　３１単位以上
　　選択必修科目　３９単位以上（科目配当表の「選択必修Ａ」から１７単位以上、「選択必修Ｂ」から２２単位以上）
　　専門選択科目*　１４単位以上

*認定される科目とされない科目があるので十分留意すること。

【卒業研究等審査基準】

１　卒業研究（卒業論文）は、以下の評価項目によって審査する。
(1) 研究目的の明確性や新規（独創）性
(2) 論文の論理展開の明快さ
(3) 目的達成のための調査量
(4) 結論としての知見の社会的あるいは学術的な有用性
(5) 論文の完成度
(6) プレゼンテーション技法と質疑応答能力
(7) 卒業研究への取り組みの熱意

２　卒業研究（卒業論文）は、発表会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

３　１および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

環境政策・計画学科　H23年度科目配当表

学年	学期	全学共通基礎	人間学	基礎・理論系（必修）	基礎・技法系（必修）	発展・技法系(選択必修A)	発展・理論系（選択必修B）	選択科目
1年	前期	◎英語Ⅰ[通年] 2 ◎英語Ⅱ[通年] 2 ◎第2外国語Ⅰ[通年] 2 ◎情報リテラシー 2	環境マネジメント総論 2 人間探求学 2	環境科学概論Ⅰ 2 基礎統計 2	環境フィールドワークⅠ 3 地域調査法 2		地域システム論 2 市民参加論 2	基礎数学Ⅰ 2
	後期	◎健康・体力科学Ⅰ 1 ◎情報科学概論 2		環境科学概論Ⅱ 2 応用数学 2	政策形成・施設演習 2 地域調査法演習 1		環境社会学 2	基礎数学Ⅱ 2 経済学Ⅰ 2 環境生物学Ⅰ 2 環境物理学Ⅰ 2 植物生産学 2
2年	前期	◎英語Ⅲ[通年] 2 ◎英語Ⅳ[通年] 2 ◎第2外国語Ⅱ[通年] 2 ◎健康・体力科学Ⅱ 1		応用統計学Ⅰ 2	環境フィールドワークⅡ 3	環境情報演習 1 ファシリテーション技法 2 ファシリテーション技法演習 1	環境法Ⅰ 2 まちづくり実践論 2 水環境政策論 2 地域開発論 2 地域環境政策論 2 持続可能社会論 2	経済学Ⅱ（国際経済を含む） 2 社会学（隔年） 2 政治学Ⅰ 2 法学概論（国際法を含む） 2 水文学 2
	後期	プログラミング基礎 (2)		環境学原論 2 応用統計学Ⅱ 2 環境政策学 2 環境計画学 2		社会システム分析設計 2 社会システム分析設計演習 1 合意形成支援技法 2 合意形成支援技法演習 1 GIS演習 1	地球環境システム論 2 環境法Ⅱ 2 資源経済学 2 環境経営論 2	現代社会論(隔年) 2 景観計画 2 政治学Ⅱ（国際政治を含む） 2 空間計画論 2
3年	前期				政策計画演習Ⅰ 1	イベント計画論 2 イベント計画演習 1 環境監査 2 環境マネジメント演習 1 環境アセスメント 2	廃棄物管理論 2 環境会計 2 環境経済学 2	社会調査実習　通年 1 地域再生システム論 2 環境フィールドワークⅢ通年 3 環境行動論 2 コミュニティ計画論 2 哲学概論A 2 心理学基礎 2 環境化学Ⅱ 2 社会心理学 2 集水域物質循環論 2
	後期				政策計画演習Ⅱ 1	環境アセスメント演習 1 環境シミュレーション 2	環境倫理学 2 エコロジー経済学 2 国際環境資源論 2	流域環境管理学 2 エネルギー変換工学 2 比較文化論 2 環境技術史 2 土壌環境情報学 2 水域生態系保全修復論 2 水理学 2
4年	前期				政策計画演習Ⅲ　前期 1 卒業研究　通年 6			アジア交流論 2 地域生活論 2 文化財・保存修景論A 2 比較宗教論 2 政治経済学 2 天然物化学基礎 2
	後期				政策計画演習Ⅳ　後期 1			社会変動論 2 電子と化学結合 2 哲学概論B 2 経営とネットワークの社会学 2
合計単位		全学共通基礎科目 18	人間学 12	18	21	22 このうちから17単位以上選択	38 このうちから22単位以上選択	84
				必修単位合計 39		選択必修A 17	選択必修B 22	選択
						「選択必修」および「選択」単位合計		61

（３）環境政策・計画学科年次別配当表

科目名	担当教員	単位	1年		2年		3年		4年		備　　考
			前	後	前	後	前	後	前	後	
２　専門科目											
2.1学部共通基礎科目											
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ	学部教員	3	○								必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ	学部教員	3			○						必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ	学部教員	3					○	○			選択
環境学原論	村上修一	2				○					必修
環境科学概論Ⅰ	長谷川・他	2	○								必修
環境科学概論Ⅱ	伊丹・他	2		○							必修
基礎数学Ⅰ	市川源一	2	○								選択
基礎数学Ⅱ	市川源一	2		○							選択
2.2複数学科共通科目											
地域調査法	香川雄一	2	○								必修
社会学	小野奈々	2			○						選択
経済学Ⅰ	河相俊之	2		○							選択
経済学Ⅱ（国際経済を含む）	吉川英治	2			○						選択
環境生物学Ⅰ※	浦部美佐子	2		○							選択
環境物理学Ⅰ※	倉茂好匡	2		○							選択
植物生産学	上町達也	2		○							選択
環境計画学※	柴田裕希	2				○					必修
景観計画	村上修一	2				○					選択
地域開発論	秋山道雄	2			○						選択必修Ｂ
環境経済学	林宰司	2					○				選択必修Ｂ
環境法Ⅰ	土屋・小沢	2			○						選択必修Ｂ
水環境政策論※	井手慎司	2			○						選択必修Ｂ
水文学	千家正照	2			○						選択
政治学Ⅰ	竹本知行	2			○						選択
政治学Ⅱ（国際政治を含む）	竹本知行	2				○					選択
法学概論（国際法を含む）	初谷良彦	2			○						選択
環境政策学	秋山道雄	2				○					必修
地域環境政策論※	香川雄一	2			○						選択必修Ｂ
環境経営論	高橋卓也	2				○					選択必修Ｂ
資源経済学	富岡昌雄	2				○					選択必修Ｂ
空間計画論	水原渉	2				○					選択
集水域物質循環論	尾坂兼一	2					○				選択
ｺﾐｭﾆﾃｨ計画論	柴田いづみ	2					○				選択
環境化学Ⅱ	未定	2					○				選択
水域生態系保全修復論	後藤直成	2						○			選択
土壌環境情報学※	中村公人	2						○			選択
環境倫理学	土屋正春	2						○			選択必修Ｂ
環境技術史	冨島義幸	2						○			選択
水理学	金木亮一	2						○			選択
流域環境管理学	皆川明子	2						○			選択
持続可能社会論※	富岡昌雄	2			○						選択必修Ｂ
環境アセスメント	錦澤・杉本・多島	2					○				選択必修Ａ
環境ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ※	井手慎司	2						○			選択必修Ａ
エコロジー経済学※	林宰司	2						○			選択必修Ｂ
環境監査※	西田（一）・高橋	2					○				選択必修Ａ
環境会計	富岡昌雄	2					○				選択必修Ｂ
国際環境資源論	富岡･高橋	2						○			選択必修Ｂ
地球環境システム論※	未定	2				○					選択必修Ｂ
文化財・保存修景論Ａ	濱崎･井口	2								○	選択
環境行動論	村上修一	2					○				選択
地域再生システム論	鵜飼・仁連・轟・他	2					○				選択

2.3学科専門科目								
基礎統計※	金谷健	2	○					必修
地域システム論	秋山道雄	2	○					選択必修Ｂ
市民参加論	小野奈々	2	○					選択必修Ｂ
天然物化学基礎	灘本・佐野	2					○	選択
ＧＩＳ演習※	香川雄一	1			○			選択必修Ａ
地域調査法演習※	香川雄一	1		○				必修
応用数学※	井手慎司	2		○				必修
政策形成・施設演習	学科教員	2		○				必修
応用統計学Ⅰ	未定	2			○			必修
ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ技法※	柴田裕希	2			○			選択必修Ａ
ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ技法演習※	柴田裕希	1			○			選択必修Ａ
まちづくり実践論※	佐々木和之	2			○			選択必修Ｂ
比較宗教論	（未定）	2					○	選択
応用統計学Ⅱ	林宰司	2			○			必修
環境ｱｾｽﾒﾝﾄ演習	柴田裕希	1				○		選択必修Ａ
合意形成支援技法※	金谷健	2			○			選択必修Ａ
合意形成支援技法演習※	金谷健	1			○			選択必修Ａ
社会ｼｽﾃﾑ分析設計	近藤隆二郎	2			○			選択必修Ａ
社会ｼｽﾃﾑ分析設計演習	近藤隆二郎	1			○			選択必修Ａ
環境法Ⅱ	土屋・小沢	2			○			選択必修Ｂ
環境社会学※	小野奈々	2		○				選択必修Ｂ
社会心理学	柿本敏克	2				○		選択
エネルギー変換工学※	河﨑澄	2				○		選択
環境情報演習	（未定）	1			○			選択必修Ａ
イベント計画論	近藤隆二郎	2				○		選択必修Ａ
イベント計画演習	近藤隆二郎	1				○		選択必修Ａ
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習※	高橋卓也	1				○		選択必修Ａ
廃棄物管理論	金谷健	2				○		選択必修Ｂ
電子と化学結合※	松岡純	2					○	選択
地域生活論	中塚圭子	2					○	選択
組織とネットワークの社会学	伊原亮司	2					○	選択
心理学基礎	那須光章	2				○		選択
哲学概論Ａ	鞍田崇	2				○		選択
哲学概論Ｂ	陶久明日香	2					○	選択
比較文化論	楊平	2				○		選択
社会変動論	丸山真央	2					○	選択
現代社会論	小野奈々	2			○	○		選択
政治経済学	伊原亮司	2					○	選択
社会調査実習	小野・高橋・林	1				○	○	選択
アジア交流論	阿部健一	2					○	選択
政策計画演習Ⅰ	学科教員	1				○		必修
政策計画演習Ⅱ	学科教員	1				○		必修
政策計画演習Ⅲ	学科教員	1					○	必修
政策計画演習Ⅳ	学科教員	1					○	必修
卒業研究	学科教員	6					○ ○	必修

※　平成１５年度以前入学生は「エネルギー変換工学」を「地域熱代謝論」に読み替えます。

※　平成１６年度以前入学生は「環境社会学」を「地域イベント論」に読み替えます。

※　平成１７年度以前入学生は「地域環境政策論」を「環境意味論」に、「地域調査法演習」を「数理統計学演習」に、「ＧＩＳ演習」を「ＧＩＳ/ＣＧ演習」に読み替えます。

※ 平成１８年度以前入学生は「環境計画学」を「環境計画論」に、「水環境政策論」を「水環境システム論」に、「持続可能社会論」を「環境経済学概論」に、「エコロジー経済学」を「環境監査各論」に、「環境監査」を「環境監査総論」に、「地球環境システム論」を「大気環境システム論」に、「基礎統計」を「実用数学Ⅰ」に、「応用数学」を「実用数学Ⅱ」に、「ファシリテーション技法」を「合意形成技法Ⅱ」に、「ファシリテーション技法演習」を「合意形成技法演習Ⅱ」に、「まちづくり実践論」を「比較環境文化論」に、「合意形成支援技法」を「合意形成技法Ⅰ」に、「合意形成支援技法演習」を「合意形成技法演習Ⅰ」に、「環境シミュレーション」を「環境モデリング」に、「環境マネジメント演習」を「費用便益分析演習」に読み替えます。

※ 平成１９年度以前入学生は「土壌環境情報学」を「土質理工学」に、「電子と化学結合」を「基礎物理化学」に読み替えます。

※ 平成２０年度以前入学生は「地域再生システム論」を「地域活性化論」に読み替えます。

※ 平成２１年度以前入学生は「環境生物学Ⅰ」を「生物学Ⅰ」に、「環境物理学Ⅰ」を「物理学Ⅰ」に、「集水域物質循環論」を「環境化学」に、「環境化学Ⅱ」を「化学Ⅰ」に、「水域生態系保全修復論」を「水環境管理学」に、「流域環境管理学」を「地域環境保全学」に読み替えます。

※ 平成２２年度以前入学生は「組織とネットワークの社会学」を「経営組織論」に、「社会変動論」を「社会システム基礎論」に読み替えます。

5　環境建築デザイン学科専門科目の履修について

（1）　環境建築デザイン学科科目履修上の注意

① 専門科目は（Ⅰ）環境科学部全体の共通科目（Ⅱ）複数の学科間での共通科目（Ⅲ）各学科の学生を対象とする科目――の３群から構成されます。複数学科共通科目として挙げている科目は、人間・社会環境を積極的に形成する上で基本となる価値観と方法論を講述します。学科によって必修・選択・選択必修の区分が異なるので注意してください。環境建築デザイン学科の専門科目は、さらにその内容から、（ａ）デザイン系（ｂ）歴史・理論系（ｃ）計画系（ｄ）技術系の４分野に大別されます。

(a) デザイン系

建築、ランドスケープ、都市は人の手によっていかようにもデザインすることができる。人と、生活、もの、生態、自然、社会、歴史など相互の様々な関係性を相対的な環境という視座で形にしていくことがデザインである。その関係性を解き明かし、実践するための意匠論、手法論、造形論、職能論などの講義科目、演習で構成される。

(b) 歴史・理論系

建築とそれを取巻く環境を成立させる理論的根拠を包括的に学ぶと同時に、今日の建築がいかなる社会的、さらには時代的背景をもって生産されているか探究する。また、これまでどのような建築・環境が生み出され、どのような変遷をたどってきたのか、日本・西洋の建築の歴史を通して学ぶ。

(c) 計画系

環境と人間の活動との関係性を視座に据え、都市や地域の土地利用を適切に行うための計画論や制度論、歴史的街並みや地域固有の景観を保全、再生、創造するための計画論や制度論、都市や地域の安全防災に関する計画論や技術論、および環境と調和した建築空間の構成や計画手法を学ぶ講義科目で構成される。

(d) 技術系

建築物の設計は、美しさ、快適性とともに安全性、環境性に配慮する必要がある。技術系の科目は、力の流れを理解し、いかに骨組みを構成するかを学ぶ構造計画、構造力学、構造材料実験および私たちの生活に不可欠な光・音・熱についての基礎技術を学ぶ環境工学などの講義、実験、演習で構成される。

② 上記４つの科目群は最終的には扱う対象をそれぞれ異にし、また対応する社会的職能も分かれますので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨が求められることになります。総合的な能力を得るためにも、幅広く履修することを勧めます。

③ 各科目群に関連した科目が他学科・他学部の科目の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧めます。別表に履修することが望ましい他学科・他学部の科目の主要なものを例示してあります。

他学科・他学部の科目（所定の必要単位を超える人間学科目と外国語科目を含む。）履修のうち１０単位までは科目にかかわりなく、卒業単位として認定されます。

なお、他学科・他学部開講の実験・実習科目の履修を希望する者は、履修登録に先立って科目担当教員の了解を得る必要があります。

④ 卒業研究・卒業制作については、Ⅰを修得した後でないとⅡは登録できません。

計画プランナー・コンサルタント・行政・施工　　建築デザイナー・ランドスケープデザイナー・構造デザイナー　　研究教育者・構造エンジニア・設備エンジニア

デザインマインドを持った環境市民の創出

■環境建築デザイン学科カリキュラム

【専門科目の分類】
※学部共通基礎科目
●複数学科共通科目
■環境建築デザイン学科専門科目

4回生

■卒業研究・卒業制作Ⅱ　学科教員　4年後期　必修

- ●環境行動論　村上　4年前期　選択（計画）
- ●文化財・保存修景論A　濱崎他　4年前期　選択（歴史・理論）
- ■環境技術　太田（非常勤）　4年前期　選択（技術）
- ■地域産学連携実習（オープンデスク）　2～4年　選択（演習・実験）

■卒業研究・卒業制作Ⅰ　学科教員　4年前期　必修

3回生

- ■建築法規　田上（非常勤）　3年後期　必修（計画）
- ■環境職能論　松岡　3年後期　選択（デザイン）
- ■環境・建築デザイン演習　学科教員　3年後期　選択（設計演習）
- ●環境技術史　冨島　3年後期（歴史・理論）
- ■アジア建築史　布野　3年後期　選択（歴史・理論）
- ■建築設備　伊丹　3年後期　必修（技術）
- ■構造材料実験　陶器・高田　3年後期　必修（演習・実験）
- ●コミュニティ計画論　柴田　3年前期
- ■都市・地域計画　水原　3年前期　選択（計画）
- ■環境設計Ⅱ　高柳　3年前期　選択（デザイン）
- ■設計演習Ⅲ　村上・高柳他　3年前期　必修（設計演習）
- ■日本建築史　冨島　3年前期　選択（歴史・理論）
- ■構造力学Ⅱ　高田　3年前期　必修（技術）
- ■建築生産施工　岩下（非常勤）　3年前期　必修（技術）
- ■建築環境工学演習　伊丹　3年前期　選択（演習・実験）

2回生

- ●空間計画論　水原　2年後期　選択（計画）
- ●ランドスケープ・デザイン　村上　2年後期
- ■環境共生デザイン　柴田・松岡・村上　2年後期　選択（デザイン）
- ■設計演習Ⅱ　陶器・村上他　2年後期　必修（設計演習）
- ■内部空間論　高柳　2年後期　選択（歴史・理論）
- ■建築環境工学　伊丹　2年後期　必修（技術）
- ●景観計画　村上　2年前期　選択（計画）
- ■環境設計Ⅰ　ヒメネス　2年前期　選択（デザイン）
- ■設計演習Ⅰ　柴田・ホアン他　2年前期　必修（設計演習）
- ■西洋建築・思潮史　迫田　2年前期　選択（歴史・理論）
- ●構造力学Ⅰ　陶器・高田　2年前期　必修（技術）
- ■CAD演習Ⅱ　ヒメネス・高柳・伊丹　2年前期　選択（演習・実験）

1回生

- ■地域環境計画　轟　1年後期　選択（計画）
- ■設計基礎演習　迫田・轟・柴田他　1年後期　必修（設計演習）
- ■環境造形論　迫田　1・2年後期　選択（歴史・理論）
- ■構造計画　陶器・松村（非常勤）　1年後期　必修（技術）
- ■CAD演習Ⅰ　高柳・伊丹・ヒメネス　1年後期　必修（演習・実験）
- ■建築一般構造　黒川（非常勤）　1年前期　選択（デザイン）
- ■イメージ表現法　松岡・高田・轟・森田（非）　1年前期　必修（設計演習）
- ■建築数学・物理　伊丹・高田　1年後期　選択（技術）
- ■木匠塾　布野・松岡・陶器・高田　1～4年通年　選択（演習・実験）

■環境・建築デザイン概論　学科教員　1年前期　必修

環境フィールドワーク人間学

- ※環境FWⅢ　学部教員　3年通年　選択
- ※環境学原論　村上　2年後期　必修
- ※環境FWⅡ　学部教員　2年前期　必修
- ※環境FWⅠ　学部教員　1年前期　必修

計画 Planning	デザイン Design	設計演習 Design Exercise	歴史・理論 History/Theory	技術 Engineering	演習・実験
講義科目			講義科目		

（２） 環境建築デザイン学科卒業要件

１　全学共通科目（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上

① 共通基礎科目	１８単位以上	※留学生はP.12 参照
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）　８単位	
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位	
② 人間学	１２単位以上（「環境行動論」と「空間計画論」を除く。） （「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	

２　専門科目（計　１００単位以上）　必修５１単位、選択４９単位以上

① 必修	年次別配当表に指定する科目　５１単位
② 選択	科目配当表に指定する科目から４９単位以上 ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条）
合計	１３０単位以上

【卒業研究履修要件】

１　３年次終了までに、全学共通基礎科目を 16 単位以上取得していること。
２　３年次終了までに、専門科目の必修単位 45 単位の内 43 単位以上取得していること。
３　人間学・専門科目（必修・選択）の中で、４年次に取得しなければならない単位数が「卒業研究・卒業制作Ⅰ」「卒業研究・卒業制作Ⅱ」以外に 10 単位以下であること。

上記１、２、３を全て満たしていなければならない。
この要件を満たしていない場合、「卒業研究・卒業制作Ⅰ」「卒業研究・卒業制作Ⅱ」の履修登録ができない。卒業見込証明書の発行も受けられない。

【卒業研究等審査基準】

１　卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、以下の評価項目によって審査する。
⑴ 研究又は制作の目的とその妥当性
⑵ テーマの新規性・学術性・社会性
⑶ 方法の的確性・独創性
⑷ 論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
⑸ 論理構成及び結論（表現）の妥当性
なお、卒業制作は、以上に加えてプレゼンテーションの手法・技術・密度・完成度について評価する。
２　卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、発表会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
３　１および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

（３）環境建築デザイン学科年次別配当表

科目名	担当教員	単位	1年		2年		3年		4年		備考
			前	後	前	後	前	後	前	後	
２　専門科目											
2.1 学部共通基礎科目											
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ	学部教員	3	○								必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ	学部教員	3			○						必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ	学部教員	3					○	○			選択
環境学原論	村上修一	2				○					必修
環境科学概論Ⅰ	長谷川・他	2	○								必修
環境科学概論Ⅱ	伊丹・他	2		○							必修
基礎数学Ⅰ	市川源一	2	○								選択
基礎数学Ⅱ	市川源一	2		○							選択
2.2 複数学科共通科目											
景観計画	村上修一	2				○					選択
構造力学Ⅰ	陶器・高田	2			○						必修
持続可能社会論※2	富岡昌雄	2			○						選択
ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟﾃﾞｻﾞｲﾝ※1	村上修一	2			○						選択
空間計画論	水原渉	2				○					選択
環境政策学	秋山道雄	2				○					選択
ｺﾐｭﾆﾃｨ計画論	柴田いづみ	2					○				選択
環境監査※2	西田（一）・高橋	2					○				選択
環境アセスメント	錦澤・杉本・多島	2					○				選択
地域再生システム論※4	鵜飼・仁連・轟・他	2					○				選択
環境計画学※2	柴田裕希	2						○			選択
環境倫理学※3	土屋正春	2						○			選択
環境技術史	冨島義幸	2						○			選択
エコロジー経済学※2	林宰司	2						○			選択
環境技術※1	太田浩史	2							○		選択
環境行動論※3	村上修一	2							○		選択
文化財・保存修景論Ａ※5	濱崎･井口	2							○		選択
2.3 学科専門科目											
環境・建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	学科教員	2	○								必修
建築一般構造	黒川直樹	2	○								選択
ｲﾒｰｼﾞ表現法	松岡･高田･轟　他	2	○								必修
建築数学・物理	伊丹･高田	2		○							選択
地域環境計画	轟慎一	2		○							選択
ＣＡＤ演習Ⅰ※6	高柳･伊丹･ﾋﾒﾈｽ	2		○							必修
設計基礎演習	迫田･轟・他	2		○							必修
構造計画	陶器･松村	2		○							必修
ＣＡＤ演習Ⅱ※7	ﾋﾒﾈｽ･高柳･伊丹	2			○						選択
設計演習Ⅰ	柴田･松岡･他	3			○						必修
環境設計Ⅰ※1	ﾋﾒﾈｽ･ﾍﾞﾙﾃﾞﾎ ﾎｱﾝ･ﾗﾓﾝ	2			○						選択
西洋建築・思潮史※1	迫田正美	2			○						選択
環境造形論※1	迫田正美	2				○					選択
内部空間論	高柳英明	2				○					選択
環境共生ﾃﾞｻﾞｲﾝ※1	松岡･柴田･村上	2				○					選択
建築環境工学※3	伊丹清	2				○					必修
設計演習Ⅱ	陶器･村上 他	3				○					必修
設計演習Ⅲ	高柳･村上 他	3					○				必修
日本建築史	冨島義幸	2					○				選択
都市・地域計画	水原渉	2					○				選択

環境設計Ⅱ※1	高柳英明	2					○					選択
構造力学Ⅱ※3	高田豊文	2					○					必修
建築環境工学演習	伊丹清	2					○					選択
建築生産施工※1※3	岩下智	2					○					必修
構造材料実験	陶器･高田･伊藤	2						○				必修
アジア建築史※1※3	布野修司	2						○				選択
環境設備※3	伊丹清	2						○				必修
環境職能論※3	松岡拓公雄	2						○				選択
建築法規※3	田上豊	2						○				必修
環境・建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習※3	学科教員	3						○				選択
木匠塾※7	布野・松岡・陶器・高田	2	○	○	○	○	○	○	○	○		選択
地域産学連携実習	学科教員	2			○		○		○			選択
卒業研究・卒業制作Ⅰ	学科教員	3							○			必修
卒業研究・卒業制作Ⅱ	学科教員	3								○		必修

※１：平成１７年度以前入学生は、「環境技術」を「ｴﾈﾙｷﾞｰ･資源論」に、「ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟﾃﾞｻﾞｲﾝ」を「ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟ意匠」に、「環境設計Ⅰ」を「建築計画Ⅰ」に、「環境共生ﾃﾞｻﾞｲﾝ」を「建築計画Ⅱ」に、「環境造形論」を「環境造形」に、「西洋建築・思潮史」を「西洋建築史」に、「環境設計Ⅱ」を「環境設計論」に、「アジア建築史」を「環境・建築美学」に、「建築生産施工」を「ﾌｧｼﾘﾃｨ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」に読み替えます。

※２：平成１８年度以前入学生は、「持続可能社会論」を「環境経済学概論」に、「環境監査」を「環境監査総論」に、「エコロジー経済学」を「環境監査各論」に、「環境計画学」を「環境計画論」に読み替えます。

※３：平成２０年度以前入学生は、「環境倫理学」「アジア建築史」「環境職能論」「環境・建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習」は必修科目、「建築環境工学」「構造力学Ⅱ」「環境設備」「建築法規」は選択科目、「建築生産施工」は4年前期開講の選択科目、「環境行動論」は3年前期開講です。

※４：平成２０年度以前入学生は、「地域再生システム論」を卒業要件科目に含むことができます。

※５：「文化財・保存修景論Ａ」は隔年開講（平成２４年度開講）

※６：平成２１年度以前入学生は、「ＣＡＤ演習Ⅰ」を「ＣＡＤ演習」に読み替えます。

※７：平成２１年度以前入学生は、「ＣＡＤ演習Ⅱ」、「木匠塾」を卒業要件科目に含むことができます。

環境建築デザイン学科推奨科目一覧表（他学科・他学部で開講される推奨科目）

① 以下の一覧表に示す他学科・他学部で開講される科目は、その内容が環境建築デザイン学科の専門科目を学ぶ上で、より理解を深めることができる本学科の「推奨科目」である。
② 推奨科目の履修にあたっては、卒業要件の参入条件について、学科卒業要件を読んで十分理解しておくこと。
③ 以下の表の履修年次は、本来開講されている他学科・他学部での履修年次であるので注意すること。

推奨科目名	担当教員	単位	本来開講されている他学科・他学部での履修年次								開講学部・学科
			１年		２年		３年		４年		
			前	後	前	後	前	後	前	後	
比較住居論	山根周	2	○		○		○		○		人間学、生活デザイン・生活栄養・人間関係学科
考現学概論	面矢慎介	2	○								生活デザイン学科
人間行動論	細馬宏通	2		○							生活栄養・人間関係学科
地域文化財論Ａ※	伊藤裕久	2	○								地域文化学科
人間工学	中村孝之	2				○					生活デザイン学科
文化財情報論	濱崎・石川地	2				○		○			地域文化学科
地域文化財論Ｂ	濱崎一志	2				○		○			地域文化学科
生活デザイン論	佐々木一泰	2				○					生活デザイン学科
まちづくり実践論	佐々木和之	2			○						環境政策・計画学科

※「地域文化財論Ａ」は平成２４年度は不開講

6　生物資源管理学科専門科目の履修について

（1）　科目履修上の注意

① 専門科目は、（a）　環境科学部全体の学部共通基礎科目、（b）　複数学科共通科目、（c）　学科専門科目から構成されています。資格関連科目については、「資格取得等の手引」の項を見てください。

② 複数学科共通科目と学科専門科目の履修にあたっては、卒業後の進路をよく考えて、学科が提供する履修コースの選択を踏まえたうえで、体系的に講義科目を履修することが望まれます。詳しくは学科のオリエンテーションで説明します。

③ 生物資源管理学実験・実習Ⅰ～XIは選択必修科目で、計１１科目（２２単位）から６科目（１２単位）以上を履修してください。それぞれの実験・実習の内容の概要は以下のとおりです。

生物資源管理学実験・実習Ⅰ	栽培分野
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	遺伝・培養分野
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	動物資源管理分野
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	微生物・菌類分野
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	遺伝子工学分野
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	動物生態管理分野
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	生物試料分析分野
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	土壌・水質分析分野
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	土壌物理・気象分野
生物資源管理学実験・実習Ⅹ	測量実習
生物資源管理学実験・実習XI	経営・経済分野

④ ４年次における卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、学科教員の各研究室に分属して行うことになります。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、同一の教員の指導を受けるのを常とします。また、卒業研究Ⅱは、卒業研究Ⅰを修得した後でないと履修できません。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、同一年度に連続して履修するのが基本であって、複数年度にわたって、もしくは期間をあけて履修するのは、留学、休学等特別の事情がある場合に限られます。さらに、研究内容によっては、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修時期に制約を受ける場合があります。

　なお、３年次までに単位履修が不十分な場合、４年次において卒業研究Ⅰ・Ⅱと生物資源管理学演習Ⅰ・Ⅱを履修できないことがあります。

⑤ 他学科開講の実験・実習の履修を希望する者は、科目担当教員の了解を事前に得なければなりません。

⑥ 平成１９年度および平成２２年度にカリキュラムが大幅に改定されました。入学年度により、下記に示した新科目名は、旧科目名に読み替えます。ただし、旧科目名で単位を修得した科目については、新科目名で新たに単位を修得することはできません。

【平成１７年度以前入学生】

<新科目名>	<旧科目名>
ランドスケープデザイン	ランドスケープ意匠
環境技術	エネルギー・資源論
家畜生産生理学	動物生産生理学

【平成１８年度以前入学生】

<新科目名>	<旧科目名>
持続可能社会論	環境経済学概論
環境監査	環境監査総論

エコロジー経済学	環境監査各論
環境経営論	農産物価格流通論
環境会計	農業会計
国際環境資源論	国際農産物市場論
地球環境システム論	大気環境システム論
水環境政策論	水環境システム論
環境シミュレーション	環境モデリング
農業経済学	比較農業経済学
農業経営学	比較農業経営学
食料経済システム論	食品産業論
応用微生物学	微生物利用学
地域資源管理学	自治体産業政策論
生物資源管理学実験・実習Ⅰ	生物資源管理学実験Ⅰ
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	生物資源管理学実験Ⅱ
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	生物資源管理学実験Ⅲ
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	生物資源管理学実験Ⅳ
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	生物資源管理学実験Ⅴ
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	生物資源管理学実験Ⅵ
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	生物資源管理学実験Ⅶ
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	生物資源管理学実験Ⅷ
生物資源管理学実験・実習Ⅹ	測量実習
生物資源管理学実験・実習Ⅺ	生物資源経済実習Ⅰ

【平成１９年度以前入学生】

〈新科目名〉	〈旧科目名〉
土壌環境情報学	土質理工学
地域情報処理学	地形情報処理学

【平成２０年度以前入学生】

魚類生理学	水族環境生理学
農業統計利用論	農業農村政策論（平成１９、２０年度入学生） 農業政策論（平成１８年度以前入学生）

【平成２１年度以前入学生】

<新科目名>	<旧科目名>
環境生物学Ⅰ	生物学Ⅰ
環境生物学Ⅱ	生物学Ⅱ
環境生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）
環境物理学Ⅰ	物理学Ⅰ
環境物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	物理学実験　（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）
環境化学Ⅰ	化学Ⅱ
※　環境化学Ⅱ	化学Ⅰ
環境化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）
環境地球科学Ⅰ	地学Ⅰ

環境地球科学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）	地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む）
土壌環境化学	土壌環境学
流域環境管理学	地域環境保全学
環境気象学	応用気象学
栽培植物各論Ａ	栽培技術論
栽培植物各論Ｂ	栽培植物各論
植物資源開発学	環境作物学
環境統計解析学	環境統計学
河川環境学	陸水物理学
森林環境学	植物生態学
湖沼環境学	微生物生態学
環境解析学・同実験	環境化学・実験
※　集水域環境機能論	環境分析化学
※　集水域物質循環論	環境化学
※　陸域環境機能論	環境生化学
※　陸域環境影響調査指針	生物系統分類学
※　集水域生態系保全修復論	陸水生物学
※　水域環境影響調査指針	生態系生態学
※　陸域生態系保全修復論	森林資源管理学

注：※の科目は、平成 23 年度は旧科目名で開講されます。

【平成２２年度以前入学生】

<新科目名>	<旧科目名>
環境植物生理学	植物生化学
食料経済システム論	農産物マーケティング論

⑦ 平成１７年度以前の入学生は、魚類生理学（旧科目名：水族環境生理学）を卒業要件科目に含むことができます。また、平成１８年度以前の入学生は、生物資源管理学実験・実習Ｖを卒業要件科目に含むことができます。

（２） 生物資源管理学科卒業要件

１ 全学共通科目（計 ３０単位以上） 必修１８単位、選択必修１２単位以上

① 共通基礎科目	１８単位以上	※留学生はP.12 参照
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ） ８単位	
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論 ４単位	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ ２単位	
② 人間学	１２単位以上（「空間計画論」は除く。） （「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	

２ 専門科目（計 １００単位以上）

必修	年次別配当表に指定する１２科目２４単位
選択必修	年次別配当表に指定する選択必修Ａ７科目１５単位から６単位以上 年次別配当表に指定する選択必修Ｂ１１科目２２単位から１２単位以上
選択	年次別科目配当表に指定する選択科目および選択必修科目のうち、必修単位を超える単位数あわせて５８単位以上 ただし、複数学科共通科目のうち生物資源管理学科が提供する科目（年次別配当表の備考欄に「資源」と記入）と学科専門科目とから３０単位以上を履修しなければならない

なお、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、１０単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。（学則第３８条）

合計 １３０単位以上

【卒業研究等履修要件】

（３年次前期終了時点での取得単位数）
- 全学共通基礎科目１２単位
- 専門必修・選択必修科目２２単位
- 専門選択科目４２単位
  - うち学科提供科目（２０単位）

（３年次後期終了時点での取得科目）
- コース基礎科目１４または１６単位
- コース専門科目２０単位
- 専門基礎科目（講義）１２単位
- 一般基礎科目（講義・実験ともに）４単位

（生物資源管理学科教育コース制実施要領による）

【卒業研究等審査基準】

１ 卒業研究（卒業論文）は、以下の評価項目によって審査する。
(1) 研究テーマの新規性・学術性・社会性
(2) 研究目的と研究計画の妥当性
(3) 研究方法の的確性・独創性
(4) 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
(5) 論理構成及び結論の妥当性
(6) 研究に対する姿勢

２ 卒業研究（卒業論文）は、発表会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

３ １および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

生物資源管理学科履修モデル

生物機能利用コース	生物生産コース	地域環境管理コース
関連する資格・試験など		
バイオ技術者認定試験 技術士、教員、公務員 ビオトープ管理士	園芸装飾技能士 グリーンアドバイザー 技術士、教員、公務員 ビオトープ管理士	土壌環境保全士 環境計量士、測量士 公害防止管理者（水質関係） 技術士、教員、公務員 ビオトープ管理士
めざす進路		
食品関連、バイオ関連 農薬肥料関連 教員、公務員 農業関連団体(JA など)	種苗関連、流通関連 農薬肥料関連、造園関連 教員、公務員 農業関連団体(JA など)	環境分析関連、農薬肥料関連 コンサルタント 教員、公務員 農業関連団体(JA など)
4 回生（総合的教育）		
卒業研究　◎テーマ別、フィールド別；学際的研究 ◎従来の学問体系に沿ったテーマ		
2 回生後期～3 回生（応用・展開的教育）コース基礎科目		
2 回前:遺伝学 2 回後:環境植物生理学、植物遺伝資源学、生物統計学 3 回前:分子生物学、植物病害防除論、実験 V(遺伝子工学) 3 回後:応用微生物学、実験Ⅱ(遺伝・培養)、実験Ⅳ（微生物・菌類）	1 回後:植物生産学 2 回前:植物資源管理学、動物資源管理学 2 回後:農業経営学、作物保護学生物統計学、実験Ⅲ（動物資源管理） 3 回前: 害虫管理学、植物栄養学実験Ⅰ(栽培)、実験Ⅵ（動物生態管理）	2 回前: 環境気象学、水質管理学土壌環境物理学、土壌環境化学 2 回後:生物統計学、実験Ⅸ（土壌物理・気象） 3 回前: 地域資源管理学、実験Ⅷ（土壌・水質分析） 3 回後: 流域環境管理学、実験Ⅶ(生物試料分析)

主として 2 回生前期（基礎教育）

専門基礎：	講義・・遺伝学、応用微生物学、環境気象学、作物保護学、植物資源管理学 水質管理学、生物統計学、動物資源管理学、土壌環境化学、農業経済学 分子生物学、水資源利用学から 6 科目以上を選択する ：実験・実習（選択必修 B）・・生物資源管理学実験Ⅰ～ⅩⅠ（12 単位以上）
一般基礎：	環境物理学Ⅰ、環境化学Ⅰ、環境生物学Ⅰ、環境地球科学Ⅰ、環境物理学実験 環境化学実験、環境生物学実験、環境地球科学実験から講義・実験ともに 2 科目以上を選択する
学科指定科目（選択必修 A）・・	FWⅢ、エコロジー経済学、環境アセスメント、環境監査 環境政策学、空間計画論、持続可能社会論（6 単位以上）

主として 1 回生（基盤教育）

全学共通科目・・・	語学、体育、情報、人間学
学部共通科目・・・	FWⅠ、Ⅱ、環境科学概論Ⅰ、Ⅱ、環境学原論
学科専門科目・・・	生物資源管理学概論

（３）生物資源管理学科年次別配当表

科目名	担当教員	単位	1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
２　専門科目											
2.1学部共通基礎科目											
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅠ	学部教員	3	○								必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅡ	学部教員	3			○						必修
環境ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸⅢ	学部教員	3					○	○			選択必修Ａ
環境学原論	村上修一	2				○					必修
環境科学概論Ⅰ	長谷川・他	2	○								必修
環境科学概論Ⅱ	伊丹・他	2		○							必修
基礎数学Ⅰ	市川源一	2	○								選択
基礎数学Ⅱ	市川源一	2		○							選択
2.2複数学科共通科目											
持続可能社会論	富岡昌雄	2			○						選択必修Ａ
空間計画論	水原渉	2				○					選択必修Ａ
環境監査	西田（一）・高橋	2					○				選択必修Ａ
エコロジー経済学	林宰司	2						○			選択必修Ａ
環境政策学	秋山道雄	2				○					選択必修Ａ
環境アセスメント	錦澤・杉本・多島	2					○				選択必修Ａ
環境数学Ⅰ・演習	廣島幸正	3	○								選択
環境数学Ⅱ・演習	廣島幸正	3		○							選択
環境生物学Ⅰ	浦部美佐子	2		○							選択
環境生物学Ⅱ	浅岡一雄	2				○					選択
環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	泉･西田･伴･野間･籠谷･上町･入江･清水・原田・杉浦	2	○								選択
環境物理学Ⅰ	倉茂好匡	2		○							選択
環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	倉茂･岩間･堂満･三浦	2			○						選択
環境化学Ⅰ	丸尾雅啓	2	○								選択
環境化学Ⅱ※	未定	2					○				選択
環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	永淵・丸尾･上田･須戸･肥田	2		○							選択
環境地球科学Ⅰ	堂満華子	2			○						選択
環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	三田村･倉茂･後藤･堂満	2			○						選択
地域調査法	香川雄一	2	○								選択
植物生産学	上町達也	2		○							選択・資源
経済学Ⅰ	河相俊之	2		○							選択
遺伝学	長谷川博	2			○						選択・資源
測量学	小谷廣通	2			○						選択・資源
土壌環境化学	須戸幹	2			○						選択・資源
水文学	千家正照	2			○						選択
河川環境学	倉茂好匡	2			○						選択
森林環境学	野間直彦	2			○						選択
環境統計解析学	籠谷泰行	2			○						選択
環境法Ⅰ	土屋・小沢	2			○						選択
経済学Ⅱ(国際経済を含む)	吉川英治	2			○						選択
構造力学Ⅰ	陶器・高田	2			○						選択
水環境政策論	井手慎司	2			○						選択
政治学Ⅰ	竹本知行	2			○						選択
地域開発論	秋山道雄	2			○						選択
法学概論(国際法を含む)	初谷良彦	2			○						選択
生物資源管理学実験・実習Ⅹ	小谷･岩間	2			○						選択必修Ｂ
ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟﾃﾞｻﾞｲﾝ	村上修一	2			○						選択

社会学	小野奈々	2			○					選択
景観計画	村上修一	2				○				選択
生物統計学	清水顕史	2				○				選択・資源
動物生態学	沢田裕一	2				○				選択・資源
水理学	金木亮一	2				○				選択・資源
湖沼環境学	後藤直成	2				○				選択
環境解析学・同実験	永淵･丸尾・尾坂	4				○				選択
資源経済学	富岡昌雄	2				○				選択
環境経営論	高橋卓也	2				○				選択
地球環境システム論	未定	2				○				選択
政治学Ⅱ(国際政治を含む)	竹本知行	2				○				選択
分子生物学	入江俊一	2					○			選択・資源
農薬環境学	須戸幹	2					○			選択・資源
集水域環境機能論※	永淵修	2					○			選択
集水域物質循環論※	尾坂兼一	2					○			選択
陸域環境機能論※	肥田嘉文	2					○			選択
環境会計	富岡昌雄	2					○			選択
環境経済学	林宰司	2					○			選択
流域環境管理学	皆川明子	2						○		選択・資源
土壌環境情報学	中村公人	2						○		選択・資源
陸域環境影響調査指針※	野間直彦	2						○		選択
集水域生態系保全修復論※	浦部美佐子	2						○		選択
水域環境影響調査指針※	伴修平	2						○		選択
国際環境資源論	富岡･高橋	2						○		選択
陸域生態系保全修復論※	浜端悦治	2						○		選択
環境シミュレーション	井手慎司	2						○		選択
環境技術	太田浩史	2							○	選択
2.3学科専門科目										
生物資源管理学概論	増田佳昭・学科教員	2	○							必修
農業経済学	増田佳昭	2		○						選択
植物資源管理学	泉泰弘	2			○					選択
水産資源学	杉浦省三	2			○					選択
動物資源管理学	岡野･杉浦	2			○					選択
家畜生産生理学	岡野寛治	2			○					選択
水質管理学	金木亮一	2			○					選択
土壌環境物理学	岩間憲治	2			○					選択
環境気象学	小谷廣通	2			○					選択
植物遺伝資源学	長谷川博	2				○				選択
環境植物生理学	原田英美子	2				○				選択
栽培植物各論Ａ	上町達也	2				○				選択
作物保護学	鈴木一実	2				○				選択
生物資源化学	上田邦夫	2				○				選択
水資源利用学	小谷・皆川	2				○				選択
地域情報処理学	岩間憲治	2				○				選択
農業経営学	増田佳昭	2				○				選択
栽培植物各論Ｂ	長谷川･泉	2					○			選択
植物病害防除論	鈴木一実	2					○			選択
植物栄養学	上田邦夫	2					○			選択
害虫管理学	沢田裕一	2					○			選択
家畜生産環境学	松井徹	2					○			選択
水利環境施設学	田中勉	2					○			選択
食料経済システム論	増田佳昭	2					○			選択
地域資源管理学	増田清敬	2					○			選択
応用微生物学	入江俊一	2						○		選択
植物資源開発学	原田英美子	2						○		選択
魚類生理学	杉浦省三	2						○		選択

生物資源循環論	岡野寛治	2				○		選択
環境動物学	今井長兵衛	2				○		選択
水資源保全学	須戸幹	2				○		選択
地域環境整備学	金木亮一	2				○		選択
農業統計利用論	増田清敬	2				○		選択
専門外書講読Ⅰ	学科教員	1			○			必修
専門外書講読Ⅱ	学科教員	1				○		必修
生物資源管理学実験・実習Ⅰ	泉･上町・原田	2			○			選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	長谷川･清水･上町	2				○		選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	岡野･杉浦	2		○				選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	鈴木･上田･入江	2				○		選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	杉浦･入江･清水	2			○			選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	沢田･岡野	2			○			選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	上田･岡野･須戸	2				○		選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	金木･須戸	2			○			選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	岩間・小谷･皆川	2		○				選択必修Ｂ
生物資源管理学実験・実習Ⅺ	増田(佳)･増田(清)	2		○				選択必修Ｂ
生物資源管理学演習Ⅰ	学科教員	1					○	必修
生物資源管理学演習Ⅱ	学科教員	1					○	必修
卒業研究Ⅰ	学科教員	3					○ (○)	必修
卒業研究Ⅱ	学科教員	3					(○) ○	必修

この配当表は平成23年度入学生用です。平成22年度以前入学生は入学年次の「履修の手引」および（１）科目履修上の注意（129ページ～）を参照してください。

※の科目は、平成23年度は開講されません。

科目名	CAD演習Ⅰ
担当教員	高柳　英明 ・ 伊丹　清 ・ ホアン・ラモン
授業概要	建築のデザインを考え、描き、表現する。これら一連のプロセスを行うにあたり、デジタル設計環境の活用は今や不可欠といえる。CAD(又はCAAD)とは、これら目的の作業や表現に併せた設計支援システムのことであり、建築初学時にその技術と知識を習得しておくことで、造形発想やエスキスのツールとしてだけでなく、高精度な図面作成のみならず、デザインの提案力を向上させ、ヴィジュアルプレゼンテーションを思いのままに操ることが可能となる。本演習はCADを用いた発想法、描画法、視点のシミュレーション等を体感的に習得することを目的とする。
到達目標	中規模集合住宅の2次元立面図、断面図、詳細図をデジタル環境を用いて製図する技術、図面表現プレゼンテーションにかかる技術などの習得を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:建築設計テキスト集合住宅(彰国社)を教科書とする。
成績評価	3つの課題の合計点を100%として評価する。

科目名	CAD演習Ⅱ
担当教員	ホアン・ラモン ・ 伊丹　清 ・ 高柳　英明
授業概要	この授業では、CAD演習Iで習得した基礎知識、技術を踏まえ、 世界の大学および建築業界で現在一番使用されている建築デザインのソフトであるAutodesk(Autocad Architecture,3DS-MAX)を用い、より高精度な図面作成、デザインの提案力の向上、プレゼンテーション能力の向上を目指すことを目的とする。
到達目標	中規模住宅の2次元平面図、立面図、断面図をデジタル環境を用いて製図する技術、3次元立体の生成と図面表現、CGプレゼンテーションにかかる技術などの習得を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	課題提出を100％として評価する。

科目名	ＧＩＳ演習
担当教員	香川　雄一
授業概要	GIS(地理情報システム)は現在計画分野で活用されつつある。その基本を学び、GISを環境計画に応用するためのデータ作成方法、データ解析および表示方法について課題演習を通じて学習する。
到達目標	空間的問題をGISを使って扱えるデータベースの設計ができ、それをGISで表示できる能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:佐土原聡・吉田聡・川崎昭如・古屋貴司、図解ArcGIS身近な事例で学ぼう、古今書院 参考図書:野上道男他『地理情報学入門』東京大学出版会、村井俊治『空間情報工学』社団法人日本測量協会
成績評価	授業時の作業結果　50%、 最終課題提出　50%

科目名	アジア建築史
担当教員	布野　修司
授業概要	近代日本の建築界において、常にモデルとされ、参照されてきたのは西欧の建築である。西欧の近代建築技術の取得が日本の建築家にとっての第一の課題であった。近代建築の展開は日本のみならず世界中で大きな影響力をもった。しかし、そのあり方について疑問、批判が提出され始めて、既に久しい。地域には地域の建築文化の伝統があり、そのあり方が一方で見直されてきたのである。本科目では、これまであまり関心を払われてこなかったアジア（非西欧世界）の建築史について議論する。
到達目標	アジアの都市建築についての基本的知識を身につける。また、空間形式の起源、形成、変容、転成、保全の原理、法則、メカニズムについて学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：『東洋建築史図集』（彰国社） 参考書：授業時に適宜指示する
成績評価	レポート評価80％　レスポンス・ペーパー20％

科目名	アジア交流論
担当教員	阿部　健一※
授業概要	人とモノと情報が国境を越えて大量に行き交う今日、世界は次第に「小さく」なり、地域と地域の相互依存はますます強くなっている。しかし一方でこの相互依存関係が、短絡的で歪んでいると感じられることがある。授業では、アジア、なかでも東南アジアのいくつかを対象地域として紹介し、こうした生活のリアリティをまず伝える。グローバリゼーションの今日、地域と地域がどう関わってゆくのかじっくりと考えること、それが「交流論」である。交流論の基礎は、まずお互いがどこが同じでどこが違うのか知ることである。次に理解があり、そして交流が生まれると考えている。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 指定図書：特になし
成績評価	出席（15％）とレポート（85％）。出席確認のかわりに簡単なアンケートに答えてもらう。

科目名	遺伝学
担当教員	長谷川　博
授業概要	生命現象が遺伝子の働きとして理解できるようになった現在、遺伝学は生物学の基礎分野であるだけでなく、医学、農学、工学から人文・社会科学にも必要な科学となっている。本講義では分子（DNA）レベルを中心に、細胞から集団レベルにおける遺伝現象について概説する。
到達目標	(1)DNAとRNAの構造と、DNA複製、転写、翻訳のメカニズムが理解できること。(2)DNAが存在する場所の理解とその意義について説明できること。(3)遺伝子を記号で表し、遺伝子間の相互作用、世代間の伝達や集団内での遺伝子の挙動を説明できること。(4)現在のバイオテクノロジーに用いられる技術に関する分子遺伝学の原理を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要に応じて資料を配付する。 参考書：ブラウン「分子遺伝学第3版」東京化学同人、中村千春編著「基礎生物学テキストシリーズ1　遺伝学」化学同人、クロー「遺伝学概説、原著第8版」培風館
成績評価	定期試験（90％）と中間テスト（10％）

科目名	イベント計画演習
担当教員	近藤　隆二郎
授業概要	イベントを実際に体験および企画実験することで、イベント計画についての理解をより深めることをねらいとする。実際のイベントの企画デザイン等を学ぶと共に、グループで実際のフィールドを選んで具体的なイベントの企画を行い、実践し、その効果等をフィードバックして共有することを考えている。自ら具体的フィールドを相手に仕掛ける体験を通して、イベントの実践についての理解を深める。
到達目標	(1)実際のイベントを体験して評価できるようになること。 (2)イベントの企画をできるようになること。 (3)実際のイベントを企画実施することで、その企画を評価できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する。 参考書：世田谷まちづくりセンター編「参加のデザイン道具箱」(世田谷まちづくりセンター)、歴史街道推進協議会編「まちづくり参加の一歩 NOTE BOOK」
成績評価	イベント実施内容評価30％　ワークショップおよびプレゼンテーション評価30％　課題評価40％

科目名	イベント計画論
担当教員	近藤　隆二郎
授業概要	イベントとは、「ことおこし」であり、社会システムにおいて実験的にシステムをかき回す力を持っている。本講義では、イベントを、人々の新しい＜交流＞を生み出すものとしてとらえ、「わたし」や「まち」のアイデンティティを確認するものとしても再評価していく。とくにイベントに参加する主体の側に立つと、「ことおこし」とは、内的世界の自己組織化を促す機会を持ち、参加主体が共有している対象である「こと」を介して、環境に働きかけてゆくことを可能にさせる(enable)仕掛けと位置づけることができる。
到達目標	(1)イベントの歴史について説明できること。 (2)イベントの類型と特徴について説明できること。 (3)イベントの企画法について体得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する。 参考書：「祭りとイベントのつくり方」(晶文社)、「まちづくりイベントハンドブック」(学芸出版社)、「ヒト、ムラ、マツリの地域論」(二期出版)
成績評価	イベント実施内容評価30％　ワークショップおよびプレゼンテーション評価30％　課題評価40％

科目名	イメージ表現法
担当教員	松岡　拓公雄　・　轟　慎一　・　高田　豊文　・　森田　一弥※
授業概要	建築・都市やランドスケープの設計にかぎらず、デザイン行為の原動力となるイマジネーションやアイディアを整理し、そのイメージを2次元および3次元で表現する力を養うことをねらいとしている。つまり、課題を通して、その答えを形にするまで、頭の中で描くことから始め、自分の手で様々な道具や素材を使って、空間を構成する感性を養うこと。自由な発想と可能性への挑戦をし、自分のイメージを表現する基礎トレーニングであり、環境建築デザインの設計入門となる。
到達目標	デザインの原動力となる想像力やイメージを、2次元および3次元で表現する力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『コンパクト建築設計資料集成』丸善、『初めての建築製図』学芸出版社 指定図書：適宜紹介 参考書：山本学治『素材と造形の歴史』鹿島出版会
成績評価	各自が制作した作品を、自分でプレゼンテーションしてアピールする。その内容、およびエスキス段階での出席・評価も考慮する。各課題制作の評価の総合（夫々を100点満点で採点し、平均を取る）で評価する。

科目名	エコロジー経済学
担当教員	林　宰司
授業概要	エコロジー経済学は有限な地球の環境容量を前提にした経済学の新しいパラダイムである。これまでの経済学では十分に把握することができなかった自然環境と人間社会の関係を理解することを対象にした経済理論の枠組みであるが、まだ発展途上の分野である。本講ではこの新しいエコロジー経済学をこれまでの経済学と対比し、また環境と経済の関係性を捉える枠組みを検討しながら学習する。
到達目標	現在の環境問題が提起している課題に対応した新しい枠組みとしてのエコロジー経済学を理解し、これまでの経済学で捉えることのできなかった問題をどのように捉えることが可能になるか理解する。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	宿題　30％、中間試験　30％、期末試験　40％

科目名	エネルギー変換工学
担当教員	河﨑　澄
授業概要	環境負荷低減と省エネルギーのためのエネルギー変換工学に関わる基礎知識と現状を理解することを目的とする。このために，エネルギー形態，変換システム，資源や将来の見通し，風力，太陽光，バイオマスなどの新エネルギーや地球温暖化ガスによる温暖化メカニズムやその低減方法に関して理解を深め，ライフサイクルを考慮したエネルギー変換システムの考え方を習得する。
到達目標	(1)利用可能なエネルギー資源の種類と特徴およびエネルギー変換経路を説明できる。 (2)移動用・発電用機関の種類と動作原理を説明できる。 (3)分散型エネルギー供給システムの構成とその導入メリットを説明できる。 (4)各種新エネルギー利用技術を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布する。 参考書：柳父・西川『エネルギー変換工学』（東京電機大学出版局）など
成績評価	期末筆記試験70%，ミニレポート30%により評価する。

科目名	応用数学
担当教員	井手　慎司
授業概要	数式化された問題をいかに解くかを、技術士試験問題を例題として解説する。
到達目標	数Ⅲ・Cまでの高校数学と大学の基礎数学の問題を解けること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：矢野健太郎・石原繁共著「科学技術者のための基礎数学」（裳華房）
成績評価	中間筆記試験30%、課題10%、期末筆記試験60%

科目名	応用統計学Ⅰ
担当教員	松本　健一
授業概要	地域調査・社会調査に向けて、実際の統計データをいかにして分析していくかの方法を学ぶ。基礎的な統計学の知識を身につけるとともにパソコンの表計算ソフトを使いながら実習形式で説明していく。確率や統計に関する用語を理解しているか確認した上で、検定や推定といった統計データの扱い方に進む。統計分析の解釈に必要な相関係数や回帰分析についても、テキストを使いながら自分で実行できるようにする。
到達目標	エクセルを使った統計分析の初歩を習得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：菅　民郎、『Excelで学ぶ統計解析入門　第2版』、オーム社、2003年
成績評価	平常点75％、期末試験またはレポート25％

科目名	応用統計学Ⅱ
担当教員	林　宰司
授業概要	この授業では、応用統計学Ⅰで取得した統計学についての基礎知識を踏まえ、より高度な統計技法、具体的には多変量解析（多変量解析の概要、重回帰分析、判別分析、主成分分析、クラスター分析）の方法を理解すること、および多変量解析の環境問題の調査研究への適用事例概要を理解することを、ねらいとする。授業は、講義およびパソコン演習（統計ソフト使用）形式で行う。
到達目標	①多変量解析による分析を、統計ソフトを用いて具体的に行えること。 ②環境問題を題材とした多変量解析の問題を、作成できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：菅民郎著「ホントにやさしい多変量統計分析」（現代数学社）
成績評価	平常点30％、レポート20％、中間まとめ25％、期末試験25％

科目名	応用微生物学
担当教員	入江　俊一
授業概要	利用可能な微生物とその性質を理解することを主な目的としている。本講義では、多岐にわたる微生物利用を理解するための基礎知識、バイオサイエンスのツールとしての微生物、産業における代表的な微生物利用例、微生物を利用した環境修復について解説する。
到達目標	産業や環境問題対策などにおいて重要視されている微生物の種類、生理学的性質を学び、それらの有用性と有害性について正しく理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：配布する
成績評価	宿題・小試験60%　期末試験40%

科目名	害虫管理学
担当教員	沢田　裕一
授業概要	作物の害虫管理の基礎として昆虫学の概要を講義するとともに、昆虫による農作物被害の実状とその生態学的メカニズムを詳述し、害虫密度を低いレベルに抑え、それを長期的に維持するための総合的な害虫管理システムの必要性を説く。農薬による化学的防除だけでなく、昆虫と植物の共存関係の利用や天敵・不妊化雄の利用等の生物学的防除の原理と応用についても講述する。
到達目標	(1)循環系、呼吸系、消化・排泄系など昆虫の内部形態の特徴を、人など哺乳類と対比させて説明できること。(2)化学的防除法と生物的防除法について、それぞれの長所と短所を比較して説明できること。(3)総合的害虫管理の理念と実践について、歴史的背景も含めて説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:指定図書:斉藤哲夫他著「新応用昆虫学」(朝倉書店)、中筋房夫著「総合的害虫管理学」(養賢堂) 参考書:レイチェル・カーソン著「沈黙の春」(新潮社)
成績評価	レポート評価:50%、期末筆記試験:50%

科目名	海洋環境学
担当教員	伴　修平
授業概要	海洋生態系の構造と機能を理解し、そこでの物質循環および地球環境変動との関連について学ぶ。授業の前半では、海洋の物理構造とそこに生息する生物について詳しく学び、そこでの生物間相互作用と物質循環について最近の知見を取り入れて理解する。授業の後半では、人間活動あるいは地球環境変動に対する海洋生態系の機能と役割について概観し、海洋における環境問題解決のための基礎知識として活用できるようにする。
到達目標	海洋学の基礎的知識について理解し習得する。実際の海洋生態系を理解するためにそれらの知見を有効に利用できる。また、これらを通して海洋環境に対する人類の影響およびその保全・修復などについて考えることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特になし。適宜配布。 指定図書:高橋正征ら監訳『生物海洋学』、關・長沼訳著『生物海洋学入門　第2版』
成績評価	毎回、後半20分程度で小テストを行い、前回分の復習と当日の理解度を測る。成績は、この毎時間毎に行う小テストによる評価が50%、期末試験による評価が50%で総合的に評価する。

科目名	化学Ⅰ
担当教員	未定
授業概要	生活環境の中で、動植物の占める割合は非常に大きい。そして、これらの動植物を構成している組織の大部分が炭素を中心とした有機化合物でできている。ここでは、上記の観点にたって、化学の中も炭素を中心とした有機化合物に関する基礎を取り扱う。
到達目標	有機化合物を原子レベルのミクロの世界で、どのようにつくられ、どのような性質を示し、なぜそのような性質を示すか、を理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:亀岡弘・園田昇編「エッセンシャル有機化学」(化学同人)
成績評価	期末筆記試験約80%、出席点約20%で、主に期末筆記試験により、上記到達目標がほぼ達成できているかどうかを評価する。

科目名	化学Ⅱ
担当教員	丸尾　雅啓
授業概要	大学で学ぶ自然科学の諸分野に必要な化学の基礎知識について、物理化学、無機化学を中心に講義する。高等学校で現象のみ扱っていた事項に関し、原理・法則に基づいた理解を深める。また実際の環境での化学物質の形態や変化に適用するための考え方について学ぶ。
到達目標	(1)化学で用いる基本法則を正確に理解する。(2)化学平衡を理解し、酸塩基、溶解、酸化還元平衡を実際の系に適用できる。(3)化学熱力学に基づいて平衡を統一的に理解する。(4)反応速度、反応機構における律速段階を理解する。(5)物質の三態と構造、実在系での状態方程式を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:大学生の化学第2版(大野惇吉著:三共出版) 指定図書:メイアン 大学の化学 第2版 [1][2]:廣川書店 参考書:元素発見の歴史1, 2, 3(大沼正則 訳:朝倉書店)
成績評価	小試験・宿題(40%)、定期試験(60%)程度の比率で評価する。

科目名	河川環境学
担当教員	倉茂　好匡
授業概要	この講義では, 指定したテキストを元に、河川環境の複雑な問題を取り扱うための基本的知識を身に付ける。それと並行し、まず流体力学の基礎体系を学ぶ. その上で, 河川流や地下水流さらには河川による土砂運搬現象について理解する. 講義では, かなり詳しく数式展開を行う. そのため, 大学1年程度の物理学および数学の知識を必要とする. また, 理解を深めるため, 毎回宿題を課す.
到達目標	河川とその周辺の生態系を理解するための方法を理解できるようになる. 流体力学独特の数学的手続きをおこなえるようになる. また, 流体力学および土砂水理学を実際の現象に応用する手法を理解できるようになる.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:太田猛彦、高橋剛一郎(編)「渓流生態砂防学」(東京大学出版会) 参考書:椿東一郎著「水理学Ⅰ・Ⅱ」(森北出版), 榧根勇著「水文学」(大明堂), 鈴木幸一著「水理学演習」(森北出版), 高山茂美著「河川地形」(共立出版)
成績評価	期末試験を実施する。成績は, 宿題の点数と期末試験の点数とを総合的に評価する。期末試験と課題の比率がおおむね4:6になるように計算し, その点数をもって最終的な評価とする。最終的な得点が60点を超えれば合格である。

科目名	家畜生産環境学
担当教員	松井　徹※
授業概要	地球上には熱帯から寒・冷帯、湿潤地域から砂漠のような乾燥地域まである。様々な環境下で生存する家畜に必要な栄養素について概説するとともに、様々な環境に適応している家畜の特徴、生理反応について教授する。家畜は動物性食糧の供給、皮革、厩堆肥の生産などを通して人類に多大な貢献をしている。一方、近年の大規模家畜生産では環境に悪影響を及ぼす場合もあり、その現状と環境調和型農業を目指した動物生産技術についても講述する。
到達目標	(1)環境ストレスが家畜の体内代謝に及ぼす影響ならびに環境ストレスに対する家畜の適応機能について述べることができるようになる。(2)環境ストレスを低減し、生産性を改善する方法を説明できるようになる。(3)家畜生産が環境に及ぼす影響をならびにその解決法が説明できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:資料を配付する。
成績評価	小試験80%　講義内容が適切に表現できることを確認する。 レポート20%　講義内容の中から1課題を自分で設定する。

科目名	家畜生産生理学
担当教員	岡野　寛治
授業概要	家畜生産の基礎知識として、家畜の栄養生理および繁殖生理の理解を深める。また、環境の変化に対応して、家畜が生命および生産維持のために作動させる諸機能について講義する。
到達目標	家畜の栄養および繁殖生理、ならびに衛生管理に関する知識を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:佐々木義之編 『畜産学概論』 指定図書:津田恒之・小原嘉昭・加藤和雄著 『家畜生理学』 参考書:加藤嘉太郎・山内昭二著 『家畜比較解剖図説上巻・下巻』
成績評価	レポート(20%)、小試験(30%)、期末試験(50%)

科目名	環境・建築デザイン演習
担当教員	学科教員
授業概要	4年次からの卒業研究・卒業制作に備え、自分の関心を持つテーマを取り扱う研究室に3年生後期から所属し、研究・制作に必要とされる基礎的な知識を修得する。あわせて、4年生あるいは大学院生の研究や設計を補助しつつ、それらの進め方を体得する。
到達目標	卒業研究・制作において取り組むべきテーマ、方法、対象を具体化し、研究・制作を着手できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	ゼミへの参加態度や意欲、発言や発表内容による評価　100%

科目名	環境・建築デザイン概論
担当教員	学科教員
授業概要	環境建築デザイン学科で学ぶべき専門分野(建築計画・設計、ランドスケープ、都市・地域計画、建築歴史・意匠、環境設備、建築構造・安全防災など)の入門として位置付ける。本学科全教員が担当し、環境と建築について学ぶべき視点と方法について、それぞれの専門性をふまえ講義する。
到達目標	環境建築デザインを構成する各専門分野の概要を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	レポート(100%):各回に課すレポートの採点集計を平均する。なお、6回以上の欠席(レポート未提出)は「不可」。正当な理由がある場合は、理由書を持参すること。

科目名	環境アセスメント
担当教員	錦澤　滋雄※　・　杉本　卓也※　・　多島　良※
授業概要	環境配慮の重要な手段である環境アセスメントについて、その理論と実際を論じる。アセスの意義と効果およびその限界、法制度による規定内容やそれらが導出されるに至った歴史的経緯などについて、具体事例を踏まえて解説する。またアセスにおける調査・予測・評価の方法論などの技術的側面や諸外国の状況についても学ぶ。アセスは、行政の意思決定を支援する手段でもあり、この点で市民参加や社会的な合意形成の問題についても関連してくる。また、新しいアセスである、戦略アセスについても論ずる。
到達目標	(1)環境アセスメントとは何かを説明できること。 (2)アセスの要件と国内外のアセス法制度の概要について理解すること。 (3)調査・予測・評価の具体的手法とその問題点について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:原科幸彦著「改訂版・環境アセスメント」(放送大学教育振興会) 参考書:島津康男著「市民からの環境アセスメント」(NHKブックス)、原科幸彦編著「環境計画・政策研究の展開」(岩波書店)
成績評価	授業中の課題75%(BRD含む)、最終レポート25%、 ※BRD＝当日ブリーフレポートのこと。与えられたテーマをA4用紙1枚にまとめて講義終了時に提出する。提出は当日のみ受け付ける。

科目名	環境アセスメント演習
担当教員	柴田　裕希
授業概要	環境アセスメント(前期)の学習を基礎に、国内外の実施例から環境アセスメントに関する理解と技術を習得する。演習では、履修者が利害関係者と事業者の立場に分かれ、環境アセスメントの実施例を基に制度や運用上の課題について議論する。これによって、より適切な環境アセスメントのあり方について理解を深める。また、仮想のプロジェクトや計画策定を想定し、環境アセスメントあるいは戦略的環境アセスメントの代替案分析を設計する。
到達目標	環境アセスメントの目的、仕組み、内容、関係者の役割の基本を理解する。 また、その具体的な実施について、手続、手法と内容を事例に即して理解し、利害関係者、事業者、市民の多面的な立場から適切な方法を設計できる力を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講義の際に配布する. 参考書:島津康男「市民からの環境アセスメント」(NHKブックス), 環境影響評価研究会編集「環境アセスメントの最新知識」(ぎょうせい), 環境アセスメント研究会編集「実践ガイド環境アセスメント」(ぎょうせい)
成績評価	演習への参加状況(資料準備、議論での積極性と内容)50%, レポート課題50%

科目名	環境会計
担当教員	富岡　昌雄
授業概要	環境会計とは、企業経営における環境負荷と環境コストを体系的に測定・記録・報告する行為である。この講義では、簿記・会計の基礎を学んだ上で、現在行われている環境会計手法の中から、環境省環境会計ガイドライン、ミュラーヴェンクのエコロジー簿記と企業のエコバランス、およびマテリアルフローコスト会計を取り上げ、解説する。簿記・会計の基礎としては、財務諸表(貸借対照表および損益計算書)の意味、複式簿記の原理、原価計算の仕組みを講じる。
到達目標	簿記・会計の基本的概念を理解するとともに、主要な環境会計手法について、その仕組みと手続きを理解し、意義と問題点を考える。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 指定図書:國部克彦・伊坪徳宏・水口剛『環境経営・会計』、有斐閣。 参考書:講義の際に紹介する。
成績評価	小テストの結果20%、期末試験の成績80%。

科目名	環境解析学・同実験
担当教員	永淵　修　・　丸尾　雅啓　・　尾坂　兼一
授業概要	環境試料の採取・処理法及び分析法について、講義と実験を通して習得する。応用として水・大気・土壌に含まれる主要成分、微量成分の濃縮・分離定量を行い、結果の解析を行う。
到達目標	危険な物質の取り扱い、応急処置法など実験を行うにあたっての安全に関する基本事項を理解する。自然環境における水・大気・土壌の現在の状態把握について、定量的な調査・記述および解析ができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 「実験を安全に行うために」(化学同人) 「実験データを正しく扱うために」(化学同人編集部編)、および配布資料
成績評価	レポート評価によって行う。出席は必須。

科目名	環境化学・実験
担当教員	永淵　修　・　丸尾　雅啓　・　後藤　直成　・　肥田　嘉文　・　尾坂　兼一
授業概要	まず環境試料の取り扱いと分析法を習得する。さらにその応用として，自然水，土壌，食品などの汚染調査と解析の方法について講義と実験を通して習得する。
到達目標	(1)危険な物質の取り扱い，応急処置法など実験を行うにあたっての安全に関する基本事項を理解する。 (2)分析精度を把握し，実験結果の正確な整理・評価が行えること。 (3)水質の基礎分析手法を習得し，その上で，食品，土壌，水質の汚染調査・解析方法を理解し，実施できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「実験を安全に行うために」(化学同人) 「実験データを正しく扱うために」(化学同人編集部編:化学同人)、および配布資料
成績評価	実験への参加態度、実験レポートの提出および内容評価

科目名	環境化学Ⅰ
担当教員	丸尾　雅啓
授業概要	環境科学の学習、および教員を目標とするにあたり、必要な化学の基礎知識について、物理化学、無機化学を中心に講義する。高等学校で現象のみ扱っていた事項に関し、原理・法則に基づいた理解を深める。また実際の環境での化学物質の形態や変化に適用するための考え方について学ぶ。
到達目標	(1)化学で用いる基本法則を正確に理解する。(2)化学平衡を理解し、酸塩基、溶解、酸化還元平衡を実際の系に適用できる。(3)化学熱力学に基づいて平衡を統一的に理解する。(4)反応速度、反応機構における律速段階を理解する。(5)物質の三態と構造、実在系での状態方程式を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:大学生の化学第2版(大野惇吉著:三共出版) 指定図書:メイアン 大学の化学 第2版 [1][2]:廣川書店 参考書:元素発見の歴史1，2，3(大沼正則 訳:朝倉書店)
成績評価	小試験・宿題(40%)、定期試験(60%)程度の比率で評価する。

科目名	環境化学Ⅱ
担当教員	未定
授業概要	生活環境の中で、動植物の占める割合は非常に大きい。そして、これらの動植物を構成している組織の大部分が炭素を中心とした有機化合物でできている。ここでは、上記の観点にたって、化学の中も炭素を中心とした有機化合物に関する基礎を取り扱う。
到達目標	有機化合物を原子レベルのミクロの世界で、どのようにつくられ、どのような性質を示し、なぜそのような性質を示すか、を理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：亀岡弘・園田昇編「エッセンシャル有機化学」（化学同人）
成績評価	期末筆記試験約80％、出席点約20％で、主に期末筆記試験により、上記到達目標がほぼ達成できているかどうかを評価する。

科目名	環境科学概論Ⅰ
担当教員	長谷川　博　・　永淵　修　・　浦部　美佐子　・　岩間　憲治　・　入江　俊一　・　籠谷　泰行
授業概要	地球環境を構成する要素と環境変化の時空間スケールを把握した上で，土壌環境ならびに陸域・水域生態系の基本的構造とこれらに見られる今日的な諸問題について学ぶとともに，これからの食料確保と環境保全のあり方を展望する.
到達目標	環境変動の仕組みについて基本的な理解を得るとともに，自然環境と人間活動の関わり方について深く考察できる能力を身につける.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：使用しない．プリントした資料を配布する. 指定図書：なし 参考書：講義の中で紹介する.
成績評価	毎回の小試験（40％）および期末試験（60％）によって評価する.

科目名	環境科学概論Ⅱ
担当教員	伊丹　清　・　高橋　卓也　・　柴田　いづみ　・　増田　佳昭　・　井手　慎司
授業概要	多様な形で生じる環境問題は、社会の仕組みや制度と密接な関係を持っている。環境問題の解明と解決のために必要な社会的な視点やアプローチ方法について、具体的問題を取り上げながら教授する。
到達目標	(1)環境問題を解決することの難しさを社会的ジレンマ構造によって説明できること。(2)景観やまちづくりを自分達の生きている場として説明できること。(3)農業の環境に対する正負の影響と政策対応について説明できること。(4)地球温暖化、更新性天然資源、環境とビジネスの社会的側面について説明できること。(5)すまうという行為と環境との関わりを多面的に説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：テキストは使用しない。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	小テスト50％、期末試験50％

科目名	環境化学実験
担当教員	上田　邦夫 ・ 永淵　修 ・ 須戸　幹 ・ 丸尾　雅啓 ・ 肥田　嘉文
授業概要	環境科学学習の基礎として、化学実験の基本的な手法を、無機イオンの定性分析法を通じて学習する。次いで容量実験（滴定）、分光光度法を通じて物質の定量的な扱いについて学習する。
到達目標	(1)化学実験に使用する器具の洗浄法、取り扱いが的確に行えること。(2)金属陽イオンの分離、定性、処理を行うことができ、その原理を、環境中における無機イオンの挙動と結びつけて理解できること。(3)滴定、分光光度法など、定量実験に必要な注意事項を理解し、実行できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「無機定性分析実験」（共立出版）および配布プリント
成績評価	レポート提出状況およびレポートの内容評価をあわせて評価する。欠席回数の多いものは、評価対象にしない。

科目名	環境学原論
担当教員	村上　修一
授業概要	この授業では、環境科学に関わる生態、政策計画、建築、生物資源管理という専門領域の違いと重なりを認識した上で、環境の諸問題に対する自分自身の視座を獲得することを目指す。具体的には、特定の環境問題として、四国吉野川の可動堰建設計画をめぐる市民、専門家、行政の動きの中から、注目すべき事例をとりあげる。それらの事例を単に時系列で紹介するだけでなく、自身が学ぼうとする専門の視点から、その問題に対していかにアプローチできるかを問い続けることで、上記目標の達成をはかる。
到達目標	環境科学部を構成する4学科の違いと重なりを認識した上で、環境の諸問題に対する独自の視座を獲得すること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜講義内で示す。
成績評価	ワークシート1:50%　ワークシート2:50% ワークシートは講義時間内に記入し提出するものとし、原則として後日提出を認めない。

科目名	環境学野外実習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	夏季休業期間を利用し，典型的な自然現象・環境が保存または破壊されている場所に赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。
到達目標	それぞれのコースで設定される。
テキスト 指定図書 参考書	必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。
成績評価	各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。

科目名	環境学野外実習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	夏季休業期間を利用し，典型的な自然現象・環境が保存または破壊されている場所に赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。
到達目標	それぞれのコースで設定される。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。
成績評価	各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。

科目名	環境学野外実習Ⅲ
担当教員	学科教員
授業概要	夏季休業期間を利用し，典型的な自然現象・環境が保存または破壊されている場所に赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。
到達目標	それぞれのコースで設定される。
テキスト 指定図書 参考書	必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。
成績評価	各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。

科目名	環境監査
担当教員	高橋　卓也　・　西田　一雄※
授業概要	企業等の組織における環境面および経営面の持続性には、経営にマネジメントシステムを導入することが不可欠とされている。そしてマネジメントシステムには公正性と透明性が必要とされる。また、このマネジメントシステムの健全性を確保するために、運用の実態を検証するための環境監査が必要となる。本講では、環境保全と汚染の予防を目的とする環境マネジメントシステム(ISO14001)を学ぶ。そして、経営システムの中のチェック機能としての環境監査のあり方及び監査の方法を理解する。
到達目標	(1)ISO14001規格の成立の背景と具体的にどのようなルールにより環境改善を実現しようとしているかの仕組みを理解する。(2)システムの健全な運用に監査がどのように機能するかを学ぶ。(3)環境監査が実施できるだけの用語の知識、基礎的な監査技術を身につける。(4)環境監査の多様性を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回講義でプリントを配布する。 指定図書： JISQ14001「環境マネジメントシステム一要求事項及び利用の手引き」(日本規格協会) JISQ19011「品質及び/又は環境マネジメントシステム監査のための指針」(日本規格協会) 参考書： 鈴木敏央著「よくわかる環境マネジメントシステム」(ダイヤモンド社)：マネジメントシステムの構築ノウハウ 西崎洋一、小野隆範、園部浩一郎編著「ISO14001規格のここが分からない？」(日科技連)：規格要求事項の実践的解釈 財団法人日本規格協会編「ISO規格の基礎知識」(日本規格協会)：ISO組織と規格発行の仕組み 鈴木敏央著「ISO環境法」(ダイヤモンド社)：環境法規制の規制等の詳細一覧 テクノファ編著「ISO14001内部環境監査員の実務入門」(日科技連)：監査実務とチェックリスト作成
成績評価	西田分(第6回～第10回)：1回の演習10%　小テスト30% 高橋分(第1回～第5回；第11回～第15回)：2回の演習　20%　小テスト40%

科目名	環境技術
担当教員	太田　浩史※
授業概要	建築における環境技術は設備設計にとどまるものではなく、敷地に対する建築の配置、形態、エンヴェロップのデザインやリノベーションの活用など、多岐に渡るものである。ここでは現代建築と環境技術の関連を探りながら、建築設計における環境論的発想の重要性を学んでいく。講義は＜環境技術＞と＜環境論の先駆者＞のシリーズに分け、＜環境技術＞では実際の設計事例を通して環境要素技術とその組み合わせを学び、＜環境論の先駆者＞では人に注目して手法論の振幅を把握する。
到達目標	次の3つの理解を目標とする (1)サステイナブル建築をデザインするためのデザイン手法の把握 (2) 環境要素技術の理解(3)現代建築史におけるサステイナブル建築の成立とその背景
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『省エネルギー建築ガイド』, IBEC, 2001 指定図書:『環境としての建築』, R.バンハム著
成績評価	レポート(50%)および試験(50%)によって評価する

科目名	環境技術史
担当教員	冨島　義幸
授業概要	建築における環境技術は設備設計にとどまるものではなく、敷地に対する建築の配置、形態、エンヴェロップのデザインやリノベーションの活用など、多岐に渡るものである。ここでは現代建築と環境技術の関連を探りながら、建築設計における環境論的発想の重要性を学んでいく。講義は＜環境技術＞と＜環境論の先駆者＞のシリーズに分け、＜環境技術＞では実際の設計事例を通して環境要素技術とその組み合わせを学び、＜環境論の先駆者＞では人に注目して手法論の振幅を把握する。
到達目標	日本近代以前の居住環境の歴史的な変遷と、そこにおける建築・土木技術の在り方や、環境に対する思想の在り方を理解することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業中に紹介
成績評価	期末試験の成績（50％）と授業中におこなう小論文課題（50％）の評価を総合する

科目名	環境気象学
担当教員	小谷　廣通
授業概要	植物をとりまく大気環境を理解するための微気象学および農業気象学入門である。まず、大気の構造および放射収支の概略と、植物をとりまく放射環境、温・湿環境、水環境およびエネルギーと物質の流れを理解する。次に、気候と植物生産との関係および地球環境保全と植物との関係について学ぶ。
到達目標	農学および生態学を学ぶ基礎学問として、また、地球環境保全に果たす植物の役割といった観点も含めて、植物をとりまく大気環境を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:文字他編「農学・生態学のための気象環境学」(丸善) 参考書:堀口他著「農業気象学」(文永堂出版)
成績評価	レポート評価50％　各章の練習問題を十分理解して解答できること。 期末筆記試験50％　各章の練習問題を基本にした応用問題が解答できること。

科目名	環境共生デザイン
担当教員	松岡　拓公雄　・　村上　修一　・　柴田　いづみ
授業概要	地球規模の環境課題の所在を明らかにした上で、都市・地域・建築それぞれの空間レベルに対応した環境共生の理念、計画およびデザイン手法について国内外の取り組み（施策・プロジェクト）をとおして講義する。また、循環型社会を構築するための建築材料及び技術（省資源・自然エネルギー・地産地消など）の現状と可能性について、具体的事例をもとに考察する。単なる知識としてではなく、環境と建築にかかる新たなデザインおよび技術の創発に役立つ実践的な講義内容とする。
到達目標	(1)空間レベルに対応した環境共生の理念、計画およびデザイン手法を理解する。 (2)サスティナブルな建築・ランドスケープの計画・設計手法を学び、新たな構想力やデザイン力を開発する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:「シリーズ地球環境建築・入門編」「シリーズ地球環境建築・専門編1・2,・3」日本建築学会、彰国社、2004.1-11、「エコロジカル・デザイン」シム・ヴァンダーリン+スチュワート・コーワン著、林昭男+渡和由訳、ビオシティ、1997.5ほか、講義で紹介する。
成績評価	課題レポート　100%

科目名	環境経営論
担当教員	高橋　卓也
授業概要	企業は環境破壊について多大な責任を有する一方、そのダイナミックな革新能力によって問題解決への貢献をなしうる可能性をも有している。この授業では，企業経営者または所有者の視点に限定されることなく、従業員、政府、社会全体の視点からも、企業と自然環境の関係をいかに改善するかについて考えていきたい。その枠組みとして、経済学、経営学、政治学、社会学といった社会科学の諸分野を援用する。
到達目標	環境経営について基礎的な知識を得た上で、以上に述べた枠組みを駆使して具体例を分析し、自身の意見を形成しうる力を身に付けること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:（特になし、資料を配布する） 指定図書:堀内行蔵・向井常雄著『実践環境経営論:戦略論的アプローチ』（東洋経済新報社）2006年 参考書は適宜紹介する。
成績評価	各回のレスポンスシート内容（20%）、事例報告（30%）、期末筆記試験（50%）

科目名	環境計画学
担当教員	柴田　裕希
授業概要	有限な環境の中で持続可能な社会を構築するには、「計画」の概念を用いて人間の活動と環境の調和を図る必要がある。このような環境計画の考え方は、環境に関する問題や人間活動そのものが時代を追って変化する中で徐々に認識されるようになってきた。また、現在も多くの環境問題と多様な人間活動の中で、環境計画には多くの考え方や手法・技術、課題がある。この歴史的変遷を整理するとともに、現在の環境計画に関する制度的仕組みや様々な手法、最新の取り組みを国内外の事例を通じて学ぶ。
到達目標	環境問題と社会的意思決定とのかかわりを理解し、想定される環境問題に対し計画によって対処する適切な手法を判断できる力を養う。さらに、多様な実践例を習得し、より適切な計画をデザインする力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:用いない. 指定図書:末石冨太郎＋環境計画研究会編『環境計画論』（森北出版），原科幸彦編『環境計画・政策研究の展開　持続可能な社会づくりへの合意形成』（岩波出版），倉阪秀史著『環境政策論』（信山社）. 参考書:授業中に随時紹介.
成績評価	授業中ミニレポート50%、筆記試験50%

科目名	環境経済学
担当教員	林　宰司
授業概要	環境経済学の基礎理論と、その環境政策への応用を学ぶ。環境経済学は応用経済学の一分野であり、経済学的な思考方法を習得することが前提となる。そのための基本的な経済学の概念お理解は避けて通れない。ひとつの理論体系を習得することがねらいであるので、毎回の予習・復習、講義時のノート・テイキングは不可欠である。毎回の講義内容の理解の積み重ねが重要なので、理解不十分な点に関しては放置せず、各回ごとに必ず質問し、解決すること。
到達目標	ミクロ経済理論の理解を前提に、環境問題の分析、環境政策に応用できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：バーリー・C・フィールド「環境経済学入門」（日本評論社） 参考書：西村和雄「ミクロ経済学」第2版（岩波書店） 植田和弘「環境経済学」（岩波書店）
成績評価	平常点（小テスト） 30％ 期末試験 70％　毎回の講義の内容を理解できていること。

科目名	環境行動論
担当教員	村上　修一
授業概要	本講義では、人間の行動と空間との関係を、様々な視点から考察していく。第2～8回では、具体事例の紹介や簡単な演習を織り込みながら、環境行動について講義を行う。また、調査課題についての説明や、調査に必要な情報の提供も行う。受講生は、講義で紹介される調査課題を1題選択し、講義内容や説明を参考に調査を実施して結果をまとめ、第9～15回の指定された回に発表し討議することが求められる。また、指定回以外の発表を聞き討議に参加することが求められる。
到達目標	事例等をとおして解説する環境行動に関する知識や手法を自ら応用できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜講義の中で示す。
成績評価	調査発表：100%

科目名	環境シミュレーション
担当教員	井手　慎司
授業概要	環境の諸現象を再現、分析、予測するための数学モデリングおよびコンピュータ・シミュレーション技法の基礎を学ぶ。授業ではモデリングの基本的な考え方（物質収支・反応速度論）、モデルの構築手順、コンピュータ・シミュレーションとそのための数値解析（プログラミング）、シミュレーション結果のグラフィカル・プレゼンテーションなどについて解説する。
到達目標	Excelの表計算機能やVBAを用いて、シミュレーションプログラムを作成できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリントを配付 参考書：三井和男著「Excelコンピュータシミュレーション」（森北出版）
成績評価	課題50%。 期末筆記試験50%。シミュレーションプログラムをVBAで構築できること。 ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	環境社会学
担当教員	小野　奈々
授業概要	この授業では、環境社会学にオリジナルの研究方法や分析視点を学びます。その際、人々の生活を大切にして環境を考える「生活環境主義」というディシプリンにも言及します。世界や日本国内、身近な琵琶湖の事例までを豊富に紹介する予定です。総括討論では、前半・中盤・後半で紹介した事例や環境社会学の視点をもとに、環境保全の管理の在り方がどうあるべきかをイメージするための記述訓練や相互ディスカッションを実施します。
到達目標	1）環境社会学の動向を理解する 2）琵琶湖とその周辺地域に関心を向ける 3）住民の生活から環境を捉え、考える力を養う
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：鳥越皓之著『環境社会学－生活者の立場から考える』、東京大学出版会、2004年
成績評価	毎授業提出のレスポンス・ペーパー75％，期末試験25％

科目名	環境情報演習
担当教員	松本　健一
授業概要	環境情報システム（データベース）の基礎を学ぶとともに、環境データベースを実際に構築、構築する過程で、情報の収集・記録・整理（分類）・保存・検索、また獲得した情報の要約・解析・統合のための包括的な方法論を身につける。
到達目標	環境情報システム（データベース）を設計し、構築できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリントを配付 参考書：「情報検索・基礎と演習 データベース」(ソフトバンク)
成績評価	小テスト・課題 30％　毎回小テストを行う。課題は不定期に出題。小テスト・課題ともに各2点満点とする。 期末筆記試験 70％　データベースを設計、構築できること。

科目名	環境職能論
担当教員	松岡　拓公雄
授業概要	現代生活にとって職能（プロフェッション）の重要性は増大している。とりわけ生活環境の想像、安全防災、健康、自然の保全に関わる建築家等等職能人の責任は大きい。プロフェッションの現代的意義、制度、倫理などについて論述する。故内井昭蔵教授の職能とは何か、また生活環境創造に関わる職能人として大きな存在であった建築家やアーチストを例にとり、その歴史を概説し、他の職能との比較を通じ、その本質について理解を求める。又、諸外国でのプロフェッション成立を考察し、我が国の職能問題を明らかにする。更に環境問題と職能、環境倫理との関係について論述する。
到達目標	建築、ものつくりに関わる人々の職能意識を知ることができ、その意識であるデザインマインドについて理解を深めることができる。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	出席回数および毎回提出レポート内容による。

科目名	環境植物生理学
担当教員	原田　英美子
授業概要	植物の持つ特有の生理的機能と、地球環境における植物の重要性について学ぶ。
到達目標	植物生理学の基本的な事項および概念を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「絵とき植物生理学入門　改訂2版」オーム社(2007年) 参考書:「はじめての生化学」化学同人(1998年)
成績評価	期末試験(70%)と小試験もしくは中間レポート(30%)

科目名	環境数学Ⅰ・演習
担当教員	廣島　幸正※
授業概要	私たちの身近な社会現象や自然現象における種々の問題に対処するためには、現象を定性的・定量的に表現し、その因果関係の法則性を見つけ、解析することが不可欠である。そのために必要な数学の知識や方法として微分積分学と線形代数学の基礎を学習する。併せて本当に役立つ知識を身につけるために講義とあわせて演習を行う。
到達目標	(1) ε－δ 論法の理解。 (2)初等関数の微分及びTaylor展開の理解。 (3)初等関数の不定積分・置換積分・部分積分の理解。 (4)無限級数の収束・発散を調べる事。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:矢野　健太郎・石原　繁共著「科学技術者のための基礎数学」(裳華房) 指定図書:中村哲男・今井秀雄・清水　悟共著「基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ」(共立出版社) 参考書:講義の中で紹介する。
成績評価	期末考査　70%、ﾚﾎﾟｰﾄ評価　30%で評価する。

科目名	環境数学Ⅱ・演習
担当教員	廣島　幸正※
授業概要	私たちの身近な社会現象や自然現象における種々の問題に対処するためには、現象を定性的・定量的に表現し、その因果関係の法則性を見つけ、解析することが不可欠である。そのために必要な数学の知識や方法として微分積分学と線形代数学の基礎を学習する。併せて本当に役立つ知識を身につけるために講義とあわせて演習を行う。
到達目標	(1)変数分離型微分方程式が解けること。 (2)同次型微分方程式が解けること。 (3)線形微分方程式が解けること。 (4)Fourier変換やLaplace変換を微分方程式に応用すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:矢野　健太郎・石原　繁共著「科学技術者のための基礎数学」(裳華房) 指定図書:中村哲男・今井秀雄・清水　悟共著「基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ」(共立出版社) 参考書:講義の中で紹介する。
成績評価	期末考査　70%、ﾚﾎﾟｰﾄ評価　30%で評価する。

科目名	環境生化学
担当教員	肥田　嘉文
授業概要	死亡数，死亡率の変遷から，人類が感染症と戦うすべを改善することで余命を獲得してきた歴史と，現代の生活習慣病との関わりを概観し，その上で個々の事柄の生化学的側面を紹介する。また要所において，「リスク管理」，あるいは「擬似科学と科学リテラシー」に関する話題と絡めて解説する。
到達目標	(1)感染症の時代から生活習慣病の時代への疾病の変遷を把握できる。(2)感染症，生活習慣病といった疾病についての主要な生化学的背景が理解できる。(3)疫学の基本事項を習得し，「科学的事実」の成り立ちと信頼性の評価を行うことができる。(4)ハザードとリスクを区別できる。リスク管理の考え方が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配付 参考書:「キャンベル生物学」丸善(2007)、「ヴォート基礎生化学 第2版」東京化学同人(2007)、「栄養疫学」南工堂(2001)
成績評価	毎回講義の終わりに提出する「講義内容に関する通信票」で授業への参加態度を評価する。成績評価は，これと定期試験の結果をそれぞれおよそ40%，60%として総合して行う(レポートを課した場合は，これを前者に含めて評価する)。

科目名	環境政策学
担当教員	秋山　道雄
授業概要	環境政策が成立する背景、環境政策に関わる組織と制度、環境政策の目標と手段など、環境政策の体系に関する理解を目指す。環境政策は、環境問題を解決するために実践されたさまざまな試みが成立の根拠となっている。現在では、汚染管理や自然保護からアメニティの保全・創出や地球環境問題への取組みなど、環境政策の対象は拡大してきている。ここでは、主要な政策の形成過程にとどまらず、その実施過程と成果を概観して、当該政策の意義と問題点を説明する。さらに、政策の実効性を高めるため、環境ガバナンスをめぐる課題について解説する。
到達目標	(1)環境問題と環境政策の関連について説明できる。 (2)環境政策の性格と機能を理解できる。(3)環境政策の目標と手段を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:用いない。資料はプリントを配布。 参考書:授業中に随時紹介する。
成績評価	授業中にレポートを課す、複数のレポートを評価、50%、期末筆記試験、50%。

科目名	環境生態学演習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	所属する研究室のゼミに参加し，自身の研究成果の発表や国内外の新しい情報を収集・整理したものの発表を行い，それに関する討論を実施する。また，発表用の資料作成を通して，論文作成能力およびプレゼンテーションの能力を養う。
到達目標	卒業研究の実施に必要な論文作成能力・プレゼンテーション能力を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	ゼミへの参加状況，発表の準備状況，発表内容，質疑応答内容等を総合的に判断して評価する。

科目名	環境生態学演習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	所属する研究室のゼミに参加し，自身の研究成果の発表や国内外の新しい情報を収集・整理したものの発表を行い，それに関する討論を実施する。また，発表用の資料作成を通して，論文作成能力およびプレゼンテーションの能力を養う。
到達目標	卒業研究の実施に必要な論文作成能力・プレゼンテーション能力を習得すること
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	ゼミへの参加状況，発表の準備状況，発表内容，質疑応答内容等を総合的に判断して評価する。

科目名	環境生態学基礎演習
担当教員	学科教員
授業概要	環境生態学科でおこなわれている最新の研究内容にふれ，それを初歩的に理解し，研究への興味を涵養する．また，実際に研究成果として提示される図表を自ら読み解き，傾向や特徴を把握するための演習を行う．さらに，自らが得た情報に基づいてプレゼンテーションを行うとともに，レポートとしてまとめる．
到達目標	(1) 図表を客観的に読み取り，その特徴を説明できるようになる． (2) 自らが理解した内容を，科学的な和文として表現できるようになる．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業内で資料を配布する。
成績評価	毎回の授業での演習への参加度60％，宿題40％

科目名	環境生態学外書講読
担当教員	学科教員
授業概要	自然環境についての理解を深めると共に、英文の講読力を涵養することを目的とする。大気圏環境・陸圏環境・水圏環境・生物圏環境に関する専門の文献を教材として講述する。授業方法は、教員が準備した英語の専門書や文献を、受講生自ら適切にレビューする。
到達目標	英文の専門学術書に対する読解力の基礎をつくる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：資料を講義中に配布する。
成績評価	出席、予習の状況、レポートなどにより総合的に評価する。

科目名	環境生態学外書表現
担当教員	学科教員
授業概要	卒業研究の前段階の講義として位置づけられる環境生態学外書表現では、大気圏・陸圏・水圏・生物圏など地球生態系の構造と機能、ならびにそこで生じている環境問題に関する海外の最新の文献を教材・素材として講述する。授業方法は、学習効果が上がるとされる演習形式で行い、受講生みずから適切な文献をもとに発表する。
到達目標	(1)専門学術書(英文)に対する受講生の読解力を習得する。 (2)卒業研究を行ううえで欠くことのできない国内外の学術論文を理解する手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業時間中に資料を配布する
成績評価	出席が三分の二以上の者に対して試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	環境生態学特別実習
担当教員	学科教員
授業概要	卒業研究に先立ち、環境問題についてみずから取り組む姿勢を涵養すると同時に、それぞれの分野における問題の理解と解決に必要な専門的手法を修得するため、各教員が実習を行う。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	各教員により指示する
成績評価	

科目名	環境生物学Ⅰ
担当教員	浦部　美佐子
授業概要	環境と生物のかかわりを理解するために必須である生物学の基礎事項、すなわち生物の体を形作る基本となっいる細胞の構造と働き，有機高分子(タンパク質、脂質、炭水化物、核酸)の構造とそれらの主な働き、エネルギー交代・物質交代のしくみ、遺伝と進化のしくみについて説明する。
到達目標	生物体の構造と機能について基礎的な用語と概念を理解し，これらを説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書」第1巻「細胞生物学」および第2巻「分子遺伝学」(講談社ブルーバックス)
成績評価	小テスト40%、期末試験60％

科目名	環境生物学Ⅱ
担当教員	浅岡　一雄※
授業概要	生物の基本単位である細胞の構造と機能、細胞運動、細胞周期、細胞の分化や発生などについて解説する。動物に特徴的な高度な生体防御系や脳・神経系のしくみについて基本的なことを述べ、ヒトや動物が獲得した高度な機能や、進化、環境適応、生物多様性について基本的な事柄を解説する。種々の制御機構の異常と密接に関連する癌や寿命にもふれて理解を深める。過去問の答案練習を課す。
到達目標	(1)生命現象を分子細胞生物学と環境科学の視点からとらえ理解する。 (2)健康管理を生物原理に沿って理解し理科教育の際に生徒指導できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:生物図表(浜島書店)、英和・和英辞典を用意すること。 指定図書:M.Cain他著(石川　統監訳)「ケイン生物学」(東京化学同人) 参考書:Bruce Alberts他著(中村桂子他監修訳)「Essential Cell Biology(Essential細胞生物学)」(南江堂)、真島英信著「生理学」(文光堂)、P.Bradley他著(後藤貞夫訳)「ヒトの生物学」(東京化学同人)
成績評価	定期試験50%、小テスト30%、答案練習およびプレゼンテーション20%、などから総合的に評価する。

科目名	環境生物学実験
担当教員	泉　泰弘 ・ 野間　直彦 ・ 上町　達也 ・ 伴　修平 ・ 杉浦　省三 ・ 入江　俊一 ・ 籠谷　泰行 ・ 清水　顕史 ・ 原田　英美子 ・ 西田　隆義
授業概要	生物を観察するための最も重要な道具である顕微鏡の取り扱いに習熟し、さまざまな生物の形態とそのはたらきについて実験・観察を行う。また、屋外に出て植物群落のデータを取り、この結果についてコンピュータを用い、多様性や群落間の類似度などに関する解析法を習得する。
到達目標	生物に共通する重要なはたらきを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:実験手順に関するプリントを毎回配布する。 指定図書:なし 参考書:授業中に紹介
成績評価	出席および毎回提出のレポート

科目名	環境設計Ⅰ
担当教員	ホアン・ラモン
授業概要	人間生活を支える器としての都市・建築における空間計画や空間構成に必要な基礎的知識と原理を学ぶ。まず、空間の大きさや寸法の決め方および人間の行動法則を理解する。その上で建築物を設計する際に考慮すべき美的・社会的・実利的な視点を踏まえながら、単位空間を集合させた複合空間としての建築空間の計画方法について講述する
到達目標	それぞれの文明による環境、都市空間、建築空間の構造について，単位空間を集合させた複合空間としての建築空間の計画方法について.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講義の中で紹介する.
成績評価	レポート課題(30%)＋中間試験(30%)＋期末試験(40%)の合計100点で評価し，60点以上を合格とする. レポート課題は各回の内容，中間試験は第1～7回の内容，期末試験は第1～15回の内容を理解し，問題を解けること.

科目名	環境設計Ⅱ
担当教員	高柳　英明
授業概要	建築は周辺の都市環境や自然環境から孤立して存在することはできず、ひとつの建築の成立には、周辺環境とのインタラクションを熟慮した結果が随所に反映されている。そうし白眉の数々は、特異な造形デザインとして看取される場合もあれば、建築のプログラムにひっそりと隠匿されていることもある。 本授業では、建築設計の与件として不可欠な『環境設計』に着目し、いくつかの作品事例を取り上げ、それらがいかなるプロセスを経て実現に至ったのかを推理し理解することで、自然や都市環境に対する建築技術者としての読解力や問題解決能力、企画力を養うことを目的とする。
到達目標	平面図から建築環境のプログラムを理解すること、断面図から空間の質的要因を読み解くこと、環境建築に見られる空間要素とその心理的効果・物理的性能に対する計画者視点からの理解などを習得することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:『建築設計ノート-集合住宅編(2008年1月出版、彰国社)』、『空間要素 2006年出版、井上書院』
成績評価	適宜即日レポートを課す。それらの合計点を100%として評価する。

科目名	環境設備
担当教員	伊丹　清
授業概要	省エネルギー・環境負荷軽減などを考慮しつつ、快適な建築内部環境をつくり・維持するための設備的手法について、その原理・技術を理解し、適切な計画ができるようになるための考え方、またその具体的な方法等について学ぶ。加えて、ヒートアイランド現象等への対策、建築設備・都市設備に関する環境負荷軽減手法や省エネルギー手法等の最新動向についても紹介する。
到達目標	快適な建築室内環境をつくり・維持するための設備的手法の具体的な原理・技術について理解し説明ができること。環境負荷軽減や省エネルギーのための手法、ヒートアイランド対策などと、われわれの生活環境、建築・都市設備との関わりについて理解ができていること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:授業で適宜紹介する。
成績評価	小テスト30%、レポート課題20%、期末試験50%

科目名	環境造形論
担当教員	迫田　正美
授業概要	19世紀末から現代にいたる芸術・造形活動の動向とその背景・影響についての理解を深めるとともに、建築やランドスケープデザインを始めとする環境造形の要点として、空間・意味・行為の相互連関が20世紀を通じてどのように位置付けられてきたかを理解する。その上で、モダニズムから現代の建築・環境造形作品の中に、それぞれの作家がそれらをどのように表現してきたかを追うことで、環境を造形することの意味と可能性の広がりについて考える。
到達目標	近現代の造形芸術の歴史的展望と、20世紀の建築デザインにおける機能(行為)と空間の相関についての諸理論を理解するとともに、これからの環境デザインの目指すべき方向について各自が実践的に考えることのできる視座の獲得を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『近代建築史』石田潤一郎、中川理編、昭和堂 『近代建築史図集』日本建築学会編、彰国社
成績評価	各回に提出する小レポート(30%)と筆記試験(70%)による。

科目名	環境地学
担当教員	堂満　華子
授業概要	1960年代後半より精力的に進められた海底堆積物の研究は，地球環境が数万年スケールで劇的な変化を繰り返していることを明らかにしてきた．近年では，地質時代のもっとも若い時代である第四紀を対象とした高分解能の年代決定と古環境解析がめざましい発展をとげ，その成果は数千年ー数十年スケールの地球環境変動とそのメカニズムの解明に大きく貢献している．本講義では，おもに海底・湖沼堆積物の研究からどのようなことがわかるのかについて実例をあげて解説する．これをもとに，古環境復元の意義と方法，そして現在の地球環境の成立について学ぶ．
到達目標	過去の地球環境を復元する基礎的な方法を理解する．現在の地球環境に対する理解を深める．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：適宜紹介
成績評価	宿題・レポート・小テスト：40%，期末試験：60%

科目名	環境地球科学Ⅰ
担当教員	堂満　華子
授業概要	地球は46億年前に誕生してからさまざまな変遷を経て今日に至っている．本講義をとおして，地球史に関する基礎を学ぶとともに，地球環境の現在と未来について考える．
到達目標	地球史に関する基礎知識を習得する．地球科学的な視点を身につける．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：適宜紹介
成績評価	宿題・レポート・小テスト：40% 期末試験：60%

科目名	環境地球科学Ⅱ
担当教員	山口　弘※
授業概要	地球の表層は気圏、水圏、岩石圏からなり、そして多くの生命が存在する。地球形成以降、46億年の時間を経て、現在の地球環境に至っている。この授業を通して、地球科学の研究手法に関する基礎的な知識の習得と，固体地球を構造、運動、進化という観点から理解することを目的とする。
到達目標	①地球の誕生から地球層構造の形成までのプロセスが説明できること。 ②年代測定、地震波、地磁気のデータから地殻変動を説明できること。 ③地球表面の運動と元素の再分配の特徴を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西村祐二郎編著「基礎地球科学」（朝倉書店） 指定図書：酒井治孝著「地球学入門」（東海大学出版会）、地学団体研究会編　新版地学教育講座「4　岩石と地下資源」（東海大学出版） 参考書：最新図表地学（浜島書店）
成績評価	授業時間の2／3以上出席する受講者が評価の対象であり、受講態度（ノート評価を含む）30％、課題評価30％　試験40％で評価する。地球科学の研究手法に関する基礎的な知識についての理解度、地球のシステムについて理解度を評価する。

科目名	環境地球科学実験（コンピュータ活用含む）
担当教員	三田村　緒佐武　・　倉茂　好匡　・　後藤　直成　・　堂満　華子
授業概要	環境問題の実態把握と環境変遷史の復元が全体的なテーマで、地形図・地質図・空中写真の判読、等値線図の解析、および環境問題の地域的特徴などに関する各種主題図の作成と編集、岩石・鉱物の微視的構造の観察、および河川・湖沼生態系の地球科学的構造の計測・観測によって、環境問題の実態を把握すること、およびその変遷史を復元する能力を修得させる。
到達目標	(1)地質鉱物学、岩石学、地球物理学、地球化学などの分野の重要課題を実験を通して習得する。 (2)琵琶湖とその流域生態系の地球科学的構造を総合的に理解すること。 (3)環境問題を解決するための基礎思考が可能になること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業時に配布する。
成績評価	出席が三分の二以上の者に対して試験ならびにレポートを総合して評価する。

科目名	環境統計解析学
担当教員	籠谷　泰行
授業概要	環境科学等の分野で得られるさまざまのデータに対して用いられる主要な統計解析の手法とその基礎となる考え方を解説する。
到達目標	統計学的な考え方、および基本的な統計解析手法の習得。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：今野秀二・味村良雄著「医学・薬学系のための生物統計学入門」（ムイスリ出版）
成績評価	毎回の課題提出（50％）：毎回、授業内容に即した演習問題を課題として提出する。 期末試験（50％）：授業内容全体からいくつかを選んで出題する。

科目名	環境動物学
担当教員	今井　長兵衛※
授業概要	環境論、環境と生物の相互作用、地域レベルおよび地球規模の環境変化の生物影響、生物の環境指標性等に着目し、環境の主体としての人間や第二の主体としての生物の視点から、望ましい環境の在り方を考える。環境の社会経済的側面の重要性、および生物へのまなざしの環境科学における重要性を伝え、環境問題に正面から取り組める人材の育成をめざす。
到達目標	(1) 環境と生物の相互作用を説明できること。 (2) 環境変化の生物影響を説明できること。 (3) 小動物・昆虫の環境指標性を説明できること。 (4) 都市における生物多様性の実状と保全手法を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：適宜紹介
成績評価	授業後のレスポンスペーパー　50％ レポート評価　50％　レポート評価では、全体の構成、論旨の整合性・独自性、文章力などを重視する。

科目名	環境フィールドワークⅠ
担当教員	学部教員
授業概要	実際の地域環境問題が生起するフィールドに足を運び、自分自身の五感を通して環境問題に触れ、それを図、文字、数値データに記録する方法を学ぶ。また、自分自身で記述した記録から、地域環境問題がどのような問題構造をもったものであるか、グループ討議を通して組み立てる演習をおこなう。
到達目標	環境の中にある問題点を発見する視点を持つこと。同時にプレゼンテーション・レポートの各スキルの基礎を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『フィールドワーク心得帖(上・下)』(生協売店で販売)
成績評価	出席状況、実験実習におけるパフォーマンスおよびレポート提出を重視する。

科目名	環境フィールドワークⅡ
担当教員	学部教員
授業概要	地域環境にかかわる情報は多分野にまたがり、性質も多様である。これらの環境情報を収集し解析するために、対象地域あるいは問題対象を特定し、フィールドワークを通じて、自然調査や社会調査の基本的な手法を学んでいく。ねらいは、フィールドワークの手法を地域の環境問題の解析に適用することにより、現場に即した調査態度と解析手法、レポートに作成、発表の方法を学ぶことである。
到達目標	調査の基本的方法を実践的に取得する。また、プレゼンテーション・レポートの各スキルをより発展的に身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 共通のテキストを用いない。テキスト・参考書等は、各グループの担当教員が必要に応じて指示する。
成績評価	成績評価にあたっては出席状況を重視する。また、講義および実習、レポートの成績を加算して評価する。

科目名	環境フィールドワークⅢ
担当教員	学部教員
授業概要	実際の環境現象／環境問題がどのような構造を持った問題であるのかを解明し、それに取り組むにはどのような手法が適用可能であり、有効であるのかを、フィールドデータの収集、分析、整理を通じて明らかにする。
到達目標	フィールドワークの実践を自らの視点で行う態度を養う。データ解析・報告書のスキルもより高度なものにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 共通のテキストを用いない。テキスト・参考書等は、各グループの担当教員が必要に応じて指示する。
成績評価	実習および課題提出により評価する。

科目名	環境物理学Ⅰ
担当教員	倉茂　好匡
授業概要	物理学の基本である力学（質点および剛体）を扱う。大学レベルの物理学の基本を扱うので、微分・積分・ベクトル代数を使用する。この講義では、力学の基本的現象を理解したうえで、それを数式化して解析することを学ぶ。ただし、物理学が単なる「計算問題を解く」ことにならないよう、多くの演示実験を交える。
到達目標	この講義の内容を理解すれば、2年生以降に環境科学部で履修する物理的内容（特に流体力学に関するもの）に十分についていけるようになる。そのために必要な数学的手続きについても学ぶので、力学を扱ううえで必要な数学的手続きにも慣れることができる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：ファイマン他著「ファイマン物理学I　力学」（岩波書店），バークレー物理学コースI「力学　上・下」（丸善），井上光ほか著「工科系のための基礎力学」東京教学社
成績評価	期末試験を実施する。成績は，宿題の点数と期末試験の点数とを総合的に評価する。期末試験と課題の比率がおおむね4：6になるように計算し，その点数をもって最終的な評価とする。最終的な得点が60点を超えれば合格である。

科目名	環境物理学Ⅱ
担当教員	村岡　良和※
授業概要	電気力は，重力と並んで自然界を支配している基本的な力であり，テレビ，携帯電話，パソコンなど現代人の生活に欠かせない機器はその原理を応用して作られている。しかし，電気力が重力とは異なり，本質的にはミクロの世界で作用する力であるため，その力を体感することができず，普段身の回りで起こっている現象との関連を直感的には理解しにくくなっている。 このような電気力の働きとその意義を理解するために，電気や磁気の様々な現象を通して現代物理学の考え方を学び，自然現象の奥に潜む法則性を理解する。
到達目標	(1) 場の概念を理解し，電場と電位（差）について説明できる。 (2) 電流とそれによる仕事について説明できる。 (3) 電流と磁場の相互関係について説明できる。 (4) 電磁誘導について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：原　康夫著「物理学入門」（学術図書出版社） 参考書：原　康夫著「第3版基礎物理学」（学術図書出版社）
成績評価	期末試験（総合的な筆記試験）の結果（60%），小テスト＋課題レポートの成績（40%） ただし，講義回数の1/3以上欠席した場合，評価の対象にならない。

科目名	環境物理学実験（コンピュータ活用を含む）
担当教員	倉茂　好匡　・　岩間　憲治　・　堂満　華子　・　三浦　信宏※
授業概要	この実験では，基礎物理学および環境測定原理に関する重要な物理的概念を学生自らが実験を通して体感することを最重要課題と考えている．そのため，学習意欲のある学生を対象とした，少人数グループ制での活発な授業をめざす．高等学校で特に物理を履修していない学生でも自主勉強により十分理解できる内容である．　実験授業であるから，履修する学生たちが主役である．迅速に正しいデータがとれるような実験環境を自主的に整備し，各グループで自立解決型の授業をめざす．
到達目標	環境科学の大前提は「自然現象を正確に把握すること」である．このためこの実験では，1）他人を説得できる客観的なデータを定量的に測定できるようになること，2）自分なりの仮説をたてられるようになること，3）実測値と仮説を比較しつつ定量的・定性的にレポートを作成できるようになること目標とする．
テキスト 指定図書 参考書	使用するテキストを第1回目の授業時に配布する．
成績評価	毎回の実験レポートを，翌週の冒頭で回収する．したがって，全部で13種類の実験レポートを作成することになる。毎回のレポートを100点法で採点する．その上で，13種類のレポートの平均点が60点を超えた場合に合格とする．

科目名	環境変遷史
担当教員	堂満　華子
授業概要	本講義では，おもに海底・湖沼堆積物の研究から明らかとなった第四紀の地球環境変動について実例をあげて解説する．これをもとに，古環境復元の意義と方法，そして現在の地球環境の成立について学ぶ．
到達目標	過去の地球環境を復元する基礎的な方法を理解する．現在の地球環境に対する理解を深める．地球科学的な視点を身につける．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:適宜紹介
成績評価	宿題・レポート・小テスト:40% 期末試験:60%

科目名	環境法Ⅰ
担当教員	土屋　正春　・　小沢　晴司
授業概要	いわゆる一連の公害法が制定されたのは1970年の「公害国会」においてであった。その後の「公害から環境へ」という問題の質が変化するにつれて関係する法体系も大きな変容を経てきている。この講義では、法と社会という広い観点をベースにしつつ、環境保護関連法律をはじめとして、関連する地方自治体の条例、企業における取り組みなど、社会全体での環境を守るルールについて概観し、環境と法、市民・企業レベルの参加のあり方などについての理解につとめる。
到達目標	現代市民社会にとっての環境法や環境を守るルールの必要性や意味について理解し、市民参加による環境問題の解決や、持続可能な社会づくりと関係するルールの内容との関係を具体的に把握できること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	小レポート40％、期末試験60％

科目名	環境法Ⅱ
担当教員	土屋　正春　・　小沢　晴司
授業概要	環境問題への社会的な取り組みの一部である環境法についての概要を考察の場を広く設定した「環境法Ⅰ」で学んだ後に、ここでは実際に法令が問題解決のために機能する仕組みを学ぶ。第一にはその権力的な構造を行政法の基礎理論を背景にして考察し、第二には市民参加など非権力的な色彩が濃くなりつつある環境ルールの拡大外縁についての理解を得る。「環境法Ⅰ」と同様に、大気や水質など代表的なメディアについての環境質を扱う部分と自然保護を扱う部分とに大きく分けて講義を進める。
到達目標	実際に具体的な問題に対して個別の対応法がどのような仕組みで働き、より市民の満足度が高い解決に導く構造になっているのか、その背後の法理論を正確に理解できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	小レポート40％、期末試験60％

科目名	環境マネジメント演習
担当教員	高橋　卓也
授業概要	企業または組織の自然環境との関係についての実例から作成された演習課題に取り組むことによって、組織の多面性、組織環境、財務管理、ステークホルダーとの関係管理などの概念および実際について学ぶ。
到達目標	企業または組織の環境経営について受講生が独自の調査研究ができるだけの理解を得ることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:指定しない 参考書:適宜指定する
成績評価	各回のレスポンスシート等の内容(50%)、報告(50%)。遅刻は減点。4回以上の欠席者は採点対象としない。

科目名	環境倫理学
担当教員	土屋　正春
授業概要	この講義では、環境倫理、環境思想の流れについての概観を得るとともに、とりわけ生命倫理との接点を構成する今日的な課題について考えることとする。 できるだけ具体的に分かりやすい内容にするので、受講生には自分の考えを組み立てる努力を求めたい。
到達目標	これまでの環境思想の大きな流れを理解できること。生命倫理との関係を理解できること。そして、自分の考えを持てるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストは使用せず、各回の講義に際して資料を配布する。 指定図書は図書館指定図書書架で確認すること。 参考書は講義に際して紹介する。
成績評価	講義の進み方に応じて適宜小テストなどを実施し、それを以って成績を評価する。

科目名	環境論考解析学
担当教員	西田　隆義
授業概要	環境科学に関する論文の書き方についての基本的な技術や方法について解説する。習得の効率を高めるために、受講生が自分でおこなった調査や実験のデータをつかって、論文執筆の演習を行う。さらに、日本語による文章表現についても演習を行う。
到達目標	環境科学に関わる事実とそれに対する書き手の判断について、他人が容易にかつ一意的に理解できる文章が書けることを到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストは使用せず、各回の講義に際して資料を配布する。 指定図書:理科系の作文技術(木下是雄)中公新書、これから論文を書く若者のために(酒井聡樹)共立出版
成績評価	講義の進み方に応じて適宜小テストなどを実施し、それを以って成績を評価する。

科目名	基礎数学Ⅰ
担当教員	市川　源一※
授業概要	自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、直感を重視しながら数学的な見方・考え方の力を身につけ、また環境問題を扱う上でしばしば見受けられる三角関数・指数関数・対数関数を軸として、関数の微少な変化を調べてその結果を知るための微分・積分の基礎的概念を学習する。
到達目標	(1)三角・指数・対数関数の計算ができること。(2)平均変化率・導関数の計算ができること。 (3)置換積分・部分積分の計算ができること。(4)簡単な微分方程式が解けること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時にプリントを配布する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	期末考査70%、レポート評価30%で評価する。

科目名	基礎数学Ⅱ
担当教員	市川　源一※
授業概要	自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方の力を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。
到達目標	(1)漸化式が解けること。(2)数列の極限が求められること。(3)ベクトル・行列の扱いに慣れること。(4)いろいろな曲線の表し方を理解すること。(5)確率の計算・確率分布・平均・分散が求められること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時にプリントを配布する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	期末考査70%、レポート評価30%で評価する。

科目名	基礎統計
担当教員	金谷　健
授業概要	統計資料の分析を進めていくため、統計学の基礎知識を学ぶ。各種の統計データの読み方やそこから作られる図表の読み方を習得し、基本的な計算やグラフの作成ができるようにする。具体的には官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワークによる論文が読め、単純集計・度数分布・代表値・クロス集計などのデータを読めるようにする。また統計をどうして学ばなければならないか、統計が社会でどのように役立つかについても、理解していく。
到達目標	相関係数などの基礎的な統計概念を踏まえた上で、基本的な統計資料を収集することができ、データを分析できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：津田昌寛・山口洋・田邊浩編「数学嫌いのための社会統計学」法律文化社、2010年。
成績評価	宿題（20％）、中間ふりかえり（40％）、期末試験（40％）。特段の事情（病気等）がない限り、5回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

科目名	魚類生理学
担当教員	杉浦　省三
授業概要	現存する魚類は多種多様で、それぞれの種は独自の生息環境に適応した進化を遂げている。そのような多様な生理生態的特徴は大変興味深い一方、基本的な生理機構は、ヒトを含む高等脊椎動物まで共通している。この講義では魚類とヒトを比較しつつ、体の内部で起きている様々な生理機能の仕組みと環境への適応について学ぶ。
到達目標	(1)魚類の分類群の特徴を説明できること; (2)各種の呼吸機構と浸透圧調節について具体例をあげて説明できること; (3)臓器のつくりと役割について魚類と高等動物を比較しながら説明できること; (4)消化、吸収、代謝、排泄、解毒などの基本的な生理機能について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:岩井保著『魚学入門』(恒星社厚生閣) 指定図書:会田勝美編『魚類生理学の基礎』(恒星社厚生閣) 参考書:岸恭一ほか編著『人体の構造と機能(管理栄養士講座)』(建帛社)
成績評価	学習状況、小試験、期末試験(各1/3)

科目名	空間計画論
担当教員	水原　渉
授業概要	我々は「空間を計画する」という。しかし、計画する空間とは一体どんなものなのか、あるいは逆に、その空間を計画するとはどういうことなのか。環境と空間はどう異なるのか。この様な問いを基底に据え、①空間を考え(空間論)、更に②その計画(計画空間論)を扱う
到達目標	本授業を通して、人間や自然、社会について、そして空間と計画について理解し、考えていく上での一つの基本的枠組を得る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布する。 参考書:授業中に提示する。
成績評価	試験(60%)とレポートの成績(40%)によって評価する。5回を超える欠席の場合、受験資格を失う。

科目名	景観計画
担当教員	村上　修一
授業概要	本講義では、コミュニティや地域のスケールでランドスケープをとらえる。まず、共有緑地、都市公園、公園系統、自然公園という空間の特徴や成立過程について考察する。次に、地域のランドスケープを成り立たせる主要な制度を理解するとともに、特有のランドスケープを継承するための試みを個別の事例で検証する。最後に、地域のランドスケープの将来像を戦略的に描くための手法を習得する。単に知識を学ぶだけでなく、未来社会にふさわしい新たなランドスケープ形成手法を受講生が会得する機会としたい。
到達目標	講義で扱われたランドスケープ・プランニングに関する手法を、自らの空間作品に応用できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜講義内で示す。
成績評価	講義内に課すワークシートの合計ポイント　100%

科目名	経済学Ⅰ
担当教員	河相　俊之※
授業概要	現代経済学は、国全体の経済活動をダイレクトに捉えるマクロ経済学と、経済社会の構成者である消費者、企業の個々の活動を対象とするミクロ経済学に大きくは分けられる。本講義では、主に後者のミクロ経済学を、モデル分析を通して考える。
到達目標	現代経済学の入門であって、経済学の基本的な考え方、方法等が修得されなければならない。需給分析、消費者行動、企業行動、パレート効率、独占企業行動等が含まれる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:指示せずに、レジメを配って講義を行う。 参考書:マンキュー「経済学Ⅰミクロ編」(東洋経済新報社)　伊藤元重 「ミクロ経済学」(日本評論社)
成績評価	中間まとめ30%　第7回までを範囲とし、授業内容の理解を見る。 期末試験70%　第1回から第15回までの全てを範囲とし、授業内容の理解を見る。

科目名	経済学Ⅱ（国際経済を含む）
担当教員	吉川　英治※
授業概要	2009年以降の「100年に一度」と呼ばれる世界同時不況のなかで日本経済も低迷を続け、政府は様々な経済政策を実施している。こうした現実の動きを分析するのが「マクロ経済学」である。この講義ではその標準的な内容を説明する。
到達目標	マクロ経済学の基本的な考え方を習得して、新聞等で報道される現実の経済の動きと経済政策についての理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	齋藤誠ほか(著)『マクロ経済学』(有斐閣、2010年) 福田慎一、照山博司(著)『演習式マクロ経済学入門』(有斐閣、2009年)
成績評価	原則として期末試験による。

科目名	現代社会論
担当教員	小野　奈々
授業概要	社会学を中心テーマとしつつ、現代社会の諸相に目を配ることで、社会学の視点からグローバルに拡大する環境問題を捉え、解決に向けて考えるための知識と力を養います。現代社会にかかわる社会学理論のベーシックな用語の理解、事象の捉え方を身につけていきます。総合討論では、前半・中盤・後半で紹介した知識や社会学の視点をもとに、現代社会の中から生まれた環境問題の社会的解決の方向性がどうあるべきかをイメージするための記述訓練・相互ディスカッションを実施します。
到達目標	(1)現代社会論の動向を理解する (2)社会学の見方を学ぶ (3)社会学の視点から環境問題を捉え、考える力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講師から毎回の講義で配布。
成績評価	毎授業提出のレスポンス・ペーパー75%, 期末試験25%

科目名	建築一般構造
担当教員	黒川　直樹※
授業概要	建築を初めて学ぶにあたり、建築物を成立させている部位と構成・しくみを知り、多様な建築技術の概要を把握する。建築材料、架構、仕上などの基礎的な知識、世界の有名建築物での使用例、また技術の歴史的変遷から、実際の設計・施工の現場における諸問題まで幅広く触れる。
到達目標	建築技術の全体像を把握する。これから建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「建築構法」内田祥也編著(市ヶ谷出版社)。 授業にて追加資料を配布。
成績評価	宿題(レポート評価)55%、期末筆記試験45%、各講義の理解度及び建築技術用語の修得を評価する。

科目名	建築環境工学
担当教員	伊丹　清
授業概要	建築に関わる光・音・熱・空気などの物理的環境要素の特性を理解し、これらを室内・建築内においてコントロールするための技術の基礎を学ぶ。また、これら環境要素を刺激として知覚・認知する人間の側の特性についても理解することによって、よりよい室内環境、建築環境を実現するための方法について学ぶ。さらには、これら方法を環境負荷軽減や省エネルギー、省資源の観点も踏まえて選択できることを目指す。
到達目標	光・音・熱・空気などの物理的環境要素の基本的な特性について説明できること。これら物理的環境要素と建物や人との関わりについて説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:木村建一、木内俊明著「新訂 建築士技術全書2 環境工学」(彰国社) 参考書:「環境工学教科書」(彰国社)
成績評価	小テスト30%、レポート課題20%、期末筆記試験50%

科目名	建築環境工学演習
担当教員	伊丹　清
授業概要	「建築環境工学」の講義内容に沿った演習・実験を行い、具体的な建築内や外部空間においての物理的環境要素のあり方を比較・考察をすることにより、各要素の空間的・時間的な特性の理解を深めるとともに、これら各要素の絶対量や変化量とわれわれの感覚との関わりについての考察を深めることを目指す。
到達目標	物理的環境要素に関する測定や計算の結果を適切に比較・考察し、他の建築内・外空間に応用が可能となる理解が得られていること。物理的環境要素に関する感覚と測定量に関する基本的な関係を理解して説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:木村建一、木内俊明著「新訂 建築士技術全書2 環境工学」(彰国社) 「環境工学教科書」(彰国社)
成績評価	小テスト30%、レポート70%

科目名	建築数学・物理
担当教員	高田　豊文　・　伊丹　清
授業概要	高学年での建築設計における技術的・工学的な理解力を向上させるため、その基礎となる数学および物理について学習する。具体的には、建築に必要な微分・積分、静的な力の釣り合いや建築構造設計に必要な数学・力学の基礎、光・熱・音・波などの解析の基礎となる数学、建築・防災に関わる確率・統計等について学習する。
到達目標	建築における技術的・工学的な分野に現れる数学（微積分）および物理（力学）の基礎について理解し、(1)建築構造の授業の理解に必要な静力学の基礎を修得すること、(2)建築分野に現れる簡単な微分方程式が解けること、(3)波の複素数表現と周波数成分分析との関係を説明できることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：鎌谷秀男,他「建設技術者の数学」理工図書 村上雅人「なるほど虚数−理工系数学入門」海鳴社
成績評価	演習レポート50％＋期末試験50％の合計で評価し、60点以上を合格とする。

科目名	建築生産施工
担当教員	岩下　智※
授業概要	企画、設計、施工、保全からなる建築生産活動に関わる主体とその役割、これらが構成する建築生産システムについて、基礎的事項を事例を交えて解説する。
到達目標	建築生産全体の流れや関与者の役割など基礎的な事項を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：古阪秀三ほか 著「建築生産」（理工図書） 参考書：建築施工用教材（日本建築学会）
成績評価	期末試験（またはレポート）および小レポート課題により評価（試験：70％、小レポート：30％）。

科目名	建築法規
担当教員	田上　豊※
授業概要	まちづくりや住まいづくり、建築のデザインに関わる建築関係法令の役割や規制誘導を概説し、建築関係法令の概要と建築設計への取組み方を解説する。また具体的な事例をもとに建築設計やまちづくり、都市デザインのなかで法令等の制限や可能性を指向し、住宅やまち、都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。
到達目標	建築や都市のデザインを考える上で建築や都市をとりまく法制度等の基礎的な理解をはかり、その法的制限の限界や課題部分を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：国土交通省住宅局建築指導課編集「図解建築法規」
成績評価	講義中の毎回の演習結果を中心に、期末試験の結果も加味して考慮する。（講義中の演習50％、期末試験50％）

科目名	合意形成支援技法
担当教員	金谷　健
授業概要	廃棄物最終処分場の立地場所の選定、望ましい街づくりのありかた、などなど、環境問題では合意形成が必要な場面が非常に多い。しかし現実には、こうした合意形成が合理的になされていないことが少なくない。そこでこの授業では、関係者（市民、行政、企業など）の合意形成を支援する技法のいくつかについて、その目的や手順を理解することを、ねらいとする。対象技法は、要素抽出技法（ブレーンストーミング法、ブレーンライティング法）、代替案評価技法（衆目評価法、AHP法）および問題構造化技法（ISM法）である。
到達目標	対象技法について、理解し、ある程度使えるようにすることを到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし（資料配付）
成績評価	小レポート点16％、大レポート点75％、他グループ評価点9％。なお特段の事情（病気等）がない限り、5回以上欠席した者は、評価対象としない。

科目名	合意形成支援技法演習
担当教員	金谷　健
授業概要	廃棄物最終処分場の立地場所の選定、望ましい街づくりのありかた、などなど、環境問題では合意形成が必要な場面が非常に多い。しかし現実には、こうした合意形成が合理的になされていないことが少なくない。そこでこの授業では、関係者（市民、行政、企業など）の合意形成を支援する技法のいくつかについて、その目的や手順を理解することを、ねらいとする。対象技法は、要素抽出技法（ブレーンストーミング法、ブレーンライティング法）、代替案評価技法（衆目評価法、AHP法）および問題構造化技法（ISM法）である。
到達目標	対象技法について、理解し、ある程度使えるようにすることを到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし（資料配付）
成績評価	小レポート点16％、大レポート点75％、他グループ評価点9％。なお特段の事情（病気等）がない限り、5回以上欠席した者は、評価対象としない。

科目名	構造計画（環境建築デザイン）
担当教員	陶器　浩一　・　松村　和夫※
授業概要	建築物は、機能性、安全性と芸術性を兼ね備えた総合的な創作である。建築物を成り立たせるためには、そこに作用する力の種類と力の流れを把握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建築物に作用する外力の種類と特徴、建築物を構成する構造材料とその特徴およびそれらを活かした架構方法、さらに構造力学の基本となる力の合成と分解、力の流れの計算方法について講義する。
到達目標	建築物に作用する力の種類と力の流れ、および建築物を成立させるための架構計画の基本につき習得し、構造力学基本（力の合成と分解、構造物の支点反力）について解けること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：坂田弘安，島﨑和司 著，「建築構造力学Ｉ」，学芸出版社 参考書：空間 構造 物語　ストラクチュラル・デザインのゆくえ　斎藤公男著、障国社
成績評価	まとめレポート50％、講義中の小課題50％

科目名	構造材料実験
担当教員	陶器　浩一　・　高田　豊文　・　伊藤　淳志※
授業概要	木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料，およびラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、実験を通じて理解させるのが本科目の主目標である。また、建築構造の最も基本となる構造力学について、演習を通して、理解を深めることも目的とする。さらに、他の構造系科目で扱わない、地盤・基礎構造の調査法と施工についての講義・演習を、本科目において補う。
到達目標	(1)コンクリート、鋼、木材、それぞれの性質を、五感を通して理解すること。 (2)ラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、制作・実験を通して理解すること。 (3)地盤・基礎構造の基本事項を修得すること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：日本建築学会編「構造入門教材　ちからとかたち」（丸善） 谷川恭雄他著「構造材料実験法」（森北出版）
成績評価	毎回行う実験・演習のレポートにより評価する。

科目名	構造力学Ⅰ
担当教員	陶器　浩一　・　高田　豊文
授業概要	建築空間を創造するためには、建築物に作用する力の種類と流れ、および建築物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。本講義では、建築構造関係科目を学習するにあたって必要とされる力学知識や力学基礎について学習する。具体的には、静定トラス・静定梁・静定構造物の応力算定、ひずみ度と応力度、部材断面の各種応力度算定について学習する。
到達目標	静定構造物を対象とした建築構造力学の知識の習得し、簡単な骨組構造を対象として力学の基礎原理を学習しながら、構造物における力の流れを理解させることをねらいとしている。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：坂田弘安，島﨑和司著，「建築構造力学Ⅰ」，学芸出版社
成績評価	期末筆記試験60％＋毎回行う小レポート40％の合計により評価する。

科目名	構造力学Ⅱ
担当教員	高田　豊文
授業概要	本講義では，静定構造物・不静定構造物の応力算定法，構造物の弾性変形の計算方法について学習し，建築構造設計を行う際に必要とされる力学原理を理解することを目的としている．
到達目標	静定構造物・不静定構造物の応力算定法，構造物の弾性変形の計算方法について，1級建築士試験問題レベルの問題が解けること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：坂田弘安，島﨑和司 著，「建築構造力学Ⅱ」，学芸出版社 指定図書：中村恒善他，「建築構造力学 図説・演習Ⅱ」，丸善 参考書：坂田弘安，島﨑和司 著，「建築構造力学Ⅰ」，学芸出版社
成績評価	「小テスト」（10％）＋「レポート」（20％）＋「第1～7回のまとめ」（30％）＋「期末試験」（40％）の合計により評価し，60点以上を合格とする．小テストおよびレポートは各回の内容，期末試験は第1～14回の内容を理解し，問題を解けること．

科目名	国際環境資源論
担当教員	富岡　昌雄　・　高橋　卓也
授業概要	農林業は農林産物を生産するとともにさまざまな環境便益を供給している。すなわち、農林業は環境資源でもある。近年、農林業の環境資源としての機能を高めるよう誘導する政策（農林環境政策）が発展してきている。この講義では、森林環境政策（第1回～第7回。高橋担当）および農業環境政策（第8回～第15回。富岡担当）の国際的な展開過程を跡づけるとともに、農林環境政策に伴う理論的・実際的諸問題を考える。
到達目標	農林環境政策はどうあるべきかについて考える能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし 指定図書：なし 参考書：講義の際に紹介する。
成績評価	プレゼンテーション・レスポンスペーパー50％、レポート50％。

科目名	湖沼環境学
担当教員	後藤　直成
授業概要	湖沼生態系の構造と機能を生物地球化学的視点から概観した後，各構成要素（物理，化学，生物的要素）とそれら各要素間の相互作用について講義する。また琵琶湖を例に，現在，水圏生態系で顕在化しつつある環境問題および最新の観測手法などについても解説を加える。
到達目標	湖沼生態系の物理的・化学的構造を把握し，それら非生物的要素と生物的要素間の相互作用を理解する。さらに，湖沼で発生している環境問題を生物地球化学的に考察できる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時にプリントを配布する。 参考書：講義時に紹介する。
成績評価	レポート内容（30％）と期末試験（70％）により評価する。

科目名	コミュニティ計画論
担当教員	柴田　いづみ
授業概要	環境問題・福祉問題・少子高齢化問題・教育問題、現代社会状況をめぐる危機は、個人の自覚と地域の自立と地域間の連携にかかっている。景観問題についても同様である。個人の存在とコミュニケーションの尊重から、まちづくりまで、さらに、個々の建築から街路、地域づくりまでと、ソフトとハードの両面に渡って講義する。また、公共施設のみでなく、すべての建築の持つ公共性を分析し、コミュニティそのものの形成における計画者の参加や、地域の景観環境を住民で創りあげるプロセスを論述する。授業はその時代の問題点を捉えた解説と、スライドを多用しながらすすめる。
到達目標	自らが自主的に社会と関わりあう事の重要さを認識すること。
テキスト 指定図書 参考書	Web版シラバスの授業計画における[　]は、使用する参考書であるが、授業内で概要をテキストとして配布。
成績評価	毎回講義でおこなうレポート50％、調査レポート20％、試験30％と受講意欲の総合点によって評価する。

科目名	栽培植物各論Ａ
担当教員	上町　達也
授業概要	園芸作物（野菜、観賞植物、果樹）について代表的な作物をとりあげて、栽培・育種・利用の歴史と現状、花成や休眠などの生理・生態的特性とそれに密接に関わる栽培体系について講述する。各自の理解を深めるために、毎週簡単な小テストを課す予定である。
到達目標	主要な園芸作物の来歴や形態、生理生態的特性を把握し，さらに栽培，育種，利用の現状を理解できていること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：適宜、紹介する.
成績評価	小テスト　50％ 期末テスト　50％

科目名	栽培植物各論Ｂ
担当教員	長谷川　博　・　泉　泰弘
授業概要	栽培植物のうち、食用作物、飼料作物および工芸作物を取り上げて、栽培、育種、利用の歴史と現状、生理・生態的特性とそれに密接に関わる栽培管理法について詳述する。今後の食糧問題、環境問題との関係についても講義する。
到達目標	(1)主要作物の起源と育種の歴史、栽培管理法および諸特性の理解 (2)今後の日本および海外の食糧・環境問題と植物資源のあり方の理解
テキスト 指定図書 参考書	参考書：授業のなかで推薦する
成績評価	期末テストのみで評価する

科目名	作物保護学
担当教員	鈴木　一実
授業概要	水稲、畑作物、野菜、花きおよび果樹などの農作物に発生する重要な病害について、わが国で問題となっている例を挙げ、作物栽培の現状や作物の特性と併せて考察するとともに、作物保護の重要性についての理解を深める。あわせて作物保護のさまざまな手段についても具体的に紹介する。
到達目標	(1)各種作物の病害をひきおこす病原体の分類上の位置、生物学についての理解 (2)各種作物の重要病害についての理解 (3)作物保護のさまざまな手段についての理解
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布する。 指定図書：講義の中で適宜紹介する。 参考書：講義の中で適宜紹介する。
成績評価	学期末試験を実施する。試験成績（50％）と小テスト・レポート（50％）により総合的に評価する。

科目名	資源経済学
担当教員	富岡　昌雄
授業概要	資源経済学の対象は、自然界から採取し、経済過程に投入される物質・エネルギーである。効率的で、校正で、持続可能な自然資源利用を実現するための基礎となるのが資源経済学に与えられた課題である。この授業では非更新性資源の異時点間配分に関するホテリングの原則、開放漁場における地代消滅に関するゴードンの定理をはじめとする資源経済学の標準理論を学び、それらを参考に、持続可能な社会における自然資源利用のあり方を考える。
到達目標	自然資源利用に関して、その限界に留意しつつ、経済学的な思考と判断ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 指定図書:なし 参考書:講義の際に紹介する
成績評価	小テストの結果20%、期末試験の成績80%。

科目名	自然環境特別実習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	夏季休業期間を利用し，典型的な自然現象・環境が保存または破壊されている場所に赴き，合宿生活を送りながらそれぞれのコースのテーマに関する野外実習を行う。
到達目標	それぞれのコースで設定される。
テキスト 指定図書 参考書	必要な資料等は各コースのガイダンス時に配布される。また，参考書もガイダンス時に紹介される。
成績評価	各コースの終了後，レポートの提出が求められる。成績は，出席状況・実習態度・レポート内容を総合して評価する。

科目名	持続可能社会論
担当教員	富岡　昌雄
授業概要	環境保全と両立する、持続可能な社会をつくるためには、あらかじめ持続可能社会の理想像を描き、そのような社会に向かって計画的に変革を進めていくのが望ましい。この講義では持続可能な社会が満たすべき要件とそのような社会を実現するための挑戦課題を考える。あわせて、経済学は自然をどのように扱ってきたかを回顧し、資源経済学・環境経済学・エコロジー経済学への導入とする。
到達目標	各自が自分の「持続可能社会論」を確立すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 指定図書:講義の際に紹介する。 参考書:講義の際に紹介する。
成績評価	小テストの結果20%、期末試験の成績80パーセント。

科目名	市民参加論
担当教員	小野　奈々
授業概要	本講義では、市民参加の現場で活躍する外部講師を招いて具体的事例を踏まえた講義を聴く。これらを通じて、我が国における環境政策・計画、まちづくり等への参加のあり方、市民参加の背景と現状の問題点、先進事例について理解する。
到達目標	今日の政策課題である持続可能な社会づくりに向け、市民参加の意味とその具体的取組について理解を深める。これにより、自ら目的意識を持って学習し、あるべき社会の形成に関与していくために必要な意欲、知識、リーダーシップの基礎を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講師から毎回の講義で配布。
成績評価	聴講した講義のレポートによる。 レポートは7回 レポート点　15点×6回＋10点×1回＝100点 合計　100点

科目名	社会学
担当教員	小野　奈々
授業概要	この授業では、社会学の発想方法やキータームを学びます。その際、社会学を学ぶ楽しみのひとつである「常識的な見方」を超えて、現実の背後にあるものを洞察する力を養います。また、国家、市民社会、共同体、ジェンダーなどの身近な専門用語を学びます。授業では、視聴覚教材をもとに、身近な社会の在り方を常識とは別の視点から捉えるための記述訓練や相互ディスカッションも実施する予定です。
到達目標	1）社会学のキータームを理解する 2）身近な暮らしに関心を向ける 3）現実の背後にあるものを捉え、常識とは違う視点からながめる力を養う
テキスト 指定図書 参考書	友枝尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵著『社会学のエッセンスー世の中のしくみを見ぬく』有斐閣アルマ、1996年
成績評価	毎授業提出のレスポンス・ペーパー75％，期末試験25％

科目名	社会システム分析設計
担当教員	近藤　隆二郎
授業概要	環境社会を理解するためには、システム的発想やシステム思考が必須である。システム理論におけるモデル化の過程と手法について、事例を交えながら説明する。システム理論の理解と共に、実際にシステム分析を適用するための手法としてのモデル化過程の講義をおこなう。講義と平行して、実社会における事例を用いた分析演習を行う。例えば、コンビニエンスストアやレンタルショップなどを社会システムからみたらどのような仕組みになっているかなど。
到達目標	(1)システム思考を体得すること。 (2)社会事象をシステム的に解釈できるようになること。 (3)社会システム的な観点から「発想」や「企画」ができるセンスを身に付けること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する。 参考書：飯尾「システム思考入門」（日本評論社），「環境システムーその理念と基礎方法ー」（共立出版社），大橋力「情報環境学」（朝倉書店）
成績評価	課題提出状況30％　プレゼンテーション評価20％　課題評価50％

科目名	社会システム分析設計演習
担当教員	近藤　隆二郎
授業概要	『社会システム分析設計』で示したシステムモデル化の手法を、具体的事例を対象にしながら体得する。現実の社会事象からシステムを描き出すプロセスについて実践的に学ぶ。システムの関係性を解くための「発想法」およびモデル化の基礎となる「図（ダイアグラム）」の描き方を学ぶ。システムモデルを実践的に設計する手法として「企画法」について学び、その具体的な演習を通して、「図」を用いた企画提案書をプレゼンテーションする方法を学ぶ。各自の発想がどのように企画というフィルターを通って伝える表現となるかを学ぶ。
到達目標	(1)発想法を使えること。 (2)システム図を描いて仕組みを表現できること。 (3)企画書を書いて自分の考えを相手に伝えること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：必要に応じ、毎回の講義で配布する。 参考書：川喜多二郎「発想法」「続・発想法」（中公新書），星野匡「発想法入門」（日本経済新聞社），書店ビジネス書コーナーの「発想」「企画」関連書籍
成績評価	課題提出状況30％　プレゼンテーション評価20％　課題評価50％

科目名	社会心理学
担当教員	柿本　敏克※
授業概要	社会的影響の心理学というテーマで講義を行なう。社会心理学の目的は、社会の中での人間の思考・行動・態度について法則を追求することである。多くのテーマの中から、説得、同調性、服従、他者存在の効果などを取り上げ、これらの諸領域を社会的影響という観点から統一的に論じる。
到達目標	社会的影響についての認識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：【必須】白樫三四郎（編著）『社会心理学への招待』ミネルヴァ書房 指定図書：R. B. チャルディーニ『影響力の武器[第二版]―なぜ、人は動かされるのか』誠信書房
成績評価	小レポート30%，最終レポート70%　（15回の授業のうち3分の2以上出席したものを評価の対象とする。）

科目名	社会調査実習
担当教員	小野　奈々　・　高橋　卓也　・　林　宰司
授業概要	社会調査の企画から報告書の作成までを、個人もしくはグループで取り組むことによって、社会調査の全過程を理解できるように実習形式の授業をする。調査の準備段階から、調査の実施、さらには調査報告書のまとめ方を体験することによって、実社会に出てからも社会調査に従事できるような技術を習得することを目的とする。社会調査のテーマ設定から綿密な指導を試み、現場での調査方法を詳しく説明する。インタビューやアンケートなどは調査対象者の属性の違いを踏まえて、各履修者に調査手法を検討させることになる。
到達目標	社会調査士の資格認定において最後の履修科目となる場合が多いので、社会調査について学べることの集大成を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：講義の中で紹介する
成績評価	平常点＝作業発表（30％）と最終報告書（70％）

科目名	社会変動論
担当教員	丸山　真央
授業概要	社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、近代とともに誕生した「都市」という空間／社会を例にとりながら、前近代から近代へ、近代から現代への社会変動を具体的に学ぶ。講義前半では、近代という時代を「都市化」「資本主義化」から捉え、後半では「グローバル化」「情報化」「ネオリベラリズム」「リスク社会化」の視角から近代の変容にアプローチし、今日の社会変動の諸相を学ぶ。
到達目標	(1)社会学の基本的な考え方や概念を理解し、社会的な事象を社会変動論の観点から捉えることができる。 (2)社会学のテクストを読解する力を身につける。 (3)身近な社会的事象に関心をもち、自らと関連づけて理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:レジュメを配布し、あわせて参考書を示す。 指定図書:古城利明・矢澤修次郎編『現代社会論　新版』(有斐閣)、町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』(有斐閣)
成績評価	リアクションペーパー・小テスト(50%)、レポート(50%)

科目名	集水域環境影響調査指針
担当教員	肥田　嘉文
授業概要	環境問題を考える上で，環境影響を調査・評価するには，リスク概念の理解が必須である。本講義では，実際にリスクを算定する過程を，具体的問題を題材として学ぶことを目的とする。相反する事柄のリスクのバランスをどこで採るべきか，環境中濃度(暴露状況)の推定および暴露人口分布の算出，汚染の発生源推定とその暴露経路(物質の媒体間移動)についての知識などを，演習を交えて学ぶ。
到達目標	リスク評価の種類(初期および詳細)および、その基本的手続きを理解できる。主要な発生源からの暴露シナリオを具体的に挙げ、それに基づく解析を実行することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:講義の中で紹介する
成績評価	演習課題提出と定期試験の結果をそれぞれおよそ40%，60%として総合して行う。

科目名	集水域環境学
担当教員	尾坂　兼一
授業概要	集水域環境学では集水域の構成要素を解説するとともに、集水域環境における人間活動の影響として起こる環境問題について解説する。さらに日本では集水域のほとんどの面積を占める森について、集水域全体の環境に与える影響を考える。
到達目標	集水域を構成している要素とそれらを取り巻く環境問題について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜配布 参考図書:水の革命:築地書館,流域環境評価と安定同位体: 京都大学学術出版
成績評価	不定期の小テストもしくはレポート内容(30%)+定期試験(70%)

科目名	集水域環境学・同実験
担当教員	浜端　悦治　・　浦部　美佐子　・　倉茂　好匡　・　肥田　嘉文　・　堂満　華子　・　尾坂　兼一
授業概要	集水域という場は、自然と人間活動が交差する主要な舞台として捉えることができる。本講義・実験では、山地から河口まで、河川が流下してくる間の地球科学・生物学的現象に関する実地の調査、ならびに人の安全と環境に配慮して人間活動を制御するための対策技術に関する化学的側面の調査を通じて、解析の手法を実習するとともに、その理解に必要な基礎理論について講義を行う。
到達目標	集水域環境における自然現象、人間活動の制御に関わる事象の物理・化学・生物的要素について、基礎的な調査および解析ができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:「水の分析」第5版（日本分析化学会北海道支部編:化学同人）「水質調査法」第3版（半谷高久・小倉紀雄:丸善）「日本水草図鑑」（角野康郎：文一総合出版）「滋賀の水生昆虫」（谷田一三編:　新学社）
成績評価	レポート評価によって行う。出席は必須。

科目名	集水域環境機能論
担当教員	永淵　修
授業概要	環境科学の基礎としての分析化学的方法について、理論、技術、応用を習得する。
到達目標	環境法、特に環境基準（主に水質・大気）、水質汚濁防止法、大気汚染防止法の位置づけとそれに係わる分析項目の変遷および分析法の進歩による環境汚染物質の新たな指定等について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：環境の化学分析、日本分析化学会北海道支部編、三共出版 参考書：酸性雨研究と環境試料分析(愛智出版)、
成績評価	毎回講義終了後に提出するノートで出席と授業態度を評価する。これと、定期試験結果を総合的に判断して評価する。

科目名	集水域生態系保全修復論
担当教員	浦部　美佐子
授業概要	主として河川の生物の保全のために必要な基礎生態学（河川棲生物の個体群構造、群集構造および周辺の沿岸や陸域環境がそれらに与える影響）について講義するとともに、河川保全の方策と実際、修復および緩和（ミティゲーション）に関する細菌の技法とその評価について、若干の環境関連法および応用生態工学を交えながら論じる.
到達目標	未定
テキスト 指定図書 参考書	未定
成績評価	未定

科目名	集水域物質循環論
担当教員	尾坂　兼一
授業概要	集水域の主な構成要素である土壌・陸水について形成過程・機能について解説するとともに、集水域内での様々な物質循環について講義する。
到達目標	集水域の構造と集水域内の物質の循環プロセスを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	配布資料:適宜配布 参考図書:環境化学入門:シュプリンガー・フェアラーク東京,最新土壌学:朝倉書店
成績評価	不定期の小テストもしくはレポート内容(30%)+定期試験(70%)

科目名	植物遺伝資源学
担当教員	長谷川　博
授業概要	本講義の内容は植物育種学と呼ばれる品種改良とその保存、普及に関する分野であるが、単に農作物だけでなく野生植物の保全、環境問題解決に有効な植物作出という視点を含めて講義する。植物遺伝資源の収集と保存、改良が必要な形質の遺伝的背景、変異の作出方法と選抜の理論、分子マーカー利用や遺伝子組換え法など分子生物学手法を用いた新時代の育種法について詳述する。
到達目標	(1)遺伝資源という概念の把握。(2)改良の対象となる形質の理解。(3)植物生活環の理解。(4)各育種法の実際とその遺伝学的基礎の理解。(5)分子生物学手法を用いた育種法の原理と応用法の理解。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:必要に応じて資料を配付する。 参考書:武田和義「植物遺伝育種学」裳華房、日向康吉他「植物育種学第3版」文永堂、鵜飼保雄「植物育種学」培風館
成績評価	期末試験（90％）と中間試験（10％）

科目名	植物栄養学
担当教員	上田　邦夫
授業概要	植物（樹木を含む）はどのような栄養物を必要とし、それらの栄養素がどのような役割を果たしているのかについて話す。また、植物の生育媒体としての土壌の役割について述べ、その中で特に土壌微生物が果たす役割と土壌の関係について述べる。さらに水田や琵琶湖のような環境中での土壌と微生物の働きについて述べる。これらのことから更に近年東京湾、伊勢湾、有明海、瀬戸内海などの日本の浅海域の漁業の衰退との関係について述べる。
到達目標	植物の生育と栄養素の関係を理解できる。肥料の役割と実際について理解する。土壌微生物とは何かについて理解する。土壌微生物の環境中での役割について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:生物圏環境とダムの影響を知るための土壌・植物栄養学（上田邦夫著）
成績評価	数回のレポート（20%)と2回の定期試験(中間と期末）の成績(80%)で評価する。

科目名	植物資源開発学
担当教員	原田　英美子
授業概要	植物は衣食住のための資源としてのみならず、新しいエネルギー源やファイトレメディエーション（植物を用いた環境改善）の材料としても注目されている。本講義では、植物資源利用の新しい可能性を最新の技術動向を示して論ずるとともに、このような資源利用を可能にする植物の特性、ことに生理・生化学メカニズムについても取り扱う。
到達目標	植物資源の高度利用技術の現状と植物生理・生化学の概念を併せて論ずることにより、地球環境における植物の重要性を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：配布資料 参考書：「はじめての生化学」化学同人、「環境科学」オーム社、「絵とき植物生理学入門　改訂2版」オーム社
成績評価	期末試験（70％）と中間試験または中間レポート（30％）

科目名	植物資源管理学
担当教員	泉　泰弘
授業概要	資源植物の群落光合成と収量形成過程、およびそれらにとって極めて重要な太陽エネルギー固定関連形質や環境要因の制御について学習する。
到達目標	資源植物の個体群レベルでの光エネルギー固定の様相とその制御技術の本質を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義資料配付 指定図書：なし 参考書：秋田重誠・塩谷哲夫「植物生産技術学」 文永堂（2006）
成績評価	テスト

科目名	植物生産学
担当教員	上町　達也
授業概要	安定した持続的な植物資源生産を追求するためには，まず現在行われている植物生産の概要を理解する必要がある．本講義では，水稲生産，畑作物生産，施設栽培，養液栽培といった植物生産の基本的な形態について，いくつかの農作物での実例を示しながら解説する．またバイオテクノロジーと，病虫害・雑草・獣害に対する防除についてとりあげ，現在の取り組みについて解説し，今後の可能性について考える．
到達目標	①植物生産の基本的な形態について理解する． ②環境フィールドワークを含む，植物資源の生産・管理に関わる様々な専門講義を理解するために必要な植物生産の基礎知識を身につける．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 参考書：適宜、紹介する．
成績評価	講義前小テスト（30％），期末試験（70％）

科目名	植物病害防除論
担当教員	鈴木　一実
授業概要	植物の病害について研究する植物病理学はどのようにして起こり、どのように発展してきたかをグローバルに展望する。また、糸状菌、細菌、ウイルスなどのさまざまな病原体についての理解をさらに深め、これからの環境に配慮した病害防除や作物保護の方向性を考察する。あわせてこの分野におけるバイオテクノロジーの利用についても紹介する。
到達目標	(1)植物病理学の歴史、発展についての理解 (2)病原体（糸状菌、細菌、ウイルス）の感染・増殖機構についての理解 (3)植物感染生理学（病原性と抵抗性）に関する基礎的な概念についての理解 (4)最新のバイテク技術などを利用した新しい病害防除法についての理解
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布する。 指定図書:講義の中で適宜紹介する。 参考書:講義の中で適宜紹介する。
成績評価	学期末試験を実施する。試験成績（50%）と小テスト・レポート（50%）により総合的に評価する。

科目名	食料経済システム論
担当教員	増田　佳昭
授業概要	グルメが謳歌される反面，わが国の食料自給率は40%である．食品企業の不祥事が相次ぎ，食の安全性や表示に関する消費者の懸念も強まっている．わが国の食料システムはいまどのような状況にあるのか．望ましい食料経済システムにはどのような要件が求められているのか．本講義では，食料経済システムの現状と問題点を具体的な品目も取り上げながら，多面的な視点から講義する．
到達目標	(1)わが国食料需給の概要について理解すること。(2)食品製造業、食品流通業、飲食業から成る食品産業の概要を理解すること。(3)食品の流通経路の概要について理解すること。(4)食料システムが持つ問題点と望ましい姿について評価できる視点を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:茂木信太郎『外食産業の時代』、農林統計協会 藤島・安部・宮部『現代の農産物流通』
成績評価	小レポート40%、課題レポート20%、定期試験40%。

科目名	心理学基礎
担当教員	那須　光章
授業概要	現代心理学の主要な領域について、やさしく解説する。心理学は人間の心や行動を理解することを主とする科目である。人間理解における基礎科目である心理学の基礎についての学習を行い、人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などを概説する。
到達目標	人間の心の働きの機微への関心を高める。社会的人間行動を理解し、心理検査、性格検査の技法の理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:長谷川寿一他著『はじめて出会う心理学』(有斐閣) 指定図書:美濃哲郎ほか編『スタディガイド心理学』(ナカニシヤ出版)
成績評価	終講試験を主(70%)とし、レポート(15%)、実習的課題(15%)等を加味する。

科目名	森林環境学
担当教員	野間　直彦
授業概要	森林環境を理解するために必要な基礎的な内容を講義する。地球上の気候・環境による各種森林タイプの分布、森林の構造と維持機構、森林への人為の影響、森林に棲む生物とそれらの相互作用、など。
到達目標	野外の現場において森林と環境との関係を理解するために必要な、現代の生態学・環境学が到達した考え方の基本を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:　特に決まったテキストは用いない。 指定図書:　寺島一郎ほか著『植物生態学』(朝倉書店)　堤利夫編著『森林生態学』(朝倉書店) 参考書:　授業の中で適宜紹介する。
成績評価	期末試験の成績50%、日常の小テストなどの成績25%、小課題25%

科目名	森林資源管理学
担当教員	浜端　悦治
授業概要	一次生産を行う植物群落のなかにあって、森林生態系は大きな群落構造を持つことから、多くの生物の生息環境としても重要な位置を占めているとともに、炭素を始め、窒素やリンなどの元素の循環においても重要な役割を果たしている。本講義では森林生態系を生態環境、生態資源として管理するための理論、手法を講義する。また湖沼にあって水中林的な様相を呈する沈水植物群落についても、湖沼生態系におけるその役割、管理についても講義する。
到達目標	①陸域での森林、水界での大型水生植物を対象とし、それらへの理解を深めるとともに、②現存量や生長量の測定手法を理解し、③各生態系での基盤となる大型植物群落の管理の基礎的な知識の取得を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講義時に配布する。 参考書:講義時に紹介する。
成績評価	期末試験60%　と毎回実施する小テスト40%で行う。

科目名	森林生物学・実験
担当教員	野間　直彦　・　籠谷　泰行　・　浜端　悦治　・　西田　隆義
授業概要	森林環境下の生物と，それらの生活，相互の関係を研究するのに必要な考え方・手法・技術の基礎を習得する．形態学，系統・分類学，生態学，行動生態学的研究方法を講義する．実験室，実験圃場，自然条件下での生物を対象に，実験・野外調査とデータ解析・まとめの方法について実習を行う．
到達目標	森林とそこにすむ生物について理解するための野外調査・実験を始める能力を身につけること．
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業の中で紹介する．
成績評価	レポートの成績100%．各課題ごとに科学的報告を作成できること．出席は必須．

科目名	水域環境影響調査指針
担当教員	伴　修平
授業概要	人間が生存するために水はなくてはならないものだが、それゆえ人間活動は水質汚濁や水資源不足を招く危険をはらんでいる。そこで、我々は賢い水域管理手法を見いだす必要がある。本講義では、水域環境を理解する上で必要となる調査・分析手法の詳細を学び、人間活動が自然環境に与える影響を解析する手法を習得する。
到達目標	水域環境を測定する様々な手法を学び、それらを応用できる知識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時に配布する。 参考書：講義時に紹介する。
成績評価	期末試験60％　と毎回実施する小テスト40％で行う。

科目名	水域環境学・同実験
担当教員	三田村　緒佐武　・　伴　修平　・　浦部　美佐子　・　後藤　直成
授業概要	調査船「はっさか」を用い、琵琶湖の物理・化学的環境要因を測定し、動・植物プランクトンおよび底生生物の採集を行う。環境要因に関しては、水温、pH、水中照度、湖水の化学組成、底質の性状などを調べ、湖沼の物理化学的構造を学ぶ。生物試料は分類群ごとに同定・計数して現存量を算出し、水平・鉛直分布を描く。得られたデータを解析し。生物の分布と環境要因との関係について考察する。また、室内実験で、植物プランクトンの基礎生産速度や動物プランクトンの摂食速度を測定し、エネルギー動態解析の基礎を学ぶ。
到達目標	(1)湖沼観測の観測技術の習得と安全心得の理解。 (2)琵琶湖生態系の物理化学的構造を解析する手法を習得する。 (3)琵琶湖生態系の生物群集構造を解析する手法を習得する。 (4)琵琶湖環境の修復・復元を志向する態度を育成する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業時間中に資料を配布する
成績評価	出席が三分の二以上の者に対して試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	水域環境機能論
担当教員	丸尾　雅啓
授業概要	水環境中における化学的な諸因子が、個々の生体、個体群、群集構造に与える影響について、化学的・生化学的側面および地理的要因から講義する。
到達目標	(1)用量－応答の概念を理解する。(2)毒性の評価法について基本的な説明ができる。(3)物質による水圏環境における移動経路、拡散経路の違い、その要因を理解する。(4)生物、生態系への影響、防御機構を理解する。(5)自ら最新の環境問題について文献調査を行い、毒物の実在生態系における影響とその原因について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：配布資料、参考書：水俣病の科学増補版(西村・岡本著：日本評論社)、環境：ベーシック薬学教科書シリーズ12（武田・太田著：化学同人）、Aquatic Chemistry 3rd ed. (Stumm & Morgan, Wiley)
成績評価	宿題・レポート（50％）、定期試験（50％）程度の比率で評価する。

科目名	水域生態系保全修復論
担当教員	後藤　直成
授業概要	湖沼と海洋の水域生態系の構造・機能とそれらが抱える諸問題について，物質循環・生物地球化学的視点から概観した後，それら水域生態系の保全と修復のための手法をいくらの事例を交えて解説する。同時に，水域生態系復元の意義と原理に関して議論を行う。
到達目標	水域生態系および水資源の保全と修復に必要となる基礎知識を身につけ，それらの保全・修復に対する具体的な方策を見出す能力を身につける.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時にプリントを配布する。 参考書：講義時に紹介する。
成績評価	レポート内容（30％）と期末試験（70％）により評価する。

科目名	水域物質循環論
担当教員	三田村　緒佐武
授業概要	大気圏、地圏、水圏の中で生命活動のある生物圏における炭素、窒素、リンなどの生元素化合物の存在様式と現存量、ならびにそれらの循環代謝過程を講義する。講義では琵琶湖環境における生元素循環を中心として解説する。なお、生元素循環の動的平衡が地球生態系を維持している現状を環境科学的にも解説する。
到達目標	(1)水圏における生元素循環機構を理解すること。 (2)環境問題を解決するために循環哲学の重要性を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時に資料を配布する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	定期試験ならびにレポートを総合して評価する。

科目名	水産資源学
担当教員	杉浦　省三
授業概要	水産資源、特に淡水魚類資源の特性、保護、増養殖について学習する。主な内容は、水産生物学、水産増養殖学、水産資源解析学、水産資源利用学、水産食品学など広義の水産資源学について、身近な例をもとに概論する。水産試験場の施設を見学し、技師の方々から琵琶湖の水産資源保全・増殖事業に関する説明を受ける。また、琵琶湖の水産業に従事する方をゲストスピーカーとして招き、現場の話を聞く。理解を深めるための小実習や観察を取り入れ、視聴覚教材を適宜使用する。水産学の入門コース。
到達目標	(1)琵琶湖で減少している魚介類を知っていること。 (2)その減少している理由を包括的に説明できること。 (3)資源回復のための現実的な方策を自ら考え、提案できること。(4)湖魚の食文化とその重要性を理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業中にプリントを配付する。 参考書：岩井保・林勇夫『基礎水産動物学』恒星社厚生閣；松宮義晴『魚をとりながら増やす』成山堂；滋賀の食事文化研究会『湖魚と近江のくらし』サンライズ出版
成績評価	学習状況、小試験、期末試験（各1/3）。

科目名	水質管理学
担当教員	金木　亮一
授業概要	水の性質は異常であり、宇宙における水の存在も稀である。水の異常性のひとつに「ほとんどの物質を溶かし、かつ、それ自体は変化しない」という性質があるが、その性質ゆえに生物に必要な塩類を輸送・供給するとともに有害物質の蓄積を招くことになる。このことから、流域ごとの負荷を総合的に管理・削減することが重要となる。この講義では、物質の負荷量を知るための流量と濃度の測定法、農地からの流出負荷を減らす方法、河川・用水路・内湖における自然浄化能の活用法、水質の人為的制御方法、集落排水処理施設における水処理技術について解説する。
到達目標	(1)水質悪化の原因を説明できる。 (2)世界・日本・滋賀の水問題を理解できる。 (3)農地からの流出負荷削減方法を説明できる。 (4)水質浄化技術を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『人と自然にやさしい地域マネージメントー地域環境管理工学ー』(農業土木学会) 参考書:適宜紹介
成績評価	定期試験　40%、レポート　30%、小テスト　30%、欠格条件(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	水文学
担当教員	千家　正照※
授業概要	農地や森林地を中心とする自然環境の河川流域を対象として，水循環過程を支配するメカニズムとその評価方法を科学的に解説する。
到達目標	気象・地形・土地利用と地表水及び地下水の動きとの関わりを理解するのに必要な基礎力の養成を目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講義時に資料を配付する。 参考書:丸山利輔他著「地域環境水文学」朝倉書店
成績評価	毎回の講義時に実施する小テスト(100%)

科目名	水理学
担当教員	金木　亮一
授業概要	「水を制するものは世界を制する」と言われるが．水を制するための基礎学である水理学(入門編)を習得する。基礎的事項のエッセンスを解説するとともに、理解が深められるよう実験や演習をまじえて進めて行く。主な内容としては、動いている水に関する事柄(層流・乱流、常流・射流、等流・不等流、定流・不定流など)と、静止している水に関する事柄(水圧など)を取り扱う。
到達目標	(1)国際単位(SI)の理解 (2)層流と乱流の違いの理解 (3)常流と射流の違いの理解 (4)ベルヌーイの定理の理解と応用 (5)流量測定方法の修得 (6)浸透流の計算ができる。 (7)静水圧の計算ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:本間仁他著「水理学入門」(森北出版)
成績評価	定期試験　40%、レポート　20%、小テスト　20%、プレゼンテーション　20%、欠格条件(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	水利環境施設学
担当教員	田中　勉※
授業概要	生産環境・生活環境・自然環境の改善に必要な、水利施設に関する計画・調査・設計・施工及び維持・管理・改修の方法について、環境・生態系や生物多様性に配慮しながら工学的に考究する。ここでは、まず、水利施設の種類と意義、水利施設構造物の安定設計、地盤・土構造物中の浸透流解析、矢板の安定設計など水利施設設計全般に関係する基礎的事項について講述する。次に、水路工、頭首工及びダム工など個々の工種について、その基本的性質、調査方法、水理設計手法、構造設計手法をわかりやすく講述する。
到達目標	(1) 水利施設の意義・種類・歴史を理解する。(2) コンクリート構造物の安定設計、地盤内の浸透流解析ができる。(3) 開水路工の種類・水理・構造を理解する。(4) 頭首工について、意義・構成を理解し、運動量方程式を用いた水理設計、浸透問題について漏水量・浸透破壊・揚圧力の計算ができる。(5) ダム工について、種類と分類、調査手法、設計の考え方と方法を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義のはじめに講義ノートを配布（講義の順序は年度によって変更あり） 指定図書：農業農村工学ハンドブック、農業土木標準用語事典（農業農村工学会） 参考書：青山咸康他「建設材料－地域環境の創造－」、沢田敏男他「水利施設工学I・II」(朝倉書店)
成績評価	出席2/3以上が評価対象、レポート40%、学期末試験60%の成績による。

科目名	政策計画演習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	「問題設定の方法」では、過去の卒業論文を評価することにより、研究という様式の理解とテーマ設定について学ぶ。「研究計画の設計」では、調べて、考えて、書いてまとめる、という一連の作業でもっとも軽視されがちなこの段階をめぐり、作業目的と作業方法との関連づけを再確認する。「分析と総合化の手順」では、文献資料および基礎的データのリサーチ方法の取得、その読み込みなどを行う。「総合化と見直し」では、問題設定と結論までの直線性と幅の確保に留意する。
到達目標	後期からのゼミ配属に向けて、各自の問題意識を絞り込み、自分の関心が何なのかについて明らかにすることを目標としている。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：谷岡一郎著『「社会調査」のウソ－リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書
成績評価	出席状況60%　課題内容40%

科目名	政策計画演習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	後期の初めに、学生が指導を受けたい教員を選ぶ。学生の選択にもとづき、教員1人あたり数名の学生でゼミを構成する。研究室単位で、学生はマンツーマンで指導を受ける。学生自ら調査したことを文章かしてゼミのなかで発表し、それに対するコメントを受け、それに反論、再考察・・・、この繰り返しを通じて学生は自分の研究テーマを発掘していく。学期の後半になると、学外において現地調査を始める学生が増えてくる。最後に、卒論着手発表会で成果を、パワーポイントを用いて、発表する。
到達目標	学生自身で卒業研究のテーマを見つける
テキスト 指定図書 参考書	参考書：必要な参考文献は各ゼミで指示する
成績評価	出席状況 30%　発表形式 20%　発表内容 50% 内容の評価項目：①テーマの独創性、②目的達成の可能性、③研究計画の具体性、④調査の進行度（自分の調査がなされているか），発表の評価項目：①説得性（論理性）、②情報量、③スライドのわかりやすさ、④発声の明快性、時間の使い方

科目名	政策計画演習Ⅲ
担当教員	学科教員
授業概要	研究は「問い」から始まる。それに答えることが研究に他ならない。専門的には、問いを仮説、答える行為を検証と呼んでいる。研究成果の独創性は、仮説の独創性で決まる。仮説をうまく設定して、その検証方法を示すことが研究方法の策定である。ゼミ単位で訓練を受けることにより、この作業の進め方が納得できるようになる。後半の時間で、自ら調査を進め、資料の収集、整理、解析を通じて、自分の思考を開発していく。
到達目標	研究計画策定能力を開発し、その成果をパワーポイントを用いて、教員・学生の前で報告できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:必要に応じて各ゼミで指示する
成績評価	各回の作業内容　30%　　発表プレゼンテーション　20%　　発表内容　50%

科目名	政策計画演習Ⅳ
担当教員	学科教員
授業概要	設定した仮説を検証するための対象・方法を選び、具体的な調査計画を立てる。また、調査によって得られた情報をどのように分析していくかについて、ゼミ単位の指導から学ぶ。これらの作業を進めることによって、自分が最初に抱いた「問い」に答えることができているだろう。それが、「結論」である。こうした、仮説から結論にいたる一連の流れを論文としてまとめあげる様式や表記方法についても学んでいく。
到達目標	策定した研究計画にもとづき、調査・分析等を実施し、研究を論文としてまとめられる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:必要に応じて、各ゼミで指示する。
成績評価	各回の作業内容　30%　　発表内容評価　70%

科目名	政策形成・施設演習
担当教員	学科教員
授業概要	学生が自分の進路を定めてそれを達成するために大学時代に何をなすべきか？　この命題への答えを見つけること、すなわち「自分の発見」が、この授業のねらいです。当学科の教員が1週ないし2週の演習を受け持ち、その中で教員の専門分野の最先端を講義・ディスカッションあるいは現場ツアーを通じて学生にやさしく伝達します。学生は各演習に出席した後、あらかじめ指示された課題に関するレポートを1週間以内に提出、担当教員はそれに添削あるいはコメントをつけて1週間以内に学生に返却します。このような作業の繰り返しを通じて次第にアイデンティティが形成されます。
到達目標	学生は自分の進路を定め、それに必要とされる能力を身につける方法を見出す。さらにそれをレポートにまとめる能力を養っていく。　毎回の演習の進行とともに、自分の視野がどんどん拡大していくのが実感できる。そして世界の中の自分が位置づけされる。そして、自分が何者であるかがわかってくる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特になし(資料配付)
成績評価	13回までの「出席＋レポート」点が、7．9%、 7．9%×13回＝100%

科目名	政治学Ⅰ
担当教員	竹本　知行※
授業概要	政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。
到達目標	現実の政治的問題について、自分なりの見解をもてるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：等松春夫・竹本知行編著「ファンダメンタル政治学」（北樹出版、2010年） 参考書：講義中に適宜紹介する。
成績評価	期末筆記試験100%

科目名	政治学Ⅱ（国際政治を含む）
担当教員	竹本　知行※
授業概要	国際政治学についての基礎知識を得ることで国際政治を見る「目」を養う。
到達目標	国際政治の諸問題と日本の課題について、自分なりの見解をもてるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：等松春夫・竹本知行編著「ファンダメンタル政治学」（北樹出版、2010年） 参考書：講義中に適宜紹介する。
成績評価	期末筆記試験100%

科目名	政治経済学
担当教員	伊原　亮司※
授業概要	現在は、市場原理主義が世界規模で大きな力を持っているが、経済社会は、経済的な合理性だけでなく、政治、社会、文化などの諸要素が絡み合いながら成り立っている。本講義は、企業組織内外の「力学」に焦点をあてて、日本の経済社会のあり方を検討する。
到達目標	経済現象の中に組み込まれた政治的・社会的・文化的な要素を読み解く。経済社会の構造と変動のメカニズムを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキストと参考図書は、適宜、講義中に指定する。
成績評価	平常点およびテスト

科目名	生物資源化学
担当教員	上田　邦夫
授業概要	今日の化学の分野は多種多様にわたっている。特に有機物質に関する化学はその範囲が広いといえる。このうち，生物資源管理学科の分野と関係が深い生命活動を化学的に理解するうえで，特に重要と考えられる諸分野について講述し，受講者の化学的基礎知識を身につけさせ，今後の研究活動の基礎としたい。
到達目標	生物資源管理学科での卒業研究などで必要な，有機化学や生物化学の基礎的な知識を得る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：有機化学（モリソン・ボイド：東京化学同人）、生物化学（志村憲助ら：朝倉書店）
成績評価	半期に8回程度のレポート（20%）と中間試験（40％）及び期末試験(40%)などにより評価する。なお欠席回数が全体の1/3以上になる場合は評価の対象にしない。

科目名	生物資源管理学演習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	教員が指導するゼミに参加し，卒業研究に関連する国内外の新しい知見や情報を収集・整理して紹介するとともに，卒業研究の計画，進捗状況などを報告し，それらに関する討議を行う。また，発表用資料の作成を通じて，論文作成能力とプレゼンテーションの能力を養う。
到達目標	卒業研究実施のための背景を理解するとともに，卒業研究の実施に必要な論文作成能力とプレゼンテーションの能力を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 指定図書：特になし
成績評価	生物資源管理学演習の具体的な実施方法は研究室ごとに決定されるので，分属された研究室のガイダンスを受けること。

科目名	生物資源管理学演習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	教員が指導するゼミに参加し，卒業研究に関連する国内外の新しい知見や情報を収集・整理して紹介するとともに，卒業研究の計画，進捗状況などを報告し，それらに関する討議を行う。また，発表用資料の作成を通じて，論文作成能力とプレゼンテーションの能力を養う。
到達目標	卒業研究実施のための背景を理解するとともに，卒業研究の実施に必要な論文作成能力とプレゼンテーションの能力を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 指定図書：特になし
成績評価	生物資源管理学演習の具体的な実施方法は研究室ごとに決定されるので，分属された研究室のガイダンスを受けること。

科目名	生物資源管理学概論
担当教員	増田　佳昭　・　学科教員
授業概要	生物資源管理学とは、生物資源管理に関連する多くの学問分野を統合する名称である。本科目は生物生産、生物機能の利用、地域環境管理等の視点から生物資源管理学をとらえ、学ぶための導入部と位置づけられる。多数の生物資源管理学科教員が担当し、各分野の概要、現状、先端的なトピックス等を紹介する。
到達目標	(1)生物資源管理学を幅広く理解し、体得する。 (2)生物資源を適切に制御・管理する知識が身に付く。 (3)生物生産・生物機能を用いた環境改善のための知識が身に付く。 (4)土壌・水資源の保全と活用のための知識が身に付く。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布
成績評価	毎回提出を課すレポート により評価する。

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅰ
担当教員	泉　泰弘　・　上町　達也　・　原田　英美子
授業概要	室内または圃場における実験を通して栽培植物の栽培に関する研究遂行に必要な実験計画法、栽培方法、観察、測定、記録ならびにデータ解析法といった基礎技術を学ぶ。
到達目標	自分で実験の計画を立て、実行し、レポートをまとめられるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:実験手順に関するプリントを毎回配布する。 指定図書:なし 参考書:必要に応じて授業の中で紹介する。
成績評価	出席状況とレポートにより評価するが、レポート点に比重を置く。

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅱ
担当教員	長谷川　博　・　上町　達也　・　清水　顕史
授業概要	植物遺伝資源管理の手法と植物組織培養技術の基礎をいくつかの実験と調査により習得する。ことに、遺伝形質の把握と遺伝現象解明の手法、植物組織の脱分化・再分化の手法の習得をめざす。卒業研究を控え、実験計画の立て方、データのまとめ方、および科学論文の書き方とプレゼンテーションの仕方についても指導する。
到達目標	(1)植物の交配技術の習得。(2)形態、生理・生化学、分子遺伝学的形質の解析手法の習得。(3)植物培養技術の習得。(4)仮説を立て、実験し、結果を考察するという科学的手法の習得。(5)科学論文を想定したレポートの作成。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストは用いない。毎回、資料を配付する。 参考書:必要に応じて紹介する。
成績評価	実験技術取得能力の評価(50%)とレポート評価(50%)

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅲ
担当教員	岡野　寛治　・　杉浦　省三
授業概要	鶏の解剖、反すう胃内微生物の働き、飼料貯蔵法などの家畜資源の管理と生産物に関する基礎実験を行い、家畜の飼育管理、実験計画法、顕微鏡観察、化学的測定法など研究に必要な基礎技術を修得させる。魚類の解剖、外部・内部器官の観察・比較、分類同定、麻酔法、採血法、血液（血球）の観察と同定、内部器官（腎、肝、腸、胃、鰓など）の組織切片標本の作成、基本的な染色技術の習得，各細胞の形態観察と同定、病理組織と正常組織の比較・診断などを行う。
到達目標	(1)動物の体と組織の構造および機能についての理解。 (2)動物実験の基礎技術の習得。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリントを配布する。指定図書：なし。 参考書：佐野豊 著『組織学研究法』（南山堂）。Young, B., Heath, J.W. 著，山田英智ほか 訳『機能を中心とした図説組織学，第4版』(医学書院)。岩井保 著『魚学入門』（恒星社厚生閣）。
成績評価	レポート(90%)，小テスト(10%)

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅳ
担当教員	鈴木　一実　・　上田　邦夫　・　入江　俊一
授業概要	微生物（菌類、細菌、放線菌、きのこ、酵母）および植物ウイルスについての理解を深める。無菌操作、微生物の分離、顕微鏡観察などの基本技術に習熟し、微生物および植物ウイルスを取り扱う様々な実験技術を習得する。
到達目標	（1）微生物（菌類、細菌、放線菌、きのこ、酵母など）および植物ウイルスについての理解 （2）無菌操作、微生物の分離、顕微鏡観察などの基本技術の習得 （3）微生物および植物ウイルスを取り扱う実験技術の習得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布する。
成績評価	実験ごとに課すレポート提出により評価する。授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅴ
担当教員	杉浦　省三　・　入江　俊一　・　清水　顕史
授業概要	遺伝子工学的技術はバイオサイエンスの基礎であるばかりではなく、食品、医療、化学工業、あるいは親子鑑定や犯罪捜査など、多方面で利用されている身近な技術である。本実験では、遺伝子発現量測定、大腸菌による発現遺伝子断片のクローン化、パソコンを用いた遺伝子情報処理･解析などを通して遺伝子工学的実験手法の基礎を身につけることを目的とする。
到達目標	(1)遺伝子工学実験に共通する基本技術の習得。 (2)実験操作に関する基本原理の理解。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業の中でプリントを配付する。 参考書：「バイオ実験イラストレイテッド①-③」（秀潤社）
成績評価	実習状況、小試験（3回程度）、レポート（3-6回程度）から総合的に評価する。

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅵ
担当教員	沢田　裕一　・　岡野　寛治
授業概要	昆虫及び小動物の保全・管理に関する基本的な実験技術や研究手法を修得する。特に、動物生態学、動物資源管理学、害虫管理学、環境動物学を習得するのに必要な生態学的研究方法を講義し、実験室、実験圃場及び自然条件下での昆虫・小動物を対象として、飼育実験、野外調査及びそれらのデータ解析等について実習を行う。
到達目標	(1)標識再捕法(Petersen法とJolly-Seber法)を用いて個体群パラメータを推定できること。 (2)野外調査データから生命表を作製し、Varley & Gradwell法とPodoler & Rogers法により変動主要因を解析できること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:必要に応じ授業で紹介する。
成績評価	レポート評価:100%

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅶ
担当教員	上田　邦夫　・　岡野　寛治　・　須戸　幹
授業概要	植物や動物などの生物資源中に存在する無機物質や有機物質を定量する理論と実際について学び修得する。
到達目標	実験材料の取り扱いや前処理を学び，簡単な有機物質や無機物質の定量ができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントの配布
成績評価	レポートの提出と内容により評価する。

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅷ
担当教員	金木　亮一　・　須戸　幹
授業概要	汚濁物質の濃度、流量、負荷の求め方と土壌の化学的性質の分析法を修得する。実習船「はつさか号」で琵琶湖の水を採取し、その水質(SS、BOD、COD、T-N、T-P)を明らかにするとともに、水田で灌漑用水および田面水の濃度を測定し、水田が環境に及ぼす影響を評価する。また、土壌を採取し、水分、有機物、土壌の化学的性質(EC、pH、CEC、交換性陽イオン等)の測定法を修得させる。
到達目標	土・水試料の採取、前処理、化学分析、データ処理の手法を体得させる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:実験時にプリントを配布する
成績評価	レポートにより評価する。欠格条件(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	生物資源管理学実験・実習Ⅸ
担当教員	岩間　憲治　・　小谷　廣通　・　皆川　明子
授業概要	自然環境の基盤である土壌および地表面付近の大気の性質や、その空間に存在する水やエネルギーなどの物質の挙動について理解するため、土壌調査から気象観測、様々な実験、(パソコンによる)データ解析を行います。そこで学んだ技術・知識は植物や動物が棲息する環境を評価するためにとても有用であり、3回生以降の実験・実習の基礎となります。
到達目標	以下の項目を理解し、実施・実験できるようになります。1)土壌調査(サンプリング)技術、2)土壌の物理的性質、3)土壌内部の水分の挙動、4)地表面上の(水分などの)物質循環、エネルギー循環、5)様々な計測機器により得られたデータから物質・エネルギー循環を定量的に評価するための計算手法
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:社団法人　地盤工学会編:「土質試験　基本と手引き」
成績評価	授業に出席すること(4/5以上)が大前提となる。レポート100%で判定する。

科目名	生物資源管理学実験・実習Ｘ
担当教員	小谷　廣通　・　岩間　憲治
授業概要	本学環境科学部周辺に基準点を設け、これらの相対的な位置関係をトータルステーションを用いて精確に定める(基準点測量)。同時に、距離測量、角測量および水準測量の個別的な実習を行うとともに、各測量における誤差の処理方法も習得する。次に、基準点を結ぶ測線を基準とした周辺の地物の相対的な位置関係を平板測量を用いて平板上に図化する方法(細部測量)を実習する。最後に、基準点測量と細部測量の結果を総合して測量図が作成されることを学ぶ。
到達目標	本学環境科学部周辺を対象にした測量図を作成するための測量技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:森忠次「測量学1　基礎編」(丸善)、大嶋太市「測量学　基礎編」(共立出版)
成績評価	授業に出席すること(4/5以上)が大前提となる。レポートの評価(100%)で判定する。

科目名	生物資源管理学実験・実習ＸⅠ
担当教員	増田　佳昭　・　増田　清敬
授業概要	本授業では、第一に、刊行統計資料を用いて表計算ソフトでのデータ処理を行うことを通じ、農業・食料問題の現状について把握する。第二に、農業・食料問題の解決策を探るためにアンケートを自ら設計し、データ処理を行い、分析結果を取りまとめて発表する。以上の過程で、テーマ設定、データ収集・処理、レポート作成、発表の方法について学ぶ。
到達目標	(1)刊行統計データを用いたデータ処理ができること。 (2)アンケートを自ら設計し、調査結果を取りまとめて発表できること。
テキスト 指定図書 参考書	資料を配布する。参考書は適宜紹介する。
成績評価	発表50%、レポート50%。

科目名	生物資源循環論
担当教員	岡野　寛治
授業概要	家畜生産と農業廃棄物、食品廃棄物、草類などの利用を連携させる方向での持続的農業の可能性を考える知識を深める。前半部分では各家畜の飼養技術についての理解を深め、後半部分では農業廃棄物、食品廃棄物、草類などの利用方法について講義する。
到達目標	生物資源循環、とくに家畜を利用した知識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし、ただし適宜プリントを配布する。 指定図書：亀高ら著『基礎家畜飼養学』 参考書：高野ら著『粗飼料・草地ハンドブック』
成績評価	レポート（20％）、小試験（30％）、期末試験（50％）

科目名	生物地球化学
担当教員	三田村　緒佐武
授業概要	大気圏、地圏、水圏の中で生命活動のある生物圏における炭素、窒素、リンなどの生元素化合物の存在様式と現存量、ならびにそれらの循環代謝過程を講義する。講義では琵琶湖環境における生元素循環を中心として解説する。なお、生元素循環の動的平衡が地球生態系を維持している現状を環境科学的にも解説する。
到達目標	(1)水圏における生元素循環機構を理解すること。 (2)環境問題を解決するために循環哲学の重要性を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時に資料を配布する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	定期試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	生物統計学
担当教員	清水　顕史
授業概要	実験や調査によって得られるデータは、ごく一部を抜粋した標本にすぎない。苦労して得たデータを有効に活用し数字に潜む科学的真実を明らかにするためには、標本データの背景にある集団（母集団）を推測し、標本データを通じて母集団間の比較をしなければならない。本講義では、このような標本と母集団の関係に基づく、統計学的検定の方法とその仕組みについて学ぶ。
到達目標	仮説検定の考え方を説明でき、統計的な検定の限界を理解できる。適切な検定法を選び、実験や調査で得たデータを自力で解析できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：配布プリントで代用する。 参考書：吉村功(編)『毒性・薬効データの統計解析』(1987)サイエンティスト社、粕谷英一『生物学を学ぶための統計のはなし』(1998)文一総合出版、ソーカル&ロルフ『生物統計学入門』(1983)共立出版
成績評価	期末試験70%　小テスト・レポート等30%

科目名	西洋建築・思潮史
担当教員	迫田　正美
授業概要	ヨーロッパを中心とした建築の歴史を、現代建築へとつながるデザインの源泉として、どのように理解し評価するのか、その視座の獲得を目標に据える。したがって、各時代の様式や個々の作品の知識だけでなく、その創作の背景となる世界観や各時代の芸術表現あるいは建築理論や芸術論なども併せて講述する。
到達目標	古代ギリシアから19世紀頃までの建築デザインの変遷についての知識を習得し、各時代・地域の主要な世界観（宗教、哲学など）と芸術論、制作学との関連についての理解を深めることで、建築デザインの今日的課題の発見と各自のデザイン的視座の獲得を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『ヨーロッパ建築史』西田雅嗣編、昭和堂 『西洋建築史図集』日本建築学会編、彰国社
成績評価	各回の小レポート（30%）と筆記試験（70%）による。

科目名	設計演習Ⅰ
担当教員	柴田　いづみ ・ 松岡　拓公雄
授業概要	イメージ表現、設計基礎演習などの既往演習を基礎にして、より本格的、建築的な課題で進めていく。前半課題では、人間的な尺度、そして認知、行動、更には生活と空間との関係を念頭において設計することを課題とする。後半課題では、様々な目的で生まれる複数の動線の処理、広がりを持つ場所で既存のコンテクストへの対応を踏まえた課題を出す。この目的で、設計建築物としては、木造戸建住宅（構造計画も含める）、小規模施設などとする。
到達目標	敷地、敷地周辺を読み取り、これらと密接に関係づけを行いながら、求められている目的、機能を建築化していく能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:「コンパクト設計資料集成」（丸善）;「初めての建築設計」（学芸出版社） その他の必要資料はプリントとして配布する。
成績評価	提出された成果物による（提出締め切りに遅れた場合は評価に影響する）:100%

科目名	設計演習Ⅱ
担当教員	陶器　浩一 ・ 村上　修一 ・ 布野　修司 ・ 松岡　拓公雄 ・ 高柳　英明 ・ 高田　豊文 ・ ホアン・ラモン ・ 芦澤　竜一※
授業概要	コンセプチュアルな思考から、実践的な設計行為につながる設計過程を習得することを目標に、中規模建築を様々な工法で設計する方法を学ぶ。具体的には前後半で2つの中規模建築の設計課題に取り組む。前半課題では、構造デザインの基本の習得を主眼として、比較的大スパンの建築物の設計課題を行う。後半課題では中規模の集合住宅と、大学のゲストハウスを複合的に提案し、地域環境にあった住空間と、立地性を生かしたロードサイド・コンプレックスの設計を行う。
到達目標	コンセプチュアルな思考から、実践的な設計行為につながる設計過程を習得し、中規模程度の建築を様々な工法で設計できるようになることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	前半課題作品の内容50%、後半課題作品の内容50%で評価する。 なお、毎回のエスキスチェックは必ず受けること。

科目名	設計演習Ⅲ
担当教員	高柳　英明　・　村上　修一
授業概要	環境建築デザイン学科の演習授業の総括として、より高度な計画・デザイン手法を身につけることを主眼とし、大規模な複合施設の設計課題に取り組み、都市計画的・景観計画的な分析能力を養い、提案する建築を社会や環境に関連づけて機能させる総合提案力を習得することを目標とする。
到達目標	大規模の建築を、敷地計画も含めて総合的に計画・デザインする技能を身につける
テキスト 指定図書 参考書	指定なし
成績評価	小課題及び本課題の内容を100%として評価する

科目名	設計基礎演習
担当教員	迫田　正美　・　村上　修一　・　柴田　いづみ　・　冨島　義幸　・　轟　慎一
授業概要	建築設計、ランドスケープデザインの基礎を学ぶとともに、図面表現、模型作成などの技術の習得とコンセプトワーク、空間デザインの基礎を習得する。
到達目標	実測、フリーハンド・スケッチ、空間スケールの把握、図面の読解、建築製図の基礎、敷地のコンテクストの捉え方、エスキスの進め方、スタディ模型、コンセプトワーク、図面表現技法、RCラーメン構造の基礎などに関する演習を通じて、建築デザインとランドスケープデザインの基礎と表現法を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:「コンパクト設計資料集成」丸善、「初めての建築製図」学芸出版、「ベーシックスタディランドスケープデザイン」昭和堂、ほか適宜プリントを配布する。
成績評価	各課題の提出と、見学会などのレポートの提出による(夫々を100点満点で採点し、平均を取る)が、各回のテーブルクリティクを受けていることを前提とする。

科目名	専門外書講義Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	自然環境についての理解を深めると共に、英文の講読力を涵養することを目的とする。大気圏環境・陸圏環境・水圏環境・生物圏環境に関する専門の文献を教材として講述する。授業方法は、教員が準備した英語の専門書や文献を、受講生自ら適切にレビューする。
到達目標	英文の専門学術書に対する読解力の基礎をつくる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:資料を講義中に配布する。
成績評価	出席、予習の状況、レポートなどにより総合的に評価する。

科目名	専門外書講義Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	卒業研究の前段階の講義として位置づけられる専門外書講義Ⅱでは、大気圏・陸圏・水圏・生物圏など地球生態系の構造と機能、ならびにそこで生じている環境問題に関する海外の最新の文献を教材・素材として講述する。授業方法は、学習効果が上がるとされる演習形式で行い、受講生みずから適切な文献をもとに発表する。
到達目標	(1)専門学術書(英文)に対する受講生の読解力を習得する。 (2)卒業研究を行ううえで欠くことのできない国内外の学術論文を理解する手法を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業時間中に資料を配布する
成績評価	出席が三分の二以上の者に対して試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	専門外書講読Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	英語の学術専門書の読解力を高めるため、英語で書かれた学術専門書を輪読する。必要に応じて専門用語や関連事項を解説する。
到達目標	各担当教員ごとに適宜紹介される。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業中に配布もしくは指示する。
成績評価	出席状況と授業での発表内容によるが、担当教員によっては小テスト, 学期末試験を行うこともある。

科目名	専門外書講読Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	英語の学術専門書の読解力を高めるため、英語で書かれた学術専門書を輪読する。必要に応じて専門用語や関連事項を解説する。
到達目標	各担当教員ごとに設定される。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業中に配布もしくは指示する。
成績評価	出席状況と授業での発表内容によるが、担当教員によっては小テストや学期末試験を行うこともある。

科目名	測量学
担当教員	小谷　廣通
授業概要	地表面上にある地物の空間的な位置関係を定めるために、その基礎的な技術の理論を学ぶ。主として、新しい測量方式である光波測距儀とトータルステーションの利用を前提とした基準点測量と、地形測量（細部測量）としての平板測量について理解する。また、土地の面積と体積を求める方法も学ぶ。
到達目標	測量士補の国家試験の合格者に匹敵する実力を持つこと。あるいは、国家・地方公務員試験の測量問題に対応できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：森忠次「測量学Ｉ　基礎編」（丸善） 参考書：大嶋太市「測量学　基礎編」（共立出版）
成績評価	レポート評価50％　各章の問題を十分理解して解答できること。 期末筆記試験50％　全章の問題を対象にしてこれらの応用問題が解答できること。

科目名	組織とネットワークの社会学
担当教員	伊原　亮司※
授業概要	この講義では、経営に関する組織とネットワークのあり方を働く場の視点から学ぶ。働く者の多くは、１日の半分以上の時間を何十年にも渡って職場で過ごし、生涯にわたる労働生活を通して自分自身をも形成している。本講義では、このような意味で重要な場である職場に焦点を当てて、経営組織とネットワークのあり方を歴史の流れの中で理解することを目指す。理論を学ぶと同時に、映像などを通して実態に親しむ。
到達目標	代表的な管理組織を学ぶ。そして、完全な管理組織は存在せず、歴史の中でその有効性と限界を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：講義中に指定する。
成績評価	平常点及びテスト

科目名	卒業研究Ｉ（環境生態）
担当教員	学科教員
授業概要	教員の指導のもとに研究課題を設定し，野外調査・実験・資料解析などを行い，それらを取りまとめて卒業論文を制作するとともに，その成果を発表する。
到達目標	各指導教員ごとに設定される。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	前期の間での卒業研究への取り組み方をみて評価する。

科目名	卒業研究Ⅱ（環境生態）
担当教員	学科教員
授業概要	教員の指導のもとに研究課題を設定し，野外調査・実験・資料解析などを行い，それらを取りまとめて卒業論文を制作するとともに，その成果を発表する。
到達目標	各指導教員ごとに設定される。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	最終試験結果に基づいて評価する。

科目名	卒業研究（環境政策・計画）
担当教員	学科教員
授業概要	卒業論文作成に指導教員の指導をうけつつ挑んでいく。 卒業論文の評価は、①オリジナリティ(新規性・独創性)、②有用性(利用できるか)、③論理性(論理が整然としているか)、④完結性(論文として完成しているか)できまる。
到達目標	第1の目標は、学生が人生のある時期を環境政策・計画学科で四年間過した証＝人類の知に新たな知を追加したこと、を作ることである。第2に、学ぶとはどういうことなのか、学びの楽しさとは何か、を知ることである。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:必要に応じて、各ゼミで指示する
成績評価	卒業論文評価　100％

科目名	卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン）
担当教員	学科教員
授業概要	3年次後期の「環境・建築デザイン演習」の延長上にあり、4年次前期の必修で、卒業に不可欠の科目である。後期に卒業制作を行う者は、この科目で論文としてまとめる必要がある。
到達目標	研究の成果をまとめ、後期における通年論文の完成ないし作品制作へつなぐ。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	「卒業研究・卒業制作Ⅰ発表会」における成果発表の内容により評価する(100%)。

科目名	卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン）
担当教員	学科教員
授業概要	4年次前期の「卒業研究・卒業制作I」の延長上にあり、4年次後期の必修で、卒業に不可欠の科目である。ここでは、卒業研究を引き続き実施する者と、卒業制作を行う者に分かれる。
到達目標	論文または作品の完成
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	「卒業研究・卒業制作Ⅱ発表会」における成果発表の内容により評価する（100%）。

科目名	卒業研究Ⅰ（生物資源）
担当教員	学科教員
授業概要	卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱを通じて，生物資源管理に関する研究テーマを設定し，研究計画を策定する。それに基づいて実験，野外調査，資料調査など研究を実施し，その成果を卒業論文として取りまとめるとともに，卒業研究発表会において発表する。
到達目標	研究テーマを設定し,研究計画を立て，研究を行う能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指示する。
成績評価	卒業研究Ⅰは前期期間の卒業研究への取り組みについて評価される。具体的な成績評価の基準については「生物資源管理学科卒業研究Ⅰ・Ⅱ実施要領」による。

科目名	卒業研究Ⅱ（生物資源）
担当教員	学科教員
授業概要	卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱを通じて，生物資源管理に関する研究テーマを設定し，研究計画を策定する。それに基づいて実験，野外調査，資料調査など研究を実施し，その成果を卒業論文として取りまとめるとともに，卒業研究発表会において発表する。
到達目標	計画に基づいて研究を行い，その成果を論文にまとめ，プレゼンテーションする能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 指定図書：特になし
成績評価	後期期間の卒業研究への取り組み，卒業論文，卒業研究発表会要旨，研究発表の内容，質疑応答などの項目について評価される。具体的な成績評価の基準については「生物資源管理学科卒業研究Ⅰ・Ⅱ実施要領」による。

科目名	大気環境学
担当教員	永淵　修
授業概要	地球は太陽からの放射エネルギーを受け取るが、地球上の位置により、その大きさは異なることからアンバランスを生じている。このアンバランスを解消するために大気は大規模な循環をしている。大気環境問題の多くは、この大気の循環によって広域に拡散されることで特徴づけられる。本講義では大気循環のメカニズムと物質循環の仕組みを修得し、現在問題になっている地球環境問題への理解を深める。
到達目標	地球環境問題のメカニズムを理解し、大気環境の保全の重要性を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし 参考図書：大気環境学（岩坂泰信）岩波書店
成績評価	毎回の小テスト、レポートおよび期末試験により総合的に判断する。

科目名	地域開発論
担当教員	秋山　道雄
授業概要	地域開発を字義どおり様々な地域における各種の開発一般と理解すると、その範囲は無限に広く、その内容もきわめて雑多になる。それに対して本授業では、これをいわゆる地域問題の解決に関わるものとみる。大都市問題や地域格差問題など地域問題の内容は多岐にわたるが、これの深刻化が看過できなくなった段階で、公共部門による対策（地域政策）を生み出す。この地域政策に沿って実施されるのが、本来の意味での地域開発である。地域開発は、一国全体の地域的均衡の実現をめざすべきものでもあるから、なによりも総合的であることを必要とする。
到達目標	地域開発に関する理論・歴史・政策の主要事項が理解できるようにする。主要な地域開発事業の実施過程とその達成効果を把握し、環境問題に取り組んだ事例とそうでない事例を対比しながら、両者の差異を理解できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：岡田知弘、他編『国際化時代の地域経済学』（有斐閣） 参考書：授業の中で随時紹介する。
成績評価	授業期間中にレポートを課す、複数のレポートを評価、50%。　夏期休暇中に課題レポートを課す、50%。

科目名	地域環境計画
担当教員	轟　慎一
授業概要	都市・集落をいかに捉えるか、どうやって地域・環境にアプローチするか。建築設計・都市計画・環境デザイン・まちづくり・都市政策では、地域の社会的・空間的特質の把握と、地域像のパースペクティヴが不可欠である。本講は、研究技法の系統的理解にとどまらず、地域にかかる基本的な概念体系をふまえ、地域そのものの構造的理解をめざす。都市・集落の生活空間計画と地域環境デザインについて、具体的な現場の視点をまじえ論じる。本講は、設計演習・環境フィールドワーク・卒業論文・卒業設計等における、対象の構造的把握、研究の方法論においても論理的・技術的に有用である。
到達目標	生活空間・地域環境・都市システムに関する基本理解、都市・集落の調査研究に関する基本理解、都市問題・まちづくり・計画論に関する基本理解
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介
成績評価	●小論文（中間まとめ）、研究レポート、期末試験。未受験・未提出が1つでもあれば「不可」。●2/3以上の出席を、単位認定の前提とする。正当な理由がある場合は、理由書を持参すること。●小レポート・小テストを実施し、出欠・成績評価に反映させる。

科目名	地域環境政策論
担当教員	香川　雄一
授業概要	環境問題は時代と地域によってさまざまな発生パターンをとる。したがって環境政策も具体的な問題に応じて実施されてきた。本授業ではとくに地域による環境政策の違いをいくつかの具体例を紹介しながら説明していく。また環境政策の効果と課題を時代の変遷から眺めていく。具体例では国内外の代表的な事例と身近な地域の事例を取り上げることにした。環境政策の理論と環境計画の現実を実際の経験から学んでもらいたい。
到達目標	各地域および各時代における環境政策の理解
テキスト 指定図書 参考書	参考書:礒野弥生・除本理史編(2006)『地域と環境政策』勁草書房
成績評価	平常点＝小レポート(50%)および(予告プレゼンテーションを含む)学期末レポート(50%)によって評価する

科目名	地域環境整備学
担当教員	金木　亮一
授業概要	まず、滋賀県が抱える環境整備の課題、特にマザーレーク(ML)21計画について検討を加える. 次に、国内外の農村地域における生産・生活環境整備手法について解説するとともに、今後の土地利用計画や環境管理計画のあり方を紹介する。我が国の従来の土地利用計画には計画性が乏しく、特に、農村部においては都市化に伴うスプロール現象が生起し、そのために生産・生活環境の悪化を招いている。その現状から、計画の必要性とあるべき姿について解説する。
到達目標	(1)滋賀の環境整備に関わる諸問題を理解し、自分なりの解決策を例示できる。 (2)生産環境の整備方法を説明できる。 (3)生活環境の整備方法を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:『人と自然にやさしい地域マネージメントー地域環境管理工学ー』(農業土木学会)
成績評価	定期試験　30%、レポート　30%、小テスト　20%、プレゼンテーション　20%、欠格条件(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	地域再生システム論
担当教員	鵜飼　修　・　仁連　孝昭　・　轟　慎一
授業概要	地方分権が推進される中で、地域の自立性、自律性を高めるには、私たちは何をすればよいのか。その理論と実践的手法を学ぶ。具体的には、地域再生の理念や意義、事例を学ぶとともに、設定されたフィールドと課題に対して、現場における実践的な授業を通じて、課題解決のための解決策を検討する。国外コースでは、講義は英語の講義と滞在周辺地域でのフィールドワークとが組み合わされている。講義開始前には、副教材を用いて事前の学習準備を行う。夜間は、現地の研修施設に宿泊し、受講生の間でグループワークによる議論を行う。(国内コース、国外コースのいずれかを選択する)
到達目標	(国内コース)全国各地における様々な地域再生事例とその理念を把握する。地域を形成する様々な主体との接点を持つ。地域再生やまちづくりの推進に自分自身がどのように関わることができるかを知る。 (国外コース)アジアにおける環境問題理解やその解決のための技術や手法について学ぶ。演習参加者間の議論等を通じて国際感覚の向上を図り、次代を担う責任感や世界観を涵養する。
テキスト 指定図書 参考書	(国内コース) 参考図書:御園慎一郎編「地域再生システム論」東京大学出版会, 近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメー学生力で地域が変わる」(株)ラトルズ (国外コース)テキスト:事前案内や授業期間中に必要な資料を配付する。
成績評価	(国内コース)レポート評価70%、プレゼンテーション評価30%。原則として、全ての授業に出席すること。 (国外コース)レポート評価70%、プレゼンテーション評価30%。

科目名	地域産学連携実習
担当教員	学科教員
授業概要	自治体、民間の設計事務所等やシンクタンク等で研修を行い、実社会で環境・建築デザイン専門分野の活動がどのように行われているか体験学習することを目的とする。
到達目標	専門家としての職能像を明確に持つとともに、実践現場において必要とされる作法や技術を知る。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	体験学習した内容をレポート等にまとめ、その内容により評価する(100%)。

科目名	地域資源管理学
担当教員	増田　清敬
授業概要	農村地域における生活と産業の持続可能な発展を考える上で、地域資源をいかに管理し活用するかはきわめて重要である。農林業の衰退の中で、農地や水路、森林などの管理は大きな問題になっている。また、都市と農村の交流が盛んになる中で、農村景観や特産物は農村活性化の大きな手段となる。本授業では、農村地域における地域資源の管理及び活用について、理論と具体的施策、その評価手法を論じる。
到達目標	(1)地域資源の種類と特性について説明できること。 (2)地域資源管理政策について説明できること。 (3)地域資源の経済・環境評価手法について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	毎回プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。
成績評価	中間試験50%、定期試験50%。

科目名	地域システム論
担当教員	秋山　道雄
授業概要	生態学では、生活する主体にたいして、それと機能的連関をもつ事物を、一般に環境とよんでいる。さらに、両者は別個に存在するのではなく、ひとつに統合された主体・環境系というシステムをなしているとみるのである。地域システム論は人間や人間集団を対象とするが、基本的な構図は変わらない。人間の生活やさまざまな団体・組織の活動とその環境を統合して地域とみなし、その成り立ちと機能を明らかにしていく。
到達目標	地域は、人間の生活にもっとも身近なコミュニティから、国家をこえる領域まで、さまざまな空間スケールをもつので、各空間スケールに応じた地域の捉え方ができることを目指す。さらに、地域のガバナンスにおいて重要な役割を果たす自治体の性格と機能を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:伊藤喜栄・藤塚吉浩編『図説　21世紀日本の地域問題』(古今書院) 参考書:講義の中で随時紹介する。
成績評価	授業期間中にレポートを課す、複数のレポートを総計し、50%。 夏期休暇中に課題レポートを課す、50%。

科目名	地域情報処理学
担当教員	岩間　憲治
授業概要	河川流域や自然保護地域、農耕地など地表面上に広がりを持った(自然)環境を定量的に評価し、積極的に保護・育成するためには、対象の位置情報や属性情報を知ることがとても重要となる。本講義では、そのための基礎的技術である写真測量技術や画像処理技術をまず学ぶ。ついで、地理情報のコンピュータ上での表現手段であるGIS(地理情報システム)の概念、位置情報取得手段であるGPSの概念、土地被覆情報の解析手段ともなるリモートセンシング(RS)技術の概念を理解し、その応用を学ぶ。
到達目標	地図作製の基礎である座標系の概念、地形測量、路線測量、写真測量の手法を理解する。地理情報システムの概念とそのためのデータ構造を理解する。GPSの原理と扱い方を理解する。リモートセンシングの概念と衛星画像を用いた環境評価について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:星仰「地形情報処理学」(森北出版)
成績評価	レポート40%、期末筆記試験60%を原則とする。

科目名	地域生活論
担当教員	中塚　圭子※
授業概要	この講義では、事例を中心に以下の点について考えます。「地域での暮らし」「地域を守ろう」というけれども、そもそも〈地域〉とは、何なのか。受講生のみなさん個々人にとってどういうものと理解されているのか。 地域と「私」「家族」との関係は、どういうものなのか。 地域と障がい者との関係は、どういうものなのか。 私たちは一体どこで育ってきたのか、子どもの未来を保証するのは一体誰なのか。これらの討議を踏まえ、〈地域〉は誰のために、誰によって担われているのかを自分の問題として考察します。
到達目標	〈地域〉を受講者個々人が〈私〉との関係として捉え直し、 地域福祉の仕組み、個人のライフステージや障害による変化を受け支えるネットワークの大切さを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	適宜プリント配布
成績評価	毎時間のミニレポート30％、最終の課題レポート40％、授業への積極的参加30%で評価する。（従って、課題レポートのみの提出では単位認定しない。）

科目名	地域調査法
担当教員	香川　雄一
授業概要	地域調査と社会調査についての基本的事項を学習する。フィールドワークのための基礎知識を習得することが目的である。社会調査についての歴史や目的を理解するとともに、調査方法の基礎と注意事項について説明する。調査の種類について質的調査と量的調査があることを学んだ後に、それぞれの具体的データについて例示しながら紹介していく。さらに資料やデータの収集から分析に至るまでにどのようなプロセスが必要になるのかを理解していく。
到達目標	地域調査の準備ができること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:浮田典良ほか編、ジオ・パル21、海青社、2001年 参考書:森岡清志編著、ガイドブック社会調査、日本評論社、1998年
成績評価	平常点＝授業時の発表および小レポート(50％)と学期末レポート(50％)

科目名	地域調査法演習
担当教員	香川　雄一
授業概要	実際に社会調査を扱っている研究例から社会調査の実施方法を学んでいく。さまざまな資料やデータがどのようにして収集され、分析されているのかを具体的に解説する。先行研究例にならって、調査目的や調査方法の決め方、調査企画と調査設計の作り方について習得していく。調査方法に関しては、準備から実施、分析に至る前の過程をサンプリング方法やデータのコーディング方法にも触れつつ具体的に説明する。インタビューの仕方やフィールドノートの作成方法についても解説する。
到達目標	学生個人による地域調査の実現に向けた計画案の作成
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：梶田　真ほか編、地域調査ことはじめ、ナカニシヤ出版、2007年 参考書：大谷信介他編著、社会調査へのアプローチ[第2版]、ミネルヴァ書房、2005年
成績評価	平常点＝小レポートおよびグループ発表（50％）と学期末レポート（50％）

科目名	地球環境システム論
担当教員	未定
授業概要	地球環境問題をさまざまな角度から検証することによって、二十一世紀の教養としての「環境学」に求められる能力、すなわち環境問題を俯瞰できるような能力を養う。
到達目標	(1)地球環境問題の概要について説明できること。 (2)地球環境問題の解決にむけた方途について持論を構築できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリントを配付 参考書：講義中に適宜紹介する。
成績評価	平常点（小テスト） 30％ 期末試験 70％　毎回の講義の内容を理解できていること。

科目名	哲学概論Ａ
担当教員	鞍田　崇※
授業概要	テーマは暮らしの“かたち”。エコロジーをめぐる近年の議論をふまえつつ、アート、デザイン、建築、民俗、宗教など様々なジャンルを手がかりに、これからのあるべきライスタイルとはどういうものか検討していきます。
到達目標	現代思想において問われていることの意味と歴史的背景を理解すること。しかし何よりもこの講義の目的は、みなさん一人ひとりが「哲学する」ことのきっかけをつかんでいただくことにあります。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 参考書：講義の中で適宜紹介します。
成績評価	講義内レポート　40％　テーマごとに理解度の確認と疑問点の整理をします（2，3回、各Ａ4一枚程度） 期末試験　　60％　講義全体をふまえた内容で3000字程度。詳細は講義中に連絡。

科目名	哲学概論Ｂ
担当教員	陶久　明日香※
授業概要	哲学には興味があるがどこから入り込んでいいか分からないという状態から、哲学的思索の領域へと一歩入り込むことを促すための導入的講義です。したがって哲学を支える大きな柱となる伝統的ないくつかの問題とその考え方についての概説を通じて、哲学のおおよその形を呈示します。主に「存在」と「知識」の問題を扱い、最終的には「価値」の問題にも触れることになります。
到達目標	以下の3点について理解を深めること: ①哲学は大雑把にみてどのような分野を持つのか、②そうした分野はどのようにして生じてきたのか③またそれらの分野は具体的にはどのように展開されてきたのか。
テキスト 指定図書 参考書	プリントを配布します。また参考図書に関しては、授業時に適宜紹介していきます。
成績評価	集中講義のため、出席を重視します（50％）。また講義後に出題するレポートによって評価します（50％）。

科目名	電子と化学結合
担当教員	松岡　純
授業概要	化学は、原子間の結合の生成や切断と、その結果生じる物質の性質とに関する学問である。物理化学はその中で、様々な化学反応や物性の中に普遍的・統一的な解釈を与える役割を担い、化学そのものの他に材料科学、エネルギー工学、地球科学など広い分野と関連し、工学部で物質やエネルギー学ぶ基礎となる。本講では物理化学の基盤を構成する3分野（量子化学、熱力学、反応速度論）の中で、化学結合と物質構造を扱う量子化学の基本概念の理解を目指す。
到達目標	(1)電子の波動関数のもつ意味について説明できること。 (2)原子の電子構造について波動関数の考えを用いて説明できること。 (3)原子間の共有結合について波動関数の考えを用いて説明できること。 (4)様々な化学結合について，それらの概要を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:正畠宏祐　著「化学の基礎　－化学結合の理解」（化学同人） 指定図書:長倉三郎 他編「岩波 理化学辞典 第5版」（岩波書店） 参考書:オドワイヤー 他著、鳥居泰男 他訳「入門化学結合」（培風館）: ウインター著、西本吉助訳「フレッシュマンのための化学結合論」（化学同人）（教科書と参考書はほぼ同じ内容を扱っていますが，説明の順序や方法が異なります。参考書は図書館にありますので，教科書を読んでもしっくりこないという人は，これらを読んでみて下さい。）
成績評価	期末筆記試験（80％） 波としての電子を扱う見方の基礎，原子の電子構造と周期表の概要，共有結合の構造と電子の状態，様々な化学結合の概要への理解を問う。 宿題（20％）毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	天然物化学基礎
担当教員	灘本　知憲　・　佐野　光枝
授業概要	化学と人間生活の関わり、特に食での関わりを考える上で必要な、化学の基礎知識を扱う。
到達目標	これまで十分に化学を学んでこなかった人も念頭に置いて、専門領域での生物・化学的発展と実践に必要な最低限の基礎化学を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:北原ら著「食を中心とした化学」（東京教学社）
成績評価	小テスト20％，期末試験80％。予め配布する「講義のねらい」に記載された分野、項目の理解度を見る。

科目名	動物資源管理学
担当教員	岡野　寛治　・　杉浦　省三
授業概要	人間の生活に大きな役割を果たす動物資源の管理法を講義する。前半部分は畜産学の基本的原理と環境調和型農業生産における家畜の役割について教授する。後半部分は水産学、特に水産増養殖の理論と実際を講義する。
到達目標	畜産と水産養殖の持続可能な管理技術について理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義の中でプリントを配布する。指定図書：佐々木義之編『畜産学概論』。 参考書：隆島史夫著『水族育成論：増養殖の基礎と応用』（成山堂） 隆島史夫編『次世代の水産バイオテクノロジー』（成山堂）
成績評価	レポート（20％）、小試験（30％）、期末試験（50％）

科目名	動物生態学
担当教員	沢田　裕一
授業概要	種個体群を中心に他の生物もその種との関連において扱う個体群生態学と、生物共同体を対象としてその構造と機能を分析する群集生態学の両面から、複雑で多様性に富む動物集団の生存様式の実像に迫る。特に動物の個体数変動や安定化のプロセスを中心に、それらを支配する論理とメカニズムを解説するとともに、種間関係からの群集形成のプロセスや、平衡と非平衡の群集理論について最近の仮説や論争を含めて紹介する。
到達目標	(1)個体群、内的自然増加率、環境収容力、種内競争、密度依存性など個体群生態学の基礎概念を相互に関連づけて説明できること。(2)競争排除とニッチ分化を軸にした群集理論と、捕食や攪乱を介した種の共存を重視する非平衡学説について、両者を対比して説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：日本生態学会編「生態学入門」（東京化学同人）、Begon他著（堀監訳）「生態学」（京大出版会） 参考書：久野英二編著「昆虫個体群生態学の展開」（京大出版会）、宮下・野田著「群集生態学」（東大出版会）
成績評価	レポート評価：50％、期末筆記試験：50％

科目名	都市・地域計画
担当教員	水原　渉
授業概要	本講義では、個々の建築物を主要な対象とはせず（これは「建築計画」で触れる）、それらを集合として、つまり地域（用途地域など）や地区レベル（地区計画など）で捉え、更には都市の骨格となる施設（公共施設、道路、緑地など）など都市の空間形成に重要な課題をもつものを対象とし、更に市街地と空地（オープンスペース）の関係、市街地の形状、都市間の関係などを環境共生的形成の視点、外国の例も含めて扱っていく。
到達目標	できあがった都市・農村の背景の理解。都市計画制度の基本的理解。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント、「都市計画教科書」（都市計画教育研究会[編]、彰国社） 参考書：授業で、その都度、提示する。
成績評価	試験の成績（70%）およびレポート（30%）によって評価する。5回を超える欠席の場合、受験資格を失う。

科目名	土壌環境化学
担当教員	須戸　幹
授業概要	地圏表層を構成する土壌は空気、水とともに重要な環境要素であり、地球上あるいは地域の物質循環に密接に関わる。本講義では、わが国の土壌の概要とその環境機能を紹介するとともに、これらの機能の発現に関わる土の基本的な性質を示す。さらに、土壌と地域環境および地球環境問題の現状と課題についても言及する。
到達目標	土の基本的性質，環境中で果たしている役割について，科学的な知見を得る
テキスト 指定図書 参考書	参考書:久馬一剛「最新土壌学」(朝倉書店)，高井康雄他「土壌通論」(朝倉書店)，松井健他「環境土壌学」(朝倉書店)
成績評価	レポート40%、試験60%の割合で評価する

科目名	土壌環境情報学
担当教員	中村　公人※
授業概要	我々の環境は建築構造物や土木構造物に囲まれている。それらはいずれも土(あるいは地盤)に支えられ、また土そのものが構成要素となっている。これらの構造物が環境に悪影響を及ぼさずに建設・維持・運営するためには、土(あるいは地盤)の物理的・力学的性質を把握することが鍵となる。土は組成・構造が複雑であり、さらに場所によってその性質が異なる。このため、数理的・力学的知識のみならず実験的・経験的知識の集積が不可欠である。本講義では土の基本的性質、透水性、力が土に加わるとその内部にどのように伝わり変形していくか等を理解し、現場への適用を学ぶ。
到達目標	土を材料とした構造物、基盤としての土を扱う上で必要となる、土壌の力学的性質、特に土壌内部の応力分布、圧密、せん断、土圧について説明、計算できること。
テキスト 指定図書 参考書	適宜、プリントを配布する。 参考書:河上房義「土質力学」(森北出版)、「土質試験　基本と手引き」(社団法人　地盤工学会) 関数電卓(少なくとも、三角関数や対数計算ができるもの)を持参すること。
成績評価	レポート40%、期末筆記試験60%を原則とする。

科目名	土壌環境物理学
担当教員	岩間　憲治
授業概要	地圏表層を構成する土壌は空気、水とともに重要な環境要素であり、地球上あるいは地域の物質循環に密接に関わる。本講義では、わが国の土壌の概要とその環境機能を紹介するとともに、これらの機能の発現に関わる土の基本的な性質を示す。さらに、土壌と地域環境および地球環境問題の現状と課題についても言及する。
到達目標	土壌の物理的な性質を表現するための専門用語を理解する。土壌物理性を測定する技術を理解する。土壌が自然界の水分・エネルギー循環にどのように影響するかを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:土壌環境物理学(宮崎毅、長谷川周一、粕淵辰昭著:朝倉書店)
成績評価	レポート40%、期末筆記試験60%を原則とする。

科目名	内部空間論
担当教員	高柳　英明
授業概要	建築をデザインする際は、内部と外部を隔てて考えるものではなく、相互に影響を及ぼしあいながらひとつの造形として結実している。また特に集客施設や不特定多数の利用する内部空間においては、用途やシーンに応じた空間感の配慮が必要である。本授業では内部空間の成り立ちや物理的条件の差異による空間認知特性や空間相互の連続性等について講義する。
到達目標	空間を秩序立てる内部空間の成り立ちとそのしくみについて専門的知見を得ること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:『建築設計ノート-集合住宅編(2008年1月出版、彰国社)』の事例編を参考資料とする
成績評価	即日演習課題の合計点を100%として評点とする。

科目名	日本建築史
担当教員	冨島　義幸
授業概要	日本の古代から近世(江戸時代)の住宅建築・神社建築・寺院建築について、様式・技法・空間構成などの特徴と変遷をとらえ、あわせてその社会的な背景、建築をとりまく周辺の環境造形などについても考えていく。
到達目標	日本建築の歴史的な変遷について、古代から近世までを概観する。各時代の建築の意匠・技法などの特徴を理解し、それらの判別ができるようになることをめざす。また、各時代の建築の空間構成やその特徴について、社会的背景、地域性や建築技術などとあわせて理解することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:日本建築学会編『日本建築史図集(新訂第二版)』(彰国社) 参考書:授業中に紹介する
成績評価	期末試験の成績(50%)と中間におこなう小論文課題(50%)の評価を総合する

科目名	農業経営学
担当教員	増田　佳昭
授業概要	農業経営は一般の企業経営と異なって土地を主たる生産手段として用い，動植物の生命活動を生産の対象とする。そして多くの場合家族経営である．担い手不足による耕作放棄地の発生や株式会社の農業進出など，農業経営のあり方をめぐる問題が噴出しているが，農業経営の特質を踏まえた理解と対応が求められる．講義では，株式会社に限られない多様な経営類型の中で農業経営を位置づけるとともに，新たな農業経営の展開について講述する．
到達目標	(1)農業経営の特質について説明できる。(2)農業経営の類型について説明できる。 (3)農業経営の費用と収益について説明できる。(4)農業経営をとりまく環境について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:五味編修『農業経営入門』、実教出版 高田・古塚『現代農業簿記会計』、農林統計出版
成績評価	小レポート40%、課題レポート20%、定期試験40%。

科目名	農業経済学
担当教員	増田　佳昭
授業概要	食料，農業，農村問題に関する入門的講義であり，経済学的側面からのアプローチを中心に，理論，歴史，現状について講述する．各国の農業はWTOに象徴される国際的枠組みの中で「グローバル化」の渦中にあるが，農業経済は，家族経営，農地，自然環境などの非市場的特質をもつ要素を持つため，それらを配慮したアプローチが必要となる．農業経済に対する多面的なアプローチを紹介しながら，問題を考えていく．
到達目標	(1)農業問題と農業政策の歴史について理解する。(2)わが国における食料の需要と供給、貿易について理解する。(3)農地問題について概要を理解する。(4)農業の担い手の状況と問題について理解する。(5)農産物市場について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:暉峻衆三『日本の農業150年』、有斐閣ブックス　田代洋一『新版　農業問題入門』(大月書店)　速水佑次郎・神門善久『農業経済論　新版』(岩波書店)
成績評価	小レポート50%、定期試験50%。

科目名	農業統計利用論
担当教員	増田　清敬
授業概要	農業統計データの利用・加工方法について、基礎的な統計解析手法を通じて学習する。
到達目標	(1)農業統計の種類・利用方法を理解すること。 (2)基礎的な統計解析手法を使った農業統計のデータ処理ができること。
テキスト 指定図書 参考書	毎回プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。
成績評価	中間試験50%、定期試験50%。

科目名	農薬環境学
担当教員	須戸　幹
授業概要	農薬の使用は農産物の増収，労働力の軽減などに多大な貢献を行っているが，その一方で環境汚染物質のひとつとなり，社会的にも強い関心がもたれている。農薬が関わる環境の諸問題を正しく議論するための基礎知識として，代表的な農薬の化学構造とその作用機構を概説するとともに，安全性の評価方法，環境中における農薬の動態を解説する。あわせて，農薬とダイオキシン類，内分泌かく乱物質との関連ついても述べる。
到達目標	以下の項目を説明できること。 1)代表的な殺虫剤，殺菌剤，除草剤の作用機構　2)農薬や化学物質の毒性と安全性を評価する方法　3)農薬の環境中での動態とその運命
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:適宜紹介 参考書:内山正昭他「農薬学概論」(朝倉書店)，山下恭平他「農薬の科学」(文永堂出版)
成績評価	期末試験70%，課題レポート30%

科目名	廃棄物管理論
担当教員	金谷　健
授業概要	この授業では、廃棄物管理についての基礎知識、具体的には、廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の法律、廃棄物のリサイクル、廃棄物の処理、処理施設への住民意識、処理コストなどについて講義する。次に受講生は、各自が興味あるテーマについて調査し発表・レポートする(グループまたは個人)。このように、講義を聴くことと、自分で調べて発表・質疑すること、この両面を行うことで廃棄物管理についての理解をより深めることを、ねらいとしている。
到達目標	①廃棄物を適正に管理するために必要な基礎的事項を、理解すること。 ②廃棄物管理において各自が興味あるテーマについて、調査・発表・質疑をできること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:松藤敏彦　著「ごみ問題の総合的理解のために」(技報堂出版) 指定図書:左巻健男・金谷健　編著「ごみ問題100の知識」(東京書籍)
成績評価	中間ふりかえり50%、発表・レポート50%。なお特段の事情(病気等)がない限り、5回以上欠席した者は、評価対象としない。

科目名	比較宗教論　（※平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	本講義は、統一性と多様性という視点から世界宗教について理解を深めることを目的とする。前半は、世界宗教の起源と発展の過程、基本的な考え方について概観する。後半は、東南アジアにおける宗教、特にイスラームと国家、社会、文化、異宗教の関係について検討する。なお、受講生の理解を深めるため適宜、各テーマに関連する新聞記事や映像資料を使用する。
到達目標	①世界宗教に関する基本的な知識を獲得する。 ②世界宗教をめぐる多様な現象を理解する。 ③①と②を通じて複眼的、相対的な視点から宗教を理解する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:なし。 参考書:講義中に適宜紹介。
成績評価	レポートで判断する。

科目名	比較文化論（環境政策・計画）
担当教員	楊　平※
授業概要	日本の琵琶湖と中国の太湖周辺に住む人々の生活文化に焦点をあてて環境と人間との関わりを考えていく。
到達目標	具体的な事例を紹介しながら、環境に対する人間の働きかけの基底にある文化の役割について理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:鳥越皓之著『環境社会学―生活者の立場から考える』(東京大学出版社) 参考書:嘉田由紀子編『水辺ぐらしの環境学―琵琶湖と世界の湖から』昭和堂
成績評価	5回程度のレポートを総合して評価する。

科目名	琵琶湖環境学
担当教員	三田村　緒佐武
授業概要	琵琶湖環境の保全・復元のあり方を志向するために、琵琶湖淀川水系を科学的に学究する。とくに、本琵琶湖環境学では、琵琶湖生態系に顕在する環境問題を受講者とともに陸水学的に討論する。
到達目標	(1)総合自然科学としての湖沼学を理解すること。 (2)水環境問題を解決するための基礎思考が可能になること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西條八束・三田村緒佐武著「新編湖沼調査法」（講談社） 参考書：岩熊敏夫著「湖を読む」（岩波書店）、西條八束著「小宇宙としての湖」（大月書店）
成績評価	定期試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	ファシリテーション技法
担当教員	柴田　裕希
授業概要	環境政策・計画に関する会議の場では、参加者が互いの立場や価値観の違いを理解し、利害を調整しながら合意に向かうことが求められる。この時、議論に介入し、参加者の相互理解や合意形成を支援するファシリテーターには、会議の場の設計や議論の基本的なルール、参加者の気づきの促進、議論の流れの整理といった知識や技術が要求される。本講義では、こうしたファシリテーション技法を基礎から学び、行政における計画策定の会議だけでなく、企業における戦略立案会議や研修、学校教育、各種プロジェクトの組織活性化などにおいて応用できる幅広い技術を身につける。
到達目標	合意形成を目的とした会議の場を設計し、議論のルールを設定できる力を養う。また、参加型会議のプログラムを作成し、これにのっとって会議を運営するとともに、参加者の相互理解や合意を促すための技法を用いる力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回の講義でプリント配布. 指定図書：中野民夫著「ファシリテーション革命」（岩波書店），浅海義治他著「参加のデザイン道具箱PART Ⅰ～Ⅲ」（世田谷まちづくりセンター）
成績評価	課題の取組40％、小テスト40％、レポート20％（ディベート課題の採点項目：情報収集やプレゼン準備の状況、ディベートへの参加状況とその内容. ファシリテーション課題の採点項目：プログラムの企画力と準備の状況、ワークショップへの参加状況、ファシリテーターとしての運営力）※グループ作業を行うため遅刻は厳禁（遅刻は減点の対象）

科目名	ファシリテーション技法演習
担当教員	柴田　裕希
授業概要	環境問題に関する会議の場では、異なる利害や価値観を抱えた多様な主体が議論を通じて合意を図る。ファシリテーターがこのような場で利害調整や相互理解を支援し、ファシリテーション技能を発揮するには、議論に関する基本的な能力が欠かせない。また、習得したファシリテーションの知識を、実践的な訓練を通じて素養として身につけていることが求められる。本演習では、ディベートと実社会を想定した複数のワークショップを通じ、ファシリテーションの技法を体得する。
到達目標	議論に関する基礎的能力として、情報収集と整理、論理的思考と批判的考察、根拠に基づくプレゼンテーションを行うことができる力を養う。また、様々な実社会の場面において、ファシリテーション技法を選択的に発揮することができる力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：中野民夫著「ファシリテーション革命」（岩波書店） 浅海義治他著「参加のデザイン道具箱PART Ⅰ～Ⅲ」（世田谷まちづくりセンター）
成績評価	課題の取組40％、小テスト40％、レポート20％（ディベート課題の採点項目：情報収集やプレゼン準備の状況、ディベートへの参加状況とその内容. ファシリテーション課題の採点項目：プログラムの企画力と準備の状況、ワークショップへの参加状況、ファシリテーターとしての運営力） ※グループ作業を行うため遅刻は厳禁（遅刻は減点の対象）

科目名	物理学Ⅱ
担当教員	村岡　良和※
授業概要	電気力は，重力と並んで自然界を支配している基本的な力であり，テレビ，携帯電話，パソコンなど現代人の生活に欠かせない機器はその原理を応用して作られている。しかし，電気力が重力とは異なり，本質的にはミクロの世界で作用する力であるため，その力を体感することができず，普段身の回りで起こっている現象との関連を直感的には理解しにくくなっている。 このような電気力の働きとその意義を理解するために，電気や磁気の様々な現象を通して現代物理学の考え方を学び，自然現象の奥に潜む法則性を理解する。
到達目標	(1) 場の概念を理解し，電場と電位（差）について説明できる。 (2) 電流とそれによる仕事について説明できる。 (3) 電流と磁場の相互関係について説明できる。 (4) 電磁誘導について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：原　康夫著「物理学入門」（学術図書出版社） 参考書：原　康夫著「第3版基礎物理学」（学術図書出版社）
成績評価	期末試験（総合的な筆記試験）の結果（60%）， 小テスト＋課題レポートの成績（40%） ただし，講義回数の1/3以上欠席した場合，評価の対象にならない。

科目名	文化財・保存修景論Ａ
担当教員	濱崎　一志　・　井口　貢※
授業概要	歴史的環境を構成する地域文化財の保存・修景・活用について論ずる。前半では濱崎が、歴史的環境を構成する地域文化財、町なみや集落、遺構、遺跡などを調査し、その現代的意義を再評価し、現在の生活空間に再生させ活用するために、その保存や修景の方法と、保存・修景することの意義について、海外や国内の具体的な例をあげながら論ずる。後半では井口が、文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興（まちづくりや観光振興を中心に）の実態や望ましい在り方について考察していく。
到達目標	地域文化財の調査、再評価、保存・活用を通してまちづくりのあり方について考える能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配付 参考書：井口貢『観光文化の振興と地域社会』ミネルヴァ書房
成績評価	期末レポート　80％ レスポンスペーパー20％

科目名	分子生物学
担当教員	入江　俊一
授業概要	DNA、RNA、タンパクなどの生体高分子の役割、実験講義などに必要な遺伝子工学的手法、物質輸送やシグナル伝達などの細胞生化学の基礎について解説する。
到達目標	複製、転写、翻訳についての詳細を学ぶ。シグナル伝達について学び、遺伝子レベルの環境応答について理解する。細胞骨格、細胞周期などの細胞細胞生理学については範囲に含めない。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリントを配布するが、教科書の購入を勧める。 教科書：Essential 細胞生物学　南江堂
成績評価	期末試験50％、宿題25％、小試験25％

科目名	法学概論（国際法を含む）
担当教員	初谷　良彦※
授業概要	本講で学ぶのは、主として「憲法」「民法」「国際法」である。憲法の底流となっている思想家たちの魂が時代を超えて私たちを打ってくる内容をよく学ぶことによって憲法に対する理解を深めるとともに、憲法の視点から民法を考察していく。国際法は、これからの日本が、国際社会とどのように付き合っていくべきなのか、ヒントを与えてくれるだろう。不世出の大思想家坂本竜馬は国際法に興味を持っていたというエピソードがある。竜馬は国際法をもとに何を考えていたのだろうか。
到達目標	(1)裁判例や学説に対して理解を深めること。 (2)インターネットや電子辞書をみて勉強するのはほどほどにした方がよい。思考能力を阻害する。大学は学ぶところである。図書館等で書物を繙（ひもと）き、予習、復習をきちんと行い、目標を達成してして欲しい。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中島史雄他『新法学レッスン』（成文堂） 指定図書：島田征夫『国際法』（弘文堂） 参考書：随時紹介する。
成績評価	小試験40％（7回）、中間試験20％（1回）、期末試験40％（1回）

科目名	まちづくり実践論
担当教員	佐々木　和之※
授業概要	建築分野、計画分野など様々な「まちづくり」実践の担い手の中でも、特にコーディネーターの役割に留意しつつ、法律、ワークショップなどの手法、そして各主体との関係性の持ち方の3点を学ぶ。 前半は“まち”における今日の課題がなぜ生じてきたかの背景を、施行された法律とその結果を通して学ぶ。後半は、課題解決のために現在用いられている手法を踏まえた上で、どのような関係性を各主体と持たなくてはならないかを考えていく。最後に、事例を紹介することで、実際の法律・手法・関係性を再確認する。
到達目標	地域に根ざした「まちづくり」の実践について、各自が方法と各主体との関係性について一通りの認識を得ること。 各自が「まちづくり」についての視座を持つこと。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし 参考書：講義において適宜提示または配布する
成績評価	各回講義時のミニレポート評価60％、宿題レポート10％、期末試験30％

科目名	水環境管理学
担当教員	後藤　直成　・　伴　修平
授業概要	水環境の管理について、水圏生物の保全生態学的視点から、その考え方と方法論について学ぶ。水圏生物の保全生態学に関する図書（下の授業計画は、「魚から見た水環境」と「淡水生物の保全生態学」を用いた場合の例）を選定し、それの各章を数名のグループ毎に割り当てる。各グループは割り当てられた箇所について充分な下調べを行い、発表の準備を行う。発表を元に、それぞれのテーマについて全員で議論し、保全生態学的視点を身につけると共に、プレゼンテーションの手法と議論の進め方について学ぶ。
到達目標	保全生態学的視点に立った水域管理の考え方とその方法論を理解する。効果的なプレゼンテーション技法、および議論のすすめ方を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：森誠一監修・編集「魚から見た水環境」（信山社サイテック）、森誠一編著「淡水生物の保全生態学」（信山社サイテック）
成績評価	毎回の発表に対して、発表者以外の全員があらかじめ定められた様式の評価基準に従って評点を付ける。発表者に対する質問の回数と質についても評点を加え、それらの合計が各自の成績となる。

科目名	水環境政策論
担当教員	井手　慎司
授業概要	琵琶湖や日本における水環境問題の現状や課題、歴史、保全に取り組んできた行政施策と住民運動の変遷を中心に解説しながら、琵琶湖および国内、世界的な水環境問題の今後の解決にむけた方途について考えていく。毎回、質問標を配付・回収し、講義に関する質問や疑問について翌週に答えていく予定である。
到達目標	(1)琵琶湖や日本における水環境問題の現状や課題、歴史、保全に取り組んできた行政施策と住民運動の変遷を説明できること。 (2)琵琶湖および国内、世界的な水環境問題の今後の解決にむけた方途について持論を構築できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回プリントを配付 参考書:授業中に適宜紹介する。
成績評価	課題・小テスト50%。毎回小テストを行う。課題は不定期に出題。小テスト・課題ともに各3点満点とする。 期末筆記試験50%。毎回授業の最初に示す講義のポイントを理解できていること。 ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	水資源保全学
担当教員	須戸　幹
授業概要	人間生活の場および農林地における水資源の管理・保全に関する諸問題の解決方法について講義を行う。特に，農地や農村地域から流出する排水について，地域の持続的水環境の創出を水資源保全の立場から考察ができるよう取り組む。
到達目標	環境保全を水資源保全の観点から考察できる基礎力を養成する。
テキスト 指定図書 参考書	講義時にプリントを配布。 指定図書および参考書:最初の講義時に適宜、紹介。
成績評価	レポート40%，定期試験60%とする。

科目名	水資源利用学
担当教員	小谷　廣通　・　皆川　明子
授業概要	有限な淡水資源の最大使用量を占める農業用水の使われ方について講義を行う。そして、環境保全と調和した水資源の効率的使用法を、水資源利用の立場から考察ができるよう取り組む。
到達目標	環境保全と調和した水資源利用方法に対して考察できる基礎力を養成する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講義時にプリントを配布。 指定図書および参考書:最初の講義時に適宜、紹介。
成績評価	レポート(50%)および小試験と期末試験(50%)とで評価する。

科目名	木匠塾
担当教員	布野　修司 ・ 松岡　拓公雄 ・ 陶器　浩一 ・ 高田　豊文
授業概要	木材等の生物材料あるいは土、石などの自然素材を主として用い、構築物（家具、倉庫、バス停、倉庫、五重塔、茶室、住宅・・・）を自らの手によって製作することによって、素材の特性、利用方法、加工技術、木組み、ディテール（収まり）、構造力学などを総合的に学ぶ。
到達目標	木造設計の基礎を身につけるとともに、木材加工のための工具を巧みに使用できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：なし 参考書：授業時に適宜指示する
成績評価	レポート20%　設計30%　制作物50%

科目名	ランドスケープデザイン
担当教員	村上　修一
授業概要	ランドスケープ・デザインは、生活空間を豊かにするために人間が生み出した創造行為である。この視点から、主に近代以降の代表事例をとりあげ、都市環境に対するランドスケープの意義を様々な側面より考えていく。単に知識を学ぶだけでなく、未来社会にふさわしい新たなデザインのあり方を受講生が会得する機会としたい。
到達目標	講義で学んだ手法を自身の空間デザインに応用できること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：「ランドスケープデザイン」（佐々木葉二、曽和治好、村上修一、久保田正一著　昭和堂）、「環境デザイン学-ランドスケープの保全と創造」（森本幸裕，白幡洋三郎編　朝倉書店）、「テキスト　ランドスケープデザインの歴史」（武田史朗、山崎亮、長濱伸貴編　学芸出版社）
成績評価	提出するワークシートの合計ポイント　100%

科目名	陸域環境影響調査指針
担当教員	野間　直彦
授業概要	陸域において環境影響の調査を行う上で指針となる考え方を講義する。生物多様性の理解とその現状、生息地の保全と里山の自然、外来種問題など、自然環境を理解する上で欠かせない視点を養う。開発行為が自然・社会環境にどのような影響を与えるかを予備調査し予測・評価することを義務づけた環境影響評価法の、1997年の成立、2010年からの改正をふまえ、実際に行われたアセスメントの実例や国内外の状況、その限界についても紹介する。
到達目標	フィールドに出た時にその自然環境の概要を読み取り、調査方針を考えることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義中に資料を配布する。 参考書：日本自然保護協会編『生態学からみた野生生物の保護と法律』講談社、2003．田端英雄編『里山の自然』保育社、1997．種生物学会編『保全と復元の生物学』、文一総合出版、2002．ほかに授業の中で適宜紹介する。
成績評価	期末試験、日常の小レポートなどの成績により評価する。

科目名	陸域環境学・同実験
担当教員	野間　直彦　・　籠谷　泰行　・　浜端　悦治　・　西田　隆義
授業概要	森林環境下の生物と，それらの生活，相互の関係を研究するのに必要な考え方・手法・技術の基礎を習得する．形態学，系統・分類学，生態学，行動生態学的研究方法を講義する．実験室，実験圃場，自然条件下での生物を対象に，実験・野外調査とデータ解析・まとめの方法について実習を行う．
到達目標	森林とそこにすむ生物について理解するための野外調査・実験を始める能力を身につけること．
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業の中で紹介する．
成績評価	レポートの成績100％．各課題ごとに科学的報告を作成できること．出席は必須．

科目名	陸域環境機能論
担当教員	肥田　嘉文
授業概要	陸域における人と環境との関わりについて，自然の脅威に対して人が生存環境を整えるべく働きかけてきた歴史，および現代の生活が環境あるいは人の健康に与えるようになった影響の面から，人の疾病の変遷を概観しながら学ぶ。その中で，影響の原因をつきとめるための疫学的手法，およびリスク管理に関する考え方の基礎についても取り扱う。
到達目標	(1)感染症の時代から生活習慣病の時代への疾病の変遷を把握できる。(2)感染症，生活習慣病の主要な生化学的背景が理解できる。(3)疫学の基本事項を習得し，「科学的事実」の成り立ちと信頼性の評価を行うことができる。(4)ハザードとリスクを区別できる。リスク管理の考え方が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配付 参考書:「キャンベル生物学」丸善(2007)，「ヴォート基礎生化学 第2版」東京化学同人(2007)，「栄養疫学」南工堂(2001)
成績評価	毎回講義の終わりに提出する「講義内容に関する通信票」で授業への参加態度を評価する。成績評価は，これと定期試験の結果をそれぞれおよそ40%，60%として総合して行う(レポートを課した場合は，これを前者に含めて評価する)。

科目名	陸域生態系保全修復論
担当教員	浜端　悦治
授業概要	陸域生態系を保全するために必要となる、基礎生態学(陸域の植物群落(湿地、沿岸帯植物群落を含む)の分布、構造、機能等)について講義するとともに、その主要な構成要素である森林や水生植物群落の保全・修復、管理方法等について議論し、近年の景観生態学、保全生物学等の成果を交えながら望ましい陸域生態系のあり方を考える。
到達目標	未定
テキスト 指定図書 参考書	未定
成績評価	未定

科目名	陸域物質循環論
担当教員	籠谷　泰行
授業概要	森林に代表される陸域の各種生態系の成り立ち、環境に果たしている役割について、生態系の物質動態・循環の視点から、さまざまな研究成果をふまえて解説する。
到達目標	陸上生態系の成り立ち、そこでの物質動態・循環、環境との相互作用について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	授業の中で紹介する。
成績評価	レポート30％、期末試験70％

科目名	陸水生態学・実験
担当教員	三田村　緒佐武　・　伴　修平　・　浦部　美佐子
授業概要	調査船「はっさか」を用い、琵琶湖の物理・化学的環境要因を測定し、動・植物プランクトンおよび底生生物の採集を行う。環境要因に関しては、水温、pH、水中照度、湖水の化学組成、底質の性状などを調べ、湖沼の物理化学的構造を学ぶ。生物試料は分類群ごとに同定・計数して現存量を算出し、水平・鉛直分布を描く。得られたデータを解析し。生物の分布と環境要因との関係について考察する。また、室内実験で、植物プランクトンの基礎生産速度や動物プランクトンの摂食速度を測定し、エネルギー動態解析の基礎を学ぶ。
到達目標	(1)湖沼観測の観測技術の習得と安全心得の理解。 (2)琵琶湖生態系の物理化学的構造を解析する手法を習得する。 (3)琵琶湖生態系の生物群集構造を解析する手法を習得する。 (4)琵琶湖環境の修復・復元を志向する態度を育成する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業時間中に資料を配布する
成績評価	出席が三分の二以上の者に対して試験ならびにレポートを総合して評価する

科目名	流域環境管理学
担当教員	皆川　明子
授業概要	流域および流域圏という概念を理解する。その上で、流域に起こる様々な問題、特に農地・農業に関係する問題を中心に、その現状とメカニズムを解説し、防止策や修復対策について講義を行う。そして、持続可能な地域環境創出に向けた考察ができるよう取り組む。
到達目標	地域の諸課題を流域・流域圏スケールで捉えられるようになる。その上で、流域で起こる問題を自分の生活と関連付けて考えられるようになるとともに、自分なりに改善策を考察できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリント配布 参考書：適宜紹介
成績評価	受講状態20%、レポート30%、期末試験50%

３　工学部科目履修の手引

1.　工学部の学習・教育目標について

科学技術の進歩は、人類に豊かな生活とグローバルな物の流通と人の交流をもたらしたが、その反面CO_2ガスの放出による地球温暖化現象など地球環境の破壊が大きな問題となっています。

工学部では、材料科学科、機械システム工学科、電子システム工学科の３学科において、「ものづくり」を通じて、地球環境を破壊しないで自然と共生できるより豊かな社会、より暮らしやすい社会の構築に向けて、我が国および地域の産業のリーダーになれる技術者、また世界的な視野をもって社会に貢献できる各専門分野の技術者の育成を目指しています。そのための学習・教育目標として次の事項を掲げています。

１）人間社会の深い理解と豊かな人間性を身につけるとともに、科学技術が自然環境に与える影響を理解する

２）工学の幅広い基礎知識の習得と、それを基礎として工業技術の高度化､先端化、複合化に対応できる専門知識と先端技術を身につけ、課題を解決する応用力を養う

３）実験、実習、演習などの実践教育を通して、明確な目的意識を持ち、自主的な学習姿勢と独創的な思考力を習得する

４）世界的立場から工学を眺めることができる広い視野と、環境問題に配慮した新しい技術を創出できる豊かな創造力を養う

５）日本語による論理的な記述、表現の力を身につけるとともに、学際的な交流ができ、国際的に活躍できるコミュニケーション能力を身につける

６）技術者として目的意識を持ち、自主的、計画的に仕事を進める能力を身につける

これらの学習・教育目標を達成するために、各学科では、それぞれ学科の学習・教育目標を設定するとともに、各学科のカリキュラムについて、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を目指しています。

2.　科目の履修について

（１）　全学共通科目の履修について

各学科の科目配当表に示すように、主に１年次、２年次に配当されていますので、内容などについては全学共通科目の項目を参照してください。

（２）　専門科目の履修について

各学科の専門科目については、「科目配当表」に各年次の順に科目名を示しています。科目名の後に単位数、配当期を前：前期、後：後期、通：通年の記号で示しています。低学年では、講義や実験は学部共通基礎科目が中心になり、２年次、３年次となると各学科の基礎科目が配当されています。必修の科目は当然履修しなければなりませんが、選択の専門科目もなるべく広い範囲にわたって受講することが望まれます。

他学部専門科目および規定単位数以外の全学共通科目の履修は、あわせて６単位を限度として、専門科目の卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修は科目を担当する教員の指示を受けてください。その他履修に関する詳細については各学科の指示を受けてください。

３年次、４年次では、学科専門科目が配当されています。これらの中で卒業研究以外は選択科目ですが、広い視野を持つために様々な分野の科目を広範囲で積極的に受講することを勧めます。

また、最終学年では、卒業研究が必修で、各研究室に配属されて研究の進め方を学び、最先端の研究の一端を担うことになります。

なお教職免許取得など各種資格取得を希望する場合は、「資格取得等の手引」を参照してください。

以上の科目について、各学科における卒業における必要な必修科目、単位数など、卒業要件に注意して履修を検討してください。

3. 工学部卒業要件

平成 23 年度入学生適用の卒業要件です。平成 22 年度以前入学生は、入学年次の卒業要件が適用されますので、入学年次の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

（１） **全学共通科目**（計３０単位以上）		必修１８単位、選択必修１２単位以上
①全学共通基礎科目		１８単位以上
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）	８単位(必修)
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ 朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから 4 単位以上（選択必修）	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論	４単位（必修）
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ	２単位(必修)
②人間学	１２単位以上（「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	

（２）**専門科目**	学部共通基礎科目・複数学科共通科目・学科基礎科目 ・学科専門科目	１００単位以上

合計　１３０単位以上

註１：他学部専門科目および全学共通科目あわせて６単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、その科目を担当する教員の指示を受けてください。

註２：卒業要件の詳細については各学科の項を見てください。

註３：修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）１科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足科目の再試験を認める場合があります。

4.　日本技術者教育認定制度（JABEE）の審査について

工学部材料科学科、機械システム工学科、電子システム工学科のカリキュラムは、平成 20 年度より日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受けることを前提として構成された技術者教育プログラムになっています。平成 23 年度には JABEE 認定審査を受ける予定です。各学科の教育プログラムが JABEE プログラムに認定されると、認定されたプログラムを修了した卒業生は技術士第一次試験が免除されます。

JABEE 認定を受ける予定をしているプログラムは次の通りです。

材料科学科　　機械システム工学科　　電子システム工学科

各プログラムの詳細については各学科の履修の手引の項を見てください。

（以下 JABEE ホームページ　http://www.jabee.org/より抜粋）

JABEE とは

日本技術者教育認定機構（JABEE : Japan Accreditation Board for Engineering Education ／ 設立 平成 11 年 11 月 19 日）は、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体です。

日本技術者教育認定制度とは

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定（Professional Accreditation）制度です。

技術者教育認定の目的

JABEE の目的は、「統一的基準に基づいて高等教育機関における技術者教育プログラムの認定を行い、その国際的な同等性を確保するとともに、技術者教育の向上と国際的に通用する技術者の育成を通じて社会と産業の発展に寄与すること」です。

具体的には、以下の項目があります。

(1) 認定審査を実施し、認定されたプログラムを世界に公表する。
(2) 優れた教育方法の導入を促進する。
(3) 認定を通じて技術者教育の評価方法を発展させると共に、評価に関する専門家を育成する。
(4) 教育活動に対する組織の責任と個人の役割を明確にすると共に、教員の教育に対する貢献を評価する。
(5) ワシントン協定に加盟する。

なお、認定を受けたプログラムの修了者は、国家資格である技術士第一次試験を免除されます。要するに、プロ意識を持った多くの優れた技術者の育成に寄与するのが目的とも言えます。平成 17 年 6 月には、技術者教育の質的同等性を国際的に認め合う枠組み―ワシントン協定（Washington Accord）―への加盟が認められ、JABEE 認定に世界公認ラベルが貼られました。

技術者教育の認定とは

技術者教育の認定とは、以下の二つを行い、基準を満たしている技術者教育プログラムを公表することで、そのプログラムの修了者が将来技術業等につくために必要な教育を受けていることを社会（世界）に公表することです。

(1) 教育プログラムで技術者教育の質の保証が確実になされているかどうかの確認、すなわち、「質の保証システム」の監査（Audit）

(2) 保証されている水準が定められた認定基準以上かどうかの審査

ここで、「教育プログラム」とは、カリキュラムのみならず、教育方法、教育設備･環境、教員、評価等を含む全教育システムのことです。

また、「教育の質を保証する」とは、「プログラムに関与する全ての関係者（学生を含む）が、適切な学習目標の設定やその達成に関して何をなすべきかを認識し、確実に実施し、学習目標を達成した学生のみを卒業させ、さらに学習目標とその達成度のレベルを継続的に向上させていること」です。

ここで、「適切な学習目標」とは、学問的水準、社会の期待、学生の希望、雇用者の要求、専門職の要求等種々の要求(水準も含む)を考慮して教育側で決定すべきものです。

5. 自己学習について

本学では、15～45 時間の授業をもって 1 単位としています。例えば、1 時限の授業が 15 回（1 学期は 15 週の授業で構成）で 2 単位の講義科目は、1 時限（90 分）を 2 時間相当としている（ただし、JABEE では授業時間を実時間で計算しますので、次ページ以降の表中の授業科目別授業時間は実時間です）ため、授業時間が 30 時間であり、15 時間の授業で 1 単位です。また、同様の授業で 1 単位の演習科目は、30 時間の授業で 1 単位です。しかし、大学設置基準には、1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすると定められています。従って、大学での授業だけでは不足しており、学生はその不足分（1 単位あたり 45 時間と実際の授業時間との差）の自己学習（予習・復習、等）を各自行う必要があります。例えば、上記の講義科目に必要な自己学習時間は 60 時間であり、演習科目に必要な自己学習時間は 15 時間です。

以上のことを考慮して、工学部では学生の自己学習時間確保のための取り組みを組織的に行っており、その一環として、主要科目では、宿題やレポート、業中に行う演習や小テストの予習，等を課すことにしています。それらの具体的な内容は、各授業科目のシラバスに記載されていますので、そちらを参照して下さい。

なお、シラバスに記載されている指示は最低限ですので、実際にはそれ以上の自己学習が必要です。また、シラバスに自己学習に関する具体的な指示がない授業科目（専門科目だけでなく全学共通科目も含みます）についても、学生の自己学習を前提とした講義が行われます。いずれにしろ、大学設置基準に定められた必要学修時間と授業時間との差の学修時間は、みなさんが各自の自己学習により補うことが必要であることに注意して下さい。

材料科学科　学習・教育目標

A　人間と社会・自然の関係についての理解

A－1　「人間」という存在を深く見つめ，人間と環境・社会の関係について多様な側面から深く理解することにより，技術のあり方を考えて人類の幸福へ向けた技術発展を担える能力を養う。

A－2　人間の活動が人間・社会・自然に及ぼす影響，および，技術者が社会に対して負っている責任について理解する能力を養う。

B　英語や他の外国語で意思疎通を行える基礎的能力と，与えられた課題について英語により情報の発信をできるコミュニケーション基礎能力を養う。

C　工学の基礎となる数学，自然科学，情報科学および情報処理についての理解と活用力を養う。

D　工学の幅広い分野について理解した上で，材料科学の基礎および各種材料の構造・機能・製造プロセスについて理解し応用できる能力を養う。

D－1　工学とその基礎となる学問の幅広い分野について理解し，技術について俯瞰的に見ることが出来る能力を養う。

D－2　材料の構造や機能，これらの解析方法，および材料製造プロセスについて，金属，セラミックス，有機材料，高分子材料に共通する基本的な知識を身につけ，材料開発，プロセス開発に応用する能力を養う。

D－3　様々な材料の反応性，製造プロセス，機能性について，その構造との関連を理解し，材料設計およびプロセス設計へと活用できる能力を養う。

E　自然科学および技術に関連する現象を定量的に扱い，データを解析できる能力を養う。

F　実験を計画的に遂行し，得られたデータをもとに現象について考察し，論理的に記述できる能力を養う。

G　卒業研究などを通じて，自主的，継続的に学習できる能力を養う。

H　与えられた制約の下で，自ら計画を立てて仕事を進め，まとめあげる能力を養う。

I　自らの伝えたい内容を文章および口頭で，論理的で正確かつ判り易く伝えるコミュニケーション能力を養う。

材料および材料関連分野　JABEE基準1（1）

(a)　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

(b)　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）

(c)　数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

(d)　該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力

d-1　材料の構造・性質に関する基本の理解

d-2　材料のプロセスに関する基本の理解

d-3　材料の機能および設計・利用に関する基本の理解

d-4　実験の計画・実行およびデータ解析の能力

(e)　種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f)　日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(g)　自主的、継続的に学習できる能力

(h)　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

教育目標とJABEE基準1（1）の対応

学習・教育目標 ＼ 基準1(1)の知識・能力		(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)
					d-1	d-2	d-3	d-4				
A	A-1	◎	○									
	A-2	○	◎									
B										◎		
C				◎								
D	D-1			○	○	○	◎		◎			
	D-2			○	◎	○	◎	◎	◎			
	D-3			○	○	○	◎		◎			
E				○				◎	○			
F								◎		○		○
G											◎	
H												◎
I										◎		

材料科学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その1）

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間（時間）							学習・教育目標に対する関与の程度											
							人文科学社会科学語学	数学自然科学情報技術	専門分野																
									材料の構造と性質	材料のプロセス	材料機能設計利用	実験の計画実行解析	その他専門	A1	A2	B	C	D1	D2	D3	E	F	G	H	I
全学共通科目	全学共通基礎科目	英語Ⅰ（留学生は必修でない）	2	必修	1・通年	45	45									◎									
		英語Ⅱ（留学生は必修でない）	2	必修	1・通年	45	45									◎									
		英語Ⅲ（留学生は必修でない）	2	必修	2・通年	45	45									◎									
		英語Ⅳ（留学生は必修でない）	2	必修	2・通年	45	45									◎									
		ドイツ語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45									○									
		ドイツ語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45									○									
		フランス語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45									○									
		フランス語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45									○									
		中国語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45									○									
		中国語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45									○									
		朝鮮語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45									○									
		朝鮮語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45									○									
		初習英語Ⅰ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45									○									
		初習英語Ⅱ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45									○									
		日本語Ⅰ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45									○									
		日本語Ⅱ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45									○									
		日本語Ⅲ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45									○									
		日本語Ⅳ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45									○									
		英語ⅤA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5									○									
		英語ⅤB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5									○									
		英語ⅥA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5									○									
		英語ⅥB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5									○									
		ドイツ語ⅢA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5									○									
		ドイツ語ⅢB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5									○									
		フランス語ⅢA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5									○									
		フランス語ⅢB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5									○									
		情報科学概論	2	必修	1・後期	22.5		22.5									◎								
		情報リテラシー（情報倫理を含む）	2	必修	1・前期	22.5		22.5									◎								
		プログラミング基礎	2	選択	2・前期	22.5		22.5									○								
		健康・体力科学Ⅰ	1	必修	1・後期	22.5	22.5							○											
		健康・体力科学Ⅱ	1	必修	2・前期	22.5	22.5							○											
	人間学	環境マネジメント総論	2	必修	1・前期	22.5	22.5								◎										
		人間探求学	2	必修	1・前期	22.5	22.5							◎											
		自然保護論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		滋賀の自然史	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		持続的農業論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		びわこ環境行政論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		材料史	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		機械技術と人間	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		現代経済論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		差別と人権（同和問題）	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		比較文明論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		比較都市論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		近江文化論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		人間と自然界	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		こころのテクノロジー	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		人間とことば	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		詩歌と人間	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		東洋思想時空論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		異文化理解A	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		異文化理解B	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		人間と病気	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		セルフケア論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		人間にとって環境とは何か	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		環境行動論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		若者の健康と栄養	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		地元学入門	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		自然科学の視点	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		空間計画論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		電子社会と人間	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		比較住居論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5							○											
		生命・人間・倫理	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		社会福祉論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		遺伝子と社会	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		性を考える	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											
		地域探求学	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5							○											

材料科学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その2）

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間（時間）							学習・教育目標に対する関与の程度											
							人文科学社会科学語学	数学自然科学情報技術	専門分野					A1	A2	B	C	D1	D2	D3	E	F	G	H	I
									材料の構造と性質	材料のプロセス	材料機能設計利用	実験の計画実行解析	その他専門												
専門科目	学部共通基礎科目	材料科学概論	2	必修	1・前	22.5			4.5	3	15							◎							
		機械システム工学概論	2	選択	1・前	22.5					3		20					◎							
		電子システム工学概論	2	選択	1・前	22.5					3		20					◎							
		微積分Ⅰ	2	必修	1・前	22.5		22.5									◎								
		微積分Ⅱ	2	選択	1・後	22.5		22.5									◎								
		線形代数Ⅰ	2	必修	1・前	22.5		22.5									◎								
		線形代数Ⅱ	2	選択	1・後	22.5		22.5									◎								
		確率統計	2	選択	1・後	22.5		15					7.5				◎								
		基礎力学	2	必修	1・前	22.5		22.5									◎								
		基礎電磁気学	2	必修	1・後	22.5		22.5									◎								
		基礎化学	2	必修	1・前	22.5		15	7.5								◎								
		分析化学	2	必修	1・前	22.5		15	7.5								◎								
		電子と化学結合	2	必修	1・後	22.5			22.5								◎								
		分析・環境化学実験（コンピュータ活用を含む）	2	必修	1・前	45		22.5	22.5						○		○					◎		○	○
		基礎電気電子回路	2	選択	1・後	22.5							23					◎							
		微積分続論	2	選択	2・前	22.5		22.5										◎							
		微分方程式	2	選択	2・前	22.5		15					7.5					◎							
		工業数学	2	選択	2・後	22.5		15					7.5					◎							
		物理学実験（コンピュータ活用を含む）	2	必修	2・後	45		45									◎				○	○			
		科学技術英語	2	必修	3・前	22.5	4.5		6	6	6					◎		○	○	○					○
		技術者倫理	2	選択	3・後	22.5	13.5						9		◎										
		工業数理	2	選択	4・前	22.5		7.5					15					◎							
		産業技術マネジメント	2	選択	4・後	23	9						14		◎										
	※	無機化学Ⅰ	2	必修	2・前	22.5			22.5											◎					
		材料力学Ⅰ	2	選択	2・前	22.5					7.5		15						◎						
		化学工学	2	選択	2・後	22.5				23								◎			○				
	学科基礎科目	基礎熱力学	2	必修	1・後	22.5			22.5										◎						
		基礎結晶学	2	必修	1・後	22.5			22.5										◎						
		有機化学Ⅰ	2	必修	1・後	22.5			3	6	14									◎					
		化学熱力学	2	必修	2・前	22.5			9	14									◎						
		反応速度論	2	必修	2・後	22.5				23									◎						
		無機化学Ⅱ	2	選択	2・後	22.5			18	4.5										◎					
		有機化学Ⅱ	2	必修	2・前	22.5			3	6	14									◎					
		有機化学Ⅲ	2	必修	2・後	22.5			3	6	14									◎					
		機器分析Ⅰ	2	選択	2・前	22.5			22.5										◎						
		生化学Ⅰ	2	選択	2・後	22.5			10.5	12										◎					
		定量・機器分析および同実験（コンピュータ活用を含む）	2	必修	2・前	45			15			30									◎	○		○	○
		物理化学総合および同演習	2	必修	2・後	22.5			9	14									◎		○				
		有機化学総合および同演習	2	必修	2・後	22.5			3	6	14									◎					
		電気化学	2	選択	3・前	22.5			7.5	7.5	7.5								◎						
		分子・統計力学	2	選択	3・後	22.5			18		4.5								◎						
		固体物性基礎	2	選択	3・前	22.5			7.5	7.5	7.5								◎						
		有機化学Ⅳ	2	選択	3・前	22.5			7.5	7.5	7.5									◎					
		機器分析Ⅱ	2	選択	3・前	28.5			22.5			6							◎						
		生化学Ⅱ	2	選択	3・前	22.5			7.5	7.5	7.5									◎					
		材料計算化学および同演習	2	選択	3・前	22.5			15		7.5								◎		○				
		材料科学実験	6	必修	3・通	180			15	15	15	135									○	○	○	◎	○
	学科専門科目	金属材料	2	選択	3・後	22.5			10.5		12									◎					
		セラミックス材料	2	選択	3・後	22.5			7.5	7.5	7.5									◎					
		エネルギー・界面科学	2	選択	3・後	22.5			7.5	3	12									◎					
		高分子合成	2	選択	3・前	22.5			10.5	6	6									◎					
		高分子物性	2	選択	3・後	21.5			3	6.5	12									◎					
		環境調和化学	2	選択	3・後	22.5			7.5	7.5	7.5				○					◎					
		材料量子論	2	選択	3・後	23			12		11									◎					
		材料開発工学	2	選択	3・前	22.5			3	4.5	15							◎							
		先端材料科学	2	選択	3・後	22.5			7.5	7.5	7.5									◎					
		材料組織学	2	選択	4・前	22.5			7.5	7.5	7.5									◎					
		材料強度物性	2	選択	4・前	22.5			10.5	3	9									◎					
		複合材料	2	選択	4・前	22.5			7.5	7.5	7.5									◎					
		無機工業材料	1	選択	4・後	12					12									◎					
		有機工業材料	1	選択	4・後	12				6	6									◎					
		有機量子化学	1	選択	4・後	12			4.5	4.5	3									◎					
		卒業研究	8	必修	4・通	90	3		12	12	12	51				○				○	○	○	◎	○	○

※複数学科共通科目

工学部他学科科目

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間（時間）							学習・教育目標に対する関与の程度											
							人文科学社会科学語学	数学自然科学情報技術	専門分野					A1	A2	B	C	D1	D2	D3	E	F	G	H	I
									材料の構造と性質	材料のプロセス	材料機能設計利用	実験の計画実行解析	その他専門												
機械システム工学科専門科目	学科基礎科目	工業力学	2	選択	1・後期	22.5							22.5							○					
		機械製作	2	選択	1・後期	22.5							22.5							○					
		機械材料学	2	選択	2・後期	22.5							22.5					○		○					
		熱力学Ⅰ	2	選択	2・後期	22.5			11.5		11							○		○					
		流体力学Ⅰ	2	選択	2・後期	22.5							22.5						○	○					
		機械力学Ⅰ	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○		○					
		制御工学Ⅰ	2	選択	3・前期	22.5							22.5							○					
		生産工学	2	選択	3・前期	22.5							22.5							○					
		材料力学Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5			11		11.5							○		○					
		熱力学Ⅱ	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○		○					
		流体力学Ⅱ	2	選択	3・前期	22.5							22.5						○	○					
		機械力学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○		○					
		制御工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5						6	22.5						○	○					
		生産工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5						10	22.5							○					
		情報処理基礎	2	選択	3・前期	22.5						7.5	22.5					○							
		機械要素	2	選択	2・前期	22.5							22.5						○	○					
		伝熱学	2	選択	3・後期	22.5			10.5		12							○		○					
		計測工学	2	選択	3・後期	22.5							22.5							○					
		機械設計製図	2	選択	2・前期	67.5							67.5								○	○			
		機械設計演習Ⅰ	2	選択	2・後期	67.5							67.5								○	○			
		機械設計演習Ⅱ	2	選択	3・前期	67.5							67.5								○	○			
		機械設計演習Ⅲ	2	選択	3・後期	67.5							67.5								○	○			
	学科専門科目	統計熱力学	2	選択	3・前期	22.5			11		11.5									○					
		金属加工学	2	選択	3・前期	22.5			11		11.5									○					
		エネルギー変換工学	2	選択	3・後期	22.5			7.5	7.5	7.5									○					
		メカトロニクス	2	選択	3・後期	22.5							22.5							○					
		数理計画	2	選択	3・後期	22.5							22.5							○					
		現代制御工学	2	選択	3・後期	22.5							22.5							○					
		動力システム	2	選択	4・前期	22.5							22.5							○					
		数値解析	2	選択	4・前期	22.5							22.5							○					
		システム工学	2	選択	4・前期	22.5							22.5							○					
		ロボット工学	2	選択	4・前期	22.5							22.5							○					
		特殊加工学	2	選択	4・前期	22.5			7.5	7.5	7.5		22.5							○					
		トライボロジー	2	選択	4・後期	22.5			10.5	6	6		22.5							○					
電子システム工学科専門科目	学科基礎科目	電磁気学Ⅰ	2	選択	2・前期	22.5							22.5							○					
		電磁気学Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5							22.5							○					
		電気回路Ⅰ	2	選択	2・前期	22.5							22.5							○					
		電気回路Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5							22.5							○					
		電子回路Ⅰ	2	選択	2・後期	22.5							22.5							○					
		量子力学概論	2	選択	2・前期	22.5			22.5									○		○					
		物性デバイス基礎論	2	選択	2・後期	22.5			12	10.5									○	○					
		半導体基礎	2	選択	2・後期	22.5			12		10.5							○							
		コンピュータハードウェア	2	選択	2・後期	22.5							22.5							○	○				
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択	2・前期	22.5							22.5							○	○				
		プログラミング言語	2	選択	2・後期	22.5							22.5							○	○				
		ディジタル信号処理	2	選択	2・後期	22.5							22.5							○	○				
		情報理論	2	選択	2・前期	22.5							22.5							○	○				
		電子システム工学実験Ⅰ	2	選択	2・前期	67.5							67.5							○		○			
		電子システム工学実験Ⅱ	2	選択	2・後期	67.5							67.5							○		○			
		電子システム工学演習Ⅰ	1	選択	2・前期	22.5							22.5					○				○			
		電子システム工学演習Ⅱ	1	選択	2・後期	22.5							22.5					○				○			
		電子回路Ⅱ	2	選択	3・前期	22.5							22.5							○	○				
		電気電子計測Ⅰ	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
		電気電子計測Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		電気エネルギーシステム工学	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
		半導体デバイス	2	選択	3・前期	22.5			7.5	7.5	7.5							○							
		制御工学	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
		電力工学Ⅰ	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
		電力工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		情報通信工学	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
		数値解析・数値計算	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		コンピュータソフトウェア	2	選択	3・前期	22.5							22.5					○							
	学科専門科目	電磁波工学	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		電気機器	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		応用電子機器	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		集積回路設計基礎	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		電子デバイス	2	選択	3・後期	22.5			7.5		5		22.5					○							
		マルチメディア	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		インターネット工学	2	選択	3・後期	22.5							22.5					○							
		集積化プロセス工学	2	選択	4・前期	22.5			7.5	7.5	7.5							○							
		プラズマ工学	2	選択	4・前期	22.5			11.5	7								○							
		パワーエレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5			10.5	6	6							○							
		光エレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5			10.5	6	6							○							
		ロボット工学	2	選択	4・前期	22.5							22.5					○							
		電気関係法規・施設管理	2	選択	4・後期	22.5							22.5					○							

工学部材料科学科卒業要件

【平成20年度以降入学生】

(1)**全学共通科目**(計30単位以上)　必修18単位　選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目　18単位以上	
第一外国語	英語(Ⅰ～Ⅳ)　8単位(必修)
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ, フランス語Ⅰ・Ⅱ, 中国語Ⅰ・Ⅱ, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから4単位以上(選択必修)
情報処理	情報リテラシー(情報倫理を含む)2単位(必修)[平成22年度以降入学生用] 情報処理演習Ⅰ　1単位(必修)[平成21、20年度入学生用] 情報科学概論　2単位(必修) 情報処理演習Ⅱ　1単位(必修)[平成21、20年度入学生用]
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　2単位(必修)
②人間学	12単位以上(「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修)

(2)**専門科目**	学部共通基礎科目・複数学科共通科目・ 学科基礎科目・学科専門科目 必修58単位, 選択42単位以上	(計100単位以上)
①必修	科目配当表に指定する科目	58単位
②選択	科目配当表に指定する科目および工学部他学科配当表記載の科目から	42単位以上

合計　130単位以上

註1:外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語Ⅰ～Ⅳまたは日本語Ⅰ～Ⅳから選択必修(8単位)。第二外国語は、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、初習英語Ⅰ・Ⅱ、英語Ⅰ～Ⅳ、日本語Ⅰ～Ⅳから選択必修(4単位以上)。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註2:他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし, 専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし, 他学部開設科目の履修を希望するときは, その科目を担当する教員の指示を受けること。

【平成19年度以前入学生】

平成19年度以前入学生は入学年次の卒業要件が適用されますので, 入学年次の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

工学部材料科学科　年次別科目配当表
（1）平成20年度以降入学生

区　分		1 年 次	2 年 次
全学共通科目	全学共通基礎 （留学生はP.12参照）	◎英語Ⅰ 2通 ◎英語Ⅱ 2通 ○第二外国語Ⅰ 2通 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※1初習英語 ◎情報科学概論 2後 ◎情報リテラシー（情報倫理を含む）※2 2前 ◎健康・体力科学Ⅰ 1後	◎英語Ⅲ 2通 ◎英語Ⅳ 2通 ○第二外国語 Ⅱ 2通 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※1初習英語 プログラミング基礎　※３ 2前 ◎健康・体力科学 Ⅱ 1前
	人 間 学	◎環境マネジメント総論 2前 ◎人間探求学 2前	
		上記必修科目以外の人間学科目から、４年間で８単位選択必修	

※1　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。（詳細については、P. 12、47参照）
※2　平成21年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅰ」（必修1単位）に読み替えます。
※3 平成21年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅱ」（必修1単位）に読み替えます。

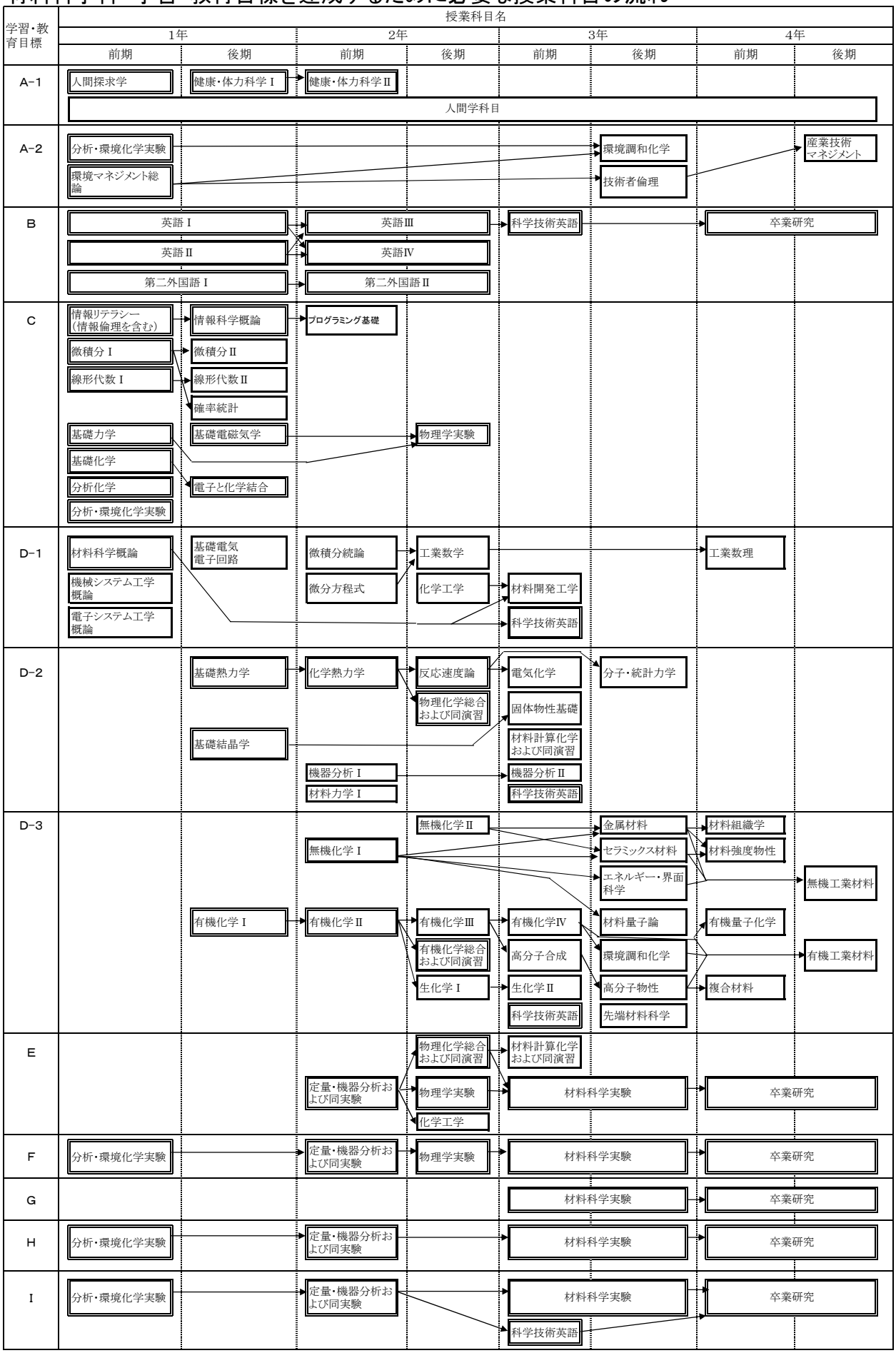
専門科目	学部共通基礎	◎材料科学概論（奥 廣川） 2前 機械システム工学概論（山根 高松 南川 栗田 中川） 2前 電子システム工学概論（稲葉） 2前 ◎微積分Ⅰ（松下） 2前 微積分Ⅱ（谷口） 2後 ◎線形代数Ⅰ（谷口） 2前 線形代数Ⅱ（山口） 2後 確率統計（安藤） 2後 ◎基礎力学（山根） 2前 ◎基礎電磁気学（作田） 2後 ◎基礎化学（熊谷） 2前 ◎分析化学（菊地） 2前 ◎電子と化学結合（松岡） 2後 基礎電気電子回路（岸根） 2後 ◎分析・環境化学実験（コンピュータ活用を含む） 2前 （秋山 菊地 山下 谷本 鈴木 竹原 菅原 ）	微積分続論（谷口） 2前 微分方程式（山口） 2前 工業数学（松下） 2後 ◎物理学実験（コンピュータ活用を含む） 2後 （田中他　田邉　近藤千　福岡　竹内　木村）
	複数学科共通		材料力学Ⅰ（田邉） 2前 化学工学（田門　牧） 2後 ◎無機化学Ⅰ（松岡） 2前
	学科基礎	◎基礎熱力学（奥） 2後 ◎基礎結晶学（宮村） 2後 ◎有機化学Ⅰ（熊谷） 2後	◎化学熱力学（山下） 2前 ◎反応速度論（徳満） 2後 無機化学Ⅱ（ジャヤデワン） 2後 ◎有機化学Ⅱ（熊谷） 2前 ◎有機化学Ⅲ（熊谷） 2後 生化学Ⅰ（竹原） 2後 機器分析Ⅰ（徳満） 2前 ◎物理化学総合および同演習 2後 （宮村，秋山，吉田，菅原） ◎有機化学総合および同演習 2後 （谷本，山下，鈴木，竹原） ◎定量・機器分析および同実験（コンピュータ活用を含む） 2前 （宮村 近藤 吉田 徳満 井上）
	学科専門		

◎:必修　○:選択必修　無印:選択

３ 年 次	４ 年 次	配当単位数
英語ＶＡ 1前 英語ＶＢ 1後 英語ⅥA 1前 英語ⅥB 1後 ドイツ語ⅢＡ 1前 ドイツ語ⅢＢ 1後 フランス語ⅢＡ 1前 フランス語ⅢＢ 1後		必修 14 選択必修 16 選択 10
		必修 4 選択必修 66

◎科学技術英語(学科教授全員) 2前 技術者倫理(廣川　中川　柳澤) 2後	工業数理(松下) 2前 産業技術マネジメント(安田昌　他) 2後	必修 22 選択 24
		必修 2 選択 4
電気化学(菊地) 2前 分子・統計力学(松岡) 2後 固体物性基礎(奥) 2前 有機化学Ⅳ(井上) 2前 生化学Ⅱ(竹原) 2前 機器分析Ⅱ(谷本) 2前 材料計算化学および同演習 2前 (井上　近藤　鈴木) ◎材料科学実験 6通 (学科准教授講師助教全員)		必修 26 選択 20
金属材料(ジャヤデワン) 2後 セラミックス材料(吉田) 2後 エネルギー・界面科学(奥) 2後 高分子物性(徳満) 2後 高分子合成(谷本) 2前 環境調和化学(廣川) 2後 材料開発工学 2前 (坂本　藤本　辻井　学科教員全員) 材料量子論(近藤) 2後 先端材料科学(学科教員全員) 2後	材料組織学(宮村) 2前 材料強度物性(吉田) 2前 複合材料(山下) 2前 有機量子化学(熊谷) 1後 無機工業材料(宮村　吉田　菅原　鈴木) 1後 有機工業材料(廣川) 1後 ◎卒業研究(学科教員全員) 8通	必修 8 選択 27

材料科学科　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ



材料科学科　平成20年度以降入学生からのカリキュラム変更による専門科目読み替え表

19年度以前入学者配当の専門科目は，20年度は2～4年次配当科目，21年度は3～4年次配当科目，22年度は4年次配当科目のみが開講されます。これら以外の科目については，その科目にこの表で対応する20年度以降入学者配当科目を履修してください。

なお，19年度以前入学者配当科目で下表に記載の無い

◎材料科学概論，機械システム工学概論，◇微積分Ⅰ，◇微積分Ⅱ，△線形代数Ⅰ，△線形代数Ⅱ，分析化学，◎分析・環境化学実験（コンピュータ活用を含む），微積分続論，工業数学，◎無機化学Ⅰ，無機化学Ⅱ，材料力学Ⅰ，◎物理学実験（コンピュータ活用を含む），◎定量・機器分析および同実験，化学工学，機器分析Ⅰ，機器分析Ⅱ，生化学Ⅰ，生化学Ⅱ，高分子合成，分子・統計力学，環境調和化学，金属材料，セラミックス材料，高分子物性，複合材料，材料量子論，材料強度物性，◎材料科学実験，材料組織学，◎卒業研究

については，同じ科目名の20年度以降入学者用科目に読み替えます。ただし，必修／選択の区分については，各人の入学年度における区分が適用されます。

20年度以降入学者配当科目		19年度以前入学者配当科目
1・前	◎基礎力学	○物理学C，　○物理学A
1・前	◎基礎化学	◎基礎有機化学
1・前	電子システム工学概論	―
1・後	◎電子と化学結合	◎基礎物理化学
1・後	◎基礎電磁気学	○物理学B
1・後	◎基礎熱力学	◎物理化学ＡⅠ
1・後	◎基礎結晶学	結晶構造解析
1・後	◎有機化学Ⅰ	◎有機化学ＡⅠ
1・後	確率統計	基礎数学
1・後	基礎電気電子回路	基礎電子回路
2・前	◎化学熱力学	◎物理化学ＡⅡ
2・前	◎有機化学Ⅱ	◎有機化学ＡⅡ
2・前	微分方程式	数学演習B
2・後	◎有機化学総合および同演習	◎有機化学演習
2・後	◎物理化学総合および同演習	◎環境安全化学
2・後	◎反応速度論	物理化学ＢⅠ
2・後	◎有機化学Ⅲ	有機化学ＢⅠ
3・前	◎科学技術英語	◎材料外国語演習
3・前	電気化学	物理化学ＢⅡ
3・前	固体物性基礎	環境材料
3・前	有機化学Ⅳ	有機化学ＢⅡ
3・前	材料計算化学および同演習	生体機能化学
3・前	材料開発工学	電子材料
3・後	先端材料科学	先端材料科学および演習
3・後	エネルギー・界面科学	界面科学
3・後	技術者倫理	―
4・前	工業数理	―
4・前	有機量子化学	高分子機能材料
4・後	有機工業材料	
4・後	無機工業材料	―
4・後	産業技術マネジメント	産業マネジメント

注1）科目名の前の◎は必修科目を表します。19年度以前入学者配当科目の科目名の前の◇，△，○は選択必修科目を表します。

注2）19年度以前入学者が20年度以降入学者用科目で「高分子機能材料」の単位を取得するには，「有機量子化学」と「有機工業材料」の両方の単位を取得することが必要です。

注3）19年度以前入学者が「電子システム工学概論」，「技術者倫理」，「工業数理」，「無機工業材料」を履修しても卒業単位にはなりません。

注4）19年度以前入学者に配当している「有機工業化学」と「無機材料物性」は，20年度以降入学者用科目による読み替えを行いません。

注5）平成15年度以前の入学者については，平成19年度以前入学者の科目配当表の注4にある読み替え規定も，上記の表による読み替えと共に適用されます。

機械システム工学科　学習・教育目標

私たちの生活は，多くの機械により支えられている。この機械を開発・設計・製造するのが，機械技術者の仕事である。本機械システム工学科では，自然環境に調和し人間社会を持続的に発展させる新しい時代の「ものづくり」を担う良識を備えかつ実践的な機械技術者の育成を目指して，次の学習・教育目標を定める。

教養に関して

A　自然環境，社会，人間に関する理解，および技術の役割に関する理解

A-1　自然環境，社会，人間について，地球的視点や地域の視点，さまざまな立場から多面的に理解し，幅広く深い教養を身につける。

A-2　技術が，自然環境，社会，人間に及ぼす影響を理解して，技術者が負っている責任を自覚する。

B　国際コミュニケーション能力：国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける。

専門に関して

C　工学基礎：数学，力学，電磁気学，化学，情報技術に関する基礎学力を修得し，これらを機械工学に応用できる能力を養成する。

D　機械システム工学専門科目：機械工学の基礎である材料と構造，エネルギー，流れ，力と運動，計測制御，生産技術に関する基礎学力を修得する。

D-1　機械工学の概要を学習し，機械工学の基礎を修得するとともに，機械工学全般を見渡せる能力を育成する。

D-2　機械工学の基礎である材料と構造，エネルギー，流れ，力と運動，計測制御，生産技術に関する学力を修得する。

D-3　講義で学んだ知識を，実験・実習・演習を通してより具体的に理解し，ものづくりに応用できる能力を養成する。

E　デザイン能力：社会が要求する実際的な課題を，種々の専門知識を活用して解決する実践的なデザイン能力を養成する。

社会人基礎力に関して

F　日本語コミュニケーション能力：自分の意見を論理的に整理し相手にわかりやすく伝える力，相手の意見を聴き理解する力を養う。

G　主体性・継続的学習能力：自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力，継続的に自己啓発と学習を続けていく力を身につける。

H　計画力・実行力：課題の解決への道筋を明らかにする力，目標に向け確実に行動する力を身につける。

機械および機械関連分野　JABEE基準（1）

機械システム工学科の学習・教育目標は、JABEEが定める機械および機械関連分野の要件と、以下のように対応し

(a)　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

(b)　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）

(c)　数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

(d)　該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力

d-1　数学については線形代数、微積分学などの応用能力と確率・統計の基礎および自然科学については物理学の基礎に関する知識

d-2　機械工学の主要分野（材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産・管理、機械とシステム）のうち、各プログラムが重要と考える分野に関する知識と、それらを問題解決に応用できる能力

d-3　実験等を計画・遂行し、結果を解析し、それを工学的に考察する能力

(e)　種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f)　日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(g)　自主的、継続的に学習できる能力

(h)　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

学習・教育目標とJABEE基準（1）の対応

学習・教育目標 ＼ 基礎科目 1ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの知識と能力		(a)	(b)	(c)	(d)			(e)	(f)	(g)	(h)
					d-1	d-2	d-3				
A	A-1	◎	○								
	A-2	○	◎								
B									◎		
C				◎	◎						
D	D-1	○		○		◎					
	D-2					◎	○				
	D-3					○	◎		○		○
E						○	○	◎		○	○
F									◎		
G							○	○	○	◎	○
H							○				◎

機械システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標目標一つ一つに対する関与の程度（その1）

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間数（時間）			学習・教育目標との対応 ◎：各目標と関係の深い科目 ○：各目標と関係する科目										
							人文社会語学	数学自然科学情報技術	専門分野	A1	A2	B	C	D1	D2	D3	E	F	G	H
全学共通科目	全学共通基礎科目	英語Ⅰ（留学生は必修でない）	2	必修	1・通年	45	45					◎								
		英語Ⅱ（留学生は必修でない）	2	必修	1・通年	45	45					◎								
		英語Ⅲ（留学生は必修でない）	2	必修	2・通年	45	45					◎								
		英語Ⅳ（留学生は必修でない）	2	必修	2・通年	45	45					◎								
		ドイツ語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○								
		ドイツ語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○								
		フランス語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○								
		フランス語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○								
		中国語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○								
		中国語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○								
		朝鮮語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○								
		朝鮮語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○								
		初習英語Ⅰ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45					○								
		初習英語Ⅱ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45					○								
		日本語Ⅰ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45					○								
		日本語Ⅱ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45					○								
		日本語Ⅲ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45					○								
		日本語Ⅳ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45					○								
		英語ⅤA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○								
		英語ⅤB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○								
		英語ⅥA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○								
		英語ⅥB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○								
		ドイツ語ⅢA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○								
		ドイツ語ⅢB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○								
		フランス語ⅢA	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○								
		フランス語ⅢB	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○								
		情報科学概論	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎							
		情報リテラシー（情報倫理を含む）	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎							
		プログラミング基礎	2	選択	2・前期	22.5		22.5					○							
		健康・体力科学Ⅰ	1	必修	1・後期	22.5	22.5			○										
		健康・体力科学Ⅱ	1	必修	2・前期	22.5	22.5			○										
	人間学	環境マネジメント総論	2	必修	1・前期	22.5	22.5				◎									
		人間探求学	2	必修	1・前期	22.5	22.5			◎								○		
		自然保護論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		滋賀の自然史	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		持続的農業論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		びわこ環境行政論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		材料史	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		機械技術と人間	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		現代経済論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		差別と人権（同和問題）	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		比較文明論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		比較都市論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		近江文化論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		人間と自然界	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		こころのテクノロジー	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		人間とことば	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		詩歌と人間	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		東洋思想時空論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		異文化理解A	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		異文化理解B	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		人間と病気	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		セルフケア論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		人間にとって環境とは何か	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		環境行動論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		若者の健康と栄養	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		地元学入門	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		自然科学の視点	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		空間計画論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		電子社会と人間	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		比較住居論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○										
		生命・人間・倫理	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		社会福祉論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		遺伝子と社会	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		性を考える	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										
		地域探求学	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○										

機械システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標目標一つ一つに対する関与の程度（その2）

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間数（時間）				学習・教育目標との対応 ◎：各目標と関係の深い科目 ○：各目標と関係する科目										
							人文社会語学	数学自然科学情報技術	専門分野	その他の専門	A1	A2	B	C	D1	D2	D3	E	F	G	H
専門科目	学部共通基礎科目	機械システム工学概論	2	必修	1・前期	22.5			22.5						◎						
		材料科学概論	2	選択	1・前期	22.5				22.5				◎							
		電子システム工学概論	2	選択	1・前期	22.5				22.5				◎							
		微積分Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5						◎							
		微積分Ⅱ	2	必修	1・後期	22.5		22.5						◎							
		微分方程式	2	必修	2・前期	22.5		22.5						◎							
		線形代数Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5						◎							
		線形代数Ⅱ	2	選択	1・後期	22.5		22.5						◎							
		確率統計	2	必修	1・後期	22.5		22.5						◎							
		基礎力学	2	必修	1・前期	22.5		22.5						◎							
		基礎電磁気学	2	必修	1・後期	22.5		22.5						◎							
		基礎化学	2	必修	1・前期	22.5		22.5						◎							
		分析化学	2	選択	1・前期	22.5		22.5						◎							
		電子と化学結合	2	選択	1・後期	22.5				22.5				◎							
		分析・環境化学実験	2	選択	2・前期	45		45						◎			○				
		基礎電気電子回路	2	選択	1・後期	22.5				22.5				◎							
		微積分続論	2	選択	2・前期	22.5		22.5						◎							
		工業数学	2	選択	2・後期	22.5		22.5						◎							
		物理学実験	2	必修	1・後期	45		45						◎	○		○		○		
		科学技術英語	2	必修	3・前期	22.5	22.5						◎		○	○					
		技術者倫理	2	必修	3・後期	22.5	22.5					◎									
		工業数理	2	選択	4・前期	22.5		22.5						◎							
		産業技術マネジメント	2	選択	4・後期	22.5	22.5					◎									
	※	化学工学	2	選択	2・後期	22.5				22.5				◎							
		材料力学Ⅰ	2	必修	2・前期	22.5			22.5						○	◎					
	学科基礎科目	機械システム工学セミナー	2	選択	1・前期	67.5		67.5							○				○	◎	
		工業力学	2	必修	1・後期	22.5			22.5						○	◎					
		機械製作	2	必修	1・後期	22.5			22.5						○	◎					
		機械材料学	2	必修	2・後期	22.5			22.5							◎					
		熱力学Ⅰ	2	必修	2・後期	22.5			22.5						○	◎					
		流体力学Ⅰ	2	必修	2・後期	22.5			22.5						○	◎					
		機械力学Ⅰ	2	必修	3・前期	22.5			22.5						○	◎					
		制御工学Ⅰ	2	必修	3・前期	22.5			22.5							◎					
		生産工学	2	必修	3・前期	22.5			22.5							◎					
		材料力学Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5			22.5							◎					
		熱力学Ⅱ	2	選択	3・前期	22.5			22.5							◎					
		流体力学Ⅱ	2	選択	3・前期	22.5			22.5							◎					
		機械力学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		制御工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		生産工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		情報処理基礎	2	選択	3・前期	22.5			22.5							◎					
		機械要素	2	選択	2・前期	22.5			22.5							◎					
		伝熱学	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		計測工学	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		機械製作実習	2	必修	2・前期	67.5			67.5						○		◎				
		機械設計製図	2	必修	2・前期	67.5			67.5								◎				
		機械設計演習Ⅰ	2	必修	2・後期	67.5			67.5								◎				
		機械設計演習Ⅱ	2	必修	3・前期	67.5			67.5								○	◎			
		機械設計演習Ⅲ	2	必修	3・後期	67.5			67.5								○	◎			
		機械システム工学実験Ⅰ	2	必修	3・前期	67.5			67.5								◎		○		○
		機械システム工学実験Ⅱ	2	必修	3・後期	67.5			67.5									◎		○	○
	学科専門科目	統計熱力学	2	選択	3・前期	22.5			22.5							◎					
		金属加工学	2	選択	3・前期	22.5			22.5							◎					
		エネルギー変換工学	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		メカトロニクス	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		数理計画	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		現代制御工学	2	選択	3・後期	22.5			22.5							◎					
		動力システム	2	選択	4・前期	22.5			22.5							◎					
		数値解析	2	選択	4・前期	22.5			22.5					◎							
		システム工学	2	選択	4・前期	22.5			22.5							◎					
		ロボット工学	2	選択	4・前期	22.5			22.5							◎					
		特殊加工学	2	選択	4・前期	22.5			22.5							◎					
		トライボロジー	2	選択	4・後期	22.5			22.5							◎					
		卒業研究	8	必修	4・通年	90			90				○				○	○	○	◎	○

※複数学科共通科目

機械システム工学科　専門技術に関する必修科目のJABEEキーワードとの対応　（対応のある科目のみ抜粋）

授業科目の名称	専門技術　時間数（時間）					
	1．材料と構造	2．運動と振動	3．エネルギーと流れ	4．情報と計測・制御	5．設計と生産・管理	実験・実習・卒業研究
材料力学Ⅰ	22.5					
工業力学		22.5				
機械製作					22.5	
機械材料学	22.5					
熱力学Ⅰ			22.5			
流体力学Ⅰ			22.5			
機械力学Ⅰ		22.5				
制御工学Ⅰ				22.5		
生産工学					22.5	
機械製作実習						67.5
機械設計製図					9	58.5
機械設計演習Ⅰ					10.5	57
機械設計演習Ⅱ					16.5	51
機械設計演習Ⅲ				4.5	16.5	46.5
機械システム工学実験Ⅰ						67.5
機械システム工学実験Ⅱ						67.5
卒業研究						90
合計	45.0	45.0	45.0	27.0	97.5	505.5

1．材料と構造

引張・圧縮・せん断応力とひずみ、ねじり、真応力と真ひずみ、弾性と塑性、材料の強度と許容応力、材料の構造と組織、工業材料の性質と機能、複合材料

2．運動と振動

静力学、運動の法則、剛体の力学、自由振動、強制振動、過渡振動、自励振動と安定性

3．エネルギーと流れ

状態量と状態変化、質量と運動量の保存、エネルギー保存則（熱力学の第一法則とベルヌーイの式）、熱力学の第二法則、熱移動と温度、状態方程式、ガスサイクル、層流と乱流、理想流体の力学、粘性流体の力学、流れの計測、各種流れの抵抗

4．情報と計測・制御

計算機利用の基礎、計測基礎論と基本的な量の計測法、伝達関数とフィードバック制御、状態方程式と状態フィードバック、過渡応答、周波数応答、安定性、特性方程式、アクチュエータ、PID制御

5．設計と生産・管理

設計法、製図法と規則、加工法、生産・管理システム、CAD/CAM/CAE、DfX、CIM/FMS/FA、工作機械

実験・実習・卒業研究

実験方法、機器操作方法、機械製作方法などを系統的に習得する、未解決あるいは創造的な問題に取り組む.

工学部機械システム工学科卒業要件

平成２０年度以降入学生適用の卒業要件です。平成１９年度以前入学生は入学年次の卒業要件が適用されますので、入学年次の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

（１）全学共通科目	（計30単位以上）　必修18単位、　選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目　18単位以上		
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）　８単位（必修）	
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、 朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上（選択必修）	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）2単位（必修）［平成22年度以降入学生用］ 情報処理演習Ⅰ　1単位（必修）［平成21、20年度入学生用］ 情報科学概論　2単位（必修） 情報処理演習Ⅱ　1単位（必修）［平成21、20年度入学生用］	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位（必修）	
②人間学	１２単位以上（「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	

（２）専門科目	学部共通基礎科目・複数学科共通科目・ 学科基礎科目・学科専門科目 必修６４単位、選択３６単位以上	（計１００単位以上）
①必修	学科の科目配当表に指定する必修科目	６４単位
②選択	学科の科目配当表に指定する選択科目	３０単位以上

合　計　　１３０単位以上

註１：外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語Ⅰ～Ⅳまたは日本語Ⅰ～Ⅳから選択必修（８単位）。第二外国語は、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、初習英語Ⅰ・Ⅱ、英語Ⅰ～Ⅳ、日本語Ⅰ～Ⅳから選択必修（４単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註２：工学部他学科専門科目、他学部専門科目および全学共通科目あわせて６単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときはその科目を担当する教員の指示を受けること。

機械システム工学科年次別科目配当表（平成２０年度以降入学生）

区　分		１ 年 次		２ 年 次	
全学共通科目	全学共通基礎 （留学生はP.12参照）	◎英語Ⅰ	2通	◎英語Ⅲ	2通
		◎英語Ⅱ	2通	◎英語Ⅳ	2通
		○第二外国語Ⅰ	2通	○第二外国語 Ⅱ	2通
		独語･仏語･中国語･朝鮮語･※1初習英語		独語･仏語･中国語･朝鮮語･※1初習英語	
		◎情報科学概論	2後	プログラミング基礎　※３	2前
		◎情報リテラシー（情報倫理を含む）※2	2前	◎健康・体力科学 Ⅱ	1前
		◎健康･体力科学Ⅰ	1後		
	人 間 学	◎環境マネジメント総論	2前		
		◎人間探求学	2前		
		上記必修科目以外の人間学科目から、４年間で８単位選択必修			

※1　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。（詳細については、P. 12、47参照）
※2　平成２１年度以前入学生に対しては「情報処理演習Ⅰ」（必修1単位）に読み替えます。
※3　平成２１年度以前入学生に対しては「情報処理演習Ⅱ」（必修1単位）に読み替えます。

専門科目	学部共通基礎	材料科学概論(奥　廣川)	2前	◎微分方程式（山口）	2前
		電子システム工学概論（稲葉）	2前	微積分続論（谷口）	2前
		◎機械システム工学概論	2前	工業数学（松下）	2後
		（山根　高松　南川　栗田　中川）		分析･環境化学実験	2前
		◎確率統計(安藤)	2後	（コンピュータ活用を含む）	
		◎微積分Ⅰ（谷口）	2前	（秋山　菊地　菅原　山下　谷本　竹原　鈴木）	
		◎微積分Ⅱ(松下)	2後		
		◎線形代数Ⅰ（松下）	2前		
		線形代数Ⅱ（山口）	2後		
		◎基礎力学（田中）	2前		
		◎基礎電磁気学（福岡）	2後		
		◎基礎化学（松岡）	2前		
		電子と化学結合（松岡）	2後		
		基礎電気電子回路(岸根)	2後		
		分析化学（菊地）	2前		
		◎物理学実験	2後		
		（コンピュータ活用を含む）			
		（田中他　田邉　近藤千　福岡　竹内　木村）			
	複数学科共通			◎材料力学Ⅰ（高松）	2前
				化学工学(田門　牧)	2後
	学科基礎	◎機械製作(中川)	2後	◎機械設計製図（高松）	2前
		◎工業力学（栗田）	2後	機械要素（小川）	2前
		機械システム工学セミナー	2前	◎熱力学Ⅰ（山根）	2後
		（高松　安田寿）		◎流体力学Ⅰ（南川）	2後
				◎機械材料学（高松）	2後
				材料力学 Ⅱ（高松）	2後
				◎機械製作実習（河﨑　小川）	2前
				◎機械設計演習Ⅰ（南川 安田孝）	2後
	学科専門				
		1年次必修	22	2年次必修	16

◎:必修　○:選択必修　無印:選択

３ 年 次	４ 年 次	配当単位数
英語ＶＡ 1前 英語ＶＢ 1後 英語VIA 1前 英語VIB 1後 ドイツ語ⅢA 1前 ドイツ語ⅢB 1後 フランス語ⅢA 1前 フランス語ⅢB 1後		必修 14 選択必修 16 選択 10
		必修 4 選択必修 66

◎科学技術英語(学科教員全員) 2前 ◎技術者倫理 2後 （廣川　中川　柳澤）	工業数理(松下) 2前 産業技術マネジメント(安田昌他) 2後	必修 24 選択 22
		必修 2 選択 2
◎機械力学Ⅰ(栗田) 2前 ◎制御工学Ⅰ(安田寿) 2前 ◎生産工学(中川)(注1) 2前 情報処理基礎(奥村) 2前 熱力学Ⅱ(山根) 2前 流体力学Ⅱ(南川) 2前 機械力学Ⅱ(栗田 大浦) 2後 制御工学Ⅱ(安田寿) 2後 生産工学Ⅱ(杉村、岩村)(注2) 2後 計測工学(近藤千) 2後 伝熱学(安田孝) 2後 ◎機械設計演習Ⅱ(田邉) 2前 ◎機械設計演習Ⅲ(栗田　大浦) 2後 ◎機械システム工学実験Ⅰ 2前 （南川　田邉　大浦　近藤千） ◎機械システム工学実験Ⅱ 2後 （安田寿　河﨑　安田孝　小川）		必修 30 選択 22
金属加工学(田中他) 2前 統計熱力学(河﨑) 2前 数理計画(未定) 2後 メカトロニクス(安田寿) 2後 エネルギー変換工学(河﨑) 2後 現代制御工学(森脇) 2後	動力システム(山根) 2前 数値解析(安田孝) 2前 ロボット工学(寺嶋) 2前 システム工学(森脇) 2前 特殊加工学(中川) 2前 トライボロジー(未定)(注3) 2後 ◎卒業研究(学科教員全員) 8通	必修 8 選択 24
3年次必修 18	4年次必修 8	専門必修 64

機械システム工学科配当の専門科目は、指定された配当学年よりも前の学年で履修することはできません。

(注1)平成21年度以前入学生は、「生産工学」を「生産工学Ⅰ」に読み替えます。

(注2)「生産工学Ⅱ」は平成21年度以前入学生が対象の科目です。平成23年度のみ開講されます。

(注3)「トライボロジー」は平成23年度は開講しません。

機械システム工学科　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人間探求学	健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ					
	人間学科目							
A-2	環境マネジメント総論					技術者倫理		産業技術マネジメント
B	英語Ⅰ		英語Ⅲ		科学技術英語		卒業研究	
	英語Ⅱ		英語Ⅳ					
	第2外国語Ⅰ		第2外国語Ⅱ					
C	情報リテラシー（情報倫理を含む）	情報科学概論	プログラミング基礎				数値解析	
	微積分Ⅰ	微積分Ⅱ	微分方程式	工業数学			工業数理	
	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	微積分統論					
		確率統計						
	基礎力学	物理学実験						
	基礎化学							
	分析化学	電子と化学結合	分析・環境化学実験	化学工学				
	材料科学概論	基礎電磁気学						
	電子システム工学概論	基礎電気電子回路						
D-1	機械システム工学概論	工業力学	材料力学Ⅰ	熱力学Ⅰ	科学技術英語			
		機械製作	機械製作実習	流体力学Ⅰ	機械力学Ⅰ			
	機械システム工学セミナー	物理学実験						
D-2		工業力学	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	統計熱力学	エネルギー変換工学	動力システム	
				熱力学Ⅰ	熱力学Ⅱ	伝熱学		
				流体力学Ⅰ	流体力学Ⅱ	機械力学Ⅱ	システム工学	
				機械材料学	機械力学Ⅰ	制御工学Ⅱ	ロボット工学	トライボロジー
					制御工学Ⅰ	メカトロニクス		
		機械製作			生産工学		特殊加工学	
			機械要素		金属加工学	現代制御工学		
					情報処理基礎	数理計画		
					科学技術英語	計測工学		
D-3			機械設計製図	機械設計演習Ⅰ	機械設計演習Ⅱ	機械設計演習Ⅲ		
		物理学実験	機械製作実習		機械システム工学実験Ⅰ		卒業研究	
			分析・環境化学実験					
E					機械設計演習Ⅱ	機械設計演習Ⅲ		
						機械システム工学実験Ⅱ	卒業研究	
F	機械システム工学セミナー	物理学実験			機械システム工学実験Ⅰ		卒業研究	
	人間探求学							
G	機械システム工学セミナー					機械システム工学実験Ⅱ	卒業研究	
H					機械システム工学実験Ⅰ	機械システム工学実験Ⅱ	卒業研究	

電子システム工学科の学習・教育目標

A　人間存在と環境・社会について深く理解し，豊かな人間性を身につけること

A－1　人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて，興味に応じて多面的に学習し，大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見出していく能力を身につけること

A－2　技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し，技術者としての責任感と倫理観を身につけること

B　国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につけること

C　電子システム工学分野の基礎となる，大学工学部共通基礎レベルの数学，物理学，化学および情報処理技術に関する知識とそれらを応用する能力を身につけること

D　電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し，さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につけること

D－1　電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について，大学工学部学科専門レベルの基礎知識とそれらを駆使して課題を探求し組み立て解決する能力を身につけること

D－2　電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術の中から興味に応じて選択した個別技術について，大学工学部学科専門レベルの高度な専門知識とそれらを駆使して課題を探求し組み立て解決する能力を身につけること

E　電子システム工学分野の実験，実習の実践を通して，工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につけること

E－1　電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について，大学工学部学科専門レベルの実験遂行能力と，結果の解析・考察・説明能力および報告書の作成能力を身につけること

E－2　電子システム工学分野の技術者に要求される実験計画能力と問題や課題を理解し設定する能力および与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけだして計画的に仕事を進め成果としてまとめるエンジニアリングデザイン能力と実行力を身につけること

F　自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う，日本語によるコミュニケーション能力を身につけること

G　技術者としての明確な目的意識を持ち，生涯にわたって自発的に学習する能力を身につけること

電気・電子・情報通信およびその関連分野のJABEE基準１の(1)

(a)　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

(b)　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果，および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）

(c)　数学，自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

(d)　該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力

(d)(1)　プログラムによって与えられる教育内容はその名称によって意味される工学領域における広さと深さを与えるものでなければならない

(d)(2)(a)　プログラムの目標実現に必要な基礎となる数理法則と物理原理に関する理論的知識（専門に関する基礎学力）

(d)(2)(b)　プログラムの目標に適合する実験を計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，かつ説明する能力（実験の計画遂行能力）

(d)(2)(c)　プログラムの目標に適合する課題を専門的知識，技術を駆使して探求し，組み立て，解決する能力（与えられた専門的課題を解決する能力）

(d)(2)(d)　プログラムの示す領域において，技術者が経験する実際上の問題点と課題を理解する能力（専門的課題の設定能力）

(e)　種々の科学，技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

(f)　日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

(g)　自主的，継続的に学習できる能力

(h)　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力

電子システム工学科　学習・教育目標とJABEE基準１の(1)の(a)～(h)との対応

		(a)	(b)	(c)	(d)					(e)	(f)	(g)	(h)
					(d)(1)	(d)(2)(a)	(d)(2)(b)	(d)(2)(c)	(d)(2)(d)				
A	A-1	◎	○								○	○	
	A-2	○	◎										
B		○									◎		
C				◎		◎							
D	D-1				◎	○		◎	○				
	D-2				◎	○		◎	○				
E	E-1				○		◎	○			○	○	○
	E-2				○		○	○	◎	◎	○		◎
F											◎		
G												◎	

電子システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その1）

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間（時間）学習内容の区分			学習・教育目標に対する関与の程度									
							人文科学社会科学語学	数学自然科学情報技術	専門分野	A－1	A－2	B	C	D－1	D－2	E－1	E－2	F	G
全学共通科目	全学共通基礎科目	英語Ⅰ（留学生は必修でない）	2	必修	1・通年	45	45					◎							
		英語Ⅱ（留学生は必修でない）	2	必修	1・通年	45	45					◎							
		英語Ⅲ（留学生は必修でない）	2	必修	2・通年	45	45					◎							
		英語Ⅳ（留学生は必修でない）	2	必修	2・通年	45	45					◎							
		ドイツ語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○							
		ドイツ語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○							
		フランス語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○							
		フランス語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○							
		中国語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○							
		中国語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○							
		朝鮮語Ⅰ	2	選択	1・通年	45	45					○							
		朝鮮語Ⅱ	2	選択	2・通年	45	45					○							
		初習英語Ⅰ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45					○							
		初習英語Ⅱ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45					○							
		日本語Ⅰ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45					○							
		日本語Ⅱ（留学生のみ）	2	選択	1・通年	45	45					○							
		日本語Ⅲ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45					○							
		日本語Ⅳ（留学生のみ）	2	選択	2・通年	45	45					○							
		英語ＶＡ	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○							
		英語ＶＢ	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○							
		英語ⅥＡ	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○							
		英語ⅥＢ	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○							
		ドイツ語ⅢＡ	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○							
		ドイツ語ⅢＢ	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○							
		フランス語ⅢＡ	1	選択	3,4・前期	22.5	22.5					○							
		フランス語ⅢＢ	1	選択	3,4・後期	22.5	22.5					○							
		情報科学概論	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎						
		情報リテラシー（情報倫理を含む）	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎						
		プログラミング基礎	2	選択	2・前期	22.5		22.5					○						
		健康・体力科学Ⅰ	1	必修	1・後期	22.5	22.5			○									
		健康・体力科学Ⅱ	1	必修	2・前期	22.5	22.5			○									
	人間学	環境マネジメント総論	2	必修	1・前期	22.5	22.5				◎								
		人間探求学	2	必修	1・前期	22.5	22.5			◎									
		自然保護論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		滋賀の自然史	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		持続的農業論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		びわこ環境行政論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		材料史	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		機械技術と人間	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		現代経済論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		差別と人権（同和問題）	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		比較文明論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		比較都市論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		近江文化論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		人間と自然界	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		こころのテクノロジー	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		人間とことば	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		詩歌と人間	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		東洋思想時空論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		異文化理解A	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		異文化理解B	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		人間と病気	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		セルフケア論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		人間にとって環境とは何か	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		環境行動論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		若者の健康と栄養	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		地元学入門	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		自然科学の視点	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		空間計画論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		電子社会と人間	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		比較住居論	2	選択	1,-,4・前期	22.5	22.5			○									
		生命・人間・倫理	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		社会福祉論	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		遺伝子と社会	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		性を考える	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									
		地域探求学	2	選択	1,-,4・後期	22.5	22.5			○									

平成22年度以前入学生については各入学年次の履修の手引を参照のこと。

電子システム工学科　授業科目別授業時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度（その2）

区分		授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数（時間）	授業時間（時間） 学習内容の区分			学習・教育目標に対する関与の程度									
							人文科学社会科学語学	数学自然科学情報技術	専門分野	A－1	A－2	B	C	D－1	D－2	E－1	E－2	F	G
専門科目	学部共通基礎科目	材料科学概論	2	選択	1・前期	22.5			22.5					○					
		機械システム工学概論	2	選択	1・前期	22.5			22.5					○					
		電子システム工学概論	2	必修	1・前期	22.5			22.5					◎					
		確率統計	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎						
		微積分Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎						
		微積分Ⅱ	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎						
		線形代数Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎						
		線形代数Ⅱ	2	選択	1・後期	22.5		22.5					○						
		基礎力学	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎						
		基礎電磁気学	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎						
		電子と化学結合	2	選択	1・後期	22.5		22.5					○						
		基礎化学	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎						
		分析化学	2	選択	1・前期	22.5		22.5					○						
		基礎電気電子回路	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎						
		物理学実験	2	必修	1・後期	45		45					◎						
		微積分続論	2	選択	2・前期	22.5		22.5					○						
		工業数学	2	必修	2・後期	22.5		22.5					◎						
		微分方程式	2	選択	2・前期	22.5		22.5					○						
		分析・環境化学実験	2	選択	2・前期	45		45					○						
		科学技術英語	2	必修	3・前期	22.5	22.5					◎							
		工業数理	2	選択	3・前期	22.5		22.5					○						
		技術者倫理	2	必修	3・後期	22.5	22.5				◎								
		産業技術マネジメント	2	選択	4・後期	22.5	22.5				○								
	※	無機化学Ⅰ	2	選択	2・前期	22.5		22.5					○						
	学科基礎科目	電子システム工学セミナー	2	選択	1・前期	67.5			67.5							○			○
		電磁気学Ⅰ	2	必修	2・前期	22.5			22.5					◎					
		電磁気学Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5			22.5					○					
		電気回路Ⅰ	2	必修	2・前期	22.5			22.5					◎					
		電気回路Ⅱ	2	選択	2・後期	22.5			22.5					○					
		電子回路Ⅰ	2	必修	2・後期	22.5			22.5					◎					
		量子力学概論	2	選択	2・前期	22.5			22.5					○					
		物性デバイス基礎論	2	選択	2・後期	22.5			22.5					○					
		半導体基礎	2	必修	2・後期	22.5			22.5					◎					
		コンピュータハードウェア	2	必修	2・後期	22.5			22.5					◎					
		アルゴリズムとデータ構造	2	必修	2・前期	22.5			22.5					◎					
		プログラミング言語	2	必修	2・後期	22.5			22.5					◎					
		ディジタル信号処理	2	選択	2・後期	22.5			22.5					○					
		情報理論	2	選択	2・前期	22.5			22.5					○					
		電子システム工学実験Ⅰ	2	必修	2・前期	67.5			67.5							◎			
		電子システム工学実験Ⅱ	2	必修	2・後期	67.5			67.5							◎			
		電子システム工学演習Ⅰ	1	必修	2・前期	22.5			22.5					◎					◎
		電子システム工学演習Ⅱ	1	必修	2・後期	22.5			22.5					◎					◎
		電子回路Ⅱ	2	必修	3・前期	22.5			22.5					◎					
		電気電子計測Ⅰ	2	必修	3・前期	22.5			22.5					◎					
		電気電子計測Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5			22.5					○					
		電気エネルギーシステム工学	2	選択	3・前期	22.5			22.5					○					
		半導体デバイス	2	選択	3・前期	22.5			22.5					○					
		制御工学	2	選択	3・前期	22.5			22.5					○					
		電力工学Ⅰ	2	選択	3・前期	22.5			22.5					○					
		電力工学Ⅱ	2	選択	3・後期	22.5			22.5					○					
		情報通信工学	2	選択	3・前期	22.5			22.5					○					
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択	3・前期	22.5			22.5					○					
		数値解析・数値計算	2	選択	3・後期	22.5			22.5					○					
		コンピュータソフトウェア	2	必修	3・前期	22.5			22.5					◎					
		電子システム工学実験Ⅲ	2	必修	3・前期	67.5			67.5							◎			
		電子システム工学実験Ⅳ	2	必修	3・後期	67.5			67.5								◎		
		電子システム工学演習Ⅲ	1	必修	3・前期	22.5			22.5					◎					
	学科専門科目	電磁波工学	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		電気機器	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		応用電子機器	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		集積回路設計基礎	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		電子デバイス	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		マルチメディア	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		インターネット工学	2	選択	3・後期	22.5			22.5						○				
		集積化プロセス工学	2	選択	4・前期	22.5			22.5						○				
		プラズマ工学	2	選択	4・前期	22.5			22.5						○				
		パワーエレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5			22.5						○				
		光エレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5			22.5						○				
		ロボット工学	2	選択	4・前期	22.5			22.5						○				
		電気関係法規・施設管理	2	選択	4・後期	22.5			22.5						○				
		卒業研究	8	必修	4・通年	90			90						◎		◎	◎	◎

※複数学科共通科目

工学部電子システム工学科卒業要件

平成２３年度入学生適用の卒業要件です。

（１）全学共通科目（計３０単位以上）　必修１８単位、　選択必修１２単位以上		
①全学共通基礎科目　１８単位以上		
第一外国語	英語（Ⅰ～Ⅳ）　８単位（必修）	
第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ 朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上（選択必修）	
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論　４単位（必修）	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位（必修）	
②人間学	１２単位以上（「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）	

（２）専門科目	学部共通基礎科目・複数学科共通科目 学科基礎科目・学科専門科目 必修６５単位、選択３５単位以上		（計１００単位以上）
①学部共通基礎科目・複数学科共通科目			２６単位
	学科の科目配当表に指定する必修科目	２６単位	
②学科基礎科目			４７単位以上
	学科の科目配当表に指定する必修科目	３１単位	
	学科の科目配当表に指定する選択科目	１６単位以上	
③学科専門科目			２０単位以上
	学科の科目配当表に指定する必修科目	８単位	
	学科の科目配当表に指定する選択科目	１２単位以上	

合　計　　１３０単位以上

註１：外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語Ⅰ～Ⅳまたは日本語Ⅰ～Ⅳから選択必修（８単位）。第二外国語は、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、初習英語Ⅰ・Ⅱ、英語Ⅰ～Ⅳ、日本語Ⅰ～Ⅳから選択必修（４単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註２：電子システム工学科の科目配当表に指定する専門科目以外に、工学部他学科の科目配当表に指定する専門科目も、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。

註３：他学部専門科目および全学共通科目あわせて６単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、その科目を担当する教員の指示を受けること。

工学部電子システム工学科　年次別科目配当表

区　分		１　年　次		２　年　次	
全学共通科目	全学共通基礎 ※　留学生 P.12参照	◎英語Ⅰ	２通	◎英語Ⅲ	２通
		◎英語Ⅱ	２通	◎英語Ⅳ	２通
		○第二外国語Ⅰ	２通	○第二外国語Ⅱ	２通
		独語･仏語･中国語･朝鮮語･※１初習英語		独語･仏語･中国語･朝鮮語･※１初習英語	
		◎情報科学概論	２後	プログラミング基礎　※３	２前
		◎情報リテラシー(情報倫理を含む)※２	２前	◎健康･体力科学Ⅱ	１前
		◎健康･体力科学Ⅰ	１後		
	人　間　学	◎環境マネジメント総論	２前		
		◎人間探求学	２前		
		上記必修科目以外の人間学科目から４年間で８単位選択必修			

※１初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。（詳細については、p. 12、47参照）

※２平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅰ」（必修１単位）に読み替えます。

※３平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅱ」（必修１単位）に読み替えます。

専門科目	学部共通基礎	材料科学概論（奥 廣川）	２前	微積分続論（谷口）	２前
		機械システム工学概論	２前	◎工業数学（松下）	２後
		（山根 高松 南川 栗田 中川）		微分方程式（谷口）	２前
		◎電子システム工学概論（稲葉）	２前	分析・環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	２前
		◎確率統計（安藤）	２後	（秋山 菊地 山下 谷本 鈴木 竹原 菅原）	
		◎微積分Ⅰ（松下）	２前	無機化学Ⅰ（複数学科共通）	２前
		◎微積分Ⅱ（谷口）	２後	（松岡）	
		◎線形代数Ⅰ（松下）	２前		
		線形代数Ⅱ（谷口）	２後		
		◎基礎力学（河﨑）	２前		
		◎基礎電磁気学（乾）	２後		
		電子と化学結合（松岡）	２後		
		◎基礎化学（奥）	２前		
		分析化学（菊地）	２前		
		◎基礎電気電子回路（岸根）	２後		
		◎物理学実験（コンピュータ活用を含む）	２後		
		（田中他 田邉 近藤千 福岡 竹内 木村）			
	学科基礎	電子システム工学セミナー	２前	◎電磁気学Ⅰ（作田）	２前
		（奥村 岸根）		電磁気学Ⅱ（福岡）	２後
				◎電気回路Ⅰ（坂本）	２前
				電気回路Ⅱ（乾）	２後
				◎電子回路Ⅰ（稲葉）	２後
				量子力学概論（柳澤）	２前
				物性デバイス基礎論（竹内）	２後
				◎半導体基礎（柳澤）	２後
				◎コンピュータハードウェア（奥村）	２後
				◎アルゴリズムとデータ構造（奥村）	２前
				◎プログラミング言語（畑中）	２後
				ディジタル信号処理（宮城）	２後
				情報理論（畑中）	２前
				◎電子システム工学実験Ⅰ（学科教員全員）	２前
				◎電子システム工学実験Ⅱ（学科教員全員）	２後
				◎電子システム工学演習Ⅰ（作田 奥村 坂本）	１前
				◎電子システム工学演習Ⅱ（稲葉 柳澤 畑中）	１後
	学科専門				
		１年次必修	２０	２年次必修	２２

◎：必修　　○：選択必修　　無印：選択

３　年　次	４　年　次	配当単位数
英語ＶＡ　１前 英語ＶＢ　１後 英語ⅥＡ　１前 英語ⅥＢ　１後 ドイツ語ⅢＡ　１前 ドイツ語ⅢＢ　１後 フランス語ⅢＡ　１前 フランス語ⅢＢ　１後		必修　１４ 選択必修　１６ 選択　１０
		必修　4 選択必修　６６

◎科学技術英語　２前 （柳澤　奥村　宮城　竹内） 工業数理（松下）　２前 ◎技術者倫理　２後 （廣川　中川　柳澤）	産業技術マネジメント　２後 （安田昌　他）	必修　２６ 選択　２２ 選択には、複数学科共通科目の２単位を含む。
◎電子回路Ⅱ（稲葉）　２前 ◎電気電子計測Ⅰ（福岡）　２前 電気電子計測Ⅱ（作田）　２後 電気エネルギーシステム工学（乾）　２前 半導体デバイス（竹内）　２前 制御工学（稲葉）　２前 電力工学Ⅰ（坂本）　２前 電力工学Ⅱ（坂本）　２後 情報通信工学（岸根）　２前 コンピュータアーキテクチャ（奥村）　２前 数値解析・数値計算（谷口）　２後 ◎コンピュータソフトウェア（畑中）　２前 ◎電子システム工学実験Ⅲ　２前 （学科教員全員） ◎電子システム工学実験Ⅳ　２後 （学科教員全員） ◎電子システム工学演習Ⅲ　１前 （畑中　竹内　坂本）		必修　３１ 選択　３２
電磁波工学（作田）　２後 電気機器（乾）　２後 応用電子機器（稲葉）　２後 集積回路設計基礎（岸根）　２後 電子デバイス（柳澤）　２後 マルチメディア（奥村）　２後 インターネット工学（畑中）　２後	集積化プロセス工学（柳澤）　２前 プラズマ工学（坂本）　２前 パワーエレクトロニクス（乾）　２前 光エレクトロニクス（竹内）　２前 ロボット工学（作田）　２前 電気関係法規・施設管理（多山）　２後 ◎卒業研究（学科教員全員）　８通	必修　8 選択　２６
３年次必修　１５	４年次必修　8	専門必修　６５

電子システム工学科配当の専門科目は、配当された学年よりも前の学年で履修することはできません。

電子システム工学科　学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人間探求学	健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ					
	「人間学」の必修科目以外から4科目選択必修							
A-2	環境マネジメント総論					技術者倫理		産業技術マネジメント
B	第一外国語Ⅰ※1		第一外国語Ⅲ※1		科学技術英語			
	第一外国語Ⅱ※1		第一外国語Ⅳ※1					
	第二外国語Ⅰ※2		第二外国語Ⅱ※2					
C	情報リテラシー（情報倫理を含む）	情報科学概論	プログラミング基礎					
		確率統計		工業数学	工業数理			
	微積分Ⅰ	微積分Ⅱ	微積分続論					
	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	微分方程式					
	基礎力学	物理学実験						
		基礎電磁気学						
		基礎電気電子回路						
	基礎化学	電子と化学結合	無機化学Ⅰ					
	分析化学		分析・環境化学実験					
D-1			電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電気電子計測Ⅰ	電気電子計測Ⅱ		
	材料科学概論			電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ			
			電気回路Ⅰ	電気回路Ⅱ	制御工学			
	機械システム工学概論				電力工学Ⅰ	電力工学Ⅱ		
					電気エネルギーシステム工学			
	電子システム工学概論			半導体基礎	半導体デバイス			
			量子力学概論	物性デバイス基礎論				
			情報理論	ディジタル信号処理	情報通信工学			
				コンピュータハードウェア	コンピュータアーキテクチャ			
			アルゴリズムとデータ構造	プログラミング言語	コンピュータソフトウェア	数値解析・数値計算		
			電子システム工学演習Ⅰ	電子システム工学演習Ⅱ	電子システム工学演習Ⅲ			
D-2						電磁波工学	プラズマ工学	
						電子デバイス	光エレクトロニクス	
						電気機器	パワーエレクトロニクス	電気関係法規・施設管理
						集積回路設計基礎	集積化プロセス工学	
						応用電子機器	ロボット工学	
						マルチメディア		
						インターネット工学		
							卒業研究	
E-1	電子システム工学セミナー		電子システム工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅲ			
E-2						電子システム工学実験Ⅳ	卒業研究	
F							卒業研究	
G	電子システム工学セミナー		電子システム工学演習Ⅰ	電子システム工学演習Ⅱ			卒業研究	

※1　英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2　ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、初習英語（留学生のみ）、英語（留学生のみ）、日本語（留学生のみ）から選択必修。

科目名	アルゴリズムとデータ構造
担当教員	奥村　進
授業概要	コンピュータを用いて現実世界の問題を解くためにはコンピュータソフトウェアを作成する必要がある。ソフトウェアの作成において、データ構造は問題をコンピュータでどのように表現するかという技法であり、アルゴリズムは典型的な問題の解決法である。本講義では、配列、リスト、スタック、キューなどの基本的なデータ構造と、探索、ソート、文字列照合などの基本的なアルゴリズムについて講述し、プログラミングにおける基礎知識を身につける。
到達目標	(1)基本的なデータ構造を理解し、アルゴリズムの記述において利用できる。 (2)基本的なアルゴリズムを理解し、その考え方を説明できるとともに、プログラムにおいて利用できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：五十嵐 健夫著「データ構造とアルゴリズム」（数理工学社）。プリントを適宜配布する。 参考書：A.V. エイホ、J.E. ホップクロフト、J.D. ウルマン著、大野 義夫（訳）「データ構造とアルゴリズム」（培風館） 指定図書：柴田 望洋、辻 亮介著「明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造」（ソフトバンククリエイティブ）
成績評価	期末試験80％、レポート20％：講義で取り上げた内容に関する基礎的事項と応用的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	インターネット工学
担当教員	畑中　裕司
授業概要	インターネットを構築している技術とその仕組みについて学習することを本講義の目的とする。インターネットの通信のプロトコルであるTCPやIPに重きを置きながら講義し、電子メールやWebの仕組みなどのサーバ技術についても講義する。さらに、情報システムのセキュリティ問題と、その対策方法について講義する。
到達目標	(1)TCPの仕組みについて説明できること。(2)IPの仕組みについて説明できること。(3)Webや電子メールの仕組みを説明できること。(4)ネットワーク機器について説明できること。(5)セキュリティの課題と対策について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：竹下隆史、村山公保、荒井透、苅田幸雄著「マスタリング TCP/IP 入門編」（オーム社） 指定図書：後藤滋樹、外山勝保著「インターネット工学」（コロナ社） 参考書：富士通オフィス機器編「事例で学ぶ情報セキュリティ」（FOM出版）
成績評価	期末試験80%、レポート20%として、それらの合計で評価し、60%以上の成績で合格とする。

科目名	エネルギー・界面科学
担当教員	奥　健夫
授業概要	様々な物質は電気伝導性の観点から見ると、導体、半導体、絶縁体に分けられる。現代科学技術を支える様々な材料は、これらの物質の様々な界面の組み合わせからできていて、界面における光・電子の振る舞いが、材料の性能を左右する。本講義では特に半導体に重点をおいて、各種界面の原子レベルの構造と物性を理解し、エネルギー、情報、環境分野の基礎となる材料開発の基礎について講義する。
到達目標	今後の高機能材料の研究開発に必要不可欠な、半導体界面を中心とした界面構造制御と電子・光物性の関係を理解することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：講義の中で適宜紹介する。
成績評価	課題評価100％　エネルギー・界面科学の原理・法則を理解し、初等問題に応用できること

科目名	エネルギー変換工学
担当教員	河﨑　澄
授業概要	環境負荷低減と省エネルギーのためのエネルギー変換工学に関わる基礎知識と現状を理解することを目的とする。このために，エネルギー形態，変換システム，資源や将来の見通し，風力，太陽光，バイオマスなどの新エネルギーや地球温暖化ガスによる温暖化メカニズムやその低減方法に関して理解を深め，ライフサイクルを考慮したエネルギー変換システムの考え方を習得する。
到達目標	(1)利用可能なエネルギー資源の種類と特徴およびエネルギー変換経路を説明できる。 (2)移動用・発電用機関の種類と動作原理を説明できる。 (3)分散型エネルギー供給システムの構成とその導入メリットを説明できる。 (4)各種新エネルギー利用技術を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布する。 参考書:柳父・西川『エネルギー変換工学』(東京電機大学出版局)など
成績評価	期末筆記試験70%，ミニレポート30%により評価する。

科目名	応用電子機器
担当教員	稲葉　博美
授業概要	自動車分野への電子システム応用を例にとり，電子技術がどのようにシステムの知能化に貢献しているかを具体的な事例で学ぶ。 あわせて、制御，パワーエレクトロニクス，通信，電子回路などの要素技術についても、その概要について触れる。
到達目標	電子システム応用に関して、以下を目標とする。 (1)対象システムを理解できること。(2)対象システムの制御系の動作・制御法が理解できること。(3)回路動作の概要が理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:荒井　宏　著『自動車の電子システム』(理工学社) 指定図書:持永芳文　著『電気鉄道技術入門』(オーム社)、電気学会　編『電気鉄道工学』(コロナ社) 参考書:森羅万象　著『電子機器解体新書』(工学社)、乾　昭文　著『電気電子工学通論』(実教出版)
成績評価	小テスト、レポート:50%　:制御，回路の基礎，対象システムについて理解ができること 期末試験:50%　　:小テストの範囲の理解に加え、パワーエレクトロニクスや通信分野などシステム応用について概要が理解できること

科目名	科学技術英語（材料科学）
担当教員	学科教員
授業概要	自然科学とそれに立脚する技術には世界的な普遍性があるため、その学習、活用、情報発信には、共通語として専門英語の習得が必須である。また近代科学の発達の場であったヨーロッパの言語で自然科学を学ぶことは、その奥底にある思考法の理解に役立つ。たとえば、日本語での「関数」と「機能」は英語では共に“function”であり、基本的に同一概念と捉えられていることがわかる。本講では、科学技術英語の基礎を学んだのち、各学科に固有の英語を学ぶことで、その奥に横たわる概念の理解を目指す。
到達目標	(1)科学技術英語に関する文章について，それに独特の語法と専門的な単語に留意しながら日本語に訳せること。 (2)科学技術に関する簡単な日本語の文を英語に訳せること。 (3)科学と技術の諸概念について英語を通して考えられること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:（1） 志村史夫著 「理科系のための英文法」 ジャパンタイムズ （2） David E. Goldberg著　Schaum’s Outlinesシリーズ「Theory and Problems of Beginning Chemistry (3rd Ed.)」 McMraw-Hill
成績評価	宿題（40%） 授業中の発表（40%） 英語でのプレゼンテーション（20%）（ただし欠席と大幅な遅刻の合計が4回以上の場合は自動的に不可とする。） 上記のすべての評価方法において，材料科学科に関係の深い科学技術英語について，文章の英文和訳と簡単な文の和文英訳ができること。

科目名	科学技術英語（機械システム）
担当教員	学科教員
授業概要	自然科学とそれに立脚する技術には世界的な普遍性があるため，その学習，活用，情報発信には，共通語として専門英語の習得が必須である。また近代科学の発達の場であったヨーロッパの言語で自然科学を学ぶことは，その奥底にある思考法の理解に役立つ。たとえば，日本語での「関数」と「機能」は英語では共に
到達目標	(1)科学技術英語に関する文章について，それに独特の語法と専門的な単語に留意しながら日本語に訳せること。[B] (2)科学技術に関する簡単な日本語の文を英語に訳せること。[B] (3)機械システム工学の基礎について英語を通して考えられること。[D-1，D-2]
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし（適宜プリント配布），指定図書：なし 参考書：理工系学生のための科学技術英語（南雲堂）ほか，講義中に紹介する。
成績評価	期末筆記試験（50％） 宿題（20％） 小テスト（30％） 上記のすべての評価方法において，各学科に関係の深い科学技術英語について，文章の英文和訳と簡単な文の和文英訳ができること。

科目名	科学技術英語（電子システム）
担当教員	柳澤　淳一 ・ 宮城　茂幸 ・ 奥村　進 ・ 竹内　日出雄
授業概要	自然科学とそれに立脚する技術には世界的な普遍性があるため、その学習、活用、情報発信には、共通語として専門英語の習得が必須である。また近代科学の発達の場であったヨーロッパの言語で自然科学を学ぶことは、その奥底にある思考法の理解に役立つ。たとえば、日本語での「関数」と「機能」は英語では共通に“function”であり、基本的に同一概念と捉えられていることがわかる。本講では科学技術英語の基礎を学んだのち、各学科固有の英語を学ぶことで、その奥に横たわる概念の理解を目指す。
到達目標	(1)科学技術英語に関する文章について、それに独特の語法と専門的な単語に留意しながら日本語に訳せる。(2)科学技術に関する簡単な日本語の文を英語に訳せる。(3)科学と技術の諸概念について英語を通して考えられる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：谷口滋次、飯田孝道、田中敏宏、John D. Cox著「英語で書く科学・技術論文」（東京化学同人）。プリントを適宜配布する。 指定図書：「工業英検3級対策」（日本工業英語協会）、「工業英検4級対策」（日本工業英語協会） 参考書：兵藤申一著「科学英文技法」（東京大学出版会）、「工業英検2級対策」（日本工業英語協会） 「工業英検1級対策」（日本工業英語協会） 適宜紹介する
成績評価	期末筆記試験(25％)、宿題(25％)、授業中の発表(25％)、小テスト(25％) 上記すべての評価方法において、各学科に関係の深い科学技術英語について、文章の英文和訳と簡単な文の和文英訳ができること。

科目名	化学工学
担当教員	田門　肇※ ・ 牧　泰輔※
授業概要	化学工学という学問が、化学の新しい発見や発明を如何に具現化し″もの″として世に出すために貢献してきたかを知り、化学工学の基本的な考え方を学ぶ。授業の内容は、まず、化学工学とはいかなる学問かについて述べる。次に、化学工学の最も基本となる物質、エネルギーの保存則の考え方を学び、その定量的な表現法を習得する。さらに、それらの考え方を活かし、化学製品を現実に生産するための装置・システムの設計・制御法を、分離操作と反応操作を中心に学ぶ。
到達目標	化学プロセスにおける物質収支，エネルギー収支の考え方を理解し、分離および反応プロセスに応用できる能力を涵養する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：橋本健治・荻野文丸編「現代化学工学」（産業図書） 参考書：古崎新太郎他「化学工学（役にたつ化学シリーズ8）」（朝倉書店） 橋本建治編「ケミカルエンジニアリング　夢を実現する工学 」（培風館）
成績評価	期末筆記試験 70％ レポート評価 30％ 化学プロセスにおける量的関係を理解できており、簡単な物質の分離精製と反応操作に応用できること

科目名	化学熱力学
担当教員	山下　義裕
授業概要	化学熱力学におけるエンタルピーとエネルギーという概念を物質の化学ポテンシャルを使うことで平衡および自発的変化の方向について首尾一貫した見方が得られることを理解する.
到達目標	(1)熱力学の第一法則と第二法則の結合の理解ならびに実在気体を記述するフィガシーの定義とこれの圧力の関係を理解する(2)固体・液体・気体の相図を理解する(3)溶液の混合状態の熱力学を理解する (4)2成分系の相図の作成を理解する (5)化学平衡を理解する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:アトキンス物理化学第8版
成績評価	中間ミニテスト(2回)10点　学習発表20点(全員が14回の授業の中で1回は発表する)　試験70点

科目名	確率統計
担当教員	安藤　韶一※
授業概要	確率の概念を知る。「同じように確からしい」という素朴な捉え方から進んで、一般的な場合にも確率概念が打ち立てられることが要点である。確率概念を一般化した後、確率論の基本概念を学び、それらを基礎として、推定(標本から集団全体の特性などを推測する)や検定(母集団に対する統計的仮説を吟味する) を知る。 また、実験データなどで、2種の変量の関わり具合の取れ方も身に付けたい。
到達目標	(1) 確率変数、事象の独立性などの基本概念が理解でき、(2) 推定・検定の根底に確率の概念があることが分り、(3) 具体的な場面に応じて適切な推定・検定の手段が選べる。 さらに、述語が適切に使用でき、論理的な説明ができることである。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『データ科学の基礎 統計学講義』稲垣ほか、裳華房 参考書:その都度、紹介する。
成績評価	レポート 60 %、テスト 40 %。レポートは4 – 5回予定。出席点は考慮しない。 レポートでは、結果のみならず、必要な説明があるか、データ処理の結果からどういう主張をなすか、など論理的な構成をもつ文章能力も重視する。出席点は考慮しない。なお、中学・高校段階の基本事項に関する過ちは、厳しく減点する。

科目名	環境調和化学
担当教員	廣川　能嗣
授業概要	人間の活動が地球環境に与える影響について，主要な問題を化学的な観点から捉えて，地球環境を良好に保全し，持続可能な社会の発展について考える。化学物質による水・土壌・空気の環境汚染，化学物質の人体への影響をはじめ，人間活動が及ぼす生態環境への影響として，気候変動，温暖化，エネルギー・資源枯渇など地球的規模の問題についても取り上げる。また，環境関連法令についても講述し，生産活動に従事する研究者にとって必要な環境保全に関する知識を深める。
到達目標	(1)環境問題の歴史について説明できる。 (2)環境関連法令について説明できる。 (3)地球環境問題の諸原因を説明でき取るべき解決策を提案できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:地球の環境と化学物質(三共出版) 指定図書:人間・環境・安全ー暮らしの安全科学ー(共立出版) 参考書:環境 ここがポイント(三共出版)、新訂環境の科学(三共出版)、環境科学(東京化学同人)
成績評価	レポート(50%)＋期末試験(50%)

科目名	機械材料学
担当教員	高松　徹
授業概要	機械設計における材料の選定，機械の製作・材料の加工のためには，機械的性質，化学的性質，加工性，機能性，経済性，環境との調和を考慮することが必要である。本講義では，材料科学の基礎について述べた後，鉄鋼材料，非鉄金属材料などの汎用材料，高分子材料，セラミックス，複合材料，機能性材料などの新材料の特性について述べる。さらに，材料強度の基礎および様々な機械的性質を評価するための材料試験についても述べる。
到達目標	金属の基本的構造，および合金の結晶構造について説明できる。金属材料の機械的性質，および材料試験法について説明できる。鋼の平衡状態図について説明できる。鉄鋼材料の基本的特性，熱処理について説明できる。セラミック材料，高分子材料，複合材料について，基本的特性を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「機械材料学」（日本機械学会） 指定図書：鈴村暁男、浅川基男著「基礎機械材料」（培風館） 参考書：野口徹、中村孝著「機械材料工学」（工学図書）
成績評価	中間試験・宿題（50％）　　期末試験（50％） 機械材料に関する様々な問題について，正確・簡潔な文章で説明できるかどうかを評価する。

科目名	機械システム工学概論
担当教員	山根　浩二　・　中川　平三郎　・　高松　徹　・　栗田　裕　・　南川　久人
授業概要	機械は電気，電子，情報，化学，材料など多くの学問や技術とシステム的に密接に結びついており，機械技術者のみならず工学を学ぶ技術者にとって，機械システム工学の基礎知識は必須である。機械システム工学とはどのような学問か，それが社会でどのように活用されているかを，オムニバス形式でわかりやすく講義する。
到達目標	機械工学における熱力学，流体力学，材料力学，機械力学，工業力学，制御工学，設計製図，機械製作，および生産工学の概要が理解でき，身近な機械のしくみを説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：資料を配布する。
成績評価	小試験およびレポート50％　期末試験50％

科目名	機械システム工学実験Ⅰ
担当教員	南川　久人　・　田邉　裕貴　・　大浦　靖典　・　近藤　千尋　・　和泉　遊以
授業概要	機械システム工学の基礎知識の体得，実験に関する基礎知識・技術の習得が授業の目的である。機械システム工学に関連する基礎実験を通して，熱力学，流体力学，材料力学，機械力学などの講義で学んだ知識の理解を深める。受講者を4つのグループに分けて，4つの実験をローテーションする。
到達目標	(1)熱力学，流体力学，材料力学，機械力学の講義で学んだ知識に関連した実験を行うことにより，これらを具体的に理解し，説明でき，ものづくりに応用できるようになる(D-3)。(2)課題に対して学習した成果を教員や班員の前で発表・討論し，わかりやすく伝える能力と，意見を聴いて理解する能力を身につける(F)。(3)課題を実験により解決するために実験計画を作って，計画力を養う(H)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：実験指導書（授業の中で配布する。） 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介
成績評価	実験報告書　70％　課題演習30％ 全回に出席し、実験報告書をすべて受理されることが単位を取得するために必要である。

科目名	機械システム工学実験Ⅱ
担当教員	安田　寿彦　・　河﨑　澄　・　小川　圭二　・　安田　孝宏
授業概要	機械システムの設計製作に必要な基礎能力を体得する。簡単な機械システムの設計・試作・評価実験を通して，未知の課題に対する工学的手法によるアプローチを体得する。4つのテーマから1つのテーマを選択してを実験する。これまでに，設定されたテーマの例としては「小型スターリングエンジンの設計・製作および性能試験」，「風力発電機の製作および性能評価」，「定量水くみ装置の製作と性能評価」，「マイクロコンピュータ応用システムの製作および性能評価」などがある。
到達目標	(1)熱，流体，材料力学および機械要素，機械設計製図などの専門知識を活用して，課題の設計・製図ができる(E)(2)コスト，製作期間，加工工程などを考慮して、計画的に材料調達，さらに加工・組立などを行い，試作機が製作できる(H)。(3)調査，評価，改良を通して、積極的かつ自主的に問題解決に取り組むことができる(G)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：実験指導書（授業の中で配布する。） 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介
成績評価	実験遂行能力（準備実験あるいは予備調査，構想力，設計能力，製作能力，評価・改良能力） 70％ 中間および最終報告 10％ 実験結果報告書 20％。 全回出席し，実験報告書を受理されることが単位を取得するために必要である。

科目名	機械システム工学セミナー
担当教員	高松　徹　・　安田　寿彦
授業概要	インクジェットプリンタ，電気掃除機，ビデオデッキ，使い捨てカメラ，目覚まし時計，などのように身近に存在している工業製品の分解および再組立を通じて機械システムの動作原理，構成要素，材料，加工，設計など，ものづくりにおいて重要かつ基礎的な事項について体験的に理解することにより，機械技術者として必要な素養を磨くことを目標とする。
到達目標	(1)様々な機械の「分解・組立」を行うことにより，機械技術者としての基本的な技能を学ぶ(D-1)。 (2)文書作成、図書館情報の効率的収集、プレゼンテーションなどに関する基本的な技能を学ぶ(G)。 (3)協力性やコミュニケーション能力を学ぶ(F)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを適宜配布する。
成績評価	全ての課題を提出する(70％)　定期試験(30%) 上記の評価法において，構成要素，メカニズムについて理解し，説明できる。与えられた課題について，わかりやすいプレゼンテーションができる。

科目名	機械製作
担当教員	中川　平三郎
授業概要	工学部の基本方針である「ものつくり教育」を成就するように勤める．その一講義として機械によって製品・部品を作る方法，基礎的な原理，機構について理解をし，後から習う講義課目との有機的結合を図る． 1つの製品や部品は様々な工程を経て造られる．要求されるコスト，精度，納期を達成するためには，様々な加工方法が考えられ，採用されている．これらの基本的な加工方法全般について理解する．
到達目標	(1)専門的な機械加工方法のイメージが掴めるようになる(D-1)．(2)様々な製品にある部品の製作方法が想像できるようになる(D-1)．(3)実際の部品を見て製作法の工夫点が読み取れるようになる(D-2)．(4)専門用語の内容が理解できる(D-2)．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：機械加工　朝倉書店 指定図書：機械製作通論（上）（下）、東京大学出版 参考書：機械加工学コロナ、精密工作法(上)(下)コロナ，機械加工学コロナ
成績評価	中間試験（40％），期末試験（60％） 機械製作は学習項目が多いので2分割して試験を行う．ただし期末試験では総合的な内容を織り込んだ試験とする．

科目名	機械製作実習
担当教員	河﨑　澄　・　小川　圭二
授業概要	受講生自らが工作機械を操作し，素材から製品を作り上げる作業を実習することにより，工業製品がどのような工程を経て作られるのかを理解するとともに，機械加工技術の基礎を習得することを目的とする。そのため，小型ヤンキーバイスの製作，NCプログラミング実習，表面粗さ・幾何公差測定を行う。さらに，本実習と並行して行われる機械設計製図の講義と連携し，課題の設計・製作を行うことにより，ものづくりの設計プロセスと加工プロセスの関係を理解する。実習は，少人数のグループを編成してローテーションで行う。
到達目標	(1)様々な工作機械の加工原理と基本動作を説明できる(D-1)。 (2)機械製図の意味を理解し，部品製作に必要な加工法と加工順序を説明できる(D-3)。 (3)各種工作機械を用いて基本的な形状の部品を製作することができる(D-3)。 (4)加工精度・表面粗さなどを評価することができ，加工条件との関係を説明できる(D-3)。 (5)製作プロセスを考慮した機械設計・製図ができる(D-1)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキストを配布する。 指定図書:「機械加工」(朝倉書店)，「機械製作通論(上)(下)」(東京大学出版)
成績評価	単位を取得するためには，原則として全ての実習に出席し，かつ作業報告書を提出しなければならない。その上で，作業習熟度20%，作業報告書40%，および確認テスト40%から評価する。

科目名	機械設計演習Ⅰ
担当教員	南川　久人　・　安田　孝宏
授業概要	製図総則に基づいて，CAD(Computer Aided Design;計算機援用設計)を利用した機械製図を行う技術を習得すると同時に，機械設計の基礎力を養うことを目的とした演習を行う。まず，2次元CADを用いて基本図形を描く方法，3次元CADによる設計の技法の基礎を，課題を通して学習する。その際，できるだけ機械要素や機械部品などを実際に眼で見て，指で触れて，設計・製図に反映する能力を養う。また，自ら設計したものをCAM(Computer Aided Manufacturing;計算機援用製造)システムにより実際に製作する技術を学ぶ。
到達目標	(1)機械設計製図で学んだ知識を活かし，2次元CADを利用した機械製図が描けるようになる。(2)3次元CAD，CAMによる設計の技法や評価方法を習得する。(3)これまでに学んだ力学等の知識を基礎に，与えられた機能や仕様に対し，簡単な機構で機能を発揮する機械を設計できる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:大西　清著「機械設計製図便覧」(理工学社):毎回持参すること。なお，CADソフトの操作ガイド，各課題の参考資料等は授業中に配布する。 指定図書:大西　清著「JISに基づく標準製図法」(理工学社)
成績評価	提出課題 65%　前半はほぼ毎回，後半は2回に1つ程度の割合で提出が必要な課題を与える。期限以内に必ずすべての課題を提出すること。授業には全回出席すること。 授業内での確認テスト 35%　本演習を通して学んだ設計法，製図総則に基づく製図法についての問題を出題する。さらに，2次元ならびに3次元CADによる製図の問題を課す。

科目名	機械設計演習Ⅱ
担当教員	田邉　裕貴
授業概要	機械設計の基礎およびCAEを用いた設計を，実験と演習を通して修得することを目的とする。まず，従来設計の基礎となる強度計算法，およびCAEの代表的手法である有限要素法(FEM)の基礎とモデリングについて学習する。その際，簡単な事例についての実験やFEMによる解析を講義と平行して行い，実際の現象や設計の基礎に関する理解を深める。さらに，機器に求められる性能から個々の機械要素部品の仕様を決定するに至るまでの流れと，CAEを用いた最新の設計技術について学ぶ。これらの内容をもとに，与えられた仕様を満足する歯車減速機の設計を行う。
到達目標	(1)材料力学などの講義で学んだ知識を機械設計に活用できる(D-3)。(2)機器に求められる性能から，機械要素部品の仕様を決定できる(E)。(3)設計書と図面により，設計内容を正確に表すことができる(D-3)。(4)簡単な事例についてFEMモデルを作成し，境界条件・荷重条件を設定できる。また，解析結果を機械設計に活用できる(E)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:網島・下間「機械設計学」オーム社、大西「機械設計製図便覧」理工学社、邉・他「標準 材料の力学」日刊工業新聞社 指定図書:東町「有限要素法のノウハウ」森北出版
成績評価	設計書(50%)，レポート(30%)，小テスト(20%)により評価する。

科目名	機械設計演習Ⅲ
担当教員	栗田　裕　・　大浦　靖典
授業概要	制御系設計では，「DCモータを用いた円板の回転位置決め制御」の課題を通して，動的システムの表し方（微分方程式，伝達関数，ブロック線図），フィードバック制御系の設計法（極配置，ボード線図），設計した制御系の性能評価法を修得する。制御系解析ソフト「MATLAB/Simulink」を用いて，制御系の設計とシミュレーション・実験による検証を行い，機械を制御することの面白さを体験させる。機構設計では，基本的なメカニズムであるリンク機構を取り上げ，ワイパーの設計を行う。設計結果を，機構解析ソフト「ADAMS」を用いて検証する。
到達目標	(1)動的システムを微分方程式・伝達関数・ブロック線図を用いて表せる（D－3）。(2)極配置・ボード線図を用いてフィードバック制御系を設計できる（E）。(3)設計した制御系の性能を評価できる（E）。(4)4節リンク機構を設計できる（E）。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし（授業内容に関するプリントを毎週配布する） 指定図書：田中正吾・山口静馬・和田憲造・清水光著『制御工学の基礎』（森北出版） 参考書：川田昌克・西岡勝博著『MATLAB/Simulinkによるわかりやすい制御工学』（森北出版）
成績評価	全回出席すること（病気等やむを得ず出席できないときは，必ず事前に担当教員に届け出て，代替授業の指示を受けること）。 小テスト 40%　設計課題①（制御系設計） 30%　設計課題②（機構設計） 30%

科目名	機械設計製図
担当教員	高松　徹
授業概要	機械の設計は図面という形で表現され，図面から設計者の意図、製作に必要な情報が得られる。最近，コンピュータを利用したCADシステムが広く使われるようになり，人が鉛筆を持って製図することが少なくなっているが，あらかじめ製図のルールを理解することが必要である。本講義ではJISにもとづく機械製図の基礎を習得することを目的として，実際に鉛筆と製図用具を使って，紙の上に図面を描きながら，機械製図のルールを学ぶ。
到達目標	正しい線の書き方および使い方，第三角投影法に基づく製図，断面図の書き方，補助投影図の書き方，ねじ、歯車等の基本機械要素の表し方，寸法の記入法，寸法公差と幾何公差および面の肌の記入法，ができる。製作を意識した図面を描くことができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：植松育三・他著 「初心者のための機械製図」（森北出版） 指定図書：大滝英政著 「最新JIS準拠・機械製図」（数理工学社） 参考書：津村利光・大西清著 「JISにもとづく機械設計製図便覧」（理工学社）
成績評価	全ての課題を提出すること（50%）　　定期試験（50%） 上記の評価法において，機械設計製図の課題についてJIS規格に基づいて正確に答えられること。

科目名	機械要素
担当教員	小川　圭二
授業概要	複雑な機械も基本的な機械要素を組み合わせて作られている。多くの機械要素は，どのような機械にも利用できるように，規格に基づいて標準化されていることから，代表的な機械要素の機能や構造を理解して設計できるようになれば，機械全体を設計する力が備わる。本講では，いろいろな機械に共通して使われるねじ，歯車，軸，軸受などの機械要素の働きを理解する。また，それぞれの機械の仕様に合わせて機械要素を設計するための基礎を習得する。
到達目標	(1)代表的な機械要素である締結要素，軸系要素，伝達要素について，種類や用途を説明できるようになる。(2)求められる機能に応じて適切な機械要素を選択（機能設計）することができるようになる。(3)さらに，機能を満たしつつ強度面でも十分な設計（強度設計）を行なうことができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：網島貞男・下間頼一 著『機械設計学第2版』（オーム社） 参考書：辺吾一・藤井透・川田宏之 共著『標準　材料の力学』（日刊工業新聞社），林洋次 著『機械要素概論1』（実教出版），林洋次 著『機械要素概論2』（実教出版）
成績評価	小テスト20%　講義内容を理解できていること。 期末試験80%　代表的な機械要素の種類や用途を説明することができ，機能設計・強度設計するための基礎力が身についていること。

科目名	機械力学Ⅰ
担当教員	栗田　裕
授業概要	質点・ばね・ダンパからなる簡単なモデルを用いて，自由振動，固有振動数，強制振動，共振など振動学の基礎を修得する。機械力学Ⅰでは，ばねの復元力のように質点に働く力が変位に依存して変化する場合の運動を取扱う。ばねに取付けた質点を静かに引張り手を離すと，質点はつりあい位置を中心に振動する（自由振動）。この質点を自由振動の周波数（固有振動数）で加振すると，小さな力でも大きな振動が発生する（共振）。講義では，動的設計の基礎である固有振動数の計算法や強制振動時の振幅，振動の伝達と絶縁について解説する。
到達目標	(1)1自由度振動系（直線振動・回転振動）の固有振動数を算出できる（D－1）。 (2)力加振・変位加振の強制振動の振幅を算出できる（D－2）。 (3)振動伝達・振動絶縁のシステムを設計できる（D－2）。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：入江敏博・小林幸徳著『機械振動学通論第3版』（朝倉書店） 指定図書：井上喜雄ら著『振動の考え方・とらえ方』（オーム社） 参考書：藤田勝久著『振動工学』（森北出版）
成績評価	小テスト　40％　　期末試験　60％

科目名	機械力学Ⅱ
担当教員	栗田　裕　・　大浦　靖典
授業概要	機械力学Ⅰで学んだ1自由度系の振動現象に関する知識に基づいて，多自由度系の振動や連続体の振動問題に対処する手法を修得する。また，単に振動現象の解析に焦点を当てるのではなく，解析結果に基づいて動的設計を行う能力を養うことも目指す。振動の解析手法としては，多自由度系や連続体の振動に関する固有振動数，固有振動モードの計算法や，強制振動時の振幅，振動の伝達について解説する。また，実際の振動現象を例題に用いて，振動現象のモデル化に始まる動的設計の演習を行うことで，解析能力を設計能力にまで高める。
到達目標	(1)2自由度振動系の固有振動数・固有振動モードを算出できる。 (2)2自由度振動系の伝達特性を算出できる。 (3)多自由度振動系の体系的な取り扱いができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：入江敏博・小林幸徳著『機械振動学通論第3版』（朝倉書店） 指定図書：背戸一登・丸山晃一著『振動工学 解析から設計まで』（森北出版） 参考書：安田仁彦著『振動工学基礎編』（コロナ社）
成績評価	小テスト　40％　　期末試験　60％

科目名	機器分析Ⅰ
担当教員	徳満　勝久
授業概要	物質の微細構造を解析するために用いられる紫外・可視吸収，蛍光分析・電子顕微鏡などの分析装置の原理と解析方法などについて講述する。また、試料物質の定量、原子・分子構造などを解析するための赤外・ラマン吸収などの各種測定技術について、化合物の判別や分子量測定に用いられる質量分析，クロマトグラフィー（ガスクロ、液クロ、GPC）や試料中に存在する微量元素分析に用いられる原子吸光・ICP発光分析について講義する。本講を通じ、材料の基礎的分析方法に関する素養を涵養し、あわせて研究に必要な実際的知識の修得をはかる。
到達目標	（1）各分析機器の原理について理解できる。 （2）それぞれの分析機器に関して，分析可能な項目について理解できる. （3）それぞのれ分析機器の特徴により，自ら実験で必要となる機器選定が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：庄野利之，脇田久伸編著、『入門機器分析化学』(三共出版) 指定図書：江藤守總編著，「機器分析の基礎」（裳華房） 参考書：講義の中で必要に応じて紹介する。
成績評価	期末試験（60％）＋講義時間内発表およびレスポンスシート等の内容（40％）

科目名	機器分析Ⅱ
担当教員	谷本　智史
授業概要	物質の構造を評価するために用いられる分析機器について、原理から測定例に至るまでの概略を講義する。核磁気共鳴分光法からは分子構造に関する情報が、熱分析、各種散乱・回折法からは内部の配列構造・規則構造に関する情報が得られる。また、表面の構造を分析するための装置としては反射率測定、XPS、プローブ顕微鏡を紹介する。
到達目標	各種分析機器の概略を理解する。機器分析Iで扱った分析機器も含め、欲しい情報に対して適切な分析手法を選択できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:授業中に紹介
成績評価	期末筆記試験80%、宿題20%

科目名	技術者倫理
担当教員	廣川　能嗣　・　中川　平三郎　・　柳澤　淳一
授業概要	科学技術を通して，人類は便利で豊かな生活を享受している。しかし，その一方で生命と安全を脅かす科学技術の負の側面も次第に明らかとなってきた。このため，科学技術に携わる者として，科学技術の正および負の両面から常に考えることが必要である。本講では，科学技術と技術者の関係，技術者の役割，科学技術の社会への影響について学ぶとともに，それらの基本となる技術者としての倫理について考える。
到達目標	(1) ものづくりにおける技術者の役割と責務について理解すること。 (2) 技術の持つ多面性を理解した上で，倫理的側面を含む分析ができること。 (3) 技術者の出会う倫理的問題について，社会的に望ましい解決法を考えられること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:オムニバス技術者倫理(共立出版) 参考書:技術者倫理(日本放送出版協会)、技術者の倫理(コロナ社)、技術者の倫理入門(丸善)、技術者倫理(丸善)、エンジニアのための哲学・倫理(実教出版)
成績評価	毎回の課題レポートで評価（100%）

科目名	基礎化学（材料）
担当教員	熊谷　勉
授業概要	化学は，原子間の結合の生成や切断と，その結果として生じる物質とに関する学問である。その基礎は，原子の構造から出発して原子間の結合を考える化学結合論と，原子や分子の集団としての安定性と変化を扱う熱力学である。さらに，物質の変化としての化学反応の分類と系統的扱いも，重要な要素である。そこで本講ではこれらについて，高等学校では別々の内容として習った事項間の関連性に留意しながら講義を行い，化学の基本となる諸概念の理解を目指す。
到達目標	(1)物質の構造がどのように決まるかについて，原子レベルの電子構造から説明できること。 (2)物質の状態と状態図について説明できること。 (3)様々な物質の化学反応について，その分類と支配因子の概要を理解していること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:大野惇吉著「大学生の化学　第2版」（三共出版） 参考書:各人の高校の数学，物理，化学の教科書
成績評価	筆記試験（80%）　　講義を行った内容（物質の構造，状態と性質，化学反応）について，その基礎を俯瞰的かつ系統的に理解していること。 小テスト（20%）　　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	基礎化学（機械システム）
担当教員	松岡　純
授業概要	化学は，原子間の結合の生成や切断と，その結果として生じる物質とに関する学問である。その基礎は，原子の構造から出発して原子間の結合を考える化学結合論と，原子や分子の集団としての安定性と変化を扱う熱力学である。さらに，物質の変化としての化学反応の分類と系統的扱いも，重要な要素である。そこで本講ではこれらについて，高等学校では別々の内容として習った事項間の関連性に留意しながら講義を行い，化学の基本となる諸概念の理解を目指す。
到達目標	(1)物質の構造がどのように決まるかについて，原子レベルの電子構造から説明できること。 (2)物質の状態と状態図について説明できること。 (3)様々な物質の化学反応について，その分類と支配因子の概要を理解していること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：大野惇吉著「大学生の化学　第2版」（三共出版） 参考書：各人の高校の数学，物理，化学の教科書
成績評価	筆記試験（80％）　講義を行った内容（物質の構造，状態と性質，化学反応）について，その基礎を俯瞰的かつ系統的に理解していること。 宿題（20％）　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	基礎化学（電子システム）
担当教員	奥　健夫
授業概要	化学は，原子間の結合の生成や切断と，その結果として生じる物質とに関する学問である。その基礎は，原子の構造から出発して原子間の結合を考える化学結合論と，原子や分子の集団としての安定性と変化を扱う熱力学である。さらに，物質の変化としての化学反応の分類と系統的扱いも，重要な要素である。そこで本講ではこれらについて，高等学校では別々の内容として習った事項間の関連性に留意しながら講義を行い，化学の基本となる諸概念の理解を目指す。
到達目標	(1)物質の構造がどのように決まるかについて，原子レベルの電子構造から説明できること。 (2)物質の状態と状態図について説明できること。 (3)様々な物質の化学反応について，その分類と支配因子の概要を理解していること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：大野惇吉著「大学生の化学　第2版」（三共出版） 参考書：各人の高校の数学，物理，化学の教科書
成績評価	筆記試験（80％）　講義を行った内容（物質の構造，状態と性質，化学反応）について，その基礎を俯瞰的かつ系統的に理解していること。 宿題（20％）　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	基礎結晶学
担当教員	宮村　弘
授業概要	無機材料の多くは結晶性の固体であり、単結晶が集まった多結晶体である。したがって、無機材料の諸性質を理解するためには、結晶に対する理解が不可欠である。本講義では、結晶の周期性や構造の記述法およびX線を用いた構造解析の基礎について学習する。
到達目標	(1)結晶を7つの結晶系に分類できる (2)格子定数の記述ができ、与えられたミラー指数の面について、間隔を計算できる (3)種々の結晶について、粉末X線回折図に出現するピークの位置が計算できる
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：早稲田嘉夫・松原英一郎著「X線構造解析」内田老鶴圃 参考書：カリティ著・松村源太郎訳「X線回折要論」(アグネ)
成績評価	定期試験 90％　レポート評価 10％（予定）

科目名	基礎電気電子回路
担当教員	岸根　桂路
授業概要	電気・電子回路の考え方は、電気・電子の分野だけでなく機械システムや物理系分野における現象の記述、解析へ応用可能であり汎用性が高い。電子工学の基本となる電気・電子回路に関する基礎的な項目を解説し、直流・交流回路からトランジスタ回路まで電気・電子回路の基礎を学ぶ。今後の学習・研究に役立つ基礎的な能力を養うことを目標とする。
到達目標	(1) 基本的な直流・交流回路の回路方程式より、解を求めることができること。 (2)トランジスタの基本動作と基本的なトランジスタ回路に関し、説明ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:　奥村浩士 著 「エース電気回路理論入門」(朝倉書店) 参考書:適宜プリントの配布、参考書の紹介を行う。
成績評価	講義中に課した課題の評価(40%):　直流・交流回路の方程式より、解を求めることができること。 期末試験の結果(60%):さまざまな回路の回路方程式より解を求めることができること。トランジスタ回路が説明できること。

科目名	基礎電磁気学（材料科学）
担当教員	作田　健
授業概要	電磁気学は，工学全般において基礎技術として広く用いられており，特にエレクトロニクスや電気回路と密接に関係している．本講義では，静電場，定常電流，電流と磁場，さらに電磁誘導など電磁気学に関する基礎的事項について理解する．また，電磁気学から見たコンデンサー，抵抗，コイル等の電気回路素子についても合わせて学習し，電気・電子機器の理解の助けとする．
到達目標	(1)電荷と電場および電位，誘電体とコンデンサーの概念を理解すること．(2)定常電流の保存則，抵抗とオームの法則を理解すること．(3)電流と磁場，磁性体の概念を理解すること．(4)ファラデーの電磁誘導の法則を理解すること．(5)コイルの自己インダクタンスと相互インダクタンスの概念を理解すること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:砂川重信著「電磁気学［改訂版］初めて学ぶ人のために」(培風館)
成績評価	定期試験を80％，レポートを20％とし，それらの合計で評価する．

科目名	基礎電磁気学（機械システム）
担当教員	福岡　克弘
授業概要	電磁気学は，工学全般において基礎技術として広く用いられており，特にエレクトロニクスや電気回路と密接に関係している．本講義では，静電場，定常電流，電流と磁場，さらに電磁誘導など電磁気学に関する基礎的事項について理解する．また，電磁気学から見たコンデンサー，抵抗，コイル等の電気回路素子についても合わせて学習し，電気・電子機器の理解の助けとする．
到達目標	(1) 電荷と電場および電位，誘電体とコンデンサーの概念を理解すること．(2) 定常電流の保存則，抵抗とオームの法則を理解すること．(3) 電流と磁場，磁性体の概念を理解すること．(4) ファラデーの電磁誘導の法則を理解すること．(5) コイルの自己インダクタンスと相互インダクタンスの概念を理解すること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:砂川重信著「電磁気学［改訂版］初めて学ぶ人のために」(培風館) 指定図書:電気学会著「電気磁気学」(オーム社) 参考書:関根 松夫・佐野 元昭著「電磁気学を学ぶためのベクトル解析」(コロナ社)
成績評価	中間試験の結果　20％，期末試験の結果　50％，レポート 30％として評価する． 合計得点の60%以上の成績で合格とする．

科目名	基礎電磁気学（電子システム）
担当教員	乾　義尚
授業概要	電磁気学は，工学全般において基礎技術として広く用いられており，特にエレクトロニクスや電気回路と密接に関係している．本講義では，静電場，定常電流、電流と磁場，さらに電磁誘導など電磁気学に関する基礎的事項について理解する．また，電磁気学から見たコンデンサー，抵抗，コイル等の電気回路素子についても合わせて学習し，電気・電子機器の理解の助けとする．
到達目標	(1) 電荷と電場および電位，誘電体とコンデンサーの概念を理解すること．(2) 定常電流の保存則，抵抗とオームの法則を理解すること．(3) 電流と磁場，磁性体の概念を理解すること．(4) ファラデーの電磁誘導の法則を理解すること．(5) コイルの自己インダクタンスと相互インダクタンスの概念を理解すること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：砂川重信著「電磁気学［改訂版］初めて学ぶ人のために」（培風館）
成績評価	定期試験を80％，レポートを20％とし，それらの合計で評価する．

科目名	基礎熱力学
担当教員	奥　健夫
授業概要	物理化学の基礎事項である熱力学の理解が本講義のねらいである。本講義では熱力学の基礎である、気体の性質、熱力学第一法則、熱力学第二法則、熱力学第三法則、熱力学関数について講述する。
到達目標	熱力学第一法則、熱力学第二法則、熱力学第三法則を理解し、エントロピー、自由エネルギーなどの計算ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：P. W. Atkins著、千原秀昭・中村亘男訳、「アトキンス物理化学(上)」第8版（東京化学同人）
成績評価	筆記試験70％　レポート30％　熱力学の原理・法則を理解して、初等問題に応用できること

科目名	基礎力学（材料）
担当教員	山根　浩二
授業概要	本講義は力学法則に基づく物理現象の数式的理解を求めている。基礎物理学のうちの力学に焦点を絞り，高い数学的表現はできるだけ避け，内容が理解できるように配慮している。また，原則として毎回宿題を課し，予習・復習による一層の理解を求めている。
到達目標	(1)物体にはたらく力をベクトルで説明できる。(2)運動の法則を理解し，質点の運動方程式を記述することができる。(3)運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。(4)運動量と力積の関係を説明できる。(5)慣性モーメントを理解し，剛体の運動方程式を記述することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：野崎光昭監訳「物理学の基礎　[1]力学」（培風館）およびプリント 参考書：野崎光昭監訳「演習・物理学の基礎　[1]力学」（培風館）
成績評価	定期試験を50％，中間試験/宿題/小試験をあわせて50％により評価。ただし，定期試験の受験資格は出席回数が所定の回数を満たしている者のみとする。

科目名	基礎力学（機械システム）
担当教員	田中　他喜男
授業概要	本講義は力学法則に基づく物理現象の数式的理解を求めている。基礎物理学のうちの力学に焦点を絞り，高い数学的表現はできるだけ避け，内容が理解できるように配慮している。また，原則として毎回宿題を課し，予習・復習による一層の理解を求めている。
到達目標	(1)物体にはたらく力をベクトルで説明できる。(2)運動の法則を理解し，質点の運動方程式を記述することができる。(3)運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。(4)運動量と力積の関係を説 明できる。(5)慣性モーメントを理解し，剛体の運動方程式を記述することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：野崎光昭監訳「物理学の基礎 [1]力学」（培風館）およびプリント 参考書：野崎光昭監訳「演習・物理学の基礎 [1]力学」（培風館）
成績評価	定期試験を50％，中間試験/宿題/小試験をあわせて50％により評価。ただし，定期試験の受験資格は出席回数が所定の回数を満たしている者のみとする。

科目名	基礎力学（電子）
担当教員	河﨑　澄
授業概要	本講義は力学法則に基づく物理現象の数式的理解を求めている。基礎物理学のうちの力学に焦点を絞り，高い数学的表現はできるだけ避け，内容が理解できるように配慮している。また，原則として毎回宿題を課し，予習・復習による一層の理解を求めている。
到達目標	(1)物体にはたらく力をベクトルで説明できる。 (2)運動の法則を理解し，質点の運動方程式を記述することができる。 (3)運動エネルギーと仕事の関係を説明できる。 (4)運動量と力積の関係を説明できる。 (5)慣性モーメントを理解し，剛体の運動方程式を記述することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：野崎光昭監訳「物理学の基礎 [1]力学」（培風館） 参考書：野崎光昭監訳「演習・物理学の基礎 [1]力学」（培風館）
成績評価	定期試験を50％，中間試験/宿題/小試験をあわせて50％により評価。ただし，定期試験の受験資格は出席回数が所定の回数を満たしている者のみとする。

科目名	金属加工学
担当教員	田中　他喜男
授業概要	金属加工には，一般に溶融加工，塑性変形・成形加工，機械的除去加工，特殊加工（高エネルギ密度加工，電気・化学加工）などがある。本講では，これらの加工の概論について解説を行なった後，生産現場で中核的な役割を担う機械的除去加工の一つである切削加工技術を理解するうえで必要な，切削機構，切削抵抗，切削温度，工具損傷，切削仕上げ面性状などについて詳細に講義する。
到達目標	(1) 切屑の形状について説明できる. (2) 2次元切削の模式図を描き，この図からせん断角，切削抵抗の式を導くことができる. (3) 構成刃先の定義，功罪について説明できる.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中嶋利勝・鳴瀧則彦共著「機械加工学」（コロナ社）およびプリント補助教材 指定図書：藤村善雄著「実用切削加工法第2版」（共立出版） 参考書：仁平宣弘・朝比奈奎一著「機械材料と加工技術」（技術評論社）
成績評価	期末試験50％，中間試験/宿題/小試験をあわせて50％により評価。ただし，期末試験の受験資格は，出席回数が所定の回数を満たしていること。

科目名	金属材料
担当教員	バラチャンドラン　ジャヤデワン
授業概要	一般に現在多く使用されている金属材料について、基礎知識を学ぶとともに、金属材料の中でも重要な鉄鋼材料についてその製造法と諸特性を理解し、実際に使用するときに必要な金属学的な知識を身につける。鉄鋼材料の状態図、熱処理にともなう相変態、再結晶、析出等の金属における基本的現象とその考え方を学び、鉄鋼材料の熱処理と組織制御について理解を深める。
到達目標	金属の結晶構造、結晶面、結晶方向、格子欠陥、すべり変形、強さ等の基礎知識の習得。原子の拡散方程式を理解し、応用できる。鉄鋼材料の熱処理と組織制御についての知識を修得し、実用材料の特性を把握する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講座　現代の金属学　材料編　第4巻　鉄鋼材料(日本金属学会) 参考書:谷野満、鈴木茂『鉄鋼材料の科学　ー鉄に濃縮されたテクノロジー』株式会社　内田老鶴圃
成績評価	小テスト(40%)、定期試験(60%)

科目名	計測工学
担当教員	近藤　千尋
授業概要	近年，工学・工業において，計測はその重要度をますます増大しつつある。また，計測精度の観点から見ても，飛躍的に進歩してきている。本講義では，まず計測の基礎として，単位，単位系，次元，標準，計測誤差と不確かさ評価，近似式等について解説し，続いて各種物理量に対する計測法の計測原理と，計測技術，センサーの構造とその利用法について学ぶ。
到達目標	(1)計測と測定の違い，SI単位系の意義と要点，標準とトレーサビリティ等の用語の意味を説明できる。(2)間接測定量の誤差を，各要素測定誤差から算出できる。(3)最小二乗法の意味を説明でき，一次回帰式を算出できる。(4)各種物理量の代表的な計測法の原理，長所と短所，適用事例について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:岩田ほか「新版 機械計測」(朝倉書店)，中村「計測工学入門」(森北出版) 参考書:谷口・掘込「計測工学」(森北出版)，門田「絵ときでわかる計測工学」(オーム社)
成績評価	レポート評価 30% 随時，出題する課題に関してレポートを提出すること。 期末筆記試験 70% 到達目標に記した内容をはじめ，キーワードに関する内容の確認問題および応用問題を出題する。

科目名	現代制御工学
担当教員	森脇　克巳
授業概要	状態空間法に基づく現代制御理論について講義する。制御システムを状態方程式モデルで表現し，解析・設計する手法を論じる。システムの安定性，可制御性，可観測性など複数の入力と出力を有する連続時間システムの制御理論の基礎的事項を学ぶ。状態方程式を用いた制御系設計の方法としての極配置によるフィードバック制御系の設計法とオブザーバを用いた状態観測系の設計法を学ぶ。
到達目標	(1)制御対象を状態方程式モデルで表現でき，そのモデルを用いた特性解析ができる。 (2)状態方程式モデルによる制御系設計の基礎を身につけ応用例を作成できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:吉川恒夫，井村順一共著 「現代制御論」(昭晃堂)
成績評価	中間まとめ 30% レポート評価 20%　状態方程式モデルで制御対象を表現でき，そのモデルを用いて可制御性，可観測性の判定ができること。 期末筆記試験 50%　中間まとめの理解に加え，安定判別と極配置によるフィードバック制御系設計の基礎を身につけていること。

科目名	工業数学
担当教員	松下　泰雄
授業概要	科学や工学のあらゆる分野において現れる複素関数を前半で講義し、フーリエ解析を後半で講義する.
到達目標	フーリエ変換と複素関数の基礎的事項を理解し，正しい運用ができること.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「フーリエ解析＝基礎と応用」松下泰雄著（培風館） 参考書:速修複素関数論（松下のホームページからダウンロード可） 「波のしくみ」佐藤文隆・松下泰雄共著（講談社）
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	工業数理
担当教員	松下　泰雄
授業概要	科学や技術におけるフーリエ解析の応用について講義する. 特に、フーリエ解析はデルタ関数を導入することによって応用が拡がる。デルタ関数によって普通の微分ができなかった関数でも微分が定義出るようになる。それによって微分方程式の解法，デジタルの意味，サンプリング定理，システム解析と周波数特性などへの応用について講義する.
到達目標	工業数学の基本的応用例を理解し，正しい運用ができること.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「フーリエ解析＝基礎と応用」松下泰雄著（培風館） 参考書:「波のしくみ」佐藤文隆・松下泰雄共著（講談社）、その他
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	工業力学
担当教員	栗田　裕
授業概要	質点の力学と剛体の力学を，工業的な事例を通して修得する。物体に力が加わると，物体の運動は変化する。本講義では，物体の最も基本的なモデルである質点と剛体を取り上げて，物体に働く力と運動の関係について解説する。まず，運動状態を変化させる原因である力の表し方や合成と分解，つりあいについて述べる（静力学）。次に，この力によって質点や剛体がどのように運動するのかを講義する。力と運動を結びつけるのが，運動の法則である（動力学）。単に数式を追うだけでなく，身近にある機械や人間の運動を考察することにより，力学の基礎概念を具体的なものとして理解する。
到達目標	(1)実際の力学現象をモデル化できる:複雑な形状を持つ実際の機械を，質点や剛体で近似する。物体各部に働く分布力を一点に働く集中力で代表させる。物体間の接触を各種支点で表す（D－1）。 (2)モデル化された問題を解ける:質点や剛体に働く力を求める。重心を求める。慣性モーメントを求める。質点や剛体に働く運動を求める（D－2）。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:入江敏博著『詳細工業力学』（理工学社） 指定図書:国枝正春著『機械実用力学』（理工学社） 参考書:大熊正明著『新・工業力学』（数理工学社）
成績評価	小テスト　40％　　期末試験　60％

科目名	高分子合成
担当教員	谷本　智史
授業概要	高分子化合物は全ての生体を構成している主要な物質であるとともに、人間生活に必要な衣食住をはじめ先端技術を支える材料として広く用いられている。本講義では、高分子化学の歴史と高分子を合成するための原理を述べ、次いで、各種合成高分子を生成させる方法と反応機構について具体的な例をあげながら説明する。さらに、高分子の分子量や構造を制御する原理について述べ、高分子設計の基本的な考え方について解説する。
到達目標	重合反応の種類を区別できるようになる。重縮合の分子量制御の原理を理解する。ラジカル共重合の分子組成決定法を理解する。身近な高分子材料の種類がわかるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：基礎化学コース　高分子化学I合成、中條善樹著、丸善株式会社 指定図書：理化学辞典、岩波書店 参考書：高分子化学序論(第2版)、岡村誠三ら著、化学同人
成績評価	中間試験30％、期末試験70％

科目名	高分子物性
担当教員	徳満　勝久
授業概要	我々の身の回りは高分子材料でできたものであふれている。高分子材料は日常用材料に留まらず，構造材料や宇宙・深海材料として広く利用されている。高分子材料は，分子量が大きいために低分子材料とは異なった特徴を有する。この特徴について解説することが本講義のねらいである。そのために，まず，高分子について，づいで高分子の構造，高分子鎖の形態と溶液の性質，高分子の物性について講述する。特に，高分子の特徴に焦点を絞りながら，高分子物性の基礎的概念の導入を行う。
到達目標	(1)高分子材料の物性の多様性について理解できる。(2)高分子の分子量，形態変化などが高分子材料の各種物性に与える影響について理解できる．(3)高分子の一次構造から高次構造にわたる構造上の特徴が理解でき，尚かつそのマクロな物性との関係について理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：高分子学会編，「高分子科学の基礎」(東京化学同人) 指定図書：長谷川正木，西敏夫共著、『高分子基礎科学』(昭晃堂) 参考書：講義の中で必要に応じて紹介する。
成績評価	期末試験（60％）＋講義時間内発表およびレスポンスシート等の内容（40％）

科目名	固体物性基礎
担当教員	奥　健夫
授業概要	現代科学技術を支える様々な材料では、これらの物質中の原子配列・電子等の振る舞いが、材料の性質を支配している。材料科学の基礎事項である固体物性の基礎の理解が本講義のねらいである。本講義では、結晶の構造から格子振動、電子構造、金属、誘電体、磁性体、半導体、超伝導体などをとりあげ、さらに電磁場との相互作用、格子欠陥、拡散についてもふれる。
到達目標	様々な固体物性の基礎を理解し、基礎物性の計算ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：沼居貴陽著、「固体物性入門」(森北出版) 参考書：C．キッテル著、「固体物理学入門(上・下)」（丸善）
成績評価	筆記試験70％、レポート30％　固体物性学の原理・法則を理解して、初等問題に応用できること

科目名	コンピュータアーキテクチャ
担当教員	奥村　進
授業概要	コンピュータの処理方式と構成方式を理解し、それを効果的に利用するための技術を修得することの意義は大きい。本講義では、コンピュータの基本構造と動作原理としてのコンピュータアーキテクチャを扱う。プロセッサアーキテクチャとシステムアーキテクチャを主としたもとで、コンピュータアーキテクチャを学習する上での予備知識から基本概念、構造、および役割を講述する。また、命令レベル並列処理などコンピュータの高速化を図る技術についても触れる。
到達目標	コンピュータアーキテクチャに関する概念と技術を理解して基本的事項について説明できるとともに、基礎的な演習問題が解ける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：坂井 修一著「コンピュータアーキテクチャ」（コロナ社） 指定図書と参考書は「追加情報」を参照のこと。
成績評価	期末試験80％、レポート20％：講義で取り上げた内容に関する基礎的事項と応用的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	コンピュータソフトウェア
担当教員	畑中　裕司
授業概要	高級言語を機械命令プログラムに変換するコンパイラについて、プログラミング言語との動作の関係、字句解析法、構文解析、コード生成法などについて学ぶ。また、オペレーティングシステムの役割とその構造、スケジューリング、実記憶と仮想記憶、通信処理方式などについて学ぶ。
到達目標	(1)コンパイラの役割・構成について説明できること。(2)字句解析、構文解析、意味解析について説明できること。(3)プロセス管理について説明できること。(4)実記憶と仮想記憶について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：白鳥則郎、高橋薫、神長裕明著「ソフトウェア工学の基礎知識」（昭晃堂）、大久保英嗣著「オペレーティングシステムの基礎」（サイエンス社） 参考書：中田育男著「コンパイラ」（オーム社）
成績評価	期末試験80%、レポート20％として、それらの合計で評価し、60%以上の成績で合格とする。

科目名	コンピュータハードウェア
担当教員	奥村　進
授業概要	コンピュータの基本的な機能、構造および動作を知ることを目的とする。まずコンピュータの基本的な動作に触れた後、コンピュータハードウェアの基本構成要素をディジタル回路、とくにゲート素子、組合せ回路および順序回路の視点から、それらに関する考え方と設計法に関する基礎的事項を扱う。次いで算術論理演算装置(ALU) の構成について論じ、プロセッサの構成と機能、および記憶装置と入出力装置について触れる。
到達目標	コンピュータハードウェアに関する概念と技術を理解して基本的事項について説明できるとともに、基礎的な演習問題が解ける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：後藤 宗弘著「電子計算機（第2版）」（森北出版） 指定図書：山田 満雄、新井 浩志著「例題で身につけるコンピュータハードウェア入門」（丸善） 参考書：富田 真治、中島 浩著「コンピュータハードウェア」（昭晃堂）
成績評価	期末試験80％、レポート20％：講義で取り上げた内容に関する基礎的事項と応用的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	材料開発工学
担当教員	坂本　明彦※　・　辻井　薫※　・　藤本　宏之※　・　学科教員
授業概要	ある物質を実用可能な材料とするには，別の物質，製造装置開発，操業条件制御など，様々な技術が必要とされる。たとえば積層電子部品は金属とセラミックスの微粒子を積層して作るが，その過程では有機分子によるスラリー制御がコア技術である。また産業用プラスチックの多くには無機微粒子が練りこまれ，その選択が製品特性を左右する。この講義では材料開発の現場に携わる非常勤講師によるこのような実例の提示を中心に置き，材料開発の方法論を学ぶ。
到達目標	(1)各種材料について，材料や製造プロセスの特徴が技術開発とどのように係るかを理解する。 (2)各種材料の特徴と，それを生かした市場の開拓について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:未定 指定図書:未定 参考書:未定
成績評価	レポート試験（100％）　各材料の開発がどのように行われてきたかを理解し，新材料開発の方向性，および開発の際に予測される課題と解決案を考えられること

科目名	材料科学概論
担当教員	奥　健夫　・　廣川　能嗣
授業概要	材料科学への入門がねらいで、各種材料の基本的な物質特性の入門的な解説を下記の内容で行う。各種金属材料、セラミックス材料、半導体材料、有機材料、高分子材料、複合材料の特徴、製造法、構造と物性の関連、応用について解説するとともに、環境に関わる材料科学の課題について述べる。
到達目標	金属材料、セラミックス材料、半導体材料、有機材料、高分子材料、複合材料の特徴を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:　必要に応じて紹介する
成績評価	小テスト60%、レポート40％とし総合的に判定する。

科目名	材料科学実験
担当教員	学科教員
授業概要	材料科学に関連する基礎的な実験操作および機器分析について、知識と技術を修得する。1年間を4期に分け、第1期は無機材料、第2期はエネルギー、複合材料、第3期は高分子・環境材料に関連する、合成、構造決定、物性評価、反応過程の解析の実験を行う。第4期は学科内の各研究分野に分属し、各分野で卒業研究を行う際に必要な考え方、知識、実験技法を修得する。各期行われる実験を重視し、毎回実験レポートを課す予定である。
到達目標	(1) 材料科学に関連する基礎的な実験操作の内容を理解するとともに、機器の基本操作等ができること (2)無機材料、エネルギー、複合材料、高分子・環境材料に関して、合成・構造決定・物性評価・反応過程の基礎的な実験結果を解析できること　(3)得られた実験結果を整理し、考察を加えた上で簡潔なレポートを作成できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:各実験で配布するプリント・冊子 化学同人編集部編「新版　実験を安全に行うために」（化学同人） 化学同人編集部編「新版　続 実験を安全に行うために」（化学同人）
成績評価	実験に関するレポート（100%）で評価する。ただし、各期ごと3回以上および全体で6回以上欠席したものは評価対象としない。

科目名	材料強度物性
担当教員	吉田　智
授業概要	固体の材料を取り扱う上で、材料の強度は材料の信頼性を決定するという意味において極めて重要な性質の一つである。本講義では、材料の強度および破壊特性と材料の微構造の関係をできるだけ平易に講述する。金属材料とセラミックス材料の力学特性を中心に、非晶質、結晶質材料の強度と構造との関係、強度に影響を与える外的要因、種々の材料における強化法、強度測定法などについて基礎的かつ定量的な理解を目指す。
到達目標	(1)転位の種類とその原子レベルでの構造を理解し、延性材料の破壊に与える影響を理解できること。 (2)脆性材料の破壊挙動を理解し、破壊力学を用いた定量的な取り扱いができること。(3)様々な材料の強度測定法が説明できること。(4)材料の強化法について材料の微構造の点から説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:小林英男著「破壊力学」(共立出版) 参考書:岡田明著「セラミックスの破壊学」(内田老鶴圃)、淡路英夫著「セラミックス材料強度学」(コロナ社)、木村宏著「材料強度の考え方」(アグネ技術センター)
成績評価	期末試験(50%)＋レポート(50%)

科目名	材料計算化学および同演習
担当教員	井上　吉教 ・ 近藤　淳哉 ・ 鈴木　厚志
授業概要	近年のコンピューターサイエンスの進歩により、低分子量の物質については、分子軌道計算等による実験のデータ解析が容易に行えるようになり、その得られた計算は三次元座標を用いて可視化することが最近の一般的な手法となっている。そこで本講義では、簡単なデータ解析・分子モデリング・分子軌道計算、古典分子動力学法に関する解説と演習を行う。
到達目標	簡単な有機化合物(ベンゼン、水など)の分子構造を作図、3D分子モデリング化、分子軌道法により電子構造(HOMO-LUMO)の計算を行い、電子構造とその特性の関係について理解できること。古典分子動力学法を理解し既存のソフトを用いて簡単なシミュレーションができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 近藤担当:コンピュータ・シミュレーションによる物質科学―分子動力学とモンテカルロ法(共立出版) 鈴木担当:専用テキスト活用
成績評価	近藤担当:定期試験(100%) 井上、鈴木担当:材料計算化学演習のレポートを課す。レポート評価100%

科目名	材料組織学
担当教員	宮村　弘
授業概要	金属材料の力学的性質、電気的性質、物理的性質などの諸物性は材料内部の微細な組織によって変化する。この材料組織の制御についての基礎的な考え方と材料内部の組織と各種物性の関係について理解する。結晶中の格子欠陥(点欠陥、転位、積層欠陥)、合金元素、分散粒子、粒界、異相境界などの基礎的概念を理解し、相変態、時効析出、回復と再結晶、集合組織などの諸現象の理解とそれらにより形成される材料組織が材料物性にどのような影響を与えるかを考える。
到達目標	(1)原子の拡散現象による相変態を理解し、説明できる。(2)マルテンサイト変態と形状記憶などの性質を理解し、説明できる。(3)塑性加工後の熱処理にともなう諸現象を理解し、説明できる(4)複合則による材料特性の予想ができる
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:杉本孝一ら著 「材料組織学」 朝倉書店 参考書:高木節雄、津崎兼彰　著 「材料組織学」 朝倉書店
成績評価	小試験および演習等10%、定期試験90%

科目名	材料力学Ⅰ（材料）
担当教員	田邉　裕貴
授業概要	機械設計における強度計算は，機械・構造物が使用中に過大な変形，破壊を起こさないようにするために不可欠である。強度設計を行うためには，材料力学は最も重要な基礎科目である。想定される荷重，形状と寸法，および使用する材料などの与えられた設計条件の下で，機械・構造物の部材に生じる応力や変形量を求めるために必要な材料力学の基礎を学ぶ。
到達目標	応力とひずみの概念を理解できる。引張・圧縮の軸力を加えた部材の応力，変形量が計算できる(D-1)。不静定問題を解くことができる(D-1)。トルクを加えた丸棒のせん断応力，ねじれ角が計算できる(D-2)。曲げモーメントを加えたはりの垂直応力，たわみが計算できる(D-2)。組合せ応力状態における主応力が計算できる(D-2)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「材料力学」（日本機械学会） 指定図書：邉吾一・他著「標準　材料の力学」（日刊工業新聞社） 参考書：西村尚著「ポイントを学ぶ材料力学」（丸善）
成績評価	中間試験・宿題（40％），定期試験（60％） 上記の評価法において，材料力学の様々な問題を正確に解答できること。

科目名	材料力学Ⅰ（機械システム）
担当教員	高松　徹
授業概要	機械設計における強度計算は，機械・構造物が使用中に過大な変形，破壊を起こさないようにするために不可欠である。強度設計を行うためには，材料力学は最も重要な基礎科目である。想定される荷重，形状と寸法，および使用する材料などの与えられた設計条件の下で，機械・構造物の部材に生じる応力や変形量を求めるために必要な材料力学の基礎を学ぶ。
到達目標	応力とひずみの概念を理解できる。引張・圧縮の軸力を加えた部材の応力，変形量が計算できる(D-1)。不静定問題を解くことができる(D-1)。トルクを加え た丸棒のせん断応力，ねじれ角が計算できる(D-2)。曲げモーメントを加えたはりの垂直応力，たわみが計算できる(D-2)。組合せ応力状態における主応力が計算できる(D-2)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「材料力学」（日本機械学会） 指定図書：邉吾一・他著 「標準　材料の力学」（日刊工業新聞社） 参考書：西村尚著「ポイントを学ぶ材料力学」（丸善）
成績評価	中間試験・宿題（50％）　　定期試験（50％） 上記の評価法において，材料力学の様々な問題を正確に解答できること。

科目名	材料力学Ⅱ
担当教員	高松　徹
授業概要	「材料力学I 」で学んだ応力・ひずみや変形の関係を基礎として，一般構造物で最も問題となる曲げ荷重下の応力・ひずみやたわみを考慮した部材強度と設計について学ぶ。また，耐圧容器や柱の圧縮等，より具体的な構造要素の強度と設計手法について学ぶとともに，これら要素の強度評価手法についても考察する。
到達目標	不静定はり問題の解法を理解できる。物体に蓄えられる弾性エネルギーが計算できる。エネルギー法に基づく解法を理解し，様々な問題を解くことができる。座屈現象が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「材料力学」（日本機械学会） 指定図書：邉吾一・他著「標準　材料の力学」（日刊工業新聞社） 参考書：西村尚著「ポイントを学ぶ材料力学」（丸善）
成績評価	中間試験・宿題（50％）　　定期試験（50％） 上記の評価法において，材料力学に関する様々な問題を正確に解答できること。

科目名	材料量子論
担当教員	近藤　淳哉
授業概要	まず、量子力学のうち固体物理を学ぶために不可欠な入門的内容及び材料科学の分野と密接な関わりを持つ入門的内容（シュレディンガー方程式の基礎、水素原子の構造、トンネル効果）について理解し、その上で、一般的な固体物理学の入門的要素のうち、格子振動（フォノン、比熱）、自由電子、エネルギーバンド（ブロッホの定理、フェルミ面、ブリルアンゾーン、回折、逆格子）について理解する。
到達目標	量子・量子化の意味の理解、シュレディンガー方程式を簡単なポテンシャルから水素原子まで解析的に解くことが出来る、シュレディンガー方程式の近似解法のうち摂動法と変分法の理解、ブロッホの定理の理解、簡単な結晶構造におけるブリルアン・ゾーンとフェルミ面の理解、伝導帯中にエネルギー・ギャップが出来る理由の理解
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：キッテル著『固体物理学入門（上）』と青木亮三著『わかりやすい量子力学第2版』（第1回の講義から使用する）、指定図書：アシュクロフト・マーミン著『固体物理の基礎』、参考書：ランダウ・リフシッツ共著『量子力学＝非相対論的理論＝1，2』
成績評価	ゼミナール形式で行い、『発表』、『参加』（出席ではないことに注意）を重視して評価する(参加・発表点100％)。受講者多数でゼミナール形式では行えないときは、通常の講義形式で行い、定期試験を重視して評価する（定期試験点100％）。

科目名	産業技術マネジメント
担当教員	安田　昌司　他
授業概要	将来、社会に出たときに企業人、購買者、株主など多様な立場で自社、他社を、内部からあるいは外部から知る必要がでてくる。本講では、企業経営、特に技術経営に関する基礎を学ぶ。 まず産業史を学び、その変遷から将来を見通す。次に企業共通の機能を基礎として学ぶ。さらに各産業分野別にいかに現在の巨大産業に至ったかを学ぶ。いずれも実際の企業や事業の具体的事例を用いるように配慮する。 これらを通じて今後、社会に出る聴講者のキャリア形成を考える一助としたい。
到達目標	企業経営、特に製造業経営に関する基礎、現代における課題について考える力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：自作したものを講義中に配布します 参考書：ゼミナール経営管理入門（風早正宏、日本経済新聞社、）、経営史（安部悦生、日経文庫）、日経文庫業界研究シリーズ（知りたい業界ごと）
成績評価	毎回、質問時間を設け、かつ講義に関するレポート（A4　1枚以下）作成を課す。

科目名	システム工学
担当教員	森脇　克巳
授業概要	複雑で大規模なシステムの設計・解析・改善および運用を可能にしたシステム工学の考え方と目的を実現するための基本的手法を講義する。機械システムを主な対象としてシステムのモデル化，特性の解析，システムの時間的変化を模擬するシミュレーション，システムの効率化をはかる最適化に関する基本的な手法を述べた後，大規模で複雑なシステムを取り扱うときに注意すべき点をふまえたシステムの設計法について検討する。システムに関わる人間に対するリスクの軽減を考慮したシステムとは何かについても議論する。
到達目標	(1)コンピュータ支援設計法の全体像を理解し，基礎的な問題に運用できる。 (2)モデリング，シミュレーション，最適化，信頼性解析などの基礎を習得し，応用問題の設定，解析，設計に応用できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：田村坦之編著 「(新世代工学シリーズ) システム工学」（オーム社）。 指定図書：赤木新介著 「システム工学　エンジニアリングシステムの解析と計画」（共立出版）。 参考書：講義のなかで紹介する。
成績評価	レポート評価 40%　機械システムを適切なモデルで表現でき，そのモデルをシミュレーションにより解析して目的に応じて最適化することができること。 期末筆記試験 60%　レポート課題の理解に加え，大規模システムの設計法について基礎を身につけていること。

科目名	集積回路設計基礎
担当教員	岸根　桂路
授業概要	集積回路を設計するには電子回路技術、デバイス技術、論理設計技術、プロセス技術などの広範囲な技術が必要となるが、本講義では現在の大規模集積回路（VLSI）の基本であるMOS技術を中心に取り上げ、集積回路設計の一連の基礎を平易に解説する。さらに、プログラマブルデバイスについてもふれる。
到達目標	（1）集積回路の動作原理を理解し、概要を説明できること。 （2）集積回路を設計する上で必要な基礎知識を習得していること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：國枝博昭著「集積回路設計入門」（コロナ社） 指定図書：谷口研二著「CMOSアナログ回路入門(CQ出版社)」、小谷教彦著「LSI工学」（森北出版）、FPGA/PLD設計スタートアップ（CQ出版） 参考書：久保脩治著「トランジスタ・集積回路の技術史」（オーム社）
成績評価	講義中に課す課題(40%)　：集積回路についてその概要が理解できており、基本的な回路設計ができること 期末試験(60%)　：中間試験の範囲の理解に加え、プログラマブルデバイスを含む各種基本的な回路設計ができること 合計得点の60%以上の成績で合格とする。

科目名	集積化プロセス工学
担当教員	柳澤　淳一
授業概要	現在のナノテクノロジーを支えている超微細加工プロセス技術を概説する。要素技術であるリソグラフィ、熱処理、薄膜形成、イオン注入、エッチング技術などについて最新の技術動向を交えながら講述し、プロセスの問題点や歩留り、信頼性についての議論も行い、ナノテクノロジーが社会に与える意義について学んでもらう。さらに、この技術は半導体分野だけでなく、広く学際領域への展開が可能であることを理解してもらう。
到達目標	(1)半導体プロセスの要素技術の基礎が理解できること。 (2)現在のナノテクノロジーにおける半導体プロセス技術の立場、役割、意義について認識できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜、資料を配布する。 指定図書：岡崎信次、鈴木章義、上野巧「はじめての半導体リソグラフィ技術」（工業調査会） 江刺正喜「はじめてのMEMS」（工業調査会） 参考書：必要に応じ、適宜紹介する。
成績評価	小試験 30％：講義の内容に関する小試験を3回程度行う。 レポート評価 70％：講義で学んだことをもとに、半導体プロセスに関する総合的なレポートを課す。

科目名	情報処理基礎
担当教員	奥村　進
授業概要	コンピュータ技術の発達とともに情報処理は産業の各分野において重要技術になっている。同時に，機械エンジニアが情報処理システムを高度に利用する上で必要な知識は広範囲にわたり，専門的である。本講義では，最近の理論の動向および技術的背景をふまえたもとで，情報処理システムを支えている基礎的事項について習得することが目的である。
到達目標	情報の表現，コンピュータの仕組み，および数値処理誤差について理解し，基本的事項について説明できるとともに，それらに関する基礎的な計算問題が解ける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：青木征男著「情報の表現とコンピュータの仕組み（第4版）」（ムイスリ出版）。プリントを適宜配布する。 指定図書：後藤 宗弘著「電子計算機（第2版）」（森北出版） 参考書：阿曽 弘具 著「コンピュータの基礎」（昭晃堂）
成績評価	期末試験80％，レポート20％：講義で取り上げた内容に関する基礎的事項と応用的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	情報通信工学
担当教員	岸根　桂路
授業概要	今日の高度な通信システムの発展は目覚しいものがあり、情報通信工学はそれら通信システムにおける基礎技術の発展を支えてきた。情報通信工学の社会における役割と重要性について概説し、その位置づけと重要性を理解する。さらに符号理論、信号伝送理論、通信システムについて解説し、情報を高速・確実に伝達するに手法を学ぶとともに、通信ネットワーク、通信システムを理解する。
到達目標	(1)信号の数学的表現を説明できること。 (2)変調復調理論を説明できること。 (3)通信ネットワーク、通信システムに関し、説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:　寺田 浩詔、吉田 進、佐藤 亨　著「情報通信工学」(オーム社) 参考書:平松啓二著 「通信方式」(コロナ社) 必要に応じて、適宜プリントを配布する。
成績評価	講義中に課した課題の評価(40%):　符号化・変調復調方式とその位置づけを説明できること。各種ネットワークの位置づけを説明できること。 期末試験の結果(60%):信号の数学的表現と変調復調理論を説明できること。通信ネットワーク、通信システムに関し説明できること。合計得点の60%以上の成績で合格とする。

科目名	情報理論
担当教員	畑中　裕司
授業概要	近年、情報技術が急速に進展しているが、その情報と通信の基礎になっている情報理論について学ぶことを目的とする。最初に、シャノンの創始した情報理論について、その定義、性質、情報量(容量)について講義する。また、人間の身の回りに存在するアナログの情報量をディジタル情報に置き換えるために必要なサンプリング定理についても講義する。さらに、ディジタル系の情報量で重要な符号化、情報セキュリティのための共通鍵暗号や公開暗号の原理についても講義する。
到達目標	(1)各種情報量について説明できること。(2)サンプリング定理を説明できること。(3)情報量のエントロピの計算を解くことができること。(4)符号を作ることができること。(5)暗号化の基礎的な原理について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:三木成彦、吉川英機著「情報理論」(コロナ社) 指定図書:白木善尚編「情報理論」(オーム社) 参考書:塩野充著「わかりやすいディジタル情報理論」(オーム社)
成績評価	定期試験80%、レポート20%として、それらの合計で評価し、60%以上の成績で合格とする。

科目名	数値解析
担当教員	安田　孝宏
授業概要	物理現象を支配する方程式は厳密解が得られない場合が多く，その場合，数値解析を行う必要がある。最近のコンピュータの発達に伴い，数値計算で扱える工学的問題も増加している。数値解析では解く方程式の種類やその性質により様々な手法を使い分ける必要がある。また，数値解析結果は厳密ではなく，必ず誤差を含んでおり，本質的な結果を得るためにその評価が重要である。本講では数学，力学で扱う方程式についての数値解析手法の基礎と簡単な応用例を学ぶことで，数値解析を機械工学へ応用する能力を養成する。
到達目標	(1)連立一次方程式，非線形方程式，数値積分，常微分方程式，偏微分方程式，補間法の数値解析手法を修得し，それぞれの解法を問題に応じて使い分けることができるようになる。(2)数値解析結果の評価ができるようになる。(3)数値解析に関する簡単なプログラミングが理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業中にプリントを配付 指定図書:河村哲也著「数値計算入門」(サイエンス社) 参考書:皆本晃弥著「よくわかる数値解析演習」(近代科学社)
成績評価	期末試験(60%)およびレポート課題(40%)　問題に適した数値解析手法を使い分け，結果評価が出来ること。

科目名	数値解析・数値計算
担当教員	谷口　義治
授業概要	工学で現れる数学的な問題は、常にすっきりした数式だけで解決されるわけではない。多くの場合に、近似的な計算が必要な場合が多い。数値計算・数値解析とは、さまざまな数学的な問題を数値的に計算したり、数値的に解く方法を与えることを目的としている。この講義ではその基礎的な事項を学ぶ。
到達目標	数値解析・数値計算の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「数値解析の基礎・基本」吉田年雄著(牧野書房)
成績評価	数値解析・数値計算の基礎的な事項を一応理解して、基本的な問題ができることが最低基準である。成績はレポート(35%)と期末試験(65%)によって評価する。

科目名	数理計画
担当教員	未定
授業概要	対象とする問題に対する解決策を求めるための定式化と手法を取り扱う。一般に，ある問題の解決策が存在する場合にはいくつかの代替案が存在することが多い。それらのいくつかの候補の中から最も相応しい解決策を効率よく発見する方法を見つけることと，その解決策を求めることが目的である。この講義では，数理計画における問題の定式化と最適な解決策を求める手順を説明するとともに先端的な話題をわかりやすく紹介する。
到達目標	(1)線形計画法の考え方を理解し，簡単な問題の定式化と数値解法を実行できる。 (2)非線形最適化問題の解析法を習得するとともに最適解を求めるための数値解法を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:茨木俊秀・福島雅夫著 「最適化の手法」(共立出版)。 参考書:講義のなかで紹介する。
成績評価	中間まとめ 30%　レポート評価 20%　線形計画問題を定式化できること。シンプレックス法による解法を理解していること。 期末筆記試験 50%　中間まとめの範囲，レポート課題の理解に加え，非線形最適化問題の解析と数値解法の基礎を身につけていること。

科目名	生化学Ⅰ
担当教員	竹原　宗範
授業概要	生体を構成している分子の基礎について講義する。有機化学の基礎に立脚した生体構成分子の構造上の特徴を習得し、専門的な生化学への橋渡しを目指す。
到達目標	(1)水と生命体の関わりを理解した上、生体分子である　(2)アミノ酸とタンパク質・酵素、(3)糖質、(3)DNAとRNA、および(4)脂質、についての基本的な構造と性質を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:鈴木紘一他訳「ホートン生化学」(東京化学同人)、プリント配布
成績評価	期末筆記試験70% 小テスト評価30%　いずれも「到達目標」の達成度に応じて評価する。

科目名	生化学Ⅱ
担当教員	竹原　宗範
授業概要	「生化学I」の続きで、生体分子の機能と代謝反応を取り扱う。生体反応とそのエネルギー授受の本質の理解に努める。さらに、「遺伝情報」の伝達と発現が巧妙にコントロールされている様子を学ぶ。
到達目標	(1)脂質と生体膜の概要を理解した上、(2)生体反応のエネルギーの授受に関する基本的な計算式とその意義を説明できること。さらに(3)遺伝情報の流れの正しく理解し、説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:鈴木紘一他訳「ホートン生化学」(東京化学同人)、プリント配布
成績評価	期末筆記試験70％ 小テスト評価30%　いずれも「到達目標」の達成度に応じて評価する。

科目名	制御工学
担当教員	稲葉　博美
授業概要	具体的な制御対象を例に，システムのモデル化，制御系の設計，安定解析など一連の制御系構築技術を修得する。 あわせて，いわゆる古典制御以外のいろいろな制御手法についても，その概要について触れる。
到達目標	電子システムを制御する手法に関して， (1)伝達関数を理解できること。(2)制御系の安定判別ができること。(3)制御系の安定化設計ができること。(4)マイコンによる制御系構築ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:中野道雄，美多　勉　共著『制御基礎理論』〔古典から現代まで〕(昭晃堂) 指定図書:深海登世司，藤巻忠雄著『制御工学　上』(東京電機大学出版局)，大日方五郎編著『制御工学』(朝倉書店) 参考書:宮崎道雄　編著『システム制御Ⅰ，Ⅱ』(オーム社)
成績評価	小テスト，レポート:50%:制御の基礎について理解ができ，伝達関数などが説明できること 期末試験:50% :小テストの範囲の理解に加え，制御系の安定性が理解でき，制御系の基礎的な設計ができること

科目名	制御工学Ⅰ
担当教員	安田　寿彦
授業概要	1入力1出力の線形フィードバック制御理論の基礎。制御システムを設計するための基礎として，線形フィードバック制御理論について講義する。制御システムの入力信号および出力信号がそれぞれ1つであるようなシステムを対象とする。ラプラス変換を応用して，システムの数学モデルを伝達関数によって表現し，システムの応答，安定性など制御システムの解析方法について解説する。簡単なサーボ制御系の解析ができるようになることを目標とする。
到達目標	(1)フィードバック制御系の基本構造を説明できる。(2)ラプラス変換表を用いて，ラプラス変換およびラプラス逆変換ができる。(3)伝達関数を使って制御系が表現できる。(4)過渡応答，周波数応答による制御系の特性と表現方法を習得する。(5)フィードバック制御系の安定性判別ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:田中正吾編著 「制御工学の基礎」(森北出版) 参考書:講義中に紹介する。
成績評価	定期試験80％、小テストおよびレポート課題8％、演習課題12％。

科目名	制御工学Ⅱ
担当教員	安田　寿彦
授業概要	伝達関数を用いた制御システムの設計法を講義する。簡単なサーボ制御系およびプロセス制御系の設計ができるようになることを目標とする。制御工学Ⅰで学んだ伝達関数法の基礎知識を用いて，安定度・定常偏差・整定時間などを用いた定量的な評価方法を学び，過渡応答・根軌跡・周波数応答を用いた方法による制御系の設計方法について論じる。
到達目標	(1)位相余裕，ゲイン余裕，定常偏差が計算できる。(2)行き過ぎ量，整定時間を求めることができる。(3)根軌跡を描いて，パラメータと制御系の特性の関係を論じることができる。(4)周波数応答に注目して，制御系の性能改善方法を説明できる。(5)PIDコントローラの構成要素の役割を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：田中正吾編著 「制御工学の基礎」（森北出版） 参考書：講義中に紹介する。
成績評価	定期試験70%，演習課題30%。

科目名	生産工学
担当教員	中川　平三郎
授業概要	講義「機械製作」では個々の加工方法を学習してきたが、本講義では身の回りの製品がどのような仕組みで生産されているのかを科学的に勉強する。例えば家庭電化製品、自動車の部品を安く、早く、品質よく作るための手法や、諸外国との価格競争に打ち勝つための方策などを説明する。最近のものつくりは、消費者の動向、嗜好を分析し、売れる商品を必要な量、タイムリーに作らなければならない。コンピュータを駆使した自動化・無人化システムを構築するための手法、生産現場における機械と人間とのヒューマンインターフェースを学習する。
到達目標	(1)工業的ものつくりの仕組みを理解する.　(2)多種少量生産と加工コストを低減するための各種方策を理解する.　(3)自動化や無人化の利点と欠点を科学的に理解する.　(4)英語の専門用語を理解する.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：入門編　生産システム工学、共立出版 指定図書：初めての生産システム　工業調査会 参考書：生産工学入門(森北出版)，　生産システム便覧（コロナ社）
成績評価	中間試験（40%），期末試験（60%）　特に生産システムにかかわる学問は欧米から発達したものであるから，英語の専門用語を理解する.

科目名	生産工学Ⅱ
担当教員	杉村　延広※　岩村　幸治※
授業概要	機械製品の工業生産を俯瞰的・体系的に捉え，生産システムの構成および運用を科学的に考えていくための基礎知識とその実際への応用の仕方を習得する. まず，生産システムの捉え方，その管理のフレームワーク，評価指標を理解した上で，生産システムの運用ならびに構成の種々の意思決定について学ぶ. また，設備管理や品質管理についても触れる.
到達目標	生産システムの運用と構成を考える基礎となる概念を理解するとともに，それらに基づいて，関連する基本的な意思決定問題に対処できるようになること. また，統計的品質管理の基礎的な手法・アプローチを身につけること.
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：POM 生産と経営の管理（日本規格協会） 参考書：オペレーションズ・マネジメントの基礎（朝倉書店），生産マネジメントの手法（朝倉書店）
成績評価	期末試験（60%），小テスト（40%）：生産システムに関する基礎概念の理解と応用力を評価する.

科目名	セラミックス材料
担当教員	吉田　智
授業概要	セラミックスの語源は「焼きもの」であるが、原料の高純度化と高度な作製法の開発により、伝統工芸のみならず電子材料、光機能性材料、耐熱性構造材料などの様々な分野でセラミックス材料は用いられている。本講義では、セラミックス材料の構造、物性、作製プロセスの基礎を、物理化学と無機化学に基づいて講述する。セラミックス材料以外の材料に携わる研究者にとっても参考になるように、様々な物性が発現する機構に着目し、原子やイオンの化学結合あるいは電子構造の理解に重点を置いた講義内容とする。
到達目標	(1) 基礎的なセラミックスの結晶構造と非晶質の構造について理解できること。 (2) 固体の格子エネルギーおよび表面自由エネルギーについて理解できること。 (3) セラミックス材料の様々な物性の発現機構を材料の結晶構造や電子構造に基づいて説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：上垣外修己、神谷信雄 共著「セラミックスの物理」（内田老鶴圃） 参考書：曾我直弘 著「初級セラミックス学」（アグネ承風社）
成績評価	期末試験（50％）＋レポート（50％）

科目名	線形代数Ⅰ（材料）
担当教員	谷口　義治
授業概要	線形代数とは、簡単にいえば、ベクトルと行列に関する数学である。つまり、高校で既に学習してきた、2次元や3次元のベクトルや行列の一般次元への拡張である。その意味では高校の延長にあるのだが、扱いがより一般的かつ理論的になる。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。この授業は連立1次方程式の解法理論からはじめて、行列の基本概念と計算法を講義する。
到達目標	連立1次方程式および行列と行列式の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：浅倉・高橋・吉松著「基礎コース　線形代数」（学術図書出版社） 参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」（牧野書店）
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	線形代数Ⅰ（機械システム、電子システム）
担当教員	松下　泰雄
授業概要	線形代数とは、簡単にいえば、ベクトルと行列に関する数学である。つまり、高校で既に学習してきた、2次元や3次元のベクトルや行列の一般次元への拡張である。その意味では高校の延長にあるのだが、扱いがより一般的かつ理論的になる。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。この授業は連立1次方程式の解法理論からはじめて、行列の基本概念と計算法を講義する。
到達目標	連立1次方程式および行列と行列式の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：浅倉・高橋・吉松著「基礎コース　線形代数」（学術図書出版社） 参考書：「線形代数演習」内田伏一他著（裳華房）
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	線形代数Ⅱ（材料科学、機械システム）
担当教員	山口　博史※
授業概要	線形代数1に続くこの授業では、ベクトル空間，行列の固有値と対角化等を学ぶ。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学であるから、内容と基本的な計算法をしっかりと身につけねばならない。
到達目標	ベクトルの演算と行列の固有値に関する基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：線形代数1と同じ（浅倉・高橋・吉松著「基礎コース　線形代数」（学術図書出版社）） 参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」（牧野書店）
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	線形代数Ⅱ（電子システム）
担当教員	谷口　義治
授業概要	線形代数1に続くこの授業では、ベクトル空間，行列の固有値と対角化等を学ぶ。線形代数は微積分学とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学であるから、内容と基本的な計算法をしっかりと身につけねばならない。
到達目標	ベクトルの演算と行列の固有値に関する基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：線形代数1と同じ（浅倉・高橋・吉松著「基礎コース　線形代数」（学術図書出版社）） 参考書：成田・野澤共著：「基本演習　線形代数」（牧野書店）
成績評価	ベクトルの演算と行列の固有値に関する基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができることが最低基準である。成績は期末試験（95％）と演習問題の発表（5％）によって評価する。

科目名	先端材料科学
担当教員	学科教員
授業概要	材料科学の研究は，物質別では金属材料，セラミックス材料，有機材料，高分子材料などに分類でき，用途別では電子情報材料，エネルギー材料，環境機能材料，構造材料などに分類できる。また研究の方向性により，新材料の開発，合成・製造プロセスの開発，物性評価方法の開発などに分類することもできる。本科目では材料科学科所属の各教員を中心に，何をどのように研究しているかを知ることで，研究開発とはどのように進められるかを理解することを目的とする。
到達目標	材料科学の様々な分野について，どのような研究が必要とされているか，それらの研究はどのように進められているか，最新の研究を行うには何が必要か，および，どのような研究成果が生み出されているかについてアウトラインを理解し，また，材料の製造または利用の現場がどのようなものかを知る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリントを配布する。
成績評価	毎週のレポート（100%）　各週の講義内容に対しレポートを課す。

科目名	卒業研究（材料科学）
担当教員	学科教員
授業概要	材料科学の分野の中で，各人の卒業論文のテーマに関連して，実験・研究を行う。具体的には，材料科学の発展に寄与する先進的なテーマを選択し，指導教員の指導のもとに，その目的を達成できる研究計画をたて，実験を行い，自らの得た成果と他の研究者による成果とを合わせて総合的に考察することで，研究テーマについての問題点を解決する。それらの研究成果を卒業研究発表（発表内容への試問を含む）および卒業論文として報告する。
到達目標	(1)研究を行うための多様な実験方法および定量的データ解析方法に習熟する。 (2)研究テーマについて自ら問題点を見いだし，計画的に研究を遂行し，論理的に纏め上げられる能力を養う。 (3)自らの得た研究成果について，文章，図表（英文表記を含む）および口頭で，他の人に明確に伝えられる能力を養う。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	卒業論文（50％） 卒業研究で得られた学術的知見について，研究の背景，研究手法，結果，考察，全体のまとめを，論理的な構成で説明できていること 卒業研究発表（50％） 卒業研究で得られた学術的知見について，資料を提示しながら口頭で的確に説明でき，その内容に対する質問に対し答えられること

科目名	卒業研究（機械システム）
担当教員	学科教員
授業概要	機械システム工学の専門的な課題について研究することによって，自立して専門分野で活動できる能力を養う。このために，研究分野に配属されたもとで，その分野の専門的な課題について指導教員の指導を受けて研究を行い，その成果を卒業論文にまとめて提出する。
到達目標	1.研究テーマに関連する文献を調査し，その内容を理解できる(B)。2.研究の工学的・社会的意義が理解できる(E)。3.自ら立案した研究計画に沿って研究を遂行できる(H)。4.研究遂行の際に生じる課題の解決方法を自発的に見出せる(G)。5.研究に関連する専門基礎知識を理解し，研究遂行に役立てることができる(D-3)。6.研究結果を論文としてまとめ，発表し，質疑に答えることができる(F)。
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。
成績評価	以下の項目を総合し，合否を評価する。 ・研究会・ゼミ等での発表・質疑応答 ・卒業論文：工学系の学術論文として体裁が整えられており、かつ内容に重大な誤りがない ・卒業論文審査会：発表時間の適正と質疑応答に関する口頭発表の質および映像資料の質

科目名	卒業研究（電子システム）
担当教員	学科教員
授業概要	受講者各人が，学科内のいずれかの研究分野に配属されたもとで，担当教員の指導を受けて，その研究分野の専門的な課題について研究を行う．得られた成果は，卒業論文としてまとめて提出し，卒業論文審査会で発表する．以上の取り組みを通して，電子システム工学分野の選択した研究テーマについての高度な専門知識を身につけさせると同時に，自立して専門分野で活動できるエンジニアリングデザイン能力と実行力，日本語によるコミュニケーション能力，自発的かつ継続的に学習する能力を養う．
到達目標	(1) 研究テーマについての高度な専門知識を身につけ，それらを駆使して課題を探求し組み立て解決することができる能力．(2) 問題や課題を理解して設定し，実験を計画し，与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけだして計画的に仕事を進め，成果としてまとめることができる能力．(3) 日本語により，自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行うことができる能力．(4) 自発的かつ継続的に学習することができる能力．
テキスト 指定図書 参考書	適宜指示する．
成績評価	成績評価は合否のみとし，評点はつけない．日常の卒業研究への取り組み，研究会での発表状況，卒業論文の内容および卒業研究審査会でのプレゼンテーションを総合評価して，上記の授業概要中の(1)～(4)の4項目の能力について個別に100点満点で採点する．採点した4項目の得点がすべて60点以上であれば合格とし，1項目でも60点未満のものがあれば不合格とする．

科目名	ディジタル信号処理
担当教員	宮城　茂幸
授業概要	信号を離散時間的に表現し、これを処理するディジタル信号処理は、情報通信、制御工学、計測工学、メディア工学等と関連し、現在では重要な技術分野の一つである. 本講ではディジタル信号処理の基礎である、z変換による線形時不変システムの取り扱い、離散フーリエ変換とシステムの周波数特性、FFTおよびサンプリング定理について学ぶ.
到達目標	信号の時間領域表現と周波数領域表現の対応関係を理解すること。z変換の計算ができるようになること。線形時不変システムの表現を理解し、その周波数特性が求められること。サンプリング定理の意味を理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:貴家仁志著「ディジタル信号処理のエッセンス」(昭晃堂) 指定図書:伊達玄訳「ディジタル信号処理(上)」(コロナ社)
成績評価	期末試験 100%

科目名	定量・機器分析および同実験
担当教員	宮村　弘 ・ 近藤　淳哉 ・ 吉田　智 ・ 徳満　勝久 ・ 井上　吉教
授業概要	代表的な数種の測定機器の原理を理解させるとともに、実際にそれらを駆使して、有機化合物を分析したり、水溶液中のカルシウムイオンを定量し、それらの使用法に習熟させる。また、酸化還元滴定により化学的酸素要求量(COD)を定量し、CODについての理解を深める。さらに、結論に至るまでのデータの解析過程を説明させることにより、発表能力を養う。
到達目標	(1)化学的酸素要求量について説明できること。 (2)各種光度計を用いて得られる情報の違いを把握していること。 (3)ガスクロマトグラフによる定量法を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:日本化学会編「実験化学講座」(丸善)
成績評価	所定の出席数を満たした者に対し、つぎの基準で評価する。 実験に取り組む態度、討議内容、発表内容 50%　報告書 50%

科目名	電気エネルギーシステム工学
担当教員	乾　義尚
授業概要	現在の人類の豊かで便利な暮らしは電気エネルギーに支えられていると言っても過言ではない. 本講義では, この電気エネルギーに関して, その資源から, 発生および各種利用技術までをエネルギー変換工学とシステム工学の視点からトータルに理解させることを目標とする. まず, エネルギー資源の現状について説明した後, 電気エネルギーの発生・変換・制御技術および各種利用技術について説明し, エネルギーの有効利用技術についても簡単に講述する.
到達目標	(1) 電力の変換と制御の基礎について説明できること. (2) 電気エネルギーから各種エネルギーへの変換の原理と特性について説明できること. (3) 各種新発電方式の原理と特性について説明できること. (4) エネルギー資源について説明できること. (5) エネルギーの有効利用と環境保全について説明できること.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:原　雅則 編著 「EE Text 電気エネルギー工学通論」(オーム社)
成績評価	定期試験を80%, レポートを20%とし, それらの合計で評価する.

科目名	電気回路Ⅰ
担当教員	坂本　眞一
授業概要	電気回路は，電気・電子・情報系の基礎科目として最も重要なもののひとつである．本講義では，電気・電子・情報系の技術者が最低限身につけておくべき電気回路の基礎知識である正弦波交流回路の諸性質を理解させることを目標とする．まず，線形回路素子の種類とその性質，正弦波交流の記号法を用いた取り扱い手法について説明した後，回路方程式の立て方，回路網の諸定理，変成器を含む回路，正弦波交流回路の電力，三相交流回路などについて講述する．
到達目標	(1) 記号法を用いて正弦波交流回路を表現し，回路方程式を立てることができること．(2) 回路網に関する諸定理を理解し，活用することができること．(3) 相互誘導について理解し，その取り扱いができること．(4) 正弦波交流回路の電力の計算ができること．(5) 三相交流回路を理解し，その取り扱いができること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:佐治　學 編著「インターユニバーシティ 電気回路A（改訂2版）」(オーム社) 参考書:平山　博，大附辰夫 著「電気回路論（3版改訂）」(電気学会)
成績評価	筆記試験60%，レポート40%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．

科目名	電気回路Ⅱ
担当教員	乾　義尚
授業概要	電気回路は，電気・電子・情報系の基礎科目として最も重要なもののひとつである．本講義では，「電気回路Ⅰ」に引き続き，電気・電子・情報系の技術者が最低限身につけておくべき電気回路の基礎知識である回路の過渡現象や伝送線路の諸性質などを理解させることを目標とする．まず，ラプラス変換や状態変数を用いた回路の過渡現象の解析手法について説明する．さらに，伝送線路の基礎，2端子対回路網の回路網関数とフィルタなどについて講述する．
到達目標	(1) 微分方程式を用いて簡単な回路の過渡現象の計算ができること．(2) ラプラス変換を用いて回路の過渡現象の計算ができること．(3) 状態方程式を用いて回路の解析ができること．(4) 伝送線路の基礎方程式を理解し，反射と透過の計算ができること．(5) フィルタの性質を理解し，その特性を計算できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:日比野倫夫 編著「インターユニバーシティ 電気回路B」(オーム社) 参考書:平山　博，大附辰夫 著「電気回路論（3版改訂）」(電気学会)
成績評価	定期試験を80％，レポートを20％とし，それらの合計で評価する．

科目名	電気化学
担当教員	菊地　憲次
授業概要	「物理化学」分野の一つで、電解質溶液の性質、電気化学ポテンシャルや電極反応や電極界面現象を理論的に理解させるとともに、電気分解、一次電池、二次電池や燃料電池などの応用について講義する。
到達目標	電極電位をネルンストの式を用いて説明できる。電極電位と過電圧の関係を説明できる。電池の種類と特徴を理解する。ボルタンメトリーが理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「基礎化学コース　電気化学」 渡辺正、金村聖志・益田秀樹、渡辺正義共著、丸善株式会社 参考書:「ムーア物理化学上下」(東京化学同人)
成績評価	小テストとレポートで40%、試験成績60%で評価する。

科目名	電気関係法規・施設管理
担当教員	多山　洋文※
授業概要	電気は感電や漏電火災という危険な面を有しているので，昔から各種の法令により，電気を供給する者，電気工事をする者，電気機器を製造する者および電気を使用する者に対して規制が行われてきている．本講義では，電気技術者にとって最低限必要な電気に関する法令および施設管理を一通り理解させることを目標として，電気事業法，電気工事士法，電気用品安全法，電気工事業法，各種電気設備の管理などについて講述する．
到達目標	(1) 電気事業法について理解し，説明できること．(2) 電気工事士法，電気用品安全法，電気工事業法について理解し，説明できること．(3) 電気工作物の技術基準について理解し，説明できること．(4) 電気に関する標準規格について理解し，説明できること．(5) 電気施設管理について理解し，説明できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：竹野正二 著「平成23年度版 電気法規と電気施設管理」（東京電機大学出版局）
成績評価	レポート100%で評価する．レポートは別途指示された期日までに提出すること．

科目名	電気機器
担当教員	乾　義尚
授業概要	磁気エネルギーを介して電気エネルギーの変換および電気と機械エネルギーの相互変換を行う電気機器は，電気エネルギーの発生・変換・利用の各段階において重要な機器である．本講義では，代表的な電気機器の構造・原理・特性を一通り理解させることを目標とする．最初に電気機器に関連する統一的な基礎事項について説明した後に，代表的な電気機器である直流機，同期機，変圧器および誘導機の各機器について個別に講述する．
到達目標	(1) 直流機の構造・原理・特性について理解し，説明できること．(2) 同期機の構造・原理・特性について説明できること．(3) 変圧器の構造・原理・特性について理解し，説明できること．(4) 誘導機の構造・原理・特性について理解し，説明できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：多田隈進，石川芳博，常広　譲 著「電気機器学基礎論」（電気学会）
成績評価	定期試験を80％，レポートを20％とし，それらの合計で評価する．

科目名	電気電子計測Ⅰ
担当教員	福岡　克弘
授業概要	計測における測定方法の分類および測定値の処理法について理解する。電気計測に使用されている指示計器およびディジタル計器について、その基本的構造、動作原理および使用上の注意について学ぶ。さらに、電気および磁気測定法の分類、定義について学ぶ。
到達目標	(1)精度と誤差について説明でき、データ処理手法の基礎を理解していること。 (2)指示計器の種類と用途について説明できること。 (3)電圧・電流、抵抗・インピーダンス、電力、磁界の各種測定手法について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：阿部 武雄、村上 実著「電気・電子計測」（森北出版） 指定図書：近藤 浩著「電気計測」（森北出版） 参考書：田中 正吾、山本 尚武、西守 克己著「基礎電気計測」（朝倉書店）
成績評価	期末試験の結果　70％。レポート　30％として評価する。合計得点の60%以上の成績で合格とする。

科目名	電気電子計測Ⅱ
担当教員	作田　健
授業概要	今日の電子計測において、重要な役割を担っている信号入力部と信号解析、また全体のシステム構成、さらに応用計測について学ぶ。信号の入力には各種センサが用いられている。それらのセンサの基本原理とその用途を理解する。また、信号の解析処理について、従来からのアナログ処理およびコンピュータの普及によるディジタル処理の特徴と利用方法についての知識をえる。さらに応用計測システムについての概念を把握する。
到達目標	(1)種々のセンサの動作原理が理解できる。(2)アナログ計測とディジタル計測について、その特徴を理解が理解できる。(3)計測に利用される信号処理が理解できる。(4)応用計測について、その概念が説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:稲荷　隆彦著「基礎センサ工学」(コロナ社)、適宜プリントを配布。 指定図書:阿部 武雄、村上 実著「電気・電子計測」(森北出版)、 参考書:南茂夫、木村一郎、荒木勉著「はじめての計測工学」(講談社)
成績評価	定期試験を80％、レポートを20％とし、それらの合計で評価する。

科目名	電子回路Ⅰ
担当教員	稲葉　博美
授業概要	アナログ回路とディジタル回路からなる「電子回路」のうち、アナログ回路について、交流信号を入力として所定の増幅出力を得るために必要な回路要素(ダイオード、トランジスタなど)と、その動作原理、およびその回路要素を用いた応用回路を中心に学ぶ。アナログ回路は身近な電気機器の増幅器に用いられるだけでなく、制御器として用いられる内容についてもふれる。これらは、各種計測機器、研究機器、一般電子機器などの装置やシステムを扱う上で必須の知識となる。
到達目標	(1)ダイオード、トランジスタ、演算増幅器などの電子回路構成要素についてその動作を理解し、説明ができること。(2)増幅回路、発信回路、変調回路などの動作を理解し、説明ができること。(3)基本的なアナログ回路の設計ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:堀　桂太郎著「アナログ電子回路の基礎」(東京電機大学出版局) 指定図書:福田　務著「アナログ回路」(オーム社)、小峯龍男著「電子回路の「しくみ」と「基本」」(技術評論社) 参考書:藤井信生著「アナログ電子回路」(昭晃堂)、正田英介著「アナログ回路」アルテ21(オーム社)
成績評価	小テスト、レポート:50%　　:増幅回路について理解できており基本的な回路設計ができること 期末試験:50%　　:小テストの範囲の理解に加え、オペアンプの基本的な回路設計ができること

科目名	電子回路Ⅱ
担当教員	稲葉　博美
授業概要	アナログ回路とディジタル回路からなる「電子回路」のうち，ディジタル回路について，論理回路を構築・動作させるために必要な要素技術と回路設計について学ぶ。さらに，集積度を高めたゲートアレーとソフトにより自由度を高めたマイコンとその周辺回路，および，その応用などについても学ぶ。これらはディジタルシステムを構築する上で重要な知識となる。
到達目標	(1)各種ディジタル回路の動作を理解・説明でき，簡単な論理回路設計ができること。 (2)ゲートアレー，FPGA，マイコンの動作を理解・説明でき，ディジタル集積回路周辺の概略回路設計ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:堀　桂太郎著「ディジタル電子回路の基礎」(東京電機大学出版局) 指定図書:「キットで学ぼう電子回路No.5」(ADWIN)，福田　務著「ディジタル回路」(オーム社)，小峯龍男著「電子回路の「しくみ」と「基本」」(技術評論社) 参考書:雨宮好文著「電子回路学[Ⅱ]」(オーム社)，尾崎弘著「電子回路ディジタル編」(共立出版)，正田英介著
成績評価	小テスト，レポート:50%　:論理回路について理解できており基本的な論理回路設計ができること 期末試験:50%　:小テストの範囲の理解に加え，マイコン，および，その周辺の基本的な回路が理解・設計できること

科目名	電磁気学Ⅰ
担当教員	作田　健
授業概要	電気と磁気を対象とする電磁気学は、力学とならぶ物理学の基礎のひとつである。電磁気学Ⅰでは、静的な場の理論について学習する。まず、電磁気学で用いられる基礎的なベクトル解析の取り扱いを学ぶ。これをもとにベクトル場としての、空間の電場について理解し、真空中・誘電体中の電場、電位、また静電容量、さらに静電エネルギーについて数学的な取り扱い、具体的な計算方法を学習する。また、ガウスの法則などの物理法則の概念を把握する。
到達目標	(1)ガウスの定理などの積分形法則を、物理的なイメージをともなって理解し、(2) 具体的な問題に対し、前記法則等を用いたベクトル演算を使い、真空中・誘電体中の電界・電位、静電容量等の導出ができるようになり、さらに(3)積分形法則に対応する微分形法則を理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:安達 三郎、大貫 繁雄共著「電気磁気学」(森北出版)、プリント 指定図書:電気学会著「電気磁気学」(オーム社) 参考書:砂川重信著「電磁気の考え方」(岩波書店)
成績評価	定期試験を80%、レポートを20%とし、それらの合計で評価する。

科目名	電磁気学Ⅱ
担当教員	福岡　克弘
授業概要	電磁気学の磁気を中心として、その現象を数学的および物理的に理解する。具体的には「磁界」を定義し、それについてのビオ・サバールの法則からアンペアの法則、磁束の保存則、さらに時間変動する場における電磁誘導の法則および変位電流の法則を加え、全体が電界と磁界に関するマクスウェルの方程式に統一されることを、講義および問題演習を通じて学習する。
到達目標	(1)ビオ・サバールの法則およびアンペアの法則を理解し、電流と磁界の関係を説明できること。 (2)磁気回路について理解していること。 (3)インダクタンスについて理解し、電磁誘導現象に関して説明できること。(4)マクスウェル方程式について理解していること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:安達 三郎、大貫 繁雄共著「電気磁気学」(森北出版)、自作プリント 指定図書:電気学会著「電気磁気学」(オーム社) 参考書:関根 松夫、佐野 元昭著「電磁気学を学ぶためのベクトル解析」(コロナ社)
成績評価	定期試験の結果 70%、授業での解答発表 10%、レポートおよび授業での演習 20%として評価する。合計得点の60%以上の成績で合格とする。

科目名	電子システム工学演習Ⅰ
担当教員	作田　健 ・ 奥村　進 ・ 坂本　眞一
授業概要	2年次前期の必修科目「電磁気学Ⅰ」「電気回路Ⅰ」「アルゴリズムとデータ構造」の講義内容に基づき、具体的な演習問題を解いて講義の理解を深め、基礎学力を養う。あわせて、レポート作成と演習を通して、自発的かつ継続的に学習する能力を養う。
到達目標	(1)電磁気学に関して、電界・電流などを理解し基本的な場の計算ができる。(2)電気回路の基礎知識である正弦波交流回路の諸性質を理解ができる。(3)アルゴリズムとデータ構造に関する基本的事項について理解し、C言語でプログラムの作成ができる。(4)自発的かつ継続的に学習することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 電磁気学:安達 三郎、大貫 繁雄共著「電気磁気学」(森北出版) 電気回路:佐治　學 編著「インターユニバーシティ 電気回路A (改訂2版)」(オーム社) アルゴリズムとデータ構造:柴田 望洋、辻 亮介著「明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造」(ソフトバンククリエイティブ) 指定図書: 電磁気学:砂川 重信著「電磁気学の考え方」(岩波書店) アルゴリズムとデータ構造:五十嵐 健夫著「データ構造とアルゴリズム」(数理工学社) 参考書: 電磁気学:後藤 憲一、山崎 修一郎共編「詳解　電磁気学演習」(共立出版) 電気回路:平山　博、大附 辰夫 著「電気回路論 (3版改訂)」(電気学会) アルゴリズムとデータ構造:柴田 望洋著「Javaによるアルゴリズムとデータ構造」(ソフトバンククリエイティブ)
成績評価	電磁気学・電気回路・アルゴリズムとデータ構造に関する演習のいずれも、受講態度10%、レポート90% それぞれの演習に関する得点(100点満点)を加算して、3で除した数値の小数点以下を切り捨てた数値を最終得点とする。ただし、電磁気学・電気回路・アルゴリズムとデータ構造に関する演習のいずれか1つ以上が60点未満である場合、最終得点は計算されない。

科目名	電子システム工学演習Ⅱ
担当教員	稲葉　博美　・　柳澤　淳一　・　畑中　裕司
授業概要	2年次後期の必修科目「電子回路I」「半導体基礎」「プログラミング言語」の講義内容に基づき、具体的な演習問題を解いて講義の理解を深め、基礎学力を養う。あわせて、レポート作成と演習を通して、自発的かつ継続的に学習する能力を養う。
到達目標	(1)電子回路については基本的なアナログ回路の動作を理解し、設計ができること。(2)半導体の電気伝導を担うキャリアについて理解し、エネルギーバンドを用いてその振る舞いが説明できること。(3)プログラミング言語の構文について理解し、ソースコードの作成ができること。(4)自発的かつ継続的に学習することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 電子回路:堀　桂太郎著「アナログ電子回路の基礎」(東京電機大学出版局) 半導体基礎:演習問題のプリントを配布する。 プログラミング言語:白鳥 則郎、高橋 薫、神長 裕明著「ソフトウェア工学の基礎知識」(昭晃堂) 指定図書: 電子回路:福田　務著「アナログ回路」(オーム社)、小峯 龍男著「電子回路の「しくみ」と「基本」」(技術評　論社) 半導体基礎:入江 泰三、遠藤 三郎共著「半導体基礎工学(Ⅰ)」(工学図書) プログラミング言語:柴田 望洋著「新版 明解C言語入門編」(ソフトバンクパブリッシング) 参考書: 電子回路:藤井 信生著「アナログ電子回路」(昭晃堂) 、正田 英介著「アナログ回路」アルテ21(オーム社) 半導体基礎:太田 英二、坂田 亮共著「半導体の電子物性工学」(裳華房) 、青木 昌治著「応用物性論」(朝倉書店) プログラミング言語:柴田 望洋著「新版 明解C言語実践編」(ソフトバンクパブリッシング)
成績評価	電子回路・半導体基礎・プログラミング言語に関する演習のいずれも、受講態度10%、レポート90%。それぞれの演習に関する得点(100点満点)を加算して、3で除した数値の小数点以下を切り捨てた数値を最終得点とする。ただし、電子回路・半導体基礎・プログラミング言語に関する演習のいずれか1つ以上が60点未満である場合、最終得点は計算されない。

科目名	電子システム工学演習Ⅲ
担当教員	畑中　裕司　・　竹内　日出雄　・　坂本　眞一
授業概要	CAD(Computer Aided Design)を用いた電気機器の作図法を、演習を通じて習得することを目的とする。最初に、製図の基礎、CADシステムの基礎概念を学習する。次に、CADシステムの操作方法を、実際に作図演習をしたり、編集したりしながら学ぶ。さらに、電気用記号の作図法を学び、実際にCADシステムを用いて作図を行う。
到達目標	(1)製図、CADシステムの基礎を理解する。(2)CADシステムを用いて電気用図記号が作図できる。(3)CADシステムによって変圧器を用いた回路が作図できる。(4)CADシステムを用いて電気制御回路の作図ができる。(5)ディジタル回路をCADシステムで作図できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:大浜庄司著「シーケンス制御読本(入門編)」(オーム社) 指定図書:片岡徳昌著 「電子・電気製図法」(日本理工出版会) 参考書:山下祐司・大梅 元弘著「見方・かき方　電気用図記号」(オーム社)
成績評価	図面評価80%　授業態度20%。合計得点の60%以上の成績で合格とする。

科目名	電子システム工学概論
担当教員	稲葉　博美
授業概要	はじめに電気・電子システム分野で必要となる基礎知識を学習する。次に、電気・電子回路の働き、設計法について紹介する。あわせて、種々の技術分野で電子システムがどのような形で応用され、社会に役立っているか、具体的な事例を通して電気・電子システムの位置付けを学習する。
到達目標	(1)電気・電子回路の基礎について理解ができ、回路動作などが説明できること。(2)アナログ回路、ディジタル回路の基礎的な回路設計ができること。(3)回路実現のための素子知識を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:伊理正夫監修「電気・電子概論」(実教出版) 指定図書:堀　桂太郎著「アナログ電子回路の基礎」、「ディジタル電子回路の基礎」(東京電機大学出版局) 参考書:国島保治著「電子回路の基本と仕組み」(秀和システム)
成績評価	小テスト、レポート:50%　:電気・電子回路の基礎について理解ができ、動作などが説明できること 期末試験:50%　:小テストの範囲の理解に加え、アナログ・ディジタル回路の基礎的な設計ができること

科目名	電子システム工学実験Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	電気・電子分野に関する、授業計画に示した実験を計画・遂行し、実験で得られた結果を解析して工学の視点から考察するとともに、報告書をまとめる能力を養う。
到達目標	電子システムに関連する基礎的な実験に関して、(1)実験の目的と方法を理解できること。(2)実験を適切かつ安全に遂行できること。(3)各種計測器の動作原理を理解し、適切な取り扱いができること。(4)実験結果を正確に解析できること。(5)実験および実験結果について的確な考察と説明ができること。(6)報告書を適切にまとめることができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:実験指導書。プリントを適宜配布する。 指定図書:桂　桂太郎著「アナログ電子回路」(東京電機大出版) 入江 泰三、遠藤 三郎著「半導体基礎工学(I)」(工学図書) 阿部 武雄、村上 実著「電気・電子計測」(森北出版) 国立天文台編「理科年表」(丸善) 参考書:適宜紹介する。
成績評価	すべての実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごと作成し、別途指示された期日までに提出する。 受講態度と実験遂行能力の評価を30%、レポートを70%として、それらの合計で評価する。

科目名	電子システム工学実験Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	電気・電子・情報分野に関する、授業計画に示した実験を遂行し、実験で得られた結果を解析して工学の視点から考察するとともに、報告書をまとめる能力を養う。
到達目標	電子システムに関連する標準的な実験に関して、(1)実験の目的と方法を理解できること。(2)実験を適切かつ安全に遂行できること。(3)各種計測器の動作原理を理解し、適切な取り扱いができること。(4)実験結果を正確に解析できること。(5)実験および実験結果について的確な考察と説明ができること。(6)報告書を適切にまとめることができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:実験指導書のプリントを適宜配布する。 指定図書:適宜紹介する。 参考書:適宜紹介する。
成績評価	すべての実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごとに作成し、別途指示された期日までに提出する。受講態度と実験遂行能力の評価を30%、レポートを70%として、それらの合計で評価する。

科目名	電子システム工学実験Ⅲ
担当教員	学科教員
授業概要	電気・電子・情報分野に関する、授業計画に示した実験を遂行し、実験で得られた結果を解析して工学の視点から考察するとともに、報告書をまとめる能力を養う。
到達目標	電子システムに関連する応用的な実験に関して、(1)実験の目的と方法を理解できること。(2)実験を適切かつ安全に遂行できること。(3)各種計測器の動作原理を理解し、適切な取り扱いができること。(4)実験結果を正確に解析できること。(5)実験および実験結果について的確な考察と説明ができること。(6)報告書を適切にまとめることができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:実験指導書のプリントを適宜配布する。 指定図書:適宜紹介する。 参考書:適宜紹介する。
成績評価	すべての実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごとに作成し、別途指示された期日までに提出する。受講態度と実験遂行能力の評価を30%、レポートを70%として、それらの合計で評価する。

科目名	電子システム工学実験Ⅳ
担当教員	学科教員
授業概要	電子システム工学に関するテーマに関し、課題の理解と設定、制約条件下での工学的な解決法構築と実験の計画、計画的な仕事の遂行、および報告書の作成を通じて、エンジニアリングデザイン能力と実行力を身につける。基盤テーマ①「電子回路設計」を必須テーマとし、応用テーマ②「音・画像システムの構築」および③「有限要素法を用いた電磁界シミュレーション」のいずれか一方を選択テーマとして履修する。
到達目標	電子システムに関連する実験に関して、(1)課題に関する基礎知識を習得し、理解できること。(2)目標到達までの、問題や課題の設定と解決法の構築、実験の計画ができること。(3)作業の計画的遂行と結果の評価検証ができること。(4)報告書を適切にまとめることができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:棚木義則「電子回路シミュレータPSpice入門編」(CQ出版社) 実験指導書。プリントを適宜配布する。 指定図書:適宜紹介する。 参考書:適宜紹介する。
成績評価	基盤テーマおよび選択した応用テーマに関する実験を行いレポートを提出していること。レポートは実験テーマごと作成し、別途指示された期日までに提出する。受講態度と実験遂行能力の評価を30%、レポートを70%として、それらの合計で評価する。

科目名	電子システム工学セミナー
担当教員	奥村　進　・　岸根　桂路
授業概要	図書情報センターの活用に関する基礎知識を身につける。マイコンシステムなどの電子工作を通じて、電気・電子・情報に関する基礎的な事項を体験的に理解する。あわせて、以上の取り組みを通して、自発的かつ継続的に学習する能力を養う。
到達目標	(1)図書情報センターの活用法が理解でき、実践できる。 (2)簡単なアナログ・ディジタル回路をブレッドボード上で製作でき、その動作を確認できる。 (3)半田付けを伴う電子回路の製作ができ、その動作を確認できる。 (4)半田付けを伴うマイコンシステムの製作ができ、その動作を確認できる。 また、(2)～(4)については、動作原理を理解し、基本的事項について説明できる。 (5)センサを伴う簡単なマイコンシステムの動作原理を理解し、基本的事項について説明できる。 (6)自発的かつ継続的に学習することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを適宜配布する。 参考書:必要があれば講義中に紹介する。
成績評価	3回以上の欠席は成績評価の対象としない。遅刻は0.5回分の欠席とみなす。 レポート70%、受講態度20%、期末試験10%:授業で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	電子デバイス
担当教員	柳澤　淳一
授業概要	半導体や誘電体などのさまざまな電子材料を用いることで、特異な物理現象やデバイス動作を利用した高機能電子デバイスが実現されている。本講義では、これらの例として電界効果トランジスタ、高周波トランジスタ、パワーエレクトロニクス素子、量子効果デバイス、光電変換デバイスなどを取り上げ、動作原理や諸特性、課題などについて半導体の基礎に立ち戻って講述する。
到達目標	取り上げる様々な電子デバイスの動作がエネルギーバンドと関連付けて説明できるようになることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:水谷孝「電子デバイス」(オーム社) 指定図書:松波弘之、尾江邦重「半導体材料とデバイス」(岩波書店) 参考書:菅博、川畑敬志、矢野満明、田中誠「図説　電子デバイス」(産業図書)
成績評価	レポートおよび小試験評価40%:講義で扱った式の導出や数値的な計算ができること。 期末筆記試験60%:エネルギーバンドを理解し、代表的な電子デバイスの動作がそれにより説明できることを求める。

科目名	電子と化学結合
担当教員	松岡　純
授業概要	化学は、原子間の結合の生成や切断と、その結果生じる物質の性質とに関する学問である。物理化学はその中で、様々な化学反応や物性の中に普遍的・統一的な解釈を与える役割を担い、化学そのものの他に材料科学、エネルギー工学、地球科学など広い分野と関連し、工学部で物質やエネルギー学ぶ基礎となる。本講では物理化学の基盤を構成する3分野（量子化学、熱力学、反応速度論）の中で、化学結合と物質構造を扱う量子化学の基本概念の理解を目指す。
到達目標	(1)電子の波動関数のもつ意味について説明できること。 (2)原子の電子構造について波動関数の考えを用いて説明できること。 (3)原子間の共有結合について波動関数の考えを用いて説明できること。 (4)様々な化学結合について，それらの概要を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：正畠宏祐　著「化学の基礎　－化学結合の理解」（化学同人） 指定図書：長倉三郎 他編「岩波 理化学辞典 第5版」（岩波書店） 参 考 書：オドワイヤー 他著、鳥居泰男 他訳「入門化学結合」（培風館）： ウインター著、西本吉助訳「フレッシュマンのための化学結合論」（化学同人）（教科書と参考書はほぼ同じ内容を扱っていますが，説明の順序や方法が異なります。参考書は図書館にありますので，教科書を読んでもしっくりこないという人は，これらを読んでみて下さい。）
成績評価	期末筆記試験（80％）　波としての電子を扱う見方の基礎，原子の電子構造と周期表の概要，共有結合の構造と電子の状態，様々な化学結合の概要への理解を問う。 宿題（20％）　　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	電磁波工学
担当教員	作田　健
授業概要	電磁波は、情報通信や計測、最近ではRFタグなどに利用されるなど、ますます重要になっている。この電磁波について、基本概念として、波動の基礎、マクスウェルの方程式、電磁波の伝搬について学ぶ。さらに応用として、ミリ波の利用などについても概念を把握し、電磁波工学の基礎から応用的な考え方までを体系的に学習する。
到達目標	(1)伝送線路に代表される波動について、複素表現、分布定数回路により説明できる。 (2)空間を伝搬する平面電磁波および伝送路を伝搬する伝送波の振る舞いについて理解する。 (3)電磁波応用について、各種応用についての概念が説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：長谷部望著「電波工学（改訂版）」コロナ社 参考書：進士昌明著「電磁波工学：基礎と応用」（丸善） 橋本修、川崎繁男著「新しい電波工学」（培風館）
成績評価	定期試験を80％、レポートを20％とし、それらの合計で評価する。

科目名	伝熱学
担当教員	安田　孝宏
授業概要	現在のエネルギー・環境問題を解決するために伝熱工学が非常に重要である。本講では熱伝導，熱伝達，熱ふく射の熱移動現象についてその原理や工学的問題との関係を理解し，自然現象や工業における伝熱問題を解決するための考え方を修得する。理解を深めるために授業中に基礎的な例題を解き，また，復習のためのレポート等を課す。
到達目標	(1)固体の熱伝導について熱伝導率，フーリエの法則について理解し種々の物体形状に対し温度分布や伝熱量が算出できる。(2)対流熱伝達の基礎方程式である質量，運動量，エネルギー保存則を理解し，流れの状態に応じた伝熱量が計算できる。(3)ふく射伝熱について理解し，説明ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「伝熱工学」（日本機械学会）および配付プリント 指定図書：庄司正弘著「伝熱工学」（東京大学出版会） 参考書：相原利雄著「伝熱工学」（裳華房）
成績評価	期末試験（60%）および小テスト，レポート課題（40％）

科目名	電力工学Ⅰ
担当教員	坂本　眞一
授業概要	現在の人類の豊かで便利な暮らしは電気エネルギーに支えられていると言っても過言ではない．電力工学はこの電気エネルギーの発生に関わる発電工学と需要家への供給に関わる送電，変電および配電工学よりなるが，本講義では，それらのうちの発電工学について理解させることを目標として，主要な発電方式である，火力発電，原子力発電および水力発電の各技術について講述する．
到達目標	(1) 火力発電の原理について理解し，説明できること．(2) 火力発電のサイクルと主要設備について説明できること．(3) 原子力発電の原理について理解し，説明できること．(4) 原子力発電の種類と主要設備について説明できること．(5) 水力発電の方式と主要設備について説明できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：江間　敏，甲斐隆章 共著「電気・電子系教科書シリーズ 電力工学」(コロナ社) 参考書：吉川榮和，垣本直人，八尾　健 共著「発電工学」(電気学会)
成績評価	期末筆記試験を60%，レポートを40%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．

科目名	電力工学Ⅱ
担当教員	坂本　眞一
授業概要	現在の人類の豊かで便利な暮らしは電気エネルギーに支えられていると言っても過言ではない．電力工学はこの電気エネルギーの発生に関わる発電工学と需要家への供給に関わる送電，変電および配電工学よりなるが，本講義では，「電力工学1」に引き続き，それらのうちの送電，変電および配電工学について理解させることを目標とする．まず，送電工学に関して，送電線路，等価回路，制御方式などについて説明し，さらに変電工学および配電工学についても簡単に講述する．
到達目標	(1) 送電線路の種類と構成について説明できること．(2) 送電線路の線路定数について理解し，説明できること．(3) 送電線路の等価回路と円線図について理解し，説明できること．(4) 電力系統の制御方式について理解し，説明できること．(5) 変電所と配電方式の概要について説明できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：江間　敏，甲斐隆章 共著「電気・電子系教科書シリーズ 電力工学」(コロナ社)
成績評価	期末筆記試験を60%，レポートを40%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．

科目名	統計熱力学
担当教員	河﨑　澄
授業概要	統計力学に関する基礎知識の習得と，力学と統計力学との関係を理解することを目的とする。このために，熱現象などを多数の分子・原子の統計集合によって分子論的に考察する統計力学の基本的な考え方や，熱力学第一法則および第二法則と統計力学との関係について最低限必要な数学的記述を用いて講述する。
到達目標	(1)気体分子の熱運動と内部エネルギーの関係を説明できる。(2)マクスウェルの速度分布則について説明できる。(3)分配関数を用いてマクロな熱力学的状態量を記述できる。(4)2原子分子気体の温度と比熱の関係について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布する． 参考書：阿部龍蔵著『熱統計力学』(裳華房)，佐藤俊・国友孟著『熱力学』(丸善)など
成績評価	期末試験60%，および中間試験40%により評価する．

科目名	動力システム
担当教員	山根　浩二
授業概要	本講義は，人間の心臓とも言える動力システムの構造などを理解し，機械システムの設計に役立つ往復式内燃機関（ガソリン機関，ディーゼル機関）に関わる機構学，熱力学，燃焼工学的な解説をするほか，ロケット機関，ガスタービン機関，ターボ機械に関する作動原理について講義を行う。
到達目標	(1) 内燃機関の性能を決める因子が理解でき，燃料消費量などが求められる。 (2) 種々の動力システムの構成が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義資料としてプリント配布 参考書：便宜紹介
成績評価	定期試験100％：内燃機関の性能を決める因子が理解でき，燃料消費量などが求められること。種々の動力システムの構成が理解できること。なお，出席回数が所定の回数に満たないものは評価しない。

科目名	特殊加工学
担当教員	中川　平三郎
授業概要	我々の身の回りの製品にも、非常にレベルの高い科学技術によって作られているものが多くある。例えば半導体、記憶媒体、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、モバイルAV機器、携帯電話などには、電子ビーム加工、プラズマ加工、イオンプレーティングなどの高度な加工技術が基になっている。10年前までは、これらの加工は特殊加工と呼ばれているが、現在は特殊というより微細加工技術として、多くの製品を作り出している。本講義では微細加工技術の種類とその加工原理、特徴と将来性について理解をする.
到達目標	(1)各種加工方法の加工原理を理解する. (2)加工装置の原理を理解する. (3)各種加工方法の長所と短所が見極められる力を身に付ける. (4)身近にある工業製品と特殊加工法を結びつけることができるようになる.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：マイクロ応用加工　木本（共立出版） 指定図書：特殊加工　佐藤（養賢堂） マイクロ・ナノ加工の原理（共立出版）
成績評価	中間試験（40％），期末試験（60％）

科目名	トライボロジー
担当教員	未定
授業概要	トライボロジーの基礎事項と実用例について講義する。従来の学問体系である摩擦、磨耗、潤滑に対して、互いに動く二つの物体のインターフェースという観点から新しい概念を持ち込んだものがトライボロジーである。従来製品である機械の軸受け、歯車の基本的な機械要素から、半導体やハードディスクのような情報機器にいたるまでナノメーターオーダーのトライボロジー技術が機械の生命を左右するようになった。古くて新しい問題である寿命や信頼性にからんでトライボロジー問題を、ものつくりに関連させて学んでゆきたい。
到達目標	トライボロジーの基本（摩擦、磨耗、潤滑）を理解し、実際の機械の設計に必要な技術的知見を理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：田中勝之、川久保洋一共著　トライボロジー入門　（コロナ社）
成績評価	小試験50％　講義の理解度を確認する。 期末筆記試験50％　講義の理解度を判定する。

科目名	熱力学Ⅰ
担当教員	山根　浩二
授業概要	熱力学は自然界の物理現象を記述する基礎科学の一つで，機械工学を学ぶ学生にとって必須学問である。本講義は，図表や模式図などを多用したテキストを使用し，板書を基本に講義を行うとともに，必要に応じてスライドや動画を利用して理解を深める。また，各セクションでまとめと演習を設け，自学自習を促す。
到達目標	(1)熱力学第一および第二法則の関する関係式が理解できる(D-1)。 (2)熱力学関係式が理解でき，ガスサイクルのp-VおよびT-s線図が描け，熱効率を表す式を導くことができる(D-2)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「熱力学」（日本機械学会）およびプリント 参考書：便宜紹介
成績評価	定期試験50％，中間試験30％，宿題または小テスト20％により評価。なお，定期試験は出席回数が所定の回数を満たしている者のみ評価する。 中間試験では，熱力学第一および第二法則の関する関係式が理解できていること。定期試験では、熱力学関係式が理解でき，ガスサイクルのp-VおよびT-s線図が描け，熱効率を表す式を導けること。

科目名	熱力学Ⅱ
担当教員	山根　浩二
授業概要	熱力学Ⅰで学んだ熱力学の法則を踏まえ，熱システムの設計に役立つ実在気体に対する熱工学的な知識を習得する。本講義は，図表や模式図などを多用したテキストとプリントを使用し，必要に応じて動画を利用して理解を深める。また，各セクションでまとめと演習を設け，自学自習を促す。
到達目標	(1)蒸気サイクル，冷凍空調サイクルの状態量を求めることができる。 (2)圧縮性流体の状態方程式が理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：JSMEテキストシリーズ「熱力学」（日本機械学会）およびプリント 参考書：便宜紹介
成績評価	定期試験50％，各まとめ毎の小試験50％で評価．なお，定期試験に限って，所定の回数出席していないものは評価しない。

科目名	パワーエレクトロニクス
担当教員	乾　義尚
授業概要	パワー半導体デバイスを用いてスイッチングにより電力の変換および制御を行う技術であるパワーエレクトロニクスについて，その代表的な回路構成とスイッチングの制御手法の基礎を理解させることを目標とする．まず，パワー半導体デバイスの種類とそれらの基礎特性について説明する．次に，パワーエレクトロニクス回路である，サイリスタコンバータ，DC-DCコンバータおよびインバータから代表的な回路を選んでそれらの回路構成とスイッチングの制御手法について講述する．
到達目標	(1) 各種パワー半導体デバイスについて説明できること．(2) スイッチングによる電力変換・制御の原理を説明できること．(3) 各種サイリスタコンバータの原理と特性について説明できること．(4) 各種DC-DCコンバータの原理と特性について説明できること．(5) 各種インバータの原理と特性について説明できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：堀　孝正 編著「新インターユニバーシティ パワーエレクトロニクス」（オーム社）
成績評価	定期試験を80％，レポートを20％とし，それらの合計で評価する．

科目名	半導体基礎
担当教員	柳澤　淳一
授業概要	現在の高度情報化社会を支えているエレクトロニクス技術の主役である半導体デバイスを理解するため、その主要な構成要素である半導体の基礎について学ぶ。講義では半導体の基礎的な物性、半導体中での不純物原子や電気伝導を担うキャリアの運動を支配する物理法則、半導体素子の基本構造であるpn接合の理論、などを説明し、電子がどのように振る舞うことで特徴的な電気伝導が起こるのか、その基本原理を理解してもらう。
到達目標	半導体の特性は二種類のキャリアの振る舞いで説明でき、キャリアの運動はエネルギーバンド構造に支配され、簡単なデバイスの動作原理がエネルギーバンドを用いて説明できるようになることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：入江泰三、遠藤三郎共著「半導体基礎工学（Ｉ）」（工学図書） 指定図書：太田英二、坂田亮共著「半導体の電子物性工学」（裳華房）、高橋清著「半導体工学　第2版」（森北出版） 参考書：青木昌治著「応用物性論」（朝倉書店）、キッテル「固体物理学入門」（訳本：丸善）
成績評価	レポートおよび小試験評価40％：講義で扱った式の導出や数値的な計算ができること。 期末筆記試験60％：半導体の基礎特性を理解していることを計算および論述により問う。

科目名	半導体デバイス
担当教員	竹内　日出雄
授業概要	エレクトロニクスの中心である半導体デバイスの物理を支配する半導体接合の物理と電気的特性に関して理解を深める。具体的には，半導体デバイスの中でも基本的な縦方向デバイスであるpn接合ダイオード，バイポーラトランジスタついて理解する。次に，金属・半導体界面，金属・絶縁物半導体界面の物理を学び，横方向デバイスである電界効果トランジスタについて学習する。最後に，半導体の光学的性質等に関する基礎知識を習得する。
到達目標	提供科目「電子デバイス」を理解する上で必須となるダイオード/トランジスタの動作原理に関して理解できる。同時に「光エレクトロニクス」を理解する上での基礎知識を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：東辻浩夫，「半導体工学」，培風館。 指定図書：S.M.ジィー，「半導体デバイス」，産業図書。 参考書：自己学習を促す観点から，半導体デバイスを理解為の物理学書籍を適宜紹介する。
成績評価	レポート評価40%:自己学習を促すため，＊の回にレポート作成を課す。内容は，基本となる理論式の導出および簡単な数値計算。 期末試験60%:各レポートの内容に加え，あるデバイス特性に対して定性的説明を与える論述形式の問題を課す。

科目名	反応速度論
担当教員	徳満　勝久
授業概要	物質の本質的安定性は化学結合と熱力学で決まるが，実際には物質の変化速度も重要である。たとえばダイヤモンドは黒鉛より不安定だが，実際には数億年経っても変化しない。また，物質の変化速度は材料合成の迅速化にも重要であるほか，速度コントロールで同じ組成でも異なる物質を合成できる。この講義では物質の変化速度を決定する，全反応の速度と素反応の関係，素反応の速度に関する微視的理論，および拡散律速反応について講述する。
到達目標	(1)反応速度を決める諸要因を列挙できること，(2)素反応の様々な組み合わせについて，レート方程式を導き，数値的に解けること，(3)素反応の機構に関する理論の概要を理解していること，(4)拡散反応の条件に応じて拡散方程式を導き，数値的に解けること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：千原秀昭・中村亘男 訳「アトキンス物理化学　第8版（下）」（東京化学同人）
成績評価	期末筆記試験（50％）　反応速度に関する基本的な考え方と手法を理解しており，また幾つかの例に対し適用できること。 宿題とその発表およびレスポンスシート等の内容（50％）　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	光エレクトロニクス
担当教員	竹内　日出雄
授業概要	高度情報化社会において，光と電子の相互作用に基づいた光エレクトロニクスに対する知識は，これからのデバイスエンジニアにとって必須となっている。本講義では，光エレクトロニクスを理解するための量子力学に関する講義から始まる。そして，光物性/量子力学の観点から半導体レーザー/受光素子に関して復習を行う。さらに光エレクトロニクスを語る上で欠かせない光ファイバー，電子画像表示素子および光記憶媒体に関して講義を行う。なお模擬実験を通して，実際のデバイスを紹介する。
到達目標	光デバイス開発に欠かせない光と電子との相互作用を量子力学レベルから理解できること。これを第一の目的とする。さらに最新デバイスの基礎知識を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 特に指定しない。適宜資料を，ポータルサイトを介して配布する。 指定図書:S.L Chuang,「Physics of Optelectronic Devices」。 参考書: 自己学習を促す観点から，特に量子力学に関する書籍を適宜紹介する。
成績評価	レポート評価40%:自己学習を促すため，＊の回にレポート作成を課す（Web版科目概要を参照のこと）。内容は，基本となる理論式の導出および簡単な数値計算。 期末試験60%:各レポートの内容に加え，あるデバイス特性に対して定性的説明を与える論述形式の問題を課す。

科目名	微積分Ｉ（材料、電子システム）
担当教員	松下　泰雄
授業概要	微積分は近代科学と技術の基盤である。この講義は1変数の微積分を学ぶ。基本的な部分は既に高等学校で学んでいるので、もうすこし進んだ内容を学ぶことになる。微積分学は線形代数とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。
到達目標	1変数微積分の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館） 指定図書:上野健爾監修「技術者のための微分積分学」（森北出版）
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	微積分Ｉ（機械システム）
担当教員	谷口　義治
授業概要	微積分は近代科学と技術の基盤である。この講義は1変数の微積分を学ぶ。基本的な部分は既に高等学校で学んでいるので、もうすこし進んだ内容を学ぶことになる。微積分学は線形代数とならんで、あらゆる数学のみならずあらゆる科学・技術において最も基本的な数学である。
到達目標	1変数微積分の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館） 指定図書:上野健爾監修「技術者のための微分積分学」（森北出版）
成績評価	1変数微積分の基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができることが最低基準である。成績は期末試験（95％）と演習問題の発表（5％）によって評価する。

科目名	微積分Ⅱ（材料科学）
担当教員	谷口　義治
授業概要	微積分1を前提に、多変数（主に2変数）の関数の微積分学の基本的な部分を講義する。多変数関数の微積分は1変数の場合と異なってその扱いが複雑となるが、考え方そのものは1変数の場合と異なることはない。それを自然に多変数に拡張したものを考えるのである。
到達目標	2変数微積分の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館））
成績評価	多変数微積分の基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができることが最低基準である。成績は期末試験（95%）と演習問題の発表（5%）によって評価する。

科目名	微積分Ⅱ（機械システム）
担当教員	松下　泰雄
授業概要	微積分1を前提に、多変数（主に2変数）の関数の微積分学の基本的な部分を講義する。多変数関数の微積分は1変数の場合と異なってその扱いが複雑となるが、考え方そのものは1変数の場合と異なることはない。それを自然に多変数に拡張したものを考えるのである。
到達目標	2変数微積分の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館））
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	微積分Ⅱ（電子システム）
担当教員	谷口　義治
授業概要	微積分1を前提に、多変数（主に2変数）の関数の微積分学の基本的な部分を講義する。多変数関数の微積分は1変数の場合と異なってその扱いが複雑となるが、考え方そのものは1変数の場合と異なることはない。それを自然に多変数に拡張したものを考えるのである。
到達目標	2変数微積分の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館）） テキスト：微積分1と同じ。（「入門微分積分」三宅敏恒著（培風館））
成績評価	多変数微積分の基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができることが最低基準である。成績は期末試験（95%）と演習問題の発表（5%）によって評価する。

科目名	微積分続論
担当教員	谷口　義治
授業概要	微積分2で扱わなかった、多変数関数の微積分学のさらに進んだ部分を講義する。
到達目標	講義内容の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:微積分1と同じ。(「入門微分積分」三宅敏恒著(培風館))
成績評価	多変数微積分の基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができることが最低基準である。成績は期末試験(95%)と演習問題の発表(5%)によって評価する。

科目名	微分方程式（材料）
担当教員	山口　博史※
授業概要	独立変数が1つの微分方程式を常微分方程式という。常微分方程式は科学・技術の広い分野で基本的な役割をもっている。この講義では常微分方程式の基本的な解法を学ぶ。微分方程式は応用上重要であり、その運用の仕方をきちんと身につけなければならない。
到達目標	常微分方程式の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「微分方程式概説」岩崎・楳田共著(サイエンス社) 参考書:『長瀬道弘著「微分方程式」(裳華房)』
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	微分方程式（機械システム）
担当教員	山口　博史※
授業概要	独立変数が1つの微分方程式を常微分方程式という。常微分方程式は科学・技術の広い分野で基本的な役割をもっている。この講義では常微分方程式の基本的な解法を学ぶ。微分方程式は応用上重要であり、その運用の仕方をきちんと身につけなければならない。
到達目標	常微分方程式の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:岩崎・楳田共著「微分方程式概説」(サイエンス社) 参考書:長瀬道弘著「微分方程式」(裳華房)
成績評価	期末試験の結果によって評価する。

科目名	微分方程式（電子システム）
担当教員	谷口　義治
授業概要	独立変数が1つの微分方程式を常微分方程式という。常微分方程式は科学・技術の広い分野で基本的な役割をもっている。この講義では常微分方程式の基本的な解法を学ぶ。微分方程式は応用上重要であり、その運用の仕方をきちんと身につけなければならない。
到達目標	常微分方程式の基礎的事項を理解し、正しい運用ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「微分方程式概説」岩崎・楳田共著（サイエンス社）
成績評価	常微分方程式の解法における基礎的な事項を一応理解して、基本的な計算ができることが最低基準である。成績は期末試験（80％）と演習問題の発表（20％）によって評価する。

科目名	複合材料
担当教員	山下　義裕
授業概要	複合材料（繊維と樹脂もしくは金属）の特性，新しい複合材料の基礎的事項，複合材料の強度と破壊，構造解析と材料の調和について理解する
到達目標	(1)複合材料設計に必要な複合則を理解する(2)複合材料を作製するための基礎を理解する(3)複合材料の強度と弾性率をシミュレーションを利用して算出できる (4)複合材料が環境を配慮した新しい材料であることを理解する (5)複合材料の利用されている実例について理解する (6)CAEを利用した複合材料設計を理解する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「入門:複合材料の力学（培風館）」 CAEシミュレーション:SolidWorks
成績評価	学習発表　30点，試験 70点

科目名	物性デバイス基礎論
担当教員	竹内　日出雄
授業概要	電子デバイスは，多様な材料から構成される。こうした材料の物性を理解することは，新規デバイスの開発を行う上で必須である。本講義では，(1)誘電体・絶縁体材料，(2)磁性体材料，(3)半導体材料，(4)導電性材料の基本事項を学ぶ。さらに材料開発において欠かすことのできない材料評価方法について学習する。
到達目標	各材料の物理的性質および特性を記述する基本式の意味を理解し，適切な材料選択/設計を行うことができることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特に指定しない 指定図書:黒沢達美「物性論」(裳華房);河東田隆「半導体評価技術」(産業図書)。 参考書: 自己学習を促す観点から，物性を理解する為の物理学書籍を適宜紹介する。
成績評価	レポート評価40%:自己学習を促すため，Web版科目概要の授業計画の＊の回にレポート作成を課す。内容は，基本となる理論式の導出，簡単な数値計算および論述。 期末試験60%:各レポートの内容に加え，理論式の持つ意味等，論述形式の問題を課す。

科目名	物理化学総合および同演習
担当教員	宮村　弘 ・ 秋山　毅 ・ 菅原　透 ・ 吉田　智
授業概要	物理化学の基礎的な演習問題を解きその考え方を習得することによって、材料科学を学ぶ上で基礎となる熱力学、化学結合の適用範囲の広さを知り、実際の材料科学の問題に応用できるスキルを身につける。基礎化学、電子と化学結合、基礎熱力学、化学熱力学、基礎結晶学、無機化学Ｉの講義内容に関連した基礎的な内容の演習問題を解き、巨視的および微視的に物質とエネルギーの挙動を理解する。
到達目標	(1)気体の性質を巨視的に理解し、熱力学量を求めることができる。(2)熱力学の基本法則を理解できる。(3)エントロピーの計算ができる。(4)相平衡に関連する様々な問題を解くことができる。(5)化学結合、分子構造、波動関数について理解できる。(6)固体の基礎的な構造が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:P.W. ATKINS著、千原秀昭・中村亘男訳『アトキンス物理化学　上』(東京化学同人) 参考書:講義の中で必要に応じて紹介する。
成績評価	提出課題(60%)＋講義時間内発表および受講態度(40%)

科目名	物理学実験（材料科学）
担当教員	田中　他喜男 ・ 田邉　裕貴 ・ 近藤　千尋 ・ 福岡　克弘 ・ 竹内　日出雄 ・ 木村　真之
授業概要	自然科学の基礎となる物理学のいろいろな現象 を観察するとともにそれらに関する物理量を種々の測定器具を用いて測定する。実測した実験データを基に図表を作成し，物理学の諸法則や諸原理の関係を考 え，適宜実験報告書の作成指導を受け，プレゼンテーションの仕方を身につける。
到達目標	(1)基本的な物理量に関する理解を深め，それらの測定方法や原理を説明できる(C)。(2)最小二乗法によるデータ処理，実験誤差，有効数字の取扱，グラフ作成などの実験データの整理ができる (D-3)。(3)実験報告書の作成やプレゼンテーションを通じて実験の報告ができる(F)。(4)実験を通して基本的な原理や法則を具体的に理解 し，実験観察による各種現象を物理学的に説明できる(D-1)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:本学部作成の物理学実験テキストを使用する 参考書:授業のなかで紹介する.
成績評価	レポート(80%)，プレゼンテーション(20%)により評価。ただし，単位を取得するためには，全回出席，全実験報告書の受理，プレゼンテーションの実施，が必要である。

科目名	物理学実験（機械システム）
担当教員	田中　他喜男 ・ 田邉　裕貴 ・ 近藤　千尋 ・ 福岡　克弘 ・ 竹内　日出雄 ・ 木村　真之
授業概要	自然科学の基礎となる物理学のいろいろな現象を観察するとともにそれらに関する物理量を種々の測定器具を用いて測定する。実測した実験データを基に図表を作成し，物理学の諸法則や諸原理の関係を考え，適宜実験報告書の作成指導を受け，プレゼンテーションの仕方を身につける。
到達目標	(1)基本的な物理量に関する理解を深め，それらの測定方法や原理を説明できる(C)。(2)最小二乗法によるデータ処理，実験誤差，有効数字の取扱，グラフ作成などの実験データの整理ができる (D-3)。(3)実験報告書の作成やプレゼンテーションを通じて実験の報告ができる(F)。(4)実験を通して基本的な原理や法則を具体的に理解し，実験観察による各種現象を物理学的に説明できる(D-1)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:本学部作成の物理学実験テキストを使用する 参考書:授業のなかで紹介する.
成績評価	レポート(80%)，プレゼンテーション(20%)により評価。ただし，単位を取得するためには，全回出席，全実験報告書の受理，プレゼンテーションの実施，が必要である。

科目名	物理学実験（電子システム）
担当教員	田中　他喜男 ・ 田邉　裕貴 ・ 近藤　千尋 ・ 福岡　克弘 ・ 竹内　日出雄 ・ 木村　真之
授業概要	自然科学の基礎となる物理学のいろいろな現象 を観察するとともにそれらに関する物理量を種々の測定器具を用いて測定する。実測した実験データを基に図表を作成し，物理学の諸法則や諸原理の関係を考 え，適宜実験報告書の作成指導を受け，プレゼンテーションの仕方を身につける。
到達目標	(1)基本的な物理量に関する理解を深め，それらの測定方法や原理を説明できる(C)。(2)最小二乗法によるデータ処理，実験誤差，有効数字の取扱，グラフ作成などの実験データの整理ができ る (D-3)。(3)実験報告書の作成やプレゼンテーションを通じて実験の報告ができる(F)。(4)実験を通して基本的な原理や法則を具体的に理解 し，実験観察による各種現象を物理学的に説明できる(D-1)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：本学部作成の物理学実験テキストを使用する 参考書：授業のなかで紹介する.
成績評価	レポート(80%)，プレゼンテーション（20％）により評価。ただし，単位を取得するためには，全回出席，全実験報告書の受理，プレゼンテーションの実施，が必要である。

科目名	プラズマ工学
担当教員	坂本　眞一
授業概要	電離気体に代表されるプラズマは，固体・液体・気体のいずれにも当てはまらないため物質の第4状態とも言われ，種々の工学的応用に用いられている．本講義では，このプラズマについて，その基礎から応用までを一通り理解させることを目標とする．まず，プラズマの定義およびその微視的・巨視的性質について説明する．次に，プラズマの各種発生法について述べ，さらにその応用についても簡単に講述する．
到達目標	(1) プラズマの微視的性質について理解し，説明できること．(2) プラズマの巨視的性質について理解し，説明できること．(3) 気体の絶縁破壊に関するタウンゼント理論とパッシェンの法則について説明できること．(4) プラズマの各種発生法について説明できること．(5) プラズマの各種応用について説明できること．
テキスト 指定図書 参考書	菅井秀郎 編著「インターユニバーシティ プラズマエレクトロニクス」(コロナ社)
成績評価	期末筆記試験を60%，レポートを40%として，それらの合計で評価し，60%以上の成績で合格とする．

科目名	プログラミング言語
担当教員	畑中　裕司
授業概要	C言語を用いて、プログラミング言語の基礎となる文法やアドレスの概念について講義する。さらに、手続き型言語、論理型言語、オブジェクト指向言語、スクリプト型言語など、様々な言語の特徴とプログラミングのスタイルについて講義する。
到達目標	(1)プログラミング言語の基本概念について説明できること。(2)複数の言語の特徴とプログラミングスタイルについて説明できること。(3)簡素なプログラムのソースコードを理解できること。(4)プログラミングにおけるアドレスについて説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：白鳥則郎、高橋薫、神長裕明著「ソフトウェア工学の基礎知識」(昭晃堂)、柴田望洋著「新版 明解C言語入門編」(ソフトバンクパブリッシング) 指定図書：大山口通夫、五味弘著「プログラミング言語論」(コロナ社)
成績評価	期末試験80%、レポート20％として、それらの合計で評価し、60%以上の成績で合格とする。ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	分子・統計力学
担当教員	松岡　純
授業概要	原子間や分子間の微視的な相互作用は量子力学に基づく化学結合論で扱え、また原子や分子の集団としての振る舞いは熱力学の考えで扱える。しかし、この二つ（微視的相互作用と巨視的挙動）を結び付けるには統計力学の考えが必要である。そこで本講では統計力学について、弱い相互作用の系で微視的扱いと巨視的扱いを関連づける気体分子運動論、相互作用のある系における統計力学の基本的枠組み、材料科学における統計力学の有効性を示す実例の順に講述する。
到達目標	(1)平衡状態での純物質の気体分子運動論について理解していること。 (2)統計力学の基本的な枠組について理解していること。 (3)材料科学へ統計力学を応用した実例を幾つか示し，その概要を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：P.W. Atkins著、千原秀昭・中村亘男 訳「アトキンス物理化学　第8版（上、下）」（東京化学同人），上田和夫 著「統計物理学入門」（共立出版） 指定図書：薩摩順吉 著「岩波基礎物理シリーズ 10 物理の数学」（岩波書店），柴田優・柴田正弘 著「Excelによる基礎数値計算」（工学図書） 参考書：B. Widom著，甲賀研一郎 訳「化学系の統計力学入門」（化学同人），小島和夫・越智健二 著「化学系の統計熱力学」（培風館）
成績評価	期末筆記試験（50％）　統計力学の基本的な考え方と手法を理解しており，また幾つかの例に対し適用できること。 宿題とその発表（50％）　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	分析・環境化学実験（材料科学）
担当教員	秋山　毅・菊地　憲次・山下　義裕・谷本　智史・鈴木　厚志・竹原　宗範・菅原　透
授業概要	環境に配慮して少量の試料による定性定量分析の理解と廃液処理の概念の修得させるため、水溶液中の金属イオンの種類を知るための定性分析を行い，金属イオンの基本反応を理解するとともに，これらの金属イオンを系統的に分離・確認する基本操作を修得する。容量分析の酸塩基滴定法によって定量分析を理解させる。また、重金属イオンを含む廃液の処理方法を講義で説明するとともに，実際に廃液を処理することにより，実験室から有害な重金属イオンを排出しないことの大切さを修得させる。
到達目標	環境に配慮した少量の試料による定性分析とその操作を理解できること。4-5種類のカチオンの分離ができること。酸塩基の正確な濃度の溶液を調整できること。誤差と標準偏差の関係を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『無機定性分析実験』京都大学総合人間学部編（共立出版），『実験を安全に行うために』化学同人編集部編（化学同人），『続　実験を安全に行うために』化学同人編集部編（化学同人）
成績評価	実験レポート（100%）で成績評価を行う。ただし、1回以上欠席した者、1回以上レポートを提出しなかったもの、安全衛生に関する指導に従わなかったものは評価対象としない。

科目名	分析・環境化学実験（機械、電子システム）
担当教員	秋山　毅・菊地　憲次・菅原　透・山下　義裕・谷本　智史・竹原　宗範・鈴木　厚志
授業概要	環境に配慮して少量の試料による定性定量分析の理解と廃液処理の概念の修得させるため、水溶液中の金属イオンの種類を知るための定性分析を行い，金属イオンの基本反応を理解するとともに，これらの金属イオンを系統的に分離・確認する基本操作を修得する。容量分析の酸塩基滴定法によって定量分析を理解させる。また、重金属イオンを含む廃液の処理方法を講義で説明するとともに，実際に廃液を処理することにより，実験室から有害な重金属イオンを排出しないことの大切さを修得させる。
到達目標	環境に配慮した少量の試料による定性分析とその操作を理解できること。4-5種類のカチオンの分離ができること。酸塩基の正確な濃度の溶液を調整できること。誤差と標準偏差の関係を説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『無機定性分析実験』京都大学総合人間学部編（共立出版），『実験を安全に行うために』化学同人編集部編（化学同人），『続　実験を安全に行うために』化学同人編集部編（化学同人）
成績評価	実験レポート（100%）で成績評価を行う。ただし、1回以上欠席した者、1回以上レポートを提出しなかったもの、安全衛生に関する指導に従わなかったものは評価対象としない。

科目名	分析化学
担当教員	菊地　憲次
授業概要	測定誤差の統計的処理，化学平衡および各定量分析方法の概念の理解をするために、①試料のサンプリング，②分析成分を測定に適した形に変換すること，③測定，④測定値の計算と解釈を解説する。①と④の概念を把握するため分析データの誤差の統計的取扱い方法を解説し，③の測定の基礎となる理論を理解させるために，水溶液での化学量論と化学平衡，酸塩基平衡，非水系の酸塩基平衡ならびに酸化還元平衡を理解させたのち，容量分析法，重量分析法，複雑な系の酸塩基滴定法，酸化還元滴定法を解説する。
到達目標	(1)分析データの統計的取り扱いの概念を説明できること。(2)中和反応や酸化還元反応についての当量関係を計算できること。(3)化学平衡を用いてpHと酸塩基化学種の濃度との関係を説明できること。(4)複雑な系の酸塩基平衡からpHと酸塩基化学種の濃度との関係が説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『定量分析化学』R.A.ﾃﾞｲ，A.L.ｱﾝﾀﾞｰｳｯﾄﾞ共著、鳥居泰男・康　智三　共訳　(培風館) 参考書:『定量分析の化学』田中元治，中川元吉　共著(朝倉書店) 『分析化学』R.L.Pecsokほか共著、荒木　峻，鈴木繁蕎　共訳　(東京化学同人)
成績評価	10回程度のレポートの成績(50%)と試験成績(50%)により評価する。

科目名	マルチメディア
担当教員	奥村　進
授業概要	マルチメディアでは文字・音声・画像等多種多様なデータ扱われる。本講義では、その表現と処理に関する基礎的な要素技術についてハードウェアとソフトウェアの視点から扱う。またマルチメディアの通信に伴う情報圧縮やマルチメディアの応用システムなどについても学ぶ。
到達目標	マルチメディアに関する基礎的な概念と技術を理解し、その基本的事項について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:大賀 寿郎著「マルチメディアシステム工学」(コロナ社) 指定図書:小舘 香椎子、柳沼 良知、小舘 亮之編著「マルチメディア表現と技術」(丸善) 参考書:尾内 理紀夫著「マルチメディアとコンピューティング」(コロナ社)
成績評価	期末試験80%、レポート20%:講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解しているかどうかを評価する。

科目名	無機化学Ⅰ
担当教員	松岡　純
授業概要	無機化学では自然界に存在する100以上の元素すべてを扱うため、対象物質の数は2原子分子で100の2乗、3原子分子では3乗(100万)程度と膨大である。そのため物質ごとの暗記ではなく構成元素の特徴に基づく系統的な理解、つまり、原子間の結合の特徴の元素依存性についての電子構造に基づく理解が重要となる。そこで本講では、イオン結合性の固体と、共有結合性の分子および固体について、これらの基本的な捉え方を講義する。
到達目標	次の(1)～(5)について概要を説明できること:　(1)元素の周期表上の位置と性質・結合性の関係，(2)イオン結晶の安定性，(3)遷移金属の配位子場分裂，(4)共有結合性物質の電子構造と安定な構造の定まり方，(5)無機物質の反応性，特に酸塩基反応と酸化還元反応の反応性。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:小村昭寿 著「フレンドリー無機化学　深く理解するために」(三共出版) 指定図書:長倉三郎 他編「岩波 理化学辞典 第5版」(岩波書店) 参考書:平尾一之・田中勝久・中平敦 著「無機化学　ーその現代的アプローチ」(東京化学同人)
成績評価	期末筆記試験(80%)　周期表と元素の特徴の関係，化学結合の原因と電子軌道，および無機物質の安定性・反応性の支配要因に関し，基本的な考え方を理解していること。 宿題(20%)　授業計画の大項目ごとの内容を理解していること。

科目名	無機化学Ⅱ
担当教員	バラチャンドラン　ジャヤデワン
授業概要	無機材料の多くは多元系材料であり、材質を知るためには熱力学的性質の理解が不可欠である。本講義ではまず、金属元素を主な構成要素とする材料のミクロな構造について、基礎結晶学で学習した内容の復習を踏まえて簡単に紹介したあと、二元系および三元系合金を中心に、熱力学と平衡状態図について講述する。さらに準安定相・非平衡相についても解説する。また、金属同士ばかりでなく、水溶液中におけるイオンとの化学平衡についても述べ、酸化還元平衡からネルンストの式を介して、電気化学ポテンシャルの概念を学習する。
到達目標	(1)合金、固溶体、金属間化合物とは何か、簡単に説明できること。(2)自由エネルギーと相図の関連を理解すること。(3)二元系・三元系合金状態図を用いて、不変系反応を理解し、相構成を読み取ることができること。(4)水溶液中における酸化・還元反応について、ネルンストの式の導出過程を理解できること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:杉本孝一 他6名 共著:『材料組織学』(朝倉書店) 指定図書:渡辺啓著「エントロピーから化学ポテンシャルまで」(裳華房) 参考書:プリゴジン・コンディプティ著、妹尾・岩元訳「現代熱力学―熱機関から散逸構造へ」(朝倉書店)、 横山亨:『図解　合金状態図読本』(株式会社オーム社)
成績評価	小テスト(40%)、定期試験(60%)

科目名	無機工業材料
担当教員	宮村　弘　・　鈴木　厚志　・　吉田　智　・　菅原　透
授業概要	無機系、有機系材料に限らず、材料の機能は素材の物性に大きく依存し、それらを複合することにより新たな機能が発現することが知られている。本講義では無機工業材料の構造や機能、解析方法から金属分野、セラミックス分野、エネルギー分野に共通する知識を身につけ、その構造との関連を理解し、材料設計、プロセス設計へと活用できる能力を養うとともに素材特性が実用材料に対してどのように生かし利用されているかを学ぶ。各分野から最新のトピックスと合わせてオムニバス形式で紹介を行う。各自の理解を深めるために毎回簡単な問題についてレポートを課す予定である。
到達目標	(1)太陽電池の種類を分類分けし、それぞれの太陽電池の仕組み(光伝導性、光変換効率)とその物理現象を理解する。(2)工業用金属材料をあげ、その構造と機能性の関係を理解する。(3) 身の回りの機能性セラミックス材料をあげ、その構造と機能性の関係を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:トコトンやさしい太陽電池の本　産業技術総合研究所　編著　日刊工業新聞社 これだけは知っておきたいファインセラミックスのすべて　第2版　(社)日本セラミックス協会 編　日刊工業新聞社
成績評価	レポート評価(100%)

科目名	メカトロニクス
担当教員	安田　寿彦
授業概要	メカトロニクスの基礎事項と応用例について講義する。日本で生まれた新しい学問であるメカトロニクスは機械と電子が一体化・融合した技術であり，そのことにより初めて新しい機能が創造され，新しい価値を生み出している。要素技術は従来の学問であるが，それらを如何に融合するかがメカトロニクスのポイントである。実際の応用例を参考に，新しい機能の創生は如何になされたかを理解・修学してもらいたい。
到達目標	メカトロニクスの効果と基本思想を理解し，メカトロニクスの基本要素であるアクチュエータの原理と制御法を理解し，実際の応用例について理解ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:土屋武士/深谷健一　共著　メカトロニクス入門　(森北出版)
成績評価	課題20%、筆記試験80%。

科目名	有機化学Ⅰ
担当教員	熊谷　勉
授業概要	生命体によって作られ生命体を構成する有機化合物は、ビタミン・ホルモン・酵素・核酸・DNAなど多種多様である。また、木材・紙・プラスチック・塗料などの高分子化合物も有機分子複合体である。石油に始まり、生薬や合成医薬品・化粧用品・衣料品・色素・感光剤・芳香剤・消臭剤から汚染物質・有害物質・毒物・劇物・危険物と数百万種におよぶ有機化合物が知られているが、それらの多くは炭素原子の連鎖骨格に水素・窒素・酸素原子の結びついた単純明快な構造をもつのが特徴である。
到達目標	飽和炭化水素（σ結合）と二重結合（π結合）の構造的特性と性質を理解し説明できることが到達目標である。炭化水素の繰り返し構造の特徴を理解し、それに付随する機能の発現様式をと立体3次元構造との相関をイメージでき、化学反応のメカニズムに関する合理的な説明をすることができることを目標にしたい。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「有機化学概説-第6版」（マクマリー著　伊東・児玉訳　東京化学同人）
成績評価	筆記試験（70%）　講義と教科書の内容を理解し、章末の基礎的な問題を解けること。

科目名	有機化学Ⅱ
担当教員	熊谷　勉
授業概要	芳香族化合物とハロゲン化アルキルの反応性を解説し、求(親)電子置換反応と求核置換反応の特質を理解することを到達目標とする。併せて、アルコールとエーテル類の性質を概説し、有機化合物の立体化学表記法に関して説明を加える。
到達目標	二重結合に対する求(親)電子付加反応と比較しながら、芳香族化合物の求(親)電子置換反応を理解することを第一の到達目標とする。求核置換反応に関しては、SN1反応とSN2反応の違いを理解し、一分子脱離（E1）反応と二分子脱離（E2）反応を区別し、中間体カルボカチオン等の性質を正確に把握し、反応のメカニズムを説明できることを第二の到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「有機化学概説-第6版」（マクマリー著　伊東・児玉訳　東京化学同人）
成績評価	筆記試験（70%）　講義と教科書の内容を理解し、章末の基礎的な問題を解けること。 小テスト（30%）　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	有機化学Ⅲ
担当教員	熊谷　勉
授業概要	二重結合に対する求(親)電子付加反応、芳香族化合物の求(親)電子置換反応、ハロゲン関連化合物の求核置換反応（SN1反応とSN2反応）と脱離反応（E1反応とE2反応）に関する知識を踏まえて、種々のカルボニル化合物に対する求核試薬の特異な反応性を理解する。特に、ケト-エノール互変異性とアルドール縮合を出発点として関連する種々の反応様式を理解するすることを目的とする。
到達目標	通常の二重結合に対するカルボニル二重結合の性質(分極と立ち上がり)を把握し、求電子付加反応と求核付加反応の特質を理解することを第一の到達目標とする。また、カルボニルα水素の酸性度に起因する縮合反応を理解し、種々の有機化合物の合成経路を自ら企画できることを第二の到達目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「有機化学概説-第6版」（マクマリー著　伊東・児玉訳　東京化学同人）
成績評価	筆記試験（70%）　講義と教科書の内容を理解し、章末の基礎的な問題を解けること。 小テスト（30%）　毎週の講義内容を理解できていること。

科目名	有機化学Ⅳ
担当教員	井上　吉教
授業概要	授業のねらいは有機合成の立場から、生成物の精製と分析機器による構造決定について講義する。赤外スペクトルでは原子間の結合強度、核磁気共鳴では遮蔽が重要である。そこで自然界の有機化合物、複素環化合物、ヘテロ元素化合物などの構造決定にどのように応用するかについて実例を示しながら解説する。また光学活性体の分離や絶対配置決定についても言及する。
到達目標	(1)有機反応における生成物の一般的な精製法や純度決定法を理解すること (2)有機化合物の赤外スペクトルや核磁気共鳴スペクトルから構造を推定もしくは決定できること(複雑な天然物などは除く)(3)光学活性体の分割手法を理解し、核磁気共鳴スペクトルにより絶対配置を決定できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:マクマリー有機化学概説第6版(東京化学同人)　有機化合物のスペクトルによる同定法(東京化学同人)
成績評価	レポート評価　60%　期末筆記試験　40%

科目名	有機化学総合および同演習
担当教員	谷本　智史 ・ 山下　義裕 ・ 鈴木　厚志 ・ 竹原　宗範
授業概要	基礎化学や有機化学I、IIの講義に関する演習問題を学生自らが板書解答し、その考え方を説明することにより、有機化学の基礎をより深く理解する。
到達目標	有機化合物内の化学結合の様式を理解する。混成軌道の立体構造を理解する。アルケンに対する付加反応の反応過程を説明できるようになる。芳香族置換反応の配向性と置換基の関係を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 指定図書:理化学辞典、化学便覧 参考書:マクマリー有機化学概説
成績評価	時間内の発表50%、宿題50%

科目名	有機工業材料
担当教員	廣川　能嗣
授業概要	機械、電気などあらゆる工業の分野において使用される材料のうち、従来の代表的な汎用有機材料に加えて、さらに特徴的な優れた機能を発揮する有機機能材料を取り上げ、これらの合成法、機能発現の原理、応用分野などを解説する。
到達目標	主要な工業製品に使われている有機材料について、使われる理由、使われ方、原料、製法について、一般の人が理解できるように説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:荒木孝二、明石満、高原淳、工藤一秋著「有機機能材料」(東京化学同人) 参考書:原田 明、樋口弘行 編著「有機機能性材料化学」(三共出版)
成績評価	レポート(100%)の結果をもとに判定する。

科目名	有機量子化学
担当教員	熊谷　勉
授業概要	現在有機化学の分野では計算化学が盛んである。この講義では分子軌道法の基礎として、パイ電子系を取り扱う分子軌道法について解説し、有機化合物やフリーラジカルの反応に関する問題を講義する。
到達目標	(1)LCAO法による分子軌道の組み立てについて理解すること。(2)簡単な分子についてヒュッケル法における永年行列方程式を組み立てられること。(3)ヒュッケル法により計算できる種々の値の意味を理解すること。(4)簡単な反応の理解に利用できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:菊池　修　　基礎化学シリーズ8　基礎量子化学　朝倉書店　1997. 参考書:小笠原正明　田地川浩人　化学結合の量子論入門　三共出版　1999.
成績評価	レポート評価 70%、期末筆記試験 30%

科目名	流体力学Ⅰ
担当教員	南川　久人
授業概要	流体に関わる物理現象を正しく理解すると同時に，我々の身の回りや工業における流れの問題を解決するための考え方を身につけることを目的とする。そのために，まず流体と流れの分類と物性値，流体用語の定義を解説したのちマノメータや静水圧に関係する静止流体力学について学ぶ。次に，流体の加速度，質量保存則と連続の式，運動方程式を導いた後，ベルヌーイの定理について学習する。この定理を利用してさまざまな流れ場を解いたのち，粘性の影響も考慮したナビエ・ストークスの方程式を学ぶ。
到達目標	(1)流体力学の必要性を説明できる(D-1)。(2)粘性，圧力，層流と乱流，定常流と非定常流など，重要な用語の定義や性質を説明できること(D-2)。(3)マノメータと圧力の関係を表す式をさまざまな導出できること(D-2)。(4)連続の式とベルヌーイの定理を用いて，流れ場が解けること(D-2)。(5)ナビエ・ストークスの方程式の全体と各項の意味を理解すること(D-2)。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:日本機械学会編、JSMEテキストシリーズ「流体力学」(丸善) 指定図書:深野　徹,「わかりたい人の流体工学(Ⅰ)」(裳華房) 参考書:森川敬信ほか,「新版流れ学」(朝倉書店)
成績評価	レポート評価 35%　ほぼ毎回、出題する課題に関してレポートを提出すること。 期末筆記試験 65%　到達目標に記した内容をはじめ，キーワードに関する内容の確認問題および応用問題を出題する。

科目名	流体力学Ⅱ
担当教員	南川　久人
授業概要	流体力学Ⅰで学んだ流れの力学的基礎概念をもとに，応用上重要と考えられる流体力学の各種理論や項目を取り上げ，考え方，考察の仕方を理解する。相似則，次元解析，運動量の理論，管内流の詳細理論，管内乱流の取り扱い，各種損失，物体周りの流れ，揚力と抗力など，応用上の観点から，より詳細に流れを説明できる理論や，様々な流れを取り扱う理論の基礎を学ぶ。また，流体計測法など，工学的・実用的な問題も取り扱う。それにより，種々の流体問題に対処できる，物理的考え方，考察の仕方を習得する。
到達目標	(1)流体力学に関して簡単な次元解析ができ，無次元数で整理する意義を理解できる。(2)円管内層流について，その速度分布，粘性による損失について説明できる。(3)揚力と抗力の意味を理解し，流れの中に置かれた簡単な形状の物体に作用するこれらの力を算出できる。(4)代表的な流体計測法を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:日本機械学会編、JSMEテキストシリーズ「流体力学」(丸善) 指定図書:深野　徹,「わかりたい人の流体工学(Ⅱ)」(裳華房) 参考書:森川敬信ほか,「新版流れ学」(朝倉書店)
成績評価	レポート評価 35%　ほぼ毎回出題する課題に関してレポートを提出すること。 期末筆記試験 65%　到達目標に記した内容をはじめ，キーワードに関する内容の確認問題および応用問題を出題する。

科目名	量子力学概論
担当教員	柳澤　淳一
授業概要	量子力学の知識と量子力学的なものの考え方は、電気・電子デバイスの基礎となる物質科学のみならず、量子コンピュータに代表されるように情報系の分野でも必要不可欠である。本講義では、電子・情報系で最低限必要と思われる量子力学の理論的枠組みをできるだけ簡単な形で説明し、数学的手法のみならず物理的イメージを習得させ、量子力学を応用するための力を養う。
到達目標	粒子性と波動性という二重性を理解し、量子力学の基本的な方程式の一つであるシュレーディンガー方程式を理解し、簡単な系について実際に問題を解き、波動関数の性質を理解することを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：原島鮮「初等量子力学（改訂版）」（裳華房） 指定図書：松下栄子「量子論のエッセンス」（裳華房） 参考書：小出昭一郎「量子力学（I）（改訂版）」（裳華房）
成績評価	レポートおよび小試験評価40％：講義で扱った式の導出や数値的な計算ができること。 期末筆記試験60％：量子力学の基本原理が理解でき、簡単な系のシュレーディンガー方程式が解けることを求める。

科目名	ロボット工学（機械システム）
担当教員	寺嶋　一彦※
授業概要	機械システムの代表としてロボットを対象に取り上げ，その静的，動的モデリングの方法について学ぶ。 また，ロボットの分類，機構と制御法について学ぶ。さらに、介護福祉・生活支援ロボットなど次世代ロボットについての現状と課題を講述する。
到達目標	ロボットの基本構造、静力学、動力学などの機構学・モデリング技術を理解するとともに、ロボットの軌道制御・力制御、移動制御、ロボット応用の基礎を理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講師作成のプリントを配布する。 参考書：寺嶋一彦ら，生産システム工学ー知的生産の基礎と実際，朝倉書店(2001)
成績評価	小試験、レポート20％　講義の理解度を確認する。 期末筆記試験80％　講義の理解度を判定する。

科目名	ロボット工学（電子システム）
担当教員	作田　健
授業概要	ロボット工学は、現代の工業技術の集大成であり、電気・電子・システム工学から機械工学、さらにコンピュータ制御などに統合した広範囲な科学技術である。このロボット工学の基礎について、「運動と制御」、「センシング」、「システム」の3つの観点から学習する。さらに、これらの統合について考察する。
到達目標	(1)ロボットの機構およびメカニズムについて説明できる。 (2)ロボットに使用されているセンサおよびアクチュエータについて説明できる。 (3)ロボットの運動学および制御に関して説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：松日楽信人、大明準著「わかりやすいロボットシステム入門」（オーム社） 指定図書：川崎晴久著「ロボット工学の基礎」（森北出版） 参考書：高橋義彦著「ロボティクス入門」（裳華房）
成績評価	定期試験を80％、レポートを20％とし、それらの合計で評価する。

４　人間文化学部科目履修の手引

1.　人間文化学部各学科の教育目標について

（１）　地域文化学科

アジアと日本の大地（地域）に生成した人間の生活（文化）を各種の学問の手法によって分析し、研究するのが地域文化学科である。研究は教員と学生が、共同して行うことが多い。大学の所在地である八坂町から滋賀県各地、そして日本全国、さらにはアジアに調査や採訪を行っている。こうした研究の過程で、地域文化を理解し、現在を将来の人間生活の精神や組織の向上に役立てようとするものである。

各種の学問の手法とは、社会学、人類学、歴史学、民俗学、地理学、建築学や考古学であり、従来からの学問構成とは違い、上記した各種の学の連係や共同作業を通じ、より現在と未来にかなった学風の創設をはかっている。“学べ学生諸君”

（２）　生活デザイン学科

人間は生活するのにさまざまなモノを使う。生活デザイン学科では、人の生活空間で使われるモノを、まず人の身体に密着した衣服、身の回りにある道具、そして生活の容器である住居と、三つの分野に分け、その総合的なデザインを学ぶ。はじめにすべてのデザインの基礎となるデッサンや製図、基礎造形を習得し、平行して服飾・道具・住居のデザインの演習を始める。また望ましい生活環境を形づくってゆくために、三つの分野それぞれのデザイン史、各分野の物理的な環境論、人間工学、移り変わりの激しい生活を見つめて観察する考現学などを学び、演習でつちかった創造力や表現力を活用するための総合的なデザイン能力を養う。

（３）　生活栄養学科

「食」、「健康」、「人間」をキーワードに、人間が健康で豊かな生活を営めるよう食品栄養の視点から QOL の向上を学習することを目標にしている。そのために生命科学、食品科学などの基礎知識を基盤に、最新の栄養科学や臨床栄養科学の研究に基づいた応用栄養学を学び、専門的な理論と実践能力を修得するカリキュラムとなっている。実験・実習、特に臨床や給食施設等での臨地実習では講義で学んだ理論と現場での実践との関係を直に学ぶ体験を通して、論理的思考とエビデンスに基づいた食科学・食環境を構築・提言できる能力を養い、疾病の予防や治療、健康増進などの健康管理分野において貢献できる優れた栄養指導者、栄養教育者の育成を目指している。

（４）　人間関係学科

時間とともに変化する人間関係が「発達」である。この学科では、その変化をさまざまなスケールからとらえなおすことを学ぶ。人と人が出会って別れるまでの ほ んの数分の間にも、お互いの態度や行動は刻々と変わっていく。人の一生という単位で見れば、乳幼児期から成長し大人になるまで、自分を育ててくれる人との関係は劇的に変化していくはずである。さらに、何世代にもわたって伝承される文化は時代に合わせてさまざまな形をとるだろう。そこにかかわる人の数によっても関係は変化する。人間関係学科では、一対一の人間関係に焦点をあてること、共同体の人間同士がかかわる社会現象を見渡すこと、その両面を理解することをめざした多角的なカリキュラムを提供している。

2. 科目の履修について

(1) 履修科目の選択にあたっては、「全学共通科目履修の手引」および人間文化学部の「標準年次別科目配当表」、「卒業に必要な要件」、「講義概要」ならびに年度当初に行われる所属学科のオリエンテーションに十分注意の上、履修してください。

(2) 教育職員免許・学芸員資格・栄養士免許・管理栄養士受験資格・ＮＲ（栄養情報担当者）受験資格・二級建築士試験受験資格・木造建築士試験受験資格・インテリアプランナー登録資格・社会調査士資格・食品衛生管理者資格、食品衛生監視員資格の取得を希望する者（栄養士免許・管理栄養士受験資格・ＮＲ（栄養情報担当者）・食品衛生管理者資格・食品衛生監視員資格の取得は生活栄養学科の学生に限る。）は、「資格取得等の手引」および「標準次別科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

【凡例】

◎：必修　　○：選択必修　　無印：選択　　数字：単位数

前：前期　　後：後期　　通：通年

人間文化学部での専門科目の科目名の後のローマ字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳなど）は、原則として受講者がその数字の順番に従って受講しなければならないことを示します。科目名の後のアルファベット（Ａ、Ｂ、Ｃなど）については順番にかかわらず受講することができます。（外国語など全学共通基礎科目についてはこの限りではありません。）

3. 標準年次別科目配当表および卒業に必要な要件

（１） 地域文化学科

講義科目（実習・演習科目以外）は、２年次・３年次配当の科目でも１年次で履修することができます。

＊は隔年開講科目です。これについては、(i)今年度は開講しない科目がありますので(*2)、科目配当表で確認してください。（ii）また今年度開講しているものは(*1)、来年度不開講になりますので、よく考えて受講計画を立ててください。

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上） ※留学生Ｐ.12 参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、モンゴル語Ⅰ・Ⅱ、ロシア語Ⅰ・Ⅱのうち４単位。ただしモンゴル語Ⅰ・Ⅱ、およびロシア語Ⅰ・Ⅱについては、地域文化学科の専門科目を第二外国語として読み替えるものである。

(C)人間学（比較文明論を除く）から１２単位以上（必修４単位を含む）。

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目１５単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から８５単位以上（註）

（註）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目から１０単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。また、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、所属する学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

【卒業研究・論文履修要件】

地域文化演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。

【卒業研究審査基準】

地域文化演習Ⅲ(ゼミ)の担当教員を主査とし、学科教員（論文の主題に応じて）２名を副査とする審査委員が熟読したうえで、口頭試問を実施し、下に示す基準に照らし合わせて合否を判断し、学科会議において最終的に合否決定をする。

① ２０,０００字を基本とする。
② 研究目的が明確であること。
③ 研究方法が妥当であること。
④ 目的達成のための調査量が十分であること。
⑤ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
⑥ 卒業論文としての体裁が整っていること。
⑦ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

地域文化学科
平成23年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		１年次	２年次
全学共通科目	全学共通基礎（留学生 P.12 参照）	◎ 英語Ⅰ 2 ◎ 英語Ⅱ 2 ○ 第二外国語Ⅰ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 ◎ 情報科学概論 2 ◎ 情報リテラシー（情報倫理を含む）※２ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅰ 1	◎ 英語Ⅲ 2 ◎ 英語Ⅳ 2 ○ 第二外国語Ⅱ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 プログラミング基礎 ※３ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅱ 1
	人間学	４年間で１２単位必修（環境マネジメント総論と人間探求学は1年次必修）	

※１ 初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.12、47参照）
※２ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅰ」（必修１単位）に読み替えます。
※３ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅱ」（必修１単位）に読み替えます。

区分		１年次	２年次
専門科目	学部共通基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習 ※ 1 通 人間文化論Ａ 2 前 人間文化論Ｂ 2 前 Japanese Culture and Civilization（１年次～４年次） 2 後 統計学基礎 2 後	人間文化論Ｃ 2 前 比較文明論 2 後 文化人類学概論Ａ 2 前 文化人類学概論Ｂ 2 後
	学科共通	日本文化論 2 前 日本社会論 2 後 日本史概説 2 前 東洋史概説 2 後 朝鮮文化論 2 前 考古学 2 前 民俗学 2 後 *1 地域文化財論Ａ 2 前 芸術学 2 後 人文地理学Ａ 2 後 社会学概論 ※ 2 前 地域研究論 2 前 遊牧社会論※ 2 前 地域活性化論 2 後 社会調査論 2 前	地域文化財論Ｂ 2 後 文化財情報論 ※ 2 後 比較文化論 2 後 *2 比較宗教論 2 前 比較文学論 2 前 人文地理学Ｂ 2 後 考古学特論 2 後 基層文化論 2 後 地域と空間 ※ 2 後 農耕社会論 ※ 2 後 現代中国論 ※ 2 前 西洋史概説 ※ 2 前 *2 アジア社会論 2 後 *1 日本文化史論Ⅰ※ 2 前 *2 日本文化史論Ⅱ 2 前 中国地域文化論 2 後 *1 朝鮮地域文化論Ａ 2 後 *2 朝鮮地域文化論Ｂ 2 後 モンゴル地域文化論 2 前 中国・内モンゴル地域文化論※ 2 前 *2 文化人類学特論 ※ 2 前 インド・チベット地域文化論※ 2 後 *1 アジア交流論 2 前 社会調査方法論 2 前 量的データ解析論Ⅰ ※ 2 後 質的データ解析論 2 後 *2 現代社会論 ※ 2 前
		考古地理実習Ⅰ 1 後	考古地理実習ⅡＡ 2 通 考古地理実習ⅡＢ 2 通 日本史料講読 2 通 民俗学実習 1 後
		モンゴル語Ⅰ 2 通 ロシア語Ⅰ 2 通	モンゴル語Ⅱ 2 通 ロシア語Ⅱ 2 通 チベット語基礎 2 通 漢文講読 2 通 ◎ 地域文化演習Ⅰ 2 通

※ 平成16年度以前入学生は、「文化財情報論」を「画像情報処理」、「日本文化史論Ⅰ」を「日本・地域交流論」、「地域経済史論」を「地域経済論」にそれぞれ読替えます。
平成17年度以前入学生は、「現代中国論」を「海域社会論」、「地域と空間」を「街道と宿場」、「中国・内モンゴル地域文化論」を「中央アジア・ロシア極東地域文化論」にそれぞれ読替えます。
平成18年度以前入学生は、「環琵琶湖文化論実習」を「環琵琶湖文化論実習Ａ」、「中東・南アジア地域文化論」を「中東・南アジア地域文化論Ａ」、「インド・チベット地域文化論」を「中東・南アジア地域文化論Ｂ」にそれぞれ読替えます。

３年次			４年次		
	英語ＶＡ	1 前		英語ＶＡ	1 前
	英語ＶＢ	1 後		英語ＶＢ	1 後
	英語ⅥＡ	1 前		英語ⅥＡ	1 前
	英語ⅥＢ	1 後		英語ⅥＢ	1 後
	ドイツ語ⅢＡ	1 前		ドイツ語ⅢＡ	1 前
	ドイツ語ⅢＢ	1 後		ドイツ語ⅢＢ	1 後
	フランス語ⅢＡ	1 前		フランス語ⅢＡ	1 前
	フランス語ⅢＢ	1 後		フランス語ⅢＢ	1 後

＊１：隔年開講　Ｈ２３開講・Ｈ２４不開講　＊２：隔年開講　Ｈ２３不開講・Ｈ２４開講

＊３：Ｈ２３不開講

３年次			４年次		
			*1	現代ジャーナリズム論	2 後
	近世近江論	2 前			
*1	近江商人論	2 前			
*2	文化財・保存修景論Ａ	2 前			
*1	文化財・保存修景論Ｂ	2 後			
	文化社会学　※	2 前			
	対外文化交流論Ａ	2 前			
*2	対外文化交流論Ｂ	2 前			
*1	対外文化交流論Ｃ	2 後			
	歴史的地域論	2 後			
	地域生活論	2 前			
	地域経済史論　※	2 後			
*2	アジア・地域交流論Ａ	2 後			
	アジア・地域交流論Ｂ	2 後			
*1	アジア・地域交流論Ｃ	2 後			
	日本・地域交流特論	2 後			
*2	中国地域文化特論	2 前			
	朝鮮地域文化特論	2 前			
*2	美術史概論	2 前			
*1	美術史　※	2 前			
	哲学概論Ａ	2 前			
*1	哲学概論Ｂ	2 前			
	博物館学各論Ｂ	2 後			
*2	地域考古学Ａ	2 前			
*2	地域考古学Ｂ	2 後			
*1	地域考古学Ｃ	2 前			
*1	地域考古学Ｄ	2 後			
	地誌学　※	2 前		量的データ解析論Ⅱ　※	2 後
	自然地理学　※	2 後	*1	組織とネットワークの社会学　※	2 後
*1	社会変動論　※	2 後	*2	社会学史　※	2 前
	古文書演習Ⅰ	1 前			
	古文書演習Ⅱ	1 後			
	社会調査実習	1 通			
	朝鮮語文献講読	2 通			
	中国語文献講読	2 通			
*3	現代モンゴル語文献講読	2 通	◎	地域文化演習Ⅲ	2 通
	モンゴル語史料(ウイグル式文字)講読	2 通	◎	卒業研究・論文	8 通
	朝鮮語会話	2 通			
◎	地域文化演習Ⅱ	2 通			

※　平成19年度以前入学生は、「遊牧社会論」を「遊牧地域論」、「農耕社会論」を「農耕世界論」、「西洋史概説」を「西洋文化史」、「文化人類学特論」を「中東・南アジア地域文化論」にそれぞれ読替えます。

平成20年度以前入学生は、「美術史」を「比較文化論特論」に読替えます。

平成21年度以前入学生は「地誌学」「自然地理学」は教職科目であり、卒業単位に算入することができません。

平成22年度以前入学生は「社会学概論」を「社会学」、「文化社会学」を「民衆芸能論」、「量的データ解析論Ⅰ」を「社会統計学」、「量的データ解析論Ⅱ」を「応用データ解析論」にそれぞれ読替えます。「現代社会論」「社会学史」「社会変動論」「組織とネットワークの社会学」は他学科の科目として扱われます。

【ゼミ別・履修が望ましい科目等一覧】

３年次配当の地域文化演習Ⅱ、４年次配当の地域文化演習Ⅲは、教員個人（グループの場合もある）が担当するいわゆるゼミにあたります。３年次・４年次は、どれかのゼミに所属することになります。ここでは、各ゼミが、どのような専門分野を扱うのか、またそのゼミにはいるにはどのような科目を履修しておくことが望ましいかを示します。ゼミを選ぶ参考にしてください。また所属したいゼミに即して、計画的に履修してください。

教員名	専 門 分 野	必修科目、履修希望科目
黒田 末壽	人類学、地域学	特になし
荒井 利明	現代中国、現代東アジア論	中国語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい
田中 俊明	古代東アジアの文化交流史および朝鮮古代史	朝鮮語または中国語を履修していることが望ましい。また漢文購読を履修することが望ましい
定森 秀夫	東アジア考古学	日本史概説、考古学、考古学特論、日本文化論、考古地理実習Ⅰ・Ⅱ、対外文化交流論Ａを履修していることが望ましい
濱崎 一志	都市史、保存修景計画	文化財情報論（画像情報処理）、地域文化財論Ｂを履修していることが望ましい
水野 章二	日本前近代の地域史、環境史	日本史料講読を履修していることが望ましい
棚瀬 慈郎	文化人類学	特になし
京樂 真帆子	日本前近代の文化史、ジェンダー史	日本文化論を履修していることが望ましい
市川　秀之	民俗学	民俗学、地域と空間のいずれかを履修していることが望ましい
亀井　若菜	日本美術史	芸術学、美術史概論、美術史を履修していることが望ましい
ﾎﾞﾙｼﾞｷﾞﾝ･ﾌﾞﾚﾝｻｲﾝ	中国東北・内モンゴル地域研究、中国少数民族問題	モンゴル語、中国語、遊牧地域論、東洋史、モンゴル地域文化論などを履修していることが望ましい
中井　均	考古学	
東　幸代	日本近世、近代の地域史	日本史料講読を履修していることが望ましい
島村　一平	文化人類学、モンゴル研究	モンゴル語Ⅰ・Ⅱ、あるいはロシア語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい
河　かおる	朝鮮近現代史、在日朝鮮人史	朝鮮語、朝鮮文化論を履修していることが望ましい
武田　俊輔	社会学、文化研究	社会学概論、質的データ解析論を履修していることが望ましい
塚本　礼仁	人文地理学	人文地理学、考古地理実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい
石川　慎治	保存修景計画、集落研究	文化財情報論（画像情報処理）、地域文化財論Ｂを履修していることが望ましい

（２）　生活デザイン学科

【科目履修上の注意】

① 専門科目は、人間文化学部全体の共通科目、複数学科の共通科目、本学科の学生を対象とする科目の３群から構成されている。学部共通の環琵琶湖文化論実習は必修科目である。複数学科共通科目として挙げられている科目は、人間生活のあり方を追求し、文化的な生活を創造する上で、基礎となる科目である。学科専門科目は、その内容から、（ａ）住居系、（ｂ）道具系、（ｃ）服飾系の３分野に大別できる。また、３分野をまたぐ基礎的な科目が、主に１年次および２年次に配当されている。

（ａ）住居系

住居は人の生活の器である。それは過酷な自然や災害から身を守り、快適な生活を人にもたらす。そして住居が集まって集落や都市ができ、コミュニティが形成され、人の社会活動が営まれる。従って住居には安全性、利便性はもちろんのこと、社会的公共性も強く求められる。そのため住居の計画・設計・建設においては家の構造や、自然の状況、生活の内容に対する豊かな知識と細やかな配慮が必要である。また住居を設計し表現するための実践的な知識、技術も必要である。それらを、講義科目および住環境設計演習を通して身につける。

（ｂ）道具系

人がその生活を支えるために使う技術的工作物（モノ、プロダクト、製品）が道具である。その道具というモノをデザインすることによって人は何かしらのコトを実現する。道具系の科目は、道具を企画・デザインし、広報・宣伝し、流通・販売する社会的行為について学ぶ講義科目と、そのデザインを具体的に実践するために必要な技術と知識を基礎から身につける演習科目で構成される。

（ｃ）服飾系

衣服は人体にとって最も身近な環境である。豊かな感性と論理的思考力、現場での実践力をあわせ持ち、快適で審美的な衣環境を見出すために、素材の基礎知識、衣環境を彩る染色加工、衣服の管理、製品の製造と品質、流通・消費者問題に関する事項を学ぶ。服飾デザインでは、感性と専門知識を生かして主体的なデザインができるために、問題点の分析、アイデアの創出、提案、評価のプロセスを学ぶための講義科目、演習で構成される。

② 上記の３つの科目群は扱う対象が異なり、対応する社会的職能も分かれるので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨が求められることになる。しかし、複数分野の科目を履修することによりデザインに関する幅広い知識・技能を得ることが可能である。

③ 各科目群に関連した科目が他学部・他学科の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧める。ただし、同名の他学部・他学科科目は受講できない。

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

⑴全学共通科目（３０単位以上）　　※留学生Ｐ.12 参照

⒜次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

⒝第二外国語としてドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうち４単位以上

⒞人間学（「比較文明論」「比較住居論」を除く）から１２単位以上(必修４単位を含む。)

⑵専門科目（１００単位以上）

⒜次頁以降の科目配当表に指定する必修科目１１単位

⒝次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から１２単位以上（註１）

⒞次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から７７単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で１２単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

（註２）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から１０単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。
なお、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

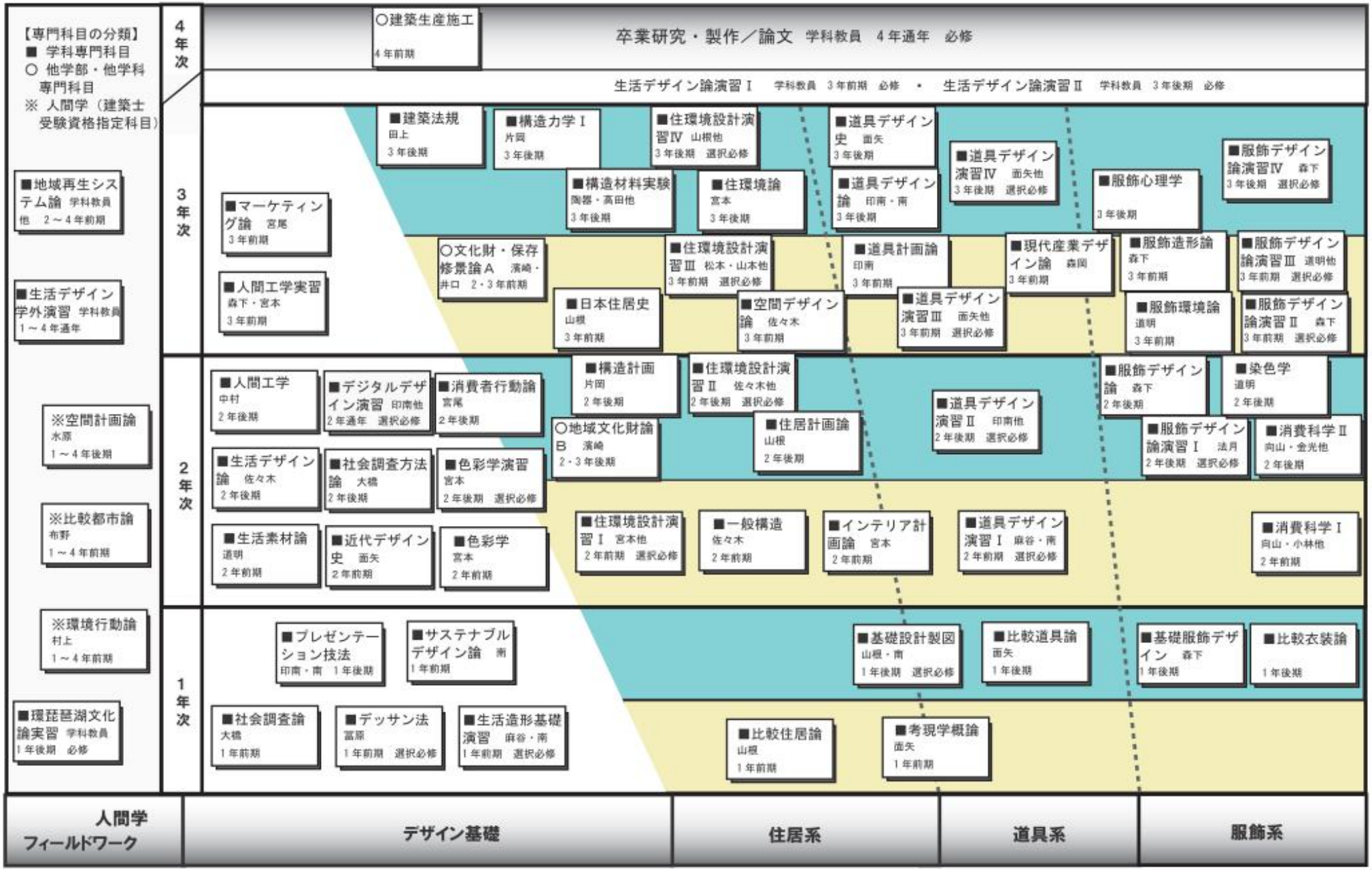
【卒業研究・制作／論文着手要件】

生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱを履修済みであること。原則として卒業単位を１１０単位以上修得していること

【卒業研究等審査基準】

1 卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、以下の評価項目によって審査する。
(1) 研究目的と研究計画の妥当性
(2) テーマの新規性・学術性・社会性
(3) 研究方法の的確性・独創性
(4) 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
(5) 論理構成および結論（表現）の妥当性、制作の場合は加えて完成度
(6) プレゼンテーションの技法と質疑応答能力
2 卒業研究（卒業論文・卒業制作）は、卒業研究中間発表会および卒業研究公開審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
3 １および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

【履修モデル】


【専門科目の分類】
■ 学科専門科目
○ 他学部・他学科専門科目
※ 人間学（建築士受験資格指定科目）
■地域再生システム論 学科教員 他 2～4年前期
■生活デザイン学外演習 学科教員 1～4年通年
※空間計画論 水原 1～4年後期
※比較都市論 布野 1～4年前期
※環境行動論 村上 1～4年前期
■環琵琶湖文化論実習 学科教員 1年後期 必修
4年次
○建築生産施工 4年前期
卒業研究・製作／論文 学科教員 4年通年 必修
生活デザイン論演習Ⅰ 学科教員 3年前期 必修 ・ 生活デザイン論演習Ⅱ 学科教員 3年後期 必修
3年次
■建築法規 田上 3年後期
■構造力学Ⅰ 片岡 3年後期
■住環境設計演習Ⅳ 山根他 3年後期 選択必修
■道具デザイン史 面矢 3年後期
■道具デザイン演習Ⅳ 面矢他 3年後期 選択必修
■服飾デザイン論演習Ⅳ 森下 3年後期 選択必修
■構造材料実験 陶器・高田他 3年後期
■住環境論 宮本 3年後期
■道具デザイン論 印南・南 3年後期
■服飾心理学 3年後期
■マーケティング論 宮尾 3年前期
○文化財・保存修景論A 濱崎・井口 2・3年前期
■住環境設計演習Ⅲ 松本・山本他 3年前期 選択必修
■道具計画論 印南 3年前期
■現代産業デザイン論 森岡 3年前期
■服飾造形論 森下 3年前期
■服飾デザイン論演習Ⅲ 道明他 3年前期 選択必修
■人間工学実習 森下・宮本 3年前期
■日本住居史 山根 3年前期
■空間デザイン論 佐々木 3年前期
■道具デザイン演習Ⅲ 面矢他 3年前期 選択必修
■服飾環境論 道明 3年前期
■服飾デザイン論演習Ⅱ 森下 3年前期 選択必修
2年次
■人間工学 中村 2年後期
■デジタルデザイン演習 印南他 2年通年 選択必修
■消費者行動論 宮尾 2年後期
■構造計画 片岡 2年後期
■住環境設計演習Ⅱ 佐々木他 2年後期 選択必修
■服飾デザイン論 森下 2年後期
■染色学 道明 2年後期
■道具デザイン演習Ⅱ 印南他 2年後期 選択必修
○地域文化財論B 濱崎 2・3年後期
■住居計画論 山根 2年後期
■服飾デザイン論演習Ⅰ 法月 2年後期 選択必修
■消費科学Ⅱ 向山・金光他 2年後期
■生活デザイン論 佐々木 2年後期
■社会調査方法論 大橋 2年後期
■色彩学演習 宮本 2年後期 選択必修
■住環境設計演習Ⅰ 宮本他 2年前期 選択必修
■一般構造 佐々木 2年前期
■インテリア計画論 宮本 2年前期
■道具デザイン演習Ⅰ 麻谷・南 2年前期 選択必修
■消費科学Ⅰ 向山・小林他 2年前期
■生活素材論 道明 2年前期
■近代デザイン史 面矢 2年前期
■色彩学 宮本 2年前期
1年次
■プレゼンテーション技法 印南・南 1年後期
■サステナブルデザイン論 南 1年前期
■基礎設計製図 山根・南 1年後期 選択必修
■比較道具論 面矢 1年後期
■基礎服飾デザイン 森下 1年後期
■比較衣装論 1年後期
■社会調査論 大橋 1年前期
■デッサン法 冨原 1年前期 選択必修
■生活造形基礎演習 麻谷・南 1年前期 選択必修
■比較住居論 山根 1年前期
■考現学概論 面矢 1年前期
人間学フィールドワーク
デザイン基礎
住居系
道具系
服飾系

生活デザイン学科
平成23年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		１年次	２年次
全学共通科目	全学共通基礎（留学生 P.12 参照）	◎ 英語Ⅰ 2 ◎ 英語Ⅱ 2 ○ 第二外国語Ⅰ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 ◎ 情報科学概論 2 ◎ 情報リテラシー（情報倫理を含む）※２ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅰ 1	◎ 英語Ⅲ 2 ◎ 英語Ⅳ 2 ○ 第二外国語Ⅱ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 プログラミング基礎 ※３ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅱ 1
	人間学	４年間で１２単位必修（環境マネジメント総論と人間探求学は1年次必修）	

※１ 初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.12、47参照）
※２ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅰ」（必修１単位）に読み替えます。
※３ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅱ」（必修１単位）に読み替えます。

区分		１年次	２年次
	学部共通基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通 人間文化論Ａ 2 前 人間文化論Ｂ 2 前 Japanese Culture and Civilization（１年次～４年次） 2 後 統計学基礎 2 後	人間文化論Ｃ 2 前 比較文明論 2 後 文化人類学概論Ａ 2 前 文化人類学概論Ｂ 2 後
専門科目	複数学科共通	天然物化学基礎 2 前 生活環境論 2 後 心理学基礎 2 前 消費生活論 2 後 比較住居論 2 前	
	学科専門	〔生活デザインの視点〕 ○ デッサン法 1 前 ○ 生活造形基礎演習 2 前 社会調査論 2 前 プレゼンテーション技法 2 後 サステナブルデザイン論 2 前 〔住居・道具・服飾デザイン〕 ○ 基礎設計製図 2 後 基礎服飾デザイン 2 後 考現学概論 2 前 比較道具論 2 後 *2 比較衣装論 2 後	〔生活デザインの視点〕 生活デザイン論 2 後 *1 近代デザイン史 2 前 社会調査方法論 2 前 生活素材論 2 前 染色学 2 後 人間工学 2 後 色彩学 2 前 ○ 色彩学演習 1 後 消費科学Ⅰ 2 前 消費科学Ⅱ 2 後 消費者行動論 2 後 〔住居・道具・服飾デザイン〕 ○ デジタルデザイン演習 2 通 インテリア計画論 2 前 一般構造 2 前 住居計画論 2 後 構造計画 2 後 ○ 住環境設計演習Ⅰ 2 前 ○ 住環境設計演習Ⅱ 2 後 ○ 道具デザイン演習Ⅰ 2 前 ○ 道具デザイン演習Ⅱ 2 後 服飾デザイン論 2 後 ○ 服飾デザイン演習Ⅰ 2 後
			地域再生システム論 2 前
		生活デザイン学外演習 2 前・後	

1 平成16年度以前入学生は「服飾デザイン論」を「服飾デザイン」、「服飾デザイン演習Ⅰ」を「服飾デザイン演習」、「服飾デザイン演習Ⅱ」を「服飾製作実習B」、「服飾デザイン演習Ⅲ」を「ファッションデザイン演習」「服飾デザイン演習Ⅳ」を「服飾造形演習」、「社会調査論」を「社会調査論（統計を含む）」に読み替えます。

2 平成20年度以前入学生は「住環境設計演習Ⅰ～Ⅳ」を「住居設計演習Ⅰ～Ⅳ」に読み替えます。

3 「生活造形基礎演習」は「生活造形基礎演習Ⅰ」の名称変更されたものであるため、平成22年度以前入学生で「生活造形基礎演習Ⅰ」を履修したものはこれを履修できません。

３年次		４年次	
英語ＶＡ	1 前	英語ＶＡ	1 前
英語ＶＢ	1 後	英語ＶＢ	1 後
英語VIＡ	1 前	英語VIＡ	1 前
英語VIＢ	1 後	英語VIＢ	1 後
ドイツ語IIIＡ	1 前	ドイツ語IIIＡ	1 前
ドイツ語IIIＢ	1 後	ドイツ語IIIＢ	1 後
フランス語IIIＡ	1 前	フランス語IIIＡ	1 前
フランス語IIIＢ	1 後	フランス語IIIＢ	1 後

＊１：H２３不開講　　＊２：隔年開講　H２３不開講・H２４開講

３年次		４年次	
生活経営論	2 後		
〔生活デザインの視点〕			
マーケティング論	2 前		
人間工学実習	1 前		
〔住居・道具・服飾デザイン〕			
住環境論	2 後		
日本住居史	2 前		
空間デザイン論（空間意匠の分析）	2 前		
建築法規	2 後		
構造力学Ｉ	2 後		
構造材料実験	2 後		
○　住環境設計演習III	2 前		
○　住環境設計演習IV	2 後		
道具デザイン論	2 後		
道具デザイン史	2 後		
道具計画論	2 前		
*2　現代産業デザイン論	2 前		
○　道具デザイン演習III	2 前		
○　道具デザイン演習IV	2 後		
*1　服飾造形論	2 前		
服飾環境論	2 前		
*1　服飾心理学	2 後		
○　服飾デザイン演習II	2 前		
○　服飾デザイン演習III	2 前		
○　服飾デザイン演習IV	2 後	◎　卒業研究・製作／論文	8 通
◎　生活デザイン論演習Ｉ	1 前		
◎　生活デザイン論演習II	1 後		

4「マーケティング論」は「余暇生活論」の名称変更されたものであるため、平成17年度以前入学生で「余暇生活論」を履修した者はこれを履修できません。

5 平成19年度以前入学生は、「近代デザイン史」を「生活デザイン論Ｉ」、「生活デザイン論」を「生活デザイン論II」、「インテリア計画論」を「住空間デザインＩ」、「住居計画論」を「住空間デザインII」、「日本住居史」を「住空間デザインIII」に読替えます。

6 平成22年度以前入学生も、入学年度に開講していなかった科目を受講し、卒業要件科目に含むことができます。

生活デザイン学科ゼミ別指導内容および履修が望ましい科目等

３年次配当の生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱでは、４年次の卒業研究に向けて各教員がゼミ形式で担当します。教員の専門分野によって生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究を進める上で履修することが望ましい科目等が異なります。下記に各教員の専門分野と研究テーマ・方法、履修が望ましい科目等を示しますので、履修計画の参考にしてください。

分野	教員名	テーマ・方法	履修が望ましい科目等
道具系	面矢慎介	道具デザインに関する生活調査や製品計画、歴史研究、比較文化研究。論文を主とする。	考現学概論、比較道具論、社会調査論、社会調査方法論、道具デザイン史、道具計画論、マーケティング論、現代産業デザイン論を履修していることが望ましい。
道具系	印南比呂志	道具デザインに関する制作を主とする。	道具デザイン演習Ⅰ～Ⅳ、道具計画論、プレゼンテーション技法を履修していることが望ましい。
服飾系	道明美保子	生活素材・色素の新たな活用方法および豊かな衣環境を見出すための調査・実験。論文を主とするが、応用としての制作可。	生活素材論、染色学、服飾環境論、服飾デザイン演習Ⅲを履修していることが望ましい。
服飾系	森下あおい	服飾デザインに関する制作および調査研究。ファッション分野の製品開発や文化史的研究など。	服飾造形論、服飾デザイン論、人間工学、比較衣装論、マーケティング論、消費科学Ⅰ、Ⅱ、服飾デザイン演習Ⅰ、Ⅱ、人間工学実習を履修していることが望ましい。
住居系	宮本雅子	高齢社会での快適な居住空間についての実験・調査研究。論文を主とするが、応用としての制作可。	考現学概論、比較住居論、統計学基礎、人間工学、インテリア計画論、住居計画論、空間デザイン論、住環境設計演習Ⅰ・Ⅱ、色彩学、色彩学演習、住環境論、人間工学実習を履修していることが望ましい。
住居系	山根　周	住居・地域に関する調査研究および計画・設計。	比較住居論、インテリア計画論、住居計画論、日本住居史、近代デザイン史、住環境論、考現学概論、生活デザイン論、住環境設計演習、社会調査論、社会調査方法論などを履修していることが望ましい。
住居系	佐々木一泰	空間デザインに関する制作および調査研究。	住環境設計演習Ⅰ～Ⅳを履修していることが望ましい。また幅広い知識を養う為、積極的に他の講義、演習を履修していることが望ましい。
道具系	南　政宏	デザインに関する調査研究と制作の両方を必須とする。	道具デザイン演習Ⅰ～Ⅳを履修していることが望ましい。
共通	宮尾　学	マーケティング関連	

★　どの分野を選択するとしても、１年次に開講されている基礎的な演習科目（デッサン法、生活造形基礎演習、基礎設計製図）を履修しておくことが望ましい。

（３）　生活栄養学科

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上）　　※留学生Ｐ.12 参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうち４単位以上

(C)人間学（「比較文明論」「比較住居論」を除く）から１２単位以上(必修４単位を含む)

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目１１単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から１２単位以上（註１）

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から７７単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で１２単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

（註２）他学科および他学部の専門科目のうち、すべての科目から１０単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。
なお、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

【卒業研究・論文着手要件】

卒業研究・論文実施学年時に、卒業研究・論文、管理栄養士総合演習、食生活論演習以外の科目について、概ね講義科目ならば 16 科目(32 単位)*以上を履修する場合は、卒業研究・論文を履修できない。

*実験・実習科目１科目(１単位)は、講義科目２科目(４単位)に相当する。

【卒業研究審査基準】

１　卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。
(1) 研究目的と研究計画の妥当性
(2) 研究内容の論拠の客観性・実証性
(3) 卒業論文の完成度
(4) プレゼンテーション技法と質疑応答能力
(5) 研究に対する姿勢
２　卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
３　上記１ならびに２による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

生活栄養学科
平成23年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		１年次	２年次
全学共通科目	全学共通基礎（留学生 P.12 参照）	◎ 英語Ⅰ 2 ◎ 英語Ⅱ 2 ○ 第二外国語Ⅰ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 ◎ 情報科学概論 2 ◎ 情報リテラシー（情報倫理を含む）※２ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅰ 1	◎ 英語Ⅲ 2 ◎ 英語Ⅳ 2 ○ 第二外国語Ⅱ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 プログラミング基礎 ※３ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅱ 1
	人間学	４年間で１２単位必修（環境マネジメント総論と人間探求学は1年次必修）	

※１　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.12、47参照）
※２ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅰ」（必修１単位）に読み替えます。
※３ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅱ」（必修１単位）に読み替えます。

科目名の後ろの＊ は栄養士免許取得に必要な科目、※は管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な追加科目である。

区分		１年次	２年次
	学部共通基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通 人間文化論Ａ 2 前 人間文化論Ｂ 2 前 Japanese Culture and Civilization （１年次～４年次） 2 後 統計学基礎 2 後	人間文化論Ｃ 2 前 比較文明論 2 後 文化人類学概論Ａ 2 前 文化人類学概論Ｂ 2 後
専門科目	複数学科共通	天然物化学基礎 2 前 生活環境論 2 後 心理学基礎 2 前 消費生活論 2 後 比較住居論 2 前	
	学科専門	〔社会と健康〕 ○ 健康情報管理実習※ 1 後 地域看護論※ 2 前 人間行動論※ 2 後 社会福祉概論* 2 後 生命科学と人間※ 2 後 〔栄養と健康〕 基礎栄養学Ⅰ＊ 2 前 基礎栄養学Ⅱ＊ 2 後 〔食べ物と健康〕 食品学総論* 2 前 比較食文化論* 2 前 ○ 食品基礎実験* 1 後 〔疾病と健康〕 分子生物学基礎※ 2 前 臨床栄養活動論※ 2 後	〔疾病と健康〕 運動と健康* 2 後 公衆衛生学* 2 前 健康心理学※ 2 後 生体の構造と機能* 2 前 疾病の成り立ち(含疾病と微生物)* 2 後 病態評価と治療※ 2 後 疾病と栄養※ 2 前 〔栄養と健康〕 応用栄養学Ⅰ＊ 2 前 応用栄養学Ⅱ＊ 2 後 ○ 栄養生理学実習※ 1 後 栄養生化学* 2 前 ○ 栄養生化学実験* 1 後 〔食べ物と健康〕 食品機能科学* 2 前 ○ 食品機能科学実験* 1 後 食品の調理と加工* 2 前 ○ 嗜好と調理実習Ⅰ＊ 1 前 ○ 嗜好と調理実習Ⅱ＊ 1 後 食品微生物学 2 前 〔臨床の栄養〕 臨床栄養学Ⅰ＊ 2 後

1　上記の表は平成２３年度入学生に適用されます．平成２２年度以前入学生については，自分の入学年次の「履修の手引」の配当表を参照すること．

2　平成２１年度以前入学生は「基礎栄養学Ⅰ」を「栄養学総論」，「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学Ⅱ」を「栄養学各論」に読み替えます．

3　「基礎栄養学Ⅰ」は「栄養学総論」，「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学Ⅱ」は「栄養学各論」の名称変更されたものであるため，平成２１年度以前入学者で名称変更前の科目を履修した者は，新名称科目を履修できません．

３年次		４年次	
英語ＶＡ	1 前	英語ＶＡ	1 前
英語ＶＢ	1 後	英語ＶＢ	1 後
英語ⅥＡ	1 前	英語ⅥＡ	1 前
英語ⅥＢ	1 後	英語ⅥＢ	1 後
ドイツ語ⅢＡ	1 前	ドイツ語ⅢＡ	1 前
ドイツ語ⅢＢ	1 後	ドイツ語ⅢＢ	1 後
フランス語ⅢＡ	1 前	フランス語ⅢＡ	1 前
フランス語ⅢＢ	1 後	フランス語ⅢＢ	1 後

*1：隔年開講　H23不開講・H24開講　　*2：隔年開講　H23開講・H24不開講

３年次		４年次	
生活経営論	2 後		
〔社会と健康〕			
栄養と健康※	2 前		
公衆栄養学*	2 前		
栄養疫学論※	2 後		
○ 公衆栄養学実習*	1 後		
〔疾病と健康〕			
○ 応用栄養学実習*	1 前		
○ 病態生理学実習*	1 前		
〔栄養と健康〕			
基礎栄養学実験*	1 後		
〔食べ物と健康〕			
○ 食品加工実習*	1 後		
〔教育と健康〕			
栄養教育論*	2 前		
栄養アセスメント論*	2 後		
カウンセリング論演習※	2 前		
○ 栄養教育論実習*	1 後		
〔臨床の栄養〕			
臨床栄養学Ⅱ※	2 前		
栄養ケアマネジメント論※	2 前		
○ 臨床栄養学実習*	2 通		
○ 栄養ケアマネジメント論実習※	1 後		
〔給食の管理〕			
給食経営管理論*	2 前		
食料経済システム論*	2 前		
食品衛生学*	2 前		
○ 食品衛生学実験*	1 後		
○ 給食管理実習*	1 前		
○ 給食衛生管理実習*	1 前		
〔臨地実習〕			
○ 地域保健臨地実習※	1 前		
○ 臨床栄養臨地実習Ⅰ※	1 前		
○ 臨床栄養臨地実習Ⅱ※	1 前	管理栄養士総合演習※	1 後
○ 給食経営管理臨地実習*	1 前	◎ 食生活論演習	2 通
臨地実習事前事後指導※	1 前	◎ 卒業研究・論文	8 通

（４）　人間関係学科

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目３０単位以上、および専門科目１００単位以上、合計１３０単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目（３０単位以上）　※留学生Ｐ.12 参照

(A)次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目１４単位

(B)第二外国語としてドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうち４単位以上

(C)人間学（「比較文明論」「比較住居論」を除く。）から１２単位以上（必修４単位を含む。）

(2)専門科目（１００単位以上）

(A)次頁以降の科目配当表に指定する必修科目１２単位

(B)次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から１０単位以上（註１）

(C)次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から７８単位以上（註２）

（註１）選択必修科目で１０単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

（註２）他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から１０単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。
なお、１０単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

【卒業研究・論文着手要件】

人間関係論基礎演習（１単位）、人間関係論演習Ⅰ（２単位）を履修済みのこと。

【卒業研究審査基準】

1　卒業論文の提出を求める。論文は、以下の評価項目によって複数教員により審査する。
(1) 研究テーマの新規性・独創性
(2) 研究方法の妥当性
(3) 研究内容の学術性
(4) 研究内容の論拠（実験・調査データ・文献資料等）の客観性・実証性
(5) 論文全体の構成力・論理性

2　論文とは別に、試問・発表会において複数教員との質疑応答を行い、その結果を評価する。

3　上記１および２による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

人間関係学科
平成23年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		１年次	２年次
全学共通科目	全学共通基礎（留学生 P.12 参照）	◎ 英語Ⅰ 2 ◎ 英語Ⅱ 2 ○ 第二外国語Ⅰ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 ◎ 情報科学概論 2 ◎ 情報リテラシー（情報倫理を含む）※２ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅰ 1	◎ 英語Ⅲ 2 ◎ 英語Ⅳ 2 ○ 第二外国語Ⅱ 各 2 独語・仏語・中国語・朝鮮語・※１初習英語 プログラミング基礎 ※３ 2 ◎ 健康・体力科学Ⅱ 1
	人間学	４年間で１２単位必修（環境マネジメント総論と人間探求学は1年次必修）	

※１　初習英語Ⅰ・Ⅱは入学前に英語を履修したことがない外国人留学生を対象としています。
（詳細についてはP.12、47参照）
※２ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅰ」（必修１単位）に読み替えます。
※３ 平成２１年度以前入学生に対しては、「◎情報処理演習Ⅱ」（必修１単位）に読み替えます。

区分		１年次	２年次
	学部共通基礎	◎ 環琵琶湖文化論実習 1 通 人間文化論Ａ 2 前 人間文化論Ｂ 2 前 Japanese Culture and Civilization（１年次～４年次） 2 後 統計学基礎 2 後	人間文化論Ｃ 2 前 比較文明論 2 後 文化人類学概論Ａ 2 前 文化人類学概論Ｂ 2 後
専門科目	複数学科共通	天然物化学基礎 2 前 生活環境論 2 後 心理学基礎 2 前 消費生活論 2 後 比較住居論 2 前	
	学科専門	〔心理・発達・行動〕 ○ 心理・発達・行動学実験演習 2 通 人間行動論 2 後	〔社会・文化〕 *2 現代社会論 2 前 日本社会論 2 後 *1 哲学概論A 2 前 *1 哲学概論B 2 前 *2 比較宗教論 2 前 *1 社会問題の社会学 2 前 〔心理・発達・行動〕 *1 発達心理学Ⅰ 2 前 *2 発達支援論 2 後 人間形成論 2 前 *1 比較認知発達論 2 後 〔集団・組織・人間関係〕 社会心理学 2 前 生涯学習論 2 前 ○ 教育観察実習 2 前 生活指導論 2 後 法学概論(国際法を含む) 2 前 政治学Ⅰ 2 前 政治学Ⅱ(国際政治を含む) 2 後 文化社会学 2 前
		〔社会・文化〕 社会学概論 2 前	
		〔専攻基礎および演習〕 ◎ 人間関係論基礎演習 1 後 社会調査論 2 前	〔専攻基礎および演習〕 ○ 社会学演習 2 通 ○ 行動論演習 2 通 ○ 形成論演習 2 通 社会調査方法論 2 前 ○ 量的データ解析論Ⅰ 2 後 質的データ解析論 2 後

1 ＊１の科目は隔年開講（H23年度開講、H24年度不開講）、＊２の科目は隔年開講（H24年度開講、H23年度不開講）

2 「生命科学と人間」は「食生活論」の名称変更されたものであるため、平成14年度以前入学生で「食生活論」を履修したものはこれを履修できない。

3 「社会学概論」は、平成22年度以前入学生については、旧科目名「社会学」に読み替える。

4 「社会調査論」は、平成16年度以前入学生については、旧科目名「社会調査論（統計を含む）」に読み替える。

5 「社会問題の社会学」は、平成22年度以前の入学生については、旧科目名「社会病理学」に読み替える。

6 「社会学演習」は、平成22年度以前入学生については、旧科目名「社会論演習」に読み替える。

7 「量的データ解析論Ⅰ」は、平成22年度以前入学生については、旧科目名「社会統計学」に読み替える。

8 「社会学史」は、平成22年度以前入学生については、旧科目名「社会思想史」に読み替える。

３年次		４年次	
英語ＶＡ	1 前	英語ＶＡ	1 前
英語ＶＢ	1 後	英語ＶＢ	1 後
英語ⅥＡ	1 前	英語ⅥＡ	1 前
英語ⅥＢ	1 後	英語ⅥＢ	1 後
ドイツ語ⅢＡ	1 前	ドイツ語ⅢＡ	1 前
ドイツ語ⅢＢ	1 後	ドイツ語ⅢＢ	1 後
フランス語ⅢＡ	1 前	フランス語ⅢＡ	1 前
フランス語ⅢＢ	1 後	フランス語ⅢＢ	1 後

＊１：隔年開講　Ｈ２３開講・Ｈ２４不開講　　＊２：隔年開講　Ｈ２３不開講・Ｈ２４開講

３年次		４年次	
生活経営論	2 後		
〔社会・文化〕		〔集団・組織・人間関係〕	
*2 社会学史	2 後	コミュニケーション論	2 後
*1 比較社会文化論	2 後	*1 現代ジャーナリズム論	2 後
*1 社会変動論	2 後	*2 地域運動論	2 前
*1 政治経済学	2 後	*1 社会・経済政策論	2 前
マーケティング論	2 前	現代社会福祉論	2 後
〔心理・発達・行動〕		組織とネットワークの社会学	2 後
*1 発達心理学Ⅱ	2 後	産業心理学	2 後
教育心理学	2 後	教育制度論	2 後
臨床心理学	2 後	*2 生活法	2 前
社会精神医学	2 前	社会調査実習	1 通
現場心理学	2 前		
*2 高齢者行動論	2 前		
教育学概論	2 前		
教育方法の理論と技術	2 前		
*2 認知心理学	2 後		
カウンセリング論演習	2 前		
〔専攻基礎および演習〕			
量的データ解析論Ⅱ	2 後		
〔専攻基礎および演習〕		〔専攻基礎および演習〕	
○ 人間関係論演習Ⅰ	2 通	◎ 人間関係論演習Ⅱ	2 通
		◎ 卒業研究・論文	8 通

9 「社会変動論」は、平成22年度以前入学生については、旧科目名「社会システム基礎論」に読み替える。

10 「マーケティング論」は、平成17年度以前入学生については、「余暇生活論」に読み替える。

11 「量的データ解析論Ⅱ」は、平成22年度から平成17年度入学生については、旧科目名（応用データ解析論）に、平成16年度入学生については、旧科目名（データ解析論）に、また、平成15年度以前入学生については、旧科目名（データ解析演習）に読み替える。

12 「組織とネットワークの社会学」は、平成22年度以前入学生については、旧科目名「経営組織論」に読み替える。

13 「伝承文化論」、「児童文化論」、「子どもの環境論」は、平成22年度以前入学生用科目として、平成23年度が最終開講とする。

14 「文化社会学」は、平成22年度以前入学生について、旧科目名「民衆芸能論」に読み替え、他学科科目として扱われる。

人間関係学科　履修モデル

人間関係学科は、大きく分けて心理･教育･社会の三つの系統に分かれています
どの系統を目指すかを考えながら、専門科目の履修を考えるとよいでしょう。
下表は、各系統の専門科目の履修モデルです。

★なお、以下の必修科目（12単位）は、どの系統を目指す場合も必ず履修して下さい。

必修科目：人間関係論基礎演習（1回生）・環琵琶湖文化論実習（1 回生 ）・人間関係論演習 II(4 回生)・卒業研究・論文（4 回生 ）

心理学系

選択必修（10単位）：

心理・発達・行動学実験実習（1）
行動論演習（2）
量的データ解析論Ⅰ（2）
人間関係論演習 Ⅰ(3)
社会学演習（2）、形成論演習（2）、教育観察実習（2)のいずれか一つ

選択科目：

人間文化論Ａ
人間文化論Ｂ
人間文化論Ｃ
生活環境論
比較文明論
生命科学と人間
統計学基礎
心理学基礎
人間行動論
考現学概論
社会学概論
発達心理学 Ⅰ
発達支援論
人間形成論
比較認知発達論
社会心理学
生涯学習論
社会調査方法論
量的データ解析論Ⅱ
質的データ解析論
比較社会文化論
現代社会論
社会変動論
発達心理学Ⅱ
教育心理学
臨床心理学
社会精神医学
社会問題の社会学
現場心理学
高齢者行動論
教育学概論
教授・学習論
認知心理学
カウンセリング論演習
コミュニケーション論
現代ジャーナリズム論
地域運動論
社会・経済政策論
現代社会福祉論
組織とネットワークの社会学
産業心理学
教育制度論
生活法
社会調査実習（1 単位）
生活経営論

教育学系

選択必修（10単位）：

心理・発達・行動学実験実習（1）
形成論演習（2）
教育観察実習（2）
人間関係論演習 Ⅰ(3)
行動論演習（2）、量的データ解析論Ⅰ(2)、社会学演習(2) のいずれか一つ

選択科目：

人間文化論Ａ
人間文化論Ｂ
人間文化論Ｃ
生活環境論
比較文明論
生命科学と人間
統計学基礎
心理学基礎
人間行動論
考現学概論
社会学概論
発達心理学 Ⅰ
発達支援論
人間形成論
比較認知発達論
社会心理学
生涯学習論
生活指導論
社会調査方法論
量的データ解析論Ⅱ
質的データ解析論
比較社会文化論
現代社会論
社会変動論
発達心理学 II
教育心理学
臨床心理学
社会精神医学
社会問題の社会学
現場心理学
高齢者行動論
教育学概論
教授・学習論
認知心理学
カウンセリング論演習
コミュニケーション論
現代ジャーナリズム論
地域運動論
社会・経済政策論
現代社会福祉論
組織とネットワークの社会学
産業心理学
教育制度論
生活法

社会学系

選択必修（10単位）：

人間関係論演習Ⅰ（3）
社会学演習（2）
行動論演習（2）
形成論演習（2）
量的データ解析論Ⅰ(2)

選択科目：

人間文化論Ａ
人間文化論Ｂ
人間文化論Ｃ
生活経営論
比較文明論
マーケティング論
生活環境論
文化人類学概論Ａ
文化人類学概論Ｂ
生命科学と人間
統計学基礎
人間行動論
考現学概論
消費生活論
比較住居論
比較道具論
比較衣装論
比較食文化論
日本社会論
比較社会文化論
教育制度論
社会調査論
社会学概論
現代社会論
社会心理学
社会変動論
法学概論
政治経済学
社会調査方法論
量的データ解析論Ⅱ
質的データ解析論
社会問題の社会学
社会学史
高齢者行動論
コミュニケーション論
現代ジャーナリズム論
地域運動論
組織とネットワークの社会学
産業心理学
生活法
社会精神医学
社会調査実習
社会・経済政策論
現代社会福祉論

科目名	Japanese Culture and Civilization
担当教員	黒田　末壽 ・ 石田　法雄 ・ 冨島　義幸 ・ ウォルター・クリンガー ・ 面矢　慎介
授業概要	The course presents a view of Japanese civilization as formed by religious expression, particularly Buddhism, through a study of its representation in temple architecture, through its interpretation in films, through its relationship with the development of Japanese household objects and tools, and through a view of human patters and body movements as the Meiji government tried to modernize every domain of cultural and social systems of Japan.
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	Material will be handed out in class.
成績評価	Response cards: two words/phrases of the day (30%) Report (70%)

科目名	アジア・地域交流論Ａ
担当教員	田中　俊明
授業概要	中国はその名のとおり、天下・世界の中心であることを自認した。東アジア地域にとって、中国の影響力は強烈であり、そうした思想が当時の国家間の関係を規定した。しかし周辺諸国が、それにどのように対応したかは様々であり、必ずしも中国の思惑通りにはいかなかった。そこに東アジアの固有の歴史世界があるのであり、とりあげようとするのはそのような現実である。『魏志』東夷伝の中から、特に韓伝をとりあげて詳細に検討し、それを通して中国中華の「辺境」に対する認識について考えたい。
到達目標	基礎知識の習得。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『朝鮮の歴史』昭和堂。プリントを毎回配布。 参考書:適宜、指示する。
成績評価	レポート20％。小テスト2回80％。

科目名	アジア・地域交流論Ｂ
担当教員	ブレンサイン
授業概要	この講義では、アジアにおける人と物の交流がどのようなパターンで行われてきたのかを中国とモンゴル、中国と満洲との関係から立体的に捉えていきたい。常に現代に着目して、歴史と今日との間に行き来することによって多角的な地域像を描き出したい。
到達目標	万里の長城と柳条辺墻を挟んだ中国大陸における人と物の交流を歴史的視点から理解できることを目指す。当地域の現状に関してもある程度の視点を持てるようにしたい。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜紹介する。
成績評価	中間レポート20％、質問票10％、期末試験40％、出席状況30％

科目名	アジア・地域交流論Ｃ
担当教員	定森　秀夫
授業概要	朝鮮半島は、旧石器時代から現在に至るまで日本と非常に関係が深い。朝鮮考古学の概要を理解し、日本考古学と比較してその相違性と相似性を理解することを目的とする。まず最初に、朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史の概要を講義する。そして、旧石器時代から朝鮮時代までの各時代における考古学の成果と問題点を概説する。場合によっては、主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して、理解を深める。
到達目標	1．朝鮮考古学の基本と朝鮮考古学史を理解する　2．旧石器時代から統一新羅時代までの朝鮮考古学の内容を理解する　3．日本考古学と比較して、日本と朝鮮との歴史的な関係を考える
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント資料を配布する 参考書：授業中に紹介する
成績評価	講義理解度60％、レポート（小レポート2回・期末レポート）40％で成績評価

科目名	アジア交流論
担当教員	阿部　健一※
授業概要	人とモノと情報が国境を越えて大量に行き交う今日、世界は次第に「小さく」なり、地域と地域の相互依存はますます強くなっている。しかし一方でこの相互依存関係が、短絡的で歪んでいると感じられることがある。授業では、アジア、なかでも東南アジアのいくつかを対象地域として紹介し、こうした生活のリアリティをまず伝える。グローバリゼーションの今日、地域と地域がどう関わってゆくのかじっくりと考えること、それが「交流論」である。交流論の基礎は、まずお互いがどこが同じでどこが違うのか知ることである。次に理解があり、そして交流が生まれると考えている。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 指定図書：特になし
成績評価	出席（15％）とレポート（85％）。出席確認のかわりに簡単なアンケートに答えてもらう。

科目名	アジア社会論　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	近くて遠いアジアの国々、そこには多様な自然・文化・社会・宗教がある。拝金主義の横溢する社会もあれば、深い精神文化を大切に育み、継承する社会もある。植民地政策で苦しんだ経験をもつ社会もあれば、今もなおその苦しみを引き摺っている社会もある。その多様な現実と地域に根ざして生きる人びとの智恵や工夫を、スライド、ビデオ、文献などを用いて紹介するとともに、人がともに歩む社会はいかにすれば実現できるか？そのためにはどう生きればいいのか？を考える。
到達目標	人間とはなにか？人間性そのものに気づき、その人間が作り出す社会の多様性を異文化社会との対比によって理解する。そして日本社会の現状を認識し、多様な人間と多様な社会の共存・共生について考える。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：東南アジアの社会学
成績評価	レポート、講義への参加。

科目名	一般構造
担当教員	佐々木　一泰
授業概要	建築物を成立させている部位の構成や仕組みがどのようなものかを理解し、建築を学ぶ上で知っておきたい基礎的な建築技術の概要や構造、架構の知識を身につける。
到達目標	建築技術、構造の全体像を把握する。建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「図説やさしい建築一般構造」今村仁美・田中美都　著　学芸出版社 参考書:授業内に適宜紹介する。
成績評価	宿題(レポート評価)50%、期末筆記試験50%、建築技術用語の修得と各講義の理解度を評価する。

科目名	インテリア計画論
担当教員	宮本　雅子
授業概要	ここでは主に住居の内部空間の設計に必要な知識を習得することを目的とする。まず、インテリア計画のプロセスを説明した上で、住宅の構造、構法および住宅のインテリア構成要素について解説する。その上で、各室における機能とインテリア計画上の要点について討論を交えながら講義する。
到達目標	住居のインテリアを構成している要素について説明できる。演習課題に応用する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:「インテリアの計画と設計」彰国社、講義の中で適宜紹介
成績評価	レポート30%、期末試験50%、レスポンスペーパー20%

科目名	インド・チベット地域文化論
担当教員	棚瀬　慈郎
授業概要	インド仏教は、7世紀以降にヒマラヤを越えてチベットの地にもたらされた。本講義では、インド仏教について概観した上で、そのチベットにおける展開と社会的な影響について検討する。
到達目標	仏教の基本的な考え方と、その歴史的展開についての知識の習得。また内陸アジアにおいて仏教が果たしてきた役割について理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布する。
成績評価	試験による(100%)

科目名	運動と健康
担当教員	寄本　明
授業概要	スポーツや身体活動が健康に及ぼす影響を科学的に理解する。スポーツをはじめ身体活動が健康とどういう点でかかわりがあるかを科学的に説明する。さらにスポーツなどの身体活動は健康のための万能薬ではなく，健康を増進できる面と場合によっては障害になる面があり，このことについて考察する。そのため，一過性の運動によっておこる一時的変化や習慣的な運動によっておこる適応現象のメカニズムを明らかにするとともに，運動の必要性や運動と健康の関係について学ぶ。
到達目標	(1)運動の必要性や運動と健康の関係について理解する。(2)運動と種々の生体応答との関連を理解する。(3)一過性の運動によっておこる一時的変化や習慣的な運動によっておこる適応現象のメカニズムを理解する。(4)運動処方の進め方や内容を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：朝山正己他著『イラスト運動生理学』（東京教学社） 指定図書：中井誠一他著『高温環境とスポーツ・運動』（篠原出版新社）
成績評価	試験の成績(80％)と毎時間の課題レポート(20％)により評価する。

科目名	栄養アセスメント論
担当教員	吉田　龍平
授業概要	栄養教育の歴史的変遷より栄養教育の必要性と重要性を理解し、栄養教育の対象のニーズに応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする為に必要な理論と方法を習得する。まず、対象の問題点を明らかにするための健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報収集の方法と分析法を学ぶ。問題点の原因や誘因、背景にある過程や社会環境に由来する問題点や情報を整理し、総合的に評価・判定する栄養アセスメントを行い、ケアプランの作成、栄養教育の実施、評価について学修する。栄養教育のツールとしての行動科学論、栄養カウンセリングについても学修する。
到達目標	(1)栄養教育の一連の流れ、マネジメントサイクルについて理解し説明できること。 (2)具体的なアセスメントの方法を説明できる。 (3)行動科学理論、カウンセリング理論を理解し、それらの栄養教育への応用の必要性を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：二見大介編著「栄養教育論」（同文書院） 参考書：中山玲子編著「栄養教育論」（化学同人）
成績評価	期末試験（50％）、小テスト・レポート（50％）。栄養マネジメントの概要の理解。栄養アセスメントに必要な各指標の意味を理解していること。栄養教育に必要な知識・技法が理解できていること。

科目名	栄養疫学論
担当教員	岡本　秀己　・　福渡　努
授業概要	地域の健康・栄養活動における栄養疫学の必要性と意義、疫学の方法、疫学を踏まえた地域の健康・栄養活動の効果測定の方法を学ぶ。また、疫学調査等による実態把握による栄養マネジメントの方法や国際栄養の歴史・施策の変遷、地球レベルでの栄養課題と栄養施策および日本の国際協力について学ぶ。
到達目標	栄養疫学の地域の健康・栄養活動への活用、国際栄養の理解
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：二見大介編著「ネオエスカ　公衆栄養学」（同文書院）、佐々木敏著「わかりやすいEBN」
成績評価	期末試験50%、小テスト50％。授業時間数の3分の1以上欠席したものは評価対象としない。

科目名	栄養教育論
担当教員	吉田　龍平
授業概要	栄養アセスメント論で学んだ対象者の行動変容を促し、対象者の学習を支援できることを目的とした栄養教育の基本的・専門的知識や技術を実際の栄養教育に、いかに活かしていくかをライフステージ、ライフスタイル別に、その特徴や顕在化しやすい栄養問題に応じた栄養教育の実際のあり方を学習する。個人や集団の栄養状態の評価判定でき、栄養プログラムが作成できる。
到達目標	(1)栄養教育に必要な知識と技術を説明できること。 (2)各ライフステージ・ライフスタイルの特徴にあった栄養教育が出来ること。 (3)日本における栄養教育の実際を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:二見大介編著「栄養教育論」(同文書院) 参考書:中山玲子編著「栄養教育論」(化学同人)
成績評価	期末試験(40%)、小テスト(30%)、レポート(30%)。各ライフステージの特徴と問題点に沿った栄養教育が理解できていること。各職域での栄養教育の実際が理解できていること。栄養教育に必要な知識・技法が理解できていること。

科目名	栄養教育論実習
担当教員	吉田　龍平　・　廣瀬　潤子
授業概要	栄養アセスメント論で学んだ対象者の行動変容を促し、対象者の学習を支援できることを目的とした栄養教育の基本的・専門的知識や技術を実際の栄養教育に、いかに活かしていくかをライフステージ、ライフスタイル別に、その特徴や顕在化しやすい栄養問題に応じた栄養教育の実際のあり方を学習する。個人や集団の栄養状態の評価判定でき、栄養プログラムが作成できる。
到達目標	(1)栄養教育に必要な知識と技術を説明できること。 (2)各ライフステージ・ライフスタイルの特徴にあった栄養教育が出来ること。 (3)日本における栄養教育の実際を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:二見大介編著「栄養教育論」(同文書院)参考書:中山玲子編著「栄養教育論」(化学同人)
成績評価	期末試験(40%)、小テスト(30%)、レポート(30%)。各ライフステージの特徴と問題点に沿った栄養教育が理解できていること。各職域での栄養教育の実際が理解できていること。栄養教育に必要な知識・技法が理解できていること。

科目名	栄養ケアマネジメント論
担当教員	福井　富穂
授業概要	適切な栄養アセスメントに基づいて栄養ケアプランを作成するためには、個人のさまざまな特性を考慮した栄養治療計画に則って実行し、その結果を評価しなければならない。成長発育期、妊娠授乳期、高齢期などのライフステージ別、また、傷病者の病態、病状、栄養状態などそれぞれの身体特性によって異なる臨床診査、身体計測、食事調査、臨床検査、投薬・注射などについて、実際の症例をもとに総合的な栄養ケアマネジメントの考え方について学び、必要な知識と技術を修得する。
到達目標	栄養アセスメントに基づく栄養ケアプランの立案のため身体計測、各種の検査結果から現在の栄養状態や疾病コントロール状況を個別に評価できる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:杉山みち子他　臨床栄養活動論(同文書院) 指定図書:渡辺明治他編　今日の病態栄養療法(南江堂) そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価20%:栄養ケア・マネジメントを理解し、適切な栄養ケアプランができること。 期末筆記試験80%:個人や集団に対する栄養ケア・マネジメントの必要性を理解しケアプランに応用できること。

科目名	栄養ケアマネジメント論実習
担当教員	福井　富穂
授業概要	ライフステージ別、疾病別にそれぞれの身体状況、栄養状態、病態、病状など個々の状況に応じた栄養アセスメントを行い、治療管理計画（栄養管理計画）を立案し、栄養ケア・マネジメントを具体的に進めていくためのプログラムの作成・立案に必要な知識と技術を修得する。
到達目標	臨床診査、身体計測、栄養補給法、症例検討など実際に体験することにより正しい判断が行えるよう実践能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：杉山みち子他　臨床栄養活動論（同文書院） 指定図書：渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂） そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価100％：栄養ケア・マネジメントの主旨を理解し、適切な栄養評価に基づく栄養補給の方法や内容、栄養教育などができること。

科目名	栄養生化学
担当教員	柴田　克己
授業概要	健康の維持・増進の基となる栄養素の化学と栄養素の代謝を理解する.
到達目標	食べたものの体内運命を述べることができる
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：マッキー生化学　第3版，市川厚監修，福岡伸一監訳，化学同人 指定図書：なし 参考書：なし
成績評価	期末試験80％，レポート20％

科目名	栄養生化学実験
担当教員	灘本　知憲　・　佐野　光枝
授業概要	生化学系実験の基礎的手法を、主にタンパク質を試料として用いた実験系で習得する。さらに、酵素の天然試料からの抽出・精製・動力学的解析を系統的に行う。
到達目標	食品・栄養科学分野で必要な生化学的手法の原理を知る。さらに、基礎分析機器の扱いに慣れる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布
成績評価	レポート50％，実験準備20％，実験遂行能力30％

科目名	栄養生理学実習
担当教員	高山　博史
授業概要	栄養状態とその異常を生理、生化学的に把握する方法論を実習することにより、栄養と疾患との関係の理解を深める。 ヒトの血液、血清、常在菌などの具体的な評価方法を実習し体得することにより栄養代謝異常がヒトに及ぼす影響について理解する。前半は他講義の理解を助けるために前期の「生体の構造と機能」の続編を講義し、後半に実習を行う。
到達目標	臨床検査による栄養生理とその評価方法の修得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回参考となるプリントを配付する
成績評価	実習毎のレポート20％　講義後の課題のレポート80％ 欠格条件（授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない）

科目名	栄養と健康
担当教員	福渡　努
授業概要	栄養生化学、栄養学総論、栄養学各論を踏まえ、栄養、食習慣、食行動と健康との関わりを総合的に捉える。栄養素が消化、吸収、代謝され、生理作用を発揮するために、様々な制御・調節機構が働いている。本講義では、分子レベル・細胞レベルで栄養素と生体が相互作用することによって情報伝達が始まり、その情報が制御・調節機構を介して臓器、さらには生体全体におよぼす影響について理解する。
到達目標	栄養素の摂取が分子レベル・細胞レベルでどのような刺激を与え、その刺激が生体をどのように制御・調節するのか理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：金本龍平編「分子栄養学」（化学同人）
成績評価	レスポンスカード15％　レポート評価 20％　期末定期試験 65％

科目名	近江商人論
担当教員	宇佐美　英機※
授業概要	日本の商業史研究において重要な位置を占める近江商人について、学術的な研究成果に基づいて最新の学説を講義する。 近年は企業の社会的責任(CSR)に関わらせて近江商人の先見性が高く評価され、あらためてその営為が再評価されている。しかし、それらの言説には史実に基づかない解釈を前提にしているものもみられ、斯学の研究史を踏まえていないものも多くなった。このような潮流を批判しながら文化史・地域史の観点から講義を進める。
到達目標	近江商人とはどのような特徴をもった商人なのか、それは巷間知られている俗説とどう違うのかを学術的に理解する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：末永國紀『近江商人学入門』(サンライズ出版) 参考書：小倉榮一郎『近江商人の理念』(サンライズ出版) その他の文献は講義中に適宜紹介する。
成績評価	レポート30％，期末試験70％を原則として評価する。ただし、レポート未提出者は評価対象としない。

科目名	応用栄養学Ⅰ
担当教員	灘本　知憲　・　福渡　努　・　廣瀬　潤子　・　南　和広
授業概要	「基礎栄養学」を踏まえて、対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方の原理を知る。 なお、本科目は「基礎栄養学」、「応用栄養学Ⅱ」と一体化して栄養学の概要を網羅するよう講義設定している。従って、一部の講義項目は「基礎栄養学」から続く。
到達目標	食・栄養に関する情報が氾濫する今日、情報を的確に判断し、実践の礎とできるような身近な科学的常識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西川、灘本編「基礎栄養学」（化学同人）、灘本、西川編「応用栄養学」（化学同人）
成績評価	小テスト20％，期末試験80％

科目名	応用栄養学Ⅱ
担当教員	灘本　知憲
授業概要	「基礎栄養学」を踏まえて、対象となるヒトの年齢、状態による生理の違いを理解し、それらに合わせた栄養処方の原理を知る。 なお、本科目は「基礎栄養学」、「応用栄養学Ⅰ」と一体化して栄養学の概要を網羅するよう講義設定している。
到達目標	食・栄養に関する情報が氾濫する今日、情報を的確に判断し、実践の礎とできるような身近な科学的常識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西川、灘本編「基礎栄養学」（化学同人）、灘本、西川編「応用栄養学」（化学同人）
成績評価	プレゼン／質疑応答50％、和訳小テスト50％

科目名	応用栄養学実習
担当教員	田辺　とも子※
授業概要	生涯を心身ともに健康で過ごしていくためには、各ライフステージ・スタイルの特性に応じた栄養管理が必要である。そこで成長・発育・疾病予防・健康の維持増進・老化等における心身の変化に応じた栄養摂取量、味・食感などを実習をとおして理解し、栄養学各論で学んだ知識を実際の食事と関連させ、各ライフステージに応じた栄養マネジメントが出来る実践的な能力を身につけることをねらいとする。
到達目標	(1)各ライフステージにおける食事量・栄養摂取量を理解する。 (2)食事からライフステージの特徴・問題点を理解する。 (3)生涯にわたる栄養マネージメントができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西岡葉子・宮沢節子編「応用栄養学実習」学建書院 参考書：灘本知憲・西川義之編「応用栄養学」
成績評価	小テスト（50％）、発表（20％）、レポート（30％）。 授業時間数の3分の1以上欠席したものは評価対象としない。

科目名	カウンセリング論演習（生活栄養）
担当教員	那須　光章　・　吉田　龍平　・　松嶋　秀明
授業概要	クライエントの感情や行動を理解しながら、クライエントが安心できるように心理面を支持するアドバイスの技法の習得を学ぶ。そのための基礎となるカウンセリングマインドの重要性、カウンセリングにおける人間観、カウンセリングと心理療法の理論と技術を学び、ロールプレイ、事例研究などを通して、実際的なカウンセリング技法の向上をはかる
到達目標	カウンセリングマインドの理解を深める。クライエントの心情理解を深める。カウンセリング技法の向上を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中西・那須他（著）『カウンセリングのすすめ方』有斐閣　1985年、小松・大谷（編）『栄養カウンセリング論』講談社　2004年
成績評価	レポート・課題(60%)、ロールプレイ(40%)での評価を総合して、総括的評価を行う。

科目名	カウンセリング論演習（人間関係）
担当教員	那須　光章　・　松嶋　秀明
授業概要	クライエントの感情や行動を理解しながら、クライエントが安心できるように心理面を支持するアドバイスの技法の習得を学ぶ。そのための基礎となるカウンセリングマインドの重要性、カウンセリングにおける人間観、カウンセリングと心理療法の理論と技術を学び、ロールプレイ、事例研究などを通して、実際的なカウンセリング技法の向上をはかる
到達目標	カウンセリングマインドの理解を深める。クライエントの心情理解を深める。カウンセリング技法の向上を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中西・那須他（著）『カウンセリングのすすめ方』有斐閣　1985年、小松・大谷（編）『栄養カウンセリング論』講談社　2004年
成績評価	レポート・課題(60%)、ロールプレイ(40%)での評価を総合して、総括的評価を行う。

科目名	環琵琶湖文化論実習（地域文化）
担当教員	学科教員
授業概要	滋賀県の歴史、文化、生活を対象とする実習である。地域、テーマ別に班を編成し、事前学習、宿泊をともなう現地での実習、さらに報告書の作成を行う。
到達目標	フィールドワークを行うことによって、地域の歴史、文化、生活への関心を深め、さらに調査の手法、報告書のまとめ方等の技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各班担当教員の指示による。
成績評価	各班担当教員の判断による。

科目名	環琵琶湖文化論実習（生活デザイン）
担当教員	学科教員
授業概要	滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。各学科ごとに地域、テーマ別に班編成をし、事前学習、泊りがけでの実習、さらに実習後の報告書の作成をおこなう。
到達目標	フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高め、さらに調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:各班担当の教員の指示による
成績評価	各班担当の教員の判断による。

科目名	環琵琶湖文化論実習（生活栄養）
担当教員	学科教員
授業概要	滋賀県の歴史、文化，生活をその対象として実習を行う。地域、テーマ別に班編成をし，事前学習、報告会、学外での実習（1泊2日）、さらに実習後に報告書を作成する。
到達目標	フィールドワークを行うことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識が深められ、さらに調査の手法、報告書のまとめかた等の技術が習得できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト、参考書:各班担当教員の指示による。
成績評価	各班担当教員の評価による。

科目名	環琵琶湖文化論実習（人間関係）
担当教員	学科教員
授業概要	滋賀県の歴史、文化、生活をその対象として実習をおこなう。各学科ごとに地域、テーマ別に班編成をし、事前学習、泊りがけでの実習、さらに実習後の報告書の作成をおこなう。
到達目標	フィールドワークをおこなうことによって、地域の歴史、文化、生活に対する意識を高め、さらに調査の手法、報告書のまとめかた等の技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。
成績評価	発表および各教官によって指示された提出レポート、最終報告書を総合して評価する。

科目名	漢文講読
担当教員	田中　俊明
授業概要	中国・朝鮮など漢字文化圏の歴史・文化を追究するためには、漢文（中国古典文）の読解は不可欠である。本講読では、白文（句読点なし）の漢文史料が訓読できるようになることをめざす。 テキストとして何を用いるかは、相談して決めるつもりであるが、前期は『史記』や『資治通鑑』など基本的なものを候補として考えている。後期はより高度なものを用いたい。授業には漢和辞典（小辞典で可）を持参し、毎回予習をしておくこと。指名して読んでもらう。
到達目標	平易な文章の読解ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：コピーして配布。 参考書：適宜、指示する。
成績評価	授業における発表60％・小テスト（3～4回）40％を総合して評価する。

科目名	管理栄養士総合演習
担当教員	学科教員
授業概要	生活栄養学科で履修する専門基礎分野と専門分野の各科目をトータルに捉え、生活栄養学科の教員の研究テーマにそって、課題に向けた研究計画や研究方法をアレンジする。そのことによって、人間健康学に関わる各科目を横断し、人の栄養および健康状態を評価し、管理していく上で必要とされる様々な知識や技術を習得する。
到達目標	生活栄養学科の管理栄養士履修専門科目の総合的な理解。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜指示する 指定図書：適宜指示する 参考書：適宜指示する
成績評価	それぞれの指導教員が取組状況などを総合的に評価する。

科目名	基層文化論
担当教員	中井　均
授業概要	日本という国を形成する基層文化は縄文時代・弥生時代・古墳時代・飛鳥～奈良時代に求めることができる。その発展過程の中で、自然採集を基盤とした縄文時代から農耕社会となった弥生時代を経て、統一国家が出現する古墳時代、中国を範とした律令国家としての飛鳥～奈良時代にかけて、その変遷の画期をとらえながら、日本の国家形成の様子を考古学の資料を中心に、社会構造や文化について学ぶ。
到達目標	各時代を形成した社会構造や文化を学び、日本の歴史の変遷を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリント資料を配付する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	期末筆記試験　　80％　　日本の歴史の流れの基層となった社会や文化が理解できていること。 レポート等　　20％

科目名	基礎栄養学Ⅰ
担当教員	灘本　知憲
授業概要	人が健康に生きていくための、食物やその成分の役割、体内での変化など、栄養学における基礎と概要を学ぶ。 なお、本科目は「基礎栄養学Ⅱ」、「応用栄養学」と一体化して栄養学の概要を網羅するよう講義設定している。一部の講義項目は「基礎栄養学Ⅱ」で引き続いて行われる。
到達目標	食・栄養に関する情報が氾濫する今日、情報を的確に判断し、実践の礎とできるような身近な科学的常識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西川、灘本編「基礎栄養学」（化学同人）
成績評価	期末試験80％、英語訳20％

科目名	基礎栄養学Ⅱ
担当教員	灘本　知憲　・　福渡　努
授業概要	人が健康に生きていくための、食物やその成分の役割、体内での変化など、栄養学における基礎と概要を学ぶ。 なお、本科目は「基礎栄養学Ⅰ」、「応用栄養学」と一体化して栄養学の概要を網羅するよう講義設定している。一部の講義項目は「応用栄養学」で引き続いて行われる。
到達目標	食・栄養に関する情報が氾濫する今日、情報を的確に判断し、実践の礎とできるような身近な科学的常識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：西川、灘本編「基礎栄養学」（化学同人）
成績評価	期末試験80％、英語訳20％

科目名	基礎栄養学実験
担当教員	福渡　努　・　森　紀之
授業概要	生体内で起こる栄養素代謝とその変動の実際を学ぶために，動物実験，生化学指標の測定を行う．
到達目標	基礎栄養学分野で必要な基本的な実験技術を身につけること． エネルギー代謝の要求の違いによって栄養素代謝がどのように変動するのかを理解すること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布
成績評価	実験準備25％，実験遂行能力25％，レポート50％ 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない．

科目名	基礎設計製図
担当教員	山根　周　・　南　政宏
授業概要	設計行為に必要な基礎理論である図学と図形の基礎知識を習得するとともに、基本的な製図技術と技法を習得する。正投影、軸測投影、透視投影や陰影表現などを含む図学の講義、演習を行う。並行して、レイアウトとプレゼンテーション、製図道具を使用した製図技法の習得、建築図面の模写、室内空間の実測と図面化、小規模居住空間の設計など、設計の基礎的な実習をおこなう。
到達目標	図学の基本的理論を理解し、基本的な製図技法を習得する。小規模空間等の設計をおこない、プレゼンテーションができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:図学テキスト:授業中にコピーを配布する。 参考書:〈建築のテキスト〉編集委員会編『初めての建築製図』学芸出版社 1996
成績評価	図学課題の提出(50%) 製図課題の提出(50%)

科目名	基礎服飾デザイン
担当教員	森下　あおい
授業概要	この授業ではパターン製図、デザイン画表現の2つのテーマから服飾デザインの基礎を学ぶ。
到達目標	1. デザインの構成要素と衣服の構造を理解する 2. 服飾デザインの表現法について学ぶ
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜資料を配布します 参考書:授業中に紹介します
成績評価	小レポート(70%)　期末レポート(30%)

科目名	給食衛生管理実習
担当教員	浦部　貴美子　・　吉田　龍平
授業概要	学内にて、集団給食施設(特定給食施設)の衛生管理に必要な知識と方法について、実習を通して習得する。
到達目標	(1)「大量調理施設衛生管理マニュアル」全般が理解できること。 (2)インシデントおよびアクシデントレポートが作成できること。 (3)食中毒発生時の対応が理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:矢野俊博、岸本満著『管理栄養士のための大量調理施設の衛生管理』(幸書房) 全国食品衛生主管課長連絡協議会編『改訂大量調理施設衛生管理のポイント』(中央法規出版) 参考書:講義の中で紹介する。適宜、プリントを配布する。
成績評価	レポート評価100% ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない.

科目名	給食管理実習
担当教員	谷口　美津子※　・　廣瀬　潤子
授業概要	学内にて、集団給食（100食）の管理運営について、実習を通して学ぶ。
到達目標	（1）管理栄養士、調理師の役割分担が理解できること。（2）下処理から始まり、調理、配食、食器洗浄、保管までの作業分担ができること。（3）食材料費の執行が予算内でできること。（4）HACCPに基づく衛生管理が理解できること。（5）目標設定に対する評価ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：藤原政嘉他編『給食経営管理実習』（みらい） 指定図書：授業の中で紹介する。 参考書：木村友子他編『学内給食経営管理実習のためのおいしい食事のコーディネート第2版』（医歯薬出版）
成績評価	レポート100％で評価する。

科目名	給食経営管理臨地実習
担当教員	浦部　貴美子　・　吉田　龍平
授業概要	学外（特定給食施設：病院、福祉施設、学校など）にて、集団給食施設の管理運営の実態に臨み、適切な管理を行うために、如何なる専門的知識および技術が総合的に関わっているかを習得する。
到達目標	（1）他職種とコミュニケーションをうまく図ることができること。（2）衛生管理の実際が理解できること。（3）事務管理の実際が理解できること。（4）栄養指導・栄養教育の仕組みが理解できること。（5）実習施設の献立作成の仕組みが理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：木戸詔子他編『臨地・校外実習のてびき』（化学同人）
成績評価	レポート評価（100％）

科目名	給食経営管理論
担当教員	浦部　貴美子　・　小澤　恵子※
授業概要	給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を養う。
到達目標	給食を栄養面、安全面、経営面などにおいて適切に運営するため、（1）マーケティングの原理が理解できること。（2）大量調理の衛生管理が理解できること。（3）給食の原価計算と損益分岐点が理解できること。（4）各種給食施設での経営管理を理解することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：藤原政嘉他編『給食経営管理論』（みらい） 参考書：講義の中で適宜紹介する。 その他、適宜プリントを配布する。
成績評価	浦部担当分評価50％（小テスト50％，期末試験50％） 小澤担当分評価50％（期末試験100％）

科目名	給食の計画と実務
担当教員	吉田　龍平
授業概要	給食（基本食・治療食）の運営に関する計画と実務について、その方法を習得する。
到達目標	（1）基本食から展開して治療食に応用できること。（2）目標栄養量から食品構成表が作成できること。 （3）食品構成表から献立が作成できること。（4）各種の治療食から発注量が算出できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：玉川和子他著『臨床調理第3版』（医歯薬出版） 指定図書：講義の中で紹介する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	レポート50%、小テスト50%で評価する。

科目名	教育学概論
担当教員	篠原　岳司
授業概要	本授業では、多様なテーマを包摂する教育学の基本原理と今日的課題について講義する。また、教職課程の授業であることから、特に学校に関わる諸現象、諸課題については具体例を紹介し検討を行う。
到達目標	①教育学の多様なテーマについてイメージを掴む。 ②講義で扱うテーマに関する自分の考えを持つ。 ③小レポート、最終レポートを通し、読み手を意識した論理的な文章力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは定めず、講義中に資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。
成績評価	各講義後に提出する小レポート（40％）と最終レポート（60％）をもとに、総合的に判断する。なお、小レポートの未提出が4回以上の場合は評価対象から外す。

科目名	教育観察実習
担当教員	那須　光章　・　吉田　一郎　・　松嶋　秀明　・　中村　好孝
授業概要	今日における学校・社会教育、社会福祉、特別支援の現状を把握するため現地学習を行い、直接観察することにより、教育、福祉、療育のあり方を学習する。
到達目標	社会教育、障害者自立支援、特別支援の教育での課題を見つけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。 参考書：授業内に随時照会する。
成績評価	所定の時限に各学校・施設の観察についてオリエンテーションを行い、次週に学校・施設を訪問することを原則とする。　事後指導も行い、毎回レポート提出する。出席（50％）とレポート（50％）を総合して評価する。

科目名	教育心理学
担当教員	那須　光章
授業概要	思春期・青年期の心理と行動を理解し、障害を持つ生徒の援助などを含めて今日の生徒の発達と行動を青年心理学の観点から概説して、青少年への指導と援助のポイントを探求する。
到達目標	青年期の心理と行動の理解。学校等での生徒との関わりの実践的意義の認知を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：白井利明編『よくわかる青年心理学』(ミネルヴァ書房) 指定図書：森敏昭（他著)『教育心理学キーワード』(有斐閣)
成績評価	試験の成績（70％）、講義中のレポート（15％）、実習的課題（15％）を総合して評価する。

科目名	教育制度論
担当教員	篠原　岳司
授業概要	本講義では、わが国の教育制度の基本原理を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。したがって、講義では教育制度の成立背景や発展の展開、制度を形作る基本原理、教育実践と制度の相克に関する事例や論点を取り上げていく。
到達目標	① 現在の教育制度が形成されてきた経緯を理解できる。 ② 現在の教育制度の課題を理解できる。 ③ 教育制度、学校教育制度を形作る基本原理を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは指定せず、必要な資料は講義中に配布する。参考文献等は講義中に適宜紹介する。
成績評価	レポート3回（30%、30%、40%）で評価する。講義では毎回小レポートの作成を求めるが、提出を4回以上怠った者は評価しない。また、グループディスカッションを踏まえた上でのレポート作成を求める理由から、ディスカッションの欠席者はレポートも評価しない。詳しくは第1回で説明する。

科目名	教育方法の理論と技術
担当教員	那須　光章　・　亀田　彰喜　・　近藤　文良※
授業概要	人間発達や社会化・学校教育の重要な要因である学習に焦点を当てて、その原理や方法を学び、実際の学校場面での授業や評価の方法を論ずる。視聴覚機器機や情報機器を活用した教材の開発とそれの教育実践場面での活用方法や評価の仕方についてもふれる。
到達目標	多様な教授方法の理解、教育機器の活用の技術を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：多鹿秀継編著『学習心理学の最先端』あいり出版
成績評価	終講テストの成績（70％）、小テスト（15％）、実習課題（15％）の評価を加味して総合評価する。

科目名	近世近江論
担当教員	東　幸代
授業概要	本講義のねらいの一つは、現代日本社会を理解するために、その揺籃期とされる近世社会について理解を深めることである。二つ目のねらいは、近世社会にあって、近江国（現滋賀県域）がどのような歴史的展開をたどり、どのような歴史的特質を有していたかを把握することである。
到達目標	日本近世社会と近江国の特質を説明できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	講義中に適宜指示する。
成績評価	宿題20％　期末試験80％

科目名	近代デザイン史
担当教員	面矢　慎介
授業概要	近代になって、産業革命、市民社会の成立、科学技術の発展などで、社会は大きく進歩した。合理主義・機能主義により、道具・住宅・建築は、徐々にモダニズムのデザインにおおわれてゆき、われわれの生活空間も大きく変化してきた。そして現代、豊かさ、情報化、都市化、グローバル化などの変化によって、我々の生活や意識（価値観、美意識、家族観）さらに変りつつある。このようななかで、近代はじめより現代にいたるまでの間の生活デザイン、主として、道具・住宅・建築のデザインが、どのように変化してきたかを、具体例を通して概観する。
到達目標	①近代を世界史のなかで理解し、人の生活の変化を知る。 ②種々のデザイン運動グループの位置付けと特徴を知る。 ③デザイナーの名とその作品を展覧会や作品集で親しむ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：柏木　博『デザインの20世紀』NHKブックス
成績評価	レスポンスペーパー10％　宿題評価60％　期末筆記試験評価30％　授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	空間デザイン論
担当教員	佐々木　一泰
授業概要	われわれは日ごろデザインの最終的な成果しか目にすることは出来ない。そこでこの講義では、西洋・日本の戦後～現代のデザイン・デザイナーを通じて、デザインが作られる過程とその制作過程を中心に分析し、そのデザインを成り立たせる手法を通じて、空間デザインを学ぶ。
到達目標	空間デザインの歴史や技術の知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『作家たちのモダニズム（建築・インテリアとその背景）』（学芸出版社）、『近代日本の作家たち（建築をめぐる空間表現）』（学芸出版社） 指定図書：授業内に適宜紹介する。参考書：授業内に適宜紹介する。
成績評価	小レポート、小テストなどを適宜行い、評価する。（小レポート・小テストなど100％） 授業時間数の2分の1以上欠席した者は、評価対象にしない。

科目名	芸術学
担当教員	亀井　若菜
授業概要	この授業では、造形芸術である「美術」や、造形芸術の歴史の体系である「美術史学」について考えていく。「美術」は、社会から自立した崇高なものと考えられてきたが、この20年ほどの間に、美術に対する新しい解釈の方法が提示され、美術が社会の権力構造と密接に関わって作られ享受されてきたことが明らかにされている。この授業では、美術を解釈する方法論に注目しながら、具体的に作品を解釈することも行い、「美術」や「美術史」が社会的政治的にいかなる意味を担ってきたのかを考えたい。この授業では、日本の美術、美術史を問題とする。
到達目標	美術や美術史の意味を、社会と関わらせて考えられるようになることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	授業でその都度紹介する。
成績評価	授業の簡単な感想文（数回分）（40％）、期末試験（60％） 授業では毎回パワーポイントを使って画像を提示する。履修者は授業に出席してそれらをよく見、作品が何を見せようとしているのかを自分でも考えていくことが求められる。

科目名	形成論演習
担当教員	吉田　一郎　・　篠原　岳司　・　木村　裕
授業概要	教育学に関わる問題群の中から関心のあるテーマを選び、各自の問題意識をまとめ、参考書や自分で選んだ資料を用いて発表を行う（そのため、講義の内容および進め方については、受講生の興味・関心に応じて変更する可能性があることを了承されたい）。
到達目標	①教育学に関わるテーマについて視野を広げるとともに、さまざまな参考書や資料の検討なども加え、自身の考えを深めること。 ②他者と議論を行い、互いの考えを深めるとともに、それを論理的かつ説得的に言葉で説明できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	指定しない
成績評価	講義中の発表および議論への参加（50％）と最終レポート（50％）をもとに、総合的に判断する。

科目名	健康情報管理実習
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	情報化社会に適応できる能力を身に付ける。すなわち、栄養食品および消費生活に関する情報を提供する情報媒体について学び、さらに健康情報や栄養補助食品および消費などに関する情報の入手し、これらの情報をプレゼンテーションソフトのPowerPointなどを利用して、表示する手法などを習得する。さらに、健康に関するデータの統計処理の手法についても学ぶ。
到達目標	健康情報をの検索し、健康情報を統計処理し、プレゼンテーションソフトによって表示できること。さらに、検索で得られた健康情報によりレポートを提出。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント等を配布
成績評価	課題60%　健康情報に関する課題とPowerPointによるプレゼンテーションの作成により評価、レポート40%　健康情報と食品情報の検索によりレポート作成

科目名	健康心理学
担当教員	松本　行弘
授業概要	近年の健康への関心の高まりには目を見張るものがあり、人の健康について、社会や環境とのかかわりの中で全人的な把握と対応が迫られている。そこで、、総論として健康の概念を明らかにし、次に、健康とストレス、健康の保持・増進とサポートシステムそして実践・臨床の視点から、健康アセスメントやカウンセリング、疾病、健康教育といった予防や対処、治療などについて学ぶ。また、健康を体験的に捉えるために、心理検査やアンケートを実施し、その実際に迫る。
到達目標	人が健康に生きるということはどういうことかを理解し、その実践的・臨床的意味を考えること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：指定しないが、教材としてVTRやDVDを使用し、適宜プリントを配布する。 参考書：野口京子著「健康心理学」金子書房 長谷川浩一編著「心の健康を考える」ミネルヴァ書房
成績評価	レポート提出（30％）、試験またはレポート（70％） レポート課題は“人が健康に生きる”ということについて、講義内容を越えて広い範囲のものとなる。またレポート課題も含め到達目標の狙いが達成されたかどうかを試験またはレポートで見極める。

科目名	現代産業デザイン論　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	現代における産業デザインの現状と課題を、産業デザインの歴史、主に1970年から2000年までの30年間を踏まえて、現代の日本社会に果たしてきた役割を考察することから、今後の産業デザインの課題を明確にする。
到達目標	同時代の産業デザインのあり方を踏まえて、今後の産業デザインの課題に対して、各自が思考し、意見を発表できる能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特に設定しない、その都度関係資料を配布する 参考書：『デザインニュース252-1989年-2000年』産デ振、『デザイン・メイド・イン・ニッポン』JIDA西日本ブロック、『日本の生活デザイン』建築資料研究社、『20世紀の良品』トランス・アート、『20-21世紀DESIGN INDEX』INAX出版、『消費社会の神話と構造』『物の体系』ジャン・ボードリール、『近代日本の産業デザイン思想』『モダンデザイン批判』『20世紀をつくった日用品』柏木博、『欲望のオブジェ』アドリアン・フォーティー、『大きな都市小さな部屋』渡辺武信、『宇宙船「地球」号』バックミンスター・フラー、『生きのびるためのデザイン』『地球のためのデザイン』ヴィクター・パパネック、『誰のためのデザイン？』D・A・ノーマン、『情報の文明学』梅棹忠夫、『メディア論』M・マクルーハン、『ソフト・エネルギー・パス』エイモリー・ロビンズ、機関誌DOGUOLOGY、資料ビデオ 『ヨーロッパのデザイン紀行-フランス編フィリップ・スタルク』『倉俣史郎-夢のかたち』『プロジェクトX-液晶開発、デジタルカメラ開発』『情熱大陸-川崎和男』『サイボーグ』立花隆
成績評価	毎回の小レポート評価70％、毎回のテーマに対して各自の考え方が明確に述べられているかどうか。最終課題の小論文評価30％、各自の最終課題テーマを深く掘り下げて自分流の考え方が論理的に述べられているかどうか。

科目名	現代ジャーナリズム論
担当教員	荒井　利明
授業概要	マス・メディア（とりわけ新聞）の歴史と現状を理解し、その将来を考える。
到達目標	マス・メディア（とりわけ新聞）の現状とその問題点を把握する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：参考書等は適宜、紹介する
成績評価	レスポンスカードによる平常点　20％、期末試験　80％

科目名	現代社会福祉論
担当教員	中村　好孝
授業概要	「生きづらさ」や「心の問題」に関心のある学生は多いのだが、本講義が特にとりあげるのは、お金がなかったり身体が動かなかったり住む場所がなかったりする人も大変だということである。大変な人の悩みを聴くことも大切だが、本講義がとりあげるのはそういった人の役に立つ制度も大切だということである。本講義は、障害、貧困、居住、虐待など、福祉についての個別のトピックと、福祉の社会的な仕組みについて考察する。
到達目標	第一に、そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか、そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。第二に、それらをとりまく社会的条件を知る。第三に、それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	通常はレジュメを配布する。参考文献については適宜紹介する。
成績評価	期末試験85%、レスポンスペーパー15%

科目名	現代社会論
担当教員	丸山　真央
授業概要	現代社会を捉えるうえで、グローバリゼーションのインパクトを考えることは避けて通れない。こうした認識は、この20年ほどの間に、社会学のみならず社会諸科学のなかでおおよそ共通了解を得るにいたっている。本講義では、グローバリゼーションに伴う社会変動を、理論的かつ経験的に概観し、現代社会を理解する視座を提供する。そのうえで都市・地域、国家へのグローバリゼーションのインパクトの諸相を検討したい。
到達目標	(1)現代社会のマクロ社会学的な理解の基本と基礎知識を身につける。 (2)現代日本社会の諸現象をマクロな社会変動と関連づけて説明できるようになる。 (3)身近な地域や都市での社会的事象に関心をもち、社会学的な想像力を働かせることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:配布プリントに掲載する
成績評価	授業への参加・リアクションペーパーの提出(20%)、読書レポート(30%)、期末レポート(50%)

科目名	現代中国論
担当教員	荒井　利明
授業概要	現代中国(1949年以降の「共産党の中国」)を歴史、政治、経済、外交などの面から把握する。
到達目標	現代中国に関する基本的知識を取得する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書等は適宜、紹介する。
成績評価	レスポンスカードによる平常点　20%、期末試験　80%

科目名	現代モンゴル語文献講読
担当教員	島村　一平
授業概要	本講義では，現在，モンゴル国で使われているモンゴル語（キリル文字）の文献を講読する。前期は，新聞、雑誌、インターネット、学術論文、ポピュラー音楽の歌詞などの素材を読むことで、現在使われているモンゴル語に親しむ。後期からは，2004年に出版されたモンゴル国史であるMongol Ulsyn Tuukh の第5巻の現代文化史編部分および60年代以降の歴史を読むことで彼等のモンゴル現代史を巡る認識を理解することをめざす。
到達目標	モンゴル語の新聞、インターネット、論文、書籍などを独力で読める学力をつけることを目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：随時、呈示する
成績評価	テスト60%　出席40%で判断する

科目名	建築法規
担当教員	田上　豊※
授業概要	まちづくりや住まいづくり、建築のデザインに関わる建築関係法令の役割や規制誘導を概説し、建築関係法令の概要と建築設計への取組み方を解説する。また具体的な事例をもとに建築設計やまちづくり、都市デザインのなかで法令等の制限や可能性を指向し、住宅やまち、都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。
到達目標	建築や都市のデザインを考える上で建築や都市をとりまく法制度等の基礎的な理解をはかり、その法的制限の限界や課題部分を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：国土交通省住宅局建築指導課編集「図解建築法規」
成績評価	講義中の毎回の演習結果を中心に、期末試験の結果も加味して考慮する。（講義中の演習50％、期末試験50％）

科目名	現場心理学
担当教員	松嶋　秀明
授業概要	私たちの日常生活には「当たり前」になっていることがいくつもある。こうした「当たり前」の存在を問い直し、批判的に日常をとらえなおす力を養うことを狙いとする。具体的には「司法領域」における現場をとりあげつつ、そこでとりあげられる諸問題に対して、心理学がどのように迫れるのか、いくつかの立場からの研究例を示しつつ解説する。授業では一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッション、種々のワークをとりいれる。積極的な参加を期待する。
到達目標	司法場面における心理学研究の知見をもとに、現象を多重な視点から読み解く視点をみにつける。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	・各授業における発表／貢献(60)　・最終レポート（40）

科目名	考現学概論
担当教員	面矢　慎介
授業概要	生活を捉える基本的方法論としての考現学について解説する。日本において創始された考現学は、生活のありようをとらえる有効な方法であるばかりか、生活実態に即したデザインの発想をうながし、現在まで多くの生活研究者・デザイン実務家によって発展・継承されている。本講義では、考現学の創始者・今和次郎（1888ー1973）から現在にいたる考現学的生活研究の系譜を論じ、さまざまの考現学的調査手法を事例を交えて解説する。グループワークによる調査体験、授業期間終了後の個人調査・レポート制作を含む。
到達目標	実際の調査体験を通して、生活文化をとらえるための考現学的観察・記録の方法と視点を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布 指定図書：今和次郎『考現学入門』ちくま文庫 参考書：初回授業時に参考文献リストを配布する。
成績評価	コメントカードとグループワークでの貢献度（寄与率30％）と、個人調査レポート（期末レポート）により評価する。個人調査レポートは授業期間終了後、夏期休暇中に作成し、成績評価への寄与率は70%。グループワークへの参加はそれまでの講義時間数の半分以上を出席した者に限る。

科目名	考古学
担当教員	中井　均
授業概要	考古学とは、過去の人類が残した物質的資料「遺跡」と「遺物」といった土のなかから発掘されたものを対象として歴史を組み立てていく学問である。考古学の独自性は遺構、遺物を実測し、分類することによって人類の残した「モノ」を分析することにある。まずその方法論とこれまでの研究史を学び、さらには考古学研究に必要な関連諸科学を学ぶことによって考古学の基礎を培うこととする。
到達目標	考古学の方法論を学び、理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回プリント資料を配付する。 参考書：講義の中で紹介する。
成績評価	期末筆記試験　80％　考古学の方法論と考古学が明らかにした歴史が理解できていること。 レポート等　20％

科目名	考古学特論
担当教員	定森　秀夫
授業概要	遺跡・遺構・遺物を研究対象とする考古学の方法論などの概要、および日本考古学の概要を理解することを目的とする。最初に、考古学の基本、考古学の方法論などの概要を講義する。そして、日本考古学の歩みとこれまでの成果を概説する。現在、日本考古学は旧石器時代から現代までを研究対象としている。時代ごとに、考古学の成果と問題点を概説していくが、場合によっては主要な遺跡を取り上げたり、特殊な遺構・遺物を取り上げたりして、それらに関する詳しい内容を講義する。また、適宜スライド・ビデオなどを利用して理解を深める。
到達目標	1．考古学の方法論の基本を理解する 2．日本考古学史と旧石器時代から現代までの日本考古学の内容を理解する 3．周辺諸国の考古学の成果と比較検討して、アジアの中の日本文化を理解する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント資料を配布する 参考書：授業中に紹介する
成績評価	講義理解度60％、レポート（小レポート2回・期末レポート）40％で成績評価

科目名	考古地理実習Ⅰ
担当教員	定森　秀夫　・　濱崎　一志　・　中井　均　・　塚本　礼仁　・　石川　慎治
授業概要	考古学・地理学を修得するためには、測量や実測、作図など実地にその技術を身につけなければならない。そのための技術の基礎を訓練する実習である。
到達目標	考古学・地理学の基本的な技術を知り、理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	実習成果物70％・実習態度等30％

科目名	考古地理実習ⅡＡ
担当教員	定森　秀夫　・　中井　均
授業概要	考古学における実践的技術習得のための実習である。考古学の研究や学習には、基礎的技術の習得が欠かせない。地下から出土する遺構や遺物はその発掘記録を確実に作成するのが第一段階である。第二段階としては洗浄・修復で、その後、図化等（拓本・実測・写真・製図を含む）の第三段階を経て、初めて客観的資料となる。これら資料を用いて歴史を研究するのが考古学である。将来、考古学的方法を用いて研究・学習を進めるための実践的な技術力を習得する。したがって、小人数で実習を行うため、受講に当っては、将来これらの技術を必要とするものが受講されたい。
到達目標	考古学の基本的な技術を理解し、身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	実習成果物としての実測図や拓本等提出資料70％、実習態度等30％

科目名	考古地理実習ⅡＢ
担当教員	塚本　礼仁
授業概要	地理学研究は、地形図の判読、数量データの解析、主題図の作成、現地調査などを組み合わせて進められ、これらの正確さ・緻密さが研究の内容そのものを左右する。そこで、本実習では、様々な地理情報を集め、加工し、効果的に表示するための基礎的技能を身に付けていく。具体的には、地図から情報を取り出す、統計データから地理現象の傾向をつかむ、現地で情報を得る、地理情報を地図化するという構成で作業を進め、最後に「地域分析レポート」という形にまとめて報告する機会も設ける。
到達目標	1．地形図を読めるようになること。 2．統計データを扱えるようになること（表計算ソフトの操作も含む）。 3．テーマを地図化できるようになること。 4．1～3を合わせて地域分析を行えるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特定のものは使用しない。適宜プリントなどを配布する。 指定図書：授業の中で紹介する。 参考書：授業の中で紹介する。
成績評価	実習成果物　50％　作業のスピード、正確さ、完成度を確認する。 地域分析レポート・プレゼンテーション　50％

科目名	公衆衛生学　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	広範囲に渡る公衆衛生学の基本的知識を講義する. 公衆衛生学は人間集団を対象とする生態系を含めた学問である. すなわち, 疫学, 疾病の広義の予防, 環境保健・医療, 健康維持に足りる生活水準の保障, 主に国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政, またこれらの活動のための実際的方法としての衛生統計や疫学手法など, 宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解し, 集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ.
到達目標	各単元の理解と知識の習得.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:栄養・健康科学シリーズ　公衆衛生学　田中平三編集　南江堂
成績評価	出席前提とし、2～3単元毎の小テストならびに期末テストの平均点.（100%）

科目名	公衆栄養学
担当教員	早川　史子※
授業概要	地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や活動を学ぶ。また、コミュニティの健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析方法、地域社会の関係者・関係機関の横断的な連携・協働、健康・栄養施策の計画立案、実践、評価、フィードバックを行う公衆栄養マネジメントの方法を学習する。
到達目標	食を取り巻く社会環境、法律・制度、健康づくり施策の推移と担当する行政・組織の役割と連携、国民健康・栄養調査の概要と活用、地域における食環境づくりの方法を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:　二見大介編著「ネオエスカ　公衆栄養学」（同文書院）、「健康日本21」（財団法人健康・体力づくり事業財団）、「国民栄養の現状」（第一出版）
成績評価	期末試験50%、小テスト50%。授業時間数の3分の1以上欠席したものは評価対象としない。

科目名	公衆栄養学実習
担当教員	岡本　秀己　・　中村　ひとみ※
授業概要	人間集団の健康の保持増進のための実践活動の技術の習得と健康管理能力の向上を目指して、栄養指導業務を理解し、実践を通して個人および集団の食生活と栄養状態を把握し、健康づくりに必要な公衆栄養活動のあり方を学ぶ。
到達目標	行政における健康づくり施策に対する理解を深め、基本的な実践能力がそなわる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:上田信夫編「公衆栄養学実習」（化学同人）、香川芳子監修「五訂食品成分表」（女子栄養大学出版部）、国民健康・栄養の現状（第一出版）
成績評価	レポート50%、課題のプレゼンテーション50%。授業時間数の3分の1以上欠席したものは評価対象としない。

科目名	構造計画（生活デザイン）
担当教員	片岡　慎策※
授業概要	建築物は、機能性、安全性と芸術性を兼ね備えた総合的な創作である。建築物を成り立たせるためには、そこに作用する力の種類と力の流れを把握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建築物に作用する外力の種類と特徴、建築物を構成する構造材料とその特徴およびそれらを活かした架構方法、さらに構造力学の基本となる力の合成と分解、力の流れの計算方法について講義する。
到達目標	建築物に作用する力の種類と力の流れ、および建築物を成立させるための架構計画の基本につき習得し、構造力学基本（力の合成と分解、構造物の支点反力）について解けること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：浅野清昭 著「図説やさしい構造力学」,（学芸出版）
成績評価	期末試験50％、講義中の小課題50％

科目名	構造材料実験
担当教員	陶器　浩一　・　高田　豊文　・　伊藤　淳志※
授業概要	木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料，およびラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、実験を通じて理解させるのが本科目の主目標である。また、建築構造の最も基本となる構造力学について、演習を通して、理解を深めることも目的とする。さらに、他の構造系科目で扱わない、地盤・基礎構造の調査法と施工についての講義・演習を、本科目において補う。
到達目標	(1)コンクリート、鋼、木材、それぞれの性質を、五感を通して理解すること。 (2)ラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、制作・実験を通して理解すること。 (3)地盤・基礎構造の基本事項を修得すること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：日本建築学会編「構造入門教材　ちからとかたち」（丸善） 谷川恭雄他著「構造材料実験法」（森北出版）
成績評価	毎回行う実験・演習のレポートにより評価する。

科目名	構造力学Ⅰ（生活デザイン）
担当教員	片岡　慎策※
授業概要	建築空間を創造するためには、建築物に作用する力の種類と流れ、および建築物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。 ここでは講義を通じて構造力学の入門を計る。
到達目標	静定構造物を対象とした建築構造力学の知識の習得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：図説「やさしい構造力学」（学芸出版社）
成績評価	期末試験50％、講義中の小課題50％

科目名	行動論演習
担当教員	竹下　秀子 ・ 細馬　宏通 ・ 松嶋　秀明 ・ 上野　有理
授業概要	行動科学や社会科学における問いのたて方や研究方法の実際について学ぶ。身近な生活や地域での人々のかかわりに素材を得て研究テーマを設定するところから、グループ演習を中心に授業を実施する。
到達目標	質問紙法、検査法、実験法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業中に適宜配布、紹介する。 指定図書:授業中に適宜紹介する。 参考書:授業中に適宜紹介する。
成績評価	実習の各課題は数名のグループ単位で実施するが、まとめのレポートは受講者が個別に作成する。 出席点、授業への参加度(発表含む)を評価に含み(原則50%)、課題ごとのレポート(原則50%)を総合的に判断して決定する。

科目名	高齢者行動論　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	児童・青年期を対象とした「発達心理学」研究の貢献は言うまでもないが、今、それと共に、若年成人期・中年期・高齢前期・高齢後期を含めた行動の生涯的変化への関心が一層高まってきている。さらに、日本の長寿化と少子化による人口分布のズレは国際的に見ても際だっている。本講では、その点からも、現代の高齢者行動を論じる。すなわち、最近の学際的研究の知見を紹介しながら、高齢期を中心に、生涯後期の発達と加齢について考察する。
到達目標	1)最近の成人発達・加齢心理学の視点で、高齢期の行動を理解する。 2)基礎的な理論研究の概観に偏らず、実践での了解と実際的課題をも考える。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:指定なし。
成績評価	評価は、70%: 期末試験(論述式・複数題)で行う。30%: 平常の講義への積極的参加度(出席・質問・発言・小試験 など)を評価する。 ただし、質問・発言などは教室で直接に受ける。

科目名	子どもの環境論
担当教員	野部　博子※
授業概要	児童福祉法でいう児童期の子どもをとりまくさまざまな環境について論じ、子どもにとっての環境の重要さを問う。 人は環境のなかで生活し、その環境の良し悪しで人格もかわる。とくに乳幼児、児童期の子どもにとっては人として生きていく人格形成に重要な役割を果す。本講義では子どもをとりまく内的・外的な環境について論ずる。
到達目標	子どもは生まれてから成人するまでには周りの人・物・事の影響を受けながら成長していく。その過程の中での子どもの環境について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講義の中で提示する。 指定図書:講義の中で提示する。 参考書:講義の中で提示する。
成績評価	平常のレポート提出50％、課題レポート50％

科目名	コミュニケーション論
担当教員	細馬　宏通
授業概要	人と人とがことばを使いジェスチャーを交わすとき、ことばやジェスチャーの意味はあらかじめお互いの間に共有されているわけではない。また、意味は発し手から一方的に生まれるのでもない。むしろ受け手の反応によって次々と意味は更新されていくと見るべきである。最近のコミュニケーション理論は、多かれ少なかれ、コミュニケーションをこうした「双方向的」で「絶えず更新される」ものとして考えている。本講義ではこうしたコミュニケーション論の動向について、さまざまな理論を紹介しながら考えていく。
到達目標	(1)会話分析の基本概念を学ぶこと。 (2)ジェスチャー研究の基本概念を学ぶこと。 (3)既存のコミュニケーション・モデルを学び、その長所・短所に気づくこと。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:そのつど紹介する。
成績評価	レスポンスペーパー(50%)と期末レポート(50%)で評価する。

科目名	古文書演習Ⅰ
担当教員	水野　章二
授業概要	歴史研究の素材となる史料には、古文書・古記録・木簡・金石文あるいは絵画史料など、多種多様なものがあるが、特に古文書はその中心的位置を占める。史料全体に対する関心と理解を深めるとともに、主として古代・中世の古文書をとりあげ、研究の基礎となる文書読解力を養う。そして文書の様式・形態・機能などの基本を学習し、あわせて文書の作成された時代・社会の特質を考える。なお授業では、古文書の写真コピーを使用する。
到達目標	古代・中世の古文書の基礎的知識を身につけるとともに、当時の文字・文体に慣れ、読解できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:佐藤進一『古文書学入門』(法政大学出版局)
成績評価	授業における発表により評価する。

科目名	古文書演習Ⅱ
担当教員	東　幸代
授業概要	本演習のねらいは、近世・近代の古文書の解読を通して、崩し字解読の基礎能力を身に付けることにある。あわせて、文献史料読解能力の向上と、近世・近代社会に対する理解の深化を目指す。
到達目標	漢字の崩し字をマスターする。
テキスト 指定図書 参考書	崩し字辞典の使用が望ましい。授業中に指示する。
成績評価	宿題50%　期末試験50%　授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	サステナブルデザイン論
担当教員	南　政宏
授業概要	大量消費、大量生産によって経済発展を遂げ、支えられてきた二十世紀。現在、その豊かさの代償に様々な弊害や歪みが起きている。様々な仕組みを見直す時がきている。デザインの力がどのように社会に貢献できるのか考察する。持続可能な社会にサステナブルなものづくりやデザイン、社会システムのあり方を先端事例を交えて考える。
到達目標	デザイナーの職能と、デザインの責任、デザインの可能性についての知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	特になし。
成績評価	必要に応じて小レポートを課する。

科目名	産業心理学
担当教員	田積　徹※
授業概要	産業心理学は、さまざまな産業場面における人間行動を研究することを目的としており、心理学の中でも極めて応用的な分野である。一般には、産業心理学と聞けば、「消費者心理」のようなものが連想されるようだが（勿論それも研究対象である）、ほかにも快適な労働環境、職場の人間関係、人為的ミスとその防止…と、現代社会において関心の高いテーマが研究対象となる。本講義では、産業心理学のこれまでのさまざまな成果について解説する。
到達目標	産業場面で生じるさまざまな現象（主に人間行動）について、心理学的な視点で理解できることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし 指定図書：なし 参考書：向井希宏・蓮花一己（編著）『現代社会の産業心理学』（福村出版）
成績評価	期末試験の成績を重視（80％）するが、課題点（20％程度）も加味する。

科目名	色彩学
担当教員	宮本　雅子
授業概要	現代は生活の質が求められる時代となり、生活のさまざまな場面で色彩の果たす役割は大きくなっている。しかし、騒色という言葉があるように色彩が人に悪影響を及ぼすこともある。そこで、生活デザインにおける快適な色彩計画のための基礎知識を得ることをねらいとし、色の表示方法や色彩調和論等について講義する。
到達目標	色彩の表示方法について習得する。色彩計画のための基本的な知識を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：「デザインの色彩」、副教材として「新配色カード199a」を使用 参考書：授業時間内に適宜紹介
成績評価	課題15％、小テスト30％、期末試験40％、レスポンスペーパー15％

科目名	色彩学演習
担当教員	宮本　雅子
授業概要	色彩感情や調和理論についての認識を深めるためにポスターカラーやパーソナルコンピュータによる画像処理を利用した色彩表現を行う。また、すべての色はシステム化された記号や数字で示し、各種色度図上に表現できることを理解するため機器類を使用して測色を行う。さらに、色彩による視認性の程度や視覚障害者への配慮事項についても理解する。
到達目標	感覚のみではなく理論に基づいた色彩計画ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:配色カード使用 参考書:「デジタル色彩マニュアル」「建築の色彩設計法」等、演習の中で適宜紹介
成績評価	プレゼンテーション30%、課題作品70%、課題の提出期限は厳守(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	嗜好と調理実習Ⅰ
担当教員	岡崎　章子※
授業概要	食材を衛生的かつ安全に、栄養素等の損失を少なく、無駄なく美味しく調理し、楽しい食卓を演出するにはどうすればよいかを実習を通じて学習する。また、毎回実習したものが「一食の献立」として栄養的にバランスよくなるにはどうしたらよいかを考える。調理学のみならず、他の専門科目で学習したことが活かせるような実習を行う。
到達目標	基本的な調理技術を確実に習得し能率のよい調理操作を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:NEXT『調理学実習』(講談社) 参考書:『調理と理論』(同文書院)
成績評価	調理遂行能力(調理前準備・片付け・調理工程の手際・衛生管理・盛り付けを含む完成品の出来栄え・失敗のリカバリ能力・アイデア等)40%、課題献立評価20%、レシピカードの評価40% 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	嗜好と調理実習Ⅱ
担当教員	浦部　貴美子　・　吉田　龍平　・　金納　三利※　・　三浦　健史※　・　佐野　文彦※　・　田中　理愛※
授業概要	献立作成のため、種々の調理を経験、習熟しておくことは重要課題である。本実習では、調理科学の基礎実験により調理のあり方を理解し、和・洋・中、種々の調理を通して、目的にあわせた調理に応用できる技能を養う。
到達目標	(1)　実習した種々の調理を応用し新しい調理が作成できること。(2)献立作成時の調理構成を考えることができること。(3)調理科学の基本を理解することができること。(4)盛りつけ、色彩調和などを含めた総合的な食事の提供が習得できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 参考書:「調理と理論」(同文書院) ※適宜、プリントを配布する。
成績評価	各回の実習レポートで評価する。(100%) 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	自然地理学
担当教員	宮本　真二※
授業概要	現在私たちが目にする自然環境は，長い地球の歴史と，人間の自然への働きかけで形成されてきました．また環境問題への関心の高まりによって，自然環境を対象とした観光（エコ・ツーリズム）さえも成立するようになってきました．授業では「変化しつづける自然と人間活動」に焦点をあて，地理学の中の位置づけとともに，その基礎的な「しくみ」の自然地理学的理解を目的とします．とくに，自然環境のなかでも，世界各地の過去数十万年間における地形や植生，さらには，気候変遷と人間活動との関係性について検討します．
到達目標	日本列島および世界の代表的な「自然のしくみ」の基本的理解が可能となること．
テキスト 指定図書 参考書	山本紀夫・稲村哲也（編）『ヒマラヤの環境誌』八坂書房．水野章二（編）『中世村落の景観と環境―山門領近江国木津荘―』，思文閣出版．日下雅義（編）『地形環境と歴史景観』，古今書院．安田喜憲『環境考古学事始め』，NHK出版．
成績評価	レスポンス．ペーパー（50％） レポート（50％）

科目名	質的データ解析論
担当教員	武田　俊輔
授業概要	社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。
到達目標	この科目は社会調査士資格を取得する際に必要となる科目であり、社会調査実習や卒業論文の執筆において必要となる質的調査を行う際に必要なスキルを習得することと同時に、社会調査士資格に値する調査能力を身につけることを目的とする。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：宮内泰介,2004,『自分で調べる技術　市民のための調査入門』岩波書店．　佐藤郁哉,2008,『質的データ分析法　原理・方法・実践』新曜社． 参考書：谷富夫・山本努編著,2010,『よくわかる質的社会調査　プロセス編』ミネルヴァ書房
成績評価	中間レポート4回（第1回10％、第2回20％、第3回30％、第4回10％）、期末レポート30％

科目名	疾病と栄養
担当教員	高山　博史
授業概要	人体が摂取する栄養が外因性要素として疾病とどのように関わるかを学ぶ。発症への悪影響のみならず、逆に発症の防止、発症後の病態の進展の抑制、治療における栄養の重要性を理解する。 食生活、各種栄養素、ビタミン、ミネラル摂取のアンバランス、欠乏状態と生活習慣病、代謝栄養疾患など様々な疾患の発症との関係を学び、逆にそれらの防止方法を理解する。それらの各種疾患発症後の病態の是正、進展の抑制における治療としての栄養管理を講義する。
到達目標	疾病と栄養との関係を理解、修得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：佐藤和人他編「エッセンシャル臨床栄養学」（医歯薬出版）
成績評価	期末筆記試験70％　講義後の小テスト30％ 欠格条件（授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない）

科目名	疾病の成り立ち
担当教員	高山　博史
授業概要	疾病とは何か、人はいかにして病気を発症するかを学ぶ。様々な疾患において内因性要素、外因性要素の関わりを理解し、発症から病態形成の過程を学ぶ。いわゆる生活習慣病や栄養代謝疾患、消化器疾患、免疫アレルギー疾患、感染症等について、その発症の過程、診断方法などを講義する。各種疾病を理解すると共にそれらに対する臨床医の考え方、方法論を理解することが求められる。
到達目標	疾病の発症、病理、病態について理解、修得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:佐藤和人他編「エッセンシャル臨床栄養学」(医歯薬出版)
成績評価	期末筆記試験70%　講義後の小テスト30% 欠格条件(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	児童文化論
担当教員	野部　博子※
授業概要	子どもをとりまく文化環境について考える。そこでは子どもを核としてさまざまな視点からみることができるが、文化活動、文化運動、文化施設、文化政策、文化財等について実証的に概観する。各時代の児童観を把握して、子どもをとりまく文化について歴史をおって概観する。また社会教育の視点から地域社会のなかで児童文化の位置づけと、サークル・ボランティア活動の指導者の役割について触れ、子どもにとってより文化環境の整備とは何かを論ずる。
到達目標	子どもをとりまく文化の現状を踏まえて課題を導き出す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:講義の中で紹介 参考書:講義の中で紹介
成績評価	平常課題提出50%とレポート50% 内容の理解と個人の見解が展開できることを評価.

科目名	社会・経済政策論
担当教員	堀江　孝司※
授業概要	福祉国家論を中心として、現代の先進諸国における社会・経済政策に関わる重要な論点を扱う。まず、福祉国家の形成と変容についての歴史的考察や、国ごとの相違についての基本的な考え方について、まず論じる。その上で、少子高齢化や格差社会といった、現代社会が直面する諸問題への政策的対応について論じ、今後の福祉国家のあり方をめぐる論点や、現在示されているいくつかの構想についても紹介していく予定である。
到達目標	少子高齢化問題や貧困・格差問題などといった、現代日本社会が直面する社会問題とそれへの社会・経済政策による対応を考察する上で、基礎となる諸概念や考え方などについて理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	指定テキストはない。参考文献は、必要に応じて講義の中で紹介する。
成績評価	期末にテストまたはレポート。それ以外に、講義の中で小作文を課すことがある。

科目名	社会学演習
担当教員	大橋　松行 ・ 中村　好孝 ・ 丸山　真央
授業概要	この演習では、「社会と人間」という視点から、人間関係を理解・認識するための「見る眼」と「問題を発見する能力」を習得することを狙いとする。問題意識を明確にし、共通の理解を深めるために、下記の授業計画に沿って、参加者はグループに別れ、各グループで発表者、司会、コメンテーターの役割を分担して演習を進める。発表者はレジュメを作成して報告し、それについて全員で討議する。発表・論議が完了した後、発見された問題点、共有された見解についてレポートを作成し、提出する。
到達目標	①人間関係の時間的変化と空間的・領域的差異を理解し認識することができる。②恋愛や家族、ジェンダーといった身近な社会現象について、歴史をふまえて考察できるようになる。③社会の構造と変動を捉える基礎知識と視点を獲得し、現代日本社会の諸問題を社会学的に捉えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:使用しない。プリントを配布する。 参考書:その都度紹介する。
成績評価	レポート100％（大橋34％、中村33％、丸山33％）

科目名	社会学概論
担当教員	武田　俊輔 ・ 大橋　松行 ・ 細馬　宏通 ・ 中村　好孝 ・ 丸山　真央
授業概要	本講義は、社会学の基本的な思考方法、基礎概念、研究方法について概説し、あわせて社会学の主要分野の入門的な講義を行うものである。
到達目標	社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができるようになる。また社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし。毎回レジュメ等を配布する。 指定図書:ギデンズ『社会学第5版』（而立書房、2009年）、友枝敏雄他編『Do!ソシオロジー』（有斐閣、2007年）、塩原良和・竹ノ下弘久編『社会学入門』（弘文堂、2010年）
成績評価	第2回～第4回・第5回・第10回は毎回の小レポート（37％）、第8回終了後に中間レポート（21％）、最終レポート（42％）。 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	社会学史
担当教員	中村　好孝
授業概要	社会学という学問がどのように展開してきたのかを見る。社会学の歴史を学ぶことがなぜ大切なのかといえば、本講義でとりあげる社会学的な構え・方法態度は、今でも通用するからである。最低限の教科書的な知識は学んでほしいけれども、同時に、これまで私が社会学を勉強することで「なるほど、そういう見方があるのか」と目を見開かされた部分を中心に話したい。
到達目標	「社会学」の歴「史」の講義であるが、昔の社会学について学ぶだけでなく、一通りの社会学的な発想について身につけることも同じくらいに重要な目標として設定する。第一に、社会学の歴史について一通りの知識を得る。第二に、自分が今生きている社会について、社会学的に考えるための思考方法を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:伊奈正人・中村好孝著『社会学的想像力のために』（世界思想社）
成績評価	期末試験85%、レスポンスペーパー15%

科目名	社会心理学
担当教員	柿本　敏克※
授業概要	社会的影響の心理学というテーマで講義を行なう。社会心理学の目的は、社会の中での人間の思考・行動・態度について法則を追求することである。多くのテーマの中から、説得、同調性、服従、他者存在の効果などを取り上げ、これらの諸領域を社会的影響という観点から統一的に論じる。
到達目標	社会的影響についての認識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:【必須】白樫三四郎(編著)『社会心理学への招待』ミネルヴァ書房 指定図書:R. B. チャルディーニ『影響力の武器[第二版]—なぜ、人は動かされるのか』誠信書房
成績評価	小レポート30%, 最終レポート70% (15回の授業のうち3分の2以上出席したものを評価の対象とする。)

科目名	社会精神医学
担当教員	久保田　泰孝※
授業概要	友達も話し相手もなく、ずっと孤立していたらそれだけで鬱になってしまいそうですし、また一方で人間関係がわずらわしく、どこかに消えてしまいたいと思うことは誰にもあるかもしれません。現代社会から受けるストレスは高まる一方であり、「こころの病気」になる人が増え続けていると言われもします。こうした状況の中で重要となる、社会と「こころを病む人」の関係を問い直す試みとしての社会精神医学の可能性について集中して検討して行きましょう。
到達目標	精神医学全般についての知識を広く学習する。 今日いかなる社会精神医学的な観点が可能であるのかについて各自が自分なりの見解を持つ。 映像資料などをもとにアクチュアルな問題について討議する。
テキスト 指定図書 参考書	プリント配布・適宜紹介
成績評価	授業・討論への参加度30%、レポート70%

科目名	社会調査実習
担当教員	棚瀬　慈郎 ・ 武田　俊輔 ・ 市川　秀之 ・ 中村　好孝
授業概要	社会調査に必要とされる実践的能力の習得を目指して、受講生全員が個々人であるいはグループで、量的調査あるいは質的調査の企画から報告書の作成まで、全課程を一通り体験的に学習する。単なるマニュアルではなく、さまざまな社会的課題や現実的問題を調査対象として主体的に実習が行えるようコンスタントに課題を提示し、具体性のあるテーマに即した実習を展開し、生きる力へと実践的能力を高める. なお、この実習は社会調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。
到達目標	問題意識の設定から先行研究の読み込み、資料分析、インタビュー調査や参与観察といった社会調査法とそれに関するフィールドノーツの書き方のスキル。および調査内容を報告書に構造的にまとめあげていく能力。これらについて社会調査士資格取得にふさわしい力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義の中で紹介する。
成績評価	文献を読んで書くレポート(20%)、普段の実習内容(40%)、そして最終報告書の評価(40%)による。

科目名	社会調査方法論
担当教員	大橋　松行
授業概要	本講義では社会調査（量的調査、質的調査）の方法について論じるが、その主たる目的を、量的調査の中で最も一般的で基本的な形態である調査票調査の方法について理解することにおく。具体的には、調査企画の設計、調査票の作成、標本抽出と調査の実施方法、データの集計・整理・分析について概説する。特に、調査票の作成については、数人のグループによる実習方式で行うことを考えている。
到達目標	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法を理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：大橋松行著『体験的国際比較調査論』サンライズ出版。 参考書：講義の中でその都度紹介する。
成績評価	期末試験の成績50％、小レポート50％で評価する。ただし、原則として評価対象者は授業時数の3分の2以上の出席者とする。

科目名	社会調査論
担当教員	大橋　松行
授業概要	社会調査とは、社会事象を人間の社会的生活連関における意味に即して調査することをいう。本講義では、現代社会において社会的現実を知る有力な手段である社会調査の概要、歴史、種類、問題点など、基本的事項を概説するとともに、その意義について考える。
到達目標	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項が理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：使用しない。プリントを配布する。 指定図書：大橋松行著『体験的国際比較調査論』サンライズ出版
成績評価	期末試験の成績50％、小レポート50％で評価する。ただし、原則として評価対象者は授業時数の3分の2以上の出席者とする。

科目名	社会福祉概論
担当教員	中村　好孝
授業概要	「生きづらさ」や「心の問題」に関心のある学生は多いのだが、本講義が特にとりあげるのは、お金がなかったり身体が動かなかったり住む場所がなかったりする人も大変だということである。大変な人の悩みを聴くことも大切だが、本講義がとりあげるのはそういった人の役に立つ制度も大切だということである。本講義は、障害、貧困、居住、虐待など、福祉についての個別のトピックと、福祉の社会的な仕組みについて考察する。
到達目標	第一に、そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか、そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。第二に、それらをとりまく社会的条件を知る。第三に、それらについて事実をふまえて論じる。
テキスト 指定図書 参考書	通常はレジュメを配布する。参考図書については適宜紹介する。
成績評価	期末試験85%、レスポンスペーパー15%

科目名	社会変動論
担当教員	丸山　真央
授業概要	社会変動論は、数十年、時に百年単位で社会の変化を捉える社会学の基本的な発想の根幹をなす研究領域である。本講義では、近代とともに誕生した「都市」という空間／社会を例にとりながら、前近代から近代へ、近代から現代への社会変動を具体的に学ぶ。講義前半では、近代という時代を「都市化」「資本主義化」から捉え、後半では「グローバル化」「情報化」「ネオリベラリズム」「リスク社会化」の視角から近代の変容にアプローチし、今日の社会変動の諸相を学ぶ。
到達目標	(1)社会学の基本的な考え方や概念を理解し、社会的な事象を社会変動論の観点から捉えることができる。 (2)社会学のテクストを読解する力を身につける。 (3)身近な社会的事象に関心をもち、自らと関連づけて理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:レジュメを配布し、あわせて参考書を示す。 指定図書:古城利明・矢澤修次郎編『現代社会論　新版』(有斐閣)、町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』(有斐閣)
成績評価	リアクションペーパー・小テスト(50%)、レポート(50%)

科目名	社会問題の社会学
担当教員	中村　好孝
授業概要	本講義では、社会問題(社会病理や逸脱とも呼ばれてきた。ひきこもり、いじめ、非行、DV、虐待、犯罪、自殺など)についての社会学的な議論を学ぶ。社会問題については、当事者から・家族から・支援者から・国家からなど、また心理的・経済的など、色々な観点から考えることが可能であるが、社会学も独自の、相当にひねくれた考察を行なってきた。社会学は常識を相対化する点を特長とするところがあり、そもそもひねくれた学問であるけれども、社会問題の社会学には、その特長が分かりやすく表われていると思う。
到達目標	第一に、社会問題についての理論の展開を知る。第二に、具体的な事例についての社会学的な考察の実際を学ぶことで、社会問題について社会学的な考察を自分でできるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	荻野達史・川北稔・工藤宏司・高山龍太郎編, 2008,『「ひきこもり」への社会学的アプローチ――メディア・当事者・支援活動』ミネルヴァ書房.
成績評価	期末試験85%、レスポンスペーパー15%

科目名	住環境設計演習Ⅰ
担当教員	宮本　雅子　・　山根　周　・　佐々木　一泰
授業概要	初歩的な設計演習の第一歩として住空間や、オフィス、ギャラリー空間など、インテリア空間の設計の課題を行う。その為に必要に応じて、設計の仕方、図面の描き方、模型制作の仕方などを学習する。また随時、具体的な実例の検討を行って設計の参考に資する。
到達目標	住空間のインテリア設計の基礎的知識を身に付ける。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書:『コンパクト設計資料集成〈住居〉』(丸善)、『建築デザインの製図法から簡単な設計まで』(彰国社)他、授業内に適宜紹介
成績評価	課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題Ⅰ 40%, 課題Ⅱ 45%,合同課題 15%) なお, 単位取得には, すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	住環境設計演習Ⅱ
担当教員	佐々木　一泰　・　宮本　雅子　・　山根　周
授業概要	初歩的な住居設計の次の段階として、第Ⅲ課題では、住居設計演習Ⅳ（3回生）と合同で複数のチームをつくり、それぞれのチームが与えられたテーマのもと、仮設空間を制作する。テーマや規模は年度ごとに決定する。第Ⅳ課題では椅子を制作する事によって、その後の設計における建築構造の基本を理解・考察する。第Ⅴ課題では、初歩的な住居設計として木造住宅の設計を学ぶ。優れた住宅作品に家族構成やテーマを新たに与え、条件にあった住空間を設計・新たに増築する。木造住宅の工法や構造、空間構成を学び、より広い視点で住空間を理解し設計・デザインを行なう。
到達目標	住居系建築設計の基本的な知識と技術を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『建築デザインの製図法から簡単な設計まで』(彰国社)、『初めての建築製図』(学芸出版社)（住居設計演習Ⅰと共通)『建築プレゼンテーションテクニック』(グラフィック社) 指定図書:授業内に適宜紹介する。 参考書:授業内に適宜紹介する。
成績評価	課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題Ⅲ（合同課題）100/250，小課題50/250,課題Ⅳ100/250) なお，単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	住環境設計演習Ⅲ
担当教員	佐々木　一泰　・　山根　周　・　松本　尚子※　・　山本　麻子※
授業概要	住空間においてより広い視野を養う。 第Ⅴ課題では混構造の住空間を設計する。それぞれの材料の特性を理解し、その特性を十分に引き出した空間を考える。 第Ⅵ課題では、公共性をもつ住空間として保育施設を考える。子供のスケールを観察し、内部・外部空間に反映させる。
到達目標	住空間を中心とした設計に対する知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『建築ﾃﾞｻﾞｲﾝの製図法から簡単な設計まで』(彰国社)、『初めての建築製図』(学芸出版社)『建築ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾃｸﾆｯｸ』(ｸﾞﾗﾌｨｯｸ社)（住環境設計演習Ⅱと共通)『ｺﾝﾊﾟｸﾄ設計資料集成〈住居〉』(丸善) 指定図書・参考書:授業内に適宜紹介
成績評価	課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題Ⅴ100/230，課題Ⅵ100/230,合同課題30/230）なお，単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	住環境設計演習Ⅳ
担当教員	山根　周　・　宮本　雅子　・　佐々木　一泰
授業概要	課題Ⅶでは、住居設計演習Ⅱ（2回生）と合同で複数のチームをつくり、それぞれのチームが与えられたテーマのもと、仮設空間を制作する。異なる学年による協同作業、制作するための知恵、実際に完成した空間を自分自身や色々な人々に体感してもらう事など、実際の空間生成体験から、設計やデザイン手法をより深く学ぶ。テーマや規模は年度ごとに決定する。課題Ⅷでは、現代都市にフィットする新たな都市型集合住宅の可能性と，多様な形態の家族（世帯）の共住の可能性を模索し，都市における居住空間構成の把握に努める。
到達目標	住空間を中心とした設計に対する知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『建築ﾃﾞｻﾞｲﾝの製図法から簡単な設計まで』(彰国社)、『初めての建築製図』(学芸出版社)『建築ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾃｸﾆｯｸ』(ｸﾞﾗﾌｨｯｸ社)『ｺﾝﾊﾟｸﾄ設計資料集成〈住居〉』(丸善)（以上住居設計演習Ⅲと共通） 指定図書・参考書:授業内に適宜紹介
成績評価	課題の成果として提出される図面・模型等およびプレゼンテーションによって評価する。(課題Ⅶ－合同課題40%，小課題20%，課題Ⅷ40％）なお，単位取得には，すべての課題を提出することが前提条件となる。ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	住環境論
担当教員	宮本　雅子
授業概要	超高齢社会に突入しようとしている今日、建築の分野では高齢者・障害者にとって好ましい住環境について理解することは避けて通れない。そこで、まず高齢社会における住宅の考え方を理解し、高齢者・障害者に対応した住まいの条件について知る。また、住環境の中でも室内の物理的環境である熱、空気、光を取り上げ、人間と物理量との関係から快適な居住環境をつくりだすための条件を導き出すとともに、自然環境を積極的に利用した室内の環境づくりについて講義する。
到達目標	空間デザインの中に活かせる知識を得ること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 参考書:「コンパクト建築設計資料集成バリアフリー」「シックハウスを防ぐ最新知識」等、講義の中で適宜紹介。
成績評価	小テスト30％、レポート10％、期末試験40％、レスポンスペーパー20％

科目名	住居計画論
担当教員	山根　周
授業概要	近代以降の住空間とその計画理論に焦点を当て、住まいのあり方を考える。特に日本の近代住宅と戦後の住宅に焦点を当て、住宅計画に影響を与えた事例を紹介しながら、背後にある住まいへの考え方を探る。空間システムや生産システムから住宅のあり方を考えるほか、現代の住まいにおける様々な試みについて、その思想を検証する。それらの講義をふまえ、最後にこれからの住まいのあり方を展望する。
到達目標	近代以降の住居に関する計画理論や生産システムなどの起源と展開および手法を理解し、住空間の合理的な理解と計画がおこなえる基礎的知識を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布。 参考書:①内田青藏『日本の近代住宅』鹿島出版会 1992、②内田青藏+大川三雄+藤谷陽悦 編著「図説・近代日本住宅史」鹿島出版会2001、③布野修司編「建築文化別冊　日本の住宅　戦後50年」彰国社1995　他
成績評価	レスポンスペーパーとレポート(小レポート2～3本／期末レポート1本)により評価。成績への寄与率はレスポンスペーパー30%, 小レポート合計30%, 期末レポート40%。小レポートと期末レポートをすべて提出することが、成績評価の前提。

科目名	生涯学習論
担当教員	篠原　岳司
授業概要	知識基盤社会といわれる21世紀の今日，生涯を通した継続的な学習のあり方を模索することは、個人的にも社会的にも現代を生きる私たちの共通の課題となっている。本授業では，人間的および社会的発達を視野に入れた生涯学習の理論と実践、そしてその方法について，新たな学習スタイルも用いながら学んでいく。
到達目標	①現代社会における生涯学習の必要性を理解できる。 ②生涯学習に関わる現代的課題について理解している。 ③生涯学習の学習方法を身につけ実践できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは指定せず、毎時間資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。
成績評価	中間レポート(50%)および最終レポート(50%)で評価する。中間レポートの課題と方法の詳細は初回に案内する。なお、毎授業で課す小レポートの未提出が4回以上の場合は、評価対象としない。

科目名	消費科学Ⅰ
担当教員	向山　泰司※　・　小林　重信※　・　永野　暁※　・　金光　士※
授業概要	繊維に関する基礎知識（繊維、糸、布地、染色加工）および衣料品の企画・設計・製造に関する基本事項を習得する。
到達目標	繊維製品の企画および使用に係る問題を考察するための基礎的能力を養う。 望ましくは、繊維製品品質管理士（TES））の資格取得試験における当該科目の問題に対応できる程度の能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各講師が作成し配布する。 参考書：日本衣料管理協会編「繊維製品の基礎知識シリーズ（新訂）」(第1部) 同上編「繊維製品の苦情処理ガイド色に関する苦情」 同上編「繊維製品の苦情処理ガイド縫製・副資材・安全衛生に関する苦情」
成績評価	期末試験60％　小テスト40％

科目名	消費科学Ⅱ
担当教員	松尾　繁※　・　向山　泰司※　・　金光　士※
授業概要	消費科学Ⅰに引き続き、繊維製品の品質管理、要求品質とその評価方法並びに家庭用繊維製品の流通・消費過程、消費者苦情・環境問題について学習する。さらに、消費者苦情事例から苦情原因や改善・防止策を考え、論文の実践的な書き方について学習する。
到達目標	繊維製品、主として衣料品の品質管理の内容並びに流通・消費者問題について理解できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各講師が作成するテキストを配布する。 参考書：・日本衣料管理協会刊行委員会編 「改訂版　繊維製品の基礎知識シリーズ」（第1、2、3部） ・日本衣料管理協会　苦情処理技術ガイド編集委員会（TES西日本支部）編 「繊維製品の苦情処理ガイド」（色に関する苦情、損傷・形態変化に関する苦情、縫製・副資材・安全衛生に関する苦情）
成績評価	期末試験60％　小テスト40％

科目名	消費者行動論
担当教員	宮尾　学
授業概要	この授業では，消費者の行動を調査・分析するためのフレームワークを学びます。企業が効果的・効率的にマーケティング活動を行うためには，消費者の行動を理解する必要があります。その消費者の行動を理解するための様々な分析枠組みを研究するのが消費者行動論です。この授業では，実際のビジネスにおいて消費者の行動を調査・分析することができるように，消費者行動のモデルを理解することを目標とします。
到達目標	実際のビジネスにおいて消費者の行動を調査・分析することができるように，消費者行動のモデルを理解することを目標とします。
テキスト 指定図書 参考書	教科書：特に指定しません。プリントを配布します。 参考書：青木幸弘（2010）『消費者行動の知識』日経文庫，平久保仲人（2005）『消費者行動論』ダイヤモンド社。
成績評価	期末レポート40%，授業中のレポート60%で評価します。

科目名	消費生活論
担当教員	中谷　真三代※
授業概要	消費者の自立とその消費生活のあるべき姿。 現代の経済社会において、極めて複雑化、多様化、大型化している消費者問題発生の背景要因など、さまざまな側面を体系的、具体的にとらえ考察を行う。安全で豊かな消費生活を確立するため、教育、行政、企業および消費者それぞれのあるべき姿に言及し、諸外国の状況と我が国との比較に関しても講述する。さらに、現代的緊急課題についてもふれる。
到達目標	個人的、社会的ライフスタイルを主体的に形成するため、生活の価値の選択、枠組みと意思決定能力を開発する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布。 参考書:授業の中で紹介する。
成績評価	授業への出席を前提に、試験の成績ならびにレポートにより評価する。

科目名	食生活論演習
担当教員	学科教員
授業概要	食生活のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な文献や資料を集めさせ、また順次に研究の経過を報告させて、論文作成を指導する。
到達目標	卒業論文作成のための知識の取得および論理的説明能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜指示する 指定図書:適宜指示する 参考書:適宜指示する
成績評価	指導教員が初回の講義において説明する

科目名	食品衛生学
担当教員	浦部　貴美子
授業概要	飲食物に起因する危害を防止し，健康保持・増進を図るための原理を講義する．食品は人間にとって生命源であるが，健康を損ねる原因になることもある．本講義では，本来あるべきでない食品を本来の姿に保ち，飲食物による危害を防止する手段を理解してもらうため，食中毒の現状とその原因，食中毒発生を予防するための方法，有害物質による食品汚染のしくみ，国および個人における食品衛生対策などについて説明する．
到達目標	食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程において、人体に対する安全面への影響や評価を理解することを目標とする．受講生は、国および個人における食品衛生対策、食中毒の現状とその原因、食中毒発生を予防するための方法、食品の変質とその防止、有害物質による食品汚染のしくみなどの知識を身につけることができる．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:菅野道廣　他著「健康・栄養科学シリーズ『食べ物と健康Ⅲ』(南江堂) 参考図書:講義中に紹介する．
成績評価	期末試験評価50％、授業中に実施する小テスト評価50％

科目名	食品衛生学実験
担当教員	浦部　貴美子 ・ 森　紀之
授業概要	食品の安全性確保の重要性を実際に試験をすることにより学ぶ．項目として主に生菌数や大腸菌群の微生物を中心としたもの，さらに食品添加物を中心とした食品の安全性に関わるものがある．これらを理解するためには，衛生状態を把握する方法を実際に学ぶことが必要である．
到達目標	食品衛生における微生物に関する一般生菌数試験法や大腸菌群試験法，食品添加物検出の分析法の概略，油脂の変質に係わる試験法の原理などが理解できる．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：金田精一ほか著『図解　食品衛生学実験』(株式会社　講談社サイエンティフィク) 適宜，プリントを配布する．
成績評価	レポート評価100％ （レポート4回提出、それぞれの評価25％） 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	食品学総論
担当教員	柴田　克己
授業概要	食品素材は膨大な種類の化学物質から構成されており、これらの物質は貯蔵、加工、調理の過程で相互に作用しながら複雑な変化を経過して食事に供される。食素材の貯蔵、加工、調理の過程の多くは、我々の健康にとって有利な過程であるが、多くの改良の余地がある。この講義においては、まず食品素材の成分とその化学的、物理的（物性的）特徴を解説する。ついで、これらの成分の貯蔵、加工、調理過程での変化の概略を述べることにより、変化の食品栄養学的有用性と危険性を理解させる。
到達目標	どのような食品をどれだけ食べれば，栄養素を適正に摂取することができ，寿命の限界まで若年成人の体力と美貌を維持できるかを考える．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：食べ物と健康1（池田清和，柴田克己　編集，化学同人） 指定図書：基礎栄養学（奥恒之，柴田克己　編集，南江堂），日本人の食事摂取基準（2010年版），第一出版．日本食品標準成分表2010．
成績評価	期末試験80％、レポート20％

科目名	食品加工実習
担当教員	灘本　知憲 ・ 中村　紀子※ ・ 浦部　貴美子 ・ 森　紀之
授業概要	実習室レベルで加工食品のいくつかを製造するとともに、大規模製造工場の現場での講義と見学による加工の特徴、衛生・微生物管理をも体験する。 なお、実習内容、日程は変更されることがある。特に日程は工場見学、日本酒醸造の具合によって変わる。従って授業計画は単に項目を並べたと理解していただきたい。
到達目標	食品加工、衛生管理（微生物管理）の原理を実践的に理解するとともに、製造規模による違いも理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布、茶珍和雄他著『食品加工学の実習・実験』（化学同人）
成績評価	レポート100％

科目名	食品基礎実験
担当教員	福渡　努　・　佐野　光枝
授業概要	実験の心得を十分に熟知した後、実験の目的および食品の分析・解析を行うための分析原理・技術を正しく理解し、基礎的な実験操作を習得する。食品の主成分の定性定量分析を行い、食品の持つ物理的・化学的性質を具体的に認識する。
到達目標	実験の安全な遂行、実験の予習と準備、実験原理の理解、実験に必要な注意事項の理解、適切な実験ノートへの記録、実験器具の正しい操作、適切なレポートの作成、の全てが行えるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：橋本俊二郎 編「食品学実験」（講談社），倉沢新一 ほか 著「栄養士・管理栄養士をめざす人の実験プライマリーガイド」（化学同人）
成績評価	実験準備25％、実験遂行能力25％、レポート50％ 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	食品機能科学
担当教員	柴田　克己
授業概要	我々は，多くの生物を食べることで，健康を維持している．食べることのできる生物を食材とよんでいるが，種々の食材の特徴を理解することで，栄養素ばかりでなく，食材中に含まれる生体機能を調節する生体成分が健康の維持に関与していることを学ぶ．
到達目標	栄養素の機能と非栄養素の機能を感覚的に理解できること．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：食べ物と健康2（田主澄三，小川正編集，化学同人） 指定図書：基礎栄養学（奥恒之，柴田克己　編集，南江堂），日本人の食事摂取基準（2010年版）
成績評価	期末試験80％，レポート20％

科目名	食品機能科学実験
担当教員	柴田　克己　・　佐野　光枝
授業概要	食品には，健康の維持・増進の基となる栄養素以外の成分，いわゆる非栄養成分も含まれている．非栄養成分の中で栄養素の代謝に顕著な影響を及ぼすものがある．この非栄養成分の作用機構を実体験する．
到達目標	栄養素の機能と非栄養素の機能を感じ取る．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントをわたす．
成績評価	レポート70％,実験遂行能力20％,実験準備10％ 4回以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	食品の調理と加工
担当教員	武智　多与理※
授業概要	調理学は、食品を衛生的に栄養的に摂取するため手法や調理過程でおこるさまざまな成分の反応、さらにはおいしさについて、科学的に学ぶ学問である。この講義では、食事設計、食材の選択、調理、供卓までの調理過程を理解し、実践に生かせる能力を養う。
到達目標	調理過程を科学的に理解し、実生活に生かせるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「食品・栄養科学シリーズ　調理学」(化学同人) 参考書:「管理栄養士養成シリーズ　調理学第2版」(化学同人) 「五訂増補食品成分表」(女子栄養大出版部) 「新版　調理と理論」(同文書院) 「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)
成績評価	期末試験80%、小テスト20%（2/3以上の出席者のみ評価の対象とする）

科目名	食品微生物学
担当教員	浦部　貴美子　・　灘本　知憲　・　竹原　宗範　・　福渡　努
授業概要	食品微生物学は(1)食品の加工、製造に関係する微生物(2)食品保存中の変質をもたらす微生物(3)食品衛生に関係する微生物を対象とする学問である。本講義では，このような微生物についての基礎的な概念や知識を体系的に解説し、さらに食品の品質劣化に関わる微生物の制御や、食品製造における微生物利用について説明する。
到達目標	(1)食に関わる微生物の種類、生育・代謝の概要を知る。(2)食品との関わりにおける微生物の有害・有用の両側面を理解する。(3)食品製造における微生物の利用と制御の方法を理解する。(4) 微生物における遺伝情報の流れとその利用技術の基礎を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:高見伸治ほか共著:食品微生物学(建帛社) 参考書:村尾澤夫，荒井基夫共編:応用微生物学・改訂版(培風館) 適宜、参考となるプリント配布
成績評価	小試験・レスポンスペーパー評価50%、期末試験評価50%

科目名	食料経済システム論
担当教員	増田　佳昭
授業概要	グルメが謳歌される反面，わが国の食料自給率は40%である．食品企業の不祥事が相次ぎ，食の安全性や表示に関する消費者の懸念も強まっている．わが国の食料システムはいまどのような状況にあるのか．望ましい食料経済システムにはどのような要件が求められているのか．本講義では，食料経済システムの現状と問題点を具体的な品目も取り上げながら，多面的な視点から講義する．
到達目標	(1)わが国食料需給の概要について理解すること。(2)食品製造業、食品流通業、飲食業から成る食品産業の概要を理解すること。(3)食品の流通経路の概要について理解すること。(4)食料システムが持つ問題点と望ましい姿について評価できる視点を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:茂木信太郎『外食産業の時代』、農林統計協会 藤島・安部・宮部『現代の農産物流通』
成績評価	小レポート40%、課題レポート20%、定期試験40%。

科目名	人文地理学Ａ
担当教員	塚本　礼仁
授業概要	本来、地理学は、地表面で見られる現象を列挙する（学校教育風に言うと暗記する）のではなく、その現象が起こる空間的・地域的メカニズムの解明を目指してきた。人文地理学とは、地域の人口、民族、社会・文化、産業、集落（都市・村落）など、人間活動に由来するテーマを分析し、上記の目標にアプローチしようとする分野である。本講義では、人文地理学の基礎理論を紹介し、できるだけ多くの具体例で検証を加えながら、地理的現象の発生および変容の仕組みについて考えていきたい。
到達目標	1.（一般常識としても必要だと思われる）地理学の基礎理論を理解する。 2.（一般常識としても必要だと思われる）地球、世界、日本の地域問題に関する知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリントなどを配布する。 参考図書：授業の中で紹介する。 指定図書：上野和彦・椿　真智子・中村康子編著(2007)『地理学基礎シリーズ1　地理学概論』朝倉書店。
成績評価	ミニ・レポート　50％　毎回のキーワードなど講義内容を理解しているかどうか確認する。 期末レポート　50％　課題と採点基準は改めて通知する。

科目名	人文地理学Ｂ
担当教員	塚本　礼仁
授業概要	食べ物なら近江米、近江牛、近江茶…、消費財なら信楽焼、彦根仏壇、近江上布…というように、滋賀県にも様々な特産物・特産品が見られる。ただし今日、食料の輸入依存度の上昇と国内第一次産業の弱体化、製造部門の海外移転にともなう国内”ものづくり”の空洞化など、全国各地の「地域産業」を取り巻く状況は大変厳しい。本講義では、こうした地域産業（の産地）の姿を詳細に、かつ多角的につかむことはもちろん、産業を持続させる（させてきた）地域システムについて考える機会も提供したい。
到達目標	1.（一般常識として必要だと思われる）日本の食料事情に関する知識を深める。 2.（一般常識として必要だと思われる）日本の”ものづくり”の現状に関する知識を深める。 3. 産業を持続させる地域的なしくみについて理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリントなどを配布する。　参考書：授業の中で紹介する。 指定図書：高柳長直ほか編(2010)『グローバル化に対抗する農林水産業』農林統計出版。上野和彦(2007)『地場産業産地の革新』古今書院。
成績評価	ミニ・レポート　50％　毎回のキーワードなど講義内容を理解しているかどうか確認する。 期末レポート　50％　課題と採点基準は改めて通知する。

科目名	心理・発達・行動学実験演習
担当教員	竹下　秀子　・　細馬　宏通　・　松嶋　秀明　・　上野　有理
授業概要	人間行動に対する総合的な研究実習を目的とする。1）人間の行動や心の働きを、どのように記号化し、どのように解析することができるか・できないかを、具体的な実習を通じて検討する。2）観察行動自体を制約するヒトの認知・コミュニケーション特性に焦点をあて、これに関する基礎的な心理学実習を実施し、データの扱いを学ぶ。3）行動発達の場である、野外の研究フィールドや教育・福祉関係の実践現場にでかけ、各種観察法を実習する。
到達目標	行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。 指定図書：授業中に適宜紹介する。 参考書：授業中に適宜紹介する。
成績評価	実習の各課題は数名のグループ単位で実施するが、まとめのレポートは受講者が個別に作成する。 出席点、授業への参加度（発表含む）を評価に含み（原則50％）、課題ごとのレポート（原則50％）を総合的に判断して決定する。

科目名	心理学基礎
担当教員	那須　光章
授業概要	現代心理学の主要な領域について、やさしく解説する。心理学は人間の心や行動を理解することを主とする科目である。人間理解における基礎科目である心理学の基礎についての学習を行い、人間の行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズム、人間発達の原理や人格形成の理論などを概説する。
到達目標	人間の心の働きの機微への関心を高める。社会的人間行動を理解し、心理検査、性格検査の技法の理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：長谷川寿一他著『はじめて出会う心理学』（有斐閣） 指定図書：美濃哲郎ほか編『スタディガイド心理学』（ナカニシヤ出版）
成績評価	終講試験を主（70％）とし、レポート（15％）、実習的課題（15％）等を加味する。

科目名	生活環境論
担当教員	大橋　松行 ・ 道明　美保子 ・ 宮本　雅子 ・ 廣瀬　潤子
授業概要	生活空間を取り巻く環境問題には、地球規模のマクロ的な問題から人体に直接影響をおよぼす問題までさまざまな問題がある。本講義では、まず、現代の日本社会が抱えている地球環境、社会環境問題について考える。その上で、人が居住する建築物、人体を被う衣服、人が摂取する食物に関する環境問題について概説し、人間が健康で快適に生活していくための諸条件について考える。
到達目標	①食環境は社会環境により変化し疾病構造の変化をもたらすことを理解し、現代の食の問題点を考究することができる。②日常生活における環境問題を地域環境問題および地球環境問題との関連で理解できる。③快適で地球に優しい環境にとって被服環境では何が必要かを考え実践する態度を身につける。④住環境に関する評価指標について理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：使用しない。プリントを配付する。 参考書：授業の中でその都度紹介する。
成績評価	期末試験30％（道明15％、宮本15％）、小テスト15％（廣瀬）、小レポート38％（大橋24％、道明5％、廣瀬9％）、レスポンスペーパー17％（道明8％、宮本9％）

科目名	生活経営論
担当教員	宮尾　学
授業概要	この授業では，私たちの生活のマネジメントについて考えます。生活のマネジメントとは，私たちが日々の生活を生き生きとしたものにするための方法を考えることを意味します。生活をマネジメントするための知識を学び，今後の社会生活で必要となる生きる力を身に付けることを，この授業の目標とします。
到達目標	生活をマネジメントするための知識を学び，今後の社会生活で必要となる生きる力を身に付けることを目標とします。
テキスト 指定図書 参考書	臼井和恵（編著）他（2007）『21世紀の生活経営　自分らしく生きる』同文書院
成績評価	期末レポート40%，授業中のレポート60%で評価します。

科目名	生活指導論
担当教員	吉田　一郎
授業概要	わが国における生活指導の歴史を振り返りながら、歴史的に蓄積された生活指導論の教育学的な知見を明らかにし、あわせて今日的な課題について旧名する。 具体的には、戦前の生活指導の取り組み、戦後生活綴り方教育からの知見、戦後「集団づくり」論からの知見を明らかにするとともに、今日生活指導が直面している課題について考察する。
到達目標	生活指導の概念を理解する。同時に戦前・戦後の日本教育実践史について歴史的な知見を得ること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義中に指示する。 参考書：講義中に適宜指示する。
成績評価	レポートによって行う。5回以上欠席者は評価の対象としない。

科目名	生活造形基礎演習
担当教員	南　政宏　・　麻谷　宏※
授業概要	デザインの基礎となる思考法・表現法と構成力等を、実習を通して学ぶことを目的とする。思考から製作に至るまでのプロセスや柔軟な発想を重視する。多くの素材をあらゆる視点から観察し、造形の発想とともに意識の拡大をテーマに取り上げながら、立体造形に関する基本技法を習得させる。
到達目標	今後、上位のデザイン演習に対応できるよう発想力、企画力、表現力の基礎を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：アイデアのヒント（阪急コミュニケーションズ）スウェーデン式アイデアブック（ダイアモンド社）
成績評価	完成提出作品により評価する ただし授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	生活素材論
担当教員	道明　美保子
授業概要	生活に多く用いられる素材である繊維に焦点をあて、繊維の種類、構造、性能の概要を解説する。さらに、素材への付加価値の付与として、仕上げ加工、改質加工等の原理と実際についてのべる。ついで、高性能素材としての繊維の最近の進歩について触れ、新しい技術開発を紹介し、素材についての理解を深める。
到達目標	繊維の種類、構造、性能を理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介
成績評価	レポート評価30％　期末筆記試験70%

科目名	生活デザイン学外演習
担当教員	学科教員
授業概要	地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。問題に取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、レポートの作成、具体的な提案や発表、制作等を行う。授業は具体的な課題やテーマに即し、フィールドワークを中心として行われる。
到達目標	地域、社会に関わる問題について専門的視点から分析、考察し、解決・提案できる総合的な生活デザイン能力の習得をめざす。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業時間内に適宜紹介
成績評価	フィールドにおける演習、およびレポート等の提出、発表などにもとづき、学科教員全員の協議により評価する。

科目名	生活デザイン論
担当教員	佐々木　一泰
授業概要	生活空間の中にあるさまざまなデザインや知恵、技術を拾い出し、実例を通じて、コンセプト・工法・手法などを紐解き、住空間デザインに対する知識を深める。 またその抽出にあたっての技法や制作方法などについての知識も深める。
到達目標	生活空間の中にあるデザインの知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし。適宜プリントを配布する。 参考書:授業内に適宜紹介する。
成績評価	小レポート、小テスト、小課題などを適宜行い、提出状況によって評価する。(小レポート・小テスト、小課題など100%) 授業時間数の2分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	生活デザイン論演習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。
到達目標	卒業研究で取り組むべき課題の意義について述べることができる。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書:授業時間内に適宜紹介する。
成績評価	調査・研究中間報告、課題発表、レポート・制作物等により総合的に判断する。

科目名	生活デザイン論演習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	学生各自の卒業制作・卒業論文に向けて、生活デザインのそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、研究方法、制作方法、調査方法などを修得し、必要な文献や資料を集め、また必要な現地調査などを行うなど、各自の課題や問題に応じて演習を行う。
到達目標	卒業研究で取り組む課題領域についての知識を深め、課題を達成するための研究方法、制作方法、調査方法などを修得する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書・参考書:授業時間内に適宜紹介する。
成績評価	調査・研究中間報告、課題発表、レポート・制作物、最終発表等により総合的に判断する。

科目名	生活法　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	生命の誕生から死に至るまでの人の一生を通して、出会うであろう具体的紛争を予防あるいは解決するためには、どのようにしたらよいかを学ぶとともに、さまざまな社会現象を法的に解明する。
到達目標	(1)人生生活と法との関係について理解を深めること。 (2)さまざまな社会問題・現象と法との相関関係について知識を持つこと。 (3)受け身はいけない。大学の図書館等で積極的に予習、復習をすること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:随時紹介する。 参考書:随時紹介する。
成績評価	小試験60％（3回）、期末試験40％

科目名	政治学Ⅰ
担当教員	竹本　知行※
授業概要	政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。
到達目標	現実の政治的問題について、自分なりの見解をもてるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:等松春夫・竹本知行編著「ファンダメンタル政治学」（北樹出版、2010年） 参考書:講義中に適宜紹介する。
成績評価	期末筆記試験100%

科目名	政治学Ⅱ（国際政治を含む）
担当教員	竹本　知行※
授業概要	国際政治学についての基礎知識を得ることで国際政治を見る「目」を養う。
到達目標	国際政治の諸問題と日本の課題について、自分なりの見解をもてるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：等松春夫・竹本知行編著「ファンダメンタル政治学」（北樹出版、2010年） 参考書：講義中に適宜紹介する。
成績評価	期末筆記試験100%

科目名	政治経済学
担当教員	伊原　亮司※
授業概要	現在は、市場原理主義が世界規模で大きな力を持っているが、経済社会は、経済的な合理性だけでなく、政治、社会、文化などの諸要素が絡み合いながら成り立っている。本講義は、企業組織内外の「力学」に焦点をあてて、日本の経済社会のあり方を検討する。
到達目標	経済現象の中に組み込まれた政治的・社会的・文化的な要素を読み解く。経済社会の構造と変動のメカニズムを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキストと参考図書は、適宜、講義中に指定する。
成績評価	平常点およびテスト

科目名	生体の構造と機能
担当教員	高山　博史
授業概要	人体の構造としての骨格系、筋肉系、神経系、循環器系、消化器系、感覚器系、生殖器系の成り立ちを臓器レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルにおいて理解し、その機能発現の仕方を学ぶ。人体の構造模型、イラスト、画像などを駆使して、人体の各臓器と諸器官との関係を理解させ、顕微鏡写真を用いて各臓器の組織像、細胞構築を詳述する。必要に応じ分子メカニズムから機能発現に至る過程を講義する。コマ数は少なく全ての講義の完了は不可能なので続編の講義を後の実習時間の前半に行う。
到達目標	生体の構造と機能について理解、修得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：毎回参考となるプリントを配付する 参考書：佐藤達夫他著「解剖生理学」（医歯薬出版） 椙江　勇他著「解剖生理学－講義と実習」（南江堂）
成績評価	講義後の課題のレポート100％ 欠格条件（授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない）

科目名	生命科学と人間
担当教員	柴田　克己
授業概要	生命の維持，健康の維持，生活習慣病予防のための情報が氾濫している．正しい情報と誤った情報を判断する力が必要である．厚労省策定の「食事摂取基準」は，健康な個人または集団を対象とし，国民の健康の保持・増進，生活習慣病の予防を目的としたエネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示すものである．栄養素の摂取不足による栄養欠乏症予防に留まらず，生活習慣病予防のための摂取栄養素等が，年齢別，性別にわけて記載されている．個々の日本国民の健康を守る根本的な情報源である．正しい情報と誤った情報を判断するのに必要最低限の知識を学ぶ．
到達目標	個人レベルにおける食の倫理の大切さを考える
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：日本人の食事摂取基準（2010年版），指定図書：なし 参考書：なし
成績評価	期末試験80％，レポート20％

科目名	西洋史概説
担当教員	北村　知之※
授業概要	高校の世界史で学んだヨーロッパ史を踏まえながら、特に美術に焦点を当てて、古代ギリシアから現代までの歴史的展開をたどり、その変遷と意味について解説する。講義では視覚教材を多用して西洋美術の傑作の数々を紹介するので期待してもらいたい。
到達目標	西洋美術においてそれぞれの時代を代表する作品の歴史的意義を理解し、論じられるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：高階秀爾、『カラー版 西洋美術史』、美術出版社
成績評価	レポート(2/3)と試験(1/3)

科目名	染色学
担当教員	道明　美保子
授業概要	人類が衣料を考えだした太古の時代から、染色は必修のものであり、その時代は古く、長い天然染料万能の時代から、今日のように合成染料主流の時代となっている。本講義では、色と表色、各種染料の特性、色と化学構造、染色の基礎理論について論ずるとともに、天然染料の歴史と科学についてもふれる。
到達目標	各種染料の特性と染色の基礎理論を理解し、染色に生かせる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介
成績評価	レポート評価30％　期末筆記試験70％ 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	組織とネットワークの社会学
担当教員	伊原　亮司※
授業概要	この講義では、経営に関する組織とネットワークのあり方を働く場の視点から学ぶ。働く者の多くは、1日の半分以上の時間を何十年にも渡って職場で過ごし、生涯にわたる労働生活を通して自分自身をも形成している。本講義では、このような意味で重要な場である職場に焦点を当てて、経営組織とネットワークのあり方を歴史の流れの中で理解することを目指す。理論を学ぶと同時に、映像などを通して実態に親しむ。
到達目標	代表的な管理組織を学ぶ。そして、完全な管理組織は存在せず、歴史の中でその有効性と限界を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義中に指定する。
成績評価	平常点及びテスト

科目名	卒業研究・論文（地域文化）
担当教員	学科教員
授業概要	規定に従って、研究の成果を論文（作品）として提出する。
到達目標	研究内容や主張を効果的に他者に伝えるため、適切な構成と文章表現・映像表現などによる卒業論文（作品）が作成できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	特になし。
成績評価	論文（作品）および口頭試問の内容により評価する。

科目名	卒業研究・製作／論文（生活デザイン）
担当教員	学科教員
授業概要	卒業制作と卒業論文の課題については、生活デザイン専門分野の中から学生自身が担当教員の指導の下に決定し、それぞれの課題に従って制作あるいは論文の作成を行う。卒業制作を行う学生は、制作の他にその内容を説明し、補強する研究報告を同時に提出しなければならない。9月には中間報告会により卒業研究の中間発表を行い、最終的には卒業研究の成果を発表する展示および口頭発表会を開催し、成果をまとめた卒業研究報告集を刊行する。
到達目標	各自がそれぞれ課題としたテーマについて自信を持って発表できる。
テキスト 指定図書 参考書	指導教員が適宜指示する。
成績評価	途中の進捗状況、中間発表並びに最終審査の結果によって合否を判定する。

科目名	卒業研究・論文（生活栄養）
担当教員	学科教員
授業概要	食生活論演習での指導に従い、各自の設定した課題について、実験、調査による研究を行い、論文としてまとめ、提出させる。
到達目標	各指導教員ごとに異なる.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜指示する 指定図書:適宜指示する 参考書:適宜指示する
成績評価	指導教員が初回の講義において説明する

科目名	卒業研究・論文（人間関係）
担当教員	学科教員
授業概要	「人間関係論演習Ⅰ」および「人間関係論演習Ⅱ」での指導と研究を踏まえて、各自の設定した課題を、所定の様式の論文として完成する。
到達目標	卒業論文の作成
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指示する。
成績評価	提出された論文によって評価する。卒業論文の内容と口頭試問、卒業論文発表会での状況を総合して評価する。

科目名	対外文化交流論Ａ
担当教員	田中　俊明
授業概要	今年度は、加耶と日本との関係をとりあげる。加耶とは朝鮮半島南部にあった小国群であり、日本ではかつて「任那」とよばれ、統治した時代があったかのように考えられたことがあるが、現在は、その史的展開を動的に把握することが可能になってきた。そこで、加耶諸国の政治過程と、対外関係特に倭との関係について詳述することにしたい。
到達目標	古代の国際関係についての基礎知識を得ること、および相対的な見方ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『古代の日本と加耶』山川出版社。プリントを毎回配布。 参考書:適宜、指示する。
成績評価	レポート20％小テスト2回80％

科目名	対外文化交流論Ｂ
担当教員	定森　秀夫
授業概要	いかなる地域・国も完全孤立の状態では存続しえない。付け加えるなら、個人レベルにおいてもそれは当てはまる。日本列島は海を隔てて中国大陸・朝鮮半島などから地理的に孤立しているように見えるが、その海こそが交流の橋渡し役であった。日本文化は、主に中国・朝鮮の文化を常に取り入れてきた。最近では欧米文化も取り入れ、多様な文化を融合しつつあるように見える。本授業では、主に考古資料を中心に据えて、日本の対外交流の歴史を旧石器時代から江戸時代まで通観するとともに、土器・陶磁器をテーマとして対外交流の具体例を掘り下げてみる。
到達目標	1．日本列島の地理的位置の再確認と海の再評価 2．日本文化は常に外来文化を吸収することによって発展してきたことを理解する 3．文化の多様性を認め、文化融合の過程を理解する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント資料を配布する 参考書：授業中に紹介する
成績評価	講義理解度60％、レポート（小レポート2回・期末レポート）40％で成績評価

科目名	対外文化交流論Ｃ
担当教員	河　かおる
授業概要	近世以後の歴史における日本と朝鮮半島との「文化交流」について理解することを目的とする。前半は日本と朝鮮半島が「善隣友好」関係にあったとされる江戸時代における朝鮮通信使の往来とそれにともなう「文化交流」について、研究史そのものを含めて考察する。後半は、「善隣友好」関係から一転して大日本帝国による朝鮮半島侵略・植民地化の中での「交流」について、「在朝日本人」の存在を通じて考察する。※隔年開講につき、今年度（2011年度）は開講で、来年度（2012年度）は不開講。
到達目標	(1)朝鮮通信使に関して基本的な説明ができること。 (2) 在朝日本人に関して基本的な説明ができること。 (3) 一見、政治とは無関係の、「平和的」なニュアンスを持つ「文化交流」という現象について、批判的に考察できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布。 参考書：講義中に適宜紹介。
成績評価	小レポート30%、中間レポート（前半のテーマについて）35%。期末レポート（後半のテーマについて）35％。それぞれについての詳しい評価基準は講義中に示す。

科目名	地域運動論
担当教員	大橋　松行
授業概要	地域運動論とは、地域社会における生活上の問題を解決するための住民運動であり、それは、主として特定地域における住民生活環境の維持・改善をめぐる自治体住民の生活要求を客観的根拠・契機としている。この講義では、今日の「豊かな社会」日本の抱えている問題点を指摘するとともに、具体的に特定の地域で顕在化している諸問題と、それに関わっての住民運動について論じる。
到達目標	地域運動や住民投票のメカニズムを理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：使用しない。プリントを配付する。 指定図書：大橋松行著『生活者運動の社会学―市民参加への一里塚』北樹出版
成績評価	期末試験の成績50％、レポート50％で評価する。ただし、原則として評価対象者は授業時数の3分の2以上の出席者とする。

科目名	地域活性化論
担当教員	田中　光一※
授業概要	グローバリズムの進展に伴って地域社会が抱えてきた課題を確認するとともに、21世紀の地域の生き方を考察する。本講義では、地域活性化について、様々な事例を通して議論し、その本質にある問題を明らかにする。また、自分たちに出来ることは何なのか、それぞれの足元にある具体的な地域を通して考えていく。
到達目標	現代日本の地域が抱える問題に気づき、それらにいかに対応するか、理論的整理と実践事例の理解を通じて、自分で考え、整理し、実践できる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリントを配布する。
成績評価	議論への参加、課題レポートの提出。

科目名	地域看護論
担当教員	土平　俊子※
授業概要	この科目では、地域の人々の疾病に対する認識および行動を明らかにし、健康づくりと疾病予防の必要性を学ぶ。さらに、地域ヘルスプロモーションの理念と人々の自助・互助・公助の必要性を理解する。そのために今日のわが国および世界の健康課題を知り、その背景要因を深く考え、地域を単位で捉え保健医療福祉がチームで対策を講ずる意義を考えることができる。
到達目標	(1)人々の健康について、「家族」「集団」「コミュニティ」を単位として行う地域看護活動の特徴を説明できる。 (2)集団・地域の健康を評価する意味を説明できる。 (3)チームで展開される地域看護活動の関連分野と活動の特徴を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：津村智恵子編著、地域看護学、中央法規 参考書：国民衛生の動向、厚生統計協会（最新版）
成績評価	出席・授業参加の態度（グループワークへの参加状況を含む）10％、レポート20％、期末試験70％

科目名	地域経済史論
担当教員	東　幸代
授業概要	日本近世における地域経済の史的展開をテーマとする講義である。近世は全国的流通ネットワークが高度に発達した時代であるが、本講義では、特に近江国における流通を対象として、その特徴についての理解を深めることをねらいとする。あわせて、近世の近江国の特徴についても考えたい。
到達目標	日本近世の流通構造を理解するとともに、その背景にある社会構造を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	講義中に適宜指示する。
成績評価	宿題20％　期末試験80％

科目名	地域研究論
担当教員	黒田　末壽　・　上田　洋平※
授業概要	「地域」というのは普段気軽に使われる言葉であるが、いざこれをさばいてみようとすると非常に厄介な概念なのである。「地域」というからにはある一定の広がりを持つものであるが、ではその広がりの限界は誰が決めるのか。何がどのように作用してある「地域」が「地域」として限定されるのか。小は個人の「からだ・こころ・たましい」の根拠としての「在所」から大は地球に至る幅で伸び縮みする「地域」というものについて、様々な切り口から挑みつつ①いかにこの身をもって地域と関わり合うか②地域をいかに表現するか③それらを踏まえ、いかに地域を生きるか、について考える。
到達目標	(1)地域にかかわる社会的文化的生態的な諸要素に関する基礎的な知識を習得すること。(2)それらの諸要素が相互にかかわりあって固有の地域文化が育まれる、その固有性と多様性を理解すること。(3)研究上地域の人や社会とかかわるに際しての技法や作法を理解すること。(4)地域の知り方は皆に開かれている。先達に倣いつつ自分なりの方法の開発と表現に創造的に挑戦すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布、適宜紹介　指定図書:特になし 参考書:高谷好一著『湖国小宇宙』サンライズ出版、高谷好一著「地域研究から自分学へ」京都大学学術出版会、黒田末寿著「自然学の未来」弘文堂、その他授業内で適宜紹介
成績評価	ミニレポート50%　期末レポート50%

科目名	地域考古学Ａ　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	考古学は遺跡・遺構・遺物という物質資料を対象とした学問である。しかし、過去の人間の行為のうち、政治や経済、社会、信仰などの形而上学の問題に立ち入ろうとする場合、考古学の方法論のみでは対処しきれず、明瞭な回答が引き出せないことも多い。本講義では、「古墳時代の信仰」を主なテーマとして、考古学を主軸に据えながらも文献史学や民俗学などの研究成果にも触れ、歴史を考える道筋には多様な方法があることを示していく。考古学は、資料が研究の目的を規定することが多いが、ここでは研究目的を設定したうえでどんな資料を準備すべきかを考えていきたい。
到達目標	古墳時代の祭祀遺跡とその遺物、古墳の埋葬諸儀礼、埴輪などを通して、信仰の問題を考えることの重要性を説き、現実の遺跡・遺構の解釈において問題設定次第では従来の思考の枠に捉われない多様な考え方ができることを理解できるようにしていきたい。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:適宜紹介
成績評価	小レポート30%。講義時間内に適宜レポート作成とそれに関わる発表・討論時間を設ける。発表・討論30%、小試験40%。

科目名	地域考古学Ｂ　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	稲作農耕と金属器の導入は、生産基盤の変革のみならず日本列島にさまざまな異文化をもたらした。中国の正史に登場する「倭」は、やがて古代国家の核に成長する。このころ近江にも地域王権が派生し、その首長墓の前方後方墳(前方後方形墳丘墓)は、その発生と展開において前方後円墳とは異なる動向をみせる。集落遺跡や墳丘墓・古墳などの遺跡と遺物を素材に、列島と近江の弥生～古墳時代を考察し、前方後円墳一辺倒ではなく前方後方墳から地域の古代史像を読み取る。さらに大陸との交渉で得た異文化の影響や古代国家成立前夜の様相を検証する。
到達目標	多様な考古資料から歴史を構成する方法論の基礎を習得する。また、近江などの地域資料が日本史に反映される仕組みを認識すると同時に、考古学による歴史叙述において文献や地理など隣接学問との連携の有効性を体得する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:植田文雄『前方後方墳出現社会の研究』(学生社・8820円)
成績評価	レポート70%、小試験30%

科目名	地域考古学Ｃ
担当教員	未定
授業概要	稲作農耕と金属器の使用を基軸とし、近年では集団間の戦いなどもその特質とするようになった日本列島の弥生文化を比較考古学の視点から講述し、最新学説なども取り上げながら体系的に論ずる。縄文文化や古墳文化との比較、東アジア農耕文化や一部ヨーロッパ金属器文化などとの比較を目指し、弥生文化や弥生時代の理解に努める。
到達目標	弥生文化や弥生時代の特質を日本考古学、東アジア考古学の視角から叙述できること。遺跡・遺構・遺物の実態をよく理解し、その独自性や類似性を吟味すること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：森岡秀人「農耕社会の成立」『日本史講座』1（東京大学出版会，2004年）
成績評価	レポートで評価する。出席点を加味する。

科目名	地域考古学Ｄ
担当教員	中村　健二※
授業概要	発掘された滋賀県内の縄文遺跡から遺構や遺物の分析を通じて、集落、墓制、生業、生産と流通を復元し、滋賀県の縄文文化の特色について検証する。同時に列島各地の縄文集落、墓制、生業と比較することにより縄文文化が画一的な文化ではなく、多様性に富むこと明らかにする。
到達目標	滋賀県の縄文文化の特色について、具体的な遺跡、遺構や遺物から説明できるようになる。また、彦根周辺の縄文遺跡の分布や遺跡の内容につい具体的に述べることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリントを配布
成績評価	講義時間内に討論や発表およびレポート作成の時間を設ける。発表と討論60％、レポート40％

科目名	地域再生システム論
担当教員	鵜飼　修　・　仁連　孝昭　・　轟　慎一　他
授業概要	地方分権が推進される中で、地域の自立性、自律性を高めるには、私たちは何をすればよいのか。その理論と実践的手法を学ぶ。具体的には、地域再生の理念や意義、事例を学ぶとともに、設定されたフィールドと課題に対して、現場における実践的な授業を通じて、課題解決のための解決策を検討する。国外コースでは、講義は英語の講義と滞在周辺地域でのフィールドワークとが組み合わされている。講義開始前には、副教材を用いて事前の学習準備を行う。夜間は、現地の研修施設に宿泊し、受講生の間でグループワークによる議論を行う。（国内コース、国外コースのいずれかを選択する）
到達目標	（国内コース）全国各地における様々な地域再生事例とその理念を把握する。地域を形成する様々な主体との接点を持つ。地域再生やまちづくりの推進に自分自身がどのように関わることができるかを知る。 （国外コース）アジアにおける環境問題理解やその解決のための技術や手法について学ぶ。演習参加者間の議論等を通じて国際感覚の向上を図り、次代を担う責任感や世界観を涵養する。
テキスト 指定図書 参考書	（国内コース） 参考図書：御園慎一郎編「地域再生システム論」東京大学出版会，近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメー学生力で地域が変わる」（株）ラトルズ （国外コース）テキスト：事前案内や授業期間中に必要な資料を配付する。
成績評価	（国内コース）レポート評価70％、プレゼンテーション評価30％。原則として、全ての授業に出席すること。 （国外コース）レポート評価70％、プレゼンテーション評価30％。

科目名	地域生活論
担当教員	中塚　圭子※
授業概要	この講義では、事例を中心に以下の点について考えます。「地域での暮らし」「地域を守ろう」というけれども、そもそも〈地域〉とは、何なのか。受講生のみなさん個々人にとってどういうものと理解されているのか。地域と「私」「家族」との関係は、どういうものなのか。地域と障がい者との関係は、どういうものなのか。私たちは一体どこで育ってきたのか、子どもの未来を保証するのは一体誰なのか。これらの討議を踏まえ、〈地域〉は誰のために、誰によって担われているのかを自分の問題として考察します。
到達目標	〈地域〉を受講者個々人が〈私〉との関係として捉え直し、地域福祉の仕組み、個人のライフステージや障害による変化を受け支えるネットワークの大切さを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	適宜プリント配布
成績評価	毎時間のミニレポート30％、最終の課題レポート40％、授業への積極的参加30%で評価する。（従って、課題レポートのみの提出では単位認定しない。）

科目名	地域と空間
担当教員	市川　秀之
授業概要	地域社会を理解するうえで、空間的視点からのアプローチは非常に有効である。この授業では伝統的な村落および都市を対象として、地域社会と空間の関連について説明を進めたい。具体的には、ムラ・マチの見方・歩き方が授業の中心となる。民俗学的立場からの村落・都市空間論や生業空間の利用などを中心に講義するが、条里制・街道・城下町など歴史地理学的なテーマについてもとりあげる。
到達目標	(1) 地域社会の空間的特質を理解する。 (2) 空間的アプローチの具体的手法を体得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし。毎回プリントを配布 参考書：市川秀之『広場と村落空間の民俗学』
成績評価	レポート（1回）　20％　期末試験　40％　毎回授業後のレスポンスカード　40％

科目名	地域文化演習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	3回生以後の卒業論文に関する指導を主な内容とする地域文化演習Ⅱ・地域文化演習Ⅲへの導入の授業である。このなかで、卒業論文のテーマをどうするのかなどの自覚を促し、3回生の時点でスムーズにゼミを選択し、個別的な指導を受けられるように方向づける。領域を日本文化史、日本地域史、朝鮮地域、人と地域、地理学、中国・チベットの文化と社会、保存修景、考古・古代、社会学・文化研究、民俗学、中国少数民族論、モンゴルの文化と社会・文化人類学、日本美術史のゾーンに区分し、学生は前期と後期にそれぞれ一つずつ選択する。
到達目標	研究課題を見いだし、探求するために必要な専門知識・周辺知識を自ら進んで学習できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各ゼミ教員の指示による。
成績評価	出席・発表内容等を総合的に判断する。

科目名	地域文化演習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	4回生の卒業論文に関する指導を内容とする地域文化演習Ⅲに直接つながる授業と位置づける。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。
到達目標	指導教員やゼミ生、および地域との関わりのなかで、リーダーシップと協調性をもって主体的に研究活動ができるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各ゼミ教員の指示による。
成績評価	出席・発表内容等を総合的に判断する。

科目名	地域文化演習Ⅲ
担当教員	学科教員
授業概要	卒業論文に関する指導をする。個別にゼミを選択し、各自のテーマに従って研究を進める。
到達目標	卒業論文の研究課題にとりくむための研究計画を立案し、それに基づいて研究を実行できるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：各ゼミ教員の指示による。
成績評価	出席・発表内容等を総合的に判断する。

科目名	地域文化財論Ａ
担当教員	伊藤　裕久※
授業概要	地域固有の歴史的環境を守り育てていくためには、様々な立場の人が、その成り立ちを正しく認識することが不可欠である。授業では、建築史学の立場から、日本や東アジアの伝統的な都市や集落を素材として取り上げ、地域の歴史的環境を空間＝社会的側面から捉える視点や方法を解説する。また、近年、多様化しつつある「保存」の問題について具体的事例を紹介することで、広がりをもった実践的な地域文化財論の可能性を検討したい。
到達目標	地域文化財の重要性について認識し、地域の歴史的環境を保存・継承していくための方法論の基礎を習得することができる。
テキスト 指定図書 参考書	授業時にプリントを配布する。
成績評価	集中講義のため、とくに出席と授業態度を重視する（50％）。また講義後に出題するレポートによって評価する（50％）。

科目名	地域文化財論Ｂ
担当教員	濱崎　一志
授業概要	学術的な価値や美術的な価値は高くはないものの、人々の永きにわたる営みにより、地域の中ではぐくまれてきた地域文化財について講義する。歴史的環境を構成する地域文化財のうち，遺跡や建造物もしくは建造物群を中心に講義し，その保全について解説する。
到達目標	身近な生活空間の中に遺存している地域文化財を再評価し、その保存・活用について考える能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配付 参考書 ： 適宜紹介
成績評価	期末レポート 80％ レスポンスペーパー20％

科目名	地域保健臨地実習
担当教員	岡本　秀己
授業概要	地域保健活動の第一線機関である保健所や市町村保健センターにおいて、多職種との関わり方や住民の保健増進のために実施されている事業を通して、地域保健の全体像および組織の中での健康づくり対策の実際を学ぶ。
到達目標	地域保健活動の実践現場で、行政栄養士の果たす役割が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：「臨地・校外実習のてびき」化学同人
成績評価	実習内容プレゼンテーション80％、実習レポート20％。 授業時間数の3分の1以上欠席したものは評価対象としない。

科目名	地誌学
担当教員	塚本　礼仁
授業概要	地理学は系統地理学と地誌学とに大別される。系統地理学は「～の気候」（自然地理学）や「～の産業」（人文地理学）というように様々なテーマごとの分析を行うが、地誌学は系統地理学の知見を総合し、「地域」それ自体の特性を明らかにする分野である。本講義では、国内外の様々な「地域」を素材とし、その特徴を他地域との共通性あるいはユニークさに留意しつつ解説していく。また、地図を使った作業などを通して、地域研究の経験も重ねさせていきたい。
到達目標	1．自然環境と人間活動の両面から「地域」の姿を考えられるようになること。 2．地図を読めるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリントなどを配布する。 参考書：授業の中で紹介する。
成績評価	ミニ・レポート 50％　毎回のキーワードなど講義内容を理解しているかどうか確認する。 期末レポート 50％　課題と採点基準は改めて通知する。

科目名	チベット語基礎
担当教員	棚瀬　慈郎
授業概要	チベット語の文字、発音、基礎的な文法の習得から始めて、簡単なチベット文が、自分で辞書を用いて読めるようになることを目指す。
到達目標	チベット語による基本的な会話が可能となること。また自分で辞書を用いてチベット文が読めるようになることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布する
成績評価	授業を5回以上欠席した者は評価の対象としない。成績は、言語の習得状況を総合的に判断して評価する。

科目名	中国・内モンゴル地域文化論
担当教員	ブレンサイン
授業概要	本講義は中国の少数民族自治区域の一つとしての内モンゴルと「モンゴル世界」の一部としての内モンゴルの多角的な側面を見ることによって、「モンゴル世界」の多様化と、中国の周縁の少数民族居住地域の社会動向を把握しようとするものである。
到達目標	モンゴル世界の多様化した現実を紹介することによって「モンゴル＝遊牧」というステレオタイプからの脱却を目指したい。また内モンゴルの成り立ちを通して中国の少数民族問題に対して一定の認識を持たせたい。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜紹介する。
成績評価	中間レポート30％、質問票10％、期末試験60％（欠席数が1／3を超えた場合は評価の対象としない）

科目名	中国語文献講読
担当教員	荒井　利明
授業概要	中国語の文章の読解を通じて、現代中国事情を学ぶ。
到達目標	中国の新聞や雑誌を読む。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業時に配布する。 参考書:適宜、紹介する。
成績評価	授業での発表　50％、レポート　50％

科目名	中国地域文化特論　　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	近年、飛躍的な経済成長をとげる中国に関して、さまざまな情報が発信されている。こうした情報は、北京や上海など政治経済の中心地からもたらされることが多い。それゆえ、私たちの中国に対する認識は、ときとして一枚岩になりがちである。本講では、こうした中心地域を離れ、周縁といわれる地域や大衆文化に焦点を当てる。それぞれを通して、中国、および香港・台湾含む周辺地域における中国文化の多様性と統一性について考えてゆく。
到達目標	(1)中国および、その周辺に広がる中国文化の多様性と統一性を理解する。 (2)中国における「民族」誕生の経緯を知り、政治問題とも密接に関わる「民族」や「国家」について理解を深める。 (3)中国の人びとの日本に対する認識を知ることで、日中双方の立場から文化理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし。毎回、資料を配付する。
成績評価	毎回、授業の後にレスポンスペーパーを提出してもらいます。その内容(6割)と期末試験(4割)から総合的に成績評価を行います。

科目名	中国地域文化論
担当教員	荒井　利明
授業概要	現代中国(1949年以降の「共産党の中国」)を、前期の「現代中国論」とは異なる視点からとらえ、理解を深める。
到達目標	現代中国がかかえる矛盾・問題等を把握する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書等は適宜、紹介する。
成績評価	レスポンスカードによる平常点　20%、期末試験　80%

科目名	朝鮮語会話
担当教員	崔　眞善※
授業概要	朝鮮語の文章を正確に音読し、内容を理解する力を高めることを目的とする。講読するテキストは受講者と相談の上で決める。文法に関する説明や発音の指導も可能な限りきめ細かに行う。
到達目標	朝鮮語ⅠとⅡを基本として映画、歌など多様なテキストから学び、実際の状況で使える、応用可能な韓国語の会話力を高めることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント 参考書:韓日、日韓辞典
成績評価	会話練習、発表　40%、 テスト30%、 課題30%

科目名	朝鮮語文献講読
担当教員	河　かおる
授業概要	朝鮮語（韓国語）の文章を正確に音読し、内容を理解する力を高めることを目的とする。講読するテキストは韓国のインターネット新聞「PRESSian」の記事を中心に、受講者の意見を聞いて選ぶ。単に記事を日本語に訳すだけでなく、記事で扱われている内容について理解を深め、議論する。受講者の理解度にあわせ、必要に応じて文法に関する説明や発音の指導も可能な限りきめ細かに行う。通年の講義の最終盤には、1年間の学習のまとめとして、各受講者が関心のあるテーマについて、朝鮮語で情報を集め、その結果を報告する報告会を行う。
到達目標	(1) 朝鮮語の文章を正確に音読できるようになる。 (2) 辞書を使用しながら朝鮮語の文章を読解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：韓国のインターネット新聞「PRESSian」など 参考書：辞書は次の2冊を併用することを推奨する。『朝鮮語辞典』（小学館、1993年）。『コスモス朝和辞典〈第2版〉』（白水社、1991年）。
成績評価	毎回の予習　60％、長期休暇の宿題　40％。

科目名	朝鮮地域文化特論
担当教員	安田　純也※
授業概要	この講義では、朝鮮文化の形成・展開を歴史的に振り返るが、今年度は仏教文化を取り上げる。かつて、朝鮮半島の仏教は、中国仏教の模倣であるとされてきたが、近年の研究の進展によって朝鮮仏教の独自性が明らかにされつつある。講義では朝鮮仏教の歴史をたどるとともに、日本に多く伝存する文化財に焦点を当てて日朝の文化交流の歴史についても考えていきたい。
到達目標	朝鮮半島の仏教文化及び日本、中国との文化交流史の概要を把握できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：講義時の配布プリントを主とする。 参考書：必要に応じて紹介していく。
成績評価	平常点（授業中の質問、宿題等）40％、小テスト10％、期末筆記試験50％ なお、授業時間数の3分の1以上欠席した場合は評価対象としません。

科目名	朝鮮地域文化論Ａ
担当教員	田中　俊明
授業概要	朝鮮地域自体の問題を考える。特に古代における問題を中心として、講義をしている。隔年で開講しているが、今年度は、高句麗の歴史・文化について整理していきたい。高句麗とは、現在の中国遼寧省の東南部から吉林省の西南部にかけての地域の発祥し、東北アジアではいちはやく成長した古代国家である。
到達目標	基礎知識の習得。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『朝鮮の歴史』昭和堂。プリントを毎回配布。 参考書：適宜、指示する。
成績評価	レポート20％、小テスト2回80％。

科目名	朝鮮地域文化論Ｂ
担当教員	河　かおる
授業概要	朝鮮半島の近現代史を理解することを目的とする。前半（第10回まで）では近現代の通史を時系列に従って基本的な流れをつかむ。後半では、時代を貫くいくつかのテーマを切り口として、困難な近代の幕開け、植民地化、今も続く民族分断を経験した朝鮮半島の歴史への理解を深める。後半で予定しているテーマは、前半の授業での関心の度合い等を勘案して変更する可能性がある。※隔年開講につき、今年度（2011年度）は不開講。
到達目標	(1)隣国である朝鮮の近現代史、特に日本とかかわる事柄に関して基本的な説明ができること。 (2) 植民地化と民族分断を経験した近現代史の「困難さ」への想像力を鍛える。 (3) 朝鮮の近現代史を密接な関連を持つ日本の近現代史を省察的にとらえ直す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：田中俊明編『朝鮮の歴史』昭和堂、2009年 参考書：授業中に適宜紹介。
成績評価	小レポート（講義内容や配付資料についての理解度と考察力を評価する）50%。期末レポート（指定した課題に対応する内容になっているか、論理的に構成されているか、十分な読解や調査に基づいて書かれているか、論理的な分析がなされているか、レポートとしての形式的用件を満たしているか等を評価する）50%。

科目名	朝鮮文化論
担当教員	河　かおる
授業概要	隣国である朝鮮についての基本的な事柄を理解することを目的とする。前半は「国の名前」「人」「言葉」等についての歴史や現状について確認しつつ、呼称の問題について同時に考えていく。後半は、日本に住む者にとって最も身近な存在である（はずの）在日コリアンの歴史と現在について学びながら考察する。
到達目標	(1)隣国である朝鮮（大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国）、隣人である在日コリアンに関して基本的な説明ができる。(2) 朝鮮にまつわる呼称の問題（差別的呼称を含む）について、その歴史的背景を理解し、論理的に説明できる。(3) (1)(2)を通じ、社会通念を批判的に検討する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布。 参考書：講義中に適宜紹介。
成績評価	小レポート30%、中間レポート（前半のテーマについて）35%。期末レポート（後半のテーマについて）35％。それぞれの詳しい評価基準については授業で説明する。

科目名	デジタルデザイン演習
担当教員	印南　比呂志　・　南　政宏　・　山根　周　・　佐々木　一泰
授業概要	CADや画像処理、ドローイングソフトなどを用いて、デジタルデザインの基礎から応用までを学ぶ。
到達目標	PCを用いたデザイン作業の知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし。適宜プリントを配布する。 指定図書：授業内に適宜紹介する。 参考書：授業内に適宜紹介する。
成績評価	授業における課題の理解度、および宿題課題により評価する。

科目名	哲学概論Ａ
担当教員	鞍田　崇※
授業概要	テーマは暮らしの“かたち”。エコロジーをめぐる近年の議論をふまえつつ、アート、デザイン、建築、民俗、宗教など様々なジャンルを手がかりに、これからのあるべきライスタイルとはどういうものか検討していきます。
到達目標	現代思想において問われていることの意味と歴史的背景を理解すること。しかし何よりもこの講義の目的は、みなさん一人ひとりが「哲学する」ことのきっかけをつかんでいただくことにあります。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特になし 参考書：講義の中で適宜紹介します。
成績評価	講義内レポート　40％　テーマごとに理解度の確認と疑問点の整理をします（2，3回、各A4一枚程度）　；　期末試験　60％　講義全体をふまえた内容で3000字程度。詳細は講義中に連絡。

科目名	哲学概論Ｂ
担当教員	陶久　明日香※
授業概要	哲学には興味があるがどこから入り込んでいいか分からないという状態から、哲学的思索の領域へと一歩入り込むことを促すための導入的講義です。したがって哲学を支える大きな柱となる伝統的ないくつかの問題とその考え方についての概説を通じて、哲学のおおよその形を呈示します。主に「存在」と「知識」の問題を扱い、最終的には「価値」の問題にも触れることになります。
到達目標	以下の3点について理解を深めること：①哲学は大雑把にみてどのような分野を持つのか、②そうした分野はどのようにして生じてきたのか③またそれらの分野は具体的にはどのように展開されてきたのか。
テキスト 指定図書 参考書	プリントを配布します。また参考図書に関しては、授業時に適宜紹介していきます。
成績評価	集中講義のため、出席を重視します（50％）。また講義後に出題するレポートによって評価します（50％）。

科目名	デッサン法
担当教員	冨原　仁美※
授業概要	造形表現の基礎となる描写力を習得する。形態や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。
到達目標	上位のデザイン演習に対応するための基礎的な観察力、表現力の習得。
テキスト 指定図書 参考書	適宜に紹介する。
成績評価	授業課題および宿題の実技内容と取り組み姿勢。 出席が授業時間数の3分の2に満たない者は評価対象にしない。

科目名	伝承文化論
担当教員	野部　博子※
授業概要	民俗学における口頭伝承の昔話・伝説・わらべ唄・言い伝え、活動であるあそびを通して伝承文化について論ずる。昔話やわらべ唄では、他地域と比較しながら伝承・伝播・定着について考える。また、伝承文化における継承と創造について、児童文化財化されるプロセスを追究する。
到達目標	伝承文化の伝承と伝播を確認することにより、その継承と創造に向けた方向性を探る。そこでは、現代の子どもたちに伝達する方法を導き出す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：講義の中で紹介 参考書：講義の中で紹介
成績評価	レポートと評価50％と課題50％ 内容の理解と個人の見解が展開できることを評価.

科目名	天然物化学基礎
担当教員	灘本　知憲　・　佐野　光枝
授業概要	化学と人間生活の関わり、特に食での関わりを考える上で必要な、化学の基礎知識を扱う。
到達目標	これまで十分に化学を学んでこなかった人も念頭に置いて、専門領域での生物・化学的発展と実践に必要な最低限の基礎化学を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：北原ら著「食を中心とした化学」（東京教学社）
成績評価	小テスト20％，期末試験80％。予め配布する「講義のねらい」に記載された分野、項目の理解度を見る。

科目名	道具計画論
担当教員	印南　比呂志
授業概要	住環境の実態を背景に、人間が関わってきた道具類を毎週ひとつの分野にテーマを絞って、その製品をとりあげて講義をすすめる。その製品の歴史、市場、変遷、社会的価値についてさまざまな視点から考察を試みる。また、ものづくりとしての製品開発における企画設計プロセス、市場での製品流通やマネージメントに至までの実際を学ぶ。テーマによっては外部講師として専門家の招聘して講義を行う。
到達目標	道具という視点で世の中に存在するさまざまな製品、ブランド商品などの背景、価値を理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：ヴィクター・パパネック著「生きのびるためのデザイン」（晶文社）、ゲルト・ゼレ著「デザインのイデオロギーとユートピア」（晶文社）
成績評価	中間、最終レポート課題により評価する。

科目名	道具デザイン演習Ⅰ
担当教員	麻谷　宏※　・　南　政宏
授業概要	プロダクトデザインおよびグラフィックデザインのための基礎的な表現手法を修得する。デザイン作業用の画材や材料の使用方法から、デザイン課題の発想方法、進め方、スケッチやレンダリングの技法、提案パネル作成のための編集デザインの基礎を学ぶ。プロダクト、グラフィックデザインにおいて必要となる基礎的な技術と考え方を練習課題をとおして体験的に学んでいく。
到達目標	(1)鉛筆を使った表現技法を修得する。 (2)デザインマーカーを使った表現技術を修得する。 (3)コンピュータを使った表現技術を修得する。(Illustrator, Photoshopなど)
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし 参考書:Sketching/ Drawing Techniques for Product Designers [Hardcover]
成績評価	提出課題による評価:50%・課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価50%

科目名	道具デザイン演習Ⅱ
担当教員	印南　比呂志　・　麻谷　宏※　・　南　政宏
授業概要	前期授業の道具デザイン演習Ⅰで習得した技術、技法を基礎として、製品デザイン開発の方法をさまざまなものづくりの業界の現場に関わりながら学んでいく。架空もしくは実際の企業の商品計画やCI(コーポレートアイデンティティ)計画などの実践的な課題を通して進めていく。またこれらの成果をわかりやすく表現するための提案パネルや模型などの制作を通して、プレゼンテーションの方法も学んでいく。
到達目標	(1)ものづくりの現場調査の方法。つまりインタビューやドキュメンテーションの方法を修得する。 (2)デザイン提案物の簡単なモデリングやパネルプレゼンテーション技術を修得する。 (3)コンピュータのを使ってプレゼンテーションできる。(パワーポイント、CGなど)
テキスト 指定図書 参考書	参考書:工藤強勝監修「編集デザインの教科書」(日経デザイン刊・日経BP社)
成績評価	提出課題による評価:50%・課題作業のプロセスにおける取り組みによる評価50%

科目名	道具デザイン演習Ⅲ
担当教員	面矢　慎介　・　印南　比呂志
授業概要	道具の計画・デザインにおいて必要な知識・考え方と技術を修得する。道具デザイン演習Ⅰ、Ⅱで学んだ技術と知識を基礎として、生活関連分野の製品およびそれらを含んだ生活空間についての具体的な計画・デザインの課題を課す。
到達目標	基礎的調査・構想から企画立案、造形、製図、立体モデル制作、プレゼンテーションまでの作業を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業中に指示する。
成績評価	授業中の発表(20%)と完成提出作品(80%)による。

科目名	道具デザイン演習Ⅳ
担当教員	面矢　慎介　・　印南　比呂志
授業概要	道具の計画・デザインにおいて必要な知識・考え方と技術を修得する。道具デザイン演習Ⅰ～Ⅲで学んだ技術と知識を基礎として、生活関連分野の製品およびそれらを含んだ生活空間についての具体的な計画・デザインの課題を課す。
到達目標	調査・構想から企画立案、造形、素材や色彩の選択、製図、立体モデル制作、プレゼンテーション、報告書作成まで、実際のデザインプロセスに沿った作業を一貫して修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：参考書：授業中に指示する。
成績評価	授業中の発表（20％）と完成提出作品（80％）による。

科目名	道具デザイン史
担当教員	面矢　慎介
授業概要	近代以降における道具デザインの変容についての解説。近代以降の工業化によって、生活環境を構成する道具は大きく変容してきた。従来のデザイン史が歴史上有名なデザイナー個人やグループの造形思想に重きをおいて造形上の変容を説明してきたのに対して、本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。
到達目標	道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：阿部公正ほか「カラー版・世界デザイン史」（美術出版社） 指定図書：アドリアン・フォーティ「欲望のオブジェ」（鹿島出版会）、柏木博「デザインの20世紀」（日本放送出版協会） その他の参考書：初回授業時に文献リスト配布する。
成績評価	コメントカードとレポート（文献レポートと期末レポート）による。期末レポートは出題から提出まで約2ヶ月間とする。成績評価への寄与率は、文献レポート20%、期末レポート60%、コメントカード20%。授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	道具デザイン論
担当教員	印南　比呂志　・　南　政宏
授業概要	プロダクトをデザインして販売できる商品としていくためには、様々な条件を克服していかなければならない。企業側にある論理、販売側にある論理、デザイナーが実現したいイメージ。それらをどのように乗り越えて商品として実現していくのか、デザイナーと、メーカーの実務的なやり取りを通しながらそのプロセスを追いながら解説する。
到達目標	商品をとりまく経済の仕組みや流通、販売、技術、広告、ブランディングについての知識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	特になし。
成績評価	必要に応じて小レポートを課する。

科目名	統計学基礎
担当教員	細馬　宏通
授業概要	最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。それは統計学の「考え方」が壁になっているからである。本講義では、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱い、統計学的な考え方を身につけることを目ざす。
到達目標	(1)母集団と標本の概念を学ぶこと。 (2)相関を含む記述統計量の基本的使い方を学ぶこと。 (3)推定と検定の基本的手順を学ぶこと。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:涙なしの統計学(サイエンス社) 指定図書:講義内で指定する 参考書:講義内で紹介する
成績評価	リスポンスペーパー(50%) 期末試験(50%)によって評価する。

科目名	東洋史概説
担当教員	田中　俊明
授業概要	東アジア世界の形成をテーマとして、特に古代における東アジア世界論と、その具体的な検証を進める。時代的には、中国の前漢から唐代、紀元前2世紀から10世紀を扱う。中国史の展開を軸としつつ、周辺諸国との関係・動向を具体的にみることも含める。
到達目標	基礎知識の習得。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:用いない。プリントを毎回配布。 参考書:適宜、指示する。
成績評価	レポート20％、小テスト2回80％。

科目名	日本・地域交流特論
担当教員	京樂　真帆子
授業概要	日本古代史の史料を輪読しながら、当時の政治・文化・社会への理解を深める。
到達目標	日本古代史の史料を正しく読解する能力と、史料から諸現象を分析する力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回プリントを配布する。 指定図書:特になし 参考書:授業中に適宜指示する。
成績評価	授業期間内に適宜実施する確認テスト　50％ 期末試験　50％

科目名	日本史概説
担当教員	水野　章二
授業概要	日本の前近代がどのような社会であったかを、近代社会との対比を通して具体的に考える。特に民衆に焦点をあて、民衆が生きていくために不可避的に取り結ばざるを得なかった社会集団―身分編成のあり方や生産・生活の場の特質、前提となった歴史的環境とその変化などを多面的に検討する。
到達目標	現代とは全く異なった生存条件の下におかれた前近代の民衆の姿を学ぶことによって、現代社会の特質を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：水野章二『中世の人と自然の関係史』(吉川弘文館)
成績評価	期末筆記試験70％、レスポンスペーパー30％。成績評価方法および水準については授業時に説明する。

科目名	日本社会論
担当教員	武田　俊輔
授業概要	同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、その社会のメンバーシップからはじき出されてきた様々な人々の姿を通して，戦前・戦後の「日本社会」の姿を再検討することにある。労働市場からも教育からも福祉からも排除されていく人々の視点から「日本社会」はどう映るのか。またそうした人々を改めて社会に包摂した形で社会的な連帯を創り出すことの可能性を論じる。
到達目標	多くの人々が「当たり前」と感じている「日本社会」のイメージを、国境を越えて移動する人々の「越境」、差別や貧困といった社会の中の「断層」、そしてそのような状況に追い込まれた人々の国家による「動員」の三つの観点から、相対化する視線を身につけてもらうことを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：大澤真幸，1997，『ナショナリズム論の名著50』平凡社.
成績評価	期末レポート（100％）の点数に、毎回の講義で提出してもらうレスポンス・カードによる平常点を加味する。なおレスポンス・カードの内容は加点要素とする（減点はしない）。

科目名	日本住居史
担当教員	山根　周
授業概要	先史時代における日本の住居の源流に関する議論、および古代、中世、近世、近代を通して独自の発展をとげた前近代の日本の住居の空間構成の変遷とバリエーションについて知るとともに、日本の住居を成立させてきた素材や技術、生産組織の歴史と変遷についても学ぶ。先史時代から現代にいたる日本の住居の歴史を学ぶことにより、日本の住居の構成原理について考え、日本という環境にふさわしい住居のあり方を考える。
到達目標	先史時代から現代にいたる日本の住居の歴史を学ぶことにより、日本の住居の構成原理について考え、日本という環境にふさわしい住居のあり方を考えることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布
成績評価	レスポンスペーパーとレポート（小レポート2～3本／期末レポート1本）により評価。成績への寄与率はレスポンスペーパー30%，小レポート合計30%，期末レポート40%。小レポートと期末レポートをすべて提出することが、成績評価の前提。

科目名	日本史料講読
担当教員	水野　章二　・　東　幸代
授業概要	日本の前近代の社会や文化を理解する上で必要な各種史料の読解力を養う。各時代を代表する史料を選んで輪読し、史料の具体的な内容を検討するとともに、史料の作成された時代や社会の特質などについて考察して、歴史研究の基礎を身につける。
到達目標	基本史料の解釈ができること。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	前期・後期とも、授業における発表を重視し、期末筆記試験あるいはレポートなどにより総合的に評価する。成績評価方法および水準については授業時に説明する。

科目名	日本文化史論Ⅰ
担当教員	京樂　真帆子
授業概要	日本古代史の史料などに基づき、当時の文化について考える。『小右記』などの古記録を題材に、平安京の都市文化について分析していく。 本年度の分析テーマについては、初回のガイダンスで発表する。
到達目標	平安時代の文化史の展開を、総合的に把握する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配付する 指定図書:特になし 参考書:適宜紹介する
成績評価	期末試験100％

科目名	日本文化史論Ⅱ
担当教員	京樂　真帆子
授業概要	ジェンダーでみる日本史を考える。日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることによって、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性であることが歴史の中でどういう意味を持ち、どう評価されてきたのかを考えていく。
到達目標	①ジェンダー概念を正しく理解する。 ②性差の歴史への理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回プリントを配布する。 指定図書:特になし 参考書:授業中に適宜指示する。
成績評価	レスポンスカードの内容　30％　期末レポート　70％

科目名	日本文化論
担当教員	京樂　真帆子
授業概要	日本文化の諸相を歴史的に分析する。特に、日本映画に描かれる日本文化の問題点を歴史学的見地から評価していく。
到達目標	①日本の歴史を正しく理解する。 ②日本の歴史表象の特徴を理解する。 ③映像文化への理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリントを配布 指定図書:特に指定しない 参考書:適宜紹介
成績評価	毎回提出の小レポート　30%　　期末レポート　70%

科目名	人間関係論演習Ⅰ
担当教員	学科教員
授業概要	各教員ごとに分かれて、人間関係論のそれぞれの分野に関しての既存の成果を概観するとともに、卒業研究のテーマの探求に向けての論文購読と予備的な準備を行う。
到達目標	卒業論文のテーマを決める。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。
成績評価	発表や各教員によって指示された提出レポートを総合して評価する。

科目名	人間関係論演習Ⅱ
担当教員	学科教員
授業概要	「人間関係論」のそれぞれの分野に関して既存の成果を概観するとともに、各自の卒業論文の作成に必要な資料を収集し、分析する。
到達目標	卒業論文を書き上げる。
テキスト 指定図書 参考書	授業中に適宜指定する。
成績評価	発表や各教官によって指示された提出レポートを総合して評価する。

科目名	人間関係論基礎演習
担当教員	学科教員
授業概要	人間関係論への心理学・社会学・教育学のアプローチの基礎を学ぶ。各領域について、その内容と広がり、方法論の基礎を、講義、関連する入門書や基本文献の輪読、初歩的な実験やフィールドワーク、ディスカッション、ディベートなどを通じて学び、人間関係論への関心と理解を深める。
到達目標	人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各アプローチの基本的な視角・方法・知識を習得し、あわせて人間関係研究に必要なアカデミックスキルの基礎を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト、参考書：授業中に適宜指定する。
成績評価	各教員が指示するリアクションペーパー・小レポート（55％）と最終レポート（45％）を総合して評価する。

科目名	人間形成論
担当教員	吉田　一郎　・　篠原　岳司　・　木村　裕
授業概要	本授業では、「発達と教育」のあり方、学校制度の概要と近年の改革動向、現代的課題に取り組むための新たな教育の取り組みなどを紹介することを通して、生涯にわたる人間形成における教育の役割、教育制度の将来像、教育課程と授業の将来像などについて考察していく。授業を進めるにあたっては、講義に加え、事例検討や体験型学習も取り入れる。
到達目標	人間形成をめぐる問題群の所在と解決の基本方向について、おおよその認識を得るとともに、それに関する自身の考えを述べられるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキストなどは指定せず、必要な資料は講義中に配布する。また、参考文献などについては講義中に適宜紹介する。
成績評価	レポートで行う。

科目名	人間工学
担当教員	中村　孝之※
授業概要	社会の急速な変化で生じる、人間と環境のあり方のギャップを埋めて行くための手がかりとなるのが人間工学である。ここでは、生理、心理、身体、そして行動など、人間の基本的特性を理解し、プロダクト、インテリア、建築などの生活環境構成要素を取り上げ、人間との最適な関係を考えた計画やデザインの手法について学ぶ。
到達目標	人間工学の目的とするところを理解し、基本的な知識を習得し、生活環境や製品の計画・デザインの際に、人間からのアプローチができるようになることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし（授業ごとにプリントを配布） 参考書：「住まい文化シリーズ　住まいと暮らしの安全」＜理工図書＞ 「ユニバーサルデザインの教科書　増補改訂版」＜日経デザイン＞ 「エンジニアのための人間工学−改訂−」＜日本出版サービス＞
成績評価	小テスト40％　期末レポート（または試験）60％

科目名	人間工学実習
担当教員	森下　あおい ・ 宮本　雅子
授業概要	生活に関わるデザインの多くのものは、人体のサイズや形態を基準に設計されている。この授業では基本姿勢における人体計測法を学ぶとともに、服飾 、道具、住居分野のデザインを行う際に必要とする体形特徴や、動作や姿勢によって生じる体形の変化などと関係する設計条件を実験によって把握する。また計測値をデザインに活用するための統計手法を学ぶ。
到達目標	1. デザインに必要な人体形態の理解　2. 衣服型紙と人体寸法の関係の理解 3. 計測値の統計処理法の習得　4. 人間とモノとの関係について分析する能力の習得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:配布資料によって授業を行います
成績評価	レポート(各課題)100%　なお授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	人間行動論
担当教員	細馬　宏通
授業概要	本年度はメディア史のひな形として、アニメーション史を取り上げる。アニメという一つの文化が、閉じられたものではなく、大道芸、映像史、産業史などさまざまな要因と絡み合いながら発達していく複雑な歴史であることを明らかにする。こうした文化の発展が、それを求める人々の欲望とどのように関係してきたかについても考察する。
到達目標	わたしたちに身近なコミック、アニメーションが、20世紀初頭の文化によってどう規定されてきたか、それに現在の表現がいかに負っているかを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:とくになし
成績評価	リスポンスペーパー(50%) 期末レポート(50%)によって評価する。

科目名	人間文化論Ａ
担当教員	黒田　末壽
授業概要	私たちの身体は、自然の産物で栄養と運動で自然的に成長し老いるように思われがちだが、社会と文化の影響を強く受けるように設計されている。会話している人間同士は、無意識のうちに表情や動作を同調させているし、身体の動かし方や他者との距離の取り方も身近な人々から倣ってしまう。この講義では、このような身体のありかたを学び、私たちの身体が生まれながらにして社会的であるという認識のもとに、文化の機能や継承について考察する。
到達目標	人間の身体に関する社会学・文化学・進化学による基本知識を獲得し、自文化による身体の規定や自己の身体に対する価値観を相対化する力を獲得する。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:メルロ・ポンティ『知覚の現象学』、三浦雅士『身体の零度』、市川浩『〈身〉の構造: 身体論を超えて』、エドワード・ホール『かくれた次元』 参考書:マルコ・イアコボーニ『ミラーニューロンの発見』、養老孟司『日本人の身体観』など。
成績評価	3ないし4回のレポートで評価する(100%)。授業内容にもとづき自分で観察・調査をしてレポート提出。身体に関して多面的な考察ができる能力を重視する。

科目名	人間文化論Ｂ
担当教員	武田　俊輔
授業概要	私たちが普段「当たり前」と感じている生活や文化のありように、社会学やカルチュラル・スタディーズの視点から光を当てる。一般には「民俗学者」として考えられている柳田国男の『明治大正史世相篇』をはじめとする幾つかのテクストを，社会学の視点から読み解きながら，柳田が明治大正の社会に向けた視点を現代に応用して見えてくることを通して、具体的な生活の場から出発して「社会」の仕組みを明らかにするための視点を身につけてもらう。
到達目標	「歴史を振り返る」という作業を通して、身のまわりの出来事を「絶対化」するのではなく、客観化・相対化する視点を身につけること。自分たちの社会がどのようなものか、そして自分たちが無意識のルールや規範をどのようにして当たり前のように植え付けられ、またそうしたルールや規範、意識を作り出しているかについて、理解する視点を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:柳田国男，1931→1993,『明治大正史世相篇』講談社学術文庫 指定図書:船曳建夫，2000,『快速リーディング　柳田国男』筑摩書房 参考書:佐藤健二，2001,『歴史社会学の作法　戦後社会科学批判』岩波書店
成績評価	期末レポート(100%)に、毎回の講義後提出してもらうレスポンス・カードの内容を平常点として加味。なおレスポンス・カードの内容は加点要素とする(減点はしない)。

科目名	人間文化論Ｃ
担当教員	面矢　慎介　・　印南　比呂志　・　松嶋　秀明　・　福渡　努　・　廣瀬　潤子
授業概要	この授業では、まず現代の家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を4回行う(松嶋)。次に住宅は家族の生活の容れ物であるが、その住宅の中の暮らしがどう変わってきたのかを5回講義する(面矢・印南)。そしてかつては食事は家族でとると決まっていたのだが、現代の食事は家族以外の人と、家以外の場所でとられることも多い。ここで家族と食事との関係を4回講義する(福渡・廣瀬)。
到達目標	(松嶋)①家族をみるための視点を身につけること。②現代的社会問題を家族との関連で理解すること。 (面矢)伝統的な住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。 (福渡)今後、日本人はどのような食生活を送るとよいのか、自分の考えを持つこと。 (廣瀬)自身の食生活を客観的に評価できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし
成績評価	各教員に提出されたレポートによって行う。松嶋33%、面矢・印南33%、福渡・廣瀬33%。ただし、授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	認知心理学
担当教員	上野　有理
授業概要	私たち人間は、実に複雑な行動をする生物である。授業では、人間のさまざまな行動や心の働きを科学的に読み解く視点を紹介する。実際の人間の行動や、他の動物の行動を例にあげ、行動や心の働きのしくみについて理解を深めることを目指す。
到達目標	人間の行動や心の働きのしくみを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は授業内で適宜紹介する。テキスト、指定図書はなし。
成績評価	レスポンスペーパー(30%)と期末試験(70%)で評価する。

科目名	農耕社会論
担当教員	ブレンサイン
授業概要	広大な農村を抱える中国社会は、古今を問わず農民によって動かされてきた。その原動力の裏にはどんな仕組みが存在するであろうか。本講義では、農耕と文明との関係など、基礎的な知識を簡単に回顧したうえで、主として中国の農耕社会とその影響を受けて形勢された周辺地域の農耕社会を比較しながらアジアの農耕社会の仕組みを見ていきたい。また現代中国の農村問題にも着目していきたい。
到達目標	本講義では、世界最大規模の農耕社会を抱える中国の農村の社会構造を歴史的に整理したうえで、農耕大国中国の現状を理解できることを目指したい。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は適宜紹介する。
成績評価	中間レポート30％、質問票10％、期末試験60％（欠席数が1／3を超えた場合は評価の対象としない）

科目名	博物館学各論Ｂ
担当教員	亀井　若菜　・　未定
授業概要	博物館の具体的な問題について講義する。博物館と情報・博物館資料論などについて解説する。Aでは自然科学系博物館、Bでは人文系博物館について中心的にとりあげる。また博物館の現地見学も実施する。
到達目標	博物館の展示・情報・資料などについての基本的な知識の取得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『新しい博物館学』芙蓉書房出版
成績評価	レスポンスカード50％・レポート50％

科目名	発達支援論
担当教員	竹下　秀子
授業概要	発達支援のための基礎理論を講じたのち、対象理解の具体的な方法としての発達診断や発達支援の技術について、さまざまな現場の実践例を踏まえて概説する。
到達目標	出生から続く生涯発達の過程において、主体の発達を援助する理念、方法や技術、制度がどのように共有されてきたを理解し、今後のあり方を考える。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業中に適宜配布、紹介する。 指定図書:授業中に適宜紹介する。 参考書:授業中に適宜紹介する。
成績評価	レスポンスペーパーの提出、授業での発言、討論への参加（原則50％）、期末試験（原則30％）およびレポート（原則20％）による。

科目名	発達心理学Ⅰ
担当教員	上野　有理
授業概要	私たち人間の子どもは、他の動物に比べ未熟な状態で生まれてくる。しかし子どもは全く無力な存在ではなく、さまざまな認知機能に支えられて外界の物や人と関わり、学び、発達していく。授業では、とくに乳幼児期に焦点をあて、子どもの認知発達を紹介する。これにより、ときに大人とは異なる、子どもの行動や心の働きの理解を深めることを目指す。
到達目標	子どもの行動や心の働きのしくみを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書は授業内で適宜紹介する。テキスト、指定図書はなし。
成績評価	レスポンスペーパー（30％）と期末試験（70％）で評価する。

科目名	発達心理学Ⅱ
担当教員	竹下　秀子
授業概要	学校生活での勉強や、友達や教師のとの人間関係、親からの自立をめぐって、現代の子どもたちはどのように少年期を乗り越えていくのだろう。この時期の人格発達を、認知的発達の諸側面とともに、他者や諸処の社会的集団と如何なるかかわりが形成されるのか、属する社会集団で自我・自己がどのように形成されていくのかについて焦点をあてて論じ、教育的人間関係と社会的援助のあり方をさぐる。
到達目標	他の霊長類と比べて特異的に長いヒトの少年期の心の発達特性を、社会的・文化的要因との関連において理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：授業中に適宜配布、紹介する。 指定図書：授業中に適宜紹介する。 参考書：授業中に適宜紹介する。
成績評価	レスポンスペーパーの提出、授業での発言、討論への参加（原則50％）、期末試験（原則30％）およびレポート（原則20％）による。

科目名	比較衣装論　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	現代の日本の服飾は西洋に源をもつ。西洋の服飾は長い伝統をもち、いつの時代にも人々の日常に深く関わり、時代の変革に敏感に反応しながら変遷を遂げてきた。18世紀から現代までの西洋の服飾史を、スライド、ヴィデオなどで具体的な事例を取り上げながら、人間のありようを表象するファッションについて考察する。また、西洋の服飾が日本に導入された過程や、19世紀後期以降日本の服飾が西洋の服飾に影響を与えたジャポニスムを事例として取り上げ、ファッションにおける東西文化の交流をみる。
到達目標	現代衣服の礎となる西洋の服飾について歴史的、比較文化論的に考えていくことを通して、衣服や〈着る〉という行為と社会とのかかわりの多様さを知り、一つの題材をさまざまな視点から考察する能力を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：深井晃子監修『カラー版　世界服飾史』美術出版社1998年（増補版が2010年出版予定） 指定図書：『時代を着る：ファッション研究誌「DRESSTUDY」アンソロジー』 京都服飾文化研究財団
成績評価	レスポンスペーパー60%（5コマごとにそれまでの授業内容についてレスポンスペーパーを提出してもらう）、期末レポート評価40%（授業のまとめや感想ではなく、授業で学んだ内容を生かして自分なりの問題設定をしたレポートとする） ※全授業時間数の3分の2以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	比較社会文化論
担当教員	中村　好孝
授業概要	今日の私たちの生活について理解するためには、グローバルな観点がますます必要となっている。本講義では、経済、政治、商品、人、文化などを、グローバルに社会学的に分析している諸論点を見ていく。
到達目標	第一に、身近な社会現象を相対化する必要性を知り、その方法を学ぶ。第二に、身近な社会現象についてグローバルな観点から見ることができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	通常はレジュメを配布する。参考図書については適宜紹介する。
成績評価	期末試験85%、レスポンスペーパー15%

科目名	比較宗教論　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	本講義は、統一性と多様性という視点から世界宗教について理解を深めることを目的とする。前半は、世界宗教の起源と発展の過程、基本的な考え方について概観する。後半は、東南アジアにおける宗教、特にイスラームと国家、社会、文化、異宗教の関係について検討する。なお、受講生の理解を深めるため適宜、各テーマに関連する新聞記事や映像資料を使用する。
到達目標	①世界宗教に関する基本的な知識を獲得する。 ②世界宗教をめぐる多様な現象を理解する。 ③①と②を通じて複眼的、相対的な視点から宗教を理解する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：なし。 参考書：講義中に適宜紹介。
成績評価	レポートで判断する。

科目名	比較住居論
担当教員	山根　周
授業概要	世界には、生態や文化、社会の違いにより、地域に固有な（ヴァナキュラーな）さまざまな住まいが存在する。ヴァナキュラーな住まいの空間について、世界各地の事例を紹介しながら、その形式や技術、住まいに対する思想について解説するとともに、風土、歴史、文化、社会制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。
到達目標	世界の多様な住居のあり方を学び、「住む」という行為の持つ意味と、住まいの空間について、地域に固有な構成原理を考察し、相対的位置づけができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布。 参考書：①布野修司編『世界住居誌』昭和堂 2005、②布野修司編 アジア都市建築研究会著『アジア都市建築史』昭和堂 2003、③B.ルドフスキー著 渡辺武信訳『建築家なしの建築』鹿島出版会 1984　他。
成績評価	レスポンスペーパーとレポート（小レポート2～3本／期末レポート1本）により評価。成績への寄与率はレスポンスペーパー30%, 小レポート合計30%, 期末レポート40%。小レポートと期末レポートをすべて提出していることが、成績評価の前提。

科目名	比較食文化論
担当教員	的場　輝佳※　・　堀越　昌子※　・　菅谷　文則※
授業概要	食物と生活との関係を、食文化を背景にして自然科学的および人文学的視点から講義する。地球上で起こる食物連鎖の様相を解説し、連鎖の中点に立つ人間の食生活の歴史的変遷を教育することにより、我々の食環境の未来像を考える手がかりとなる情報を提供する。滋賀県をはじめ世界各地の風土で育まれてきた伝統的な食文化を学び、将来の食への展望を持つ。人類の歴史と食との関係を知ることによって、食文化の変化・発展を理解し、将来と現代の食文化の問題を理解する。
到達目標	我々の食環境についての未来像を考えることができる
テキスト 指定図書 参考書	参考書:「ふなずしの謎」
成績評価	レポート(50%)、小テスト(50%)

科目名	比較道具論
担当教員	面矢　慎介
授業概要	比較文化の視点から道具を考察する基本的視点の解説。個別的文化をこえて生活道具の多様性を理解するため、世界各地の生活用具をとりあげて日本の生活用具と比較し、その相違をもたらした文化的・技術的背景について考察する。日本および世界各地の伝統的道具ばかりでなく、近代化以降の道具、大量生産による現代製品についても取り上げる。比較の対象領域としては、わが国の近代化以前の道具文化との関連の深い朝鮮半島、および近代化以後の主要な文化移入元のひとつであった英国、第二次世界大戦後の工業製品において日本に強い影響をもたらした米国などを中心とする。
到達目標	生活文化と道具デザインの密接な関係についての認識を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回プリントを配布 指定図書:道具学会・道具学叢書編集委員会「道具学への招待」(ラトルズ)、村瀬春樹「おまるから始まる道具学」(平凡社新書)　その他の参考書:初回授業時に文献リストを配布
成績評価	コメントカード(10%)と小レポート(3本, 計30%)。期末レポートにより評価。 期末レポートは出題から提出まで約2ヶ月で、成績評価への寄与率60%。授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	比較認知発達論
担当教員	竹下　秀子　・　上野　有理
授業概要	ヒトの知性はどのように進化してきたのか。なぜそのような進化が生じたのか。チンパンジーやニホンザルなど、ヒトを含めた霊長類の行動や認知の発達を比較する研究を紹介し、ヒトの発達と進化について論じる。
到達目標	ヒトの知性の発達を生物進化という側面から理解し、ヒトが育つ社会・文化のあり方を考える。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:授業中に適宜配布、紹介する。 指定図書:授業中に適宜紹介する。 参考書:授業中に適宜紹介する。
成績評価	レスポンスペーパーの提出、授業での発言、討論への参加(原則50%)、期末試験(原則30%)およびレポート(原則20%)による。

科目名	比較文学論
担当教員	伊崎　孝幸※
授業概要	本講義では、漢詩を主たる題材としながら、日本と中国の文学を比較し、それぞれの文学的特徴およびその影響関係について考察する。漢詩、漢文は今でこそ馴染みの薄いものとなっているが、かつては日本においても文芸に携わる者にとって必須の教養の一つであった。漢詩文の知識を抜きにして日本の文学を語ることはできない。日本と中国双方の漢詩を歴史的に概観し、それを比較することで、日本文学における漢詩の重要性についてあらためて考えることにしたい。
到達目標	日本および中国における漢詩の歴史的な流れを理解し、それぞれの文学的特徴を把握するとともに、その影響関係について理解を深める。また漢詩を読むうえで必要とされる基礎的な知識を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業中に適宜紹介する。
成績評価	レポートによる。ただし、3分の1以上欠席した者は評価の対象にしない。

科目名	比較文化論（地域文化）
担当教員	黒田　末壽
授業概要	アフリカの狩猟採集民、農耕民、牧畜民のいくつかの社会を取り上げ、日本や他の地域の社会と比較しながら社会、文化、生業とはなにかを考え、人間の生き方の多様性を学ぶ。「比較」という言葉があるが、文化間の「比較の視点」の獲得が問題ではない。異質なものに出会ったとき、「自」文化の揺らぎを感じている。この過程を意識化し、それをどうとらえ引き受けていくのかを問題にする。人間の生き方に多様性を知り、自己の人生との関連で想像をめぐらせる、そういう自己の相対化と可能性の追求をして欲しい。
到達目標	社会、文化、生業の面から人間の生き方の多様性を学び、自文化と他文化を対等のものとして尊重する思想を理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:レヴィ＝ストロース著『野生の思考』(みすず書房) 参考書:河合香吏著『野の医療』、田中二郎著『最後の狩猟採集民』、松田素二著『日常人類学宣言』、佐藤俊著『レンディレ』など、適時紹介。
成績評価	3回程度のレポートを総合して評価する。講義での課題の理解および自文化の相対化をはかる態度・能力を問う。

科目名	比較文明論
担当教員	定森　秀夫
授業概要	古代文明の発生・展開・消滅の過程から、現代文明の未来を展望してみたい。古代文明にはエジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・中国文明の四大文明があり、新大陸にはインカ ・マヤ・アステカ文明などがよく知られているが、その他に多様な文明が知られるようになってきた。本授業では、古代文明の相互の比較検討を通して、文明相互の共通性と相違性を認識し、時代と地域を越えて文明の融合は可能なのか、もし融合が可能でないとしたら、文明間の相互理解はどのようにしたら可能なのか、を考えていく契機を提供したい。
到達目標	1. 古代文明の内容を理解する 2. 古代文明と現代文明を時代と地域を越えて比較検討できるようにする 3. 文明間の相互理解のための方策を考える
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント資料を配布する 参考書:授業中に紹介する
成績評価	講義理解度60％　レポート(小レポート2回・期末レポート)40％　で成績評価

科目名	美術史
担当教員	亀井　若菜
授業概要	この授業では、日本中世の絵巻や近現代の絵画、広告に表された女性像に注目し、その表現の意味や意図を考えていく。絵の中で「女性」は、美しくも描かれれば、醜く、あるいは性的にも描かれる。男性主導の社会で「他者」と位置づけられる女性の姿を、どのような状況にいた者が、そのような姿として描き、眺めたかったのかと考え、その作品が作られた社会的な文脈を探っていく。またそのような女性像に対する女性の側からの読み直しや、女性が描いた女性像も取り上げ考察する。
到達目標	美術作品の表現の意味を、社会的な文脈から考えられるようになることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業でその都度紹介する。
成績評価	授業の簡単な感想文(数回分)(40%)、期末試験(60%) 授業では毎回パワーポイントを使って画像を提示する。履修者は授業に出席してそれらをよく見、作品が何を見せようとしているのかを自分でも考えていくことが求められる。

科目名	美術史概論
担当教員	亀井　若菜
授業概要	この授業では、日本美術の中の絵画を主な対象として扱い、絵画を通して人がいかに自己のアイデンティティを確立し確認したのかを考えていく。絵の中には、絵を作った人の理想とする美しい姿や世界が描かれる一方で、その人にとっての「他者」が貶められた姿で表象されてもいる。そのような自己像・他者像を作り見ることで、人は自己のアイデンティティを構築・確認する。美術の中の自己像・他者像を分析し、その表現の意味や意図を探っていきたい。
到達目標	美術の意味を、社会的な文脈から考えられるようになることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業でその都度紹介する。
成績評価	授業の簡単な感想文(数回分)(40%)、期末試験(60%) 授業では毎回パワーポイントを使って画像を提示する。履修者は授業に出席してそれらをよく見、作品が何を見せようとしているのかを自分でも考えていくことが求められる。

科目名	病態生理学実習
担当教員	高山　博史
授業概要	2回生年度の「人体の構造と機能」の講義の続編を前半に行い完了したのちの後半に実習を行う。 ヒトの解剖生理の理解と共に疾患の病態生理を把握するために必要な知識を得た後、尿を用いた検査や生理学的な実習、マウスを用いた解剖、血液細胞の観察を行う。それにより臨床における様々な疾病異常の病理病態を理解する。なお、これまで行っていた人体解剖実習の見学は見学施設の事情により中止となった。今後の再開の可能性については未定である。
到達目標	生体の構造と機能、評価方法について理解、修得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回参考となるプリントを配付する 参考書:佐藤達夫他著「解剖生理学」(医歯薬出版) 椙江　勇他著「解剖生理学ム講義と実習」(南江堂)
成績評価	実習毎のレポート20%　講義後の課題のレポート80% 欠格条件(授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない)

科目名	病態評価と治療
担当教員	高山　博史
授業概要	病態評価のための診察の仕方、症候のみかた、臨床検査のみかた、疾患治療の概要などを理解する。 各種疾患の発症後の病状の進展、増悪、合併症の併発の過程を学び。各々における重症度判定、病期分類の基本と考え方、それらに基づいた薬物治療、外科療法、食事療法、運動療法の理論と実践について講義する。
到達目標	疾患の病態とその評価方法、治療について理解、修得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：そのつどプリントまたは資料を配付
成績評価	期末筆記試験70％　講義後の小テスト30％ 欠格条件（授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない）

科目名	服飾環境論
担当教員	道明　美保子
授業概要	衣服は人間に最も接近する環境としてその重要性が認識されている。本講義は人間と服飾環境とのかかわり方を温熱環境への適応、汚染への対応、安全性の3つの測面から捉える。特に汚染への対応については、洗浄による機能性の回復、機能性の保持と保管、さらに環境問題にも言及し、健康な服飾環境のあり方を考える。
到達目標	人間と服飾環境とのかかわり方を科学的視点で捉えることができ、健康な服飾環境のあり方を考え実行出来る能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：適宜紹介 参考書：適宜紹介
成績評価	レポート評価30％　期末筆記試験70％ 授業時間数の3分の1以上欠席した者は、評価対象にしない。

科目名	服飾心理学
担当教員	未定
授業概要	被服はしばしば第二の皮膚であるといわれる。本講義では、被服や身体装飾に関する装いの行動を、特に社会心理学的、・消費心理学的に考察する。またそのような考察を通して、ファッションにかかわる現代人の心理を探究する。装い、服装、流行、おしゃれ、化粧、変身、人、感性、などがキーワード。＜授業の概要＞服装の流行現象と流行行動など、情報伝達手段としての服装、服装と印象など、服装心理学について、服装文化の順守と革新、成熟社会における「おしゃれ」の消費心理、など
到達目標	装いとファッションの問題を、(1)心理学、家政学、マーケティング論などの学際的領域として理解すること。(2)人間の行動を理解するための対象として理解すること。(3)人間の生活を理解するための対象として理解すること。(4)企業の利益獲得のための対象として理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：神山進編集「被服行動の社会心理学」（ｼﾘｰｽﾞ21世紀の社会心理学8）北大路書房1999年 指定図書：神山進・大坊郁夫（編）『被服と化粧の社会心理学」北大路書房1996年、中島義明・神山進（編）『被服行動の社会心理学』（人間行動学講座1：まとう）朝倉書店1996年
成績評価	講義への出席と授業時に行う4回の論述テスト、講義終了時の通常の試験期間に行う試験による。論述テスト40点、学期末テスト60点で採点し、評価される。

科目名	服飾造形論
担当教員	森下　あおい
授業概要	この授業では主に機能性に関わる衣服造形の知識を学び、パターン設計やデザインの知識を深める。さらにアパレルにおける衣服の生産工程の流れから、服飾の製品特性と課題について論じる。
到達目標	1.人体の形態と衣服の関係を理解する 2.アパレル設計における生産システムを学ぶ
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜、資料を配布します。
成績評価	小レポート(60%)期末レポート(40%)

科目名	服飾デザイン演習Ⅰ
担当教員	法月　紀江※
授業概要	服飾における《ものづくり》の実際である《発送から縫製》の体験を通し、《デザイン》について考える。
到達目標	《デザインすること》の意味を確認し、これからの服飾デザインに必要な《しなやかなデザイン力》を養う。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「服飾造形学　技術編1」 三吉満智子監修 （文化出版局）
成績評価	製作提出物に対する評価70%　小テスト30%

科目名	服飾デザイン演習Ⅱ
担当教員	森下　あおい
授業概要	この授業は、前半では原型からデザインを展開し、パターンメーキング、体型に対する修正、縫製を各自が行い、服飾造形のプロセスを学ぶ。後半の課題は市場調査を行いながら進める。特にテーマに対して分析的に考察を行い実践的なデザイン力を養う。
到達目標	1. 衣服制作の基礎的技術を習得する 2. デザイン創出の実践力を養う
テキスト 指定図書 参考書	参考書:「ファッションデザイン画コース」 Caroline Tatham・Julian Seaman（文化出版局）
成績評価	提出課題の作品50%、レポート50%%で評価します なお授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	服飾デザイン演習Ⅲ
担当教員	道明　美保子　・　中川　正久※
授業概要	染色加工は素材の最終工程で、その製品に審美性と機能性を付与するもので有る。本演習では、講義による知識の理解を深め、実験・演習の技術や技能の習得をめざすとともに、結果の観察・推察から考察能力を養う。
到達目標	(1)染色学の基礎実験方法の一部を習得し、得られた結果の考察ができるとともに科学実験レポートが書ける。 (2)各種の基礎染色技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	レポート評価50％　制作態度と完成作品提出50％ 授業時間数の3分の1以上欠席した者は、評価対象にしない。

科目名	服飾デザイン演習Ⅳ
担当教員	森下　あおい
授業概要	この授業では地域や現代社会に目を向けた服飾デザインの問題を課題のテーマとし、コンセプトの構想からデザインアイデアの創出、制作、提案までのプロセスを学ぶ。授業の課題はヒアリングや市場調査を行いながら進める。特にテーマに対して分析的に考察を行い実践的なデザイン力を養う。
到達目標	1. テーマに対する情報収集と問題の分析力を養う 2. デザイン創出の実践力を養う
テキスト 指定図書 参考書	参考書:授業内で紹介します
成績評価	提出課題の作品50 %,レポート 50％ なお授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	服飾デザイン論
担当教員	森下　あおい
授業概要	服飾デザインはひとつの時代の社会や文化によって創られる。この授業では、歴史的な変遷に基いた服飾デザインの事例、社会現象を取り上げながら、衣服の構成、機能性、身体性、装飾性についてデザインを論じる。さらに服飾と感性との関連など、広く生活デザインに関係するテーマにも言及し、服飾デザインの理解を深める。
到達目標	1.服飾デザインの目的と創造性を社会と人間との関係から理解する 2.服飾デザインの構成要素を理解する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜資料を配布します 指定図書:「被服デザインの体系」(第2版), 伊藤紀之著, 三共出版株式会社
成績評価	小レポート(講義中)60％　期末レポート 40％

科目名	プレゼンテーション技法
担当教員	印南　比呂志　・　南　政宏
授業概要	デザイン、建築、映画、アートなどさまざまな表現手法について、それらの専門分野毎に制作作業のプロセスや、基本的技術、考え方などを講義する。グラフィック分野の編集工学として、タイポグラフィ、写真、印刷、造本、映像、DTP、WEBなどの分野の表現技術について学ぶ。また立体表現手法については、スタディモデルから、プロトタイプモデルまでの制作過程を実際に実演しながら説明していく。講義テーマによっては現場で活躍する専門家を外部講師として招聘する。演習授業ではなく、講義形式の授業ではあるが、常に実践事例をもとに講義をすすめていく。
到達目標	(1)ものごとをわかりやすく魅力的に説明、表現するための考え方を身につける。 (2)世の中の様々な表現手法の価値を理解できるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:特になし。
成績評価	レポート課題により評価する。

科目名	文化財・保存修景論Ａ
担当教員	濱崎　一志　・　井口　貢※
授業概要	歴史的環境を構成する地域文化財の保存・修景・活用について論ずる。前半では濱崎が、歴史的環境を構成する地域文化財、町なみや集落、遺構、遺跡などを調査し、その現代的意義を再評価し、現在の生活空間に再生させ活用するために、その保存や修景の方法と、保存・修景することの意義について、海外や国内の具体的な例をあげながら論ずる。後半では井口が、文化財や街並み、生活遺構、産業遺産などを活用した地域振興（まちづくりや観光振興を中心に）の実態や望ましい在り方について考察していく。
到達目標	地域文化財の調査、再評価、保存・活用を通してまちづくりのあり方について考える能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配付 参考書:井口貢『観光文化の振興と地域社会』ミネルヴァ書房
成績評価	期末レポート　80% レスポンスペーパー20%

科目名	文化財・保存修景論Ｂ
担当教員	中井　均
授業概要	人類の歩んできた歴史を示す文化財はどのようにして今日まで残されてきたのか。そこには近代以降の法整備が重要な役割を果たしてきた。その理念と実情について学ぶ。とりわけ開発行為と表裏一体で破壊、消滅の危機に直面しているのが埋蔵文化財である。ここでは埋蔵文化財の保護を行政の立場でいかに取り組まれてきたのかを検証する。また、近年人類共通の遺産として注目されている世界遺産について、特にアジアの世界遺産を題材として保護や修復について紹介する。
到達目標	文化財保護の精神を身につけ、文化財活用の必要性を理解すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:毎回プリント資料を配付する。 参考書:講義の中で紹介する。
成績評価	期末筆記試験　80%　文化財保護法の理念を理解し、各地におけるその保護・活用への努力が理解できていること。 レポート等　　20%

科目名	文化財情報論
担当教員	濱崎　一志　・　石川　慎治
授業概要	文化財に関する視覚的な情報をどのように取り扱うかについて講義する。3次元モデルの構築、レンダリングやアニメーションの作成、2次元画像情報の処理、空間属性をもつ史料の処理などを，AutoCAD、3D Studio、Arc GISを用いて実際にデータを入力しながら説明する。
到達目標	文化財に関する情報を処理する能力と、視覚的に表現する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配付
成績評価	毎回課する課題に対する評価　100％

科目名	文化社会学
担当教員	武田　俊輔
授業概要	本講義は，近現代の日本における観光や開発，地域おこしと呼ばれる現象が，地域社会とそこに住む人々に対してどのような影響を与えるのかについて，地域社会における「伝統的」とされる芸能や祭りの変化，そしてその担い手である地域住民の暮らしの変化を切り口として，考えていく視点を手に入れてもらうことをねらいとしている。芸能を手がかりとした講義だが，芸能そのものへの美学的関心というより，地域社会における政治的・経済的な状況，観光や地域振興と地域文化とを結びつけて考えていくことに対する関心を持つ人向けの講義である。
到達目標	「伝統的」とみなされている諸文化が、近現代の地域社会の経済的・政治的状況においてどのように流用されているのか、またそうした動きが地域社会にどのような影響を与えているのかについて把握することを通じて、地域社会が抱える困難と模索の可能性を考えるための視点を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書：岩本通弥編著,2007,『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館.
成績評価	期末レポート（100％）。これに毎回の授業後に提出してもらうレスポンス・カードによる加点あり（減点なし）。

科目名	文化人類学概論Ａ
担当教員	島村　一平
授業概要	文化人類学は，異文化理解のための学問であると同時に、自文化理解のための学問でもある．国境を越えて様々な人々が行き交う現代，文化人類学が生み出してきた異文化理解の方法論は，益々，重要性を持つものだと考えられる．俗に日本の常識は世界の非常識という。「世界の常識」というものが存在するかどうかは不明であるが、皆さんの身の回りの「常識」は、果たして「常識」なのだろうか。本講義では、こうした「常識」の自明性について再考し、「あたりまえ」的思考からの脱却をめざす。
到達目標	指定したテキストの内容に準じて，文化人類学の基本的なものの考え方を理解することを目的とする．
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：波平恵美子（編），『文化人類学』カレッジ版，医学書院 参考書：山下晋司，船曳健夫編『文化人類学キーワード』，有斐閣
成績評価	試験60%　　レポート40%

科目名	文化人類学概論Ｂ
担当教員	棚瀬　慈郎
授業概要	文化人類学という学問についての全体的な見通しと、主なトピック、学説史についての知識の獲得を目指す。
到達目標	文化人類学において蓄積されてきた親族関係および社会的交換についての研究を概観する。また人類の、その環境に対しての適応のあり方を実例によって検討する。最後に「死」を巡る儀礼や祖霊観について考察する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：波平恵美子（編）『文化人類学』カレッジ版　医学書院 参考書：山下晋司、船曳健夫(編)『文化人類学キーワード』有斐閣
成績評価	試験による（100％）

科目名	文化人類学特論　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	本講義では、文化人類学的フィールドワークや理論の最前線を論じる。 モンゴル高原を例に、映像や人々の語りを分析することで遊牧世界における都市の存在を理解することを目的とする。「医療」を一つのフィールドとして取り上げ、日本やラオスなどの国内外のエピソードの紹介しながら、それを人類学的に理解することを試みる。イを事例に仏教国タイの中で少数派であるイスラーム教徒やタイの多文化主義について、最新のフィールドデータをもとに講ずる。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜、配布する。
成績評価	レポートで評価する。

科目名	分子生物学基礎
担当教員	福渡　努
授業概要	生命現象を分子レベルで解明かす分子生物学について、基礎的な内容の解説を行う。近年の目覚しい生命科学の発達には分子生物学が大きく寄与している。遺伝子工学（バイオテクノロジー）、遺伝子組換え植物、遺伝子治療、DNA鑑定、クローン生物、ヒトゲノム計画、ゲノム創薬など分子生物学を応用した技術が広汎に利用されている。本講義では、まず分子生物学に関する原理と基礎知識について説明し、さらに代表的な応用技術について解説する。
到達目標	(1) 遺伝子の構造と発現様式について説明できること。 (2) 生命現象が分子によって調節されていることを理解できること。 (3) 分子生物学的手法を用いた応用技術について説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント配布 指定図書：井出利憲著「よくわかる分子生物学の基本としくみ」（秀和システム） 参考書：ブルース・アルバーツ他著「細胞の分子生物学第5版」（ニュートンプレス）
成績評価	レスポンスペーパー 15％　レポート評価 20％　期末定期試験 65％

科目名	法学概論（国際法を含む）
担当教員	初谷　良彦※
授業概要	本講で学ぶのは、主として「憲法」「民法」「国際法」である。憲法の底流となっている思想家たちの魂が時代を超えて私たちを打ってくる内容をよく学ぶことによって憲法に対する理解を深めるとともに、憲法の視点から民法を考察していく。国際法は、これからの日本が、国際社会とどのように付き合っていくべきなのか、ヒントを与えてくれるだろう。不世出の大思想家坂本竜馬は国際法に興味を持っていたというエピソードがある。竜馬は国際法をもとに何を考えていたのだろうか。
到達目標	(1)裁判例や学説に対して理解を深めること。 (2)インターネットや電子辞書をみて勉強するのはほどほどにした方がよい。思考能力を阻害する。大学は学ぶところである。図書館等で書物を繙（ひもと）き、予習、復習をきちんと行い、目標を達成してして欲しい。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：中島史雄他『新法学レッスン』（成文堂） 指定図書：島田征夫『国際法』（弘文堂） 参考書：随時紹介する。
成績評価	小試験40％（7回）、中間試験20％（1回）、期末試験40％（1回）

科目名	マーケティング論
担当教員	宮尾　学
授業概要	この授業では，我々の生活に密着している，企業のマーケティング活動について考えます。企業が価値を生み出すためには，消費者との接点をマネジメントし，自社の製品やサービスの良さを消費者に納得してもらう必要があります。そのための方法が，マーケティングです。この授業では，これらのマーケティング論のエッセンスを学び，ビジネスで必要となる分析能力や問題解決能力を身に付けることを目標とします。
到達目標	マーケティングの諸理論を理解し，状況の分析と問題解決ができるようになることを目標とします。
テキスト 指定図書 参考書	教科書：石井淳蔵・廣田章光（2009）『1からのマーケティング 第3版』碩学舎。
成績評価	期末試験50％と，授業中に行う課題50%で評価します。

科目名	民俗学
担当教員	市川　秀之
授業概要	－「近江の民俗」再考－　民俗学はわれわれが過ごしている日常生活の意味を問い直す学問である。滋賀県の民俗は、古くから多くの民俗学者の研究対象となり、そこからさまざまな民俗学的知見が生成されてきた。宮座論・環境民俗学など滋賀県を母胎として誕生した研究領域も多い。この授業では、過去の研究や調査成果を紹介し、近江の民俗を概括的に解説するとともに、近年の研究成果についても紹介し、新たな「近江の民俗」論へと向かう視座を提示していきたい
到達目標	(1)民俗学の基本的な概念を理解すること (2)民俗を通じて近江の地域性を理解すること
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし。毎回プリントを配布
成績評価	レポート（1回）　20％　期末試験　40％　毎回授業後のレスポンスカード　40％

科目名	民俗学実習
担当教員	市川　秀之
授業概要	民俗学の基本的な実務の習得をめざす。具体的には民具の観察・実測、石造物の調査、聞き取り調査、祭礼観察調査などの実習を行う。
到達目標	(1)民俗学研究に必要な実測技術、拓本技術などを習得すること。 (2)聞き取り調査、祭礼などの観察調査を計画的に実施することができること。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:『民俗調査ハンドブック』・『民具調査ハンドブック』ともに吉川弘文館
成績評価	提出図面・拓本(30%)・レポート(40%)・発表内容(30%)

科目名	モンゴル語Ⅰ
担当教員	島村　一平　・　未定
授業概要	モンゴル語は、日本語と文法構造が似ており、日本人には非常に学習しやすい言語である。本講義では、モンゴル語の基礎文法をマスターすると同時に、簡単な日常会話ができるようになることを目的とする。また、言葉を通して、現代モンゴル文化に対する理解を促進することをめざす。そのために学生の学習進度に応じて、教科書以外に映画やポピュラー音楽、民謡の歌詞などを教材に取り入れることも検討している。
到達目標	モンゴル語の日常会話と基礎文法の習得。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:温品廉三著『ゼロから話せるモンゴル語』三修社、塩谷茂樹、E. プレブジャブ『初級モンゴル語』大学書林。 指定図書:オトゴンプレブ、ヴァータル編著『蒙日辞典　モンゴル語ー日本語辞典』、国際語学社
成績評価	小テスト60%とレポート40%

科目名	モンゴル語Ⅱ（中級コース）
担当教員	内田　孝※
授業概要	「モンゴル語I」に引き続き、モンゴル語文法体系についての初中級レベルの知識を学習し、モンゴル語での文章読解能力と実用的なコミュニケーション能力を養成する。さらに、言語を通じて伝統的遊牧文化に対する理解を深めると同時に、現代モンゴルに関する幅広い知識を習得することを目指す。
到達目標	初中級レベルにおけるモンゴル語の総合的な文章読解力および会話力を習得すること。
テキスト 指定図書 参考書	指定図書:講義の中で適宜紹介する。 参考書:講義の中で適宜紹介する。
成績評価	前期試験40%(否定文と疑問文、格語尾、正書法を正しく理解していること)。後期筆記試験40%(辞書を用いれば文章を正確に読解できること)。その他20%(小テスト、復習プレゼンテーション、レポートなど)。授業時間数の3分の1以上を欠席した者は評価対象にしない。

科目名	モンゴル語史料（ウイグル式文字）講読
担当教員	ブレンサイン
授業概要	本講義では、内モンゴル自治区をはじめ中国領モンゴル人居住地域で従来から使用されてきたモンゴルの伝統的な文字―ウイグル式モンゴル文字―で書かれたモンゴルの歴史に関わる様々な文献を講読する。それにより、キリル文字を導入した1950年代以前のモンゴル国も含めたモンゴルの歴史や現代に関わる文献史料の講読を試みる。
到達目標	ウイグル式モンゴル文字で書かれた出版物を読むことを目標とし、モンゴル文字で書かれた歴史資料を解読できることを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	『モンゴル語基礎文法』フフバートル(著)インターブックス社、1993
成績評価	小テスト40％、期末試験60％（欠席数が1／3を超えた場合は評価の対象としない）

科目名	モンゴル地域文化論
担当教員	島村　一平
授業概要	本講義では，モンゴル遊牧社会が生み出した文化の魅力をさまざまな側面から描き出していきたい．扱う主なテーマは音楽，宗教，民族問題である。音楽に関しては、民族音楽のみならず，現代の都市の若者たちの間で流行しているポピュラー音楽から，現代モンゴル社会のもつ諸問題を概観していきたい。民族問題に関しては，ロシア，モンゴル．中国の三カ国に分断されて居住するモンゴル系の集団ブリヤート人の歴史と社会に焦点を当てて話を進めていきたい．中でもシャーマニズムとエスニシティの関係を中心に論じていく．
到達目標	モンゴル文化の諸側面を理解する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：小長谷有紀編『暮らしがわかるアジア読本　モンゴル』 河出書房新社 指定図書：松原正毅ほか編『ユーラシア草原からのメッセージ』、平凡社 参考書：クドリヤフツエフ著，蒙古研究所訳『ブリヤート蒙古民族史』紀元社
成績評価	試験60%、レポート40%

科目名	遊牧社会論
担当教員	島村　一平
授業概要	遊牧とは、季節によって自在に遊動しながら、家畜を放牧して生活する生業である。本講義では、モンゴル草原の遊牧社会を中心として遊牧社会の構成原理と現在における変容に関する諸問題を理解することを目的とする。モンゴル人は，顔はわれわれ日本人と似ていてもその文化や社会は、農耕社会を基層文化とする日本とは全く異なる。本講義では、さらにモンゴルの人々の暮らしや文化、社会などを紹介することで、現代日本に住む我々の文化や暮らしのあり方を比較考察していきたい。
到達目標	遊牧社会の基本的な構成原理と現代における変容を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：随時　レジュメを配布する。 指定図書：小長谷有紀『モンゴルの20世紀』中央公論社、金岡秀郎『モンゴルを知るための60章』明石書店。
成績評価	試験60%とレポート40%

科目名	量的データ解析論Ⅰ
担当教員	丸山　真央
授業概要	この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。具体的には、度数分布の記述、クロス集計表、統計的推測と仮説の検定、平均の差の検定、相関係数、偏相関係数と疑似相関といった基礎的事項についての解説を行う。あわせて統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計についての理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。
到達目標	(1)社会統計のデータを整理・分析する基礎知識(記述統計と推測統計の基礎)を習得する。 (2)統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎』(有斐閣)※生協等で購入すること。 指定図書:ボーンシュテット・ノーキ『社会統計学――社会調査のためのデータ分析入門』(ハーベスト社)。 参考書:授業中に指示する。
成績評価	リアクションペーパー・小テスト(50%)、最終レポート(50%)

科目名	量的データ解析論Ⅱ
担当教員	岡本　裕介※
授業概要	人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げる。
到達目標	各手法の基本的な考え方を身に着けるのが主たる目的であるが、計算の概要を理解したり統計パッケージの出力を見たりして各手法の誤用を避ける、研究事例や歴史を紐解いて具体的な問題意識との関連を考える、といったことも視野に入れる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義中に随時推薦する。
成績評価	レポート評価　100%

科目名	臨床栄養学Ⅰ
担当教員	福井　富穂
授業概要	医療分野での管理栄養士の職務の現状を理解するとともにその業務のあり方、必要性、医療チームにおける栄養士の位置づけなどを理解し、患者に対する食事療法の実際、栄養食事指導のあり方、食事摂取状況の把握と改善計画、診療録による情報の把握、栄養アセスメントに基づく栄養基準量の設定などの現状を把握する。傷病者に対する栄養管理・栄養指導の問題点や臨床における管理栄養士の業務について理解を深め、急性疾患および慢性疾患への栄養管理と現代の疾病構造、加齢、外部環境因子、生活習慣等について学ぶ。
到達目標	臨床栄養管理に必要な栄養アセスメントを行うための知識を身につけ、身体計測、各種の検査結果から現在の栄養状態や疾病コントロール状況を把握する能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:福井富穂他　イラスト臨床栄養学(東京教学社) 指定図書:渡辺明治他編　今日の病態栄養療法(南江堂) そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価20%:チーム医療における管理栄養士の役割を理解し、症例に対する栄養アセスメントができること。 期末筆記試験80%:傷病者に対する栄養管理、医薬品との相互関係の理解し療養に関する問題解決に応用できること。

科目名	臨床栄養学Ⅱ
担当教員	福井　富穂
授業概要	患者の病態、病状等の実態把握を行うとともに身体計測、各種検査の結果などに基づく適切な栄養アセスメントにより適切な栄養診断および栄養評価を行う。疾患ごとの具体的な栄養管理計画、あるいは栄養治療計画を立案し実践するための方法論について学ぶ。医療の現状を踏まえ、臨床栄養士としてクリニカルパスに参画し、トータルなケアプランに占める栄養評価、栄養管理の方法について具体的な事例、栄養食事指導例をもとに傷病者への栄養管理・栄養指導の問題点を見いだし、臨床の栄養管理について理解を深める。
到達目標	傷病者に対する個別の栄養アセスメントにより栄養ケア計画が作成できること、および経過観察（モニタリング）により再評価ができる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：福井富穂他　イラスト臨床栄養学（東京教学社） 指定図書：渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂）、灘本知憲他編　応用栄養学（化学同人） 注：そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価30％：疾病の特長を理解し、療養指導等に必要な栄養アセスメント、栄養ケアプラン及びモニタリングができること。 期末筆記試験70％：傷病者に対する個別の栄養管理、栄養食事指導など療養ケアプランに応用できること。

科目名	臨床栄養学実習
担当教員	福井　富穂
授業概要	栄養アセスメントに必要な体格指標の測定、生化学検査に基づく数値の変化、呼気ガス測定による安静時代謝量の測定など疾病時における臨床検査値の見方、読み方などを理解するとともに個別の治療栄養基準の策定、献立の作成、調理等実践的に理解する。また、傷病者に対する食事の提供は、患者の生活習慣や食習慣を尊重しつつ、病態、病状等の変化に応じた疾病治療のための食事の提供を行い、患者のQOLを低下させないよう配慮することを学ぶ。
到達目標	病状の改善、疾病の治療・回復など効果的な治療食について、献立立案するとともに実際に調理・試食し評価検討することによって、医療の場で活動するために必要な知識・技術を学ぶとともに医療人としての自覚をもち、傷病者等に対する栄養食事指導の実践を介して、カウンセリングに必要な技術を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂） 指定図書：日本病態栄養学会編　病態栄養ガイドブック（メディカルレビュー社） 参考書：日本糖尿病療養指導士認定機構編　日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック（メディカルレビュー社） そのほか適宜プリント等を配布する。
成績評価	レポート評価100％：傷病別の特長や患者心理などを理解し、個別の栄養ケア・プランの作成、栄養マネジメントの実態を把握し、個別の栄養評価に基づく栄養管理の課題に応えられること。

科目名	臨床栄養活動論
担当教員	吉田　龍平　・　赤尾　正※
授業概要	生活習慣病について第3次～第1次予防における生活習慣の改善に関する管理栄養士活動を学ぶ。治療・予防対策として自ら危険因子の軽減・除去および健康増進を図るヘルスプロモーションがすすめられている。医療分野で活動する管理栄養士にも幅広い医療人としての自覚と見識が求められている。臨床栄養活動の場を病院、診療所等に限らず、学校、事業所、福祉施設、あるいは地域住民を含め健康の維持・増進施策、特に食生活の改善による疾病予防、疾病の増悪阻止、快復等にどのように対応していくのか学ぶ。
到達目標	食べることを主として自らの健康管理が行えるよう、管理栄養士としての素養を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人） 指定図書：渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂） そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価20％：管理栄養士業務の概略を理解するとともに、現代社会の健康問題について個人的・社会的に考察し、栄養に関係する課題に応えられること。 期末筆記試験80％：現代社会における医療問題を管理栄養士の立場から個人や集団とどのように関わって改善していくのか考察する。

科目名	臨床栄養臨地実習Ⅰ
担当教員	福井　富穂
授業概要	病院や老健施設あるいは社会福祉施設において栄養部門業務の概略を知るとともに専門職としての活動内容、主に病態に応じた栄養管理計画、栄養食事指導について体験する。急性疾患や慢性疾患など早期の創傷治癒、あるいは社会復帰に向けての栄養補給の変化、クリニカルパスに基づくチーム医療の実施状況とくに他職種との連携について体験するとともに患者に対する身体計測を含めた栄養アセスメントの実際についても学び、適切な栄養ケアマネジメントを行うために必要な知識や技術について専門的な観察を行う。
到達目標	傷病者に対する個別の栄養アセスメント・栄養ケア計画を作成し、栄養補給の実態把握および経過観察（モニタリング）により再評価することを実施に学ぶとともに課題の設定と解決方法を見出す能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人） 指定図書：杉山みち子他編著　臨床栄養活動論（同文書院）、渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂） そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価100％：医療機関における栄養ケア・マネジメントの実際を理解し、適切な栄養評価に基づく栄養補給の方法や内容、栄養教育などの課題に応えられること。

科目名	臨床栄養臨地実習Ⅱ
担当教員	福井　富穂
授業概要	医療の場で活動するために必要な知識・技術を学ぶとともに医療人としての自覚をもつため、傷病者等に対する栄養食事指導の実践を介して、カウンセリングに必要な技術を修得する。さらに、入院・外来別にどのような栄養教育が行われているか、その効果的な方法について、栄養食事指導という一つのシステムとして考察するなど在宅医療等も含めた疾病予防・治療・カウンセリングなど広い意味での臨床栄養管理を目指した管理栄養士活動の実際と役割について学ぶ。
到達目標	医療職として管理栄養士はどのように傷病者に関わっていくのか体験するとともに医師、看護師、薬剤師などがどのように患者と接しているか観察し、医療チームの一員となる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき（化学同人） 指定図書：杉山みち子他編著　臨床栄養活動論（同文書院）、渡辺明治他編　今日の病態栄養療法（南江堂） そのほか適宜、プリントなどを配布する。
成績評価	レポート評価100％：医療機関における栄養ケア・マネジメントの実態を把握するとともに、適切な栄養評価に基づく栄養補給の方法や内容、栄養教育などの課題に応えられること。

科目名	臨床心理学
担当教員	松嶋　秀明
授業概要	臨床心理学とは、「こころ」に何らかの問題を抱える人々を支えることをめざして援助実践を行いつつ、同時に援助実践をよりよいものにするために種々の研究を行っていくものである。この授業では「こころ」の障害について紹介しつつ、それをいかに援助すればよいのか、最新の研究知見をもとに論じる。一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッションやワークをとりいれる。そのことを通じて、私たちは、心理的な問題をかかえている隣人に対して、どのようにふるまい支えていけばよいのかを「身を以て」わかることを目指す。積極的な参加を期待する。
到達目標	他者のこころの問題を、一般的な知識としてではなく、自らが関わることを前提としつつわかっていくための視点を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	・ 各授業における発表／貢献(60)　・最終レポート (40)

科目名	臨地実習事前事後指導
担当教員	岡本　秀己　・　吉田　龍平　・　福井　富穂　・　浦部　貴美子　・　谷口　美津子※
授業概要	実践活動の場である保健所、学校、事業所、病院などにおいて管理栄養士として具備すべき知識、技術を修得するとともに業務全般を体験する。学内で実習した知識や技術が実践の場ではどのように活用されているか、各施設における適切な栄養管理方法について臨地実習受け入れ施設の指導者とともに指導する。実習の事前および事後の指導を実習期間に合わせ集中で行なう。
到達目標	管理栄養士として具比すべき知識、技術を修得するとともに傷病者等個別の状況に応じた栄養ケアマネジメントができる能力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:木戸詔子他編　臨地・校外実習のてびき(化学同人) 指定図書:日本病態栄養学会編　病態栄養ガイドブック(メディカルレビュー社) 日本糖尿病療養指導士認定機構編　日本糖尿病療養指導士受験ガイドブック(メディカルレビュー社)
成績評価	臨地実習報告書評価80%、臨地実習の必要性と管理栄養士の業務について理解し、さまざまな職域における活動内容と役割を把握するとともに個別の施設の抱えている問題や課題についての質問に答えることが20%

科目名	歴史的地域論
担当教員	水野　章二
授業概要	地域社会を構成するイエ・ムラなどの基礎的な集団やその相互の関係が、どのように歴史的に形成され、変化していくかを明らかにする。文献史学・歴史地理学・考古学・民俗学などの成果を総合しながら、自然的社会的諸条件が地域を構成する諸集団の編成原理や秩序のあり方にどのように関わるのかを考える。
到達目標	重層的に成立し、時間の中で変化していく地域社会の特質を、最も基礎的な社会集団であるイエ・ムラなどに注目し、具体的に理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:水野章二『日本中世の村落と荘園制』(校倉書房) 水野章二編『中世村落の景観と環境』(思文閣出版)
成績評価	期末筆記試験70%、レスポンスペーパー30%。成績評価方法および水準については授業時に説明する。

科目名	ロシア語Ⅰ（初級コース）
担当教員	高島　尚生※
授業概要	ロシア語文法の基礎を習得することが最大の目的であるが、映画やドキュメンタリーなどの映像教材を見たり、音楽を聴いたりして、ロシアや旧ソ連諸国の歴史や文化を知ることや、ニュースなどを通して最新の現代情勢に関する知識を得ることも目的の1つである。
到達目標	ロシア語の文字と発音をしっかりと覚え、文法の基礎を習得する。簡単な文章の読み書きができ、あいさつや感謝、謝罪などのエチケット表現が言え、意思表示ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:黒田龍之介著「ロシア語文法への旅」(大学書林) 参考書:木村彰一著「ロシア文法の基礎」(白水社) 辞書:米重文樹編「パスポート初級露和辞典」(白水社)
成績評価	授業の出席状況や小テストの結果(50%)などを考慮に入れながら、中間および期末試験の結果(50%)とあわせて総合評価する

科目名	ロシア語Ⅱ（中級コース）
担当教員	高島　尚生※
授業概要	ロシア語Ⅰに引き続き、さらにロシア語文法の基礎習得をめざす。また、ロシアや旧ソ連諸国の歴史や文化についてDVDを見たり、音楽を聴いたりして関心を高め、ニュースなどを紹介し現代の情勢に関する知識も深める。
到達目標	ロシア語文法の基礎を習得し、それほど難しくない文章であれば辞書を使用し読めるようになる。また、ロシアや旧ソ連諸国に行ったときに、買い物など最低限困らない程度の会話力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:ロシア語教程Ⅰ（東京ロシア語学院） 参考書:ロシア文法の基礎（白水社） 辞書:博友社ロシア語辞典（博友社）
成績評価	授業の出席状況や小テストの結果（50%）などを考慮に入れながら、中間および期末試験の結果(50%)とあわせて総合評価する

５　人間看護学部科目履修の手引

１　人間看護学部人間看護学科の教育目標

（１）　豊かな人間性のもと、幅広い視野で人間を総合的に理解する看護職が育つ

人間の生命に対する畏敬の念をもち、その尊厳と権利を尊重し、人の痛みや苦しみを共有し、喜びをともにする豊かな人間性を備えた看護職としての資質を養います。

（２）　高度な専門的知識や技術、実践的な判断力、指導力を有する看護職が育つ

看護の専門職としての知識・技術を修得するとともに、社会情勢の変化に的確に対応できる柔軟な思考力を養い、看護における理論と実践の統合を図ります。

（３）　地域特性に即した実践力を有する看護職が育つ

地域特性を理解した上で生活実態に即した看護を創造する力を養います。

２　科目の履修について

（１）全学共通科目の履修について

「全学共通科目履修の手引」に沿って履修してください。共通基礎科目は、主に１年次、２年次に配当されています。また、人間学は、４年間にわたって履修可能ですので個人の学習状況に合わせて効果的に履修をしてください。なお、人間学の「人間探求学」「環境マネジメント総論」「生命・人間・倫理」は１年次、「社会福祉論」は２年次に履修してください。（いずれも必修）

（２）専門基礎科目、専門科目の履修について

①「人間看護学部科目配当表」に単位数、配当時期を示していますので、時間割表を参考に履修計画を立ててください。

・講義科目のうち、３０時間の授業をもって１単位とする科目があります。科目配当表に明示しています。

・低学年では専門基礎科目や看護学の講義、演習が配当されています。履修漏れのないように注意してください。

・臨地実習は、１年次、２年次、３年次の夏季集中時期と、３年次後期～４年次前期に集中して配当されていますので、その都度、履修登録をしてください。ただし、３年次後期～４年次前期の実習については、３年次後期科目として履修登録をしてください。（４年次前期集中の人間看護学統合実習に関しては４年次前期に登録してください。）なお、３年次後期に履修登録した実習の成績は、４年次前期に出ることになります。実習は、届出前までに修得しておくべき科目等が条件として設けられていますので、人間看護学部実習前提科目表で必ず確認してください。

②助産師課程、養護教諭一種免許の取得を希望する者は、「資格取得等の手引」をもとに「人間看護学部科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

３　人間看護学部卒業要件について

（１）平成２１年度以降入学生用・平成２３年度編入学生用

以下のとおり、卒業要件が適用されます。

１	全学共通科目	（計　３０単位以上）　必修２２単位、選択必修８単位以上
	共通基礎科目	１８単位以上
	第一外国語	英語Ⅰ～Ⅳ　８単位
	第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、 朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上
	情報処理	４単位 情報リテラシー（情報倫理を含む）２単位（必修）［平成２２年度以降入学生用］ 情報処理演習Ⅰ　１単位（必修）［平成２１年度入学生用］ 情報科学概論　２単位（必修） 情報処理演習Ⅱ　１単位（必修）［平成２１年度入学生用］
	保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位
	人間学	１２単位以上（「人間探求学」「環境マネジメント総論」「生命・人間・倫理」「社会福祉論」は必修）
２	専門基礎科目	（計　１９単位）
３	専門科目	（計　８０単位以上）
	必修	７８単位
	選択必修	２単位以上 （科目配当表の△の科目から１科目２単位以上とする。）
	合計	１２９単位以上

註：ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目や他学部の開講科目については、履修可能ですが、卒業要件には算入できません。

【卒業研究の審査基準】

１　卒業研究（卒業論文）に対しては、以下の評価項目にもとづいて審査する。

(1) 研究目的の明確性
(2) 研究方法の妥当性
(3) 研究結果の明確性
(4) 論文の論理展開の一貫性
(5) 研究内容の新規性・学術性・社会性
(6) プレゼンテーション技法と質疑応答能力

２　卒業研究（卒業論文）は、発表会において学部が定める方法で発表し、質疑を行う。

３　１および２による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

【人間看護学部科目配当表】 平成21年度以降入学生用

区分		1年次	単位数	必・選	学期	2年次	単位数	必・選	学期	3年次	単位数	必・選	学期	4年次	単位数	必・選	学期	必要単位数
全学共通科目	全学共通基礎	英語Ⅰ（活性化コース）	2	必	通	英語Ⅲ（充実コース）	2	必	通									
		英語Ⅱ（応用コース）	2	必	通	英語Ⅳ（展開コース）	2	必	通									
		○第二外国語Ⅰ（初級）	2	選必	通	○第二外国語Ⅱ（中級）	2	選必	通									
		情報リテラシー（情報倫理を含む）※1	2	必	前	情報処理演習Ⅱ ※2	1	必	前									
		情報科学概論	2	必	後	プログラミング基礎 ※2	2	選	前									18単位
		健康・体力科学Ⅰ	1	必	後	健康・体力科学Ⅱ	1	必	前									
	人間学	人 間 学 （「人間探求学」「環境マネジメント総論」「生命・人間・倫理」「社会福祉論」は必修）																12単位以上
専門基礎科目		体のしくみと機能Ⅰ	2	必	前	地域保健論	2	必	前									
		体のしくみと機能Ⅱ	2	必	後	栄養と健康	2	必	後									
		体のしくみと機能Ⅲ	2	必	前	薬理学	1	必	前									
		健康科学Ⅰ	2	必	後	疾病論Ⅰ	1	必	前									19単位
		健康科学Ⅱ	2	必	前	疾病論Ⅱ	1	必	後									
		人間性心理論	2	必	後													
専門科目		人間看護論Ⅰ	2	必	前	看護過程論	1	必	前	育成看護論演習	1	必	前	△国際・災害看護論	2	選	集中（前）	
		生活行動看護論	1	必	前	地域看護論Ⅰ	2	必	前	看護コーディネーション	2	必	前	△家族看護論	2	選	後	
		精神保健看護論	2	必	前	生活行動看護論演習Ⅱ	1	必	前	健康教育論	1	必	前					
		生活行動看護論演習Ⅰ	2	必	後	生活行動看護論演習Ⅲ	2	必	通	地域看護論演習	2	必	前	△から1科目選択必修				
		発達看護論Ⅰ	1	必	前	発達看護論Ⅲ	1	必	前	行政看護論	2	必	前					
		発達看護論Ⅱ	1	必	後	育成看護論Ⅱ	1	必	前	精神臨床看護論演習	1	必	前					
		育成看護論Ⅰ	1	必	後	臨床看護論Ⅱ	1	必	前	小児臨床看護論演習	1	必	前					
						臨床看護論Ⅰ	1	必	後	成人臨床看護論演習Ⅱ	1	必	前					
						臨床看護論Ⅲ	1	必	後	老年臨床看護論演習	1	必	前					
						ターミナルケア論	1	必	後	ﾀｰﾐﾅﾙｹｱ論演習	1	必	前					
						在宅看護論Ⅰ	1	必	前	看護管理論	2	必	前					
						在宅看護論Ⅱ	1	必	後	地域看護管理論	1	必	前					
						精神臨床看護論	1	必	後	地域看護論Ⅱ	2	必	前					
						成人臨床看護論演習Ⅰ	1	必	後									80単位
						人間看護論Ⅱ	1	必	後									
						疫学	2	必	後									
		生活行動看護論実習Ⅰ	1	必	集中（前）	生活行動看護論実習Ⅱ	2	必	集中（前）	【各論実習】※3								
										老年臨床看護論実習Ⅰ	1	必	後	前				
										育成看護論実習	2	必	後	前				
										精神臨床看護論実習	2	必	後	前				
										小児臨床看護論実習	2	必	後	前				
										成人臨床看護論実習Ⅰ	2	必	後	前				
										成人臨床看護論実習Ⅱ	2	必	後	前				
										老年臨床看護論実習Ⅱ	2	必	後	前				
										地域看護論実習	4	必	後	前				
										ﾀｰﾐﾅﾙｹｱ論実習	2	必	後	前				
										在宅看護論実習	2	必	後	前				
														人間看護学統合実習	3	必	前	
														卒業研究	4	必	通	
																	計	129単位

※1 全学共通基礎科目（情報処理）について、平成21年度入学生で、配当年次に「情報処理演習Ⅰ」を修得できなかった場合は、「情報リテラシー（情報倫理を含む）」を修得し「情報処理演習Ⅰ」（必修1単位）に読み替えることができます。

※2 「情報処理演習Ⅱ」は平成21年度入学生向けの必修科目です。
平成21年度入学生で、配当年次に「情報処理演習Ⅱ」を修得できなかった場合は、「プログラミング基礎」を修得し、「情報処理演習に読替えることができます。

※3 老年臨床看護論実習Ⅰ・Ⅱ、成人臨床看護論実習Ⅰ・Ⅱ、精神臨床看護論実習、小児臨床看護論実習、育成看護論実習、育成看護論実習、在宅看護論実習、ターミナルケア論実習、地域看護論実習を総称して各論実習と呼びます。

・「必」は必修科目　「選」は選択科目
・「前」は前期、「後」は後期、「通」は通年科目を示し、「集」は集中授業で行う

（２）平成２０年度以前入学生用、平成２２年度以前編入学生用

以下のとおり、卒業要件が適用されます。

１	全学共通科目	（計　３０単位以上）　必修１８単位、選択必修１２単位以上
	共通基礎科目	１８単位以上
	第一外国語	英語Ⅰ～Ⅳ　８単位
	第二外国語	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱのうちから４単位以上
	情報処理	情報処理演習Ⅰ・Ⅱ、情報科学概論　４単位
	保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ　２単位
	人間学	１２単位以上（「人間探求学」「環境マネジメント総論」は必修）
２	専門基礎科目	（計　２０単位）
３	専門科目	（計　７７単位以上）
	必修	６９単位
	選択必修	８単位以上 （科目配当表の□の科目から３科目６単位以上、△の科目から１科目２単位以上とする。）
	合計	１２７単位以上

注１：ただし、全学共通科目で３０単位を超えた分の科目や他学部の開講科目については、履修可能ですが、卒業要件には算入できません。

注２：「看護と倫理」「社会福祉論」は、新カリキュラムでは、人間学の「生命・人間・倫理」「社会福祉論」が対応科目となりますが、この科目は人間学の単位には含まれません。

【人間看護学部科目配当表】 平成20年度以前入学生用

区分		1年次	単位数	必・選	学期	2年次	単位数	必・選	学期	3年次	単位数	必・選	学期	4年次	単位数	必・選	学期	必要単位数
全学共通科目	全学共通基礎	英語Ⅰ（活性化コース）	2	必	通	英語Ⅲ（充実コース）	2	必	通									18単位
		英語Ⅱ（応用コース）	2	必	通	英語Ⅳ（展開コース）	2	必	通									
		○第二外国語Ⅰ（初級）	2	選必	通	○第二外国語Ⅱ（中級）	2	選必	通									
		情報処理演習Ⅰ ※1	1	必	前	情報処理演習Ⅱ ※2	1	必	後									
		情報科学概論	2	必	後	健康・体力科学Ⅱ	1	必	前									
		健康・体力科学Ⅰ	1	必	後													
	人間学	人 間 学 （「環境マネジメント総論」と「人間探求学」は必修）																12単位以上
専門基礎科目		体のしくみと機能Ⅰ	2	必	前	地域保健論	2	必	前									20単位
		体のしくみと機能Ⅱ	2	必	後	社会福祉論	2	必	後									
		体のしくみと機能Ⅲ	2	必	前	薬物・代替療法	2	必	通									
		健康科学Ⅰ	2	必	後	疾病論	2	必	前									
		健康科学Ⅱ	2	必	前													
		人間性心理論	2	必	後													
専門科目		人間看護論Ⅰ	1	必	前	看護過程論	2	必	前	人間看護論Ⅱ	1	必	前	△国際看護論	2	選	前（集）	77単位
		生活行動看護論	1	必	前	地域看護論	1	必	前	看護ｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝ	2	必	前	△看護管理論	2	選	後	
		対人関係看護論	1	必	前	生活行動看護論演習Ⅱ	2	必	前	健康教育論	2	必	前	△看護政策論	2	選	前（集）	
		生活行動看護論演習Ⅰ	2	必	後	発達看護論演習Ⅰ	1	必	前	地域看護論演習	2	必	前	△から1科目選択必修				
		発達看護論Ⅰ	1	必	後	発達看護論演習Ⅱ	1	必	前	精神臨床看護論演習	1	必	前					
		発達看護論Ⅱ	1	必	後	発達看護論演習Ⅲ	1	必	後	小児臨床看護論演習	1	必	前					
		育成看護論	1	必	後	発達看護論演習Ⅳ	1	必	前	成人臨床看護論演習	1	必	前					
		看護と倫理	2	必	後	育成看護論演習	1	必	前	老年臨床看護論演習	1	必	前					
						臨床看護論Ⅰ	1	必	後	ﾀｰﾐﾅﾙｹｱ論演習	1	必	前					
						臨床看護論Ⅱ	1	必	前	□障害者看護論	2	選	前					
						家族看護論	2	必	後	□福祉看護論	2	選	前					
						在宅看護論	1	必	後	□学校看護論	2	選	前（集）					
						ターミナルケア論	1	必	後	□職域看護論	2	選	前					
										□助産管理論	2	選	前					
										□から3科目選択必修								
		対人関係看護論実習	1	必	前（集）	生活行動看護論実習	2	必	前（集）	発達看護論実習	2	必	前（集）					
										育成看護論実習	2	必	後	前				
										精神臨床看護論実習	2	必	後	前				
										小児臨床看護論実習	2	必	後	前				
										成人臨床看護論実習Ⅰ	2	必	後	前				
										成人臨床看護論実習Ⅱ	2	必	後	前				
										老年臨床看護論実習	2	必	後	前				
										地域看護論実習	4	必	後	前				
										ﾀｰﾐﾅﾙｹｱ論実習	2	必	後	前				
														人間看護学統合実習	3	必	前	
														卒業研究	5	必	通	
																	計	127単位

※1 配当年次に「情報処理演習Ⅰ」を修得できなかった場合は、「情報リテラシー（情報倫理を含む）」を修得し「情報処理演習Ⅰ」に読み替えることができます。
※2 配当年次に「情報処理演習Ⅱ」を修得できなかった場合は、「プログラミング基礎」を修得し「情報処理演習Ⅱ」に読み替えることができます。

・「必」は必修科目 「選」は選択科目
・「前」は前期、「後」は後期、「通」は通年科目を示し、「集」は集中授業で行う

◎平成23年度は、1～3回生の配当科目は新カリキュラムで運営されます。時間割表をよく確認し、担任および学部教務委員に相談して履修登録を行うようにしてください。

【人間看護学部科目配当表】 平成23年度編入学生用

区分		3年次	単位	必・選	学期	認定単位数	4年次	単位	必・選	学期	認定単位数	必要単位数
全学共通	全学共通基礎	英語Ⅰ	2	必	通	個別認定						必修8単位
		英語Ⅱ	2	必	通	個別認定						
		英語Ⅰ	2	必	通	個別認定						
		英語Ⅱ	2	必	通	個別認定						
		第二外国語Ⅰ	2	選必	通	個別認定	第二外国語Ⅱ *3年次で取れない場合	2	選必	通		必修4単位
		第二外国語Ⅱ	2	選必	通	個別認定						
		健康体力学Ⅰ	1	必	後	個別認定						必修2単位
		健康体力学Ⅱ	1	必	前	個別認定						
		情報科学概論	2	必	後							必修4単位
		情報処理演習Ⅰ※1	1	必	前							
		情報処理演習Ⅱ※2	1	必	前							
	人間学	**人間学「人間探求学」、「環境マネジメント」、「生命・人間・倫理」、「社会福祉論」は必修 （必修8単位を除く4単位は個別認定）**										12単位以上
専門基礎		人間性心理論	2	必	後							19単位
		地域保健論	2	必	前							
		その他の専門基礎科目	9科目			15単位認定						
専門科目		1年次開講科目(実習含む)	8科目			11単位認定						80単位
		地域看護論Ⅰ	2	必	前		地域看護論実習	4	必			
		ターミナルケア論	1	必	後		＊在宅看護論実習	2	必		個別認定	
		人間看護論Ⅱ	1	必	後		＊人間看護学統合実習	3	必		個別認定	
		疫学	2	必	前		△国際・災害看護論	2	どちらか1科目選択必修			
		＊在宅看護論Ⅰ	1	必	前	個別認定	△家族看護論	2				
		＊在宅看護論Ⅱ	1	必	後	個別認定						
		2年次開講科目	11科目			13単位認定						
		看護管理論	2	必	前							
		看護コーディネーション	2	必	前							
		健康教育論	1	必	前							
		地域看護論演習	2	必	前							
		行政看護論	2	必	前							
		地域看護管理論	1	必	前							
		地域看護論Ⅱ	2	必	前							
		3年次開講科目	15科目			21単位認定						
							卒業研究	4	必	通		
										計	129単位	

※1「情報処理演習Ⅰ」は、「情報リテラシー」に読み替えることができます。

※2「情報処理演習Ⅱ」は、「プログラミング基礎」に読み替えることができます。「プログラミング基礎」は選択科目となっていますが、2009年度以前入学生(2011年度以前編入学生含む)は、必修科目ですので必ず履修してください。

【人間看護学部科目配当表 】 H21・22年度編入学生用

区分		3年次	単位数	必・選	学期	認定単位数	4年次	単位数	必・選	学期	必要単位数
全学共通科目	全学共通基礎	英語Ⅰ(活性化コース)	2	必	通	2単位認定					必修8単位
		英語Ⅱ(応用コース)	2	必	通	個別認定					
		英語Ⅲ(充実コース)	2	必	通	個別認定					
		英語Ⅳ(展開コース)	2	必	通	個別認定					
		第二外国語Ⅰ(初級)	2	選必	通	個別認定	第二外国語Ⅱ(中級)	2	選必	通	必修4単位
		第二外国語Ⅱ(中級)	2	選必	通	個別認定	＊3年次でとれない場合				
		健康・体力科学Ⅰ	1	必	後	個別認定					必修2単位
		健康・体力科学Ⅱ	1	必	前	個別認定					
		情報科学概論	2	必	後						必修4単位
		情報処理演習Ⅰ ※1	1	必	前						
		情報処理演習Ⅱ ※2	1	必	後						
	人間学	人 間 学 (「人間探求学」「環境マネジメント総論」は必修) (必修を除く8単位のうち4単位は個別認定)									12単位以上
専門基礎		人間性心理論	2	必	後						20単位
		地域保健論	2	必	前						
		社会福祉論	2	必	後						
		その他の専門基礎科目	7科目			14単位認定					
専門科目		看護と倫理 (注)	2	必	後		△国際看護論	2	選	前(集)	77単位
		1年次開講科目(実習を含む)	8科目			9単位認定	△看護管理論	2	選	後	
		地域看護論	1	必	前		△看護政策論	2	選	前(集)	
		家族看護論	2	必	後		△から1科目選択必修				
		在宅看護論	1	必	後		地域看護論実習	4	必	前	
		ターミナルケア論	1	必	後		人間看護学統合実習	3	必	前	
		2年次開講科目(実習を含む)	10科目			13単位認定					
		人間看護論Ⅱ	1	必	後						
		看護ｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝ	2	必	前						
		健康教育論	2	必	前						
		地域看護論演習	2	必	前						
		□障害者看護論	2	選	前						
		□福祉看護論	2	選	前						
		□学校看護論	2	選	前(集)						
		□職域看護論	2	選	前						
		□助産管理論	2	選	前						
		□から3科目選択必修									
		3年次開講科目(実習を含む)	13科目			21単位認定					
							卒業研究	5	必	通	
										計	127単位

※1 配当年次に「情報処理演習Ⅰ」を修得できなかった場合は、「情報リテラシー(情報倫理を含む)」を修得し、「情報処理演習Ⅰ」に読み替えることができます。

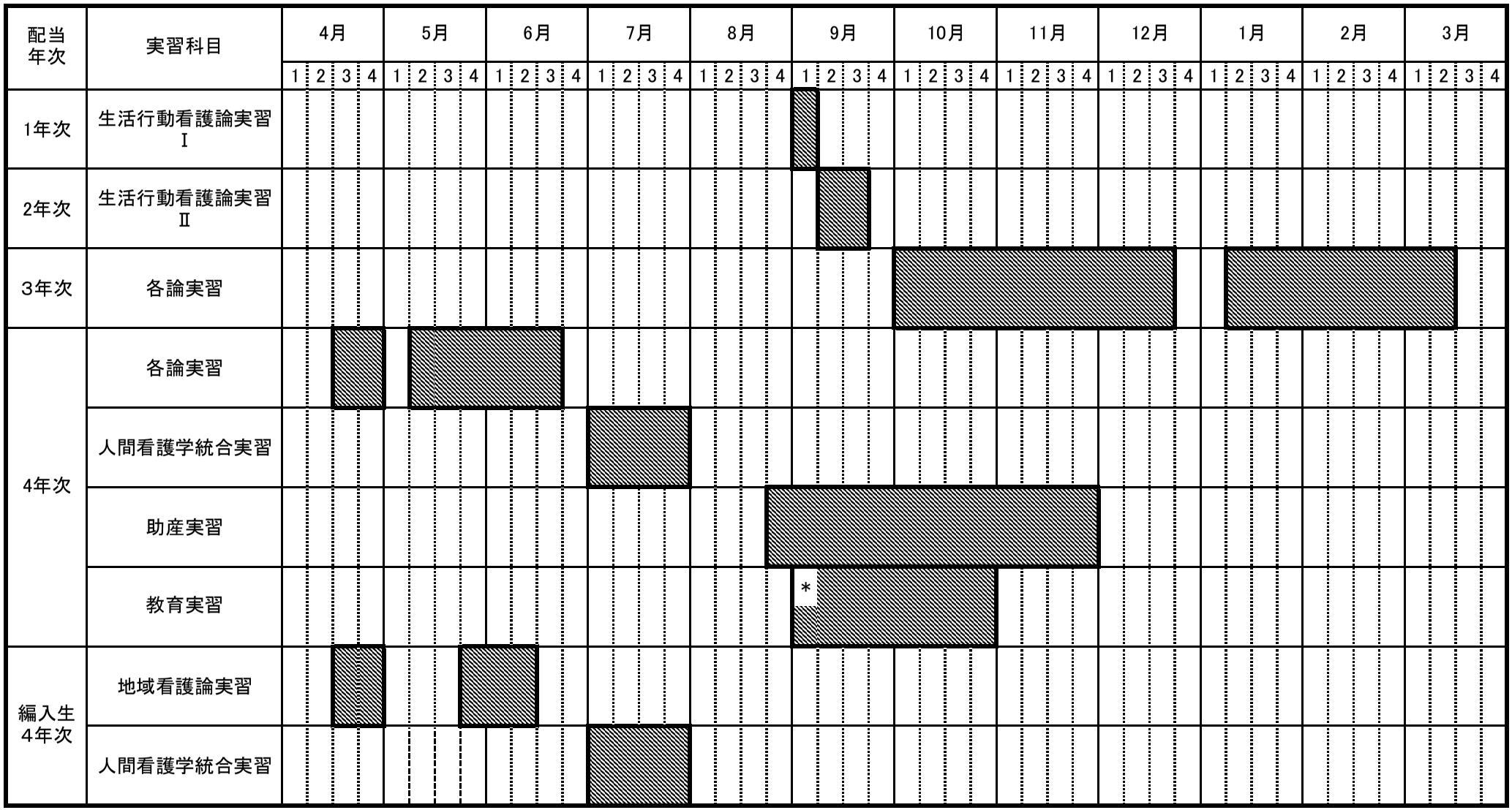
※2 配当年次に「情報処理演習Ⅱ」を修得できなかった場合は、「プログラミング基礎」を修得し、「情報処理演習Ⅱ」に読み替えることができます。

・必は必修科目　選は選択科目

・前は前期、後は後期、通は通年科目を示し、集は集中授業で行う

・(注)「看護と倫理」は、人間学「生命・人間・倫理」を、「社会福祉論」は人間学「社会福祉論」をそれぞれ履修する

平成23年度　滋賀県立大学人間看護学部　実習計画表



計画は実習先の事情等により変更する場合があります。*教育実習は、この期間内に計画してください。

人間看護学部実習前提科目(平成21年度以降入学生用)

実習名	実習期間	履修要件	履修済み科目				修得済み科目			
			専門基礎科目		専門科目		専門基礎科目		専門科目	
生活行動 看護論実習Ⅰ	1年次 前期集中	○1年前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て履修していること	体のしくみと機能Ⅰ	1・前	人間看護論Ⅰ	1・前				
			体のしくみと機能Ⅲ	1・前	生活行動看護論	1・前				
			健康科学Ⅱ	1・前	精神保健看護論	1・前				
					発達看護論Ⅰ	1・前				
生活行動 看護論実習Ⅱ	2年次 前期集中	○1年次の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること ○2年前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て履修していること。ただし，生活行動看護論演習Ⅱ，看護過程論は修得(見込み)であること	地域保健論	2・前	地域看護論Ⅰ	2・前	体のしくみと機能Ⅰ	1・前	人間看護論Ⅰ	1・前
			栄養と健康	2・前	発達看護論Ⅲ	2・前	体のしくみと機能Ⅱ	1・後	生活行動看護論	1・前
			薬理学	2・前	育成看護論Ⅱ	2・前	体のしくみと機能Ⅲ	1・前	精神保健看護論	1・前
			疾病論Ⅰ	2・前	臨床看護論Ⅱ	2・前	健康科学Ⅰ	1・後	発達看護論Ⅰ	1・前
					在宅看護論Ⅰ	2・前	健康科学Ⅱ	1・前	生活行動看護論実習Ⅰ	1・前
							人間性心理論	1・後	発達看護論Ⅱ	1・後
							※生命・人間・倫理(人間学)	1・後	育成看護論Ⅰ	1・後
									生活行動看護論演習Ⅰ	1・後
									生活行動看護論演習Ⅱ(見込み)	2・前
									看護過程論(見込み)	2・前
各論実習	3年次 後期 ～ 4年次 前期	○2年次の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること ○3年前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て履修していること ＊編入生は、地域看護論実習を履修するためには、3年次の専門科目における必修科目の単位を全て修得しておくこと					地域保健論	2・前	看護過程論	2・前
							栄養と健康	2・前	地域看護論Ⅰ	2・前
							薬理学	2・前	発達看護論Ⅲ	2・前
							疾病論Ⅰ	2・前	育成看護論Ⅱ	2・前
							疾病論Ⅱ	2・後	臨床看護論Ⅱ	2・前
							※社会福祉論(人間学)	2・後	臨床看護論Ⅰ	2・後
							※情報処理演習Ⅱ　注2	2・前	臨床看護論Ⅲ	2・後
							※情報処理演習Ⅰ　注2	1・前	生活行動看護論演習Ⅲ	2・通
							※情報科学概論　注2	1・後	ターミナルケア論	2・後
									在宅看護論Ⅰ	2・前
									在宅看護論Ⅱ	2・後
									精神臨床看護論	2・後
									成人臨床看護論演習Ⅰ	2・後
									人間看護論Ⅱ	2・後
									疫学	2・後
									育成看護論演習	3・前
									生活行動看護論実習Ⅱ	2・前
									看護コーディネーション	3・前
									健康教育論	3・前
									地域看護論演習	3・前
									行政看護論	3・前
									精神臨床看護論演習	3・前
									小児臨床看護論演習	3・前
									成人臨床看護論演習Ⅱ	3・前
									老年臨床看護論演習	3・前
									ターミナルケア論演習	3・前
									看護管理論	3・前
									地域看護管理論	3・前
									地域看護論Ⅱ	3・前
									老年臨床看護論実習Ⅰ＊注1	3・後
人間看護学 統合実習	4年次 前期	○各論実習の単位を全て修得(修得見込みの場合もある)していること							育成看護論実習	3・後 ～ 4・前
									精神臨床看護論実習	
									小児臨床看護論実習	
									成人臨床看護論実習Ⅰ	
									成人臨床看護論実習Ⅱ	
									老年臨床看護論実習Ⅱ	
									地域看護論実習	
									ターミナルケア論実習	
									在宅看護論実習	

※・・・人間学または共通科目ですが、実習の前提科目となります。

注1：老年臨床看護論実習Ⅰは、老年臨床看護論実習Ⅱの前提科目となります。

注2：平成21年度入学生は、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」が各論実習前提科目となり、平成22年度以降入学生は、「情報科学概論」が各論実習前提科目になります。

人間看護学部実習前提科目(平成20年度以前入学生用)

実習名	実習期間	履修要件	履修済み科目		修得済み科目	
			専門基礎	専門科目	専門基礎	専門科目
対人関係看護論実習	1年次 前期集中	○1年前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て履修していること	体のしくみと機能Ⅰ	人間看護論Ⅰ		
			体のしくみと機能Ⅲ	生活行動看護論		
			健康科学Ⅱ	対人関係看護論		
			※人間性心理論			
生活行動看護論実習	2年次 前期集中	○1年次の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること ○2年前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て履修していること。ただし，生活行動看護論演習Ⅱ，看護過程論は修得(見込み)であること	地域保健論	地域看護論	体のしくみと機能Ⅰ	人間看護論Ⅰ
			薬物・代替療法	※発達看護論演習Ⅰ	体のしくみと機能Ⅱ	生活行動看護論
			疾病論	発達看護論演習Ⅱ(小児)	体のしくみと機能Ⅲ	対人関係看護論
				発達看護論演習Ⅳ(老年)	健康科学Ⅰ	生活行動看護論演習Ⅰ
				※育成看護論演習	健康科学Ⅱ	発達看護論Ⅰ(精神・小児)
				※臨床看護論Ⅱ	人間性心理論	※発達看護論Ⅱ
						育成看護論
						看護と倫理
						対人関係看護論実習
						看護過程論(見込み)
						生活行動看護論演習Ⅱ(見込み)
(発達看護論実習)	3年次 後期 ～ 4年次 前期	○2年次の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること ○3年前期の専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること			地域保健論	看護過程論
					社会福祉論	地域看護論
					薬物・代替療法	発達看護論演習Ⅰ(精神)
					疾病論	発達看護論演習Ⅱ(小児)
各論実習					情報処理演習Ⅰ	発達看護論演習Ⅲ(成人)
					情報処理演習Ⅱ	発達看護論演習Ⅳ(老年)
						育成看護論演習
						臨床看護論Ⅰ
						臨床看護論Ⅱ(成人・老年)
						在宅看護論
						ターミナルケア論
						生活行動看護論実習
						人間看護論Ⅱ
						看護コーディネーション
						健康教育論
						地域看護論演習
						精神臨床看護論演習
						小児臨床看護論演習
						成人臨床看護論演習
						老年臨床看護論演習
						ターミナルケア論演習
						育成看護論演習
						□障害者看護論 (3科目選択)
						□福祉看護論
						□学校看護論
						□職域看護論
						□助産管理論
人間看護学 統合実習	4年次 前期	○各論実習の単位を全て修得(修得見込みの場合もある)していること				育成看護論実習
						精神臨床看護論実習
						小児臨床看護論実習
						成人臨床看護論実習Ⅰ
						成人臨床看護論実習Ⅱ
						老年臨床看護論実習
						地域看護論実習
						ターミナルケア論実習

※のついた科目は、新カリキュラムの対応科目の開講が旧カリキュラムと異なる部分があります。詳しくは、学部教務委員に確認してください。

注1)家族看護学は必修科目ですが開講時期の変更に伴い、各論実習の前提科目から外れました。

注2)発達看護学実習は、新カリキュラムでは老年Ⅰ実習に対応しますので、各論実習の前提科目から外れました。

科目名	育成看護論Ⅰ
担当教員	炭原　加代　・　岩谷　澄香
授業概要	人の生殖の意義を理解し、母性看護の概念、機能と役割、母性看護の現況と動向を理解する。女性のライフサイクル各期における健康問題やニーズを分析すると共に、母性看護実践に必要な知識・能力を養う。
到達目標	母性の特性及び母性看護の対象把握ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:系統看護学講座　専門分野　母性看護学[1]　母性看護学概論第11版(医学書院) 第1回目の講義までに準備しておくこと 指定図書:系統看護学講座　専門分野　母性看護学[2]　母性看護学各論第11版(医学書院) 岡村州博編集「学生から研修医までをトータルサポート　これならわかる産科学」南山堂、2003 国民衛生の動向 2011年(厚生統計協会)、 日本人の食事摂取基準「2010年版」 安斎正郷　国民健康・栄養の現状、平成20年厚生労働省 国民健康・栄養調査報告より、第一出版 財団法人母子衛生研究会、母子保健の主なる統計(平成23年度発行)、母子保健事業団 財団法人母子衛生研究会、わが国の母子保健ー平成23年ー、母子保健事業団
成績評価	定期試験80%、課題1・2のレポート20%

科目名	育成看護論Ⅱ
担当教員	大脇　万起子　・　金森　京子
授業概要	妊娠・分娩・産褥・新生児期に焦点を置いて、各期の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。母子とその家族のウェルネスに向けた看護を展開していく上で必要とされる基礎的理論および基本的な援助技術について理解する。
到達目標	
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:系統看護学講座専門25母性看護学[2]「母性看護学各論」医学書院 参考書:ナーシング・グラフィカ30母性看護実践の基本 MCメディカ出版 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 医学書院　　他、適宜紹介
成績評価	期末筆記試験(65%)、 出席点(15%)、 レポート(20%)

科目名	育成看護論演習
担当教員	金森　京子　・　大脇　万起子　・　桑名　亜希子
授業概要	妊娠・分娩・産褥・新生児各期にある母子および家族への看護を展開するうえで必要とされる看護過程の展開と基礎的な看護技術について学ぶ。
到達目標	(1)事例を通して母子を対象とした看護過程が理解できる。(2)妊婦、産婦、褥婦および新生児に対する観察及び必要な看護判断ができる。(3)妊婦、産婦、褥婦および新生児や家族に対する生活援助ならびに保健指導の必要性が判断できる。(4)周産期看護に関わる基本的な看護技術が習得できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:系統看護学講座　専門25母性看護学〔2〕『母性看護学各論』 医学書院 指定図書:大田 操編『ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程』医歯薬出版、村本純子・町浦美智子編著『直前 母性看護実習プレブック』医歯薬出版
成績評価	課題レポートへの取り組み評価 40%、期末筆記試験 20%、技術試験40%とする。

科目名	育成看護論実習
担当教員	炭原　加代 ・ 岩谷　澄香 ・ 大脇　万起子 ・ 古川　洋子 ・ 金森　京子 ・ 桑名　亜希子
授業概要	周産期における女性と子どもおよび家族の身体的，心理的，社会的特徴を総合的に理解し，母性看護が実践できる能力を養う。
到達目標	1)妊婦，産婦，褥婦と新生児の身体的，心理的，社会的特徴を総合的に理解できる。 2)妊婦・産婦に行われる保健指導や生活の援助の必要性が理解でき，指導のもとに援助ができる。 3)褥婦および新生児の生理的変化への適応促進と健康上の問題解決のための看護，および家族の新しい役割獲得への援助が実践できる。 4)周産期における継続看護および関連機関との連携の必要性を理解できる。 5)生命の神秘・尊厳について考察でき，看護職者の責任および役割・機能を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:系統看護学講座　専門24「母性看護学概論」 専門25「母性看護学各論」 指定図書:島田信宏著「周産期の母児管理改訂5版」南山堂．仁志田博司著「新生児学入門」医学書院 山口瑞穂子他監修　新・ベッドサイドの看護過程3　疾患別看護過程の展開　母子・小児編　学研 村本淳子他編著　母性看護学1　妊娠・分娩　第2版　医歯薬出版 今井ひとみ他編著　母性看護学2　産褥・新生児　第2版　医歯薬出版 岡村州博編集　これならわかる産科学　学生から研修医までをトータルサポート　南山堂 仁志田博司著 産科スタッフのための新生児学　改訂2版　メデイカ出版 櫛引美代子著　カラー写真で学ぶ周産期の看護技術　第2版　医歯薬出版 参考書:実習中に適宜紹介する。
成績評価	目標の達成度(事例発表・実習記録を含む)93%、実習態度(出席を含む)7%

科目名	栄養と健康
担当教員	柴田　克己
授業概要	栄養素の体内運命と調節機構を理解し，その上で栄養素欠乏からの回避の栄養素量の求め方を理解できること.
到達目標	栄養素の体内運命の概要と必要量の算定理論を説明解できること.
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:基礎栄養学(南江堂) 指定図書:なし 参考書:なし
成績評価	試験

科目名	疫学
担当教員	渡邊　能行※
授業概要	疫学は、命や健康を守るための理論を構築するために必須の学問体系である。しかし、日本の看護学教育の中では概して軽視される傾向にあった。それが日本の医療現場の疲弊にもつながっているとも指摘されている。そこでまず、事象を正確に、広い視野からみる技術、そのデータを歪みなく分析する技術、そして、得られた知見を実際に応用しその結果を検証する技術など疫学の基本理論を学ぶ。後半は、疫学がどのように現場で応用され、社会に役立っているかをできるだけ身近な例をもとに実習的に学ぶ。
到達目標	(1)保健統計の用語などの意味や重要性などを理解する。(2)疫学的観察方法(横断研究・縦断研究・症例対象研究・介入研究)について確実に理解し、科学論文を読む基礎をみにつける。(3)多様な医療統計技法に触れ、科学的論考につながる視点をもつ。(4)疫学の導き出した健康に関する多くのエビデンスを知り、人々の命や健康に役立てる礎をつくる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学―疫学への招待―」南江堂 指定図書:厚生統計協会 「厚生の指標　増刊　国民衛生の動向」　廣済堂 参考書:佐藤俊哉 「宇宙怪人しまりす　医療統計を学ぶ」 岩波書店
成績評価	小テスト　60%　疫学の基礎的知識を獲得し、簡単な分析ができるようになったかをみる 期末筆記試験　40%　疫学の基礎的知識を確立し、応用できること

科目名	家族看護論
担当教員	大脇　万起子
授業概要	家族を単に対象者を取り巻く背景として捉えるのではなく、家族機能をシステムとして捉え、個人及びその家族が持っているセルフケア能力を高める援助の方法について論じる。 さらに、家族のライフサイクルの段階に応じた発達課題、直面する危機や健康問題に対する援助のあり方を講義およびグループワーク（事例検討、事例作成・役割演技）を通して学ぶ。
到達目標	(1)家族看護に関する主な理論やモデルについて理解する。 (2)家族看護過程（アセスメント・診断・計画・方法・評価）に関する基本的な知識を習得する。 (3)患者家族と向き合うための基本的な姿勢・コミュニケーション技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：法橋尚宏編著：新しい家族看護学　理論・実践・研究（メヂカルフレンド社） 指定図書：ロレイン・M・ライトー他著：ビリーフ 家族看護実践の新たなパラダイム（日本看護協会出版会） ロレイン M. ライト著：癒しのための家族看護モデル　病いと苦悩，スピリチュアリティ（医学書院） 参考書：鈴木和子他：家族看護学　理論と実践　第3版（日本看護協会出版会） 杉下知子編集：家族看護学入門（メヂカルフレンド社） 野嶋佐由美監訳：家族看護学（へるす出版） 村田恵子他監訳：家族看護学　理論・実践・研究（医学書院） 中西睦子監修：TACSシリーズ13　家族看護学（建帛社） 小林奈美著：グループワークで学ぶ家族看護論（医歯薬出版株式会社）
成績評価	・期末試験(60％)、毎授業後の小ﾚﾎﾟｰﾄ：第1-9，15回実施(10％)、 ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸのﾚﾎﾟｰﾄ：第11-14回実施(30％)・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸのﾚﾎﾟｰﾄについては、病欠などにより参加できない時は代替えﾚﾎﾟｰﾄにより評価します。 ・期末試験とﾚﾎﾟｰﾄの総合得点が60点に満たない場合は、60点を上限として期末試験を100点として評価します。

科目名	体のしくみと機能Ⅰ
担当教員	安原　治
授業概要	人体のしくみと機能についての知識は看護学を習得するための重要な基礎となる。本講は、人体の構造（解剖学）とその機能（生理学）を統合的に学ぶことを目的とする。正常な構造と機能の理解は疾患や障害の理解に必須であり、看護を含むすべての医療行為に不可欠である。本講では、人体の各器官系について、発生と関連づけながら個々の細胞・組織・器官とその機能に関する内容を取り上げ、個々の知識を人体の全体像と関連付けて理解することを目指す。また、臨床と関連づけて学ぶことにより、生きた解剖生理学の知識が定着するよう講義する。
到達目標	（1）細胞、細胞内小器官、組織の構造を説明できる。（2）各器官系の人体内の位置と構造について、解剖学用語を用いて図示し説明できる。（3）人体の発生、成長、成熟、老化の概要を説明できる。（4）人体の機能を構造に関連づけて説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：解剖生理学　第8版（系統看護学講座1：医学書院） 参考書：人体の正常構造と機能　縮刷版（日本医事新報社） ナーシンググラフィカ（1）人体の構造と機能　解剖生理学（メディカ出版）
成績評価	期末筆記試験を重視（80％程度）する。さらに随時提出を求めるレポート（20％程度）の結果を加える。これに出席状況や授業中の態度の評価を加えて最終成績とする。

科目名	体のしくみと機能Ⅱ
担当教員	安原　治
授業概要	体のしくみと機能（I）に引き続き、人体の構造（解剖学）とその機能（生理学）を統合的に学ぶ。本講では、内分泌系、神経系、感覚器系、生殖器系を取り上げ、外的環境への適応、内的環境の維持調節、生殖のしくみを中心に学ぶ。また、生体防御機構や、老化、疾患についても触れる。
到達目標	（1）細胞、細胞内小器官、組織の構造を説明できる。（2）各器官系の人体内の位置と構造について、解剖学用語を用いて図示し説明できる。（3）人体の発生、成長、成熟、老化の概要を説明できる。（4）人体の機能を構造に関連づけて説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：解剖生理学　第8版（系統看護学講座1：医学書院） 参考書：人体の正常構造と機能　縮刷版（日本医事新報社）、ナーシンググラフィカ（1）人体の構造と機能　解剖生理学（メディカ出版）
成績評価	期末筆記試験を重視（80％程度）する。さらに随時提出を求めるレポート（20％程度）の結果を加える。これに出席状況や授業中の態度の評価を加えて最終成績とする。

科目名	体のしくみと機能Ⅲ
担当教員	上山　久雄※
授業概要	ヒト(を含めた生物)は、絶えず物質を取り込み同時に絶えず物質を排出している動的平衡系である。疾病は物質の正常な流れ(＝正常な代謝)の乱れとして捉えることができる。本授業では、代謝経路とその調節機構をまず解説し、そのあといくつかの病態についてその代謝過程の異常を説明する。
到達目標	⑴体を構成する物質の構造と機能を説明できる。⑵体を構成する物質の合成経路と異化経路を説明できる。⑶生命活動に必要なエネルギーの獲得経路を説明できる。⑷体内の恒常性を維持する機構を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:三輪一智、中恵一著「人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院) 指定図書:田川邦夫著「からだの働きからみる代謝の栄養学」 (タカラバイオ(丸善))
成績評価	2回の小試験の成績を20%、定期試験(範囲は、生化学概論を除く全範囲)の成績を80%とし、総合的に評価する。

科目名	看護過程論
担当教員	伊丹　君和
授業概要	看護過程とは問題解決過程を看護に応用したものであり、看護を実践するときの「方法」である。この教科では、看護過程の構造や各段階の要点などについて、事例患者への適用を試みながら確認していく。また、看護過程に理論的枠組みを与えるものとしての看護理論、看護独自の目で見て問題を明確化する看護診断、看護過程の伝達や保存のための看護記録についても取り上げ、「看護の方法」を全般的に理解することを目指す。
到達目標	看護過程を看護の方法論として捉え、ペーパーペーシェントに適用しながら、看護過程の構造と過程を理解する。看護過程を規定する枠組みとして看護理論の意義を理解する。さらに看護診断、看護記録についてもその意義や方法を把握する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:江川隆子『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』ヌーヴェルヒロカワ、カルペニート(新道幸恵ほか訳)『看護診断ハンドブック』、医学書院
成績評価	事例演習の取り組み 50%、課題提出物の内容　50%　＊なお、原則として、欠席・遅刻・早退は認めない(減点する)。

科目名	看護管理論
担当教員	清水　房枝　・　米田　照美
授業概要	(看護管理)　対象者に質の高い継続したケアを提供するために、対象者を取り巻くあらゆる資源(人的、物的、財的)を有効利用し活用するためのしくみやマネジメントを理解する。
到達目標	(看護管理) 1. 対象者への安全で質の高いケアを提供するための組織、・体制について説明できる。 2. 看護専門職の機能や役割が発揮できるための看護管理者の役割について説明できる。 3. 医療、看護ケアの安全管理、保健・医療・福祉の地域連携体制と継続看護について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「基礎看護学 看護管理 (ナーシング・グラフィカ)」, メディカ出版 参考図書は適宜紹介する。
成績評価	(看護管理)　定期筆記試験100%

科目名	看護管理論（４回生用）
担当教員	清水　房枝　・　米田　照美　・　飯降　聖子
授業概要	（看護管理） 対象者に質の高い継続したケアを提供するために、対象者を取り巻くあらゆる資源（人的、物的、財的）を有効利用し活用するためのしくみやマネジメントを理解する。
到達目標	（看護管理） 1. 対象者への安全で質の高いケアを提供するための組織、・体制について説明できる。2. 看護専門職の機能や役割が発揮できるための看護管理者の役割について説明できる。3） 医療、看護ケアの安全管理、保健・医療・福祉の地域連携体制と継続看護について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：系統看護学講座 統合分野 看護管理，医学書院，2010.
成績評価	（看護管理） 定期筆記試験100％ (地域看護管理） 出席点10％、グループワーク・発表20％、課題レポート70％

科目名	看護コーディネーション
担当教員	植村　小夜子　・　飯降　聖子
授業概要	看護機能のうちでもコーディネート機能は重要な機能のひとつとされている。看護活動展開場面では、対象の特性に応じた支援技術が求められる。アセスメント技術、コミュニケーション技術などを学習したうえで、それらを使って、対象（個人・グループ）の健康課題を明確に把握する。次に、コーディネート機能を発揮して、他の看護職や他機関の専門家などと連携を取り、総合的なケア方法を確立する方法について理解を深める。また、課題解決のネットワークやシステムづくりから地域
到達目標	①対象者ごとのケアマネジメントの展開方法を理解し、個別援助としてのケアマネジメントを考えることができる。 ②個別援助としてのケアマネジメントをとおして、その地域共通の健康課題を提示することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：津村智恵子：「三訂　地域看護学」（中央法規出版） 長谷川浩編：系統看護学講座　別巻14 「人間関係論」（医学書院）
成績評価	レポート評価　20%　期末筆記試験　80%

科目名	看護政策論
担当教員	飯降　聖子
授業概要	国・都道府県における社会・医療のニーズに対応する看護政策の在り方とその策定過程を理解させる。また、地域住民の健康づくりを支援する政策が策定される過程を検討し、政策の分析を通して、看護実践に対する新しい視点を培い、健康課題解決能力や政策策定能力等の基礎能力を養う。
到達目標	看護政策の歴史的発展過程と看護職の抱える課題を理解し、問題解決について思考し、問題解決のための行動の提案ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：見籐隆子他「看護職者のための政策過程入門」日本看護協会編「日本看護協会の政策提言活動」 門脇豊子他「看護法令要覧」 参考図書：井部俊子他　看護管理学習テキスト7「看護制度・政策論」
成績評価	レポート評価　70%　　ゼミ参加度　30％

科目名	行政看護論
担当教員	飯降　聖子　・　未定
授業概要	国、都道府県、市町村の行政目的、組織や財政の仕組みを理解するとともに、保健医療福祉行政として住民ニーズの把握方法、政策を実現するための財源や人的資源の確保などの行政の基本的構造を学ぶ。 保健医療福祉行政を推進するための根拠法令、行政組織、地域保健医療計画の計画から評価までの作成プロセスや地区診断等から明らかになった健康課題を解決するための政策形成の理論と展開方法を学ぶ。
到達目標	行政における看護職の役割が理解でき、住民の健康課題を解決するための方法について考えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:津村智恵子編著　三訂地域看護学　中央法規、看護法令要覧　日本看護協会出版会
成績評価	課題レポート　20%　　定期試験　80%

科目名	健康科学Ⅰ
担当教員	松本　正朗※
授業概要	病理学は疾病の成因、それに基づく病変の成立機序、および病変における細胞、組織、器官の性状、殊にその形態学的変化の解明を主たる使命とする医学の領域である。これによって各種疾病の基本的な疾患概念が明らかにされ、その知識と正しい理解は医療の各分野における基礎として必須である。この授業では、健康体に疾病が発生する際の病因、病態発生、並びにその機能病理形態学的変化の原理的な基礎となる先天性異常、物質代謝障害、炎症と免疫、循環障害、成長と発育の障害、腫瘍の6つのカテゴリーについて各種の代表的疾患を引用しながら解説、その理解を深める。
到達目標	病悩の人に対して最も適切な看護、介護、あるいは健康支援を行うためには、その疾病の成り立ちと本態に関する正しい理解が不可欠である。従って、各種病態の原理的な病理学的知識を習得、疾病の本態を正しく理解して、これを実際の医療現場において看護・介護業務や健康維持の支援に応用出来ることを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特に指定はしない。講義内容はテキストに代わる資料を配布する。 参考書:特定なし。 例:系統看護学講座、専門基礎4、疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学(医学書院)　コアテキスト　疾病の成り立ちと回復の促進[1]総論(医学書院)
成績評価	小テスト、テーマ別ディスカッション　40%　　病理学的原理の理解進達度をカテゴリーごとにチェック、基本的な病態に関する知識内容につき相互の学習効果を高める。 期末筆記試験　60%　　日常的に経験する主要な疾患の病態全般を病理学的立場から理解できる。

科目名	健康科学Ⅱ
担当教員	山田　明
授業概要	医療従事者として必要な微生物学、感染症学の概説をおこなう。とりわけ感染症の予防と治療に関する知識は、医療現場では、不可欠である。基礎にかたよるのでなく医療現場の実際との関連に重点をおいて講義をすすめる。
到達目標	(1)病原微生物の基本的な性質、感染経路を理解する。 (2)感染経路制御についての知識を得て感染予防の基本的な説明ができること。 (3)感染の防御システム(液性免疫と細胞性免疫)についての簡単な説明できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:南嶋洋一、吉田真一著 「微生物学」(医学書院)
成績評価	中間筆記試験 50% 期末筆記試験 50%

科目名	健康教育論
担当教員	飯降　聖子
授業概要	健康教育の基本知識を理解し、健康教育の目的、方法を学ぶ。行動変容の関連理論を理解するだけでなく、看護の対象のセルフケア能力を高める必要性を理解し、セルフケア能力の獲得を促す健康教育方法について事例を用いながら学習する。また、グループを単位とする活動の特徴についても理解し、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育のあり方についても考える。
到達目標	(1)看護職が行う健康教育の目的、意義を理解できること。 (2)グループの特性、および、グループ活動の意義と支援者の役割が理解できること。 (3)保健師が地区活動として行う健康教育の企画、実施、評価の過程とその大事な視点を理解できること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:宮坂忠夫ほか編著 「最新　保健学講座　別巻1　健康教育論」(メヂカルフレンド社) 参考書:講義中、適宜紹介する。
成績評価	健康教育の企画・立案・実施の発表において評価する(70%) 課題レポート　(30%)

科目名	国際・災害看護論
担当教員	戸塚　規子※　・　伊冨貴　初美※
授業概要	【国際看護論】国際的視野に立った看護を展開できるため、諸外国の人々の健康と保健・医療の現状について理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす人口学的、社会経済学的、文化的な要因について考える。また、国際看護の基本概念、世界の健康問題をふまえ、異文化の価値観を尊重した看護について自己の考えを発展させる。 【災害看護論】国内で起こりうる災害の発生と対策の必要性について理解する。その上で、危機管理、予防対策、保健活動などの看護職の役割について考える。
到達目標	【国際看護論】(1)国際看護・国際保健にかかわる主要概念を理解できる。(2)諸外国の保健医療の現状と人々の健康について理解できる。(3)異文化看護の視点から人々の生活のより深い理解に立ち、看護の役割を認識できる 【災害看護論】国内の災害について理解し、その対応と対策について考察できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:国際看護研究会編「国際看護学入門」医学書院 系統看護学講座　総合分野「災害看護学国際看護学」日本赤十字社　事業局看護部　医学書院
成績評価	出席など学習態度　20% 課題レポート　80%

科目名	国際看護論
担当教員	戸塚　規子※　・　伊冨貴　初美※
授業概要	【国際看護論】国際的視野に立った看護を展開できるため、諸外国の人々の健康と保健・医療の現状について理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす人口学的、社会経済学的、文化的な要因について考える。また、国際看護の基本概念、世界の健康問題をふまえ、異文化の価値観を尊重した看護について自己の考えを発展させる。
到達目標	【国際看護論】(1)国際看護・国際保健にかかわる主要概念を理解できる。(2)諸外国の保健医療の現状と人々の健康について理解できる。(3)異文化看護の視点から人々の生活のより深い理解に立ち、看護の役割を認識できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:国際看護研究会編「国際看護学入門」医学書院 系統看護学講座　総合分野「災害看護学国際看護学」日本赤十字社　事業局看護部　医学書院
成績評価	出席など学習態度　20% 課題レポート　80%

科目名	在宅看護論Ⅰ
担当教員	植村　小夜子
授業概要	在宅看護活動の機能と役割を学び、その専門性を養う。さらに、在宅療養者とその家族の理解、日常生活を中心とした在宅看護の援助について学ぶ。
到達目標	地域における在宅看護の現状を理解する。地域看護、在宅看護活動の実際と看護の継続性を学ぶ。家族看護を含めた在宅看護活動の実際と看護の継続性を学ぶ。在宅看護の将来展望について考えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:杉本正子、他編集「在宅看護論　実践をことばに」NOUVELLE HIROKAWA 「プリント配布」
成績評価	出席状況、授業参加(グループワーク学習の参加状況を含む)、提出レポート、筆記試験等で総合的に評価する。

科目名	在宅看護論Ⅱ
担当教員	植村　小夜子
授業概要	地域で生活している療養者及びその家族に関わる在宅看護の具体的なケアや看護活動を理解する。訪問看護ステーションの機能と役割について理解する。これからの在宅看護について考えることができる。
到達目標	在宅療養者とその家族に応じた看護過程の展開ができる。個人・家族を中心とした看護、チームケアのあり方等から、看護職の役割・機能が理解できる。訪問看護ステーションの機能と役割について理解する。これからの在宅看護について考えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:根拠がわかる在宅看護技術　第2版　編集岡崎美智子　正野逸子　メヂカルフレンド社
成績評価	出席状況とレポート、期末試験等総合的に評価する。

科目名	在宅看護論実習
担当教員	植村　小夜子　・　未定　・　飯降　聖子　・　松井　陽子　・　馬場　文
授業概要	在宅療養者とその家族の健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割について学ぶ。また、訪問看護ステーションの活動の実際を通し、チーム医療及び他職種と協働する看護の役割を理解する。
到達目標	1)利用者および家族の生活上の健康課題を知ることができる2)利用者をとりまく生活環境を理解し看護の役割と方法を学ぶことができる3)訪問看護ステーションの機能・役割を理解できる4)チームケアや社会資源の活用について学ぶことができる5)今後の在宅看護のあり方について考えることができる
テキスト 指定図書 参考書	授業で使用した教科書及び授業で配布した資料
成績評価	実習記録，レポート，自己評価表，実習参加度，実習態度により総合的に評価する。

科目名	疾病論Ⅰ
担当教員	森　敏
授業概要	人体の仕組みは神経系，内分泌系，循環・免疫系の縦糸と各臓器別の横糸にて織りなされている．人体の正常構造と機能を理解した上で，神経系と内分泌系の働き，循環器疾患，消化管疾患，肝臓・胆嚢・膵臓疾患，糖尿病・代謝性疾患，腎・尿路疾患，脳神経疾患の病態生理，症状，検査と治療法の基礎知識を学び，病態の理解を深める．
到達目標	疾病のあらましとその対処方法、ならびに治療法を学ぶことにより、看護ｹｱに活かすことを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	成人看護学〔2〕～〔8〕医学書院，金井正光・金井 泉：臨床検査法提要　金原出版株式会社
成績評価	出席が前提，疾病論(前期)の各単元毎に実施するテスト点数，ならびに前期試験点数の総計の平均にて評価する．

科目名	疾病論Ⅱ
担当教員	森　敏
授業概要	人体の正常構造と機能を理解した上で，以下の疾患の基礎知識ならびに病態の理解を深める． 〔血液疾患〕貧血，血小板減少性紫斑病，白血病などの病態生理，症状，検査，治療法を学ぶ． 〔呼吸器疾患〕肺腫瘍，肺結核，低肺機能疾患などの病態生理，症状，検査，治療法を学ぶ． 〔アレルギー・膠原病〕アトピー性疾患，病態生理，検査法，治療法，指導方法を学ぶ． 〔外科治療学〕麻酔学，消化器外科，脳神経外科，整形外科についての基礎的知識を学ぶ．
到達目標	疾病のあらましとその対処方法、ならびに治療法を学ぶことにより、看護ｹｱに活かすことを目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：成人看護学〔2〕～〔8〕医学書院．金井正光・金井 泉：臨床検査法提要　金原出版社．
成績評価	出席が前提．内科科目については各単元毎に実施する小テストならびに後期試験の総計の平均点数にて評価する．外科治療学は単元毎にテストを行う．

科目名	小児臨床看護論演習
担当教員	鬼頭　泰子　・　古株　ひろみ　・　川端　智子
授業概要	健康障害を持つ子どもへの実践看護能力を養うため、以下の点について学ぶ。 ①子どもの身体・機能的特徴を踏まえた症状ごとの観察点と小児看護に必要な判断力の基礎的知識を講義等から学ぶ。 ②子どもの特徴的な疾患について学ぶ。 ③主な小児看護技術を演習から修得する。④事例を通して子どもを対象とした看護過程の展開方法を学ぶ。
到達目標	1．子どもに多い主な症状に対する観察及び必要な看護判断ができる。 2．よく遭遇する小児疾患及びその治療を理解する。 3．小児看護技術が修得できる。4．事例を通して子どもを対象とした看護過程の展開が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：　氏家幸子監「小児看護学」(廣川書店) 参考書：　氏家幸子監 「母子看護技術Ⅱ」（廣川書店）他
成績評価	演習での課題・レポートに対する評価（プレゼンテーション含む）　50％、筆記試験　50%

科目名	小児臨床看護論実習
担当教員	古株　ひろみ　・　鬼頭　泰子　・　川端　智子
授業概要	入院中の健康障害がある子どもの生活・治療・成長発達・家族援助に関わる看護実践を体験する。学内で学んだ知識・技術を基に、理論的根拠をふまえて、対象児の情報収集・アセスメント・診断・計画立案・実施・評価といった看護過程の展開を行う。
到達目標	①小児期の特徴の理解と成長発達を促す援助の実施②健康障害が、子どもとその家族に及ぼす影響の理解と援助方法の考察。③看護ニーズに関する系統的な情報収集及び理論的根拠をふまえたアセスメント・診断・計画立案の実施。④個別性に応じた安全なケア計画立案と計画の実施・評価。⑤対象児とその家族の人権尊重と個人情報・プライバシーの保護。⑥主体性と協調性ある行動。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特に指定しない 参考書：実習の中で適宜紹介する
成績評価	実習目標の達成度・看護過程の展開状況、記録内容などにより総合的に評価する。ただし欠席により実習展開が困難な場合は評価対象にしない。

科目名	生活行動看護論
担当教員	伊丹　君和
授業概要	看護が対象とするのは、生活者としての人間である。人間の基本的ニーズ充足および健康の維持・増進、または病気の回復へと向かうことをめざす「生活行動」について理解を深める。具体的には、生活行動を援助していく上で基本となる健康な「生活行動」について分析的に考え（グループワーク）、明らかにしていく。また、生活の場となる「環境」について理解するとともに、生活行動を支える看護のあり方について考える。
到達目標	(1)生活行動について説明できる。(2)人間の基本的ニーズ充足と生活行動、健康との関係について説明できる。(3)健康な生活行動について、代表的な生活行動を取りあげ、その意味やメカニズム、行動分析等から説明できる。(4)生活の場としての「療養環境」についてアセスメントできる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：ヴァージニア・ヘンダーソン（湯槇ます他訳）：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、フロレンス・ナイチンゲール著（湯槇ます他訳）：看護覚え書訂版第6版、現代社
成績評価	グループワーク時の成果物(10%)、小テスト(25%)、レポート(25%)、期末試験(40%)の総合評価とする。 なお、原則として、欠席・遅刻・早退は認めない（減点する）。

科目名	生活行動看護論演習Ⅰ
担当教員	伊丹　君和　・　米田　照美
授業概要	看護が対象とするのは、生活者としての人間である。人間の基本的ニーズ充足および健康の維持・増進、または病気の回復へと向かうことをめざす「生活行動」および生活の場としての「療養環境を整える」ことの基本的な援助技術を学ぶ。なお、各援助技術習得過程の中で、援助の目的を明確化するとともに、安全性、安楽性、自立・自律性を追求し創造することを繰り返し、援助を行う上で基本となる思考プロセスを学ぶ。
到達目標	(1)生活の場としての「療養環境を整える」ことの基本的な援助技術を修得する。 (2)生活行動看護論での学びをもとに、「眠る」「動く」「身支度を整える」「入浴する」という生活行動に援助が必要な人への基本的な援助技術を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：川島みどり：実践看護技術学習支援テキスト　基礎看護学、日本看護協会出版会
成績評価	①個人課題ワーク (35%)、②小テスト(10%)、③グループ評価(5%)・自己練習状況(5%)、④期末筆記試験(35%)、⑤技術チェック評価(10%) を総合的に評価する。 なお、原則として、欠席・遅刻・早退は認めない（減点する）。

科目名	生活行動看護論演習Ⅱ
担当教員	米田　照美 ・ 伊丹　君和 ・ 森　敏
授業概要	看護の対象となる人の健康状態の把握、看護援助方法の評価を行うために必要なヘルスアセスメントについて学ぶ。特に、その人の身体を客観的に評価するためのフィジカルアセスメント技術の基礎を習得する。
到達目標	(1)観察技術の基本となるバイタルサイン測定技術を習得する (2)身体を客観的に評価するためのフィジカルアセスメント技術を習得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: ［米田担当分］ 日野原重明:臨床看護の基礎となる新看護学テキスト、日本看護協会出版会 ［森担当分］ 藤崎　郁:フィジカルアセスメント完全ガイド、学研，指定図書:適宜紹介、参考書:適宜紹介
成績評価	フィジカルアセスメント(70%)、バイタルサイン(30%)の配分で評価する。なお、課題レポート、小テスト、期末試験、技術チェック、出席状況を総合して評価する。

科目名	生活行動看護論演習Ⅲ
担当教員	米田　照美 ・ 伊丹　君和
授業概要	生活行動看護論演習Ⅰに引き続き、人間の基本的ニーズ充足および健康の維持・増進、または病気の回復へと向かうことをめざす「生活行動」の基本的な援助技術、および「感染予防」技術を学ぶ。また、健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。
到達目標	(1)生活行動看護論での学びをもとに、「排泄する」「食べる」という生活行動に援助が必要な人への基本的な援助技術を習得する(2)「感染予防」技術を習得する(3)健康な生活と看護について理解する(4)経過に基づく患者の看護を学ぶ(5)主要症状を示す患者への基本的な援助技術を習得する(6)治療・処置を受けている患者への基本的な援助技術を習得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:川島みどり:実践看護技術学習支援テキスト基礎看護学　日本看護協会出版会，岩井郁子他:系統看護学講座専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学[4]、医学書院
成績評価	課題レポート、小テスト、期末試験、技術チェック、出席状況を総合して評価する。

科目名	生活行動看護論実習Ⅰ
担当教員	清水　房枝 ・ 伊丹　君和 ・ 米田　照美
授業概要	病院の見学や説明を通して、患者を取り巻く治療的・療養的環境を知り、生活の場としての適切な環境と人の環境への適応の状況を考察する。また、観察やコミュニケーションの方法を用いて、看護の対象である患者を統合的に捉え、人の発達や生活の視点から健康障害の状況や個別の特徴を考える。実習を通して、患者・家族の生命、健康、生活を援助し支える看護の役割と方法について考え、学ぶ。
到達目標	1. 病院見学やオリエンテーションを通して、患者の治療的・療養的環境を知り、生活の場としての環境と適応の状況を考察できる。2. 観察やコミュニケーションの方法を用いて、患者を統合的に捉え発達や生活の視点から健康障害の状況を考える。3. 患者・家族を援助し支える看護の役割と方法について学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	適宜紹介する。
成績評価	実習記録50％、実習態度50％

科目名	生活行動看護論実習Ⅱ
担当教員	伊丹　君和　・　清水　房枝　・　米田　照美
授業概要	病院で療養生活を送る人々の療養環境や生活に触れ、人の生命と尊厳についての理解を深めながら、患者に必要な生活行動の援助を実践し、看護についてさまざまな視点から考察するなかで看護実践能力の基礎を培う。
到達目標	1)療養生活を送る患者を全人的に捉えた上で健康上の問題(看護診断)を抽出し、生活行動の援助を中心に計画・実施し評価できる。 2)受持患者およびその家族の意思を尊重し、適切な人間関係を形成できる。 3)実施した看護実践について客観的な自己評価ができる。 など実習要項に記載
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:生活行動看護論、生活行動看護論演習、看護過程論に準じる　指定図書:三上れつ他編集:演習・実習に役立つ基礎看護技術　根拠に基づいた実践をめざして、廣川書店
成績評価	評価は実習目標に沿って総合的に行う。1. 学習態度(出席状況含む)2. 実習内容、実習目標の到達度(75%)3. 実習記録(25%)4. 学生自己評価　＊なお、原則として、欠席・遅刻・早退は認めない(減点する)。5分の1以上欠席した場合、基本的に単位を認定しない。

科目名	精神保健看護論
担当教員	甘佐　京子　・　山下　真裕子　・　牧野　耕次
授業概要	“人”対“人”における関係性の形成は、良好な社会生活を送る上で重要な意味を持っており、特に看護の現場では患者と看護師との信頼関係の構築が不可欠である。ここでは、人間関係の理解に役立つスキルを習得し、精神保健において重要となる発達課題や心の健康への支援について学習する。
到達目標	①対人援助で必要な態度および援助的コミュニケーション・テクニックを理解する。 ②情緒体験のプロセスおよびメンタルヘルスの諸問題とその支援を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:出口禎子編ナーシンググラフィカ精神看護学32(メディカ出版) 指定図書:宮本真巳「感性を磨く技法1・2」(日本看護協会出版会)、R・ネルソン＝ジョーンズ「思いやりの人間関係スキル」(誠信書房)
成績評価	課題提出(40%)、筆記試験(60%)による。

科目名	精神臨床看護論
担当教員	甘佐　京子　・　牧野　耕次　・　山下　真裕子
授業概要	精神医学が対象としている代表的な疾患、健康障害を伴う精神状態、急性期・回復期・慢性期の各健康段階における生活上の問題、看護援助の方法、QOLを高めるための看護計画・立案について理解し、精神領域の看護過程を実践する上で必要な基本的知識を学ぶ
到達目標	①精神科医療の変遷及び法的制度について知る。②主な精神疾患の概要を知るとともに、その症状が対象の生活に及ぼす影響について理解する。③精神科医療における治療法について理解する。④精神障害(症状)に応じた看護について考えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキスト:出口禎子編ナーシンググラフィカ精神看護学32.33(メディカ出版) 指定図書:野嶋佐由美監修「精神看護学」(日本看護協会出版会) 参考書:中西睦子監修「精神看護学」(建帛社)
成績評価	課題等(20%)、筆記試験(80%)による

科目名	精神臨床看護論演習
担当教員	牧野　耕次　・　山下　真裕子　・　甘佐　京子
授業概要	患者の人権・倫理的配慮と精神看護セルフケアモデルについて理解するとともに、精神看護実践における看護援助技術についての知識および技術を養う。
到達目標	精神看護の基本となる看護理論の理解および、その理論を基に事例を用いて必要な情報の収集や対象のアセスメントを助言を受けながら看護過程の展開ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：田中美恵子編「精神看護学－学生・患者のストーリーで綴る実習展開－」(医歯薬出版株式会社)、出口禎子編ナーシンググラフィカ　精神看護学　生活障害と看護の実践(メディカ出版)
成績評価	講義中の演習課題への取り組みおよび小レポート課題(30%)、レスポンスペーパー(20%)、筆記試験(50%)による

科目名	成人臨床看護論演習Ⅰ
担当教員	横井　和美　・　前川　直美
授業概要	臨床看護論Ⅱを踏まえ、成人期の人々が望ましい成長・発達と、生活適応できる健康障害からの回復・維持・増進を支援するために必要な知識・技術を習得する。また、成人期の主な生活習慣病と慢性疾患の治療に対する個人と家族の反応を読み取る看護の視点や看護アセスメント、ケア方法について事例展開と技術演習を行う。
到達目標	成人の生活習慣病における健康管理の理解と個別の生活指導案の作成ができる。生活行動の自立に向けた呼吸・循環、運動の健康管理方法を理解する。慢性疾患患者の治療に必要な看護技術を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	鈴木志津枝　藤田佐和　編集「成人看護学　慢性期看護論」(ヌーヴェルヒロカワ) 竹村節子・横井和美監修「実習アセスメント実践ノート」(医学芸術社) 日本糖尿病学会「糖尿病食事療法のための食品交換表」文光堂
成績評価	レポート評価20%、期末試験50%、演習参加を状況を含めた出席評価30%で総合評価する

科目名	成人臨床看護論演習Ⅱ
担当教員	本田　可奈子　・　荒川　千登世
授業概要	成人期にある患者の急性的健康障害に対して、患者および家族が必要とする看護上の問題を診断し、患者の安全、生命維持を優先した周手術期看護技術およびクリティカル・ケア看護技術を適用した対処の方法を学ぶ。
到達目標	1．手術療法に関する変化や状況を理解し、看護の機能と役割の概要を学ぶ。2．手術や麻酔の影響を理解し、合併症の予防方法を学ぶ。3．術後急性侵襲期にある患者の症状観察の目的と内容およびアセスメントの方法を理解し、提供する看護技術の根拠を学ぶ。4．術後患者の心理を理解し、回復を促進する方法を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：青木照明、小路美喜子編集：系統看護学講座別巻1「外科看護総論」(医学書院) 参考書：竹内登美子編集：周手術期看護2「術中／術後の生体反応と急性期看護」(医歯薬出版)
成績評価	期末試験40%、演習60%(参加状況20%、技術チェック20%、レポート20%)で総合的に評価する。 参加状況20%のうち10%は学生間のピア評価とする。

科目名	精神臨床看護論実習
担当教員	牧野　耕次　・　山下　真裕子　・　甘佐　京子
授業概要	精神疾患や精神的問題をもつ対象者を全人的な観点から捉えて、これまでに習得した精神看護に必要な専門的知識・技術・態度を実際の場面に応用しながら、理論と実践を統合した看護活動が展開できる基本的能力を培う。
到達目標	①精神的疾患や精神的問題を抱える人のありようを、身体的（フィジカル）・社会的（ソシアル）・心理的（メンタル）・神気的（スピリチュアル）な次元から理解できる。 ②時間の流れの中における生活者としてのその人を理解できる。 ③対人関係技術を使いながら、精神疾患や精神的問題を抱えている人への看護ケアを実践できる。 ④精神科治療機関や地域で行われている保健・医療・福祉的アプローチを理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：田中恵美子　編「精神看護学」（医歯薬出版） 指定図書：出口貞子　編「精神看護学　情緒発達と看護の基本」「精神看護学　生活障害と看護の実践」（メディカ出版） 参考書：野嶋佐由美　監「精神看護学」（日本看護協会出版会）
成績評価	実習への取り組み状況および実習記録などから総合的に評価する。

科目名	成人臨床看護論実習Ⅰ
担当教員	前川　直美　・　横井　和美　・　奥津　文子　・　大辻　裕子　・　川端　智子
授業概要	成人看護学領域実習の共通目的：成人期にある対象およびその家族（重要他者）の、身体的・心理的・社会的看護問題（慢性期・急性期・ターミナル期）を理解し、看護援助を展開するために必要な基礎的知識、技術、態度をを習得する。
到達目標	1）慢性的な健康問題をもつ患者とその家族を、全人的に捉えることができる。 2）受け持ち患者・家族の意思を尊重し、セルフマネジメントを支援する援助的人間関係が樹立できる。 3）受け持ち患者の治療的管理と退院後の生活に向けた調整を考慮した個別的な看護計画が立案できる。 4）援助の目的・必要性を理解し、受け持ち患者の意思と患者の変化に応じた安全かつ安楽な方法で看護を提供することができる。 5）行った看護に対して、退院後の生活を見据えた援助の効果および受け持ち患者の立場から、客観的評価を行うことができる。 6）受け持ち患者を取り巻くすべての支援者との連携の重要性が理解でき、チームメンバーとしての自己の役割、責任の自覚がもてる。 7）慢性期看護の理解を深める理論や文献の学習を行い、自己の学習活動を客観的に評価できる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：竹村節子・横井和美監修「実習アセスメント実践ノート」（医学芸術社） 日本看護診断学監訳「NANDA看護診断定義と分類」（医学書院）
成績評価	実習態度および出席状況の評価10％、看護過程の展開実施状況・記録内容の評価と、自己評価を加味した評価90％と総合的に評価する

科目名	成人臨床看護論実習Ⅱ
担当教員	本田　可奈子　・　奥津　文子　・　大辻　裕子　・　荒川　千登世
授業概要	周手術期における成人期特有の健康問題を持つ患者に対して、人としての尊重重視と人権の擁護を基本に据えた援助を行いつつ、自立して健康問題に対処していける支援を実施し看護実践能力を培う。
到達目標	1）周手術期にある患者の病態生理、治療に関する基礎理解ができ、急性期、回復期、社会復帰における患者（利用者）の回復のプロセスとその援助が理解できる。2）周手術期の患者の生命の尊重と安全の重要性およびその方法を理解し援助できる。3）患者のプライバシーと尊厳を守る重要性を認識し、危機状況にある患者、家族の心理的ストレス状況の理解と対処を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：参考書：竹内登美子編　「周手術期看護　術中／術後の生体反応と急性期看護」（医歯薬出版） 日本看護診断学監訳「NANDA看護診断定義と分類」（医学書院）
成績評価	実習態度および出席状況の評価10％、看護過程の展開実施状況・記録内容の評価と、自己評価を加味した評価90％と総合的に評価する

科目名	卒業研究（人間看護）
担当教員	学科教員
授業概要	学生個人が研究テーマを設定し、既習した知識を統合して、研究活動を実践する。
到達目標	基礎的な研究方法や問題解決方法を学び、将来の研究活動の基盤となる研究に関する基礎の知識・技術を体得する。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	学習態度・ディスカッション参加態度　30% 学習成果(研究論文)　70% で評価する。

科目名	ターミナルケア論
担当教員	奥津　文子　・　糸島　陽子
授業概要	人生の最期の時期を生きる患者やその家族を、医療従事者はどう支え働きかけることができるのか、看護の視点から検討する。
到達目標	エンドオブライフケア（ターミナルケア）の歴史と現在について理解し、現状における課題を踏まえ今後の在り方を検討する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：NANDA-I　看護診断定義と分類2009－2011　医学書院 これなら使える看護診断　医学書院 緩和・ターミナルケア看護論　ヌーベルヒロカワ
成績評価	レポート20%　ミニテスト30%　　定期試験50%

科目名	ターミナルケア論演習
担当教員	糸島　陽子　・　奥津　文子
授業概要	エンドオブライフ（ターミナル期）にある患者・家族と医療従事者が最善の医療とケアを作り上げるプロセスを理解し、医学的妥当性・適切性を基盤とした総合的・ケアのあり方を考察する。
到達目標	①エンドオブライフケアの方法を理解する。 ②エンドオブライフケアに活用できる技術を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：NANDA-I　看護診断定義と分類2009－2011　医学書院 これなら使える看護診断　医学書院 緩和ケア・ターミナルケア看護論　ヌーベルヒロカワ
成績評価	レポート20%　ミニテスト30%　　定期試験50%

科目名	ターミナルケア論実習
担当教員	奥津　文子 ・ 糸島　陽子
授業概要	ターミナル期にある人の身体的、心理的、社会的、霊的特徴を総合的に理解し、その人らしい生活を支援する緩和ケアの実践を体験するなかで、ターミナルケアの基礎的能力を身につける。また、ターミナル期にある人の家族の状況とその援助について理解する。さらにそれらの人々との出会いを通して人間の尊厳、生と死、QOLについて洞察するなかで、自己の死生観と看護観を養う。
到達目標	1. 受け持ち患者とその家族(重要他者)を、全人的(ライフサイクルや発達課題、価値観・信条などを含む)に理解することができる。 2. 受け持ち患者と家族の意思を尊重し、援助的人間関係を樹立できる。 3. 受け持ち患者・家族の「苦痛」に関連した主観的・客観的情報を、論理的・科学的にアセスメントし、援助の視点を明確にすることができる。 4. 苦痛を緩和するための援助が、受け持ち患者の意思を尊重しながら、安全かつ安楽な方法で実施できる。 5. 実施した看護の効果を目標に照らし合わせて評価するとともに、自分自身の技術についても客観的に評価することができる。 6. 受け持ち患者の援助を通して、緩和ケアチームの連携の重要性が理解でき、チームメンバーとしての自己の役割、責任の自覚がもてる。 7. 自己実践能力向上のための努力を行い、実習に対して客観的に評価を行うと共に、自己の死生観・看護観を洞察することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:NANDA-I　看護診断定義と分類2009－2011　医学書院 これなら使える看護診断　医学書院 緩和・ターミナルケア看護論　ヌーベルヒロカワ
成績評価	実習目標の到達状況を、実習態度、実習記録、レポートなどから総合的に評価する。

科目名	地域看護管理論
担当教員	飯降　聖子 ・ 植村　小夜子
授業概要	日常的な地域住民総体に対する地域看護活動や感染症や災害発生等を含む地域の健康危機管理に対する基本的な知識を学ぶ。 地域で活動する看護職には、地域の健康課題を未然に防ぐ能力や他職種とともに活動できる能力など総合的な地域管理能力が求められる。個別ケアだけでなく集団に対するケア、地域全体に対するケア、看護管理が必要とされることを理解し、総合的な看護能力の開発に取り組む。
到達目標	地域全体のあらゆる健康レベルの人々の健康増進活動や多層的な住民階層に対する看護管理には、アセスメント能力やコーディネーション能力、予算獲得能力など行政の看護職として、多くの総合的な能力が求められ、自らの能力を高める必要があることが理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:津村智恵子編著　三訂地域看護学　中央法規 看護法令要覧　日本看護協会出版会　国民衛生の動向 参考書:村嶋幸代編　最新保健学講座2　地域看護支援技術　メヂカルフレンド社
成績評価	定期試験　100％

科目名	地域看護論Ⅰ
担当教員	飯降　聖子 ・ 未定
授業概要	地域を基盤として展開する看護の特質を学ぶ。公衆衛生看護活動の歴史や活動事例から、公衆衛生看護の理念と目的を理解する。さらにこの目的にそって活動を展開していく上で基本となる考え方とその方法について理解する。そして、ヘルスケアシステムの中で機能する看護の役割について考えていく。
到達目標	目標は公衆衛生看護の理念と目的がわかり、保健師の機能・役割の特徴が説明できることである。そのために、①ヘルスケアシステムの成り立ちと地域看護活動の場およびその特徴、②保健師が行う保健指導の特徴、③保健師固有の活動である地区活動の目的と活動方法の特質、④地域におけるヘルスケアチームおよび地域ケアシステムづくりの意義に関する理解を求める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:津村智恵子「三訂地域看護学」(中央法規) 国民衛生の動向　(厚生統計協会) 参考書:講義中、適宜紹介する。
成績評価	期末試験の成績を70％　課題の評価30％

科目名	地域看護論Ⅱ
担当教員	飯降　聖子　・　西内　恭子※　・　植村　小夜子
授業概要	障がいを持つ児・者に対する社会の制度・しくみや障害者自立支援法、バリアフリー法ユニバーサルデザインなどについて理解する。地域看護の場としての学校保健、産業看護に関する法制度、看護活動についての理解を深める。生涯を通じた各世代に対する看護の連携についての知識を得る。口腔衛生に関する知識を得、演習を通して衛生管理の技法についても学ぶ。
到達目標	障がい看護、学校看護、産業看護についての知識を得、地域看護の各領域について総合的見地から理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:津村智恵子編著　三訂地域看護学　中央法規、村嶋幸代編　最新保健学講座2地域看護支援技術メヂカルフレンド社、　看護法令要覧、国民衛生の動向
成績評価	中間レポート　20%　　期末レポート　30%　　定期試験　50%

科目名	地域看護論演習
担当教員	松井　陽子　・　未定　・　馬場　文
授業概要	地域で生活する個人・家族・集団および地区における健康指標・保健福祉サービス・地域ケアシステム等をアセスメントし，活動計画立案から評価までの地域看護活動の展開方法を学ぶ。地区診断演習では，彦根市を題材にしてグループワークをとおして，地区診断のプロセスを学ぶ。また，様々な健康段階にある人々への地域看護活動における介入技術を学ぶ。これらの学びをもとに各自が地域特性をふまえた対象（地域）への介入についてレポートにまとめる。
到達目標	(1)家庭訪問の看護展開方法が理解できる (2)家庭訪問の初期援助計画が立案できる (3)地区診断の意義とそのプロセスが理解できる (4)地域のヘルスニーズを抽出し、地区活動計画が立案できる
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:津村智恵子編「地域看護学 三訂」(中央法規出版) 財団法人厚生統計協会「国民衛生の動向」 参考書:参考文献は、適宜講義で提示する
成績評価	演習への参加状況10%　個人・グループレポート評価40%　筆記試験50%

科目名	地域看護論実習
担当教員	飯降　聖子　・　未定　・　植村　小夜子　・　松井　陽子　・　馬場　文
授業概要	地域で生活する個人、集団ならびにそれらを取り巻く地域を対象とした総合ケアシステムについての理解を深める。また、保健所、市町村の活動をとおして、地域で生活する個人、家族、集団を対象とした看護活動を展開するための基礎的能力を養う。
到達目標	地域保健活動の実践機関としての保健所および市町村保健センターの機能と地域保健活動の実際が理解できる。個人・家族が生活する地域のヘルスニーズと地域保健活動の展開方法が理解できる。公衆衛生看護活動で用いられる援助方法を学ぶとともに、人々の行動変容を促し、セルフケア能力を高める援助について理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:津村智恵子編「地域看護学　三訂」(中央法規出版),「国民衛生の動向」「看護法令要覧」
成績評価	保健所・市町村実習評価100%

科目名	地域保健論
担当教員	渡邊　能行※
授業概要	主に国・地方公共団体などの責任によって進められる保健行政，即ち、疾病の広義の予防、環境保健、医療、さらに、健康維持に足りる生活水準の保障など公衆衛生活動の実際を学ぶ。また，これら活動のための実際的方法として，衛生統計や疫学手法の基礎を学び、その疫学的根拠にもとづいて、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解する。
到達目標	環境と人間集団、疾病の予防、健康維持のための方法論、に対する理解と知識の習得を目標とする。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:公衆衛生学　医学書院
成績評価	出席が前提，小テストならびに前期テスト総計の平均点にて評価.

科目名	人間看護学統合実習
担当教員	学科教員
授業概要	人間・看護・健康・環境をキーワードに、人が人として生きていくことを目指し、その生き方を支える看護のあり方を追求する実習とする。
到達目標	1. 今までの学びの中で明らかになった自己の課題を探求する。 2. 自己の実習テーマにそって、看護の専門性を追求する。 3. 学際的分野である看護の特徴から、さまざまな領域を通して、対象である人間と看護をより広く捉える視点を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	
成績評価	実習活動状況25%、実習態度25%，実習記録25%、実習目標への到達度25%

科目名	人間看護論Ⅰ
担当教員	清水　房枝
授業概要	看護の考え方を、その中心概念としての「人間」、「健康」、「環境」、「看護」の視点から学ぶ。特に看護の対象である人間の統合的存在、その尊厳性と自律の意味、環境との関係などについて理解を深め、健康とその障害に対する看護援助の概要を学ぶ。また、保健・医療・福祉システムにおける看護の役割と連携について理解し、「人の生と生活を支える看護」について考える。
到達目標	1.「人間」、「健康」、「環境」の概念について理解し、「看護」について考えることができる。2. 人間の統合性、尊厳性と自律、環境との関係について理解できる。3. 人の健康とその障害に対する看護援助の概要を学ぶ。4. 保健・医療・福祉システムの概要を学び、看護の役割、連携の方法が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 松木光子編:看護学概論（第4版） −看護とは・看護学とは−，ヌ―ベルヒロカワ，2010. 参考書:適宜、紹介する。
成績評価	定期試験80％、レポート20％

科目名	人間看護論Ⅱ
担当教員	清水　房枝
授業概要	「人が人として生きることを支える看護」を実践するための方法論や理論を、次のアプローチにより考察し探求する。①看護のメタパラダイムである「人間」「健康」「環境」「看護」について、身近な経験や事象、社会や時代の状況の中から具体化する。②事象や状況を看護実践に関連付ける方法としての理論について理解を深める。③抽象的理論を活用し、具体的事象に対して看護を展開する方法を学ぶ。④この学習プロセスを通して、自身の人間観、看護観を基礎付け、これからの看護実践について「人間看護」の視点で展望する。
到達目標	「人が人として生きることを支える人間看護」について看護の概念枠組みから理解を深める．様々な看護理論を具体的な看護実践に生かす意味と方法を理解する。看護理論を活用する能力を養い、自らの看護実践能力の基礎を築く。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト、指定図書：指定なし 参考書：①看護理論，南江堂，既刊．②はじめての看護理論，医学書院，2005．③看護理論ー理論と実践のリンケージー，ヌーヴェルヒロカワ，2006．④看護理論家とその業績，医学書院，2004．
成績評価	グループワークの発表内容　50%　　定期試験　50%

科目名	人間性心理論
担当教員	松本　行弘
授業概要	生活者としての人の行動を現実との関わりに即して、そこに働く心理から明らかにすることを目標とする。講義では、臨床場面での“関わり”をテーマに人が患者になる心理などを明らかにすると共に、現代に生きる人間の在り様を取り上げ、人の心理と行動の関係を考える。考える上での客観的な視点として、心理アセスメントやカウンセリングなどの臨床場面での自験例なども提示する。理論的背景についても触れるが、特定の理論に偏らず、広い視野で、人が生きることに真摯な興味が持てるような基礎的講義とする。
到達目標	将来、臨床家となるための基本的な人間性や人間観を養うこと。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：指定しないが、教材としてVTRやDVDを使用し、適宜プリントを配布する。 参考書：河合隼雄著「ユング心理学入門」倍風館、 鷲田清一著「『聴く』ことの力」TBSブリタニカ
成績評価	レポート提出　30%　試験　70% レポート課題は“人が生きる”ということについて、講義内容を越えて広い範囲のものとなる。またレポート課題と試験によって、到達目標の狙いが達成されたかどうかを見極める。

科目名	発達看護論Ⅰ
担当教員	古株　ひろみ　・　鬼頭　泰子　・　川端　智子
授業概要	小児看護の基盤となる、子どもの成長発達の概念と成長発達過程について理解し、健全な成長発達を促進する援助技術を育成する。ここでは、子どもをとらえる視点、子どもや親の権利と看護倫理、代表的な発達理論、成長発達の特徴、成長発達に影響を及ぼす因子、乳幼児期から思春期の身体・運動・心理・社会的発達について学び、演習を通して子どもの成長発達の評価方法、生活援助技術を習得する。
到達目標	①成長発達の特徴・共通性・影響因子が理解できる②発達理論と発達の視点が理解できる③小児各期の身体・運動・心理・社会的発達とその評価方法が理解できる④年齢に応じた遊びを考え説明できる⑤子どもの権利が理解できる⑥小児の日常生活援助技術が習得できる
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：新体系 看護学全書 30　小児看護学概論・小児保健（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 指定図書：上田礼子著「生涯人間発達学」（三輪書店） 参考書：授業中に適宜掲示
成績評価	課題・レポート(20%)、グループ発表プレゼンテーション(20%)、期末筆記試験(60%)

科目名	発達看護論Ⅱ
担当教員	奥津　文子
授業概要	人生のライフサイクルにおける成人期の発達上の特徴や健康の保持増進のための看護を学ぶ。内容：①ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解し、人々の望ましい発達・適応を促す看護の機能と役割を考える。②成人期の健康問題を検討し、適切なセルフケアを促す支援システムや援助のあり方を検討する。③成人看護学に活用される理論・モデルを通して、成人看護方法論の特徴を理解する。
到達目標	①成人期にある人の健康問題と健康課題が説明できる。 ②成人看護の役割と援助方法の特徴について説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：NANDA-I　看護診断定義と分類2009－2011　医学書院 これなら使える看護診断　医学書院 その他、授業の中で適宜紹介する
成績評価	レポート20％　ミニテスト30％　　定期試験50％ 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	発達看護論Ⅲ
担当教員	畑野　相子
授業概要	高齢者の成熟と衰退に関するアセスメント能力を高め、健康段階に応じた健康の保持増進、QOLの向上を目指した支援を考える。理論学習を基盤にして、講義・演習・事例検討等を通して学習を深める。
到達目標	(1)高齢者の身体的・心理的・社会的側面から健康問題が理解できる。 (2)健康問題に即した援助方法が思考できる。 (3)自己の高齢者看護に関する考え方が構築できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：老年看護学　概論と看護の実践　HIROKAWA　国民衛生の動向
成績評価	レポート30％、筆記試験70％

科目名	薬理学
担当教員	土田　勝晴※　・　竹内　孝治※　・　天ケ瀬　紀久子※
授業概要	生体は通常自分自身の恒常性維持機能により、健康な状態を維持している。恒常性が保てない状況に陥った時、それを是正してやる目的で薬物を使用する。この講義を通して、薬物の摂取方法、吸収、分布、効果発現様式、作用メカニズム、副作用、排泄に至る一連の薬物作用について学習するが、これは同時に生体調節機構、病態等に関しても理解を深めることに通じている。
到達目標	疾病の治療、予防のため使用される薬物の作用、副作用について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：わかりやすい薬理学：安原　一、小口　勝司　著、廣川書店（￥2200） 参考書：くすりのしくみ事典：岡島、水野　著、日本実業出版社(￥1400)
成績評価	期末試験（100％）で判定、場合によりレポート提出を求め、総合判定を行う。

科目名	臨床看護論Ⅰ
担当教員	古株　ひろみ ・ 鬼頭　泰子 ・ 川端　智子
授業概要	小児期の主な健康障害を理解し、生活上の問題、看護援助の方法、小児期の主な疾患とその病態生理、健康障害が子どもの成長発達や生活およびその家族に及ぼす影響について理解し、健康障害に応じた看護過程を実践する上で必要な基本的知識を学ぶ。
到達目標	①小児期の主な疾患とその病態生理が理解できる。 ②健康障害が子どもの成長発達や生活およびその家族に及ぼす影響について理解できる。 ③健康を障害された子どもとその家族のQOLを高める必要な看護ケア（知識・技術）が理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：健康障害を持つ小児の看護　メジカルフレンド社 参考書：授業中に適宜提示
成績評価	課題・小テスト（30％）、期末筆記試験（70%）

科目名	臨床看護論Ⅱ
担当教員	横井　和美 ・ 荒川　千登世 ・ 吉田　智美※
授業概要	健康障害を伴う成人期の患者とその家族が、急性期・回復期・慢性期・継続療養期・終末期の各時期に必要としている看護援助を判断し、展開するための看護方法論を学ぶ。
到達目標	成人期の人々が遭遇する各時期の主な疾患の病態やその治療に対して理解を深め、看護アセスメントに必要な情報の種類と解釈、看護診断による問題の明確化、必要な看護ケアについて、具体的な事例を用いながら理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	急性期のテキスト： 安酸史子、他編集：ナーシング・グラフィカ23「成人看護学・健康危機状況」（メディカ出版） 中島恵美子、他編集：ナーシング・グラフィカEX3「周手術期看護」（メディカ出版）
成績評価	横井和美：定期試験50％、荒川千登世：定期試験30％＋レポート20％、で評価する。

科目名	臨床看護論Ⅲ
担当教員	北村　隆子
授業概要	健康障害を伴う老年期の特徴的病態を理解し、急性期・回復期・慢性期の各健康段階における生活上の問題点、QOLを高めるための看護援助の方法について学ぶ。
到達目標	1．高齢者に出現しやすい症状とその援助方法について理論的根拠を基に学ぶ。 2．健康障害を持つ高齢者の看護を実践するために、老年期看護の理念および理論的根拠を基に、老年期に多い疾病の病態理解、および各健康段階に応じた援助方法について学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：奥野茂代他編「老年看護学　概論と看護の実践」ヌーヴェルヒロカワ． 参考書：奥野茂代他編「老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠」ヌーヴェルヒロカワ．
成績評価	小テスト50％、レポート10％、定期試験40％で評価する。

科目名	老年臨床看護論演習
担当教員	安田　千寿　・　北村　隆子　・　畑野　相子
授業概要	医療施設、老健施設、福祉施設など様々な場所で展開されている高齢者への看護実践を行うために必要な知識・技術を習得する。高齢者の身体・精神・社会変化に対して、科学的根拠に基づき、それら3側面を統合した判断力の基本を培う。
到達目標	老年看護実践のための基礎となる知識、技術の習得ができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「老年看護技術　アセスメントのポイントとその根拠」ヌーヴェルヒロカワ. 「老年看護学　概論と看護の実践」. ヌーヴェルヒロカワ. 参考書:佐々木英忠著:「老年看護 病態・疾病論」系統看護学講座専門21. 医学書院.
成績評価	個人レポート40%、グループ発表20%、定期試験40%

科目名	老年臨床看護論実習Ⅰ
担当教員	畑野　相子　・　北村　隆子　・　安田　千寿
授業概要	老年期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、高齢者のQOLを尊重した関わり方を学ぶ。
到達目標	次の5点を到達目標とする。①高齢者とコミュニケーションがとれる。②高齢者の特徴とそれに伴う生活のあり方が理解できる。③高齢者を取り巻く人的・物的環境と生活を関連させて理解できる。④収集した情報から老年期の発達課題が理解できる。⑤高齢者に対し、尊重した姿勢や態度で関わることができる。
テキスト 指定図書 参考書	授業で使用した資料やテキスト等
成績評価	実習態度、出席日数、実習記録等から評価する。

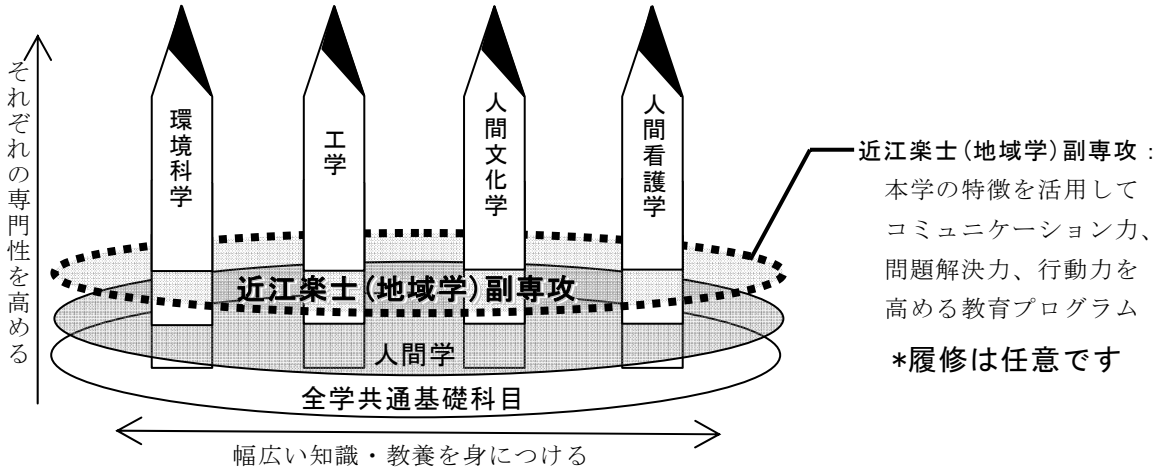
科目名	老年臨床看護論実習Ⅱ
担当教員	安田　千寿　・　北村　隆子　・　畑野　相子
授業概要	健康問題を持つ高齢者に対して、これまでに学んだ知識と技術を統合し、疾病回復の援助、日常生活の自立支援等についての看護を展開する。
到達目標	1.これまでに学んだ知識及び技術を統合し、疾患を有する高齢者の発達課題を理解し、心身の機能回復や日常生活の自立等に向けての看護を展開する。 2.高齢者に対し、人権尊重と権利擁護を基盤に捉えた関わりができる。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:実習中に適宜紹介する。 老年臨床看護論演習で用いたテキストおよび配布資料
成績評価	実習要項に記載されている「実習評価および単位の認定」の5項目に基づき評価する。

6　近江楽士（地域学）副専攻履修の手引

１．近江楽士（地域学）副専攻について（23 年度～）

本学ではこれまで「地域に学び、地域に貢献する大学」としての特徴を活かし、地域を学ぶさまざまな教育プログラムを全学・学部・学科それぞれの段階ごとに実施してきました。この分野の重要性がさらに増しつつあることから、平成 23 年度からは新設の科目も含めて関連諸科目を体系化し、全学共通の教育課程として設置することになりました。各学科専門の教育課程である主専攻とならび、全学共通の教育課程である副専攻としての位置づけになります。

この副専攻は座学や現地学習など地域と連携した多様な内容で、コミュニケーション力、問題解決力、行動力などの向上を目指すものです。多くの皆さんの積極的な参加を望みます。



近江楽士（地域学）副専攻の位置づけは全学・学部・学科横断型

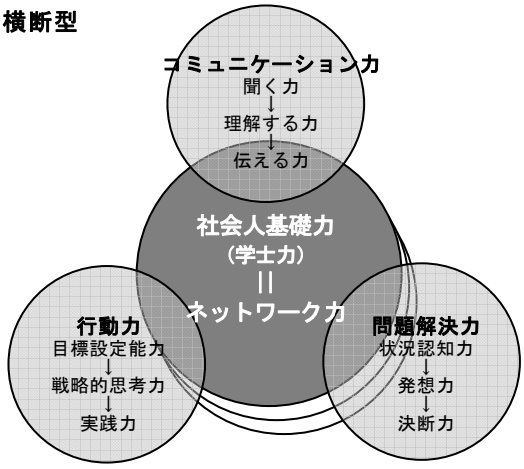
２．学びのポイント

地域で学び、活動する基礎となるのは、リアルな世界で自ら関係を創り出していく能力、フィールドで考える能力です。本副専攻では「コミュニケーション力（聞く→理解する→伝える）」「行動力（目標設定→戦略→実践）」「問題解決力（状況認知→発想→決断）」の３つの要素からなる「ネットワーク力」の習得を主眼としています。

Point1　地域で学び、活動する力を体系的に習得

Point2　地域人ネットワークによる支援体制

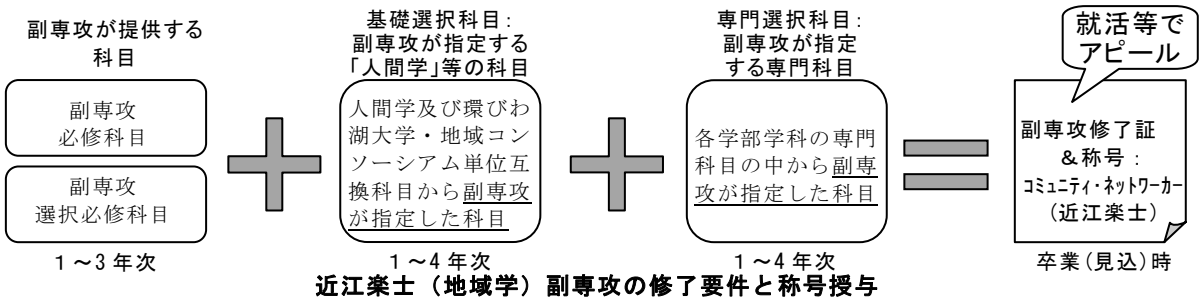
Point3　学習ポートフォリオの活用



社会人基礎力としてのネットワーク力

３．近江楽士（地域学）副専攻の修了要件

当該副専攻の修了には、副専攻が提供する「必修科目」「選択必修科目」、人間学及び環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換科目のうち副専攻が指定した「基礎選択科目」、各学部学科の専門科目のうち副専攻が指定した「専門選択科目」から所定の単位を修得することが必要です。詳しくは、次ページ以降の科目一覧表と別途配布する各学科科目配当表（履修モデル）を確認してください。



近江楽士（地域学）副専攻の修了要件と称号授与

３． 近江楽士（地域学）副専攻関連科目

近江楽士（地域学）副専攻を修了し、コミュニティ・ネットワーカー（近江楽士）の称号を授与されるためには、下表の関連科目から、次に示した修了要件を満たすよう単位を取得する必要があります。別途配布する資料を参照してください。

近江楽士（地域学）副専攻修了要件（計：10科目20単位以上）
必修科目　　：2科目4単位
選択必修科目から：4科目8単位以上
基礎選択科目から：2科目4単位以上
専門選択科目から：2科目4単位以上

(1)必修科目：2科目4単位

科目名称	配当年次	単位数
地域実践学実習Ⅰ	2･3 前	2
地域実践学実習Ⅱ	2･3 後	2

(2)選択必修科目：4科目8単位以上

地元学入門　※１	1 後	2
地域探求学　※１	1 後	2
地域診断法	2 前	2
地域行動論	3 前	2
地域再生システム論　※２	3 前	2

※１人間学科目、※２環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生活デザイン学科専門科目

(3)基礎選択科目：2科目4単位以上

人間学	環境行動論（注1）	1～4 前	2
	材料史	1～4 前	2
	比較都市論	1～4 前	2
	比較住居論（注2）	1～4 前	2
	生命・人間・倫理	1～4 後	2
	びわこ環境行政論	1～4 後	2
	近江文化論	1～4 後	2
	社会福祉論	1～4 後	2
	滋賀の自然史	1～4 後	2
	自然科学の視点	1～4 後	2
	機械技術と人間	1～4 後	2
	電子社会と人間	1～4 後	2
環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換科目	近江の歴史（滋賀大学教育学部）（注3）	1～4 前	2
	滋賀論（聖泉大学）	1～4 夏期集中	2
	東近江の地域学（びわこ学院大学）	1～4 後	2
	滋賀の環境（びわこ学院大学）	1～4 後	2
	近江とびわ湖Ⅱ（滋賀大学経済学部）	1～4 後	2
	近江学Ａ（成安造形大学）	1～4 通	2

（注1）環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科の学生については、専門選択科目として扱われる。

（注2）生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科の学生については、専門選択科目として扱われる。

（注3）平成23年度不開講

(4)専門選択科目：2科目4単位以上

環境科学部 複数学科共通科目	環境行動論 （環境政策・計画/環境建築デザイン）	3 前（環境政策・計画） 4 前（建築デザイン）	2
	地域開発論 （環境政策・計画/生物資源管理）	2 前	2
	コミュニティ計画論 （環境政策・計画/環境建築デザイン）	3 前	2
	文化財・保存修景論Ａ （環境政策・計画/環境建築デザイン）	4 前	2
環境生態学科	琵琶湖環境学	1 後	2
	環境変遷史	1 後	2
環境政策・計画学科	地域システム論	1 前	2
	市民参加論	1 前	2
	地域調査法演習	1 後	1
	ファシリテーション技法	2 前	2
	ファシリテーション技法演習	2 前	1
	まちづくり実践論	2 前	2
	イベント計画論	3 前	2
	イベント計画演習	3 前	1
	社会調査実習	3 通	1
環境建築デザイン学科	地域環境計画	1 後	2
	都市・地域計画	3 前	2
	木匠塾	1～4通	2
生物資源管理学科	地域情報処理学	2 後	2
	地域資源管理学	3 前	2
	地域環境整備学	3 後	2
工学部 学部共通基礎科目	材料科学概論	1 前	2
	機械システム工学概論	1 前	2
	電子システム工学概論	1 前	2
人間文化学部 複数学科共通科目	社会調査論 （地域文化/生活デザイン/人間関係）	1 前	2
	比較住居論 （生活デザイン/生活栄養/人間関係）	1 前	2
	社会調査方法論 （地域文化/生活デザイン/人間関係）	2･3 前（地域文化） 2 前（生活デザイン/人間関係）	2
	社会調査実習（地域文化/人間関係）	3 通（地域文化） 3･4 通（人間関係）	1
地域文化学科	地域研究論	1 前	2
	地域文化財論Ａ	1 前	2
	地域活性化論	1 後	2
	近世近江論	2･3 前	2
	文化財・保存修景論Ａ	2･3 前	2
	地域文化財論Ｂ	2･3 後	2
	地域と空間	2･3 後	2
	近江商人論	2･3 前	2
	文化財・保存修景論Ｂ	2･3 後	2
生活デザイン学科	考現学概論	1 前	2
	比較道具論	1 後	2
	比較衣装論	1 後	2
	生活デザイン学外演習	1～4 前・後	2

生活栄養学科	地域看護論	1 前	2
	比較食文化論	1 前	2
	臨床栄養活動論	1 後	2
	公衆栄養学	3 前	2
	公衆栄養学実習	3 後	1
人間関係学科	コミュニケーション論	3･4 後	2
	地域運動論	3･4 前	2
人間看護学部 人間看護学科	発達看護論Ⅱ（注4）	1 後	1
	地域保健論（注4）	2 前	2
	地域看護論Ⅰ（注4）◆	2 前	2
	行政看護論（注4）◆	3 前	2
	地域看護管理論（注4）	3 前	1

（注4）人間看護学部の専門選択科目については、履修は人間看護学部学生に限られる。

◆：「地域看護論Ⅰ」、「行政看護論」の単位を選択必修科目単位へ読み替えることができる。
（その場合、専門選択科目単位に含めることはできない。）

副専攻で履修し修得した単位は、各学科(主専攻)に係る卒業の要件となる単位数に含めることができます。
詳細は以下のとおりです。

副専攻による科目区分		各学科(主専攻)の卒業要件単位への算入
(1) 必修科目		卒業要件単位に含めない。
(2) 選択必修科目		
	「地元学入門」、「地域探求学」	人間学単位として卒業要件に算入できる。
	「地域診断法」、「地域行動論」	他学部他学科相当科目として、他学部他学科の単位と合算し、各学科で定められた単位数を限度に卒業要件単位に算入できる。 （ただし、副専攻を修了した場合に限る。）
	「地域再生システム論」	環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生活デザイン学科の学生には専門科目として、それ以外の学科の学生には他学部他学科の専門科目として各学科で定められた単位数を限度に、それぞれ卒業要件単位に算入できる。
(3) 基礎選択科目		
	人間学科目	人間学単位として卒業要件に算入できる。 （ただし、「環境行動論」は環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科の学生には専門科目として、「比較住居論」は生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科の学生には専門科目として、それぞれ卒業要件単位に算入できる。）
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換科目	他学部他学科相当科目として、他学部他学科の単位と合算し、各学科で定められた単位数を限度に卒業要件単位に算入できる。
(4) 専門選択科目		
	自学科の専門科目	専門科目単位として、卒業要件単位に算入できる。
	他学科および他学部の専門科目	各学科で定められた単位数を限度に卒業要件単位に算入できる。

環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換科目について
・履修の手続きは、年度当初に別途配布する資料を参照してください。
・講義概要は環びわ湖大学・地域コンソーシアムのホームページ（http://www.kanbiwa.jp/)参照してください。

科目名	地域行動論
担当教員	鵜飼　修　・　未定
授業概要	地域（地域に存在する個人、団体、行政、企業など）に代表される多様な主体との連携・協働を図り、プロジェクトやまちづくり活動を推進する手法を学ぶ。多様な主体の多様な価値観に応対しつつ、プロジェクトを推進する為にはどのような視点、行動が求められるのか。具体的なケースの調査・分析を通じてその本質的な要因や手法を考察する。
到達目標	・多様な主体が携わるプロジェクトやまちづくりを推進する手法に関する知識。 ・多様な主体が携わるプロジェクトやまちづくりを推進する手法を企画できる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜、資料を配布する。 参考書：CBN編、「コミュニティ・ビジネスのすべて～理論と実践マネジメント」、ぎょうせい
成績評価	ミニレポート、グループ成果物、試験

科目名	地域実践学実習Ⅰ
担当教員	鵜飼　修　・　未定
授業概要	学生主体による地域貢献の実践的活動である「近江楽座」のプロジェクトを体験し（楽座インターン）、地域活動の実践について現場で学ぶとともに、地域活動の実践に必要な、企画、マネジメント、情報発信などのスキルを修得する。楽座インターンにおいては、プロジェクトの長所および課題等の分析をおこない、それをふまえ、自ら地域貢献プロジェクトの企画立案を行えるようになることを目的とする。
到達目標	・地域貢献活動に参加し、実践に必要なスキルを修得する。 ・地域貢献プロジェクトの長所および課題等の分析がおこなえるようになる。 ・地域貢献プロジェクトの企画立案を行えるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜、資料を配布する。
成績評価	・近江楽座セミナーへの出席とレポート ・近江楽座インターン体験への参加とプロジェクト分析レポートの提出 ・近江楽座成果報告会への参加とレポート ・近江楽座プロジェクト公開審査会への出席とレポート

科目名	地域実践学実習Ⅱ
担当教員	鵜飼　修　・　未定
授業概要	学生主体による地域貢献の実践的活動である「近江楽座」のプロジェクトを体験し（楽座インターン）、地域活動の実践について現場で学ぶとともに、地域活動の実践に必要な、企画、マネジメント、情報発信などのスキルを修得する。楽座インターンにおいては、プロジェクトの長所および課題等の分析をおこない、それをふまえ、自ら地域貢献プロジェクトの企画立案を行えるようになることを目的とする。
到達目標	・地域貢献活動に参加し、実践に必要なスキルを修得する。 ・地域貢献プロジェクトの長所および課題等の分析がおこなえるようになる。 ・地域貢献プロジェクトの企画立案を行えるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜、資料を配布する。
成績評価	・近江楽座セミナーへの出席とレポート ・近江楽座インターン体験への参加とプロジェクト分析レポートの提出 ・近江楽座中間報告イベントへの参加とレポート ・実習成果報告会への出席とレポート（地域貢献プロジェクトの企画立案を含む）

科目名	地域診断法
担当教員	鵜飼　修　・　未定
授業概要	地域（地域に存在する個人、団体、行政、企業など）とのつながりを形成するためには、まずその地域を「知る」ことが求められる。その地域の特性を知り、その地域に敬意をはらいつつ、未来をイメージすることで、地域住民等との円滑なコミュニケーションを図ることが可能となる。講義では、地域とのコミュニケーションを図るために地域を知る手法として、エコロジカルプランニングの手法を用い、当該地域を多面的、多段階的に捉え、地域住民との価値の共有、コミュニケーション、合意形成を図る手法を習得する。
到達目標	・簡易なエコロジカルプランニングの手法を用いて地域を診断することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：近江環人地域再生学座編「地域診断法」 その他適宜資料を配付する
成績評価	ミニレポート、グループ成果物、試験

1　本学における免許・資格の取得等について

（1）免許・資格一覧

各学部・学科で取得可能な免許・資格をまとめると、次のようになります。

	学　　科	取得可能免許・資格
環境科学部	環境生態学科	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科） 学芸員資格　　甲種危険物取扱者試験受験資格⑳ 二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除
	環境政策・計画学科	高等学校教諭一種免許（公民） 学芸員資格　　社会調査士資格 二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除
	環境建築デザイン学科	一級建築士受験資格 二級・木造建築士受験資格 二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除
	生物資源管理学科	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科・農業） 学芸員資格　　甲種危険物取扱者試験受験資格⑳ 二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除
工学部	材料科学科	高等学校教諭一種免許（理科・工業） 甲種危険物取扱者試験受験資格 毒物劇物取扱責任者資格⑳
	機械システム工学科	高等学校教諭一種免許（理科・工業）
	電子システム工学科	高等学校教諭一種免許（工業⑳・情報㉒） 電気通信主任技術者試験資格(1 科目免除)⑳ 電気主任技術者資格⑳
人間文化学部	地域文化学科	中学校教諭一種免許（社会）　　学芸員資格 高等学校教諭一種免許（地理歴史）　社会調査士資格
	生活デザイン学科	中学校教諭一種免許（家庭） 高等学校教諭一種免許（家庭） 学芸員資格 二級・木造建築士受験資格 インテリアプランナー登録資格
	生活栄養学科	中学校教諭一種免許（家庭） 高等学校教諭一種免許（家庭） 栄養教諭一種免許⑰ 栄養士資格　　管理栄養士受験資格⑮ ＮＲ（栄養情報担当者）受験資格⑯ 学芸員資格 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格⑳
	人間関係学科	中学校教諭一種免許（社会）　　学芸員資格 高等学校教諭一種免許（公民）　社会調査士資格
人間看護学部	人間看護学科	看護師国家試験受験資格　保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格　養護教諭一種免許
全学部・学科		社会福祉主事任用資格

○内の数字は、平成の年度を表し、その年度以降の入学者でないと当該免許･資格が取得できません。

（2）その他

キャリア教育…単位認定型のキャリア教育を実施しています。

２　各学部・学科における教育職員免許の取得について

本学(環境建築デザイン学科、人間看護学部を除く。)では、「中学校教諭一種免許」と「高等学校教諭一種免許」が取得可能です。また、生活栄養学科では「栄養教諭一種免許」が、人間看護学部では「養護教諭一種免許」が取得可能です。

※　人間看護学部についてはP.477、生活栄養学科の栄養教諭免許の取得についてはP. 480を参照のこと。

※　この内容は平成23年度入学生用です。平成22年度以前の入学生は、自分の入学年度の「履修の手引」の第３章「資格取得等の手引」を参照してください。

本学において教育職員免許を取得するためには、次の表１の授業科目（単位数）を履修する必要があります。なお、これは最低単位数ですから、この単位数以上にできるだけ多く履修してください。

表１〈本学における最低単位数〉

教育職員免許法上の区分	中学校教諭一種	高等学校教諭一種	備　　考
教職に関する科目	３１ 単位	２７ 単位	表２、（１）で説明
教科に関する科目	２０ 単位	２０ 単位	（５）で説明
教科または教職に関する科目	８　単位	１６ 単位	（２）で説明
教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目	◎憲法（２単位）		教職科目・必修
	◎健康・体力科学Ⅰ，Ⅱ（各１単位） ◎英語Ⅱ（２単位） ◎情報リテラシー（情報倫理を含む）（２単位）		卒業要件上の必修科目

表２　◆　教職に関する科目一覧表　◆

免許法施行規則に定める科目区分		免許法による必修単位	
科　目	各科目に含める必要事項	中学校	高等学校
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種機会の提供等	２	２
教育の基礎理論に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	６	６
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	１２	６ 本学では10単位必修
	・各教科の指導法		
	・道徳の指導法		
	・特別活動の指導法		
	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)		
生徒指導教育相談及び進路指導に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	４	４
	・進路指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
教　育　実　習		５	３
教職実践演習		２	２
合　　計		３１	２３
			本学では27単位必修

（1）「教職に関する科目」の履修方法について

「教職に関する科目」は、『教職に関する科目一覧表』（表２）にしたがって履修してください。

- 「道徳教育論」は中学校教諭一種免許では必修、高等学校教諭一種免許では選択科目とします。
- 平成 21 年度以前入学生は、「教育制度論」と「生涯学習論」のどちらか１科目を選択必修とします。
- 表２※印「教育学概論」「教育方法の理論と技術」「教育心理学」「教育制度論」は人間文化学部人間関係学科専門科目です。

（2）「教科または教職に関する科目」の取扱いについて

① 原則的措置

「教科または教職に関する科目」として、中学免許で 8 単位、高校免許で 16 単位以上の修得が免許法で指定されていますが、本学ではこれを原則的に、「教科に関する科目」群から充当するものとします。したがって P.463 以降に掲げてある「教科に関する科目」群のなかから、中学免許の場合、28 単位以上、高校免許の場合 36 単位以上修得することを原則とします。

② 例外的措置

ただし、次のような例外的措置も認めます。

- 高校免許を希望する者は、「教職に関する科目」のうちから「道徳教育論」を単位修得した場合、それ（2 単位）を「教科または教職に関する科目」の単位の一部として充当することができる。

◎すべて必修

１年次		２年次		３年次		４年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
◎教職論 2							
		◎教育学概論(※) 2			◎教育心理学(※) 2 ◎教育制度論(※) 2		
		◎教科教育法Ⅰ 2 （各教科ごとに必修）（注） ◎教育方法の理論と技術(※) 2	◎教科教育法Ⅱ 2 （各教科ごとに必修）（注） ◎特別活動論 2		◎教育課程論 2 道徳教育論 2 〈中学必修〉		
			◎生徒指導論 2		◎教育相談・進路指導 2		
					◎教育実習・事前事後指導 （中）５（高）３		
							◎教職実践演習 2

(注) ・教科教育法は原則として２年次以降に履修することとするが、教科によっては、時間割の都合上、上記の一覧表とは異なる学期に開講もしくは年次配当となることもあるので、年度当初に時間割表で十分確認すること。

- 「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」は奇数年度開講（H23, 25, 27… ）
- 「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」は偶数年度開講（H24, 26, 28… ）
- 「職業指導」は偶数年度開講（H24, 26, 28… ）
- 「理科教育法Ⅱ」「家庭科教育法Ⅱ」は前期に開講される。
- 「家庭科教育法Ⅲ」「家庭科教育法Ⅳ」は選択科目である。
- 「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」は H24 年度は不開講

（３）「教育実習・事前事後指導」について

※履修登録は、３年後期および４年前期の２回とも必ず行うこと。

① 事前事後指導

事前指導は、教育実習実施前（３年次）の２～３月頃に４日間実施します。

事後指導は、教育実習終了後（４年次）に実施します。

② 教育実習の実施

教育実習」は、原則として、４年次の前期に出身校または県内の協力校において、中学校教諭一種免許は３週間または４週間、高等学校教諭一種免許は２週間実施する予定です（受入校の都合により、実施時期を変更することがあります）。

人間看護学部の養護教育実習はP. 477を、生活栄養学科の栄養教育実習はP. 480を参照のこと。

③ 教育実習参加の基礎要件

・教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。

「憲法」、「教職論」、「教科教育法Ⅰ・Ⅱ」、「教育方法の理論と技術」を既に履修済か、履修中であること。

・中学校教諭一種免許の取得を希望する者は、教育実習受講年度において、後掲（４）の「介護等体験実習（７日間）」を実習済みか、実習中であること。

（４）「介護等体験実習」について

平成10年４月１日より介護等体験特例法が施行され、平成10年以降入学生から適用を受けることになりました。これは、単位修得とは別に社会福祉施設等において７日間の介護等体験（社会福祉施設５日間、特別支援学校２日間）が義務付けられるもので、本学では、中学校教諭一種免許の取得を希望するものが、３年次に介護等体験実習を受けることになります。これに関するオリエンテーションは、２年次の２月頃に開催します。

（５）「教科に関する科目」について

P. 463以降の表に従って、履修すること。

（６）隔年開講科目について

「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」「職業指導」は、隔年開講となります。４回生時に不開講で履修できないこともあり得るので３回生までで履修済となるよう計画的に履修してください。

・「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」は奇数年度開講（H23,25,27… ）
・「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」は偶数年度開講（H24,26,28… ）
・「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」は奇数年度開講（H23,25,27… ）
・「職業指導」は偶数年度開講（H24,26,28… ）

（７）「教職実践演習」について

４年次後期に履修すること。

環境科学部　★環境生態学科

中学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		単位数		備考
		中学一種		高校一種		
		必修	選択	必修	選択	
環境物理学Ⅰ	1	2		2		
環境物理学Ⅱ	3	2		2		H23未開講
河川環境学	2		2		2	
水文学	2		2		2	
環境化学Ⅰ	1	2		2		
環境化学Ⅱ	3	2		2		H23未開講
陸域環境機能論	3		2		2	H23未開講
集水域環境機能論	3		2		2	H23未開講
水域環境機能論	3		2		2	H23未開講
大気環境学	2		2		2	
集水域環境学	2		2		2	H22以前入学生は教職科目になりません。H23未開講
集水域物質循環論	3		2		2	H22以前入学生は教職科目になりません。H23未開講
環境生物学Ⅰ	1	2		2		
環境生物学Ⅱ	2	2		2		
森林環境学	2		2		2	
動物生態学	2		2		2	
陸域物質循環論	3		2		2	H23未開講
海洋環境学	2		2		2	
遺伝学	2		2		2	
生物統計学	2		2		2	
分子生物学	3		2		2	
環境地球科学Ⅰ	2	2		2		
環境地球科学Ⅱ	2	2		2		
土壌環境化学	3		2		2	
湖沼環境学	2		2		2	
水域物質循環論	3		2		2	H23未開講
環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	2	2		4		（注１）参照
環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	1	2				
環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	1	2				
環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	2	2				
環境解析学・同実験	2		4		4	
陸域環境学・同実験	3		4		4	H23未開講
水域環境学・同実験	3		4		4	H23未開講
集水域環境学・同実験	2		4		4	

（注１）中学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より４単位以上を修得しなければならない。

（注２）高等学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない。ただし、環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、環境地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

（注３）この表は平成22/23年度入学生用です。平成21年度以前の入学生は、自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得等の手引」の該当部分およびH23「履修の手引」113ページの科目配当表を参照してください。また、科目の読み替えについては115ページも確認するようにしてください。

環境科学部　　★環境政策・計画学科

高等学校教諭一種免許（公民）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
法学概論(国際法を含む)	3	2		
政治学Ⅰ	2	2		
政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2	2		
環境法Ⅰ	2		2	
環境法Ⅱ	2		2	
環境政策学	2		2	
社会学	2･3	2		隔年開講（H24不開講）
経済学Ⅰ	1	2		
経済学Ⅱ(国際経済を含む)	2	2		
地域開発論	2		2	
持続可能社会論	2	2		
環境経済学	3		2	
地域調査法	1	2		
地域調査法演習	1		1	
政策計画演習Ⅰ	3	1		
政策計画演習Ⅱ	3	1		
政策計画演習Ⅲ	4	1		
環境監査	3		2	
現代社会論	2･3	2		隔年開講（H23不開講）
比較文化論	3	2		
哲学概論Ａ	3	2		
心理学基礎	3	2		
社会心理学	3		2	
環境倫理学	3	2		

（注）必修のすべての科目と、選択科目より7単位以上を修得しなければならない。

環境科学部　★生物資源管理学科

中学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数 中学一種 必修	単位数 中学一種 選択	単位数 高校一種 必修	単位数 高校一種 選択	備考
環境物理学Ⅰ	1	2		2		
環境物理学Ⅱ	3	2		2		環境生態学科専門科目（H23未開講）
土壌環境物理学	2		2		2	
水文学	2		2		2	
環境化学Ⅰ	1	2		2		
環境化学Ⅱ	3	2		2		H23未開講
陸域環境機能論	3		2		2	H23未開講
集水域環境機能論	3		2		2	H23未開講
環境植物生理学	2		2		2	H22以前入学生は「植物生化学」
植物栄養学	3		2		2	
環境生物学Ⅰ	1	2		2		
環境生物学Ⅱ	2	2		2		
森林環境学	2		2		2	
動物生態学	2		2		2	
遺伝学	2		2		2	
生物統計学	2		2		2	
分子生物学	3		2		2	
環境地球科学Ⅰ	2	2		2		
環境地球科学Ⅱ	2	2		2		環境生態学科専門科目
土壌環境化学	2		2		2	
湖沼環境学	2		2		2	
環境気象学	2		2		2	
環境物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	2	2		4		（注２）参照
環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	1	2				
環境生物学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	1	2				
環境地球科学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	2	2				
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	3		2		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	3		2		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	3		2		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	3		2		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	3		2		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	2		2		2	

（注１）中学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より4単位以上を修得しなければならない。

（注２）高等学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない。ただし、環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、環境地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

（注３）この表は平成23年度入学生用です。平成22年度以前の入学生は、自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得等の手引」の該当部分およびH23「履修の手引」134ページの科目配当表を参照してください。また、科目の読み替えについては131ページも確認するようにしてください。

環境科学部　　★生物資源管理学科

高等学校教諭一種免許（農業）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
持続的農業論	1･2･3･4		2	人間学科目
栽培植物各論Ａ	2		2	H21以前入学生は「栽培技術論」
栽培植物各論Ｂ	3		2	H21以前入学生は「栽培植物各論」
植物資源管理学	2		2	
植物遺伝資源学	2		2	
動物資源管理学	2		2	
家畜生産環境学	3		2	
植物生産学	1		2	
植物病害防除論	3		2	
害虫管理学	3		2	
植物資源開発学	3		2	H21以前入学生は「環境作物学」
応用微生物学	3		2	
生物資源循環論	3		2	
水資源利用学	2		2	
水資源保全学	3		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅰ	3		2	
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2		2	
農業経済学	1		2	
農業経営学	2		2	
食料経済システム論	3		2	H22以前入学生は「農産物マーケティング論」
資源経済学	2		2	
環境経営論	2		2	
国際環境資源論	3		2	
測量学	2		2	
水理学	2		2	
農薬環境学	3		2	
生物資源化学	2		2	
作物保護学	2		2	
環境動物学	3		2	
水利環境施設学	3		2	
環境会計	3		2	
職業指導	1･2･3･4	2		教職用科目 隔年開講（Ｈ23不開講）

（注）必修のすべての科目と、選択科目より34単位以上を修得しなければならない。

工　学　部　　★材料科学科

高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎力学	1	2		
基礎電磁気学	1		2	
材料力学Ⅰ	2		2	
電子と化学結合	1	2		
基礎化学	1	2		
基礎熱力学	1	2		
化学熱力学	2		2	
反応速度論	2		2	
電気化学	3		2	
無機化学Ⅰ	2	2		
無機化学Ⅱ	2		2	
有機化学Ⅰ	1	2		
有機化学Ⅱ	2	2		
有機化学Ⅲ	2		2	
分析化学	1		2	
有機化学総合および同演習	2		2	
物理化学総合および同演習	2		2	
材料計算化学および同演習	3		2	
環境生物学Ⅰ	1	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「生物学Ⅰ」
環境生物学Ⅱ	2	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「生物学Ⅱ」
生化学Ⅰ	2		2	
生化学Ⅱ	3		2	
環境地球科学Ⅰ	2	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「地学Ⅰ」
環境地球科学Ⅱ	2	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「地学Ⅱ」
物理学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	2	2		
分析・環境化学実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	1	2		
定量・機器分析および同実験(ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む)	2	2		
材料科学実験	3	6		

（注）必修すべての科目と選択科目より2単位以上修得しなければならない。

工　学　部　　★材料科学科

高等学校教諭一種免許（工業）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
材料科学概論	1	2		
機械システム工学概論	1		2	
電子システム工学概論	1		2	
基礎電気電子回路	1		2	
化学工学	2		2	
機器分析Ⅰ	2		2	
機器分析Ⅱ	3		2	
基礎結晶学	1		2	
環境調和化学	3	2		
金属材料	3		2	
セラミックス材料	3		2	
無機工業材料	4		1	
材料量子論	3		2	
材料組織学	4		2	
高分子物性	3		2	
エネルギー・界面科学	3		2	
複合材料	4		2	
高分子合成	3		2	
有機量子化学	4		1	
有機工業材料	4		1	
固体物性基礎	3		2	
材料強度物性	4		2	
分子・統計力学	3		2	
技術者倫理	3		2	
産業技術マネジメント	4		2	
職業指導	1･2･3･4	2		教職用科目 隔年開講（Ｈ23不開講）

（注）　必修のすべての科目と、選択科目より30単位以上を修得しなければならない。

工　学　部　　★機械システム工学科

高等学校教諭一種免許（理科）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎力学	1	2		
基礎電磁気学	1	2		
材料力学Ⅰ	2	2		
材料力学Ⅱ	2		2	
工業力学	1	2		
熱力学Ⅰ	2	2		
熱力学Ⅱ	3		2	
統計熱力学	3		2	
伝熱学	3		2	
流体力学Ⅰ	2	2		
流体力学Ⅱ	3		2	
数値解析	4		2	
エネルギー変換工学	3		2	
電子と化学結合	1	2		
基礎化学	1		2	
分析化学	1		2	
環境生物学Ⅰ	1	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「生物学Ⅰ」
環境生物学Ⅱ	2	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「生物学Ⅱ」
生化学Ⅰ	2		2	材料科学科専門科目
生化学Ⅱ	3		2	材料科学科専門科目
環境地球科学Ⅰ	2	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「地学Ⅰ」
環境地球科学Ⅱ	2	2		環境科学部専門科目 H21以前入学生は「地学Ⅱ」
物理学実験（コンピュータ活用を含む）	1	2		
分析・環境化学実験（コンピュータ活用を含む）	2	2		

（注）必修のすべての科目と、選択科目より10単位以上を修得しなければならない。

工　学　部　　★機械システム工学科

高等学校教諭一種免許（工業）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
材料科学概論	1		2	
機械システム工学概論	1	2		
基礎電気電子回路	1		2	
化学工学	2		2	
工業数学	2	2		
工業数理	4	2		
機械製作	1	2		
特殊加工学	4		2	
機械力学Ⅰ	3	2		
機械力学Ⅱ	3		2	
機械要素	2	2		
制御工学Ⅰ	3	2		
制御工学Ⅱ	3		2	
情報処理基礎	3	2		
数理計画	3		2	
動力システム	4		2	
メカトロニクス	3		2	
計測工学	3		2	
機械材料学	2	2		
金属材料	3		2	材料科学科専門科目
システム工学	4		2	
トライボロジー	4		2	H23年度不開講
ロボット工学	4		2	
現代制御工学	3		2	
生産工学	3	2		（注１）
生産工学Ⅱ	3		2	（注２）
機械設計演習Ⅰ	2	2		
機械設計演習Ⅱ	3	2		
機械設計演習Ⅲ	3	2		
機械製作実習	2	2		
機械システム工学実験Ⅰ	3	2		
機械システム工学実験Ⅱ	3	2		
金属加工学	3		2	
電子システム工学概論	1		2	
職業指導	1･2･3･4	2		教職用科目 隔年開講（Ｈ23不開講）

（注）　必修のすべての科目と、選択科目より2単位以上を修得しなければならない。

（注１）　平成21年度以前入学生は、「生産工学」を「生産工学Ⅰ」に読み替えます。

（注２）　「生産工学Ⅱ」は、平成21年度以前入学生が対象の科目です。

工　学　部　　★電子システム工学科

高等学校教諭一種免許（工業）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
材料科学概論	1		2	
機械システム工学概論	1		2	
電子システム工学概論	1	2		
基礎電磁気学	1	2		
工業数学	2	2		
電磁気学Ⅰ	2	2		
電磁気学Ⅱ	2		2	
電気回路Ⅰ	2	2		
電気回路Ⅱ	2		2	
電子回路Ⅰ	2	2		
電子回路Ⅱ	3	2		
量子力学概論	2		2	
物性デバイス基礎論	2		2	
半導体基礎	2	2		
集積化プロセス工学	4		2	
電気エネルギーシステム工学	3		2	
半導体デバイス	3		2	
電磁波工学	3		2	
電子デバイス	3		2	
パワーエレクトロニクス	4		2	
職業指導	1･2･3･4	2		教職用科目 隔年開講（Ｈ23不開講）

（注）　必修のすべての科目と、選択科目より18単位以上を修得しなければならない。

工　学　部　　★電子システム工学科

高等学校教諭一種免許（情報）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
電子社会と人間	1･2･3･4	2		人間学科目
工業数理	3		2	
電気電子計測Ⅰ	3		2	
電気電子計測Ⅱ	3		2	
制御工学	3		2	
コンピュータハードウェア	2	2		
アルゴリズムとデータ構造	2	2		
プログラミング言語	2	2		
情報理論	2		2	
数値解析・数値計算	3		2	
情報処理基礎	3	2		機械システム工学科専門科目
プログラミング基礎	2	2		全学共通基礎科目（情報処理）
コンピュータアーキテクチャ	3	2		
コンピュータソフトウェア	3	2		
情報科学概論	1	2		全学共通基礎科目（情報処理）
応用電子機器	3		2	
集積回路設計基礎	3		2	
光エレクトロニクス	4		2	
ロボット工学	4		2	
情報通信工学	3	2		
インターネット工学	3	2		
電子システム工学実験Ⅱ	2	2		
ディジタル信号処理	2		2	
マルチメディア	3	2		
電子システム工学演習Ⅲ	3	1		
情報と職業	1･2･3･4	2		教職用科目、隔年開講（H24不開講）

（注）　必修のすべての科目と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　　★地域文化学科

中学校教諭一種免許（社会）に係る教科に関する科目

高等学校教諭一種免許（地理歴史）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数 中学一種		単位数 高校一種		備考
		必修	選択	必修	選択	
日本史概説	1	2		2		
日本社会論	1	2		2		
考古学	1	2		2		
基層文化論	2･3		2		2	
日本文化史論Ⅰ	2･3		2		2	隔年開講（H24不開講）
日本文化史論Ⅱ	2･3		2		2	隔年開講（H23不開講）
日本・地域交流特論	2･3		2		2	
対外文化交流論Ａ	2･3		2		2	
対外文化交流論Ｂ	2･3		2		2	隔年開講（H23不開講）
対外文化交流論Ｃ	2･3		2		2	隔年開講（H24不開講）
古文書演習Ⅰ	3		1		1	
古文書演習Ⅱ	3		1		1	
西洋史概説	2･3	2		2		
東洋史概説	1	2		2		
考古学特論	2･3		2		2	
中国地域文化論	2･3		2		2	
朝鮮地域文化論Ａ	2･3		2		2	隔年開講（H24不開講）
朝鮮地域文化論Ｂ	2･3		2		2	隔年開講（H23不開講）
アジア・地域交流論Ｃ	2･3		2		2	隔年開講（H24不開講）
人文地理学Ａ	1	2		2		
人文地理学Ｂ	2･3	2		2		
自然地理学	3･4	2		2		H21以前入学生は教職科目
地域研究論	1		2		2	
地誌学	3･4	2		2		H21以前入学生は教職科目
法学概論（国際法を含む）	2	2		－	－	人間関係学科専門科目
政治学Ⅰ	2		2	－	－	人間関係学科専門科目
政治学Ⅱ（国際政治を含む）	2		2	－	－	人間関係学科専門科目
社会学概論	1	2		－	－	H22年度以前入学生は「社会学」
哲学概論Ａ	2･3	2		－	－	
哲学概論Ｂ	2･3		2	－	－	隔年開講（H24不開講）
比較宗教論	2･3		2	－	－	隔年開講（H23不開講）

（注１）中学校教諭一種免許状（社会）を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より4単位以上を修得しなければならない。

（注２）高等学校教諭一種免許状（地理歴史）を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より18単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部　　★生活デザイン学科

中学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

高等学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数 中学一種		単位数 高校一種		備考
		必修	選択	必修	選択	
生活経営論	3	2		2		
消費生活論	1	2		2		
比較衣装論	1		2		2	隔年開講(H23不開講)
生活素材論	2	2		2		
服飾デザイン論	2		2		2	
服飾デザイン演習Ⅰ	2	2		2		
服飾デザイン演習Ⅱ	3		2		2	
服飾デザイン演習Ⅲ	3		2		2	
服飾環境論	3		2		2	
染色学	2		2		2	
服飾造形論	2	2		2		
基礎栄養学Ⅰ	1	2		2		生活栄養学科専門科目
応用栄養学Ⅰ	2		2		2	生活栄養学科専門科目
応用栄養学Ⅱ	2		2		2	生活栄養学科専門科目
臨床栄養学Ⅰ	3		2		2	生活栄養学科専門科目
臨床栄養学Ⅱ	3		2		2	生活栄養学科専門科目
公衆栄養学	3		2		2	生活栄養学科専門科目
食品学総論	1	2		2		生活栄養学科専門科目
食品機能科学	2		2		2	生活栄養学科専門科目
食品衛生学	3		2		2	生活栄養学科専門科目
食品の調理と加工	2	2		2		生活栄養学科専門科目
嗜好と調理実習Ⅰ	2	1		1		生活栄養学科専門科目
栄養生化学	2		2		2	生活栄養学科専門科目
比較食文化論	1		2		2	生活栄養学科専門科目
疾病と栄養	2		2		2	生活栄養学科専門科目
比較住居論	1	2		2		
インテリア計画論	2		2		2	
住居計画論	2		2		2	
日本住居史	3		2		2	
住環境論	3		2		2	
道具計画論	3		2		2	
基礎設計製図	1		2	2		
住環境設計演習Ⅰ	2		2		2	
住環境設計演習Ⅱ	2		2		2	
保育学(実習及び家庭看護を含む)	3･4	2		2		教職用科目
家庭電気・機械(情報処理を含む)	2～4	－	－	2		教職用科目

（注１）中学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より7単位以上を修得しなければならない。

（注２）高等学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より１１単位以上を修得しなければならない。

（注３）「比較衣装論」は隔年開講。卒業までに２回しか履修機会がないため、４回生時に不開講で履修できないケースもあり得るので、３回生までで履修済となるよう早めに履修すること。

（注４）平成２１年度以前入学生は「基礎栄養学Ⅰ」を「栄養学総論」に、「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学Ⅱ」を「栄養学各論」に読み替えます。

（注５）「基礎栄養学Ⅰ」は「栄養学総論」、「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学Ⅱ」は「栄養学各論」が名称変更されたものであるため、平成２１年度以前入学者で名称変更前の科目を履修した者は新名称科目を履修できません。

人間文化学部　　★生活栄養学科

中学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

高等学校教諭一種免許（家庭）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数 中学一種		単位数 高校一種		備考
		必修	選択	必修	選択	
生活経営論	3	2		2		
消費生活論	1	2		2		
被服学	2･3	2		2		隔年開講(H23不開講) 教職用科目
服飾製作実習	2	1		1		隔年開講(H23不開講) 教職用科目
比較衣装論	1		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目 隔年開講(H23不開講)
生活素材論	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
服飾デザイン論	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
服飾デザイン演習Ⅰ	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
服飾デザイン演習Ⅲ	3		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
服飾環境論	3		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
染色学	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
服飾造形論	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
基礎栄養学Ⅰ	1	2		2		
応用栄養学Ⅰ	2		2		2	
応用栄養学Ⅱ	2		2		2	
臨床栄養学Ⅰ	3		2		2	
臨床栄養学Ⅱ	3		2		2	
公衆栄養学	3		2		2	
食品学総論	1	2		2		
食品機能科学	2		2		2	
食品衛生学	3		2		2	
食品の調理と加工	2	2		2		
嗜好と調理実習Ⅰ	2	1		1		
栄養生化学	2		2		2	
比較食文化論	1		2		2	
疾病と栄養	2		2		2	
比較住居論	1	2		2		
インテリア計画論	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
住居計画論	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
日本住居史	3		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
住環境論	3		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
道具計画論	3		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
基礎設計製図	1		2	2		生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
住環境設計演習Ⅰ	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
住環境設計演習Ⅱ	2		2		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
保育学(実習及び家庭看護を含む)	3･4	2		2		教職用科目
家庭電気・機械(情報処理を含む)	2～4	－	－	2		教職用科目

（注１）中学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より10単位以上を修得しなければならない。

（注２）高等学校教諭一種免許状を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

（注３）「被服学」「比較衣装論」「服飾製作実習」は隔年開講。卒業までに２回しか履修機会がないため，４回生時に不開講で履修できないケースもあり得るので、３回生までで履修済となるよう早めに履修すること。

（注４）平成21年度以前入学生は「基礎栄養学Ⅰ」を「栄養学総論」に、「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学Ⅱ」を「栄養学各論」に読み替えます。

（注５）「基礎栄養学Ⅰ」は「栄養学総論」、「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学Ⅱ」は「栄養学各論」が名称変更されたものであるため、平成21年度以前入学者で名称変更前の科目を履修した者は新名称科目を履修できません。

人間文化学部　　★人間関係学科

中学校教諭一種免許（社会）に係る教科に関する科目

高等学校教諭一種免許（公民）に係る教科に関する科目

授業科目の名称	開講年次	単位数		単位数		備考
		中学一種		高校一種		
		必修	選択	必修	選択	
日本史概説	1	2		－	－	地域文化学科専門科目
日本社会論	2	2		－	－	
東洋史概説	1	2		－	－	地域文化学科専門科目
西洋史概説	2･3	2		－	－	地域文化学科専門科目
人文地理学Ａ	1	2		－	－	地域文化学科専門科目
人文地理学Ｂ	2･3		2	－	－	地域文化学科専門科目
自然地理学	3･4	2		－	－	地域文化学科専門科目（H21以前入学生は教職科目）
地誌学	3･4	2		－	－	地域文化学科専門科目（H21以前入学生は教職科目）
法学概論(国際法を含む)	2	2		2		
政治学Ⅰ	2		2	2		
政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2		2	2		
地域運動論	3･4		2		2	隔年開講（H23不開講）
社会学概論	1･2	2		2		H22年度以前入学生は「社会学」
社会変動論	3･4		2	2		隔年開講（H24不開講）、H22年度以前入学生は「社会システム基礎論」
社会調査論	1		2	2		H16年度以前入学生は「社会調査論（統計を含む）」
人間行動論	1		2		2	
社会問題の社会学	2		2		2	H23年度以降入学生のみ対象
現代社会福祉論	3･4		2		2	
社会・経済政策論	3･4		2		2	
政治経済学	3･4	2		2		隔年開講（H24不開講）
組織とネットワークの社会学	3･4		2		2	H22年度以前入学生は「経営組織論」
社会学演習	2		2		2	H22年度以前入学生は「社会論演習」
行動論演習	2		2		2	
形成論演習	2		2		2	
哲学概論Ａ	2･3	2		2		
哲学概論Ｂ	2･3		2		2	隔年開講（H24不開講）
比較宗教論	2･3		2		2	隔年開講（H23不開講）
心理学基礎	1	－	－	2		
臨床心理学	3･4	－	－	2		
社会心理学	2	－	－		2	
高齢者行動論	3･4	－	－		2	隔年開講（H23不開講）

（注１）中学校教諭一種免許状(社会)を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より6単位以上を修得しなければならない。

（注２）高等学校教諭一種免許状(公民)を取得する者は、必修のすべての科目と、選択科目より16単位以上を修得しなければならない。

人間看護学部における養護教諭免許の取得について

◆養護教諭一種免許取得のための科目履修方法について

・次表および次ページの「教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目」、「教職に関する科目」、「養護に関する科目」をすべて履修してください。（すべて必修）

◆教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	本学開講科目	単位数	備考
日本国憲法	2	○憲法	2	教職用科目
体育	2	○健康・体力科学Ⅰ ○健康・体力科学Ⅱ	1 1	全学共通基礎科目
外国語コミュニケーション	2	○英語Ⅱ	2	全学共通基礎科目
情報機器の操作	2	○情報リテラシー（情報倫理を含む）	2	全学共通基礎科目

◆教職に関する科目◆

免許法施行規則に定める科目区分		免許法による必修単位	本学開講科目	単位数
科目	各科目に含める必要事項		配当年次は１～４年次	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○教職論	2
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	4	○教育学概論 ○教育心理学 ○教育制度論	2 2 2
教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・道徳及び特別活動に関する内容 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	○教育課程論 ○特別活動論 ○教育方法の理論と技術	2 2 2
生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	○生徒指導論 ○教育相談・進路指導	2 2
養護教育実習		5	○教育実習・事前事後指導（養護）	5
教職実践演習		2	○教職実践演習（養護） ※4 年次後期	2
合　　計		２１	本学では２５単位 必修	

・「教育実習・事前事後指導」について

①履修登録は、３年後期および４年前期とも必ず行うこと。

②事前指導は、教育実習実施前（３年次）の２～３月頃に４日間実施します。

③事後指導は、教育実習終了後（４年次）に実施します。

④「教育実習」は、原則として、４年次の後期に出身校または彦根市内の協力校において３週間実施する予定です。

⑤教育実習参加の基礎要件

教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。

「憲法」「教職論」「教育方法の理論と技術」「学校保健論」「学校看護論」を履修済か履修中であること。

・「教職実践演習（養護）」について

４年次後期に履修すること。

・それ以外の「教職に関する科目」については年次配当の規定はありませんので、年度当初に配布する時間割表で十分に確認し、低年次にできるだけ履修してください。

人間看護学部　　★人間看護学科

養護教諭一種免許の取得に必要な「養護に関する科目」は、次の表によって履修してください。

養護教諭一種免許に係る養護に関する科目

（1）平成21年度以降入学生用、平成23年度以降編入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
体のしくみと機能Ⅰ	1	2		
体のしくみと機能Ⅱ	1	2		
健康科学Ⅱ	1	2		
精神保健看護論	1	2		
発達看護論Ⅰ	1	1		
発達看護論Ⅱ	1	1		
生活行動看護論演習Ⅰ	1	2		
地域保健論	2	2		
疾病論Ⅰ	2	1		
疾病論Ⅱ	2	1		
地域看護論Ⅰ	2	2		
栄養と健康	2	2		
薬理学	2	1		
臨床看護論Ⅰ	2	1		
臨床看護論Ⅱ	2	1		
成人臨床看護論演習Ⅰ	2	1		
生活行動看護論演習Ⅱ	2	1		
学校保健論	3	2		教職用科目
学校看護論	3	2		教職用科目
地域看護論Ⅱ	3	2		
地域看護論演習	3	2		
精神臨床看護論演習	3	1		
小児臨床看護論演習	3	1		
成人臨床看護論演習Ⅱ	3	1		
成人臨床看護論実習Ⅰ	3～4	2		
成人臨床看護論実習Ⅱ	3～4	2		
精神臨床看護論実習	3～4	2		
小児臨床看護論実習	3～4	2		

注　上記科目は、原則として開講年次に履修すること。

（2）平成 20 年度以前入学生用、平成 21・22 年度編入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
地域保健論	2	2		
疾病論	2	2		
学校保健論	3		2	教職用科目
学校看護論	3		2	
地域看護論	2	1		
地域看護論演習	3	2		
栄養と健康	3		2	人間文化学部専門科目
体のしくみと機能Ⅰ	1	2		
体のしくみと機能Ⅱ	1	2		
健康科学Ⅱ	1	2		
薬物・代替療法	2	2		
発達看護論Ⅰ	1	1		
発達看護論演習Ⅰ	2	1		
臨床看護論Ⅰ	2	1		
臨床看護論Ⅱ	2	1		
精神臨床看護論演習	3	1		
小児臨床看護論演習	3	1		
成人臨床看護論演習	3	1		
老年臨床看護論演習	3	1		
成人臨床看護論実習Ⅰ	3～4	2		
成人臨床看護論実習Ⅱ	3～4	2		
精神臨床看護論実習	3～4	2		
小児臨床看護論実習	3～4	2		
老年臨床看護論実習	3～4	2		
発達看護論演習Ⅱ	2	1		
発達看護論演習Ⅲ	2	1		
発達看護論演習Ⅳ	2	1		
発達看護論実習	3	2		

注　必修、選択のすべての科目について、修得しなければならない。

生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について

◆栄養教諭一種免許取得のための科目履修方法について
・次表の「教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目」、「教職に関する科目」、「栄養に係る教育に関する科目」をすべて履修してください。(すべて必修)

◆教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	本学開講科目	単位数	備考
日本国憲法	２	○憲法	２	教職用科目
体育	２	○健康・体力科学Ⅰ ○健康・体力科学Ⅱ	１ １	全学共通基礎科目
外国語コミュニケーション	２	○英語Ⅱ	２	全学共通基礎科目
情報機器の操作	２	○情報リテラシー（情報倫理を含む）	２	全学共通基礎科目

◆教職に関する科目◆

免許法施行規則に定める科目区分		免許法による必修単位	本学開講科目	単位数
科目	各科目に含める必要事項		配当年次はP. 460 表を参照	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	２	○教職論	２
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	４	○教育学概論 ○教育心理学 ○教育制度論	２ ２ ２
教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・道徳及び特別活動に関する内容 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	４	○教育課程論 ○道徳教育論 ○特別活動論 ○教育方法の理論と技術	２ ２ ２ ２
生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	４	○生徒指導論 ○教育相談	２ ２
栄養教育実習		２	○栄養教育実習・事前事後指導	２
教職実践演習		２	○教職実践演習（栄養） ※４年次後期	２
合　　計		１８	本学では２４単位 必修	

◆栄養に係る教育に関する科目◆

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
○学校栄養指導論	２・３	２		教職用科目　隔年開講（H23 不開講）
○食生活教育論	２・３	２		教職用科目　隔年開講（H23 開講）

・「栄養教育実習・事前事後指導」について

①履修登録は、３年後期および４年前期とも必ず行うこと。

②事前指導は、栄養教育実習実施前（３年次）に実施します。実施日は、掲示により連絡します。

③事後指導は、栄養教育実習終了後（４年次）に実施します。実施日は、掲示により連絡します。

④「栄養教育実習」は、原則として、４年次に県内の協力校において１週間実施する予定です。

⑤教育実習参加の基礎要件

教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。

「憲法」、「教職論」、「教育方法の理論と技術」、「学校栄養指導論」、「食生活教育論」を履修済か履修中であること。

・　「教職実践演習（栄養）」について

４年次後期に履修すること。

３　「学芸員」の資格取得について

学芸員は、博物館の専門職員です。学芸員の資格は、「博物館法」に基づいて授与されます。
学芸員となるための資格は、「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」となっています。
本学においては、学芸員の資格取得に必要な授業科目は別表１、２に示されています。

履修にあたっては、次の点に留意してください。
① 学芸員の資格を取得する者は、必修の全ての科目と、選択科目より１０単位以上を修得しなければならない。
② 「博物館学各論Ａ」、「博物館学各論Ｂ」を履修しようとする者は、原則として「博物館学概論」の単位を修得していなければならない。
③ 「博物館学各論Ａ」、「博物館学各論Ｂ」は、両方を履修しなければならない。
④ ４年次開講の「博物館実習」を履修しようとする者は、原則として３回生までに「博物館学概論」、「博物館学各論Ａ」、「博物館学各論Ｂ」、「生涯学習論」および「視聴覚教育」の単位を修得していなければならない。
⑤ 学内実習施設の都合により、４年次開講の「博物館実習」の受講人数を制限する場合があります。

別表１　学芸員の資格取得に必要な授業科目（環境科学部）　※平成23年度入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
博物館学概論	3	2		学芸員用科目
博物館学各論Ａ	3	2		学芸員用科目
博物館学各論Ｂ	2･3	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
教育学概論	3･4	2		人間文化学部人間関係学科専門科目
生涯学習論	2	2		人間文化学部人間関係学科専門科目
視聴覚教育	2	2		学芸員用科目
博物館実習	4	3		学芸員用科目
自然保護論	1･2･3･4		2	人間学
環境科学概論Ⅰ	1		2	環境科学部学部共通基礎科目
環境科学概論Ⅱ	1		2	環境科学部学部共通基礎科目
環境生物学Ⅰ	1		2	環境科学部複数学科共通科目
環境生物学Ⅱ	2		2	環境科学部複数学科共通科目
環境地球科学Ⅰ	2		2	環境科学部複数学科共通科目
河川環境学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
森林環境学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
遺伝学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
湖沼環境学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
動物生態学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
分子生物学	3		2	環境科学部複数学科共通科目
陸域環境影響調査指針	3		2	環境科学部複数学科共通科目　(H23未開講)
集水域環境影響調査指針	3		2	環境生態学科専門科目　(H23未開講)
水域環境影響調査指針	3		2	環境科学部複数学科共通科目　(H23未開講)
陸域生態系保全修復論	3		2	環境科学部複数学科共通科目　(H23未開講)
集水域生態系保全修復論	3		2	環境科学部複数学科共通科目　(H23未開講)
水域生態系保全修復論	3		2	環境科学部複数学科共通科目　(H23未開講)
植物生産学	1		2	環境科学部複数学科共通科目
琵琶湖環境学	1		2	環境生態学科専門科目
環境地球科学Ⅱ	2		2	環境生態学科専門科目
環境変遷史	1		2	環境生態学科専門科目
海洋環境学	2		2	環境生態学科専門科目
大気環境学	2		2	環境生態学科専門科目
集水域環境学	2		2	環境生態学科専門科目
動物資源管理学	2		2	生物資源管理学科専門科目
植物資源管理学	2		2	生物資源管理学科専門科目
水産資源学	2		2	生物資源管理学科専門科目

※別表は平成23年度入学生用です。平成22年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第３章「資格取得等の手引」の該当部分を参照してください。

別表２　　学芸員の資格取得に必要な授業科目（人間文化学部）　※平成23年度入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
		必修	選択	
博物館学概論	3	2		学芸員用科目
博物館学各論Ａ	3	2		学芸員用科目
博物館学各論Ｂ	2･3	2		地域文化学科専門科目
教育学概論	3･4	2		人間関係学科専門科目
生涯学習論	2	2		人間関係学科専門科目
視聴覚教育	2	2		学芸員用科目
博物館実習	4	3		学芸員用科目
日本文化論	1		2	地域文化学科専門科目
考古学	1		2	地域文化学科専門科目
考古学特論	2･3		2	地域文化学科専門科目
民俗学	1		2	地域文化学科専門科目
西洋史概説	2･3		2	地域文化学科専門科目
芸術学	1		2	地域文化学科専門科目
美術史概論	2･3		2	地域文化学科専門科目＊隔年開講（H23不開講）
美術史	2･3		2	地域文化学科専門科目＊隔年開講（H24不開講）
人文地理学Ａ	1		2	地域文化学科専門科目
人文地理学Ｂ	2･3		2	地域文化学科専門科目
文化財・保存修景論Ａ	2･3		2	地域文化学科専門科目＊隔年開講（H23不開講）
文化財・保存修景論Ｂ	2･3		2	地域文化学科専門科目＊隔年開講（H24不開講）
比較住居論	1		2	人間学、人間文化学部複数学科共通科目
比較道具論	1		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
比較衣装論	1		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目＊隔年開講（H23不開講）
比較食文化論	1		2	生活栄養学科専門科目
考現学概論	1		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
道具デザイン史	3		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
日本住居史	3		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目
現代産業デザイン論	3		2	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科専門科目＊隔年開講（H23不開講）

※別表は平成23年度入学生用です。平成22年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第３章「資格取得等の手引」の該当部分を参照してください。

４　「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について

栄養士の免許は、「栄養士法」に基づいて授与されます。本学において栄養士の免許取得に必要な授業科目は、以下の別表1に示されています。なお、栄養士の免許を取得できるのは、人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

「管理栄養士受験資格」は、別表2に示された管理栄養士受験資格取得に必要な授業科目の単位を取得するか、あるいは栄養士免許の取得後、1年の栄養士実務経験を経れば与えられます。

単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

以下の別表1，別表2は、平成23年度入学生から適用されます。平成22年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得等の手引」の該当部分を参照してください。

別表1　栄養士の免許取得に必要な授業科目（平成23年度入学生から適用）

栄養士法施行規則別表１			本学の授業科目				
教育内容	単位数		授業科目	単位数			
	講義演習	実験演習		講義演習	実験演習	講義演習計	実験演習計
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2		4	5
			社会福祉概論	2			
人体の構造と機能	8		生体の構造と機能	2		8	
			疾病の成り立ち（含疾病と微生物）	2			
			病態生理学実習		1		
			運動と健康	2			
			栄養生化学	2			
			栄養生化学実験		1		
食品と衛生	6		食品学総論	2		6	
			食品機能科学	2			
			食品基礎実験		1		
			食品機能科学実験		1		
			食品衛生学	2			
			食品衛生学実験		1		
栄養と健康	8	10	基礎栄養学Ⅰ	2		12	12
			基礎栄養学Ⅱ	2			
			基礎栄養学実験		1		
			応用栄養学Ⅰ	2			
			応用栄養学Ⅱ	2			
			応用栄養学実習		1		
			臨床栄養学Ⅰ	2			
			臨床栄養学Ⅱ	2			
			臨床栄養学実習		2		
栄養の指導	6		栄養教育論	2		6	
			栄養教育論実習		1		
			栄養アセスメント論	2			
			公衆栄養学	2			
			公衆栄養学実習		1		
給食の運営	4		食品の調理と加工	2		8	
			食品加工実習		1		
			嗜好と調理実習Ⅰ		1		
			嗜好と調理実習Ⅱ		1		
			給食経営管理論	2			
			給食管理実習（校内実習）		1		
			給食衛生管理実習（校内実習）		1		
			給食経営管理臨地実習（校外実習）		1		
			食料経済システム論	2			
			比較食文化論	2			
小計	36	14	小計	44	17	44	17
合計	50		合計			61	

別表2　管理栄養士受験資格に必要な授業科目（平成23年度入学生から適用）

教育内容		単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	科目名	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	社会福祉概論	2	
				地域看護論	2	
				生命科学と人間	2	
				健康心理学	2	
				公衆衛生学	2	
				人間行動論	2	
				健康情報管理実習		1
				社会・環境と健康の小計	12	1
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		生体の構造と機能	2	
				分子生物学基礎	2	
				疾病の成り立ち（含疾病と微生物）	2	
				病態評価と治療	2	
				運動と健康	2	
				疾病と栄養	2	
				栄養生化学	2	
				病態生理学実習		1
				栄養生化学実験		1
				栄養生理学実習		1
				人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計	14	3
	食べ物と健康	8		比較食文化論	2	
				食品学総論	2	
				食品機能科学	2	
				食品衛生学	2	
				食品の調理と加工	2	
				食品基礎実験		1
				食品機能科学実験		1
				食品衛生学実験		1
				嗜好と調理実習Ⅰ		1
				嗜好と調理実習Ⅱ		1
				食品加工実習		1
				食べ物と健康の小計	10	6
	小計	28	10	専門基礎分野小計	36	10

教育内容		単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	科目名	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学Ⅰ	2	
				基礎栄養学Ⅱ	2	
				基礎栄養学実験		1
				基礎栄養学の小計	4	1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2	
				応用栄養学Ⅱ	2	
				栄養と健康	2	
				応用栄養学実習		1
				応用栄養学の小計	6	1
	栄養教育論	6		栄養教育論	2	
				栄養アセスメント論	2	
				カウンセリング論演習	2	
				栄養教育論実習		1
				栄養教育論の小計	6	1
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ	2	
				臨床栄養学Ⅱ	2	
				栄養ケアマネジメント論	2	
				臨床栄養活動論	2	
				臨床栄養学実習		2
				栄養ケアマネジメント論実習		1
				臨床栄養学の小計	8	3
	公衆栄養学	4		公衆栄養学	2	
				栄養疫学論	2	
				公衆栄養学実習		1
				公衆栄養学の小計	4	1
	給食経営管理論	4		給食経営管理論	2	
				食料経済システム論	2	
				給食管理実習		1
				給食衛生管理実習		1
				給食経営管理論の小計	4	2
	総合演習	2		管理栄養士総合演習	1	
				臨地実習事前事後指導	1	
				総合演習の小計	2	
	臨地実習		4	地域保健臨地実習		1
				給食経営管理臨地実習		1
				臨床栄養臨地実習Ⅰ		1
				臨床栄養臨地実習Ⅱ		1
				臨地実習の小計		4
	小計	32	12	専門分野の小計	34	13
合計		82		合計	93	

５　「ＮＲ（栄養情報担当者）受験資格」について

「栄養情報担当者」（Nutritional Representative）は、独立行政法人国立健康・栄養研究所の認定制度であり、「健康食品について正確な情報・知識を有し、「ＮＲ」という名称を用いて、消費者に対し、「健康食品」に関する適切な情報を提供することを主な業務とする者」として、独立行政法人国立健康・栄養研究所によって認定されます。生活栄養学科の学生は、Ａの講義科目の履修とＢの集中講座を履修して卒業することでＮＲの受験資格を取得できます。

Ａ　講義科目（ＮＲ認定試験の受験資格を取得するために養成講座において履修すべき科目）

科目名	学年	科目名	学年
健康情報管理実習	1	栄養教育論	3
疾病と栄養	2	カウンセリング論演習	3
疾病の成り立ち	2	給食衛生管理実習	3
食品機能科学	2	公衆栄養学	3
食品の調理と加工	2	食品衛生学	3
食料経済システム論	2	臨床栄養学Ⅰ	2
栄養アセスメント論	3	臨床栄養学Ⅱ	3
栄養疫学論	3		

Ｂ　ＮＲ養成集中講座

この講座は、人間文化学部生活栄養学科の学生を対象に、卒業後に実施されるＮＲ認定試験合格を目指し、受験対策を目的に開講するものである。

受講対象：滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科　１～４回生
受講期間：隔年開講（年度始めに案内する）集中講義期間　（平成23年度開講、平成24年度不開講）
単位数　：１２単位（45分を1単位とする。）

分野	科目	単位
1.臨床医学 ・薬学特論	診察の基本手技と検査の基本	1
	薬の作用と生命内運命	1
	医薬品開発の流れ	1
	生薬・漢方薬	1
	「健康食品」の有効性評価	1
	「健康食品」の安全性評価	1
	特定保健用食品の市販後評価	1
2.ＮＲ倫理	ＮＲ業務のあり方	1
	ＮＲの果たすべき役割	1
3.関連法規	景品表示法	1
	ＰＬ法	1
	特定保健用食品の申請から認可まで	1

６「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について（環境建築デザイン学科）

環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表１に示す所定の単位数を取得すると、取得単位数に応じて、２～４年の実務経験を経て「一級建築士受験資格」が与えられます。

また、環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表２に示す所定の単位数を取得すると、自動的に（実務経験なしで）「二級・木造建築士受験資格」が与えられます。

表１　「一級建築士受験資格」の取得に必要な科目・単位数

分類	授業科目	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計製図	設計演習Ⅰ	必修	3	9単位
	設計演習Ⅱ	必修	3	
	設計演習Ⅲ	必修	3	
②建築計画	環境設計Ⅰ	選択	2	8単位以上
	環境設計Ⅱ	選択	2	
	空間計画論	選択	2	
	内部空間論	選択	2	
	都市・地域計画	選択	2	
	日本建築史	選択	2	
	アジア建築史	選択	2	
	西洋建築・思潮史	選択	2	
③建築環境工学	建築環境工学	必修	2	2単位以上
	建築環境工学演習	選択	2	
④建築設備	環境設備	必修	2	2単位
⑤構造力学	構造力学Ⅰ	必修	2	4単位
	構造力学Ⅱ	必修	2	
⑥建築一般構造	建築一般構造	選択	2	4単位
	構造計画	必修	2	
⑦建築材料	構造材料実験	必修	2	2単位
⑧建築生産	建築生産施工	必修	2	2単位
⑨建築法規	建築法規	必修	2	2単位
⑩その他	環境技術史	選択	2	適宜
	環境技術	選択	2	
	コミュニティ計画論	選択	2	
	景観計画	選択	2	
	ランドスケープ・デザイン	選択	2	
	環境行動論	選択	2	
	文化財・保存修景論A	選択	2	
	環境・建築デザイン概論	必修	2	
	イメージ表現法	必修	2	
	地域環境計画	選択	2	
	CAD演習Ⅰ	必修	2	
	設計基礎演習	必修	2	
	環境共生デザイン	選択	2	
	環境造形論	選択	2	
	環境職能論	選択	2	
①～⑩の合計単位数		実務経験２年		60単位以上
		実務経験３年		50単位以上（60単位未満）
		実務経験４年		40単位以上（50単位未満）

表２　「二級・木造建築士受験資格」の取得に必要な科目・単位数

分類	授業科目	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計製図	設計演習Ⅰ	必修	3	9単位
	設計演習Ⅱ	必修	3	
	設計演習Ⅲ	必修	3	
②建築計画、建築環境工学または建築設備	環境設計Ⅰ	選択	2	8単位以上
	環境設計Ⅱ	選択	2	
	空間計画論	選択	2	
	内部空間論	選択	2	
	都市・地域計画	選択	2	
	日本建築史	選択	2	
	アジア建築史	選択	2	
	西洋建築・思潮史	選択	2	
	建築環境工学	必修	2	
	建築環境工学演習	選択	2	
	環境設備	必修	2	
③構造力学、建築一般構造または建築材料	構造力学Ⅰ	必修	2	6単位以上
	構造力学Ⅱ	必修	2	
	建築一般構造	選択	2	
	構造計画	必修	2	
	構造材料実験	必修	2	
④建築生産	建築生産施工	必修	2	2単位
⑤建築法規	建築法規	必修	2	2単位
⑥その他	環境技術史	選択	2	適宜
	環境技術	選択	2	
	コミュニティ計画論	選択	2	
	景観計画	選択	2	
	ランドスケープ・デザイン	選択	2	
	環境行動論	選択	2	
	文化財・保存修景論A	選択	2	
	環境・建築デザイン概論	必修	2	
	イメージ表現法	必修	2	
	地域環境計画	選択	2	
	CAD演習Ⅰ	必修	2	
	設計基礎演習	必修	2	
	環境共生デザイン	選択	2	
	環境造形論	選択	2	
	環境職能論	選択	2	
①～⑥の合計単位数		実務経験０年		40単位以上[注)]

注）　環境科学部環境建築デザイン学科の卒業要件を満たせば、①～⑥の合計単位数は 40 単位を超える。

７「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について（生活デザイン学科）

人間文化学部生活デザイン学科の課程を修了し、かつ以下に示す所定の単位数を取得すると、取得単位数に応じて、０～２年の実務経験を経て、「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」が与えられます。

資格の取得に必要な科目

分類	授業科目名	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計・製図	基礎設計製図	選択必修	２	６単位以上
	住環境設計演習Ⅰ	選択必修	２	
	住環境設計演習Ⅱ	選択必修	２	
	住環境設計演習Ⅲ	選択必修	２	
	住環境設計演習Ⅳ	選択必修	２	
②建築計画、建築環境工学または建築設備	近代デザイン史	選択	２	８単位以上
	比較住居論	選択	２	
	インテリア計画論	選択	２	
	住居計画論	選択	２	
	空間デザイン論	選択	２	
	日本住居史	選択	２	
	住環境論	選択	２	
③構造力学、建築一般構造または建築材料	一般構造	選択	２	６単位以上
	構造計画	選択	２	
	構造力学Ⅰ	選択	２	
	構造材料実験	選択	２	
④建築生産	建築生産施工※1	選択	２	２単位
⑤建築法規	建築法規	選択	２	２単位
⑥その他	考現学概論	選択	２	適宜
	生活デザイン論	選択	２	
	色彩学演習	選択必修	１	
	デジタルデザイン演習	選択必修	２	
	人間工学	選択	２	
	人間工学実習	選択	１	
	環境行動論※2	選択	２	
	比較都市論※2	選択	２	
	空間計画論※2	選択	２	
	文化財・保存修景論A※1	選択	２	
	地域文化財論B※1	選択	２	
	①～⑥の必要単位数合計	実務経験０年		４０単位以上
		実務経験１年		３０単位以上（４０単位未満）
		実務経験２年		２４単位以上（３０単位未満）

平成２０年度以前の入学生は、平成２０年度版「履修の手引」p586 を参照してください。
※1 のついた科目は、他学部または他学科の開講科目であることを示します。
※2 のついた科目は、「人間学」の開講科目であることを示します。

８　「インテリアプランナー登録資格」について

「インテリアプランナー登録資格」は、インテリアプランナー試験の合格者で下記に示す科目および単位数を履修し、人間文化学部生活デザイン学科の課程を卒業した後、実務経験２年で与えられます。また、二級建築士、木造建築士資格を取得した者は、実務経験なしで登録資格が得られます。

なお、試験は受験年の４月１日現在満２０歳以上であれば誰でも受験できます。

資格取得に必要な科目

授業科目	単位数	必修単位数
色彩学	2	A (36-B-C) 単位以上
色彩学演習	1	
デッサン法	1	
生活造形基礎演習	2	
現代産業デザイン論	2	
道具デザイン史	2	
近代デザイン史	2	
日本住居史	2	
道具計画論	2	
道具デザイン演習Ⅰ	2	
道具デザイン演習Ⅱ	2	
道具デザイン演習Ⅲ	2	
道具デザイン演習Ⅳ	2	
比較住居論	2	
インテリア計画論	2	B (24-C) 単位以上
住居計画論	2	
空間デザイン論	2	
人間工学	2	
人間工学実習	1	
住環境論	2	
構造材料実験	2	
構造計画	2	
構造力学Ⅰ	2	
一般構造	2	
生活デザイン論	2	
建築法規	2	
基礎設計製図	2	
デジタルデザイン演習	2	
住環境設計演習Ⅰ	2	C 2単位以上
住環境設計演習Ⅱ	2	
住環境設計演習Ⅲ	2	
住環境設計演習Ⅳ	2	

平成 20 年度以前の入学生は、平成 20 年度版「履修の手引」p587 を参照してください。

平成 21、22 年度入学生は、入学年度の「履修の手引」を参照してください。

９　「社会調査士資格」について

◆人間文化学部地域文化学科および人間関係学科

「地域文化学科」および「人間関係学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は、「社会調査士資格認定機構」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

授　業　科　目	開講年次	単位数	備考
統計学基礎 社会調査論 社会調査方法論 量的データ解析論Ⅰ	1 1 2 2	2 2 2 2	人間文化学部共通科目
※質的データ解析論 ※量的データ解析論Ⅱ	2 3・4	2	いずれか１科目選択必修
社会調査実習	3	1	

※　原則として、地域文化学科は「質的データ解析論」、人間関係学科は「量的データ解析論Ⅱ」を選択すること

※　「量的データ解析論Ⅰ」、「量的データ解析論Ⅱ」は、平成 22 年度以前入学生については、それぞれ旧科目「社会統計学」、「応用データ解析論」に読み替えます。

◆環境科学部環境政策・計画学科

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は「社会調査士資格認定機構」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

授　業　科　目	開講年次	単位数	備考
地域調査法 地域調査法演習 基礎統計 応用統計学Ⅰ 応用統計学Ⅱ 社会調査実習	1 1 1 2 2 3	2 1 2 2 2 1	

１０　「保健師国家試験受験資格」および「看護師国家試験受験資格」について

「保健師国家試験受験資格」および「看護師国家試験受験資格」は、下記に示す科目および単位数を履修し、人間看護学部人間看護学科の課程を卒業（見込みを含む。）した者が受験できます。

資格取得に必要な科目　（平成21年度以降入学生用、平成23年度以降編入学生用）

分野	授業科目						必修単位数
全学共通科目	人間学：「環境マネジメント総論」「人間探求学」「生命・人間・倫理」「社会福祉論」と２科目選択必修						12
	英語Ⅰ（活性化コース）　英語Ⅱ（応用コース） 英語Ⅲ（充実コース）　英語Ⅳ（展開コース）					8	12
	（選択科目）　（各２単位） ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ （各言語Ⅰは初級コース、Ⅱは中級コース）から２科目選択必修					4	
	健康・体力科学Ⅰ	1	健康・体力科学Ⅱ	1			2
	情報科学概論	2	H22以降入学生：情報リテラシー（情報倫理を含む）（２単位） H21入学生：情報処理演習Ⅰ（１単位）、情報処理演習Ⅱ（１単位）			2	4
専門基礎科目	体のしくみと機能Ⅰ	2	体のしくみと機能Ⅱ	2	体のしくみと機能Ⅲ	2	19
	健康科学Ⅰ	2	健康科学Ⅱ	2	薬理学	1	
	人間性心理論	2	地域保健論	2	疾病論Ⅰ	1	
	疾病論Ⅱ	1	栄養と健康	2			
専門科目	人間看護論Ⅰ	2	人間看護論Ⅱ	1	看護過程論	1	80
	生活行動看護論	1	精神保健看護論	2	生活行動看護論演習Ⅰ	2	
	発達看護論Ⅰ	1	発達看護論Ⅱ	1	発達看護論Ⅲ	1	
	育成看護論Ⅰ	1	育成看護論Ⅱ	1	疫学	2	
	看護コーディネーション	2	地域看護論Ⅰ	2	生活行動看護論演習Ⅱ	1	
	生活行動看護論演習Ⅲ	2	臨床看護論Ⅰ	1	臨床看護論Ⅱ	1	
	臨床看護論Ⅲ	1	精神臨床看護論	1	育成看護論演習	1	
	精神臨床看護論演習	1	小児臨床看護論演習	1	成人臨床看護論演習Ⅰ	1	
	成人臨床看護論演習Ⅱ	1	ターミナルケア論	1	ターミナルケア論演習	1	
	老年臨床看護論演習	1	在宅看護論Ⅰ	1	在宅看護論Ⅱ	1	
	看護管理論	2	地域看護管理論	1	地域看護論Ⅱ	2	
	健康教育論	1	行政看護論	2	地域看護論演習	2	
	（選択科目）　（各２単位） 国際・災害看護論、家族看護論 このうち１科目選択					2	
	生活行動看護論実習Ⅰ	1	生活行動看護論実習Ⅱ	2	老年臨床看護論実習Ⅰ	1	
	育成看護論実習	2	精神臨床看護論実習	2	小児臨床看護論実習	2	
	成人臨床看護論実習Ⅰ	2	成人臨床看護論実習Ⅱ	2	老年臨床看護論実習Ⅱ	2	
	ターミナルケア論実習	2	地域看護論実習	4	在宅看護論実習	2	
	人間看護学統合実習	3	卒業研究	4			
						計（卒業要件）	129

資格取得に必要な科目　（平成20年度以前入学生用、平成22年度以前編入学生用）

分野	授業科目						必修単位数
全学共通科目	人間学：「環境マネジメント総論」「人間探求学」と４科目選択必修						12
	英語Ⅰ（活性化コース）　英語Ⅱ（応用コース） 英語Ⅲ（充実コース）　英語Ⅳ（展開コース）					8	12
	（選択科目）（各２単位） ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ （各言語Ⅰは初級コース、Ⅱは中級コース）から２科目選択必修					4	
	健康・体力科学Ⅰ	1	健康・体力科学Ⅱ	1			2
	情報科学概論	2	情報処理演習Ⅰ	1	情報処理演習Ⅱ	1	4
専門基礎科目	体のしくみと機能Ⅰ	2	体のしくみと機能Ⅱ	2	体のしくみと機能Ⅲ	2	20
	健康科学Ⅰ	2	健康科学Ⅱ	2	疾病論	2	
	人間性心理論	2	地域保健論	2	社会福祉論	2	
	薬物・代替療法	2					
専門科目	人間看護論Ⅰ	1	人間看護論Ⅱ	1	看護過程論	2	77
	看護と倫理	2	家族看護論	2	健康教育論	2	
	看護コーディネーション	2	対人関係看護論	1	生活行動看護論	1	
	生活行動看護論演習Ⅰ	2	生活行動看護論演習Ⅱ	2	発達看護論Ⅰ	1	
	発達看護論Ⅱ	1	発達看護論演習Ⅰ	1	発達看護論演習Ⅱ	1	
	発達看護論演習Ⅲ	1	発達看護論演習Ⅳ	1	育成看護論	1	
	育成看護論演習	1	臨床看護論Ⅰ	1	臨床看護論Ⅱ	1	
	精神臨床看護論演習	1	小児臨床看護論演習	1	成人臨床看護論演習	1	
	老年臨床看護論演習	1	ターミナルケア論	1	ターミナルケア論演習	1	
	地域看護論	1	在宅看護論	1	地域看護論演習	2	
	（選択科目）（各２単位）						
	障害者看護論・福祉看護論・学校看護論・職域看護論・助産管理論 このうち３科目選択					6	
	国際看護論・看護管理論・看護政策論 このうち１科目選択					2	
	対人関係看護論実習	1	生活行動看護論実習	2	発達看護論実習	2	
	育成看護論実習	2	精神臨床看護論実習	2	小児臨床看護論実習	2	
	成人臨床看護論実習Ⅰ	2	成人臨床看護論実習Ⅱ	2	老年臨床看護論実習	2	
	ターミナルケア論実習	2	地域看護論実習	4	人間看護学統合実習	3	
	卒業研究	5					
						計（卒業要件）	127

１１　「助産師国家試験受験資格」について

「助産師国家試験受験資格」は、494、495ページの「保健師国家試験受験資格」および「看護師国家試験受験資格」に必要な科目が履修できていることが前提であり、追加科目として下記に示す科目および単位数を履修し、人間看護学部人間看護学科の課程を卒業（見込みを含む。）した者が受験できます。

この資格を取得するには、助産師課程（３～４年次）を選択する必要があります。希望者に対して3年次後期に選抜を行い、認められた者のみが履修できます。

資格取得に必要な科目　（平成21年度以降入学生用）

授　業　科　目	単位数
基礎助産学	2
助産管理論	2
助産診断・技術学Ⅰ	2
助産診断・技術学Ⅱ	2
助産診断・技術学演習	2
助産学実習	13
小　　計	23

助産師課程を履修する者は、同時に養護教諭一種免許の取得に必要な科目を履修することはできません。
基礎助産学と助産管理論は３年前期に履修しておくこと。

資格取得に必要な科目
（平成20年度以前入学生用、平成21・22年度編入生用）

授　業　科　目	単位数
助産概論	2
助産管理論	2
助産診断学Ⅰ	2
助産診断学Ⅱ	2
助産診断学演習	2
助産実習	13
小　　計	23

助産師課程を履修する者は、同時に養護教諭一種免許の取得に必要な科目を履修することはできません。
助産概論、助産管理論は３年前期に履修しておくこと。

１２「社会福祉主事任用資格」について

社会福祉主事とは、社会福祉法において規定されている資格であり、都道府県・市町村の福祉事務所等において、生活保護法等に定める援護等の事務にあたる職員として任用される者に要求される資格(任用資格)です。また、社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。

任用資格とは、公務員として採用された後で、特定の業務に任用されるときに必要となる資格で、任用されて初めてその資格を名乗ることができる資格のことです。資格認定証は発行されませんので、必要であれば単位取得証明書等で証明することになります。

「社会福祉主事任用資格」は、厚生労働大臣の指定する科目の中から３科目以上を修得し、卒業した場合に取得できます。本学では次の科目の中から３科目以上を修得してください。

- 社会福祉概論（生活栄養学科専門科目）または社会福祉論（人間学※1）
- 法学概論（環境科学部複数学科共通科目、人間関係学科専門科目）
- 社会学（環境科学部複数学科共通科目※2）または社会学概論※3（地域文化学科専門科目、人間関係学科専門科目）
- 教育学概論（人間関係学科専門科目）
- 公衆衛生学（生活栄養学科専門科目）

※1 平成 20 年度以前入学生については、「社会福祉論」は人間看護学部専門科目となります。
※2 地域文化学科、人間関係学科の平成 22 年度以前入学生については、「社会学」は専門科目となります。
※3「社会学概論」は、平成 22 年度以前入学生については、旧科目「社会学」に読み替えます。

１３「電気通信主任技術者資格」について

電気通信主任技術者は、電気通信ネットワークの工事、維持及び運用の監督責任者です。電気通信事業者は、その事業用電気通信設備を、総務省令で定める技術基準に適合するよう、自主的に維持するために、電気通信主任技術者を選任し、電気通信設備の工事、維持及び運用の監督にあたらなければなりません。

試験の種類は、「伝送交換主任技術者試験」と「線路主任技術者試験」があり、試験科目は、次の４科目となっています。

（１）電気通信システム

（２）専門的能力

（３）伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）

（４）法規

このうち、電子システム工学科の所定の単位（表１）を修得すると、電気通信システムの試験が免除になります。

表１　電気通信主任技術者試験における「電気通信システム」科目試験免除に関する授業科目

昭和 60 年郵政省告示第 241 号の別表第 1 号及び第 2 号に規定する科目別授業時間数 （注：1 コマ 90 分は 2 時間として計算する）			電子システム工学科生が履修する科目及び授業時間数 （注：〇は必修科目）		
科　　目		授業時間数	授業科目名	授業時間数	単位数
基礎専門教育科目	数学	60	〇微積分Ⅰ	30	2
			〇線形代数Ⅰ	30	2
	物理学	60	〇基礎力学	30	2
			〇基礎電磁気学	30	2
	電磁気学	60	〇電磁気学Ⅰ	30	2
			電磁気学Ⅱ	30	2
	電気回路	60	〇電気回路Ⅰ	30	2
			電気回路Ⅱ	30	2
	電子回路	60	〇電子回路Ⅰ	30	2
			〇電子回路Ⅱ	30	2
	デジタル回路	30	〇ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾊｰﾄﾞｳｪｱ	30	2
	情報工学	30	〇ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造	30	2
	電気計測	60	〇電気電子計測Ⅰ	30	2
			電気電子計測Ⅱ	30	2
専門教育科目	伝送線路工学	30	電磁波工学	30	2
	交換工学	30	ディジタル信号処理	30	2
	電気通信システム	30	情報通信工学	30	2

１４「電気主任技術者資格」について

電気主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持および運用に関する専門的な知識を有する者に与えられる資格で、事業用電気工作物の設置者(所有者)は電気事業法の定めにより電気主任技術者等の主任技術者を有資格者の中から専任することが義務づけられています。電子システム工学科では、開講している授業単位を必要数（表１）修得した上で、卒業後一定の期間の実務経験（表２）を経て、申請により次の種別の電気主任技術者資格が取得できます。

表１　授業科目

【区　分】 必要科目数	授業科目および単位数		
【理　論】 ●科目全てと○科目３科目以上	●	電磁気学Ⅰ	2
	●	電磁気学Ⅱ	2
	●	電気回路Ⅰ	2
	●	電気回路Ⅱ	2
	●	電気電子計測Ⅰ	2
	●	電気電子計測Ⅱ	2
	○	電子回路Ⅰ	2
	○	電子回路Ⅱ	2
	○	半導体基礎	2
	○	半導体デバイス	2
	○	電子デバイス	2
【電　力】 ●科目全てと○科目１科目以上	●	電力工学Ⅰ	2
	●	電力工学Ⅱ	2
	●	物性デバイス基礎論	2
	○	プラズマ工学	2
	○	電気エネルギーシステム工学	2

【区　分】 必要科目数	授業科目および単位数		
【機　械】 ●科目全てと○科目２科目以上	●	電気機器	2
	●	パワーエレクトロニクス	2
	●	制御工学	2
	○	コンピュータハードウェア	2
	○	ロボット工学	2
	○	光エレクトロニクス	2
	○	情報通信工学	2
	○	電磁波工学	2
【法　規】 ●科目	●	電気関係法規・施設管理	2
【実験･実習】 ●科目全て	●	電子システム工学実験Ⅰ	2
	●	電子システム工学実験Ⅱ	2
	●	電子システム工学実験Ⅲ	2
【設計･製図】 ●科目全て	●	電子システム工学演習Ⅲ	1
	●	集積回路設計基礎	2

●印は、必ず取得しなければならない授業科目
（卒業要件の必修科目とは異なります。）
○印は、選択科目

表２　電気主任技術者資格取得のための実務経験

電気主任技術者の種類	実　務　の　経　験	
	実務の内容	経験年数
第１種電気主任技術者免状	電圧 5 万Ｖ 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の２分の１と卒業後の経験年数との和が５年以上
第２種電気主任技術者免状	電圧 1 万 Ｖ 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の２分の１と卒業後の経験年数との和が３年以上
第３種電気主任技術者免状	電圧 500 Ｖ 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の２分の１と卒業後の経験年数との和が１年以上

15「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について

食品衛生法第 48 条の規定により、製造または加工にあたり、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品、食肉製品、食品添加物などについて、営業者はその製造または加工を衛生的に管理させるために、食品衛生管理者を置かなければならないことになっています。

食品衛生監視員は、飲食に起因する衛生上の危害を防止するために、食品を取り扱う営業施設等への監視指導、立入検査及び食品等からの試験品を採取する権限を、厚生労働大臣または都道府県等の長から付与された公務員です。

そのため、食品衛生管理者は、食品等の製造・加工の施設を衛生的に管理させるための専門的な知識を、食品衛生監視員は、食品等の衛生に関する専門的な知識を持っていなければなりません。

資格取得には、別表の A～D の各群から 1 科目以上を履修し、その単位の合計が 22 単位以上であり、かつ A～E 群あわせて合計 40 単位以上を履修することが必要です。単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

なお、資格取得が可能なのは、平成 20 年度以降入学の人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

資格取得に必要な科目（別表）

	基礎科目名	本学科目名	必選	単位数
Ａ群 化学関係	分析化学、有機化学、無機化学	天然物化学基礎	必修	2
Ｂ群 生物化学関係	生物化学、食品化学、 生理学、食品分析学、 毒性学	生命科学と人間 分子生物学基礎 栄養生化学 食品学総論 食品基礎実験 食品機能科学 食品機能科学実験	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 1 2 1
Ｃ群 微生物学関係	微生物学、食品微生物学、 食品保存学、食品製造学	食品微生物学	必修	2
Ｄ群 公衆衛生学関係	公衆衛生学、食品衛生学、 環境衛生学、衛生行政学、 疫学	公衆衛生学 食品衛生学 食品衛生学実験 栄養疫学論 給食衛生管理実習	必修 必修 必修 必修 必修	2 2 1 2 1
			小計	24

Ｅ群 その他 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保蔵学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目	生体の構造と機能 疾病の成り立ち（含疾病と微生物） 病態評価と治療 病態生理学実習 栄養生理学実習 栄養生化学実験 食品の調理と加工 食品加工実習 公衆栄養学 公衆栄養学実習 食料経済システム論 給食経営管理論	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	2 2 2 1 1 1 2 1 2 1 2 2
			小計	19

○A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計が 22 単位以上であること。（本学は 24 単位必修）
さらに、E群の科目を含めての総単位数が 40 単位以上であること。

１６「毒物劇物取扱責任者」について

毒物及び劇物取締法第７条第１項の規定により、毒物又は劇物を直接に取り扱う製造所、営業所又は店舗ごとに、専任の毒物劇物取扱責任者を置き、毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止に当たらせなければならないとされています。

　本学材料科学科を卒業した者は、毒物劇物取扱責任者の資格を有することになります。

１７「甲種危険物取扱者受験資格」について

消防法の規定により、一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければならないとされています。危険物取扱者には、甲種・乙種・丙種があり、そのうち甲種危険物取扱者は、全類の危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督ができます。また、甲種もしくは乙種危険物取扱者が立ち会えば危険物取扱者免状を有していない一般の者も、取り扱いと定期点検を行うことができます。

受験にあたっての詳細事項は、財団法人消防試験研究センターのホームページを参考にしてください。(http://www.shoubo-shiken.or.jp/)

◆　工学部　材料科学科

本学材料科学科を卒業した者は、自動的に甲種危険物取扱者の受験資格が得られます。

◆　環境科学部

平成20年度以降入学の環境科学部（およびその他の学部）の学生は、以下の一覧表のうち15単位以上を修得すれば、甲種危険物取扱者の受験資格を得ることができます。なお、受験に際しては取得単位の内容を記載した単位取得証明書が必要です。

甲種危険物取扱者受験資格に関連した「化学に関する授業科目」一覧表(環境科学部)

科目名	単位数	配当学科	備考
環境化学Ⅰ	2	複数学科	平成21年度以前入学生は化学Ⅱ
環境化学Ⅱ＊	2	複数学科	平成21年度以前入学生は化学Ⅰ
集水域環境影響調査指針　＊	2	環境生態	
集水域環境学	2	環境生態	
集水域環境機能論＊	2	複数学科	平成21年度以前入学生は環境分析化学
集水域物質循環論＊	2	複数学科	平成21年度以前入学生は環境化学
水域環境機能論　＊	2	環境生態	平成21年度以前入学生は環境毒性学
大気環境学	2	環境生態	
陸域環境機能論＊	2	複数学科	平成21年度以前入学生は環境生化学
環境化学実験	2	複数学科	平成21年度以前入学生は化学実験
環境解析学・同実験	4	複数学科	平成21年度以前入学生は環境化学・実験
遺伝学	2	複数学科	
応用微生物学	2	生物資源	
家畜生産環境学	2	生物資源	
家畜生産生理学	2	生物資源	
環境植物生理学	2	生物資源	
魚類生理学	2	生物資源	平成20年度以前入学生は水族環境生理学
植物遺伝資源学	2	生物資源	
植物栄養学	2	生物資源	
植物資源開発学	2	生物資源	平成21年度以前入学生は環境作物学
水質管理学	2	生物資源	
生物資源化学	2	生物資源	
生物資源循環論	2	生物資源	
土壌環境化学	2	複数学科	平成21年度以前入学生は土壌環境化学
農薬環境学	2	複数学科	
分子生物学	2	複数学科	
水資源保全学	2	生物資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	2	生物資源	平成18年度以前入学生は生物資源管理学実験Ⅱ
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2	生物資源	平成18年度以前入学生は生物資源管理学実験Ⅲ
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	2	生物資源	平成18年度以前入学生は生物資源管理学実験Ⅳ
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	2	生物資源	
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	2	生物資源	平成18年度以前入学生は生物資源管理学実験Ⅵ
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	2	生物資源	平成18年度以前入学生は生物資源管理学実験Ⅶ

＊：平成23年度開講せず

１８「二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除」について

「ビオトープ管理士」は、財団法人日本生態系協会が認定する民間資格です。

環境科学部環境生態学科、環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生物資源管理学科の学生は、二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験（例年９月に実施）の受験にあたり、下記の科目をすべて履修して単位を取得しているか、受験年度内に単位取得見込みであると、筆記問題の一部が免除されます。

なお、下記科目をすべて履修しない者でも、通常の試験によって資格取得をすることは十分可能です。

＜注意事項＞

- 「環境法Ｉ」は、平成 22 年度以降に単位取得した者だけが一部免除認定対象となります。平成 21 年までに単位を取得した者は一部免除を利用できません。
- 生物資源管理学科の学生は、「陸域生態系保全修復論」の単位を以て一部免除認定を申請することはできませんので、「環境動物学」を必ず受講してください。

二級ビオトープ管理士（計画部門）資格試験一部免除に必要な講義

講　義　名		開講時期	科　目　区　分	備考
自然保護論		後	人間学	
動物生態学		後	複数学科共通科目（生態、資源）	
植物生態学	どちらか１つ	後	複数学科共通科目（生態、資源）	平成 23 年度開講せず
森林環境学	どちらか１つ	前	複数学科共通科目（生態、資源）	
環境動物学	どちらか１つ（資源の学生は「環境動物学」を履修すること）	後	生物資源管理学科専門科目	
陸域生態系保全修復論	どちらか１つ（資源の学生は「環境動物学」を履修すること）	後	複数学科共通科目（生態、資源）	平成 24 年度開講予定
環境法Ｉ		前	複数学科共通科目（政策・計画、資源）	平成 22 年度以降の単位取得のみ
環境計画学		後	複数学科共通科目（政策・計画、建デ）	
都市・地域計画		前	環境建築デザイン学科専門科目	
地域環境整備学		後	生物資源管理学科専門科目	

１９　キャリア教育について

◆　キャリア教育の開講について

本学では、学生が自身の人間形成や将来設計を描き、職業観を育成するための授業や自己の職業適性を考え、職業意識を高める機会としてキャリア教育を実施しています。
開講科目は下表のとおりです。

科目名	単位数	配当年次	備考
キャリアデザイン論	２	２年	
インターンシップＡ	１	３年	
インターンシップＢ	２	３年	

※　修得単位は、卒業要件単位には含まれません。

◆　キャリア教育科目「キャリアデザイン論」について

１）**対象**：全学部学科の２回生、前期科目
２）**単位**：２単位（自由科目とし、卒業要件単位には含まれません。）
３）**科目のねらい**：

・学生一人一人が自身の将来設計を描き、人間形成とキャリア・職業観の育成、職業・進路の選択、決定ができる能力を培う。また、自己のキャリアについて広い観点から考えることの重要性に気づき、勉学・課外活動も含めた学生生活の有意義な過ごし方について考える機会とする。
・過去を振り返り、今後の進路についてさまざまな角度から深く見つめ、考え、自己の将来設計を描くとともに、目標を実現するための方策を考える。

◆　インターンシップについて

学生が自己の職業適性を考え、職業意識を高める機会としてインターンシップ制度を充実します。

１）インターンシップとは

インターンシップとは「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した 就業体験を行うこと」と定義されています。本学では学生が企業・団体において行う短期間の実習・研修的な就業体験を通して、職業観・社会観を育み、自身のキャリア形成の意識を高めることを目的に単位認定型のインターンシッププログラムを実施しています。

２）インターンシップの基本理念

①　本学の教育理念「人が育つ」に基づき、学生の「学習」と「社会人としての成長」を促す。
②　社会体験を通じて、学問への社会的要請と意義を理解させる。
③　社会や職業における諸課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を向上させる。

３）インターンシップの基本方針

① 専門教育に資する、もしくは学習を意識づける契機とする。

② インターンシップは、インターンシップ実習、事前・事後学習を含むものとして、本学学生のキャリア形成を促進する教学プログラムの一環とする。

③ 本学の人材育成を広く社会に示すと同時にその成果を還元する。

４）インターンシップの種類

大学が受入企業・団体と覚書を締結して学生に紹介する「協定型インターンシップ」や、企業・団体が独自に行うインターンシップに学生自ら応募する「自由応募型インターンシップ」、そして学部・学科等の専門的分野における「専門型インターンシップ」の３種類があります。

５）単位認定されるインターンシップの内容

① 対象：全学部全学科の原則として３回生

② 実施時期：原則として夏季休業期間に実施する。（１週間から４週間程度）

③ 授業科目名

インターンシップＡ：　５日以上の就業体験実習を行う。　１単位

インターンシップＢ：１０日以上の就業体験実習を行う。　２単位

（自由科目とし、卒業要件単位には加えない）

④ 科目登録：受入先が決定したら直ちに科目登録を行うこと。

⑤ 保険の加入義務：実習中の事故に備え、インターンシップに参加する学生は全て賠償責任保険に加入する。

⑥ 成績評価：就業体験に原則として全て出席していることを前提に「事前学習レポート」、「実習日誌」、「受入担当者報告書」、「実習レポート」の４点を総合的に評価する。

⑦ その他

- インターンシップは基本的に無報酬である。交通費については自己負担とする。但し、受入先企業・団体が支給する場合はこの限りでない。
- インターンシップを申し込み、受入先が内定した後は特別な事情がない限り辞退は出来ない。

インターンシップ参加の流れ

インターンシップガイダンスに参加する（募集要項配付）→　出願　→　選考　→
受け入れ先決定・科目登録　→　誓約書を事務局に提出　→賠償責任保険加入申し込み　→
大学と受入先が覚書締結　→事前学習・ビジネスマナー講座に参加する（事前学習レポートを提出する）
→　受け入れ先でのインターンシップ実習　→インターンシップ実習日誌及び
受入担当者報告書を提出する　→　実習レポートを提出する
→　インターンシップ報告会に出席（プレゼンテーション）　→　成績評価（単位認定）

科目名	栄養教育実習・事前事後指導
担当教員	西　道代※　・　竹田　陽子※
授業概要	栄養教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価反省を大学において行う。
到達目標	栄養教育の内容の理解。授業実践力の向上。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:なし
成績評価	実習、事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。

科目名	学校栄養指導論
担当教員	未定
授業概要	管理栄養士免許に必要な科目を修得したことによって培われた栄養学の専門性に加えて、児童生徒の健全な心身の発達のため、さらには生涯を通じた健康づくりのために、食を通じた健康教育の重要性を理解し、教育者として食に関する指導(学校における食育)ができる能力を養う。
到達目標	(1)食に関する指導について、その基礎理論を理解する。 (2)栄養教諭の実践演習として、食に関する指導についての学習指導案を作成する。 (3)模擬授業、相互評価を通し、指導法や指導効果の向上を目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:金田雅代編著「栄養教諭論－理論と実際－」(建帛社)、文部科学省刊行書「食に関する指導の手引」(東山書房)
成績評価	プレゼンテーション能力40%、学習指導案および模擬授業への取り組み60% 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象としない。

科目名	学校看護論
担当教員	伊藤　路子※
授業概要	学校教育における養護概念について歴史的・社会的観点からとらえ直しつつ、現代の学校教育に求められている養護教諭の多様な役割について学習する。
到達目標	学校看護の役割を理解するとともに、学校教育で求められている養護教諭の役割について理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:杉浦守邦 『改定学校保健　第5版』東山書房
成績評価	出席状況・学習態度20%　　課題レポート80%

科目名	学校保健論
担当教員	中島　敦子※　・　橋本　進一※　・　冨田　豊※
授業概要	発育・発達期にある児童・生徒の健康は、その人の生涯の健全な生活・幸福な生活の基本となる重要事項である。 この時期に形作られた健全な身体と精神、また教えられた保健知識、養われた保健習慣は、その人の将来の健全な生活の基盤となるものである。 このことから、児童・生徒の教育に携わる人たちのための基礎学科である学校保健について理解を深める。
到達目標	養護教諭としての知識と資質を修得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:テキスト「改訂　学校保健」(東山書房) 参考書:授業中に適宜提示
成績評価	小試験と課題レポートの総計で評価

科目名	家庭電気・機械
担当教員	森岡　清隆※
授業概要	環境を守る地球規模の取り組みが模索されています。「家庭電気・機械」の授業は省エネルギー・環境保護に取り組む出発点となります。家庭では多種・多様な電化製品が使われていて、さらに、オール電化、IH調理機器、テレビ放送のデジタル化、ソーラー発電、携帯電話など次々と新しい製品・技術が開発されています。これらを合理的に利用するために必要な電気理論、電気化学、電気機械、照明・電熱、電子回路、情報技術の知識を習得し、これらを安全に活用するための基礎的知識を習得します。
到達目標	電気理論、電子回路、電気化学、電熱・照明、情報の基礎を学び、家庭の電化製品を合理的・安全に使用できるようになることを目指します。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:岡部　巍　編著『新家庭機械・電気』
成績評価	小テスト50%、レポート50%

科目名	教育学概論
担当教員	篠原　岳司
授業概要	本授業では、多様なテーマを包摂する教育学の基本原理と今日的課題について講義する。また、教職課程の授業であることから、特に学校に関わる諸現象、諸課題については具体例を紹介し検討を行う。
到達目標	①教育学の多様なテーマについてイメージを掴む。 ②講義で扱うテーマに関する自分の考えを持つ。 ③小レポート、最終レポートを通し、読み手を意識した論理的な文章力を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは定めず、講義中に資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。
成績評価	各講義後に提出する小レポート(40%)と最終レポート(60%)をもとに、総合的に判断する。なお、小レポートの未提出が4回以上の場合は評価対象から外す。

科目名	教育課程論
担当教員	木村　裕
授業概要	教育課程の歴史的展開、教育課程の構造、授業における教育内容と教育方法のあり方などについて、文献や映像資料などを用いながら講義する。
到達目標	「学校を基礎とする教育課程開発」を行うために必要となる基礎的な知識と技能を獲得すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキストなどは特に定めず、講義中に適宜資料を配布する。また、参考文献を適宜紹介する。
成績評価	講義中に提出するワークシートなど（40%）と最終レポート（60%）をもとに、総合的に判断する。

科目名	教育実習・事前事後指導
担当教員	那須　光章 ・ 吉田　一郎 ・ 篠原　岳司 ・ 木村　裕
授業概要	教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。
到達目標	学校教育の内容の理解。授業実践力を高める。学校システムの理解。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。 参考書：授業内に随時紹介する。
成績評価	実習、事前事後指導の完全参加が絶対条件となる。

科目名	教育実習・事前事後指導（養護教諭）
担当教員	畑野　相子 ・ 伊丹　君和 ・ 那須　光章 ・ 吉田　一郎 ・ 篠原　岳司 ・ 木村　裕
授業概要	教育実習とそれにかかわる事前事後の指導である。実際の教育現場での教育指導にあたり、児童・生徒理解の方法や養護教諭の役割について直接的、体験的な学習を深める。また、このための事前の学習と事後のまとめ・評価・反省を大学において行う。
到達目標	学校教育の内容の理解。養護教諭としての実践力を高める。学校システムの理解。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし。適宜プリントなどを配付する。 参考書： 授業内に随時紹介する。
成績評価	実習、事前事後指導の完全参加が絶対条件となる。

科目名	教育心理学
担当教員	那須　光章
授業概要	思春期・青年期の心理と行動を理解し、障害を持つ生徒の援助などを含めて今日の生徒の発達と行動を青年心理学の観点から概説して、青少年への指導と援助のポイントを探求する。
到達目標	青年期の心理と行動の理解。学校等での生徒との関わりの実践的意義の認知を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：白井利明編『よくわかる青年心理学』(ミネルヴァ書房) 指定図書：森敏昭（他著)『教育心理学キーワード』(有斐閣)
成績評価	試験の成績（70％）、講義中のレポート（15％）、実習的課題（15％）を総合して評価する。

科目名	教育制度論
担当教員	篠原　岳司
授業概要	本講義では、わが国の教育制度の基本原理を歴史的展開や具体例を踏まえて明らかにし、21世紀における教育制度の将来像を検討していく。したがって、講義では教育制度の成立背景や発展の展開、制度を形作る基本原理、教育実践と制度の相克に関する事例や論点を取り上げていく。
到達目標	① 現在の教育制度が形成されてきた経緯を理解できる。 ② 現在の教育制度の課題を理解できる。 ③ 教育制度、学校教育制度を形作る基本原理を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは指定せず、必要な資料は講義中に配布する。参考文献等は講義中に適宜紹介する。
成績評価	レポート3回（30%、30%、40%）で評価する。講義では毎回小レポートの作成を求めるが、提出を4回以上怠った者は評価しない。また、グループディスカッションを踏まえた上でのレポート作成を求める理由から、ディスカッションの欠席者はレポートも評価しない。詳しくは第1回で説明する。

科目名	教育相談
担当教員	那須　光章　・　安江　郁夫※
授業概要	教育相談の意義と必要性をふまえて、教育相談のすすめ方をカウンセリング技法を用いて行うことの大切さを論じる。教育相談の領域、内容、形態、対象に応じた効果的な方法を探り、具体的・実践的な事例を紹介する。
到達目標	教育相談の意義を理解させる。相談技法についての知識を深めさせる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：那須光章著『子どもと若者支援の心理学』北大路書房
成績評価	レポート（30％）・終講試験（70％）を総合して評価する。

科目名	教育相談・進路指導
担当教員	那須　光章　・　安江　郁夫※
授業概要	教育相談の意義と方法を論じ、カウンセリングマインドとカウンセリング技法の活用の重要性を理解する。それをふまえて、今日の学校教育の重要な課題としての生徒の適応支援と学習指導の進め方、生き方を見つける進路指導のあり方を論じる。
到達目標	カウンセリングの原理と技術に関心を持ち、生徒理解の大切さを認識する。進路発達の実態についての理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:特になし、必要に応じて資料を配布する
成績評価	レポート(30%)・終講試験(70%)を総合して評価する。

科目名	教育方法の理論と技術
担当教員	那須　光章　・　亀田　彰喜　・　近藤　文良※
授業概要	人間発達や社会化・学校教育の重要な要因である学習に焦点を当てて、その原理や方法を学び、実際の学校場面での授業や評価の方法を論ずる。視聴覚機器機や情報機器を活用した教材の開発とそれの教育実践場面での活用方法や評価の仕方についてもふれる。
到達目標	多様な教授方法の理解、教育機器の活用の技術を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:多鹿秀継編著『学習心理学の最先端』あいり出版
成績評価	終講テストの成績(70%)、小テスト(15%)、実習課題(15%)の評価を加味して総合評価する。

科目名	教科教育法Ⅰ（家庭）
担当教員	今宿　信子※
授業概要	中学校技術家庭の目標、家庭分野の目標、内容、指導方法などを論じる。学生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を行い教材研究をする。
到達目標	(1)家庭分野の目標・内容を理解する。 (2)家庭科学習指導案を作成することができる。 (3)模擬授業ができる。
テキスト 指定図書 参考書	「新しい技術・家庭」〔家庭分野〕　東京書籍出版
成績評価	学習指導案の提出、出席状況などを総合的に評価する。(プレゼンテーション50%、指導案の提出50%)

科目名	教科教育法Ⅰ（工業）
担当教員	奥野　信一※
授業概要	私たちはものづくり（生産技術）を基礎にした社会の中で生活を営んでいます。産業革命以後，人類のものづくりの形態は急激に変化し，その要求に対応した教育が各時代の中で模索され，行われてきました。本授業では，ものづくりの歴史を概観しつつ，工業技術教育の発展と今日的課題について，検討します。また，工業技術教育における指導法・評価，教材研究の方法とその実際，環境問題や安全指導等について取り上げます。
到達目標	(1)技術の歴史についてその概略を説明できる。(2)工業技術教育の目標，指導法と評価について説明できる。(3)工業科に関する教材研究ができる。(4)工業技術教育の今日的課題について，考えが言える。
テキスト 指定図書 参考書	必要に応じ，授業資料を配付する。
成績評価	レポート（70％），製作課題（10％），授業に対する構え（20％）

科目名	教科教育法Ⅰ（公民）
担当教員	山上　修※
授業概要	(1)公民科教育の目標を、歴史的、国際的な視点から追究する。(2)人間、社会、人類と自然との共生、人類の課題を、以下の(a)(b)を軸に追究する。(a)人間は何故万物の霊長になり、他の動物と異なる特質は何か。それはどうすれば生かせるか。人間の自己・自然・社会変革の可能性と限界はどこにあり、限界を超える際のポイントは何か。人間と自然の関係をどうとらえるか、自然との共生はどこまで可能か。(b)すべての人々の尊厳を守り、個性・自由・幸福追求を保障する考え、ルール、制度とはいかなるのものか。人権、権利、民主主義とは?
到達目標	次の諸点を説明できること。(1)公民科教育の目標の歴史的、国際的な把握。(2)人間の他の動物と異なる特質。それはどうすれば生かせるか。人間の自己・自然・社会変革の可能性と限界と限界を超える際のポイント。人間と自然の関係、自然との共生の可能性。すべての人々の尊厳を守り、個性・自由・幸福追求を保障する考え、ルール、制度とは。人権、権利、民主主義とは?
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリント配布 参考図書：山上修著『輝跡！21世紀を見つめて今を生きる』(文芸社)
成績評価	出席:原則として1/3以上の欠席の場合は評価対象としない。授業中の提出物：30％、学期末の筆記試験（持ち込み不可、出席することで解答できる内容）70％にて評価する。

科目名	教科教育法Ⅰ（社会）
担当教員	齋藤　桂※
授業概要	中学校の社会科のカリキュラムと授業の構成原理や指導上の配慮事項を学び、学生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を行う。分担者の模擬授業について受講者全員で検討・議論する。
到達目標	中学校の社会科のカリキュラムと授業の構成原理や指導上の配慮事項を学び、模擬授業を行うことができる。分担者の模擬授業について受講者全員で検討・議論することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特に指定しない。
成績評価	授業中の小レポート　50％　模擬授業・レポート　50％

科目名	教科教育法Ⅰ（情報）
担当教員	神月　紀輔※
授業概要	学校教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置づけを明確にし，教科「情報」の目標及び科目編成やカリキュラムの編成方法についてとりあげ，情報科教育に関わる方法論を講義する。
到達目標	教科「情報」の意義について理解し，情報科教育に関わる方法論について理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領解説　情報編」 指定図書：松原伸一「情報科教育法」（開隆堂出版） 参考書：適宜紹介する
成績評価	評価は，レポート，授業への参加態度，出欠状況などについて学生間相互評価，および自己評価を重視し，総合的に評価を行う。レポートは4～5回。すべて学生間で開示し相互評価を行い，自己評価を行う。授業については，相互評価やディスカッションに参加できない場合は単位を認定しない。また，4回以上の欠席のある場合にも学習を進めることが困難となるので単位を認定しない。

科目名	教科教育法Ⅰ（地理歴史）
担当教員	齋藤　桂※
授業概要	高校の地理教育、歴史教育の目標、内容、指導上の配慮事項を学び、学生各自が学習指導案を作成し、模擬授業をおこなう。分担者の模擬授業について受講者全員で検討・議論する。
到達目標	高校の地理教育、歴史教育の目標、内容、指導上の配慮事項を学び、模擬授業をおこなうことができる。分担者の模擬授業について受講者全員で検討・議論することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：特に指定しない。
成績評価	授業中の小レポート　50%　模擬授業・レポート　50%

科目名	教科教育法Ⅰ（農業）　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	農の教育力を見直し、人間にとって不可欠な要素としての農を考える。人類はその進化の過程で植物をパートナーとし、農耕をすることで文明を築いてきた。農業教育はその歴史を再認識することから始まるが、そこから新しい人間と植物の関係を明らかにする。
到達目標	農業科目を実践するための基礎的な知識を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：別途指示
成績評価	成績評価　レポート100%

科目名	教科教育法Ⅰ（理科）
担当教員	石川　聡子※
授業概要	中学校の理科教育の現状と課題を考察し、理科の授業をおこなっていくうえでの効果的な指導方法を身につけることを目的とする。
到達目標	(1)現在の理科教育の現状と課題について基礎的な知識がある。 (2)理科教育の目標と内容、評価規準が理解できる。 (3)学習指導案が作成できる。 (4)模擬授業の準備ができる。
テキスト 指定図書 参考書	適宜指示する。
成績評価	小テスト　30%、レポート　30%、試験　40%

科目名	教科教育法Ⅱ（家庭）
担当教員	加地　芳子※
授業概要	男女共学の高等学校普通教科家庭科がどのような教科であるべきか、また教科としての役割を果たすためにはどのような指導方法が有効かを「家庭基礎」を中心に実践例を参考にしながら具体的に考える。さらに、模擬授業の自己評価・相互評価を手がかりにして、各自の課題を確認し自己研修の方向付けに資する。
到達目標	高等学校家庭科の全容を理解した上で、「家庭基礎」を中心にして授業を実践する力を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：高等学校家庭科教科書「家庭基礎」 第一学習社 プリント配布
成績評価	小テスト10％、指導案の作成20％、模擬授業20％、模擬授業評価票10％、試験40％ （欠格条件：授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない）

科目名	教科教育法Ⅱ（工業）
担当教員	西村　顕男※
授業概要	工業科の教員としての資格の養成と教科指導法について論じる
到達目標	課題プレゼンテーションの発表とその評価方法を習得する
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：「高等学校学習指導要領解説　工業編」 参考書：「情報科教育の方法と技術」 西之園晴夫・岡本敏雄　編著　ミネルヴァ書房
成績評価	実習評価（プレゼンテーション）の提出　発表会の評価　試験　出席状況

科目名	教科教育法Ⅱ（公民）
担当教員	山上　修※
授業概要	公民科教育法Ⅰで追究した公民科教育の目標を達成する授業方法とはいかなるものか。そこで探求した人間観・社会観に立脚した授業方法とはいかなるものなのかを、さまざまな授業方法や学習形態を紹介し検討しながら、学生による模擬授業とそれについての合評会を軸に探求する。
到達目標	教師による一方通行の授業から脱却し、生徒の知的好奇心を呼び起こし、生徒による主体的な学びを保障する授業、教師と生徒の対話・質疑応答、生徒同士の豊かな学び合いが成立する授業をめざす。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：適宜プリント配布 指定図書：山上修著『輝跡！21世紀を見つめて今を生きる』（文芸社）
成績評価	出席：1/3以上の欠席の場合は原則として評価対象としない。授業中の提出物（20%）、模擬授業(20%)、レポート(60%)にて評価する。

科目名	教科教育法Ⅱ（社会）
担当教員	小林　忠伸※
授業概要	中学校社会科授業構成の理論と方法について学ぶ。 地理・歴史・公民の三分野の学習指導案の作成方法について考察する。
到達目標	(1) 目標・授業・評価の一体化を観点に社会科授業を構成できる。 (2) 三分野の学習指導案に基づいて教壇実習ができる。 (3) 社会科の教員として望ましい知識と態度を身につける。
テキスト 指定図書 参考書	必要な教材は適宜プリント配布する 文部科学省「中学校学習指導要領解説　社会科編」
成績評価	学習指導案（30%）、レポート（60%）、小テスト（10%）を基本に成績評価をする。

科目名	教科教育法Ⅱ（情報）
担当教員	神月　紀輔※
授業概要	情報科教育法Ⅰで身につけた，教科「情報」についての理解をもとに実践的な授業内容について考察する。模擬授業等を取り入れ，インストラクションの技術向上とともに，理論的側面についても考察を深める。
到達目標	教科「情報」の授業計画を作成でき，授業実践ができるようになる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：文部科学省「高等学校学習指導要領解説　情報編」 指定図書：適宜紹介する 参考書：適宜紹介する
成績評価	自学自習を基本にし，学生間相互評価および自己評価を重視する。各単元ごとに模擬授業を行いその評価は相互評価ならびに自己評価を基本にする。模擬授業での参加意欲は自己評価により点数化し，評価に勘案する。また4回以上欠席の場合は，学習を進めることが困難になるため単位を認定しない。

科目名	教科教育法Ⅱ（地理歴史）
担当教員	山口　康雄※
授業概要	現行および改訂「高等学校学習指導要領地理歴史科」、「中学校学習指導要領社会科」に即し、地理歴史科教育法Ⅰで履修した学習内容を踏まえて、地歴科目のねらいと教科内容に関わる教材を選択・精選・発掘し、それらを有機的に組み立てていく授業構成（学習指導案作成）、および模擬授業を通して、地歴科各科目の指導法を学習する。
到達目標	中学社会科・高校地歴科の教員としての資質、教養、最低必要な指導方法を身につける
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：高等学校学習指導要領解説（地理歴史編） 中学・高校時代の地歴教科書・副教材 プリント配布　その他講義中に指示するもの
成績評価	・学習指導案（模擬授業）40%、レポート30%、小テスト30%を基本に総合判定する ・授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない

科目名	教科教育法Ⅱ（農業）　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	戦後60数年の高等学校教育の中でも農業科教育はその時の社会情勢・経済情勢等により大きく変化してきたが、地域社会と連携しながら農林業の振興と人材の育成に大きく貢献してきた。本講義では、これらの流れや動きをよく理解して、これからの農業科教育のあるべき姿を考えていきたい。 高等学校農業科教育に長年にわたり携わってきた者の立場から、その経験や体験を通して得た農業科教育のノウハウを具体的に展開する。
到達目標	農業科教育の現状、農業高等学校の実情を直視しながら実体を考え、有為な人材を育成するための農業科教育の方法および農業高等学校の在り方を学ぶ。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：高等学校学習指導要領の解説（農業編）（実教出版）、プリント配布
成績評価	レポート評価70％、出席率と学習への参加度30％

科目名	教科教育法Ⅱ（理科）
担当教員	橘　淳治※
授業概要	初等・中等教育における理科は、高等教育における自然科学研究の基礎となるものである。特に理科は知識理解に加え、観察・実験等の実習が最重要視されるので、指導者である教師にとっての実験観察力の養成は必須である。 そこで、本授業では新学習指導要領や学校の理科設備の実態を踏まえた実践的な理科の指導法と、環境安全を重視した理科実験についての講義と実習を行う。
到達目標	(1)理科教育の目的と学習指導要領との関連を理解し、学習指導案の作成ができること。 (2)学校の理科実験についての指導の要点を理解し、実験・観察プリントの作成ができること。 (3)安全で環境に配慮した実験・観察の指導とその評価ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：文部科学省著「高等学校学習指導要領解説　理科編　理数編」、実教出版、定価336円　ISBN 978-4-407-31926-2 参考書　：中学校学習指導要領解説編（理科）、小学校学習指導要領解説編（理科）
成績評価	受講に際しては、集中講義3日間の総ての授業に出席することを前提とし、授業中の実習課題と最終試験を点数化して成績評価を行う。

科目名	教科教育法Ⅲ（家庭）
担当教員	今宿　信子※
授業概要	家庭科教育法ⅠおよびⅡを基礎とし、さらに深めた家庭科教育について考察し、中・高家庭科教員としての資質を養う。
到達目標	(1)家庭科と他教科との関連性を理解する。 (2)小・中・高の家庭科の連続性について理解する。
テキスト 指定図書 参考書	武藤八恵子ほか　編「テキスト家庭科教育」〔家庭教育社〕
成績評価	リポート等による評価。（プレゼンテーション50％、リポート50％）

科目名	教科教育法Ⅳ（家庭）
担当教員	加地　芳子※
授業概要	「生きる力」を育てる高等学校普通教科家庭科の指導方法について、演習形式の授業で実践的・体験的に学習する。
到達目標	家庭科教育における学力育成の考え方と、それを実現する力を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：高等学校家庭科教科書「家庭総合」 第一学習社 プリント配布
成績評価	教材の作成50％、リポート50％（欠格条件：授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない）

科目名	教職実践演習（中学校）
担当教員	未定
授業概要	4年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の履修で不足している知識・技能を補完し、さらに今日、教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。
到達目標	講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬授業、現地調査などを経験するとともに毎時間、授業の最後に今回学んだ内容、教員になった場合、その内容をどのように活かしていくかについてのレポートることによって、実践的な力量を伸ばすとともに、教育者としての基本姿勢などを身につける。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：講義の際に、適宜紹介する。
成績評価	毎時間の小レポートの内容や授業への参加態度をもとに成績評価を行う。

科目名	教職実践演習（高等学校）
担当教員	未定
授業概要	講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬授業、現地調査などを適宜取り入れる。 現実の学校に学びながら、理想の教育と追求する。その基本的な構えのもとに演習を通して主体的に教育について考察する。そのため、毎回、講義の終わりに今回学んだ内容について、また教員になった場合、その内容をどのように活かしていくかについてのレポートをまとめさせる。それら演習を通じて実践的な力量を伸ばすとともに、教育者としての基本的資質能力、教育哲学、法律知識、教養、基本姿勢などを学ぶ。
到達目標	4年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の履修で不足している知識・技能を補完し、さらに今日、教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:『学校って何だろう　教育の社会学入門』 苅谷剛彦　ちくま文庫
成績評価	出席状況と、毎回の小レポート、演習の内容、総括レポートを総合して行う。3分の2以上の出席を単位認定の条件とする。4回の演習は必ず行うこと。

科目名	教職実践演習（養護教諭）
担当教員	未定
授業概要	救急処置・健康診断・教育相談など演習を通して、養護教諭の専門的な知識や技能を生かした健康教育の進め方を学ぶ。講義・演習・発表・模擬授業・事例研究・ロールプレイングを取り入れ、今日的課題に対応できる資質の向上を図る。
到達目標	4年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の履修で不足している知識・技能を補完し、さらに今日、教員に求められている資質や能力を身につけ、学校現場で予想される諸問題に対処できるようにする。現実の学校に学びながら、専門的職種としての養護教諭像を確立する。そのため、求められる資質や能力を身につけ、学校現場での実践に繋がる力をつける。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義の際に、適宜紹介
成績評価	小レポート、総括レポート、演習・発表内容を総合して評価

科目名	教職実践演習（栄養教諭）
担当教員	未定
授業概要	大学4年間で学んだことと栄養教育実習での体験を統合し、栄養教諭として学校給食管理と食に関する指導を行うための実践的指導力や今日的課題に対応できる能力の育成と更なる資質の向上を図る。主な授業の形態として、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせたものとする。
到達目標	教職課程における履修履歴をもとに、学校現場で必要とされる栄養教諭としての技能、知識の不足部分を補完する
テキスト 指定図書 参考書	参考書:適宜紹介する。
成績評価	授業への参加姿勢、評価テスト、レポート、発表内容等を総合的に評価

科目名	教職論
担当教員	木村　裕
授業概要	教師の実態や特徴的な実践の紹介などを通して、教師の職務、教職の本質、教育実践のあり方などについて講義する。
到達目標	教師の役割に関する基礎的な知識を習得するとともに、自分なりの暫定的な「めざす教師像」を確立すること。
テキスト 指定図書 参考書	テキストなどは特に定めず、講義中に適宜資料を配布する。また、参考文献を適宜紹介する。
成績評価	講義中に提出するワークシートなど（40％）と最終レポート（60％）をもとに、総合的に判断する。

科目名	憲法
担当教員	橋本　豪志※
授業概要	日本国憲法は，その制定後60年を経過し「経年劣化」が言われるところである。そのため，裁判員制度の導入や，道州制・首相公選制の導入論に見られるような新たな動きも存するところであるが，判例の永年の集積は，我が憲法の理念に光を投げかけ，その意味するところを示唆する。但し，判例は実社会を後追いする傾向があることは否めず，受講生にはより主体的能動的な理解を求めたい。そこで，特に人権条項中の表現の自由について，その民主主義的意義を理解し，さらに統治機構との関係を明らかにすることで，憲法の全体像の理解につなげたい。
到達目標	憲法の基本構造を理解し，人権相互ないし法的利益との調整手法を学ぶ。その上で，表現の自由を中心とした精神的自由が，成熟した民主主義社会に果たす役割を理解する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：憲法講義　山上賢一編著（中央経済社），憲法判例集　野中俊彦・江橋崇編著（有斐閣新書） 指定図書：芦部信喜著　高橋和之補訂　憲法第4版（岩波書店）
成績評価	期末試験をもって評価する。

科目名	情報と職業
担当教員	亀田　彰喜
授業概要	情報技術やインターネットの活用によって、企業の経営形態を変え、情報関連企業が続々と出現し、従来の企業のビジネスモデルが大きく変化してきている。新しい情報関連ビジネスが次々生まれる中で、企業が求める人材も大きく変わってきている。今日のネットワーク社会で、我々の仕事の内容や職場の環境がいかに変化してきているのか。また、今日の情報化社会におけるビジネスを理解するために求められる人材がどのように変化して来ているのか。そして、情報化社会の労働観がどのように変わりつつあるかを学んでおかねばならない。
到達目標	(1)情報化社会における情報技術の進展と情報関連企業の実態の把握。(2)情報ネットワークによるビジネス環境の変化を認識し、企業における情報活用の事例を考察することができる。(3)インターネットビジネスの実態を把握し、情報化社会における犯罪と法制度を考察し認識することができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：プリント等を配布 指定図書：駒谷昇一・辰巳丈夫・楠元範明共著「情報と職業」（オーム社） 参考書：近藤　勲編著「情報と職業」（丸善）
成績評価	課題60%　情報と職業に関する課題の作成により評価、レポート40%　情報と職業のレポートにより評価

科目名	職業指導
担当教員	那須　光章
授業概要	職業指導・進路指導の理論と方法を学ぶ。職業指導の理論と方法，青少年のキャリア発達について概説し，若者の職業的発達や進路成熟の実態をふまえて，適性や興味についての心理的考察とその診断方法に関して論考する。さらに，今日の学校進路指導の現状と課題を取り上げ，有効な進路指導のあり方を提言する。
到達目標	生徒の進路成熟についての理解を深めること、実際の職業相談の技術の基本の理解ができること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:城仁士・那須光章(共編著)『キャリア発達と産業教育』(明治図書)1996年
成績評価	実習課題(50%)、レポート(50%)

科目名	食生活教育論
担当教員	西　道代※　・　成田　幸子※　・　竹田　陽子※
授業概要	日本の食生活・食文化が日本人の健康維持増進に果たしてきた役割を理解し、さらに国民栄養の現状、生活習慣病と関連を持たせながら、幼児・児童・生徒の食に関する問題点、課題などに対する的確な問題意識をもち、社会、地域、学校と連携しつつ、食生活に関わる諸問題を解決し、改善を講じる能力を養う。
到達目標	(1)栄養教諭の役割と職務内容の全体像を理解する。(2)学校給食の役割を理解する。(3)国民全般や幼児・児童・生徒の食に起因する健康課題、食生活の歴史的・文化的事項等を理解する。(4)実態を踏まえた個別相談指導や学校・家庭・地域との連携方策を習得する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:金田雅代編著「栄養教諭論ー理論と実際ー」(建帛社)、文部科学省刊行書「食に関する指導の手引き」(東山書房)
成績評価	期末試験80%、授業内レポート20% 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

科目名	生徒指導論
担当教員	吉田　一郎
授業概要	生徒指導概念の出自に関する検討をはじめとして、生活指導概念との異同を論じ、生徒指導の基本的課題について考える。また、日本における生徒指導論の背景にある、いくつかの理論(特別権力関係論、管理主義教育論、精神主義教育論、保護主義的教育論の問題性について考察する。また、生徒指導の実践的な展開場面を素材にしながら、実践的課題について考える。
到達目標	生徒指導の目標・課題について理解を深めるとともに指導力量を形成する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書:講義中に適宜指示する。
成績評価	レポートによって行う。5回以上欠席したら評価の対象にしない。

科目名	総合演習　（平成21年度以前入学生用）
担当教員	山田　稔※　・　堀田　良夫※
授業概要	前半は、今日の子どもたちの状況やわが国の社会全体の問題状況とのかかわりのもとで、今日の学校教育の抱えている具体的な課題について、教師としての対処のあり方を探る。 後半は、学校とは何かを考察し、それらの上に立って、生徒指導・進路指導・教育相談・授業の演習を行う。演習は専攻ごとのグループでチームティチング形式で行い、毎時合評会を行う。各グループそれぞれ1回の模擬授業をする。
到達目標	前半：人権問題についての認識および人権意識を確立することと、今日の学校現場で生起している様々な教育課題に対する教師としての対処能力を獲得すること。 後半：現実の学校の人類学・社会学的分析を通して理想の学校を追究し、教育について主体的に考察すること。技術および教育者としての姿勢や学際的教養を身につけること。
テキスト 指定図書 参考書	指定しない
成績評価	毎回の小レポート、演習の内容を総合して評価を行う。3分の2以上の出席を単位認定の条件とする。授業演習は必ず行うこと。

科目名	道徳教育論
担当教員	吉田　一郎
授業概要	わが国の道徳教育実践の歴史を振り返りながら、そこで深められた理論的、実践的な知見について考える。戦前日本の道徳教育、戦後初期の教育民主化の歴史的意義、憲法・教育基本法下の道徳教育、道徳の概念、道徳性の発達道徳の授業の実践的課題などについて考察する。
到達目標	道徳教育の目標・方法について理解をはかりながら、指導力量を形成する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：『子どもと学ぶ道徳教育』吉田一郎他、その他講義中に適宜指示する。
成績評価	レポートまたは試験によって行う。5回以上欠席したら評価の対象としない。

科目名	特別活動論
担当教員	吉田　一郎
授業概要	学校教育課程における教科外の領域における教育指導について研究するのが、特別活動論の目的である。日本の生活指導や生徒指導実践野中で蓄積されてきた特別活動に関わる教育学的な知見について考える。
到達目標	特別活動の目的・内容について理解を深め、指導する実践力量を形成する。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：指定しない。
成績評価	レポートによって行う。5回以上欠席したら評価の対象にしない。

科目名	被服学
担当教員	道明　美保子
授業概要	絶えず向上・進歩する衣生活を科学的な視点でとらえ、真の豊かな衣生活のあり方を考える。被服学の領域は非常に広く、周辺科学の境界領域にまたがる。そこで本講義では、日本の被服生活文化のうつりかわり、着心地と素材、素材への付加価値の付与、人間と社会環境との精神的関係、被服の購入と管理について概説する。
到達目標	中学校、高等学校での指導を考慮して、真に豊かな衣生活のあり方を考えるうえでの被服生活文化、被服素材、被服の購入と管理および被服の廃棄と再利用に関する知識を得る。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:プリント配布 指定図書:適宜紹介 参考書:適宜紹介
成績評価	レポート評価30%　期末筆記試験70%

科目名	服飾製作実習　（平成22年度の内容）
担当教員	未定
授業概要	被服製作の指導に関する知識と技術を習得する。
到達目標	日常生活を豊かにするという生活者の視点で被服製作を実践する姿勢をつくること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:適宜プリント配布
成績評価	製作物の仕上がり　70%　・小テスト　30%

科目名	保育学
担当教員	野部　博子※
授業概要	こどもが、大人にむかって心身ともに健やかに成長発達し、かつ社会の一員として、健全な環境の中で暮らすには、大人はどのように援助していったらよいかを考える。
到達目標	児童福祉法でいう児童期の心身の発達と人格形成について理解を深める。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:講議時に紹介する
成績評価	毎回、講義後に提出するレポート70%、及び課題30%。　内容の理解と個人の見解が展開できることを評価。

科目名	視聴覚教育
担当教員	嶋田　容子※
授業概要	見る・聞くということは、物理的な世界のあり方をそのままに写しとることではなく、さまざまなかたちに取り出すことである。視覚・聴覚の基本的な仕組み、錯覚を含む主観的な構成のされ方、人の発達過程における視覚・聴覚の獲得、人以外の動物の生態における多様な知覚のあり方など、幅広く紹介する。記憶・芸術といった、単純な知覚を越えた人間の活動との関わりについても考察する。
到達目標	基本的な視聴覚の仕組みだけでなく、視聴覚知覚が主観的に構成されるものであること、認識のあり方が多様であることを理解する。視覚と聴覚の基本的な仕組みを学び、乳児の視聴覚の発達・他の動物の多様な視聴覚を学ぶことを通じて、「見る」「聞く」という行動を多角的に捉え直す。芸術と人間との関わりを視聴覚の観点からより深く考察することを目指す。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:知覚と感性の心理学(三浦佳世) 指定図書:音の世界の心理学(重野純)・動物は世界をどう見るか(鈴木光太郎)・脳は絵をどのように理解するのか(ロバートL・ソルソ)
成績評価	レスポンスペーパー30%、筆記テスト70%

科目名	生涯学習論
担当教員	篠原　岳司
授業概要	知識基盤社会といわれる21世紀の今日，生涯を通した継続的な学習のあり方を模索することは、個人的にも社会的にも現代を生きる私たちの共通の課題となっている。本授業では，人間的および社会的発達を視野に入れた生涯学習の理論と実践、そしてその方法について，新たな学習スタイルも用いながら学んでいく。
到達目標	①現代社会における生涯学習の必要性を理解できる。 ②生涯学習に関わる現代的課題について理解している。 ③生涯学習の学習方法を身につけ実践できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキストは指定せず、毎時間資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。
成績評価	中間レポート(50%)および最終レポート(50%)で評価する。中間レポートの課題と方法の詳細は初回に案内する。なお、毎授業で課す小レポートの未提出が4回以上の場合は、評価対象としない。

科目名	博物館学概論
担当教員	市川　秀之
授業概要	博物館の基本的な問題について講義する。博物館は社会教育施設であるとともに、研究機関としても重要な意味をもつ。博物館の目的、機能、現状、歴史などを講義し、調査研究、資料の整理と収集、公開展示、普及の基本的な考え方を解説する。
到達目標	博物館の目的、機能、現状、機能などについての基本的な知識の取得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:『新しい博物館学』芙蓉書房出版
成績評価	レポート(2回)　20%　期末試験　40%　毎回授業後のレスポンスカード　40% 2回のレポートを提出しない者は合計点数が60点に達していても単位を認めない。

科目名	博物館学各論Ａ
担当教員	野間　直彦　・　布谷　知夫※　・　浦部　美佐子　・　上町　達也
授業概要	自然史系博物館の経営、自然史系博物館における情報および資料の取り扱い、自然史系博物館における研究および教育・普及活動などについて解説する。
到達目標	自然史系博物館において必要なことがらを理解する。
テキスト 指定図書 参考書	参考書：講義の中で紹介する
成績評価	試験70％、レポート30％：生物分類学の基本的なことがらを理解していること。

科目名	博物館学各論Ｂ
担当教員	亀井　若菜　・　未定
授業概要	博物館の具体的な問題について講義する。博物館と情報・博物館資料論などについて解説する。Aでは自然科学系博物館、Bでは人文系博物館について中心的にとりあげる。また博物館の現地見学も実施する。
到達目標	博物館の展示・情報・資料などについての基本的な知識の取得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：『新しい博物館学』芙蓉書房出版
成績評価	レスポンスカード50％・レポート50％

科目名	博物館実習
担当教員	市川　秀之　・　野間　直彦　・　東　幸代　・　亀井　若菜　・　西田　隆義　・　浦部　美佐子　・　浜端　悦治　・　倉茂　好匡
授業概要	近隣の博物館または出身府県の博物館において、博物館資料の取り扱いから展示の実現まで多様な実務について実習する。授業ではその準備として実務に必要な基本的事項について実習し、また事後には実習の成果を発表し反省点などをまとめる。
到達目標	博物館の実務に必要な技術・知識の取得
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：なし
成績評価	ミニ博物館の内容30％。実習日誌30％・レポート20％・報告書原稿20％。 無断での欠席・遅刻をした者は単位を認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするものは必ず事前に連絡すること。

科目名	基礎助産学
担当教員	岩谷　澄香
授業概要	助産学の基本概念、助産師の責務と役割を理解し、助産活動（諸外国の活動を含む）の発達を概観し、国際社会の動向を視野に入れながら、我が国の助産および助産学の現状や将来を展望する視点を養うことを目的とする。
到達目標	現在の助産の全容を理解し、助産における課題・問題を把握でき、助産の将来展望を持つことができる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:我部山キヨ子・武谷雄二編「助産学講座1 基礎助産学1」「助産学講座9 地域母子保健」医学書院.2009、(財)母子衛生研究会編「わが国の母子保健 平成23年」、医療法制研究会監修「医療六法」平成23年版. 厚生統計協会「国民衛生の動向2010/2011」 指定図書:平野重誠著.小曽戸洋監修「病家須知」農文協.2006 参考書:講義の中で紹介する
成績評価	定期試験80%、課題（事前学習）20%

科目名	助産管理論
担当教員	炭原　加代
授業概要	助産管理と助産業務範囲を理解し、助産業務管理の基礎的能力と助産所の運営の基本的な能力を習得する。助産業務を評価・調整する基礎的な能力を養う。
到達目標	助産業務範囲や助産業務を評価・調整する視点を持つことができる。産科医療の特徴と医療事故防止の理解ができる。 災害時における助産師の役割を理解できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:助産学大系第12巻　助産管理学（日本看護協会出版会） 新版助産師業務要覧ー増補版ー（日本看護協会監修） 指定図書:森崇英著「生殖の生命倫理学」永井書店、2005. 平成23年度　看護白書（日本看護協会出版会） 井部俊子監修　医療倫理学のABC（メヂカルフレンド社） 門脇豊子他編集　看護法令要覧　平成23年度版　日本看護協会出版会 医療法制研究会監修　医療六法　平成23年度版　中央法規 参考書: 講義中に紹介する。
成績評価	課題発表・レポート10％　期末筆記試験90％

科目名	助産実習
担当教員	岩谷　澄香　・　大脇　万起子　・　古川　洋子　・　金森　京子　・　炭原　加代　・　桑名　亜希子
授業概要	既習した科目の理論に基づいた助産活動を周産期医療の現場で実践し、助産の実践的基礎能力を習得する。 妊娠期,分娩期,産褥期,新生児期のマタニティ診断（経過診断および健康生活診断）の技法を実践の場で統合し、助産の実践過程を展開する。また地域母子保健における助産師の役割を理解するとともに、助産管理の実際を体験する。
到達目標	助産活動に必要なマタニティ診断・実践過程を修得し、指導のもとに助産および母子の援助を実践できる。
テキスト 指定図書 参考書	実習中に適宜紹介する。
成績評価	助産・看護の実践状況25%、実習態度25%、実習記録内容25%、実習目標への到達度25%

科目名	助産診断学Ⅰ
担当教員	岩谷　澄香　・　大脇　万起子　・　炭原　加代
授業概要	助産診断学および助産技術学の概念・範囲などの基本的な考え方を理解し、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関わる健康問題について相談・教育・技術援助について各原理と技法の基礎を学ぶ
到達目標	助産診断学の基本的な考え方を理解し、助産診断・援助技術を対象に適用する方法を説明できる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト: 堀内成子編集「助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ」医学書院.2009 我部山キヨ子,武谷雄二編集「助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学」医学書院2009. 村瀬聡美,我部山キヨ子編集「助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学」医学書院2008. 指定図書: 松本千明著「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎」医師薬出版株式会社.2002. 武藤孝司福渡靖著「健康教育・ヘルスプロモーションの評価」篠原出版新社.1998. 木場冨喜他著「看護実践の教育・指導技術」日総研.1999. 参考書:講義中に適宜紹介する
成績評価	定期試験80%、課題(事前学習)20%

科目名	助産診断学Ⅱ
担当教員	古川　洋子　・　金森　京子　・　桑名　亜希子
授業概要	助産診断学および助産技術学の概念・範囲などの基本的な考え方を理解する。助産診断をもとに妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の助産診断に必要な原理と方法について学ぶ。妊娠に伴う女性の心身の変化および胎児の成長・発達、分娩の開始と進行状態および産褥期の心身の変化や新生児の適応過程と発達等について診断する方法を学び、正常性の判断と正常逸脱の危険性を的確に捉えられる診断能力を身につける。
到達目標	助産診断・技術学の概念・範囲などの基本的な考え方が理解できる。助産診断をもとに妊娠に伴う心身の変化および胎児の成長・発達、分娩の開始と進行状態および産褥期の心身の変化や新生児の適応過程と発達等について学び、正常性の判断と正常逸脱の危険性を的確に捉えることができる。
テキスト 指定図書 参考書	「助産診断学講座6・7・8　助産診断・技術学Ⅱ」医学書院. 2007、日本助産診断・実践研究会編「実践マタニティ診断」医学書院.2007、仁志田博司著「新生児学入門　第3版」医学書院. 2006
成績評価	講義中の演習課題レポートへの取り組み評価 10%、レスポンスペーパー5%、講義中の小テスト15%、期末筆記試験 70%とする

科目名	助産診断学演習
担当教員	古川　洋子　・　西川　みゆき　・　桑名　亜希子
授業概要	助産概論、助産管理論、助産診断学Ⅰ、助産診断学Ⅱで学んだ概念・理念を基盤とし、模擬事例による助産過程の展開演習をとおして、周産期における助産診断の実践活動に必要な知識や技術を修得し、助産の実践につなげることを目的とする。
到達目標	(1)妊娠期の健康診査・保健指導および産後1月健診の実際を理解し、技術の習得ができる (2)分娩第1期から分娩終了までの分娩各期の助産ケアを理解し、技術の習得ができる (3)出生直後の新生児の助産ケアを理解し、技術の習得ができる (4)褥婦・新生児の健康診査や助産ケア技術が習得できる (5)周産期のマタニティ診断を理解し、展開することができる
テキスト 指定図書 参考書	テキスト:「助産診断学講座6・7・8　助産診断・技術学Ⅱ」医学書院. 2007、日本助産診断・実践研究会編「実践マタニティ診断」医学書院.2007 指定図書:荒木勤著 「最新産科学」(正常編)文光堂 、仁志田博司著「新生児学入門」医学書院. 2006
成績評価	講義のレスポンスペーパー10%、課題レポートへの取り組み評価 10%、小技術試験20%、期末技術試験60%とする

科目名	インターンシップA
担当教員	就職指導担当教員
授業概要	この授業は以下の3セクションから構成される。 1）事前学習(学内)：ビジネスマナー研修等および事前レポートの提出。 2）就業体験（学外）：1週間から4週間程度(受け入れ先、学生双方の事情によって決定される)。 インターンシップAは同一の企業・団体等で5日以上の就業体験を要する。 3）事後学習(学内)：実習レポートの提出および報告会
到達目標	実際の就業体験を通して、自分にとって「働く」とはどういうことなのか、そのためには大学で何を身につけておくべきかを各自が真剣に考えられるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：ビジネスマナー研修テキストを配付
成績評価	就業体験に原則として全て参加していることを前提に、 事前レポート20％、就業体験（実習日誌を含む）50％、実習レポート30％

科目名	インターンシップB
担当教員	就職指導担当教員
授業概要	この授業は以下の3セクションから構成される。 1）事前学習(学内)：ビジネスマナー研修等および事前レポートの提出。 2）就業体験（学外）：1週間から4週間程度(受け入れ先、学生双方の事情によって決定される)。 インターンシップBは同一の企業・団体等で10日以上、または複数の企業・団体等で5日以上、 合計10日以上の就業体験を要する。 3）事後学習(学内)：実習レポートの提出および報告会
到達目標	実際の就業体験を通して、自分にとって「働く」とはどういうことなのか、そのためには大学で何を身につけておくべきかを各自が真剣に考えられるようになること。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：ビジネスマナー研修テキストを配付
成績評価	就業体験に原則として全て参加していることを前提に、 事前レポート20％、就業体験（実習日誌を含む）50％、実習レポート30％

科目名	キャリアデザイン論
担当教員	那須　光章
授業概要	学生一人一人が自身の人間形成と将来設計、キャリア・職業観の育成や職業・進路の選択及び決定ができる能力を培う。また、自己のキャリアについて広い観点から考えることの重要性に気づき、勉学・課外活動も含めた学生生活のあり方について考える動機づけとする。
到達目標	キャリアデザインの必要性に気づき、将来設計の中で自己のキャリアデザインを描き、目標実現に向けた行動計画を作成ずる。
テキスト 指定図書 参考書	テキスト：有田五郎他著『実学キャリア入門－社会人力を体感する－』学文社
成績評価	講義毎の小レポート30％、中間レポート30％、期末レポート40％

	担当教員	科目名	対象	頁
	Alan Neil※	英語Ⅱ（環境⑤）	環	23
	Alan Neil※	英語Ⅱ（人文⑤）	人	26
	Gordon Maclaren※	英語Ⅱ（工学③）	工	24
	Gordon Maclaren※	英語Ⅱ（看護②）	看	27
	Karl Braun※	英語Ⅱ（環境①）	環	21
	Karl Braun※	英語Ⅱ（環境④）	環	22
	Karl Braun※	英語Ⅱ（工学⑤）	工	25
	Karl Braun※	英語Ⅱ（人文④）	人	26
	Karl Hedberg	英語Ⅱ（環境③）	環	22
	Karl Hedberg	英語Ⅱ（環境⑥）	環	23
	Karl Hedberg	英語Ⅱ（工学④）	工	24
	Karl Hedberg	英語Ⅱ（人文①）	人	25
	Karl Hedberg	英語Ⅱ（人文③）	人	26
	Karl Hedberg	英語Ⅱ（人文⑥）	人	27
	Karl Hedberg	英語ＶＡ（月2限）	全	42
	Karl Hedberg	英語ＶＡ（月3限）	全	42
	Karl Hedberg	英語ＶＢ（月2限）	全	44
	Karl Hedberg	英語ＶＢ（月3限）	全	45
	Karl Hedberg	英語ⅥＡ（月4限）	全	45
	Karl Hedberg	英語ⅥＢ（月4限）	全	46
	Walter Klinger	英語Ⅱ（環境②）	環	22
	Walter Klinger	英語Ⅱ（工学①）	工	23
	Walter Klinger、Karl Braun※	英語Ⅱ（人文②）	人	25
	Walter Klinger	英語Ⅱ（看護①）	看	27
	Walter Klinger	英語ＶＡ（火3限）	全	43
	Walter Klinger	英語ＶＢ（火3限）	全	44
あ	秋山毅、菊地憲次、山下義裕、谷本智史、鈴木厚志、竹原宗範、菅原透	分析・環境化学実験（材料科学）	材	300
	秋山毅、菊地憲次、山下義裕、谷本智史、鈴木厚志、竹原宗範、菅原透	分析・環境化学実験（機械システム、電子システム）	機電	300
	秋山道雄	地域開発論	政資	202
	秋山道雄	地域システム論	政	204
	秋山道雄	環境政策学	環	155
	浅岡一雄	環境生物学Ⅱ	態資	158
	麻谷宏※、南政宏	道具デザイン演習Ⅰ	デ	391
	東幸代	近世近江論	地	343
	東幸代	古文書演習Ⅱ	地	353
	東幸代	地域経済史論	地	379
	阿部健一※	アジア交流論	政	138
	阿部健一※	アジア交流論	地	328
	甘佐京子、山下真裕子、牧野耕次	精神保健看護論	看	442
	甘佐京子、牧野耕次、山下真裕子	精神臨床看護論	看	442
	荒井利明	現代ジャーナリズム論	地関	345
	荒井利明	現代中国論	地	346
	荒井利明	中国語文献講読	地	385
	荒井利明	中国地域文化論	地	386
	安藤韶一※	確率統計	工	254
い	伊崎孝幸※	比較文学論	地	404
	石川聡子※	教科教育法Ⅰ（理科）	教	513
	石田法雄	英語Ⅱ（再履修）	全	28
	石田法雄	英語Ⅳ（環境①）	環	35
	石田法雄	英語ＶＡ（水2限）	全	43

	担当教員	科目名	対象	頁
い	石田法雄	英語ＶＢ（水2限）	全	45
	石田法雄	初習英語Ⅱ	留	47
	石田法雄	東洋思想時空論	全	96
	泉泰弘、野間直彦、上町達也、伴修平、杉浦省三、入江俊一、籠谷泰行、清水顕史、原田英美子、西田隆義	環境生物学実験	資	158
	泉泰弘	持続的農業論	全	93
	泉泰弘	植物資源管理学	資	181
	泉泰弘、上町達也、原田英美子	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	資	191
	板橋凱希※	中国語Ⅱ（火2限）	全	59
	板橋凱希※	中国語Ⅱ（火3限）	全	60
	板橋凱希※	中国語Ⅱ（火4限）	全	61
	伊丹清、高田豊文	建築数学・物理	建	170
	伊丹君和	看護過程論	看	434
	伊丹君和	生活行動看護論	看	440
	伊丹君和、米田照美	生活行動看護論演習Ⅰ	看	440
	伊丹君和、清水房枝、米田照美	生活行動看護論実習Ⅱ	看	442
	伊丹清、高橋卓也、柴田いづみ、増田佳昭、井手慎司	環境科学概論Ⅱ	環	147
	伊丹清	環境設備	建	159
	伊丹清	建築環境工学	建	169
	伊丹清	建築環境工学演習	建	169
	市川源一郎※	基礎数学Ⅰ	環	166
	市川源一郎※	基礎数学Ⅱ	環	166
	市川秀之	地域と空間	地	382
	市川秀之	博物館学概論	学	522
	市川秀之、野間直彦、東幸代、亀井若菜、西田隆義、浦部美佐子、浜端悦治、倉茂好匡	博物館実習	学	523
	市川秀之	民俗学	地	412
	市川秀之	民俗学実習	地	413
	市場史哉※	英語Ⅰ（看護②）	看	21
	市場史哉※	英語Ⅲ（工学①）	工	30
	市場史哉※	英語Ⅲ（看護③）	看	34
	井手慎司	応用数学	政	140
	井手慎司	環境シミュレーション	政資	152
	井手慎司およびゲスト講師	びわこ環境行政論	全	102
	井手慎司	水環境政策論	態政資	216
	出原健一※	英語Ⅲ（看護②）	看	34
	出原健一※	英語Ⅳ（工学④）	工	38
	伊藤加奈子※	英語Ⅲ（環境④）	環	29
	伊藤加奈子※	英語Ⅳ（工学①）	工	37
	伊藤加奈子※	英語Ⅳ（人文①）	人	39
	伊藤裕久※	地域文化財論Ａ	地	383
	伊藤路子※	学校看護論	教	506
	糸島陽子、奥津文子	ターミナルケア論演習	看	445
	稲葉博美	応用電子機器	電	252
	稲葉博美	制御工学	電	276
	稲葉博美	電子回路Ⅰ	電	284
	稲葉博美	電子回路Ⅱ	電	284
	稲葉博美、柳澤淳一、畑中裕司	電子システム工学演習Ⅱ	電	286
	稲葉博美	電子システム工学概論	工	286
	乾義尚	基礎電磁気学（電子システム）	電	263
	乾義尚	電気エネルギーシステム工学	電	281
	乾義尚	電気回路Ⅱ	電	282

	担当教員	科目名	対象	頁
い	乾義尚	電気機器	電	283
	乾義尚	パワーエレクトロニクス	電	292
	井上吉教、近藤淳哉、鈴木厚志	材料計算化学および同演習	材	270
	井上吉教	有機化学Ⅳ	材	304
	伊原亮司※	政治経済学	政	189
	伊原亮司※	政治経済学	関	374
	伊原亮司※	組織とネットワークの社会学	政	199
	伊原亮司※	組織とネットワークの社会学	地関	376
	飯降聖子	看護政策論	看	435
	飯降聖子、未定	行政看護論	看	436
	飯降聖子	健康教育論	看	437
	飯降聖子、植村小夜子	地域看護管理論	看	446
	飯降聖子、未定	地域看護論Ⅰ	看	446
	飯降聖子、西内恭子※、植村小夜子	地域看護論Ⅱ	看	447
	飯降聖子、未定、植村小夜子、松井陽子、馬場文	地域看護論実習	看	447
	今井長兵衛※	環境動物学	資	161
	今宿信子※	教科教育法Ⅰ（家庭）	教	510
	今宿信子※	教科教育法Ⅲ（家庭）	教	516
	入江俊一	応用微生物学	資	141
	入江俊一	分子生物学	態資	214
	岩下智※	建築生産施工	建	170
	岩間憲治、小谷廣通、皆川明子	生物資源管理学実験・実習Ⅸ	資	194
	岩谷澄香	基礎助産学	助	524
	岩谷澄香、大脇万起子、古川洋子、金森京子、炭原加代、桑名亜希子	助産実習	助	524
	岩谷澄香、大脇万起子、炭原加代	助産診断学Ⅰ	助	525
	岩間憲治	地域情報処理学	資	205
	岩間憲治	土壌環境物理学	資	209
	印南比呂志、南政宏、山根周、佐々木一泰	デジタルデザイン演習	デ	388
	印南比呂志	道具計画論	デ	390
	印南比呂志、麻谷宏※、南政宏	道具デザイン演習Ⅱ	デ	391
	印南比呂志、南政宏	道具デザイン論	デ	392
	印南比呂志、南政宏	プレゼンテーション技法	デ	409
う	上田邦夫、永淵修、須戸幹、丸尾雅啓、肥田嘉文	環境化学実験	態資	148
	上田邦夫	植物栄養学	資	180
	上田邦夫	生物資源化学	資	190
	上田邦夫、岡野寛治、須戸幹	生物資源管理学実験・実習Ⅶ	資	193
	上野有理	認知心理学	関	399
	上野有理	発達心理学Ⅰ	関	401
	上町達也	栽培植物各論A	資	174
	上町達也	植物生産学	政資	181
	植村小夜子、飯降聖子	看護コーディネーション	看	435
	植村小夜子	在宅看護論Ⅰ	看	438
	植村小夜子	在宅看護論Ⅱ	看	438
	植村小夜子、未定、飯降聖子、松井陽子、馬場文	在宅看護論実習	看	438
	上村盛人	英語Ⅲ（環境③）	環	29
	上村盛人	英語Ⅲ（人文④）	人	33
	上村盛人	英語Ⅳ（看護①）	看	41
	上村盛人	詩歌と人間	全	92
	上村盛人	初習英語Ⅰ	留	47
	上山久雄※	体のしくみと機能Ⅲ	看	434

	担当教員	科目名	対象	頁
う	鵜飼修、未定	地域行動論	副	457
	鵜飼修、仁連孝昭、轟慎一　他	地域再生システム論	政建	203
	鵜飼修、仁連孝昭、轟慎一　他	地域再生システム論	デ	381
	鵜飼修、未定	地域実践学実習Ⅰ	副	457
	鵜飼修、未定	地域実践学実習Ⅱ	副	457
	鵜飼修、未定	地域診断法	副	458
	鵜飼修	地域探求学	全	95
	宇佐美英機※	近江商人論	地	333
	宇多直久※	フランス語Ⅰ（水2限）	全	52
	宇多直久※	フランス語Ⅰ（水3限）	全	53
	宇多直久※	フランス語Ⅰ（水4限）	全	53
	内田孝※	モンゴル語Ⅱ（中級コース）	地	413
	打田信彦※	社会福祉論	全	94
	浦部貴美子、吉田龍平	給食衛生管理実習	栄	339
	浦部貴美子、吉田龍平	給食経営管理臨地実習	栄	340
	浦部貴美子、小澤恵子※	給食経営管理論	栄	340
	浦部貴美子、吉田龍平、金納三利※、三浦健史※、佐野文彦※、田中理愛※	嗜好と調理実習Ⅱ	栄	355
	浦部貴美子	食品衛生学	栄	365
	浦部貴美子、森紀之	食品衛生学実験	栄	366
	浦部貴美子、灘本知憲、竹原宗範、福渡努	食品微生物学	栄	368
	浦部美佐子	環境生物学Ⅰ	態政資	157
	浦部美佐子	集水域生態系保全修復論	態資	179
お	太田浩史※	環境技術	建資	150
	大橋松行、中村好孝、丸山真央	社会学演習	関	358
	大橋松行	社会調査方法論	地デ関	360
	大橋松行	社会調査論	地デ関	360
	大橋松行、道明美保子、宮本雅子、廣瀬潤子	生活環境論	デ栄関	370
	大橋松行	地域運動論	関	378
	大森智子※	ドイツ語Ⅱ（火2限）	全	50
	大森智子※	ドイツ語Ⅱ（火3限）	全	50
	大森智子※	ドイツ語Ⅱ（火4限）	全	51
	大脇万起子、金森京子	育成看護論Ⅱ	看	431
	大脇万起子	家族看護論	看	433
	岡崎章子※	嗜好と調理実習Ⅰ	栄	355
	岡野寛治	家畜生産生理学	資	144
	岡野寛治、杉浦省三	生物資源管理学実験・実習Ⅲ	資	192
	岡野寛治	生物資源循環論	資	195
	岡野寛治、杉浦省三	動物資源管理学	資	208
	岡本秀己、福渡努	栄養疫学論	栄	330
	岡本秀己、中村ひとみ※	公衆栄養学実習	栄	350
	岡本秀己	地域保健臨地実習	栄	384
	岡本秀己、吉田龍平、福井富穂、浦部貴美子、谷口美津子※	臨地実習事前事後指導	栄	418
	岡本裕介※	量的データ解析論Ⅱ	地関	415
	小川圭二	機械要素	機	258
	奥健夫	固体物性基礎	材	267
	奥健夫、廣川能嗣	材料科学概論	工	269
	奥健夫	エネルギー・界面科学	材	251
	奥健夫	基礎化学（電子システム）	電	261
	奥健夫	基礎熱力学	材	263
	奥津文子、糸島陽子	ターミナルケア論	看	445

	担当教員	科目名	対象	頁
お	奥津文子、糸島陽子	ターミナルケア論実習	看	446
	奥津文子	発達看護論Ⅱ	看	450
	奥野信一※	教科教育法Ⅰ（工業）	教	511
	奥村進	アルゴリズムとデータ構造	電	251
	奥村進	コンピュータアーキテクチャ	電	268
	奥村進	コンピュータハードウェア	電	268
	奥村進	情報処理基礎	機	273
	奥村進、岸根桂路	電子システム工学セミナー	電	288
	奥村進	マルチメディア	電	301
	小栗裕子	英語Ⅰ（環境①）	環	15
	小栗裕子	英語Ⅰ（工学①）	工	17
	小栗裕子	英語Ⅲ（再履修）	全	35
	小栗裕子	英語ＶＡ（金2限）	全	43
	小栗裕子	英語ＶＢ（金2限）	全	44
	尾坂兼一	集水域環境学	態	178
	尾坂兼一	集水域物質循環論	態政資	180
	小谷廣通	環境気象学	資	150
	小谷廣通、岩間憲治	生物資源管理学実験・実習Ｘ	態資	194
	小谷廣通	測量学	態資	199
	小谷廣通、皆川明子	水資源利用学	資	216
	小野奈々	環境社会学	政	153
	小野奈々	現代社会論	政	168
	小野奈々	市民参加論	政	176
	小野奈々	社会学	政資	176
	小野奈々、高橋卓也、林宰司	社会調査実習	政	177
	呉賢欄※	朝鮮語Ⅰ（水2限）	全	61
	呉賢欄※	朝鮮語Ⅰ（水3限）	全	61
	面矢慎介	近代デザイン史	デ	343
	面矢慎介	考現学概論	デ	348
	面矢慎介、印南比呂志	道具デザイン演習Ⅲ	デ	391
	面矢慎介、印南比呂志	道具デザイン演習Ⅳ	デ	392
	面矢慎介	道具デザイン史	デ	392
	面矢慎介	比較道具論	デ	403
か	香川雄一	GIS演習	政	137
	香川雄一	地域環境政策論	態政	203
	香川雄一	地域調査法	政資	205
	香川雄一	地域調査法演習	政	206
	鍵本聡※	情報科学概論（機械）	機	71
	鍵本聡※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（機械）	機	66
	鍵本聡※	プログラミング基礎（環境b）	環	74
	鍵本聡※	プログラミング基礎（人文a）	人	76
	柿本敏克※	社会心理学	関	359
	柿本敏克※	社会心理学	政	177
	学部教員	環境フィールドワークⅠ	環	162
	学部教員	環境フィールドワークⅡ	環	162
	学部教員	環境フィールドワークⅢ	環	162
	籠谷泰行	環境統計解析学	態資	161
	籠谷泰行	陸域物質循環論	態	219
	加地芳子※	教科教育法Ⅱ（家庭）	教	513
	加地芳子※	教科教育法Ⅳ（家庭）	教	516

	担当教員	科目名	対象	頁
か	片岡慎策※	構造計画（生活デザイン）	デ	351
	片岡慎策※	構造力学Ⅰ（生活デザイン）	デ	351
	学科教員	科学技術英語（材料科学）	材	252
	学科教員	科学技術英語（機械システム）	機	253
	学科教員	環境・建築デザイン演習	建	144
	学科教員	環境・建築デザイン概論	建	144
	学科教員	環境学野外実習Ⅰ	態	148
	学科教員	環境学野外実習Ⅱ	態	149
	学科教員	環境学野外実習Ⅲ	態	149
	学科教員	環境生態学演習Ⅰ	態	155
	学科教員	環境生態学演習Ⅱ	態	156
	学科教員	環境生態学外書講読	態	156
	学科教員	環境生態学外書表現	態	157
	学科教員	環境生態学基礎演習	態	156
	学科教員	環境生態学特別実習	態	157
	学科教員	環琵琶湖文化論実習（地域文化）	地	335
	学科教員	環琵琶湖文化論実習（生活デザイン）	デ	336
	学科教員	環琵琶湖文化論実習（生活栄養）	栄	336
	学科教員	環琵琶湖文化論実習（人間関係）	関	336
	学科教員	管理栄養士総合演習	栄	337
	学科教員	材料科学実験	材	269
	学科教員	自然環境特別実習Ⅱ	態	175
	学科教員	食生活論演習	栄	365
	学科教員	生活デザイン学外演習	デ	372
	学科教員	生活デザイン論演習Ⅰ	デ	372
	学科教員	生活デザイン論演習Ⅱ	デ	373
	学科教員	政策計画演習Ⅰ	政	187
	学科教員	政策計画演習Ⅱ	政	187
	学科教員	政策計画演習Ⅲ	政	188
	学科教員	政策計画演習Ⅳ	政	188
	学科教員	政策形成・施設演習	政	188
	学科教員	生物資源管理学演習Ⅰ	資	190
	学科教員	生物資源管理学演習Ⅱ	資	190
	学科教員	先端材料科学	材	279
	学科教員	専門外書講義Ⅰ	態	197
	学科教員	専門外書講義Ⅱ	態	198
	学科教員	専門外書講読Ⅰ	資	198
	学科教員	専門外書講読Ⅱ	資	198
	学科教員	卒業研究（環境政策・計画）	政	199
	学科教員	卒業研究（人間看護）	看	445
	学科教員	卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン）	建	200
	学科教員	卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン）	建	200
	学科教員	卒業研究・論文（地域文化）	地	376
	学科教員	卒業研究（材料科学）	材	280
	学科教員	卒業研究Ⅰ（環境生態）	態	200
	学科教員	卒業研究Ⅰ（生物資源）	資	201
	学科教員	卒業研究（機械システム）	機	280
	学科教員	卒業研究・製作／論文（生活デザイン）	デ	376
	学科教員	卒業研究Ⅱ（環境生態）	態	201
	学科教員	卒業研究Ⅱ（生物資源）	資	201

	担当教員	科目名	対象	頁
か	学科教員	卒業研究・論文（生活栄養）	栄	377
	学科教員	卒業研究（電子システム）	電	280
	学科教員	卒業研究・論文（人間関係）	関	377
	学科教員	地域産学連携実習	建	204
	学科教員	地域文化演習Ⅰ	地	382
	学科教員	地域文化演習Ⅱ	地	383
	学科教員	地域文化演習Ⅲ	地	383
	学科教員	電子システム工学実験Ⅰ	電	287
	学科教員	電子システム工学実験Ⅱ	電	287
	学科教員	電子システム工学実験Ⅲ	電	287
	学科教員	電子システム工学実験Ⅳ	電	288
	学科教員	人間関係論演習Ⅰ	関	396
	学科教員	人間関係論演習Ⅱ	関	396
	学科教員	人間関係論基礎演習	関	397
	学科教員	人間看護学統合実習	看	448
	学科教員	人間探求学（環境生態）	全	96
	学科教員	人間探求学（環境政策・計画）	全	96
	学科教員	人間探求学（環境建築デザイン）	全	97
	学科教員	人間探求学（生物資源管理）	全	97
	学科教員	人間探求学（材料科学）	全	97
	学科教員	人間探求学（機械システム）	全	98
	学科教員	人間探求学（電子システム）	全	98
	学科教員	人間探求学（地域文化）	全	98
	学科教員	人間探求学（生活デザイン）	全	99
	学科教員	人間探求学（生活栄養）	全	99
	学科教員	人間探求学（人間関係）	全	99
	学科教員	人間探求学（人間看護）	全	100
	桂川久※	フランス語Ⅱ（火2限）	全	54
	桂川久※	フランス語Ⅱ（火3限）	全	54
	桂川久※	フランス語Ⅱ（火4限）	全	55
	金森京子、大脇万起子、桑名亜希子	育成看護論演習	看	431
	金谷健	基礎統計	政	166
	金谷健	合意形成支援技法	政	171
	金谷健	合意形成支援技法演習	政	171
	金谷健	廃棄物管理論	政	212
	金木亮一	水質管理学	資	186
	金木亮一	水理学	政資	186
	金木亮一、須戸幹	生物資源管理学実験・実習Ⅷ	資	193
	金木亮一	地域環境整備学	資	203
	亀井若菜	芸術学	地	344
	亀井若菜、未定	博物館学各論B	地	400
	亀井若菜、未定	博物館学各論B	学	523
	亀井若菜	美術史	地	405
	亀井若菜	美術史概論	地	405
	亀田彰喜	健康情報管理実習	栄	344
	亀田彰喜	情報科学概論（環境b）	環	69
	亀田彰喜	情報科学概論（環境d）	環	70
	亀田彰喜	情報と職業	教	518
	亀田彰喜	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境b）	環	65
	亀田彰喜	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境d）	環	66

	担当教員	科目名	対象	頁
か	亀田彰喜	プログラミング基礎（機械）	機	75
	亀田彰喜	プログラミング基礎（人文d）	人	77
	亀田彰喜	プログラミング基礎（看護）	看	77
	河相俊之※	経済学Ⅰ	政資	168
	河かおる	対外文化交流論C	地	378
	河かおる	朝鮮語文献講読	地	387
	河かおる	朝鮮地域文化論B	地	388
	河かおる	朝鮮文化論	地	388
	河﨑澄	エネルギー変換工学	機	252
	河﨑澄	エネルギー変換工学	政	140
	河﨑澄、小川圭二	機械製作実習	機	257
	河﨑澄	基礎力学（電子システム）	電	264
	河﨑澄	統計熱力学	機	290
	川端浩一※	健康・体力科学Ⅰ（バスケット）	全	80
	川端浩一※	健康・体力科学Ⅰ（バドミントン）	全	80
	川端浩一※	健康・体力科学Ⅱ（卓球）	全	83
き	菊地憲次、熊谷勉	材料史	全	91
	菊地憲次	電気化学	材	282
	菊地憲次	分析化学	工	301
	岸根桂路	基礎電気電子回路	工	262
	岸根桂路	集積回路設計基礎	電	273
	岸根桂路	情報通信工学	電	274
	北村隆子	臨床看護論Ⅲ	看	451
	北村知之※	西洋史概説	地	375
	鬼頭泰子、古株ひろみ、川端智子	小児臨床看護論演習	看	439
	木村裕	教育課程論	教	508
	木村裕	教職論	教	518
	京樂真帆子	近江文化論	全	89
	京樂真帆子、武田俊輔、伊丹清、河かおる、東幸代、亀井若菜	性を考える	全	94
	京樂真帆子	日本・地域交流特論	地	393
	京樂真帆子	日本文化史論Ⅰ	地	395
	京樂真帆子	日本文化史論Ⅱ	地	395
	京樂真帆子	日本文化論	地	396
く	久保田泰孝※	社会精神医学	関	359
	熊谷勉	基礎化学（材料科学）	材	260
	熊谷勉	有機化学Ⅰ	材	303
	熊谷勉	有機化学Ⅱ	材	303
	熊谷勉	有機化学Ⅲ	材	303
	熊谷勉	有機量子化学	材	305
	倉茂好匡	河川環境学	態資	143
	倉茂好匡	環境物理学Ⅰ	態政資	163
	倉茂好匡、岩間憲治、堂満華子、三浦信宏※	環境物理学実験（コンピュータ活用を含む）	態資	163
	鞍田崇※	哲学概論A	政	206
	鞍田崇※	哲学概論A	地関	389
	栗田裕、大浦靖典	機械設計演習Ⅲ	機	258
	栗田裕	機械力学Ⅰ	機	259
	栗田裕、大浦靖典	機械力学Ⅱ	機	259
	栗田裕	工業力学	機	266
	黒川直樹※	建築一般構造	建	169
	黒田末壽、石田法雄、冨島義幸、クリンガー、面矢慎介	Japanese Culture and Civilization	人	327

	担当教員	科目名	対象	頁
く	黒田末壽、上田洋平※	地域研究論	地	380
	黒田末壽	人間と自然界	全	100
	黒田末壽	人間文化論A	人	398
	黒田末壽	比較文化論（地域文化）	地	404
こ	神月紀輔※	教科教育法Ⅰ（情報）	教	512
	神月紀輔※	教科教育法Ⅱ（情報）	教	514
	古株ひろみ、鬼頭泰子、川端智子	小児臨床看護論実習	看	440
	古株ひろみ、鬼頭泰子、川端智子	発達看護論Ⅰ	看	449
	古株ひろみ、鬼頭泰子、川端智子	臨床看護論Ⅰ	看	451
	国際交流委員会	異文化理解A	全	88
	国際交流委員会	異文化理解B	全	88
	後藤直成	湖沼環境学	態資	173
	後藤直成	水域生態系保全修復論	態政	185
	小林香保里※	英語Ⅲ（工学⑤）	工	31
	小林香保里※	英語Ⅲ（人文⑥）	人	33
	小林忠伸※	教科教育法Ⅱ（社会）	教	514
	呉凌非	中国語Ⅰ（水1限）	全	56
	呉凌非	中国語Ⅰ（水3限）	全	57
	呉凌非	中国語Ⅱ（火1限）	全	58
	呉凌非	中国語Ⅱ（火2限）	全	60
	呉凌非	中国語Ⅱ（火4限）	全	60
	近藤淳哉	材料量子論	材	272
	近藤千尋	計測工学	機	265
	近藤隆二郎	イベント計画演習	政	139
	近藤隆二郎	イベント計画論	政	139
	近藤隆二郎	地元学入門	全	93
	近藤隆二郎	人間にとって環境とは何か	全	101
	近藤隆二郎	社会システム分析設計	政	176
	近藤隆二郎	社会システム分析設計演習	政	177
さ	齋藤桂※	教科教育法Ⅰ（社会）	教	511
	齋藤桂※	教科教育法Ⅰ（地理歴史）	教	512
	坂本明彦※、辻井薫※、藤本宏之※、学科教員	材料開発工学	材	269
	坂本眞一	電気回路Ⅰ	電	282
	坂本眞一	電力工学Ⅰ	電	290
	坂本眞一	電力工学Ⅱ	電	290
	坂本眞一	プラズマ工学	電	299
	作田健	基礎電磁気学（材料科学）	材	262
	作田健	電気電子計測Ⅱ	電	284
	作田健	電磁気学Ⅰ	電	285
	作田健、奥村進、坂本眞一	電子システム工学演習Ⅰ	電	285
	作田健	電磁波工学	電	289
	作田健	ロボット工学	電	306
	迫田正美	環境造形論	建	159
	迫田正美	西洋建築・思潮史	建	196
	迫田正美、村上修一、柴田いづみ、冨島義幸、轟慎一	設計基礎演習	建	197
	佐々木和之※	まちづくり実践論	政	215
	佐々木一泰	一般構造	デ	329
	佐々木一泰	空間デザイン論	デ	343
	佐々木一泰、宮本雅子、山根周	住環境設計演習Ⅱ	デ	362
	佐々木一泰、山根周、松本尚子※、山本麻子※	住環境設計演習Ⅲ	デ	362

	担当教員	科目名	対象	頁
さ	佐々木一泰	生活デザイン論	デ	372
	定森秀夫	アジア・地域交流論C	地	328
	定森秀夫	考古学特論	地	348
	定森秀夫、中井均、塚本礼仁、石川慎治、濱崎一志	考古地理実習Ⅰ	地	349
	定森秀夫、中井均	考古地理実習ⅡA	地	349
	定森秀夫	対外文化交流論B	地	378
	定森秀夫	比較文明論	人	404
	定森秀夫	比較文明論	全	102
	真田満※	英語Ⅲ（人文②）	人	32
	真田満※	英語Ⅳ（環境⑤）	環	36
	真田満※	英語Ⅳ（工学③）	工	38
	佐野光枝、吉田龍平、高山博史、柴田克己、廣瀬潤子	若者の健康と栄養	全	103
	沢田裕一	害虫管理学	資	142
	沢田裕一、岡野寛治	生物資源管理学実験・実習Ⅵ	資	193
	沢田裕一	動物生態学	態資	208
し	地蔵堂貞二、吉村淳一、長島律子、呉凌非	人間とことば	全	100
	地蔵堂貞二	中国語Ⅰ（水1限）	全	56
	地蔵堂貞二	中国語Ⅰ（水2限）	全	57
	地蔵堂貞二	中国語Ⅰ（水3限）	全	58
	地蔵堂貞二	中国語Ⅱ（火1限）	全	59
	地蔵堂貞二	中国語Ⅱ（火2限）	全	59
	篠原岳司	教育学概論	関	341
	篠原岳司	教育学概論	教学	507
	篠原岳司	教育制度論	関	342
	篠原岳司	教育制度論	教	509
	篠原岳司	生涯学習論	学教	522
	篠原岳司	生涯学習論	関	363
	柴田いづみ	コミュニティ計画論	政建	173
	柴田いづみ、松岡拓公雄、水原渉、冨島義幸、迫田正美、高柳英明、ホアン・ラモン	設計演習Ⅰ	建	196
	柴田克己	栄養生化学	栄	332
	柴田克己	食品学総論	栄	366
	柴田克己	食品機能科学	栄	367
	柴田克己、佐野光枝	食品機能科学実験	栄	367
	柴田克己	生命科学と人間	栄	375
	柴田克己	栄養と健康	看	432
	柴田裕希	環境アセスメント演習	政	145
	柴田裕希	環境計画学	政建	151
	柴田裕希	ファシリテーション技法	政	213
	柴田裕希	ファシリテーション技法演習	政	213
	嶋田容子※	視聴覚教育	学	522
	島村一平	現代モンゴル語文献講読	地	347
	島村一平	文化人類学概論A	人	410
	島村一平、未定	モンゴル語Ⅰ	地	413
	島村一平	モンゴル地域文化論	地	414
	島村一平	遊牧社会論	地	414
	清水顕史	生物統計学	態資	195
	清水房枝、米田照美	看護管理論	看	434
	清水房枝、米田照美、飯降聖子	看護管理論（4回生用）	看	435
	清水房枝、伊丹君和、米田照美	生活行動看護論実習Ⅰ	看	441
	清水房枝、糸島陽子	生命・人間・倫理	全	94

	担当教員	科目名	対象	頁
し	清水房枝	人間看護論Ⅰ	看	448
	清水房枝	人間看護論Ⅱ	看	449
	就職指導担当教員	インターンシップA	就	526
	就職指導担当教員	インターンシップB	就	526
す	陶久明日香※	哲学概論B	政	207
	陶久明日香※	哲学概論B	地関	389
	杉浦省三	魚類生理学	資	167
	杉浦省三	水産資源学	資	185
	杉浦省三、入江俊一、清水顕史	生物資源管理学実験・実習Ⅴ	資	192
	杉村延広※、岩村幸治※	生産工学Ⅱ	機	277
	鈴木一実	作物保護学	資	174
	鈴木一実	植物病害防除論	資	182
	鈴木一実、上田邦夫、入江俊一	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	資	192
	鈴木康夫※	現代経済論	全	90
	須戸幹	土壌環境化学	態資	209
	須戸幹	農薬環境学	態資	211
	須戸幹	水資源保全学	資	216
	炭原加代、岩谷澄香	育成看護論Ⅰ	看	431
	炭原加代、岩谷澄香、大脇万起子、古川洋子、金森京子、桑名亜希子	育成看護論実習	看	432
	炭原加代	助産管理論	助	524
せ	瀬本阿矢	英語Ⅰ（人文②）	人	19
	瀬本阿矢	英語Ⅰ（看護①）	看	20
	瀬本阿矢	英語Ⅲ（環境⑥）	環	30
	瀬本阿矢	英語Ⅲ（工学④）	工	31
	瀬本阿矢	英語Ⅳ（環境④）	環	36
	瀬本阿矢	英語Ⅳ（工学②）	工	37
	瀬本阿矢	英語Ⅳ（人文③）	人	39
	瀬本阿矢	英語ⅥA（木1限）	全	46
	瀬本阿矢	英語ⅥB（木1限）	全	46
	全学部教員によるオムニバス形式	環境マネジメント総論	全	89
	千家正照※	水文学	態政資	186
た	高島尚生※	ロシア語Ⅰ（初級コース）	地	418
	高島尚生※	ロシア語Ⅱ（中級コース）	地	419
	高田豊文	構造力学Ⅱ	建	172
	高橋卓也、西田一雄※	環境監査	態資政建	149
	高橋卓也	環境経営論	政資	151
	高橋卓也	環境マネジメント演習	政	165
	高松徹	機械材料学	機	255
	高松徹、安田寿彦	機械システム工学セミナー	機	256
	高松徹	機械設計製図	機	258
	高松徹	材料力学Ⅰ（機械システム）	機	271
	高松徹	材料力学Ⅱ	機	271
	田上豊※	建築法規	建	170
	田上豊※	建築法規	デ	347
	高柳英明、伊丹清、ホアン・ラモン	CAD演習Ⅰ	建	137
	高柳英明	環境設計Ⅱ	建	159
	高柳英明、村上修一、布野修司、柴田いづみ、水原渉、松岡拓公雄、迫田正美、ホアンラモン、森田一弥※、芦澤竜一※	設計演習Ⅲ	建	197
	高柳英明	内部空間論	建	210
	高山博史	栄養生理学実習	栄	333
	高山博史	疾病と栄養	栄	356

	担当教員	科目名	対象	頁
た	高山博史	疾病の成り立ち	栄	357
	高山博史	生体の構造と機能	栄	374
	高山博史	病態生理学実習	栄	405
	高山博史	病態評価と治療	栄	406
	竹内一高※	ドイツ語Ⅰ（水2限）	全	48
	竹内一高※	ドイツ語Ⅰ（水3限）	全	48
	竹内一高※	ドイツ語Ⅰ（水4限）	全	49
	竹内日出雄	半導体デバイス	電	293
	竹内日出雄	光エレクトロニクス	電	294
	竹内日出雄	物性デバイス基礎論	電	297
	竹下秀子、細馬宏通、松嶋秀明、上野有理	行動論演習	関	352
	竹下秀子、細馬宏通、松嶋秀明、上野有理	心理・発達・行動学実験演習	関	369
	竹下秀子	発達支援論	関	400
	竹下秀子	発達心理学Ⅱ	関	401
	竹下秀子、上野有理	比較認知発達論	関	403
	武田俊輔	日本社会論	地関	394
	武田俊輔	人間文化論B	人	399
	武田俊輔	文化社会学	地関	410
	武田俊輔	質的データ解析論	地関	356
	武田俊輔、大橋松行、細馬宏通、中村好孝、丸山真央	社会学概論	地関	358
	武智多与理※	食品の調理と加工	栄	368
	竹原宗範	生化学Ⅰ	材	275
	竹原宗範	生化学Ⅱ	材	276
	竹本知行※	政治学Ⅰ	関	373
	竹本知行※	政治学Ⅰ	政資	189
	竹本知行※	政治学Ⅱ（国際政治を含む）	政資	189
	竹本知行※	政治学Ⅱ（国際政治を含む）	関	374
	多胡陽介※	健康・体力科学Ⅰ（テニス）	全	79
	多胡陽介※	健康・体力科学Ⅱ（バドミントン）	全	81
	多胡陽介※	健康・体力科学Ⅱ（バレーボール）	全	82
	橘淳治※	教科教育法Ⅱ（理科）	教	515
	田積徹※	産業心理学	関	354
	田中光一※	地域活性化論	地	379
	田中他喜男	機械技術と人間	全	90
	田中他喜男	基礎力学（機械システム）	機	264
	田中他喜男	金属加工学	機	264
	田中他喜男、森脇克巳、田邉裕貴、福岡克弘、竹内日出雄、木村真之	物理学実験（材料科学）	材	298
	田中他喜男、森脇克巳、田邉裕貴、福岡克弘、竹内日出雄、木村真之	物理学実験（機械システム）	機	298
	田中他喜男、森脇克巳、田邉裕貴、福岡克弘、竹内日出雄、木村真之	物理学実験（電子システム）	電	299
	田中勉※	水利環境施設学	資	187
	田中俊明	アジア・地域交流論A	地	327
	田中俊明	漢文講読	地	337
	田中俊明	対外文化交流論A	地	377
	田中俊明	朝鮮地域文化論A	地	387
	田中俊明	東洋史概説	地	393
	棚瀬慈郎	インド・チベット地域文化論	地	329
	棚瀬慈郎、武田俊輔、市川秀之、中村好孝	社会調査実習	地関	359
	棚瀬慈郎	チベット語基礎	地	385
	棚瀬慈郎	文化人類学概論B	人	411
	田辺とも子※	応用栄養学実習	栄	334

	担当教員	科目名	対象	頁
た	田邉裕貴、和泉遊以	機械設計演習Ⅱ	機	257
	田邉裕貴	材料力学Ⅰ（材料科学）	材	271
	谷佳寿美※	初習日本語Ⅰ	留	62
	谷佳寿美※	日本語Ⅰ	留	63
	谷佳寿美※	日本語Ⅱ	留	63
	谷口美津子※、廣瀬潤子	給食管理実習	栄	340
	谷口義治	数値解析・数値計算	電	275
	谷口義治	線形代数Ⅰ（材料科学）	材	278
	谷口義治	線形代数Ⅱ（電子システム）	電	279
	谷口義治	微積分Ⅰ（機械システム）	機	294
	谷口義治	微積分Ⅱ（材料科学）	材	295
	谷口義治	微積分Ⅱ（電子システム）	電	295
	谷口義治	微積分続論	工	296
	谷口義治	微分方程式（電子システム）	電	297
	谷本智史	機器分析Ⅱ	材	260
	谷本智史	高分子合成	材	267
	谷本智史、山下義裕、鈴木厚志、竹原宗範	有機化学総合および同演習	材	304
	田門肇※、牧泰輔※	化学工学	材機	253
	多山洋文※	電気関係法規・施設管理	電	283
ち	崔眞善※	朝鮮語Ⅱ（火2限）	全	62
	崔眞善※	朝鮮語Ⅱ（火3限）	全	62
	崔眞善※	朝鮮語会話	地	386
	趙國※	情報科学概論（環境a）	環	69
	趙國※	情報科学概論（環境c）	環	70
	趙國※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境a）	環	65
	趙國※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境c）	環	65
	趙國※	プログラミング基礎（電子）	電	75
つ	塚本礼仁	考古地理実習ⅡB	地	349
	塚本礼仁	人文地理学A	地	369
	塚本礼仁	人文地理学B	地	369
	塚本礼仁	地誌学	地	384
	土田勝晴※、竹内孝治※、天ケ瀬紀久子※	薬理学	看	450
	土平俊子※	地域看護論	栄	379
	土屋正春、小沢晴司	環境法Ⅰ	政資	164
	土屋正春、小沢晴司	環境法Ⅱ	政	164
	土屋正春	環境倫理学	政建	165
て	寺嶋一彦※	ロボット工学	機	306
と	陶器浩一、高田豊文、伊藤淳志※	構造材料実験	建	172
	陶器浩一、高田豊文、伊藤淳志※	構造材料実験	デ	351
	陶器浩一、高田豊文	構造力学Ⅰ	建資	172
	陶器浩一、村上修一、布野修司、松岡拓公雄、高柳英明、高田豊文、ホアン・ラモン、芦澤竜一※	設計演習Ⅱ	建	196
	陶器浩一、松村和夫※	構造計画（環境建築デザイン）	建	171
	堂満華子	環境地学	態	160
	堂満華子	環境地球科学Ⅰ	態資	160
	堂満華子	環境変遷史	態	164
	道明美保子	生活素材論	デ	371
	道明美保子	染色学	デ	375
	道明美保子	被服学	教	521
	道明美保子	服飾環境論	デ	406
	道明美保子、中川正久※	服飾デザイン演習Ⅲ	デ	408

	担当教員	科目名	対象	頁
と	唐楽寧※	中国語Ⅰ（水1限）	全	56
	唐楽寧※	中国語Ⅰ（水2限）	全	57
	唐楽寧※	中国語Ⅰ（水3限）	全	58
	外狩章夫	英語Ⅰ（工学②）	工	17
	外狩章夫	英語Ⅰ（人文⑤）	人	20
	外狩章夫	英語Ⅳ（人文④）	人	40
	外狩章夫	英語Ⅳ（再履修）	全	42
	徳満勝久	機器分析Ⅰ	材	259
	徳満勝久	高分子物性	材	267
	徳満勝久	反応速度論	材	293
	戸塚規子※、伊冨貴初美※	国際看護論	看	437
	戸塚規子※、伊冨貴初美※	国際・災害看護論	看	437
	轟慎一	地域環境計画	建	202
	富岡昌雄	環境会計	政資	145
	富岡昌雄、高橋卓也	国際環境資源論	政資	173
	富岡昌雄	資源経済学	政資	175
	富岡昌雄	持続可能社会論	態政建資	175
	富川和代※	初習日本語Ⅱ	留	63
	富川和代※	日本語Ⅲ	留	64
	富川和代※	日本語Ⅳ	留	64
	冨島義幸	環境技術史	政建	150
	冨島義幸	日本建築史	建	210
	冨原仁美※	デッサン法	デ	389
な	中井均	基層文化論	地	337
	中井均	考古学	地	348
	中井均	文化財・保存修景論B	地	409
	中川平三郎	機械製作	機	256
	中川平三郎	生産工学	機	277
	中川平三郎	特殊加工学	機	291
	中川雅央※	情報科学概論（看護a）	看	73
	中川雅央※	情報科学概論（看護b）	看	73
	中川雅央※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護a）	看	68
	中川雅央※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護b）	看	69
	中島敦子※、橋本進一※、冨田豊※	学校保健論	教	507
	長島律子	フランス語Ⅰ（水3限）	全	52
	長島律子	フランス語Ⅰ（水2限）	全	52
	長島律子	フランス語Ⅱ（火2限）	全	53
	長島律子	フランス語Ⅱ（火1限）	全	54
	長島律子	フランス語ⅢA	全	55
	長島律子	フランス語ⅢB	全	55
	中谷真三代※	消費生活論	デ栄関	365
	中塚圭子※	地域生活論	政	205
	中塚圭子※	地域生活論	地	382
	永淵修	集水域環境機能論	態資	179
	永淵修	大気環境学	態	202
	永淵修、丸尾雅啓、尾坂兼一	環境解析学・同実験	態資	146
	永淵修、丸尾雅啓、後藤直成、肥田嘉文、尾坂兼一	環境化学・実験	態	146
	中村公人※	土壌環境情報学	政資	209
	中村健二※	地域考古学D	地	381
	中村孝之※	人間工学	デ	397

	担当教員	科目名	対象	頁
な	中村好孝	現代社会福祉論	関	346
	中村好孝	社会学史	地関	358
	中村好孝	社会福祉概論	栄	360
	中村好孝	社会問題の社会学	関	361
	中村好孝	比較社会文化論	関	402
	那須光章、吉田龍平、松嶋秀明	カウンセリング論演習（生活栄養）	栄	335
	那須光章、松嶋秀明	カウンセリング論演習（人間関係）	関	335
	那須光章	キャリアデザイン論	就	526
	那須光章、吉田一郎、松嶋秀明、中村好孝	教育観察実習	関	341
	那須光章、吉田一郎、篠原岳司、木村裕	教育実習・事前事後指導	教	508
	那須光章	教育心理学	教	509
	那須光章	教育心理学	関	342
	那須光章、安江郁夫※	教育相談	教	509
	那須光章、安江郁夫※	教育相談・進路指導	教	510
	那須光章、亀田彰喜、近藤文良※	教育方法の理論と技術	関	342
	那須光章、亀田彰喜、近藤文良※	教育方法の理論と技術	教	510
	那須光章	職業指導	教	519
	那須光章	心理学基礎	デ栄関	370
	那須光章	心理学基礎	政	182
	灘本知憲、佐野光枝	栄養生化学実験	栄	332
	灘本知憲、福渡努、廣瀬潤子、南和広	応用栄養学Ⅰ	栄	334
	灘本知憲	応用栄養学Ⅱ	栄	334
	灘本知憲	基礎栄養学Ⅰ	栄	338
	灘本知憲、福渡努	基礎栄養学Ⅱ	栄	338
	灘本知憲、中村紀子※、浦部貴美子、森紀之	食品加工実習	栄	366
	灘本知憲、佐野光枝	天然物化学基礎	政	207
	灘本知憲、佐野光枝	天然物化学基礎	デ栄関	390
に	錦澤滋雄※ 、杉本卓也※、多島良※	環境アセスメント	態資政建	145
	西澤裕一※	英語Ⅲ（環境②）	環	28
	西澤裕一※	英語Ⅲ（人文③）	人	32
	西澤裕一※	英語Ⅲ（看護①）	看	34
	西田隆義	自然保護論	全	93
	西田隆義	環境論考解析学	態	165
	西道代※、竹田陽子※	栄養教育実習・事前事後指導	教	506
	西道代※、成田幸子※、竹田陽子※	食生活教育論	教	519
	西村顕男※	教科教育法Ⅱ（工業）	教	513
の	野部博子※	子どもの環境論	関	352
	野部博子※	児童文化論	関	357
	野部博子※	伝承文化論	関	390
	野部博子※	保育学	教	521
	野間直彦	森林環境学	態資	183
	野間直彦、籠谷泰行、浜端悦治、西田隆義	森林生物学・実験	態	183
	野間直彦、布谷知夫、浦部美佐子、上町達也	博物館学各論A	学	523
	野間直彦	陸域環境影響調査指針	態資	217
	野間直彦、籠谷泰行、浜端悦治、西田隆義	陸域環境学・同実験	態	218
	法月紀江※	服飾デザイン演習Ⅰ	デ	407
は	橋本豪志※	憲法	教	518
	長谷川博	遺伝学	態資	138
	長谷川博	遺伝子と社会	全	88
	長谷川博、永淵修、浦部美佐子、岩間憲治、入江俊一、籠谷泰行	環境科学概論Ⅰ	環	147

	担当教員	科目名	対象	頁
は	長谷川博、泉泰弘	栽培植物各論B	資	174
	長谷川博	植物遺伝資源学	資	180
	長谷川博、上町達也、清水顕史	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	資	191
	長谷川由美	英語Ⅰ（環境③）	環	15
	長谷川由美	英語Ⅰ（環境⑥）	環	16
	長谷川由美	英語Ⅰ（工学④）	工	18
	長谷川由美	英語Ⅰ（工学⑤）	工	18
	長谷川由美	英語Ⅰ（人文①）	人	18
	長谷川由美	英語Ⅰ（人文⑥）	人	20
	長谷川由美	英語Ⅳ（工学⑤）	工	38
	長谷川由美	英語Ⅳ（看護③）	看	41
	畑中裕司	インターネット工学	電	251
	畑中裕司	コンピュータソフトウェア	電	268
	畑中裕司	情報理論	電	274
	畑中裕司、竹内日出雄、坂本眞一	電子システム工学演習Ⅲ	電	286
	畑中裕司	プログラミング言語	電	299
	畑野相子、、、伊丹君和、那須光章、吉田一郎篠原岳司、木村裕	教育実習・事前事後指導（養護教諭）	教	508
	畑野相子	発達看護論Ⅲ	看	450
	畑野相子、北村隆子、安田千寿	老年臨床看護論実習Ⅰ	看	452
	初谷良彦※	法学概論（国際法を含む）	関	412
	初谷良彦※	法学概論（国際法を含む）	政資	215
	服部泰宏※	情報科学概論（人文a）	人	71
	服部泰宏※	情報科学概論（人文d）	人	72
	服部泰宏※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文a）	人	67
	服部泰宏※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文d）	人	68
	濱崎一志	地域文化財論B	地	384
	濱崎一志、井口貢※	文化財・保存修景論A	地	409
	濱崎一志、井口貢※	文化財・保存修景論A	政建	214
	濱崎一志、石川慎治	文化財情報論	地	410
	浜端悦治	滋賀の自然史	全	92
	浜端悦治、浦部美佐子、倉茂好匡、肥田嘉文、堂満華子、尾坂兼一	集水域環境学・同実験	態	179
	浜端悦治	森林資源管理学	態	183
	浜端悦治	陸域生態系保全修復論	態資	218
	早川史子※	公衆栄養学	栄	350
	林宰司	エコロジー経済学	環	140
	林宰司	応用統計学Ⅱ	政	141
	林宰司	環境経済学	政資	152
	原田英美子	環境植物生理学	資	154
	原田英美子	植物資源開発学	資	181
	バラチャンドラン・ジャヤデワン	金属材料	材	265
	バラチャンドラン・ジャヤデワン	無機化学Ⅱ	材	302
	伴修平、後藤直成	水環境管理学	態	215
	伴修平	水域環境影響調査指針	態資	184
	伴修平	海洋環境学	態	142
ひ	肥田嘉文	集水域環境影響調査指針	態	178
	肥田嘉文	陸域環境機能論	態資	218
	肥田嘉文	環境生化学	態	155
	廣川能嗣	環境調和化学	材	254
	廣川能嗣、中川平三郎、柳澤淳一	技術者倫理	工	260
	廣川能嗣	有機工業材料	材	304

	担当教員	科目名	対象	頁
ひ	廣島幸正※	環境数学Ⅰ・演習	態資	154
	廣島幸正※	環境数学Ⅱ・演習	態資	154
ふ	福井富穂	栄養ケアマネジメント論	栄	331
	福井富穂	栄養ケアマネジメント論実習	栄	332
	福井富穂	臨床栄養学Ⅰ	栄	415
	福井富穂	臨床栄養学Ⅱ	栄	416
	福井富穂	臨床栄養学実習	栄	416
	福井富穂	臨床栄養臨地実習Ⅰ	栄	417
	福井富穂	臨床栄養臨地実習Ⅱ	栄	417
	福岡克弘	電磁気学Ⅱ	電	285
	福岡克弘	基礎電磁気学（機械システム）	機	262
	福岡克弘	電気電子計測Ⅰ	電	283
	福渡努	栄養と健康	栄	333
	福渡努、森紀之	基礎栄養学実験	栄	338
	福渡努、佐野光枝	食品基礎実験	栄	367
	布野修司	アジア建築史	建	138
	布野修司	比較都市論	全	102
	布野修司、松岡拓公雄、陶器浩一、高田豊文	木匠塾	建	217
	古川洋子、金森京子、桑名亜希子	助産診断学Ⅱ	助	525
	古川洋子、桑名亜希子	助産診断学演習	助	525
	ブレンサイン	アジア・地域交流論B	地	327
	ブレンサイン	中国・内モンゴル地域文化論	地	385
	ブレンサイン	農耕社会論	地	400
	ブレンサイン	モンゴル語史料（ウイグル式文字）講読	地	414
ほ	ホアン・ラモン、高柳英明、伊丹清	CAD演習Ⅱ	建	137
	ホアン・ラモン	環境設計Ⅰ	建	158
	細馬宏通	こころのテクノロジー	全	91
	細馬宏通	コミュニケーション論	関	353
	細馬宏通	統計学基礎	人	393
	細馬宏通	人間行動論	栄関	398
	堀江孝司※	社会・経済政策論	関	357
	本田可奈子、荒川千登世	成人臨床看護論演習Ⅱ	看	443
	本田可奈子、奥津文子、大辻裕子、荒川千登世	成人臨床看護論実習Ⅱ	看	444
ま	前川直美、横井和美、奥津文子、大辻裕子、川端智子	成人臨床看護論実習Ⅰ	看	444
	前山直※	健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ）	全	80
	前山直※	健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール）	全	81
	牧野耕次、甘佐京子、山下真裕子	精神臨床看護論演習	看	443
	牧野耕次、山下真裕子、甘佐京子	精神臨床看護論実習	看	444
	増田清敬	地域資源管理学	資	204
	増田清敬	農業統計利用論	資	211
	増田佳昭	食料経済システム論	栄	368
	増田佳昭	食料経済システム論	資	182
	増田佳昭、学科教員	生物資源管理学概論	資	191
	増田佳昭、増田清敬	生物資源管理学実験・実習ＸⅠ	資	194
	増田佳昭	農業経営学	資	210
	増田佳昭	農業経済学	資	211
	松井徹	家畜生産環境学	資	143
	松井陽子、未定、馬場文	地域看護論演習	看	447
	松浦勉※	英語Ⅲ（工学②）	工	30
	松浦勉※	英語Ⅳ（環境②）	環	35

	担当教員	科目名	対象	頁
ま	松浦勉※	英語Ⅳ（人文⑤）	人	40
	松岡純	基礎化学（機械システム）	機	261
	松岡純	自然科学の視点	全	92
	松岡純	電子と化学結合	政	207
	松岡純	電子と化学結合	工	289
	松岡純	分子・統計力学	材	300
	松岡純	無機化学Ⅰ	材電	301
	松岡拓公雄、轟慎一、高田豊文、森田一弥※	イメージ表現法	建	139
	松岡拓公雄、柴田いづみ、村上修一	環境共生デザイン	建	151
	松岡拓公雄	環境職能論	建	153
	松尾繁※、向山泰司※、金光士※	消費科学Ⅱ	デ	364
	松下唯夫※	健康・体力科学Ⅰ（卓球）	工看	79
	松下唯夫※	健康・体力科学Ⅱ（テニス）	工看	83
	松下泰雄	工業数学	工	266
	松下泰雄	工業数理	工	266
	松下泰雄	線形代数Ⅰ（機械システム、電子システム）	機電	278
	松下泰雄	微積分Ⅰ（材料科学、電子システム）	材電	294
	松下泰雄	微積分Ⅱ（機械システム）	機	295
	松嶋秀明	現場心理学	関	347
	面矢慎介、印南比呂志、松嶋秀明、福渡努、廣瀬潤子	人間文化論C	人	399
	松嶋秀明	臨床心理学	関	417
	松本正朗※	健康科学Ⅰ	看	436
	松本行弘	健康心理学	栄	345
	松本行弘	人間性心理論	看	449
	松本行弘	セルフケア論	全	95
	的場輝佳※、堀越昌子※、菅谷文則※	比較食文化論	栄	403
	真鍋晶子※	英語Ⅲ（人文①）	人	32
	丸尾雅啓	化学Ⅱ	態	143
	丸尾雅啓	環境化学Ⅰ	態資	146
	丸尾雅啓	水域環境機能論	態	184
	丸山真央	現代社会論	地関	346
	丸山真央	社会変動論	地関	361
	丸山真央	量的データ解析論Ⅰ	地関	415
	丸山真央	社会変動論	政	178
み	三﨑リン	英語Ⅰ（環境⑤）	環	16
	三﨑リン	英語Ⅰ（人文④）	人	19
	三﨑リン	英語Ⅱ（工学②）	工	24
	三﨑リン	英語Ⅲ（工学③）	工	31
	三﨑リン	英語Ⅳ（環境③）	環	36
	三﨑リン	英語Ⅳ（環境⑥）	環	37
	三﨑リン	英語Ⅳ（人文②）	人	39
	三﨑リン	英語Ⅳ（人文⑥）	人	40
	水野章二	古文書演習Ⅰ	地	353
	水野章二	日本史概説	地	394
	水野章二、東幸代	日本史料講読	地	395
	水野章二	歴史的地域論	地	418
	水原渉	空間計画論	全	90
	水原渉	空間計画論	態政建資	167
	水原渉	都市・地域計画	建	208
	三田村緒佐武、倉茂好匡、後藤直成、堂満華子	環境地球科学実験（コンピュータ活用含む）	態資	161

	担当教員	科目名	対象	頁
み	三田村緒佐武、伴修平、浦部美佐子、後藤直成	水域環境学・同実験	態	184
	三田村緒佐武	水域物質循環論	態	185
	三田村緒佐武	生物地球化学	態	195
	三田村緒佐武	琵琶湖環境学	態	213
	三田村緒佐武、伴修平、浦部美佐子	陸水生態学・実験	態	219
	未定	アジア社会論	地	328
	未定	応用統計学Ⅰ	政	141
	未定	化学Ⅰ	態	142
	未定	学校栄養指導論	教	506
	未定	環境化学Ⅱ	態政資	147
	未定	環境情報演習	政	153
	未定	教科教育法Ⅰ（農業）	教	512
	未定	教科教育法Ⅱ（農業）	教	515
	未定	教職実践演習（中学校）	教	516
	未定	教職実践演習（高等学校）	教	517
	未定	教職実践演習（養護教諭）	教	517
	未定	教職実践演習（栄養教諭）	教	517
	未定	現代産業デザイン論	デ	345
	未定	公衆衛生学	栄	350
	未定	高齢者行動論	関	352
	未定※	情報科学概論（材料）	材	70
	未定※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（材料）	材	66
	未定	生活法	関	373
	未定	地域考古学A	地	380
	未定	地域考古学B	地	380
	未定	地球環境システム論	態政資	206
	未定	中国地域文化特論	地	386
	未定	トライボロジー	機	291
	未定	比較衣装論	デ	401
	未定	比較宗教論	政	212
	未定	比較宗教論	地関	402
	未定	服飾心理学	デ	406
	未定	服飾製作実習	教	521
	未定※	プログラミング基礎（環境c）	環	74
	未定※	プログラミング基礎（環境d）	環	74
	未定※	プログラミング基礎（人文b）	人	76
	未定※	プログラミング基礎（人文c）	人	76
	未定	文化人類学特論	地	411
	皆川明子	流域環境管理学	政資	219
	南川久人、田邉裕貴、大浦靖典、近藤千尋、和泉遊以	機械システム工学実験Ⅰ	機	255
	南川久人、安田孝宏	機械設計演習Ⅰ	機	257
	南川久人	流体力学Ⅰ	機	305
	南川久人	流体力学Ⅱ	機	305
	南和広	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）	環工看	78
	南和広	健康・体力科学Ⅰ（スキー・スノーボード）	全	78
	南和広	健康・体力科学Ⅰ（卓球）	人	79
	南和広	健康・体力科学Ⅱ（ゴルフ）	全	81
	南政宏	サステナブルデザイン論	デ	354
	南政宏、麻谷宏※	生活造形基礎演習	デ	371
	宮尾学	消費者行動論	デ	364

	担当教員	科目名	対象	頁
み	宮尾学	生活経営論	デ栄関	370
	宮尾学	マーケティング論	デ関	412
	宮城茂幸	情報科学概論（電子）	電	71
	宮城茂幸	情報リテラシー（情報倫理を含む）（電子）	電	67
	宮城茂幸	ディジタル信号処理	電	281
	宮城茂幸	プログラミング基礎（環境a）	環	73
	宮城茂幸	プログラミング基礎（材料）	材	75
	宮村弘	基礎結晶学	材	261
	宮村弘	材料組織学	材	270
	宮村弘、徳満勝久、吉田智、近藤淳哉、井上吉教	定量・機器分析および同実験	材	281
	宮村弘、秋山毅、吉田智、菅原透	物理化学総合および同演習	材	298
	宮村弘、吉田智、菅原透、鈴木厚志	無機工業材料	材	302
	宮本真二※	自然地理学	地	356
	宮本雅子	インテリア計画論	デ	329
	宮本雅子	色彩学	デ	354
	宮本雅子	色彩学演習	デ	355
	宮本雅子、山根周、佐々木一泰	住環境設計演習Ⅰ	デ	361
	宮本雅子	住環境論	デ	363
む	向山泰司※、小林重信※、永野暁※、金光士※	消費科学Ⅰ	デ	364
	村岡良和※	物理学Ⅱ	態	214
	村岡良和※	環境物理学Ⅱ	態	163
	村上修一	環境学原論	環	148
	村上修一	環境行動論	政建資	152
	村上修一	環境行動論	全	89
	村上修一	景観計画	政建資	167
	村上修一	ランドスケープデザイン	建資	217
も	森岡清隆※	家庭電気・機械	教	507
	森岡秀人※	地域考古学C	地	381
	森敏	疾病論Ⅰ	看	439
	森敏	疾病論Ⅱ	看	439
	森下あおい	基礎服飾デザイン	デ	339
	森下あおい、宮本雅子	人間工学実習	デ	398
	森下あおい	服飾造形論	デ	407
	森下あおい	服飾デザイン演習Ⅱ	デ	407
	森下あおい	服飾デザイン演習Ⅳ	デ	408
	森下あおい	服飾デザイン論	デ	408
	森将豪※	情報科学概論（人文b）	人	72
	森将豪※	情報科学概論（人文c）	人	72
	森将豪※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文b）	人	67
	森将豪※	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文c）	人	68
	森脇克巳	現代制御工学	機	265
	森脇克巳	システム工学	機	272
	森脇克巳	数理計画	機	275
	森脇正史※	英語Ⅰ（環境②）	環	15
	森脇正史※	英語Ⅰ（人文③）	人	19
	森脇正史※	英語Ⅲ（環境①）	環	28
	森脇正史※	英語Ⅲ（人文⑤）	人	33
や	安田純也※	朝鮮地域文化特論	地	387
	安田孝宏	数値解析	機	274
	安田孝宏	伝熱学	機	289

	担当教員	科目名	対象	頁
や	安田千寿、北村隆子、畑野相子	老年臨床看護論演習	看	452
	安田千寿、北村隆子、畑野相子	老年臨床看護論実習Ⅱ	看	452
	安田寿彦、河﨑澄、小川圭二、安田孝宏	機械システム工学実験Ⅱ	機	256
	安田寿彦	制御工学Ⅰ	機	276
	安田寿彦	制御工学Ⅱ	機	277
	安田寿彦	メカトロニクス	機	302
	安田昌司　他	産業技術マネジメント	工	272
	安原治	体のしくみと機能Ⅰ	看	433
	安原治	体のしくみと機能Ⅱ	看	433
	柳澤淳一、宮城茂幸、奥村進、竹内日出雄	科学技術英語（電子システム）	電	253
	柳澤淳一	集積化プロセス工学	電	273
	柳澤淳一	電子社会と人間	全	95
	柳澤淳一	電子デバイス	電	288
	柳澤淳一	半導体基礎	電	293
	柳澤淳一	量子力学概論	電	306
	山上修※	教科教育法Ⅰ（公民）	教	511
	山上修※	教科教育法Ⅱ（公民）	教	514
	山口弘※	環境地球科学Ⅱ	態	160
	山口博史	線形代数Ⅱ（材料科学、機械システム）	機材	279
	山口博史	微分方程式（材料科学）	材	296
	山口博史	微分方程式（機械システム）	機	296
	山口康雄※	教科教育法Ⅱ（地理歴史）	教	515
	山下義裕	化学熱力学	材	254
	山下義裕	複合材料	材	297
	山田明	健康科学Ⅱ	看	436
	山田明、森敏、安原治	人間と病気	全	101
	山田稔※、堀田良夫※	総合演習	教	520
	山根浩二	動力システム	機	291
	山根浩二	熱力学Ⅰ	機	292
	山根浩二	熱力学Ⅱ	機	292
	山根浩二、中川平三郎、高松徹、栗田裕、南川久人	機械システム工学概論	工	255
	山根浩二	基礎力学（材料科学）	材	263
	山根周、南政宏	基礎設計製図	デ	339
	山根周、宮本雅子、佐々木一泰	住環境設計演習Ⅳ	デ	362
	山根周	住居計画論	デ	363
	山根周	日本住居史	デ	394
	山根周	比較住居論	全	101
	山根周	比較住居論	デ栄関	402
	山本薫	英語Ⅰ（環境④）	環	16
	山本薫	英語Ⅰ（工学③）	工	17
	山本薫	英語Ⅰ（再履修）	全	21
	山本薫	英語Ⅲ（環境⑤）	環	29
	山本薫	英語Ⅳ（看護②）	看	41
よ	楊平※	比較文化論（環境政策・計画）	政	212
	横井和美、前川直美	成人臨床看護論演習Ⅰ	看	443
	横井和美、荒川千登世、吉田智美※	臨床看護論Ⅱ	看	451
	吉川英治※	経済学Ⅱ（国際経済を含む）	政資	168
	吉田一郎、篠原岳司、木村裕	形成論演習	関	344
	吉田一郎	生活指導論	関	371
	吉田一郎	生徒指導論	教	519

	担当教員	科目名	対象	頁
よ	吉田一郎	道徳教育論	教	520
	吉田一郎	特別活動論	教	520
	吉田一郎、篠原岳司、木村裕	人間形成論	関	397
	吉田一郎、松本行弘、裵敬隆※	差別と人権（同和問題）	全	91
	吉田智	材料強度物性	材	270
	吉田智	セラミックス材料	材	278
	吉田龍平	栄養アセスメント論	栄	330
	吉田龍平	栄養教育論	栄	331
	吉田龍平、廣瀬潤子	栄養教育論実習	栄	331
	吉田龍平	給食の計画と実務	栄	341
	吉田龍平、赤尾正※	臨床栄養活動論	栄	416
	吉村淳一	ドイツ語Ⅰ（水3限）	全	48
	吉村淳一	ドイツ語Ⅰ（水4限）	全	49
	吉村淳一	ドイツ語Ⅱ（火1限）	全	49
	吉村淳一	ドイツ語Ⅱ（火2限）	全	50
	吉村淳一	ドイツ語ⅢＡ	全	51
	吉村淳一	ドイツ語ⅢＢ	全	51
	米田照美、伊丹君和、森敏	生活行動看護論演習Ⅱ	看	441
	米田照美、伊丹君和	生活行動看護論演習Ⅲ	看	441
	寄本明	運動と健康	栄	330
	寄本明	健康・体力科学Ⅰ（運動処方）	工人看	78
	寄本明	健康・体力科学Ⅱ（運動処方）	全	82
	寄本明	健康・体力科学Ⅱ（海洋スポーツ）	全	82
わ	渡邊能行※	疫学	看	432
	渡邊能行※	地域保健論	看	448

	科目名	対象	担当教員	頁
	CAD演習Ⅰ	建	高柳英明、伊丹清、ホアン・ラモン	137
	CAD演習Ⅱ	建	ホアン・ラモン、高柳英明、伊丹清	137
	GIS演習	政	香川雄一	137
	Japanese Culture and Civilization	人	黒田末壽、石田法雄、冨島義幸、クリンガー、面矢慎介	327
あ	アジア・地域交流論A	地	田中俊明	327
	アジア・地域交流論B	地	ブレンサイン	327
	アジア・地域交流論C	地	定森秀夫	328
	アジア建築史	建	布野修司	138
	アジア交流論	政	阿部健一※	138
	アジア交流論	地	阿部健一※	328
	アジア社会論	地	未定	328
	アルゴリズムとデータ構造	電	奥村進	251
い	育成看護論Ⅰ	看	炭原加代、岩谷澄香	431
	育成看護論Ⅱ	看	大脇万起子、金森京子	431
	育成看護論演習	看	金森京子、大脇万起子、桑名亜希子	431
	育成看護論実習	看	炭原加代、岩谷澄香、大脇万起子、古川洋子、金森京子、桑名亜希子	432
	一般構造	デ	佐々木一泰	329
	遺伝学	態資	長谷川博	138
	遺伝子と社会	全	長谷川博	88
	異文化理解A	全	国際交流委員会	88
	異文化理解B	全	国際交流委員会	88
	イベント計画演習	政	近藤隆二郎	139
	イベント計画論	政	近藤隆二郎	139
	イメージ表現法	建	松岡拓公雄、轟慎一、高田豊文、森田一弥※	139
	インターネット工学	電	畑中裕司	251
	インターンシップA	就	就職指導担当教員	526
	インターンシップB	就	就職指導担当教員	526
	インテリア計画論	デ	宮本雅子	329
	インド・チベット地域文化論	地	棚瀬慈郎	329
う	運動と健康	栄	寄本明	330
え	英語Ⅰ（環境①）	環	小栗裕子	15
	英語Ⅰ（環境②）	環	森脇正史※	15
	英語Ⅰ（環境③）	環	長谷川由美	15
	英語Ⅰ（環境④）	環	山本薫	16
	英語Ⅰ（環境⑤）	環	三﨑リン	16
	英語Ⅰ（環境⑥）	環	長谷川由美	16
	英語Ⅰ（工学①）	工	小栗裕子	17
	英語Ⅰ（工学②）	工	外狩章夫	17
	英語Ⅰ（工学③）	工	山本薫	17
	英語Ⅰ（工学④）	工	長谷川由美	18
	英語Ⅰ（工学⑤）	工	長谷川由美	18
	英語Ⅰ（人文①）	人	長谷川由美	18
	英語Ⅰ（人文②）	人	瀬本阿矢	19
	英語Ⅰ（人文③）	人	森脇正史※	19
	英語Ⅰ（人文④）	人	三﨑リン	19
	英語Ⅰ（人文⑤）	人	外狩章夫	20
	英語Ⅰ（人文⑥）	人	長谷川由美	20
	英語Ⅰ（看護①）	看	瀬本阿矢	20
	英語Ⅰ（看護②）	看	市場史哉※	21
	英語Ⅰ（再履修）	全	山本薫	21

	科目名	対象	担当教員	頁
え	英語Ⅱ（環境①）	環	Karl Braun※	21
	英語Ⅱ（環境②）	環	Walter Klinger	22
	英語Ⅱ（環境③）	環	Karl Hedberg	22
	英語Ⅱ（環境④）	環	Karl Braun※	22
	英語Ⅱ（環境⑤）	環	Alan Neil※	23
	英語Ⅱ（環境⑥）	環	Karl Hedberg	23
	英語Ⅱ（工学①）	工	Walter Klinger	23
	英語Ⅱ（工学②）	工	三﨑リン	24
	英語Ⅱ（工学③）	工	Gordon Maclaren※	24
	英語Ⅱ（工学④）	工	Karl Hedberg	24
	英語Ⅱ（工学⑤）	工	Karl Braun※	25
	英語Ⅱ（人文①）	人	Karl Hedberg	25
	英語Ⅱ（人文②）	人	Walter Klinger、Karl Braun※	25
	英語Ⅱ（人文③）	人	Karl Hedberg	26
	英語Ⅱ（人文④）	人	Karl Braun※	26
	英語Ⅱ（人文⑤）	人	Alan Neil※	26
	英語Ⅱ（人文⑥）	人	Karl Hedberg	27
	英語Ⅱ（看護①）	看	Walter Klinger	27
	英語Ⅱ（看護②）	看	Gordon Maclaren※	27
	英語Ⅱ（再履修）	全	石田法雄	28
	英語Ⅲ（環境①）	環	森脇正史※	28
	英語Ⅲ（環境②）	環	西澤裕一※	28
	英語Ⅲ（環境③）	環	上村盛人	29
	英語Ⅲ（環境④）	環	伊藤加奈子※	29
	英語Ⅲ（環境⑤）	環	山本薫	29
	英語Ⅲ（環境⑥）	環	瀬本阿矢	30
	英語Ⅲ（工学①）	工	市場史哉※	30
	英語Ⅲ（工学②）	工	松浦勉※	30
	英語Ⅲ（工学③）	工	三﨑リン	31
	英語Ⅲ（工学④）	工	瀬本阿矢	31
	英語Ⅲ（工学⑤）	工	小林香保里※	31
	英語Ⅲ（人文①）	人	真鍋晶子※	32
	英語Ⅲ（人文②）	人	真田満※	32
	英語Ⅲ（人文③）	人	西澤裕一※	32
	英語Ⅲ（人文④）	人	上村盛人	33
	英語Ⅲ（人文⑤）	人	森脇正史※	33
	英語Ⅲ（人文⑥）	人	小林香保里※	33
	英語Ⅲ（看護①）	看	西澤裕一※	34
	英語Ⅲ（看護②）	看	出原健一※	34
	英語Ⅲ（看護③）	看	市場史哉※	34
	英語Ⅲ（再履修）	全	小栗裕子	35
	英語Ⅳ（環境①）	環	石田法雄	35
	英語Ⅳ（環境②）	環	松浦勉※	35
	英語Ⅳ（環境③）	環	三﨑リン	36
	英語Ⅳ（環境④）	環	瀬本阿矢	36
	英語Ⅳ（環境⑤）	環	真田満※	36
	英語Ⅳ（環境⑥）	環	三﨑リン	37
	英語Ⅳ（工学①）	工	伊藤加奈子※	37
	英語Ⅳ（工学②）	工	瀬本阿矢	37
	英語Ⅳ（工学③）	工	真田満※	38

	科目名	対象	担当教員	頁
え	英語Ⅳ（工学④）	工	出原健一※	38
	英語Ⅳ（工学⑤）	工	長谷川由美	38
	英語Ⅳ（人文①）	人	伊藤加奈子※	39
	英語Ⅳ（人文②）	人	三﨑リン	39
	英語Ⅳ（人文③）	人	瀬本阿矢	39
	英語Ⅳ（人文④）	人	外狩章夫	40
	英語Ⅳ（人文⑤）	人	松浦勉※	40
	英語Ⅳ（人文⑥）	人	三﨑リン	40
	英語Ⅳ（看護①）	看	上村盛人	41
	英語Ⅳ（看護②）	看	山本薫	41
	英語Ⅳ（看護③）	看	長谷川由美	41
	英語Ⅳ（再履修）	全	外狩章夫	42
	英語ＶＡ（月2限）	全	Karl Hedberg	42
	英語ＶＡ（月3限）	全	Karl Hedberg	42
	英語ＶＡ（火3限）	全	Walter Klinger	43
	英語ＶＡ（水2限）	全	石田法雄	43
	英語ＶＡ（金2限）	全	小栗裕子	43
	英語ＶＢ（月2限）	全	Karl Hedberg	44
	英語ＶＢ（火3限）	全	Walter Klinger	44
	英語ＶＢ（金2限）	全	小栗裕子	44
	英語ＶＢ（水2限）	全	石田法雄	45
	英語ＶＢ（月3限）	全	Karl Hedberg	45
	英語ⅥＡ（月4限）	全	Karl Hedberg	45
	英語ⅥＡ（木1限）	全	瀬本阿矢	46
	英語ⅥＢ（月4限）	全	Karl Hedberg	46
	英語ⅥＢ（木1限）	全	瀬本阿矢	46
	栄養アセスメント論	栄	吉田龍平	330
	栄養疫学論	栄	岡本秀己、福渡努	330
	栄養教育実習・事前事後指導	教	西道代※、竹田陽子※	506
	栄養教育論	栄	吉田龍平	331
	栄養教育論実習	栄	吉田龍平、廣瀬潤子	331
	栄養ケアマネジメント論	栄	福井富穂	331
	栄養ケアマネジメント論実習	栄	福井富穂	332
	栄養生化学	栄	柴田克己	332
	栄養生化学実験	栄	灘本知憲、佐野光枝	332
	栄養生理学実習	栄	高山博史	333
	栄養と健康	看	柴田克己	432
	栄養と健康	栄	福渡努	333
	疫学	看	渡邊能行※	432
	エコロジー経済学	環	林宰司	140
	エネルギー・界面科学	材	奥健夫	251
	エネルギー変換工学	政	河﨑澄	140
	エネルギー変換工学	機	河﨑澄	252
お	近江商人論	地	宇佐美英機※	333
	近江文化論	全	京樂真帆子	89
	応用栄養学Ⅰ	栄	灘本知憲、福渡努、廣瀬潤子、南和広	334
	応用栄養学Ⅱ	栄	灘本知憲	334
	応用栄養学実習	栄	田辺とも子※	334
	応用数学	政	井手慎司	140
	応用電子機器	電	稲葉博美	252

	科目名	対象	担当教員	頁
お	応用統計学Ⅰ	政	未定	141
	応用統計学Ⅱ	政	林宰司	141
	応用微生物学	資	入江俊一	141
か	害虫管理学	資	沢田裕一	142
	海洋環境学	態	伴修平	142
	カウンセリング論演習（生活栄養）	栄	那須光章、吉田龍平、松嶋秀明	335
	カウンセリング論演習（人間関係）	関	那須光章、松嶋秀明	335
	化学Ⅰ	態	未定	142
	化学Ⅱ	態	丸尾雅啓	143
	科学技術英語（材料科学）	材	学科教員	252
	科学技術英語（機械システム）	機	学科教員	253
	科学技術英語（電子システム）	電	柳澤淳一、宮城茂幸、奥村進、竹内日出雄	253
	化学工学	材機	田門肇※、牧泰輔※	253
	化学熱力学	材	山下義裕	254
	確率統計	工	安藤韶一※	254
	河川環境学	態資	倉茂好匡	143
	家族看護論	看	大脇万起子	433
	家畜生産環境学	資	松井徹	143
	家畜生産生理学	資	岡野寛治	144
	学校栄養指導論	教	未定	506
	学校看護論	教	伊藤路子※	506
	学校保健論	教	中島敦子※、橋本進一※、冨田豊※	507
	家庭電気・機械	教	森岡清隆※	507
	体のしくみと機能Ⅰ	看	安原治	433
	体のしくみと機能Ⅱ	看	安原治	433
	体のしくみと機能Ⅲ	看	上山久雄※	434
	環境・建築デザイン演習	建	学科教員	144
	環境・建築デザイン概論	建	学科教員	144
	環境アセスメント	態資政建	錦澤滋雄※ 、杉本卓也※、多島良※	145
	環境アセスメント演習	政	柴田裕希	145
	環境会計	政資	富岡昌雄	145
	環境解析学・同実験	態資	永淵修、丸尾雅啓、尾坂兼一	146
	環境化学・実験	態	永淵修、丸尾雅啓、後藤直成、肥田嘉文、尾坂兼一	146
	環境化学Ⅰ	態資	丸尾雅啓	146
	環境化学Ⅱ	態政資	未定	147
	環境科学概論Ⅰ	環	長谷川博、永淵修、浦部美佐子、岩間憲治、入江俊一、籠谷泰行	147
	環境科学概論Ⅱ	環	伊丹清、高橋卓也、柴田いづみ、増田佳昭、井手慎司	147
	環境化学実験	態資	上田邦夫、永淵修、須戸幹、丸尾雅啓、肥田嘉文	148
	環境学原論	環	村上修一	148
	環境学野外実習Ⅰ	態	学科教員	148
	環境学野外実習Ⅱ	態	学科教員	149
	環境学野外実習Ⅲ	態	学科教員	149
	環境監査	態資政建	高橋卓也、西田一雄※	149
	環境技術	建資	太田浩史※	150
	環境技術史	政建	冨島義幸	150
	環境気象学	資	小谷廣通	150
	環境共生デザイン	建	松岡拓公雄、柴田いづみ、村上修一	151
	環境経営論	政資	高橋卓也	151
	環境計画学	政建	柴田裕希	151
	環境経済学	政資	林宰司	152

	科目名	対象	担当教員	頁
か	環境行動論	全	村上修一	89
	環境行動論	政建資	村上修一	152
	環境シミュレーション	政資	井手慎司	152
	環境社会学	政	小野奈々	153
	環境情報演習	政	未定	153
	環境職能論	建	松岡拓公雄	153
	環境植物生理学	資	原田英美子	154
	環境数学Ⅰ・演習	態資	廣島幸正※	154
	環境数学Ⅱ・演習	態資	廣島幸正※	154
	環境生化学	態	肥田嘉文	155
	環境政策学	環	秋山道雄	155
	環境生態学演習Ⅰ	態	学科教員	155
	環境生態学演習Ⅱ	態	学科教員	156
	環境生態学外書講読	態	学科教員	156
	環境生態学外書表現	態	学科教員	157
	環境生態学基礎演習	態	学科教員	156
	環境生態学特別実習	態	学科教員	157
	環境生物学Ⅰ	態政資	浦部美佐子	157
	環境生物学Ⅱ	態資	浅岡一雄	158
	環境生物学実験	資	泉泰弘、野間直彦、上町達也、伴修平、杉浦省三、入江俊一、籠谷泰行、清水顕史、原田英美子、西田隆義	158
	環境設計Ⅰ	建	ホアン・ラモン	158
	環境設計Ⅱ	建	高柳英明	159
	環境設備	建	伊丹清	159
	環境造形論	建	迫田正美	159
	環境地学	態	堂満華子	160
	環境地球科学Ⅰ	態資	堂満華子	160
	環境地球科学Ⅱ	態	山口弘※	160
	環境地球科学実験（コンピュータ活用含む）	態資	三田村緒佐武、倉茂好匡、後藤直成、堂満華子	161
	環境調和化学	材	廣川能嗣	254
	環境統計解析学	態資	籠谷泰行	161
	環境動物学	資	今井長兵衛※	161
	環境フィールドワークⅠ	環	学部教員	162
	環境フィールドワークⅡ	環	学部教員	162
	環境フィールドワークⅢ	環	学部教員	162
	環境物理学Ⅰ	態政資	倉茂好匡	163
	環境物理学Ⅱ	態	村岡良和※	163
	環境物理学実験（コンピュータ活用を含む）	態資	倉茂好匡、岩間憲治、堂満華子、三浦信宏※	163
	環境変遷史	態	堂満華子	164
	環境法Ⅰ	政資	土屋正春、小沢晴司	164
	環境法Ⅱ	政	土屋正春、小沢晴司	164
	環境マネジメント演習	政	高橋卓也	165
	環境マネジメント総論	全	全学部教員によるオムニバス形式	89
	環境倫理学	政建	土屋正春	165
	環境論考解析学	態	西田隆義	165
	看護過程論	看	伊丹君和	434
	看護管理論	看	清水房枝、米田照美	434
	看護管理論（4回生用）	看	清水房枝、米田照美、飯降聖子	435
	看護コーディネーション	看	植村小夜子、飯降聖子	435
	看護政策論	看	飯降聖子	435
	環琵琶湖文化論実習（地域文化）	地	学科教員	335

	科目名	対象	担当教員	頁
か	環琵琶湖文化論実習（生活デザイン）	デ	学科教員	336
	環琵琶湖文化論実習（生活栄養）	栄	学科教員	336
	環琵琶湖文化論実習（人間関係）	関	学科教員	336
	漢文講読	地	田中俊明	337
	管理栄養士総合演習	栄	学科教員	337
き	機械技術と人間	全	田中他喜男	90
	機械材料学	機	高松徹	255
	機械システム工学概論	工	山根浩二、中川平三郎、高松徹、栗田裕、南川久人	255
	機械システム工学実験Ⅰ	機	南川久人、田邉裕貴、大浦靖典、近藤千尋、和泉遊以	255
	機械システム工学実験Ⅱ	機	安田寿彦、河﨑澄、小川圭二、安田孝宏	256
	機械システム工学セミナー	機	高松徹、安田寿彦	256
	機械製作	機	中川平三郎	256
	機械製作実習	機	河﨑澄、小川圭二	257
	機械設計演習Ⅰ	機	南川久人、安田孝宏	257
	機械設計演習Ⅱ	機	田邉裕貴、和泉遊以	257
	機械設計演習Ⅲ	機	栗田裕、大浦靖典	258
	機械設計製図	機	高松徹	258
	機械要素	機	小川圭二	258
	機械力学Ⅰ	機	栗田裕	259
	機械力学Ⅱ	機	栗田裕、大浦靖典	259
	機器分析Ⅰ	材	徳満勝久	259
	機器分析Ⅱ	材	谷本智史	260
	技術者倫理	工	廣川能嗣、中川平三郎、柳澤淳一	260
	基層文化論	地	中井均	337
	基礎栄養学Ⅰ	栄	灘本知憲	338
	基礎栄養学Ⅱ	栄	灘本知憲、福渡努	338
	基礎栄養学実験	栄	福渡努、森紀之	338
	基礎化学（材料科学）	材	熊谷勉	260
	基礎化学（機械システム）	機	松岡純	261
	基礎化学（電子システム）	電	奥健夫	261
	基礎結晶学	材	宮村弘	261
	基礎助産学	助	岩谷澄香	524
	基礎数学Ⅰ	環	市川源一郎※	166
	基礎数学Ⅱ	環	市川源一郎※	166
	基礎設計製図	デ	山根周、南政宏	339
	基礎電気電子回路	工	岸根桂路	262
	基礎電磁気学（材料科学）	材	作田健	262
	基礎電磁気学（機械システム）	機	福岡克弘	262
	基礎電磁気学（電子システム）	電	乾義尚	263
	基礎統計	政	金谷健	166
	基礎熱力学	材	奥健夫	263
	基礎服飾デザイン	デ	森下あおい	339
	基礎力学（材料科学）	材	山根浩二	263
	基礎力学（機械システム）	機	田中他喜男	264
	基礎力学（電子システム）	電	河﨑澄	264
	キャリアデザイン論	就	那須光章	526
	給食衛生管理実習	栄	浦部貴美子、吉田龍平	339
	給食管理実習	栄	谷口美津子※、廣瀬潤子	340
	給食経営管理臨地実習	栄	浦部貴美子、吉田龍平	340
	給食経営管理論	栄	浦部貴美子、小澤恵子※	340

	科目名	対象	担当教員	頁
き	給食の計画と実務	栄	吉田龍平	341
	教育学概論	関	篠原岳司	341
	教育学概論	教学	篠原岳司	507
	教育課程論	教	木村裕	508
	教育観察実習	関	那須光章、吉田一郎、松嶋秀明、中村好孝	341
	教育実習・事前事後指導	教	那須光章、吉田一郎、篠原岳司、木村裕	508
	教育実習・事前事後指導（養護教諭）	教	畑野相子、、伊丹君和、那須光章、吉田一郎篠原岳司、木村裕	508
	教育心理学	関	那須光章	342
	教育心理学	教	那須光章	509
	教育制度論	関	篠原岳司	342
	教育制度論	教	篠原岳司	509
	教育相談	教	那須光章、安江郁夫※	509
	教育相談・進路指導	教	那須光章、安江郁夫※	510
	教育方法の理論と技術	関	那須光章、亀田彰喜、近藤文良※	342
	教育方法の理論と技術	教	那須光章、亀田彰喜、近藤文良※	510
	教科教育法Ⅰ（家庭）	教	今宿信子※	510
	教科教育法Ⅰ（工業）	教	奥野信一※	511
	教科教育法Ⅰ（公民）	教	山上修※	511
	教科教育法Ⅰ（社会）	教	齋藤桂※	511
	教科教育法Ⅰ（情報）	教	神月紀輔※	512
	教科教育法Ⅰ（地理歴史）	教	齋藤桂※	512
	教科教育法Ⅰ（農業）	教	未定	512
	教科教育法Ⅰ（理科）	教	石川聡子※	513
	教科教育法Ⅱ（家庭）	教	加地芳子※	513
	教科教育法Ⅱ（工業）	教	西村顕男※	513
	教科教育法Ⅱ（公民）	教	山上修※	514
	教科教育法Ⅱ（社会）	教	小林忠伸※	514
	教科教育法Ⅱ（情報）	教	神月紀輔※	514
	教科教育法Ⅱ（地理歴史）	教	山口康雄※	515
	教科教育法Ⅱ（農業）	教	未定	515
	教科教育法Ⅱ（理科）	教	橘淳治※	515
	教科教育法Ⅲ（家庭）	教	今宿信子※	516
	教科教育法Ⅳ（家庭）	教	加地芳子※	516
	教職実践演習（中学校）	教	未定	516
	教職実践演習（高等学校）	教	未定	517
	教職実践演習（養護教諭）	教	未定	517
	教職実践演習（栄養教諭）	教	未定	517
	教職論	教	木村裕	518
	行政看護論	看	飯降聖子、未定	436
	魚類生理学	資	杉浦省三	167
	近世近江論	地	東幸代	343
	金属加工学	機	田中他喜男	264
	金属材料	材	バラチャンドラン・ジャヤデワン	265
	近代デザイン史	デ	面矢慎介	343
く	空間計画論	全	水原渉	90
	空間計画論	態政建資	水原渉	167
	空間デザイン論	デ	佐々木一泰	343
け	景観計画	政建資	村上修一	167
	経済学Ⅰ	政資	河相俊之※	168
	経済学Ⅱ（国際経済を含む）	政資	吉川英治※	168

	科目名	対象	担当教員	頁
け	芸術学	地	亀井若菜	344
	形成論演習	関	吉田一郎、篠原岳司、木村裕	344
	計測工学	機	近藤千尋	265
	健康・体力科学Ⅰ（運動処方）	工人看	寄本明	78
	健康・体力科学Ⅰ（サッカー）	環工看	南和広	78
	健康・体力科学Ⅰ（スキー・スノーボード）	全	南和広	78
	健康・体力科学Ⅰ（卓球）	工看	松下唯夫※	79
	健康・体力科学Ⅰ（卓球）	人	南和広	79
	健康・体力科学Ⅰ（テニス）	全	多胡陽介※	79
	健康・体力科学Ⅰ（ニュースポーツ）	全	前山直※	80
	健康・体力科学Ⅰ（バスケット）	全	川端浩一※	80
	健康・体力科学Ⅰ（バドミントン）	全	川端浩一※	80
	健康・体力科学Ⅱ（ゴルフ）	全	南和広	81
	健康・体力科学Ⅱ（ソフトボール）	全	前山直※	81
	健康・体力科学Ⅱ（バドミントン）	全	多胡陽介※	81
	健康・体力科学Ⅱ（バレーボール）	全	多胡陽介※	82
	健康・体力科学Ⅱ（運動処方）	全	寄本明	82
	健康・体力科学Ⅱ（海洋スポーツ）	全	寄本明	82
	健康・体力科学Ⅱ（卓球）	全	川端浩一※	83
	健康・体力科学Ⅱ（テニス）	工看	松下唯夫※	83
	健康科学Ⅰ	看	松本正朗※	436
	健康科学Ⅱ	看	山田明	436
	健康教育論	看	飯降聖子	437
	健康情報管理実習	栄	亀田彰喜	344
	健康心理学	栄	松本行弘	345
	現代経済論	全	鈴木康夫※	90
	現代産業デザイン論	デ	未定	345
	現代ジャーナリズム論	地関	荒井利明	345
	現代社会福祉論	関	中村好孝	346
	現代社会論	地関	丸山真央	346
	現代社会論	政	小野奈々	168
	現代制御工学	機	森脇克巳	265
	現代中国論	地	荒井利明	346
	現代モンゴル語文献講読	地	島村一平	347
	建築一般構造	建	黒川直樹※	169
	建築環境工学	建	伊丹清	169
	建築環境工学演習	建	伊丹清	169
	建築数学・物理	建	伊丹清、高田豊文	170
	建築生産施工	建	岩下智※	170
	建築法規	建	田上豊※	170
	建築法規	デ	田上豊※	347
	現場心理学	関	松嶋秀明	347
	憲法	教	橋本豪志※	518
こ	合意形成支援技法	政	金谷健	171
	合意形成支援技法演習	政	金谷健	171
	工業数学	工	松下泰雄	266
	工業数理	工	松下泰雄	266
	工業力学	機	栗田裕	266
	考現学概論	デ	面矢慎介	348
	考古学	地	中井均	348

	科目名	対象	担当教員	頁
こ	考古学特論	地	定森秀夫	348
	考古地理実習Ⅰ	地	定森秀夫、中井均、塚本礼仁、石川慎治、濱崎一志	349
	考古地理実習ⅡＡ	地	定森秀夫、中井均	349
	考古地理実習ⅡＢ	地	塚本礼仁	349
	公衆衛生学	栄	未定	350
	公衆栄養学	栄	早川史子※	350
	公衆栄養学実習	栄	岡本秀己、中村ひとみ※	350
	構造計画（環境建築デザイン）	建	陶器浩一、松村和夫※	171
	構造計画（生活デザイン）	デ	片岡慎策※	351
	構造材料実験	建	陶器浩一、高田豊文、伊藤淳志※	172
	構造材料実験	デ	陶器浩一、高田豊文、伊藤淳志※	351
	構造力学Ⅰ	建資	陶器浩一、高田豊文	172
	構造力学Ⅰ（生活デザイン）	デ	片岡慎策※	351
	構造力学Ⅱ	建	高田豊文	172
	行動論演習	関	竹下秀子、細馬宏通、松嶋秀明、上野有理	352
	高分子合成	材	谷本智史	267
	高分子物性	材	徳満勝久	267
	高齢者行動論	関	未定	352
	国際環境資源論	政資	富岡昌雄、高橋卓也	173
	国際看護論	看	戸塚規子※、伊冨貴初美※	437
	国際・災害看護論	看	戸塚規子※、伊冨貴初美※	437
	こころのテクノロジー	全	細馬宏通	91
	湖沼環境学	態資	後藤直成	173
	固体物性基礎	材	奥健夫	267
	子どもの環境論	関	野部博子※	352
	コミュニケーション論	関	細馬宏通	353
	コミュニティ計画論	政建	柴田いづみ	173
	古文書演習Ⅰ	地	水野章二	353
	古文書演習Ⅱ	地	東幸代	353
	コンピュータアーキテクチャ	電	奥村進	268
	コンピュータソフトウェア	電	畑中裕司	268
	コンピュータハードウェア	電	奥村進	268
さ	在宅看護論Ⅰ	看	植村小夜子	438
	在宅看護論Ⅱ	看	植村小夜子	438
	在宅看護論実習	看	植村小夜子、未定、飯降聖子、松井陽子、馬場文	438
	栽培植物各論A	資	上町達也	174
	栽培植物各論B	資	長谷川博、泉泰弘	174
	材料開発工学	材	坂本明彦※、辻井薫※、藤本宏之※、学科教員	269
	材料科学概論	工	奥健夫、廣川能嗣	269
	材料科学実験	材	学科教員	269
	材料強度物性	材	吉田智	270
	材料計算化学および同演習	材	井上吉教、近藤淳哉、鈴木厚志	270
	材料史	全	菊地憲次、熊谷勉	91
	材料組織学	材	宮村弘	270
	材料力学Ⅰ（材料科学）	材	田邉裕貴	271
	材料力学Ⅰ（機械システム）	機	高松徹	271
	材料力学Ⅱ	機	高松徹	271
	材料量子論	材	近藤淳哉	272
	作物保護学	資	鈴木一実	174
	サステナブルデザイン論	デ	南政宏	354

	科目名	対象	担当教員	頁
さ	差別と人権（同和問題）	全	吉田一郎、松本行弘、裵敬隆※	91
	産業技術マネジメント	工	安田昌司　他	272
	産業心理学	関	田積徹※	354
し	詩歌と人間	全	上村盛人	92
	滋賀の自然史	全	浜端悦治	92
	色彩学	デ	宮本雅子	354
	色彩学演習	デ	宮本雅子	355
	資源経済学	政資	富岡昌雄	175
	嗜好と調理実習Ⅰ	栄	岡崎章子※	355
	嗜好と調理実習Ⅱ	栄	浦部貴美子、吉田龍平、金納三利※、三浦健史※、佐野文彦※、田中理愛※	355
	システム工学	機	森脇克巳	272
	自然科学の視点	全	松岡純	92
	自然環境特別実習Ⅱ	態	学科教員	175
	自然地理学	地	宮本真二※	356
	自然保護論	全	西田隆義	93
	持続可能社会論	態政建資	富岡昌雄	175
	持続的農業論	全	泉泰弘	93
	視聴覚教育	学	嶋田容子※	522
	質的データ解析論	地関	武田俊輔	356
	疾病と栄養	栄	高山博史	356
	疾病の成り立ち	栄	高山博史	357
	疾病論Ⅰ	看	森敏	439
	疾病論Ⅱ	看	森敏	439
	児童文化論	関	野部博子※	357
	市民参加論	政	小野奈々	176
	地元学入門	全	近藤隆二郎	93
	社会・経済政策論	関	堀江孝司※	357
	社会学	政資	小野奈々	176
	社会学演習	関	大橋松行、中村好孝、丸山真央	358
	社会学概論	地関	武田俊輔、大橋松行、細馬宏通、中村好孝、丸山真央	358
	社会学史	地関	中村好孝	358
	社会システム分析設計	政	近藤隆二郎	176
	社会システム分析設計演習	政	近藤隆二郎	177
	社会心理学	政	柿本敏克※	177
	社会心理学	関	柿本敏克※	359
	社会精神医学	関	久保田泰孝※	359
	社会調査実習	政	小野奈々、高橋卓也、林宰司	177
	社会調査実習	地関	棚瀬慈郎、武田俊輔、市川秀之、中村好孝	359
	社会調査方法論	地デ関	大橋松行	360
	社会調査論	地デ関	大橋松行	360
	社会福祉概論	栄	中村好孝	360
	社会福祉論	全	打田信彦※	94
	社会変動論	政	丸山真央	178
	社会変動論	地関	丸山真央	361
	社会問題の社会学	関	中村好孝	361
	住環境設計演習Ⅰ	デ	宮本雅子、山根周、佐々木一泰	361
	住環境設計演習Ⅱ	デ	佐々木一泰、宮本雅子、山根周	362
	住環境設計演習Ⅲ	デ	佐々木一泰、山根周、松本尚子※、山本麻子※	362
	住環境設計演習Ⅳ	デ	山根周、宮本雅子、佐々木一泰	362
	住環境論	デ	宮本雅子	363

	科目名	対象	担当教員	頁
し	住居計画論	デ	山根周	363
	集水域環境影響調査指針	態	肥田嘉文	178
	集水域環境学	態	尾坂兼一	178
	集水域環境学・同実験	態	浜端悦治、浦部美佐子、倉茂好匡、肥田嘉文、堂満華子、尾坂兼一	179
	集水域環境機能論	態資	永淵修	179
	集水域生態系保全修復論	態資	浦部美佐子	179
	集水域物質循環論	態政資	尾坂兼一	180
	集積回路設計基礎	電	岸根桂路	273
	集積化プロセス工学	電	柳澤淳一	273
	生涯学習論	関	篠原岳司	363
	生涯学習論	学教	篠原岳司	522
	小児臨床看護論演習	看	鬼頭泰子、古株ひろみ、川端智子	439
	小児臨床看護論実習	看	古株ひろみ、鬼頭泰子、川端智子	440
	消費科学Ⅰ	デ	向山泰司※、小林重信※、永野暁※、金光士※	364
	消費科学Ⅱ	デ	松尾繁※、向山泰司※、金光士※	364
	消費者行動論	デ	宮尾学	364
	消費生活論	デ栄関	中谷真三代※	365
	情報科学概論（環境a）	環	趙國※	69
	情報科学概論（環境b）	環	亀田彰喜	69
	情報科学概論（環境c）	環	趙國※	70
	情報科学概論（環境d）	環	亀田彰喜	70
	情報科学概論（材料）	材	未定※	70
	情報科学概論（機械）	機	鍵本聡※	71
	情報科学概論（電子）	電	宮城茂幸	71
	情報科学概論（人文a）	人	服部泰宏※	71
	情報科学概論（人文b）	人	森将豪※	72
	情報科学概論（人文c）	人	森将豪※	72
	情報科学概論（人文d）	人	服部泰宏※	72
	情報科学概論（看護a）	看	中川雅央※	73
	情報科学概論（看護b）	看	中川雅央※	73
	情報処理基礎	機	奥村進	273
	情報通信工学	電	岸根桂路	274
	情報と職業	教	亀田彰喜	518
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境a）	環	趙國※	65
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境b）	環	亀田彰喜	65
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境c）	環	趙國※	65
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境d）	環	亀田彰喜	66
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（材料）	材	未定※	66
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（機械）	機	鍵本聡※	66
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（電子）	電	宮城茂幸	67
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文a）	人	服部泰宏※	67
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文b）	人	森将豪※	67
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文c）	人	森将豪※	68
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（人文d）	人	服部泰宏※	68
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護a）	看	中川雅央※	68
	情報リテラシー（情報倫理を含む）（看護b）	看	中川雅央※	69
	情報理論	電	畑中裕司	274
	職業指導	教	那須光章	519
	食生活教育論	教	西道代※、成田幸子※、竹田陽子※	519
	食生活論演習	栄	学科教員	365

	科目名	対象	担当教員	頁
し	食品衛生学	栄	浦部貴美子	365
	食品衛生学実験	栄	浦部貴美子、森紀之	366
	食品学総論	栄	柴田克己	366
	食品加工実習	栄	灘本知憲、中村紀子※、浦部貴美子、森紀之	366
	食品基礎実験	栄	福渡努、佐野光枝	367
	食品機能科学	栄	柴田克己	367
	食品機能科学実験	栄	柴田克己、佐野光枝	367
	食品の調理と加工	栄	武智多与理※	368
	食品微生物学	栄	浦部貴美子、灘本知憲、竹原宗範、福渡努	368
	植物遺伝資源学	資	長谷川博	180
	植物栄養学	資	上田邦夫	180
	植物資源開発学	資	原田英美子	181
	植物資源管理学	資	泉泰弘	181
	植物生産学	政資	上町達也	181
	植物病害防除論	資	鈴木一実	182
	食料経済システム論	資	増田佳昭	182
	食料経済システム論	栄	増田佳昭	368
	助産管理論	助	炭原加代	524
	助産実習	助	岩谷澄香、大脇万起子、古川洋子、金森京子、炭原加代、桑名亜希子	524
	助産診断学Ⅰ	助	岩谷澄香、大脇万起子、炭原加代	525
	助産診断学Ⅱ	助	古川洋子、金森京子、桑名亜希子	525
	助産診断学演習	助	古川洋子、桑名亜希子	525
	初習英語Ⅰ	留	上村盛人	47
	初習英語Ⅱ	留	石田法雄	47
	初習日本語Ⅰ	留	谷佳寿美※	62
	初習日本語Ⅱ	留	富川和代※	63
	人文地理学A	地	塚本礼仁	369
	人文地理学B	地	塚本礼仁	369
	心理・発達・行動学実験演習	関	竹下秀子、細馬宏通、松嶋秀明、上野有理	369
	心理学基礎	政	那須光章	182
	心理学基礎	デ栄関	那須光章	370
	森林環境学	態資	野間直彦	183
	森林資源管理学	態	浜端悦治	183
	森林生物学・実験	態	野間直彦、籠谷泰行、浜端悦治、西田隆義	183
す	水域環境影響調査指針	態資	伴修平	184
	水域環境学・同実験	態	三田村緒佐武、伴修平、浦部美佐子、後藤直成	184
	水域環境機能論	態	丸尾雅啓	184
	水域生態系保全修復論	態政	後藤直成	185
	水域物質循環論	態	三田村緒佐武	185
	水産資源学	資	杉浦省三	185
	水質管理学	資	金木亮一	186
	水文学	態政資	千家正照※	186
	水理学	政資	金木亮一	186
	水利環境施設学	資	田中勉※	187
	数値解析	機	安田孝宏	274
	数値解析・数値計算	電	谷口義治	275
	数理計画	機	森脇克巳	275
せ	生化学Ⅰ	材	竹原宗範	275
	生化学Ⅱ	材	竹原宗範	276
	生活環境論	デ栄関	大橋松行、道明美保子、宮本雅子、廣瀬潤子	370

	科目名	対象	担当教員	頁
せ	生活経営論	デ栄関	宮尾学	370
	生活行動看護論	看	伊丹君和	440
	生活行動看護論演習Ⅰ	看	伊丹君和、米田照美	440
	生活行動看護論演習Ⅱ	看	米田照美、伊丹君和、森敏	441
	生活行動看護論演習Ⅲ	看	米田照美、伊丹君和	441
	生活行動看護論実習Ⅰ	看	清水房枝、伊丹君和、米田照美	441
	生活行動看護論実習Ⅱ	看	伊丹君和、清水房枝、米田照美	442
	生活指導論	関	吉田一郎	371
	生活造形基礎演習	デ	南政宏、麻谷宏※	371
	生活素材論	デ	道明美保子	371
	生活デザイン学外演習	デ	学科教員	372
	生活デザイン論	デ	佐々木一泰	372
	生活デザイン論演習Ⅰ	デ	学科教員	372
	生活デザイン論演習Ⅱ	デ	学科教員	373
	生活法	関	未定	373
	制御工学	電	稲葉博美	276
	制御工学Ⅰ	機	安田寿彦	276
	制御工学Ⅱ	機	安田寿彦	277
	政策計画演習Ⅰ	政	学科教員	187
	政策計画演習Ⅱ	政	学科教員	187
	政策計画演習Ⅲ	政	学科教員	188
	政策計画演習Ⅳ	政	学科教員	188
	政策形成・施設演習	政	学科教員	188
	生産工学	機	中川平三郎	277
	生産工学Ⅱ	機	杉村延広※、岩村幸治※	277
	政治学Ⅰ	関	竹本知行※	373
	政治学Ⅰ	政資	竹本知行※	189
	政治学Ⅱ（国際政治を含む）	政資	竹本知行※	189
	政治学Ⅱ（国際政治を含む）	関	竹本知行※	374
	政治経済学	政	伊原亮司※	189
	政治経済学	関	伊原亮司※	374
	精神保健看護論	看	甘佐京子、山下真裕子、牧野耕次	442
	精神臨床看護論	看	甘佐京子、牧野耕次、山下真裕子	442
	精神臨床看護論演習	看	牧野耕次、甘佐京子、山下真裕子	443
	成人臨床看護論演習Ⅰ	看	横井和美、前川直美	443
	成人臨床看護論演習Ⅱ	看	本田可奈子、荒川千登世	443
	精神臨床看護論実習	看	牧野耕次、山下真裕子、甘佐京子	444
	成人臨床看護論実習Ⅰ	看	前川直美、横井和美、奥津文子、大辻裕子、川端智子	444
	成人臨床看護論実習Ⅱ	看	本田可奈子、奥津文子、大辻裕子、荒川千登世	444
	生体の構造と機能	栄	高山博史	374
	生徒指導論	教	吉田一郎	519
	生物資源化学	資	上田邦夫	190
	生物資源管理学演習Ⅰ	資	学科教員	190
	生物資源管理学演習Ⅱ	資	学科教員	190
	生物資源管理学概論	資	増田佳昭、学科教員	191
	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	資	泉泰弘、上町達也、原田英美子	191
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	資	長谷川博、上町達也、清水顕史	191
	生物資源管理学実験・実習Ⅲ	資	岡野寛治、杉浦省三	192
	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	資	鈴木一実、上田邦夫、入江俊一	192
	生物資源管理学実験・実習Ⅴ	資	杉浦省三、入江俊一、清水顕史	192

	科目名	対象	担当教員	頁
せ	生物資源管理学実験・実習Ⅵ	資	沢田裕一、岡野寛治	193
	生物資源管理学実験・実習Ⅶ	資	上田邦夫、岡野寛治、須戸幹	193
	生物資源管理学実験・実習Ⅷ	資	金木亮一、須戸幹	193
	生物資源管理学実験・実習Ⅸ	資	岩間憲治、小谷廣通、皆川明子	194
	生物資源管理学実験・実習Ⅹ	態資	小谷廣通、岩間憲治	194
	生物資源管理学実験・実習ⅩⅠ	資	増田佳昭、増田清敬	194
	生物資源循環論	資	岡野寛治	195
	生物地球化学	態	三田村緒佐武	195
	生物統計学	態資	清水顕史	195
	生命・人間・倫理	全	清水房枝、糸島陽子	94
	生命科学と人間	栄	柴田克己	375
	西洋建築・思潮史	建	迫田正美	196
	西洋史概説	地	北村知之※	375
	性を考える	全	京樂真帆子、武田俊輔、伊丹清、河かおる、東幸代、亀井若菜	94
	設計演習Ⅰ	建	柴田いづみ、松岡拓公雄、水原渉、冨島義幸、迫田正美、高柳英明、ホアン・ラモン	196
	設計演習Ⅱ	建	陶器浩一、村上修一、布野修司、松岡拓公雄、高柳英明、高田豊文、ホアン・ラモン、芦澤竜一※	196
	設計演習Ⅲ	建	高柳英明、村上修一、布野修司、柴田いづみ、水原渉、松岡拓公雄、迫田正美、ホアンラモン、森田一弥※、芦澤竜一※	197
	設計基礎演習	建	迫田正美、村上修一、柴田いづみ、冨島義幸、轟慎一	197
	セラミックス材料	材	吉田智	278
	セルフケア論	全	松本行弘	95
	線形代数Ⅰ（材料科学）	材	谷口義治	278
	線形代数Ⅰ（機械システム、電子システム）	機電	松下泰雄	278
	線形代数Ⅱ（材料科学、機械システム）	機材	山口博史	279
	線形代数Ⅱ（電子システム）	電	谷口義治	279
	染色学	デ	道明美保子	375
	先端材料科学	材	学科教員	279
	専門外書講義Ⅰ	態	学科教員	197
	専門外書講義Ⅱ	態	学科教員	198
	専門外書講読Ⅰ	資	学科教員	198
	専門外書講読Ⅱ	資	学科教員	198
そ	総合演習	教	山田稔※、堀田良夫※	520
	測量学	態資	小谷廣通	199
	組織とネットワークの社会学	政	伊原亮司※	199
	組織とネットワークの社会学	地関	伊原亮司※	376
	卒業研究（環境政策・計画）	政	学科教員	199
	卒業研究（人間看護）	看	学科教員	445
	卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン）	建	学科教員	200
	卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン）	建	学科教員	200
	卒業研究（材料科学）	材	学科教員	280
	卒業研究・論文（地域文化）	地	学科教員	376
	卒業研究Ⅰ（環境生態）	態	学科教員	200
	卒業研究Ⅰ（生物資源）	資	学科教員	201
	卒業研究（機械システム）	機	学科教員	280
	卒業研究・製作／論文（生活デザイン）	デ	学科教員	376
	卒業研究Ⅱ（環境生態）	態	学科教員	201
	卒業研究Ⅱ（生物資源）	資	学科教員	201
	卒業研究（電子システム）	電	学科教員	280
	卒業研究・論文（生活栄養）	栄	学科教員	377
	卒業研究・論文（人間関係）	関	学科教員	377
た	ターミナルケア論	看	奥津文子、糸島陽子	445

	科目名	対象	担当教員	頁
た	ターミナルケア論演習	看	糸島陽子、奥津文子	445
	ターミナルケア論実習	看	奥津文子、糸島陽子	446
	対外文化交流論A	地	田中俊明	377
	対外文化交流論B	地	定森秀夫	378
	対外文化交流論C	地	河かおる	378
	大気環境学	態	永淵修	202
ち	地域運動論	関	大橋松行	378
	地域開発論	政資	秋山道雄	202
	地域活性化論	地	田中光一※	379
	地域環境計画	建	轟慎一	202
	地域環境政策論	態政	香川雄一	203
	地域環境整備学	資	金木亮一	203
	地域看護管理論	看	飯降聖子、植村小夜子	446
	地域看護論	栄	土平俊子※	379
	地域看護論Ⅰ	看	飯降聖子、未定	446
	地域看護論Ⅱ	看	飯降聖子、西内恭子※、植村小夜子	447
	地域看護論演習	看	松井陽子、未定、馬場文	447
	地域看護論実習	看	飯降聖子、未定、植村小夜子、松井陽子、馬場文	447
	地域経済史論	地	東幸代	379
	地域研究論	地	黒田末壽、上田洋平※	380
	地域考古学A	地	未定	380
	地域考古学B	地	未定	380
	地域考古学C	地	森岡秀人※	381
	地域考古学D	地	中村健二※	381
	地域行動論	副	鵜飼修、未定	457
	地域再生システム論	政建	鵜飼修、仁連孝昭、轟慎一　他	203
	地域再生システム論	デ	鵜飼修、仁連孝昭、轟慎一　他	381
	地域産学連携実習	建	学科教員	204
	地域資源管理学	資	増田清敬	204
	地域システム論	政	秋山道雄	204
	地域実践学実習Ⅰ	副	鵜飼修、未定	457
	地域実践学実習Ⅱ	副	鵜飼修、未定	457
	地域情報処理学	資	岩間憲治	205
	地域診断法	副	鵜飼修、未定	458
	地域生活論	政	中塚圭子※	205
	地域生活論	地	中塚圭子※	382
	地域探求学	全	鵜飼修	95
	地域調査法	政資	香川雄一	205
	地域調査法演習	政	香川雄一	206
	地域と空間	地	市川秀之	382
	地域文化演習Ⅰ	地	学科教員	382
	地域文化演習Ⅱ	地	学科教員	383
	地域文化演習Ⅲ	地	学科教員	383
	地域文化財論A	地	伊藤裕久※	383
	地域文化財論B	地	濱崎一志	384
	地域保健臨地実習	栄	岡本秀己	384
	地域保健論	看	渡邊能行※	448
	地球環境システム論	態政資	未定	206
	地誌学	地	塚本礼仁	384
	チベット語基礎	地	棚瀬慈郎	385

	科目名	対象	担当教員	頁
ち	中国・内モンゴル地域文化論	地	ブレンサイン	385
	中国語Ⅰ（水1限）	全	呉凌非	56
	中国語Ⅰ（水1限）	全	唐楽寧※	56
	中国語Ⅰ（水1限）	全	地蔵堂貞二	56
	中国語Ⅰ（水2限）	全	唐楽寧※	57
	中国語Ⅰ（水2限）	全	地蔵堂貞二	57
	中国語Ⅰ（水3限）	全	呉凌非	57
	中国語Ⅰ（水3限）	全	唐楽寧※	58
	中国語Ⅰ（水3限）	全	地蔵堂貞二	58
	中国語Ⅱ（火1限）	全	呉凌非	58
	中国語Ⅱ（火1限）	全	地蔵堂貞二	59
	中国語Ⅱ（火2限）	全	地蔵堂貞二	59
	中国語Ⅱ（火2限）	全	板橋凱希※	59
	中国語Ⅱ（火2限）	全	呉凌非	60
	中国語Ⅱ（火3限）	全	板橋凱希※	60
	中国語Ⅱ（火4限）	全	呉凌非	60
	中国語Ⅱ（火4限）	全	板橋凱希※	61
	中国語文献講読	地	荒井利明	385
	中国地域文化特論	地	未定	386
	中国地域文化論	地	荒井利明	386
	朝鮮語Ⅰ（水2限）	全	呉賢欄※	61
	朝鮮語Ⅰ（水3限）	全	呉賢欄※	61
	朝鮮語Ⅱ（火2限）	全	崔眞善※	62
	朝鮮語Ⅱ（火3限）	全	崔眞善※	62
	朝鮮語会話	地	崔眞善※	386
	朝鮮語文献講読	地	河かおる	387
	朝鮮地域文化特論	地	安田純也※	387
	朝鮮地域文化論A	地	田中俊明	387
	朝鮮地域文化論B	地	河かおる	388
	朝鮮文化論	地	河かおる	388
て	ディジタル信号処理	電	宮城茂幸	281
	定量・機器分析および同実験	材	宮村弘、徳満勝久、吉田智、近藤淳哉、井上吉教	281
	デジタルデザイン演習	デ	印南比呂志、南政宏、山根周、佐々木一泰	388
	哲学概論A	政	鞍田崇※	206
	哲学概論A	地関	鞍田崇※	389
	哲学概論B	政	陶久明日香※	207
	哲学概論B	地関	陶久明日香※	389
	デッサン法	デ	冨原仁美※	389
	電気エネルギーシステム工学	電	乾義尚	281
	電気回路Ⅰ	電	坂本眞一	282
	電気回路Ⅱ	電	乾義尚	282
	電気化学	材	菊地憲次	282
	電気関係法規・施設管理	電	多山洋文※	283
	電気機器	電	乾義尚	283
	電気電子計測Ⅰ	電	福岡克弘	283
	電気電子計測Ⅱ	電	作田健	284
	電子回路Ⅰ	電	稲葉博美	284
	電子回路Ⅱ	電	稲葉博美	284
	電磁気学Ⅰ	電	作田健	285
	電磁気学Ⅱ	電	福岡克弘	285

	科目名	対象	担当教員	頁
て	電子システム工学演習Ⅰ	電	作田健、奥村進、坂本眞一	285
	電子システム工学演習Ⅱ	電	稲葉博美、柳澤淳一、畑中裕司	286
	電子システム工学演習Ⅲ	電	畑中裕司、竹内日出雄、坂本眞一	286
	電子システム工学概論	工	稲葉博美	286
	電子システム工学実験Ⅰ	電	学科教員	287
	電子システム工学実験Ⅱ	電	学科教員	287
	電子システム工学実験Ⅲ	電	学科教員	287
	電子システム工学実験Ⅳ	電	学科教員	288
	電子システム工学セミナー	電	奥村進、岸根桂路	288
	電子社会と人間	全	柳澤淳一	95
	電子デバイス	電	柳澤淳一	288
	電子と化学結合	政	松岡純	207
	電子と化学結合	工	松岡純	289
	電磁波工学	電	作田健	289
	伝承文化論	関	野部博子※	390
	伝熱学	機	安田孝宏	289
	天然物化学基礎	政	灘本知憲、佐野光枝	207
	天然物化学基礎	デ栄関	灘本知憲、佐野光枝	390
	電力工学Ⅰ	電	坂本眞一	290
	電力工学Ⅱ	電	坂本眞一	290
と	ドイツ語Ⅰ（水2限）	全	竹内一高※	48
	ドイツ語Ⅰ（水3限）	全	吉村淳一	48
	ドイツ語Ⅰ（水3限）	全	竹内一高※	48
	ドイツ語Ⅰ（水4限）	全	吉村淳一	49
	ドイツ語Ⅰ（水4限）	全	竹内一高※	49
	ドイツ語Ⅱ（火1限）	全	吉村淳一	49
	ドイツ語Ⅱ（火2限）	全	大森智子※	50
	ドイツ語Ⅱ（火2限）	全	吉村淳一	50
	ドイツ語Ⅱ（火3限）	全	大森智子※	50
	ドイツ語Ⅱ（火4限）	全	大森智子※	51
	ドイツ語ⅢＡ	全	吉村淳一	51
	ドイツ語ⅢＢ	全	吉村淳一	51
	道具計画論	デ	印南比呂志	390
	道具デザイン演習Ⅰ	デ	麻谷宏※、南政宏	391
	道具デザイン演習Ⅱ	デ	印南比呂志、麻谷宏※、南政宏	391
	道具デザイン演習Ⅲ	デ	面矢慎介、印南比呂志	391
	道具デザイン演習Ⅳ	デ	面矢慎介、印南比呂志	392
	道具デザイン史	デ	面矢慎介	392
	道具デザイン論	デ	印南比呂志、南政宏	392
	統計学基礎	人	細馬宏通	393
	統計熱力学	機	河﨑澄	290
	道徳教育論	教	吉田一郎	520
	動物資源管理学	資	岡野寛治、杉浦省三	208
	動物生態学	態資	沢田裕一	208
	東洋史概説	地	田中俊明	393
	東洋思想時空論	全	石田法雄	96
	動力システム	機	山根浩二	291
	特殊加工学	機	中川平三郎	291
	特別活動論	教	吉田一郎	520
	都市・地域計画	建	水原渉	208

	科目名	対象	担当教員	頁
と	土壌環境化学	態資	須戸幹	209
	土壌環境情報学	政資	中村公人※	209
	土壌環境物理学	資	岩間憲治	209
	トライボロジー	機	未定	291
な	内部空間論	建	高柳英明	210
に	日本・地域交流特論	地	京樂真帆子	393
	日本建築史	建	冨島義幸	210
	日本語Ⅰ	留	谷佳寿美※	63
	日本語Ⅱ	留	谷佳寿美※	63
	日本語Ⅲ	留	富川和代※	64
	日本語Ⅳ	留	富川和代※	64
	日本史概説	地	水野章二	394
	日本社会論	地関	武田俊輔	394
	日本住居史	デ	山根周	394
	日本史料講読	地	水野章二、東幸代	395
	日本文化史論Ⅰ	地	京樂真帆子	395
	日本文化史論Ⅱ	地	京樂真帆子	395
	日本文化論	地	京樂真帆子	396
	人間関係論演習Ⅰ	関	学科教員	396
	人間関係論演習Ⅱ	関	学科教員	396
	人間関係論基礎演習	関	学科教員	397
	人間看護学統合実習	看	学科教員	448
	人間看護論Ⅰ	看	清水房枝	448
	人間看護論Ⅱ	看	清水房枝	449
	人間形成論	関	吉田一郎、篠原岳司、木村裕	397
	人間工学	デ	中村孝之※	397
	人間工学実習	デ	森下あおい、宮本雅子	398
	人間行動論	栄関	細馬宏通	398
	人間性心理論	看	松本行弘	449
	人間探求学（環境生態）	全	学科教員	96
	人間探求学（環境政策・計画）	全	学科教員	96
	人間探求学（環境建築デザイン）	全	学科教員	97
	人間探求学（生物資源管理）	全	学科教員	97
	人間探求学（材料科学）	全	学科教員	97
	人間探求学（機械システム）	全	学科教員	98
	人間探求学（電子システム）	全	学科教員	98
	人間探求学（地域文化）	全	学科教員	98
	人間探求学（生活デザイン）	全	学科教員	99
	人間探求学（生活栄養）	全	学科教員	99
	人間探求学（人間関係）	全	学科教員	99
	人間探求学（人間看護）	全	学科教員	100
	人間とことば	全	地蔵堂貞二、吉村淳一、長島律子、呉凌非	100
	人間と自然界	全	黒田末壽	100
	人間と病気	全	山田明、森敏、安原治	101
	人間にとって環境とは何か	全	近藤隆二郎	101
	人間文化論A	人	黒田末壽	398
	人間文化論B	人	武田俊輔	399
	人間文化論C	人	面矢慎介、印南比呂志、松嶋秀明、福渡努、廣瀬潤子	399
	認知心理学	関	上野有理	399
ね	熱力学Ⅰ	機	山根浩二	292

	科目名	対象	担当教員	頁
ね	熱力学Ⅱ	機	山根浩二	292
の	農業経営学	資	増田佳昭	210
	農業経済学	資	増田佳昭	211
	農業統計利用論	資	増田清敬	211
	農耕社会論	地	ブレンサイン	400
	農薬環境学	態資	須戸幹	211
は	廃棄物管理論	政	金谷健	212
	博物館学概論	学	市川秀之	522
	博物館学各論A	学	野間直彦、布谷知夫、浦部美佐子、上町達也	523
	博物館学各論B	地	亀井若菜、未定	400
	博物館学各論B	学	亀井若菜、未定	523
	博物館実習	学	市川秀之、野間直彦、東幸代、亀井若菜、西田隆義、浦部美佐子、浜端悦治、倉茂好匡	523
	発達看護論Ⅲ	看	畑野相子	450
	発達看護論Ⅰ	看	古株ひろみ、鬼頭泰子、川端智子	449
	発達看護論Ⅱ	看	奥津文子	450
	発達支援論	関	竹下秀子	400
	発達心理学Ⅰ	関	上野有理	401
	発達心理学Ⅱ	関	竹下秀子	401
	パワーエレクトロニクス	電	乾義尚	292
	半導体基礎	電	柳澤淳一	293
	半導体デバイス	電	竹内日出雄	293
	反応速度論	材	徳満勝久	293
ひ	比較衣装論	デ	未定	401
	比較社会文化論	関	中村好孝	402
	比較宗教論	政	未定	212
	比較宗教論	地関	未定	402
	比較住居論	全	山根周	101
	比較住居論	デ栄関	山根周	402
	比較食文化論	栄	的場輝佳※、堀越昌子※、菅谷文則※	403
	比較道具論	デ	面矢慎介	403
	比較都市論	全	布野修司	102
	比較認知発達論	関	竹下秀子、上野有理	403
	比較文学論	地	伊崎孝幸※	404
	比較文化論（環境政策・計画）	政	楊平※	212
	比較文化論（地域文化）	地	黒田末壽	404
	比較文明論	全	定森秀夫	102
	比較文明論	人	定森秀夫	404
	光エレクトロニクス	電	竹内日出雄	294
	美術史	地	亀井若菜	405
	美術史概論	地	亀井若菜	405
	微積分Ⅰ（材料科学、電子システム）	材電	松下泰雄	294
	微積分Ⅰ（機械システム）	機	谷口義治	294
	微積分Ⅱ（材料科学）	材	谷口義治	295
	微積分Ⅱ（機械システム）	機	松下泰雄	295
	微積分Ⅱ（電子システム）	電	谷口義治	295
	微積分続論	工	谷口義治	296
	被服学	教	道明美保子	521
	微分方程式（材料科学）	材	山口博史	296
	微分方程式（機械システム）	機	山口博史	296
	微分方程式（電子システム）	電	谷口義治	297

	科目名	対象	担当教員	頁
ひ	病態生理学実習	栄	高山博史	405
	病態評価と治療	栄	高山博史	406
	琵琶湖環境学	態	三田村緒佐武	213
	びわこ環境行政論	全	井手慎司およびゲスト講師	102
ふ	ファシリテーション技法	政	柴田裕希	213
	ファシリテーション技法演習	政	柴田裕希	213
	複合材料	材	山下義裕	297
	服飾環境論	デ	道明美保子	406
	服飾心理学	デ	未定	406
	服飾製作実習	教	未定	521
	服飾造形論	デ	森下あおい	407
	服飾デザイン演習Ⅰ	デ	法月紀江※	407
	服飾デザイン演習Ⅱ	デ	森下あおい	407
	服飾デザイン演習Ⅲ	デ	道明美保子、中川正久※	408
	服飾デザイン演習Ⅳ	デ	森下あおい	408
	服飾デザイン論	デ	森下あおい	408
	物性デバイス基礎論	電	竹内日出雄	297
	物理化学総合および同演習	材	宮村弘、秋山毅、吉田智、菅原透	298
	物理学Ⅱ	態	村岡良和※	214
	物理学実験（材料科学）	材	田中他喜男、森脇克巳、田邉裕貴、福岡克弘、竹内日出雄、木村真之	298
	物理学実験（機械システム）	機	田中他喜男、森脇克巳、田邉裕貴、福岡克弘、竹内日出雄、木村真之	298
	物理学実験（電子システム）	電	田中他喜男、森脇克巳、田邉裕貴、福岡克弘、竹内日出雄、木村真之	299
	プラズマ工学	電	坂本眞一	299
	フランス語Ⅰ（水3限）	全	長島律子	52
	フランス語Ⅰ（水2限）	全	長島律子	52
	フランス語Ⅰ（水2限）	全	宇多直久※	52
	フランス語Ⅰ（水3限）	全	宇多直久※	53
	フランス語Ⅰ（水4限）	全	宇多直久※	53
	フランス語Ⅱ（火2限）	全	長島律子	53
	フランス語Ⅱ（火2限）	全	桂川久※	54
	フランス語Ⅱ（火3限）	全	桂川久※	54
	フランス語Ⅱ（火1限）	全	長島律子	54
	フランス語Ⅱ（火4限）	全	桂川久※	55
	フランス語ⅢA	全	長島律子	55
	フランス語ⅢB	全	長島律子	55
	プレゼンテーション技法	デ	印南比呂志、南政宏	409
	プログラミング基礎（環境a）	環	宮城茂幸	73
	プログラミング基礎（環境b）	環	鍵本聡※	74
	プログラミング基礎（環境c）	環	未定※	74
	プログラミング基礎（環境d）	環	未定※	74
	プログラミング基礎（材料）	材	宮城茂幸	75
	プログラミング基礎（機械）	機	亀田彰喜	75
	プログラミング基礎（電子）	電	趙國※	75
	プログラミング基礎（人文a）	人	鍵本聡※	76
	プログラミング基礎（人文b）	人	未定※	76
	プログラミング基礎（人文c）	人	未定※	76
	プログラミング基礎（人文d）	人	亀田彰喜	77
	プログラミング基礎（看護）	看	亀田彰喜	77
	プログラミング言語	電	畑中裕司	299
	文化財・保存修景論A	政建	濱崎一志、井口貢※	214

	科目名	対象	担当教員	頁
ふ	文化財・保存修景論A	地	濱崎一志、井口貢※	409
	文化財・保存修景論B	地	中井均	409
	文化財情報論	地	濱崎一志、石川慎治	410
	文化社会学	地関	武田俊輔	410
	文化人類学概論A	人	島村一平	410
	文化人類学概論B	人	棚瀬慈郎	411
	文化人類学特論	地	未定	411
	分子・統計力学	材	松岡純	300
	分子生物学	態資	入江俊一	214
	分子生物学基礎	栄	福渡努	411
	分析・環境化学実験（材料科学）	材	秋山毅、菊地憲次、山下義裕、谷本智史、鈴木厚志、竹原宗範、菅原透	300
	分析・環境化学実験（機械システム、電子システム）	機電	秋山毅、菊地憲次、山下義裕、谷本智史、鈴木厚志、竹原宗範、菅原透	300
	分析化学	工	菊地憲次	301
ほ	保育学	教	野部博子※	521
	法学概論（国際法を含む）	政資	初谷良彦※	215
	法学概論（国際法を含む）	関	初谷良彦※	412
ま	マーケティング論	デ関	宮尾学	412
	まちづくり実践論	政	佐々木和之※	215
	マルチメディア	電	奥村進	301
み	水環境管理学	態	伴修平、後藤直成	215
	水環境政策論	態政資	井手慎司	216
	水資源保全学	資	須戸幹	216
	水資源利用学	資	小谷廣通、皆川明子	216
	民俗学	地	市川秀之	412
	民俗学実習	地	市川秀之	413
む	無機化学Ⅰ	材電	松岡純	301
	無機化学Ⅱ	材	バラチャンドラン・ジャヤデワン	302
	無機工業材料	材	宮村弘、吉田智、菅原透、鈴木厚志	302
め	メカトロニクス	機	安田寿彦	302
も	木匠塾	建	布野修司、松岡拓公雄、陶器浩一、高田豊文	217
	モンゴル語Ⅰ	地	島村一平、未定	413
	モンゴル語Ⅱ（中級コース）	地	内田孝※	413
	モンゴル語史料（ウイグル式文字）講読	地	ブレンサイン	414
	モンゴル地域文化論	地	島村一平	414
や	薬理学	看	土田勝晴※、竹内孝治※、天ケ瀬紀久子※	450
ゆ	有機化学Ⅰ	材	熊谷勉	303
	有機化学Ⅱ	材	熊谷勉	303
	有機化学Ⅲ	材	熊谷勉	303
	有機化学Ⅳ	材	井上吉教	304
	有機化学総合および同演習	材	谷本智史、山下義裕、鈴木厚志、竹原宗範	304
	有機工業材料	材	廣川能嗣	304
	有機量子化学	材	熊谷勉	305
	遊牧社会論	地	島村一平	414
ら	ランドスケープデザイン	建資	村上修一	217
り	陸域環境影響調査指針	態資	野間直彦	217
	陸域環境学・同実験	態	野間直彦、籠谷泰行、浜端悦治、西田隆義	218
	陸域環境機能論	態資	肥田嘉文	218
	陸域生態系保全修復論	態資	浜端悦治	218
	陸域物質循環論	態	籠谷泰行	219
	陸水生態学・実験	態	三田村緒佐武、伴修平、浦部美佐子	219

	科目名	対象	担当教員	頁
り	流域環境管理学	政資	皆川明子	219
	流体力学Ⅰ	機	南川久人	305
	流体力学Ⅱ	機	南川久人	305
	量子力学概論	電	柳澤淳一	306
	量的データ解析論Ⅰ	地関	丸山真央	415
	量的データ解析論Ⅱ	地関	岡本裕介※	415
	臨床栄養学Ⅰ	栄	福井富穂	415
	臨床栄養学Ⅱ	栄	福井富穂	416
	臨床栄養学実習	栄	福井富穂	416
	臨床栄養活動論	栄	吉田龍平、赤尾正※	416
	臨床栄養臨地実習Ⅰ	栄	福井富穂	417
	臨床栄養臨地実習Ⅱ	栄	福井富穂	417
	臨床看護論Ⅰ	看	古株ひろみ、鬼頭泰子、川端智子	451
	臨床看護論Ⅱ	看	横井和美、荒川千登世、吉田智美※	451
	臨床看護論Ⅲ	看	北村隆子	451
	臨床心理学	関	松嶋秀明	417
	臨地実習事前事後指導	栄	岡本秀己、吉田龍平、福井富穂、浦部貴美子、谷口美津子※	418
れ	歴史的地域論	地	水野章二	418
ろ	老年臨床看護論演習	看	安田千寿、北村隆子、畑野相子	452
	老年臨床看護論実習Ⅰ	看	畑野相子、北村隆子、安田千寿	452
	老年臨床看護論実習Ⅱ	看	安田千寿、北村隆子、畑野相子	452
	ロシア語Ⅰ（初級コース）	地	高島尚生※	418
	ロシア語Ⅱ（中級コース）	地	高島尚生※	419
	ロボット工学	電	作田健	306
	ロボット工学	機	寺嶋一彦※	306
わ	若者の健康と栄養	全	佐野光枝、吉田龍平、高山博史、柴田克己、廣瀬潤子	103

注）講義科目索引中の「対象」欄の略称は次のとおり

全：全学共通

環：環境科学部共通
　態：環境生態学科
　政：環境政策・計画学科
　建：環境建築デザイン学科
　資：生物資源管理学科

工：工学部共通
　材：材料科学科
　機：機械システム工学科
　電：電子システム工学科

人：人間文化学部共通
　地：地域文化学科
　デ：生活デザイン学科
　栄：生活栄養学科
　関：人間関係学科

看：人間看護学部

留：留学生用科目

副：地域学副専攻科目
教：教職課程関連
学：学芸員資格関連
助：助産師資格関連
就：就職関連